「元気ですよーッ!!」桜庭和志ゴ迫力炸裂インタビュー!!

紙のプロレス RADICAL

2001 39

●8・18「DEEP」で謙吾vsドス・カラスJr.実現!!
●スマックガールの驚き! 渋女の落胆!!

厄年に躍動する大激白!
前田日明

戦慄!「前田日明」は是か非か座談会!!

小川を急襲した 衝撃! 山本憲尚
山本に襲われた 小川直也
2大スクランブルインタビュー

6・15リングス再起動!! その行方は?
金原弘光
滑川康仁/和田良覚/TK

前田日明isデッド!?

ボクたちは、チンケな前田日明は見たくない!!

マット界に何をもたらすのか?
田村潔司
成瀬昌由

6・14「ヨッ! 破壊王!!」『真撃』の衝撃!!

プロレス界の台風の目!
秋山準

新プロレスラーか真プロレスラーか!?
藤田和之を解き明かせ!!

『PRIDE.14』で超大物喰い!
松井大二郎

元気のない世の中を叩っ斬る! 濃密インタビュー2連発!!
俺が田上だ! オ〜レが田上だ! 田上 明
怒髪天人生を語り尽くす!! 藤原敏男

紙のプロレス RADICAL NO.39 前田日明isデッド!?

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体800円+税

6・14『真撃』でヤマノリがオーちゃんを一撃!!

これは胎動か、愚行か!?

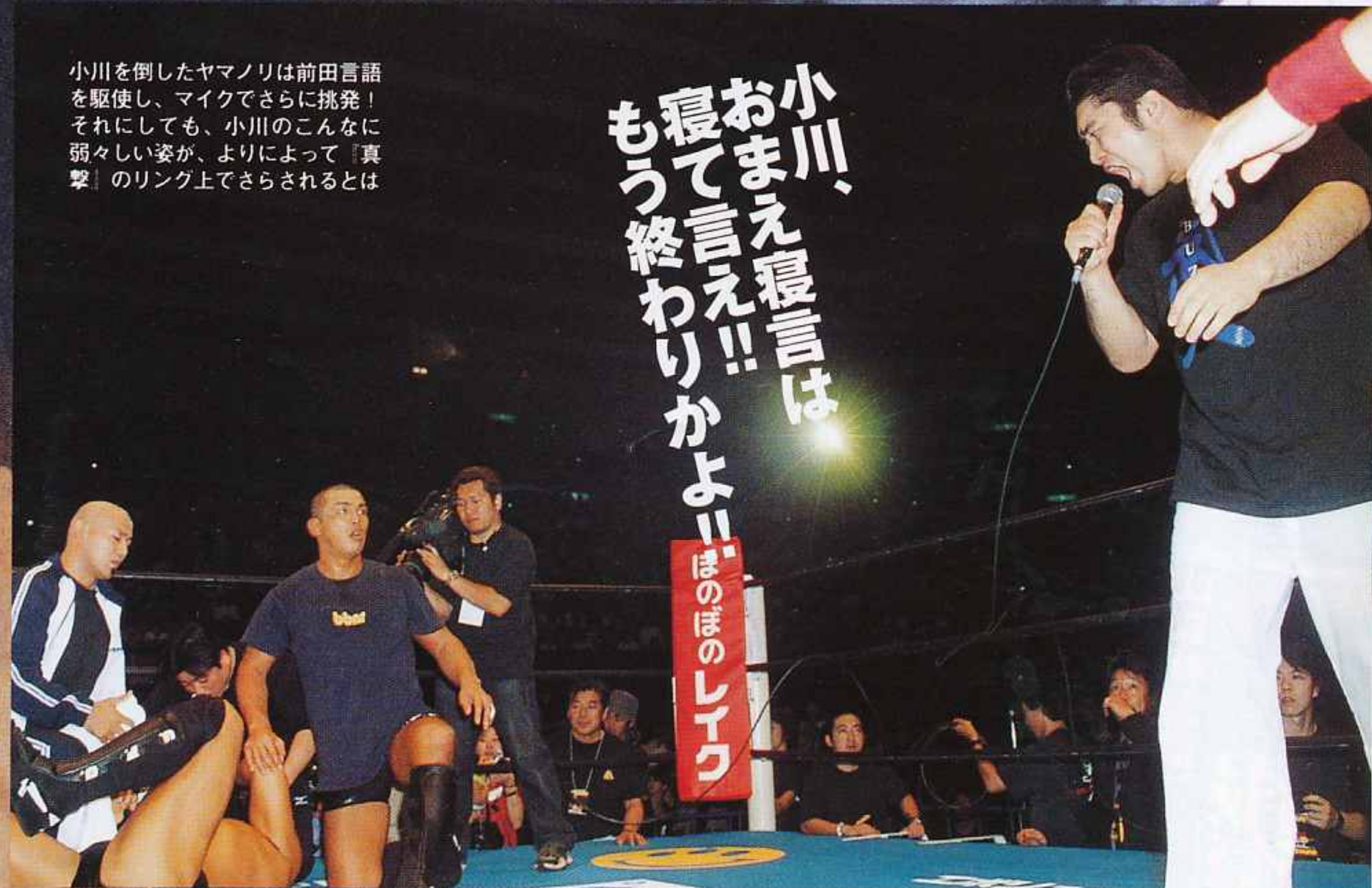
開いた扉はどこに続く？

を引出すも、イマイチ元気なし!!

心なしか、迫力不足のこの日のオーちゃん。組長も、その年齢を考えれば、凄みを存分に見せたが、試合としては強烈なインパクトを与えるまでには至らなかった

小川、おまえ寝言は寝て言え!! もう終わりかよ!!

小川を倒したヤマノリは前田言語を駆使し、マイクでさらに挑発！それにしても、小川のこんなに弱々しい姿が、よりによって『真撃』のリング上でさらされるとは

ぼのぼの レイク

まったく何が行われるかわからないまま幕を開けた6・14『真撃』――。ZERO-ONEのファイティング・アスリート部門として発足したこのイベントは、直前までカード発表が遅れ客入りが心配されていたが、平日にしては、思いのほか広い大阪城ホールが埋まっていた。

この日のセミファイナルは、小川直也vs藤原喜明という意外なカード。

組長のゴング前の奇襲パンチ、ねちっこいグラウンドでの攻撃を凌いで、STO計5発で沈めたオーちゃんだが、会場で見ている限り、この日は、妙に元気がないように見えた。

メインを張る破壊王に対してなのか、キャリアのある組長を相手に試合を引っ張ることに対してなのか、とにかく、なにかに対して"遠慮"をしているように見えたのだ。

後でビデオで見直してみると、やはり組長のスタミナ不足は会場で見ているよりも深刻で、この点では、試合を動かそうとするオーちゃんが気の毒に見えた。

小川は試合を引っ張れないというのが定説だが、橋本、グッドリッジ、佐竹、三沢など、オーちゃんと対戦した相手はものの見事に光っている。不器用そうなイメージがあるオーちゃんは意外にも器用なのだ。

でも、そういった器用さよりも、たとえ不器用でもいいから、ファンは小川直也の内面から湧き出るヴォルテージの高さを見たいはずだ。

猪木イズムの一端に、「いつ何時、どんな相手でも、どんな状況でも、ヴォルテージを上げる」というものがあるが、試合展開のウマイヘタに関係なく、ファンがオーちゃんに望んでいる姿はそういうものだろう。

オーちゃんは、組長を葬った後、マウスピースを付けたまま、「今日は平日なのに、こんなにいっぱい来てくれて、ありがとうございました」とマイクで挨拶。

その瞬間、オーちゃんの背後から黒い影が急襲した！　リングスを退団した山本憲尚だ!! 一発目のパンチはかすったものの、二発目で小川を沈めたヤマノリは、ストンピングまでブチ込む。そして「小川！　おまえ、寝言は寝て言え、おまえ!!　もう終わりかよ!!」と前田言語と小川言語を駆使し、倒れるオーちゃんをマイクで挑発した後、成瀬昌由を帯同し、疾風の如くタクシーで会場を去っていった。

ヤマノリが去った後、ようやく目が覚めたオーちゃんは、もう一度マイクを握り、「ありがとうございました」と意味不明な脱力コメント。いったいどーしたんだ、オーちゃん？

それにしても、これはなにかの胎動なのか、それともヤマノリの単なる愚行なのか？

もともとリングスを退団した理由のひとつに、2年前に流れた小川戦を実現させるためという名目があったヤマノリは、「向こうが『大阪に殴り込んでこい』と言ったから行ったまで。俺に冗談は通じない。リングの上は戦場。マイクなんてノンビリやってる場合じゃない。一発で失神した小川には落胆した。あれじゃ『真撃』じゃなく、吉本新喜劇だ！」とまで咆哮している。

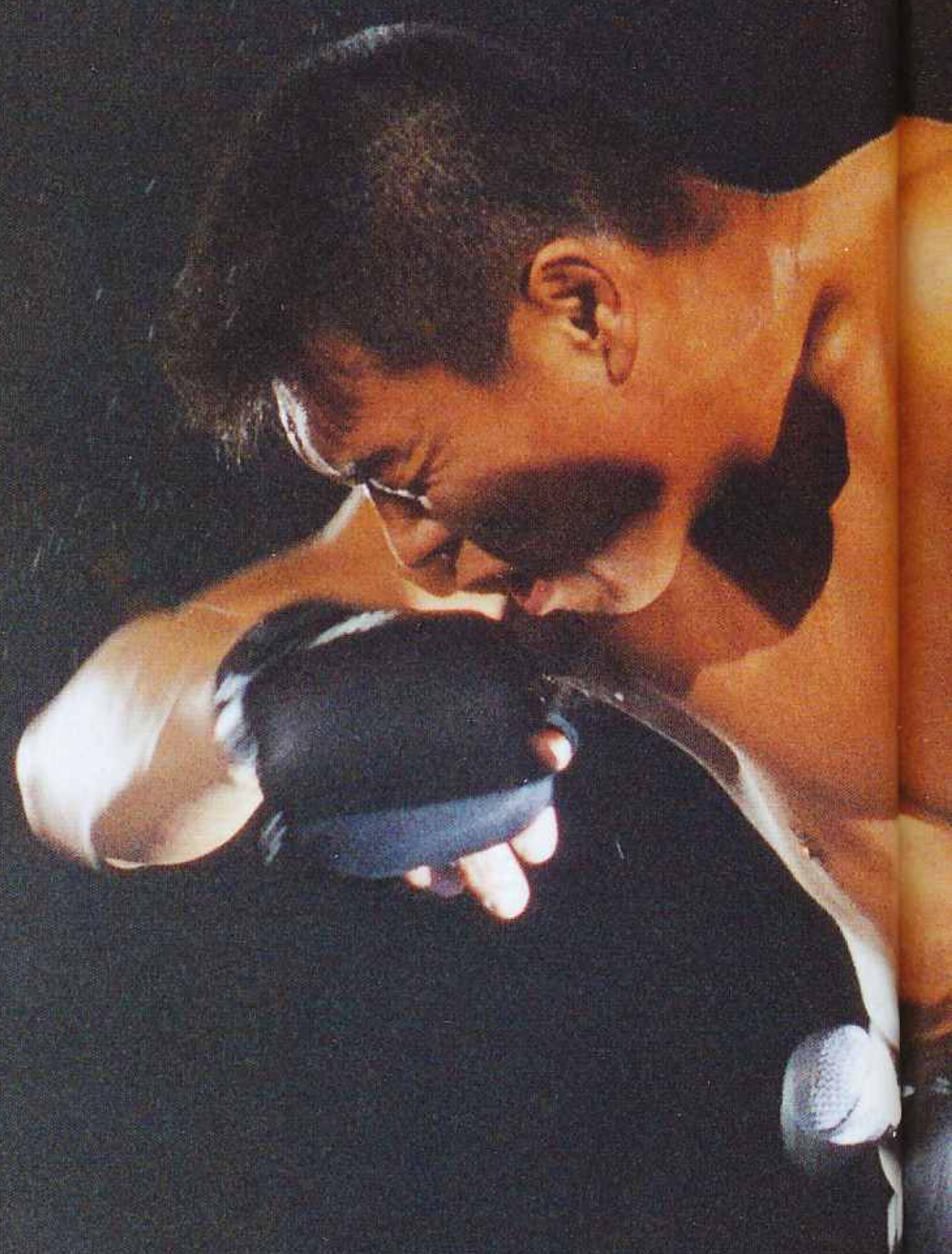
高田延彦、中西学、そして山本と、同時期に対戦表明をされていたオーちゃんは、新聞紙上で「大阪に来た奴の挑戦を受ける」と『真撃』開催前に宣言していたのだが、それにヤマノリが敏感に呼応したということになる。

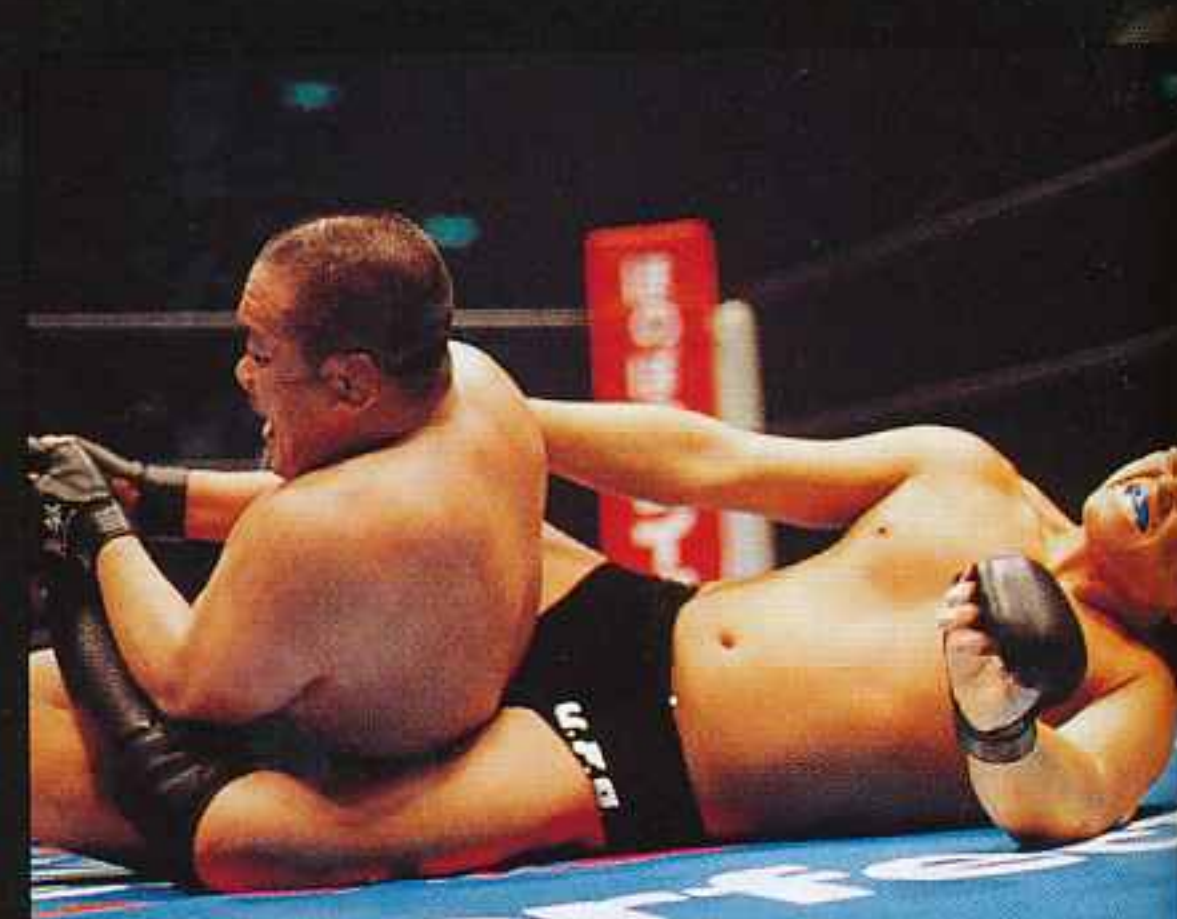
前田日明直系の弟子である山本憲尚と、猪木直系の小川直也のショッキングな遭遇は、この後、いったいどういう展開を見せるのか、まったく予断を許さなくなってきた。

ありがとうございました（6・14のオーちゃん風）。

山憲、小川（襲った、襲われた）

緊急インタビューは➡P144へ
その他の『真撃』情報は➡P148へ

この一撃で開い

オーちゃん、組長の凄みを

スタミナが切れた組長を小川のSTOの連発が襲った。1度は脇固めで切り返した組長だが、5発目でレフェリーストップがかかりTKO！　試合タイムは6分41秒だった

かつての前田vs藤原戦を彷彿とさせるシーン。小川が首を狙いにいくと、組長が足首を極めた。オーちゃんはたまらずエスケープ。もう少しグラウンドの攻防が見たかった

6・15 RINGS「WORLD TITLE SERIES」横浜文化体育館

あなたは前田日明を語らずにリングスを語る勇気がありますか？

私はあります

文／山口日昇　撮影／平工幸雄　designed by hisa (Two Three)

「前田日明の世界」というのは、「娑婆じゃない世界」である。「娑婆」には存在しない空気を、ファンは「前田日明」というイメージに求めているということだ。

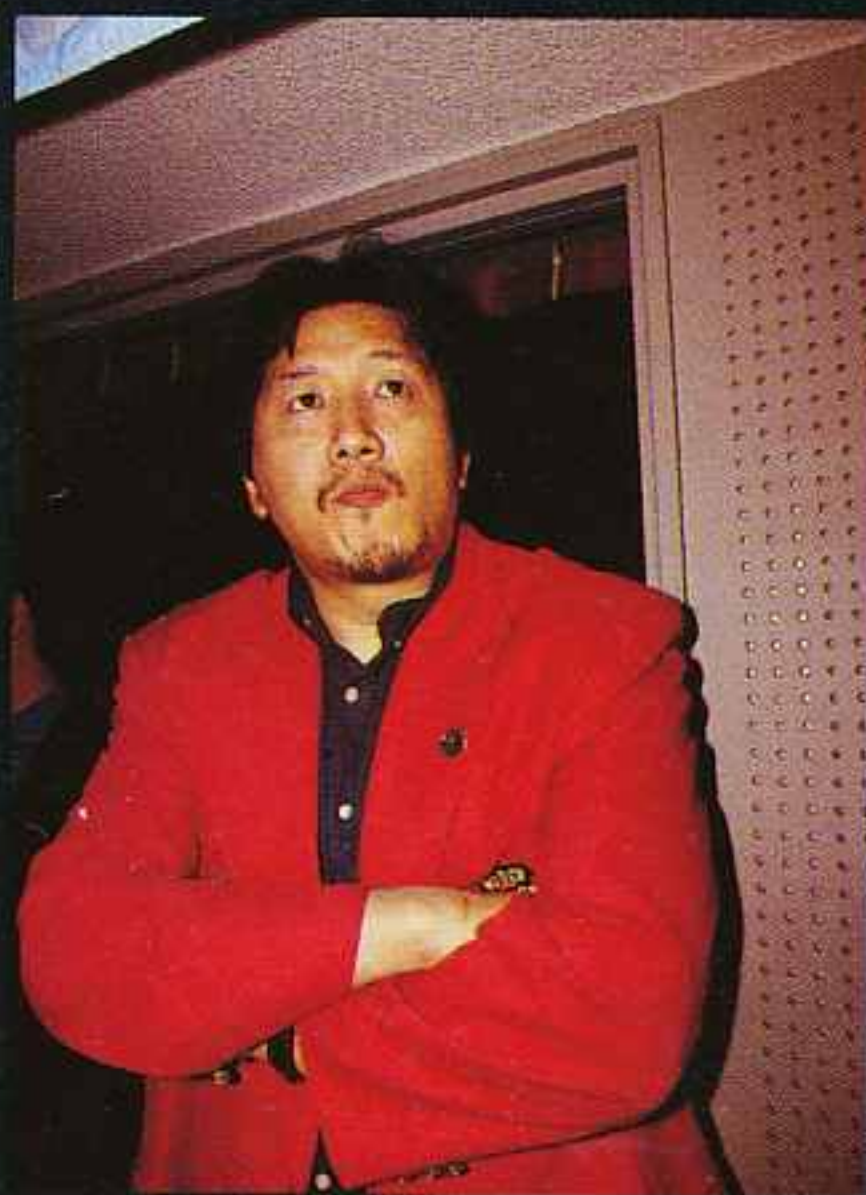
2メートル20センチを超す大巨人アンドレ・ザ・ジャイアントにセメントを仕掛けられても物怖じしなかった前田。「総合格闘技」なんていう言葉が根付くズッと前に、UWFを背負い、異種格闘技戦にゴンタ顔で立ち向かって行った前田。理想がままならない状況への怒りが、一発の蹴りとなって長州力の顔面を直撃した「顔面襲撃事件」――すべてが「娑婆じゃない世界」だ。

でも、これはもはや遠い昔のことである。

いま、リングスのリング上で行われているのは、KOKルールで行われる、スポーツライクな競技である。もちろん、格闘技だから激しいが、「娑婆じゃない世界」ではない。

しかし、前田日明がつくったリングスに対して、まだ「娑婆じゃない世界」をファンは無意識のうちに望んでいるような気がする。

もちろん、もうとっくに「前田日明」という存在を切り離してリングスを見ている、という格闘技マニアはいるだろう。「前田日明はもう前面に出ないでほしい。試合はあんなに素晴らしいんだから。選手がかわいそうだ」という声があるのも知っている。

それは非常によくわかる。だが、当たり前の話だが、前田日明とリングスは、密接に繋がっているのだ。むしろ、現在のリングスのほうが前田日明そのものといってもいい。

過激なバーリ・トゥードのほうが、「娑婆じゃない世界」を生きてきた前田日明のイメージには合っている。しかし、リングの上で行われているのは、バーリ・トゥードではない。

リングスの会場は暗い。そして、リングを照らす仄かなスポットライトの中で行われる試合は、激しく、切ない。

その光景を見ていると、まるで、前田日明の心象風景を見ているかのような錯覚に陥ってしまうことがある。

スキャンダラスで、ときにはグロテスクにさえ見える「前田日明」という存在の心の闇の奥の奥を歩いて行ったら、綺麗な蓮の花が咲いていた。そんな感覚にさえ、捉われることがあるのだ。ボクは、その瞬間、前田日明が、なぜバーリ・トゥード・ルールを選ばなかったのか、謎が解けたような気がする。

その謎さえ解ければ、「前田日明」というイメージに捉われることなく、試合に集中することができる。

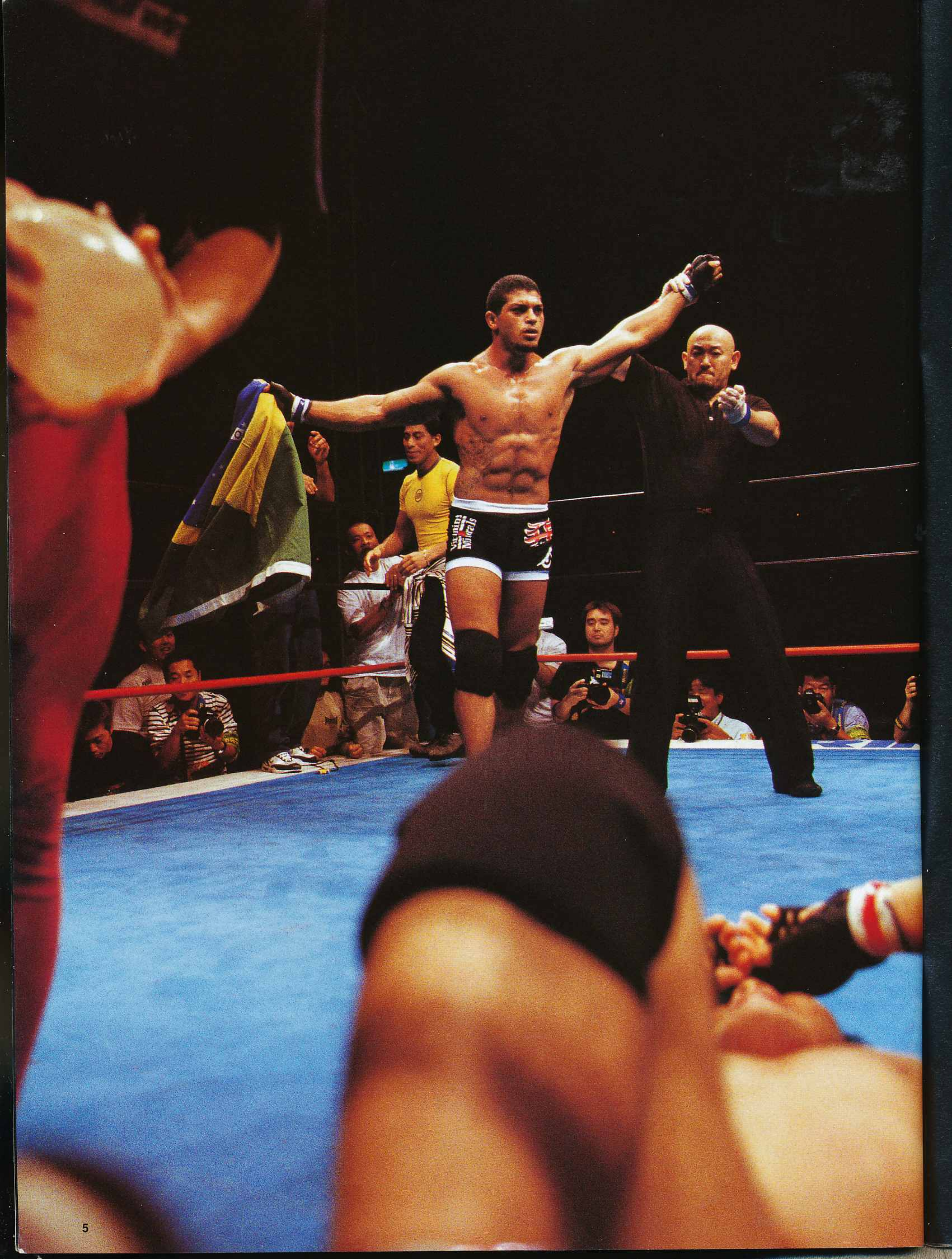
でも、いくら試合の素晴らしさを説いたところで、たくさんの人が集まるというものではない。試合の素晴らしさと集客力は、まったくの別物なのだ。リングスに対して、「せっかく試合は面白いんだから、ああすればいい、こうすればいい」という意見はたくさんある。

「わかってるよ。でもな、このままでいいんだよ、このままで」――綺麗な蓮の花の上で、もうひとりの「前田日明」がつぶやいた。

ボクは、リングスには「娑婆じゃない世界」は求めない。多くの人に見てもらいたいのは山々だが、ボクにはこれで十分である。

6・15 RINGS
「WORLD TITLE SERIES」横浜文化体育館

「試合内容はよかった」という評価は、試合以外の全てに変革が必要という事だ

文／堀江ガンツ

試合内容はよかった。

そう、試合内容〝は〟よかったのだ。

リングス6・15横浜大会。選手離脱後、初の興行。ハッキリ言って、館内のムードは沈んでいた。例えるならば、90年に天龍が離脱した直後の全日本・東京体育館大会のような雰囲気。「なんとかしなければ」という焦りだけは伝わってきて、実に痛々しい。

正直、問題は山積みである。しかし、なかなか光が見えないいまだからこそ、その唯一にして最大の光明である試合についてしっかりと伝えておこう。カラ元気だして行きますか——ッ！

さてこの日組まれたのは全6試合。まず第一試合に登場するのは、〝ハン最強の弟子〟ヴォルク・アターエフ！「対戦相手のアゴ、足、頭蓋骨を砕く」という前評判が凄すぎて逆に不安だったが、ハッキリ言ってこいつは凄い！　総合の試合にありがちなブン回すパンチではなく、K—1でフィリョがフグをKOしたときのような戦慄の一撃！

アイブル、オーフレイムがいない今、リングス最強のストライカー誕生である。

そして続く第2試合は、選手離脱で（?）〝前田道場ナンバー2〟に躍り出た滑川康仁。現在、滑川は他流派2連勝中だが、今回の相手はRJWの矢野倍達。『コンテンダーズ』で『PRIDE』のシンデレラボーイ大山峻護を破り、今年のアブダビにも出場している強豪である。

滑川はこの強敵相手に開始早々右フックで拳を骨折し、チョークで落ちそうになりながらも、ちゃんこ番を長年続けたど根性で、最後は「試合で決まったのは初めて」というハイキックからのフロントチョークで一本勝ち！　滑川、ホントに強くなった！

ロシアとジャパンの期待の新鋭が見事な勝利を挙げリングスに光明が見え始めた後、登場するはクリストファー・ヘイズマン。初来日当初はサイドキックだけの選手だったのが、何度も来日するウチに、いつの間にか世界屈指の極めの強さを身につけた男。実はヘイズマンこそがリングス・ネットワークが生んだ宝である。

この日も今をときめくヒース・ヒーリングも破っているルタリーブリの喧嘩屋カカレコ相手に、鮮やかに秒殺一本勝ち！

アブダビ3位のカカレコを極めるということの凄さ、一体どこまで伝わっているか。とにかくヘイズマン万歳である。

ここまで3連続秒殺。もちろん休憩時間なんていらないのに、予定通り10分間の休憩が入る。なにかこの休憩で、ここまでいいムードで来た興行の流れがストップした感じ。やはり興行は生き物。その辺の臨機応変さもこれからは求められるだろう。

休憩明けのミーシャvsジュリアスコフは、グラウンドで攻守が必要以上に変わりまくる、旧リングスを思わせる試合内容。思えば、ロシア人vsブルガリア人という、リングスでしか見られっこないこの組み合わせ。内容がリングスらしくなるのも当然か。

そしていよいよ、ラスト2試合。TKvsバルと金原vsアローナ。リングスにおける日本vsブラジル、ヘビー、ミドル両方の頂上対決である。

確かに今リングスは大ピンチに見舞われているが、ピンチが故に逆に注目されているのも事実。ここでブラジルの強豪相手に残った日本人二人が勝てば、その存在を大きくアピールするチャンスでもあった。が、残念なことに結果は、金原、TK揃っての敗北。

しかし、その内容は「負けました」だけでとどめるにはあまりにも高度だった。

TKはタックルが決まりにくくなった昨今のMMAにおける、違ったテイクダウンの技術として、カニばさみを試みるなど、またしても実験的な闘いを披露。そんなTKの餌に対してすべて対処するババルもやはり凄い。

そして金原弘光。相手はアブダビ2階級制覇、リアル最強の呼び声も高いアローナである。このアローナ相手にノンストップで動き回り互角に闘う日本人が一体何人いるだろうか。ヒザ十字で勝利したときのアローナの興奮を見れば、いかにアローナにとっても金原が厳しい相手だったかわかる。あんな喜び方はアブダビで優勝したときさえ見せなかったのだから。金原敗れてなお強し。

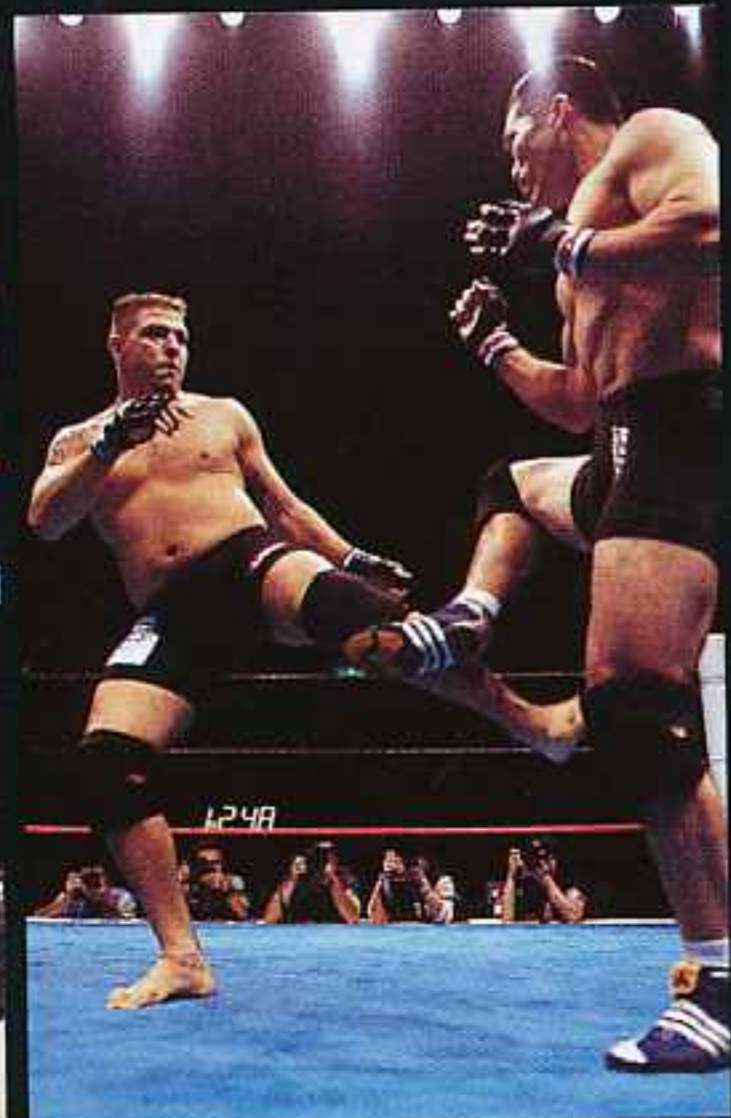
全試合、内容は素晴らしかった。しかし残ったのは、金原、TK揃って敗れるという結果のみ。やはり内容〝は〟良かったとしか言いようがないのだ。

「内容〝は〟良かった」としか言いようがないのは、内容以外がすべてダメだったという証拠。リングスは試合以外のすべての事柄について、革命的な変化が必要だろう。

KOKへの転換という、ソフト面での革命的変化を成し遂げたリングスなら、それができないはずがない。

8・11有明でリングスよ生まれ変われ！

TKまたしても実験的ファイト披露するも、バパルの“ガイ・メッツアー戦法”に惜敗

TKの秘策はカニばさみからの足関節狙い。何度かトライしたものの、成功には至らず。

お互いフェイントを駆使した、スタンドの攻防。ＴＫも動きは良かったが、正確さでババルが上回った。

終始ノンギャンブルファイトで判定勝ちを収めたババル。いまやメッツアー以上の負けない闘いを身につけている。

レナート・ババル (リングス・ブラジル)	2R 判定 2−0	高阪剛 (リングス・ジャパン)

エース金ちゃん無念! アブダビ王者アローナに逆転一本負け

打撃ではやはり金原が上。アローナはかなり打撃を警戒し、得意のタックルをなかなか仕掛けてこなかった。

2Rはやや劣勢であったアローナだが、一瞬の隙をついて、アンダーから金原の足に絡みついた! さすがアブダビ王者!

新エースとして初の“金ちゃん座長興行”となった今回。メインに恥じないだけの力量は確かに持っている。

ヒカルド・アローナ (ブラジリアン・トップチーム)	2R 53秒 ヒザ十字固め	金原弘光 (リングス・ジャパン)

リングスネットワークが生んだ極め業師 ヘイズマン万歳!

いつの間にかホントに強くなったヘイズマン。変形ネックロックでなんとカカレコから秒殺一本勝ち!

今年のアブダビでは、98キロ以下級で３位の成績を上げたカカレコ。実に強烈な風貌である。

勝って前田総帥に挨拶をするヘイズマン。見てみ、前田CEOの嬉しそうな顔!

クリストファー・ヘイズマン (リングス・オーストラリア)	1R 1分56秒 ネックロック	アレシャンドリ・カカレコ (ファスVT)

KOKに突如“旧リングススタイル”が出現! ミーシャ寝技合戦を制す!

レスリングテクニックはあるが“極め”がない、と言われ続けたボリス。今日もやっぱり極めきれなかった。マスクもいいのに、惜しい選手だ。

ヒョードル、アターエフといった「V・ハン格闘術」の後輩の活躍に触発されたか、ミーシャも気合い十分だった。

イリューヒン・ミーシャ (リングス・ロシア)	2R 2分6秒 腕ひしぎ逆十字固め	ボリス・ジュリアスコフ (リングス・ブルガリア)

ロシアの破壊狼、遂に登場! 一撃で衝撃デビュー!

「ＫＯするか、相手に酷いケガを負わせる」という噂は本当だった! 左ストレートで失神したマルコムはなかなか起きあがれなかった。

遂に来日した“ハン最強の弟子”ヴォルク・アターエフは噂通りの凄玉だった! 次号でアターエフ濃密インタビュー掲載します!

ヴォルク・アターエフ (リングス・ジャパン)	1R 1分8秒 KO	メイナード・マルコム (リングス・オーストラリア)

怒りの獣神・滑川、骨折をモノともせず、フロントチョークで逆転3連勝!

鮮やかなハイキックが決まり、矢野が不用意にタックルに来たところをガッチリ捕獲! 滑川他流試合3連勝!

逆転勝利を奪った試合後、急にリング上で苦しみだした滑川。なんと開始直後に骨折しての勝利だったのだ。

矢野のチョークがガッチリと入り勝負あったかに見えたが、滑川が根性で脱出

滑川康仁 (リングス・ジャパン)	2R 22秒 ネックロック	矢野倍達 (RJWセントラル)

リングス存続騒動!!
結婚(?)騒動!!
大量退団騒動!!
暴行(?)騒動!!

RINGS is DEAD?

聞き手／山口日昇
撮影／森鷹博
designed by hisa (Two Three)

すべての"騒動"に前田日明総帥が答えた!!

「厄年に躍動する!! それだけやね!!」

ボクらは前田日明の豪速球&大振りが見たい!!

有罪判決
前田暴行
元妻 性は
イチロー 2安打 本塁打 超好捕
新庄 1安打 敬遠& 大失策
ロスの傷害事件裁判で 結婚→離婚発覚
民主党 猪木に 参院選 出馬要請

「太く生きたからといって人生は短いとは限らない」――。

カレリン戦を終えた頃の前田日明は、よくその言葉を口にした。

確かに前田日明の人生は太い！（最近はカラダも太い！）

たとえば、その頃に出場が噂された、何人も実際に命を落としているという危険なヨットレースに前田日明が出場し、太平洋の海の底に沈んでいたら、「太く短く」のイメージを実践したということで、前田日明伝説は不動のものになっていただろう。

しかし、前田日明は「生き抜く覚悟」を決めた。マット界に限っても、現役を退いた後、プロデューサーとして「生き抜く」ことを決めたのだ。

でも、前田日明の人生が長くなったからといって、細くなるわけがないのだ。

案の定、前田日明の周辺はいつもザワめきが絶えない。

真偽のほどはともかく、結婚（?）疑惑、暴行（?）疑惑、加えて、今回の田村潔司、山本憲尚、成瀬昌由の退団劇だ。

「リングス存亡の危機」「前田はそうとうこたえているはず。落ち込んでるはずだ」という声もまことしやかに流れてくる。

しかし、〝騒動〟に対してすべてを語ってもらおうという趣旨のインタビューを行ったときの前田日明は、落ち込んだ様子はなく、思いのほか元気だった。

牛丼を2つブラ下げて、「昨日はちょっと飲み過ぎてしまった」と言いながらリングス事務所に姿を現した前田日明は、いつも以上に明るい前田日明だったのだ。

――前田さん、新日本の藤波社長と会談したという話が出回ってますけど、したんですか?

前田 会談なんてしてないよ。電話で成瀬うんぬんの話を聞いただけだよ。

――実際には会ってない?

前田 会ってない！

――前田さんと藤波さんって仲いいんですか?（笑）。

前田 いいも悪いもないんだよ。普通だね。会ったら話すし、会ったらビジネスの話にもなるし。だから、そういう意味では感情の入らない間柄やね。

――最近の新日本事情には詳しいんですか?

前田 全っ然わかんない！

――いまグチャグチャですからね（笑）。

前田 でも、それもアングルかもわかんないからね（笑）。上場して株を売って、み

んな「大金持ちだ、ワーイ！」みたいなことをしたいんでしょ？　簡単にはいかないと思うけどね。

――そもそもプロレス団体で上場できるんですか？

前田　タイタンスポーツがやってるでしょ、WWFが。でも、そうなるにはビンス・マクマホンが「プロレスっていうのはスタントマンのメロドラマだ」「エンターテインメントだ」って言ってからの話だからね。でも、WWFは儲かってんだろうね。オーエン・ハートが事故死して、賠償金20何億円だっていうからね。それを出せるのは凄い！ってね。

――ビンスは、XFLで42億円の損失を出したらしいですね（笑）。そのスケールのでかいビンスのように、日本が「殴るのも演出のうちだ」「あれはフェイクだが、素人がやったら死ぬぞ」とカミングアウトできるかというと、どうなんでしょうね。

前田　カミングアウトできないから、自分たちではやらへんのに、総合系を「あれもプロレスだ」と逃げてみたりしてるんでしょ。ちゃんと自分のスタンスを伝えられないんだよ。いろんなイメージに頼っちゃってるから。そういえば、藤波さんが俺を新日本に上げようって躍起なんだよね。

――あ、あれはホントなんですか？

前田　うん。

――ガハハハ！　前田さんをプロレスに復帰させようと思ってるんですか？

前田　そう。

――なにをやらせようとしてるんですか？

前田　わかんない！　俺と小川がやったら面白いとか言ってたけど、いまさらなに言うてんねんって話だよ。

――『PRIDE.14』での藤田vs高山戦は見ました？

前田　見てない。

――その藤田vs高山戦で、高山選手のセコンドに金ちゃん（金原弘光）が付きましたよね。あれ、前田さんが許可を出したんですか？

前田　「出ていいですか？」って言うから、「いいよ、行け行け」って言ったんだよ。「行くな」とか言うの面倒くさくなった（笑）。藤田と高山は面白かったの？

――面白かったですよ。前田さんが見ても面白いと思いますね。

前田　あ、ホント？　藤田はトンパチだからね、いい意味で。

――トンパチと言えば（笑）、佐山聡さんが自由党から参院選に出馬するらしいですね。

前田　実は俺も自由党から誘われたんだよね。

――ゲ！　なんで断ったんですか？

前田　面倒くさい！

――ガハハハ！　なんだそれ（笑）。

前田　だって、出たら、選挙運動だなんだって面倒くさいやんけ。

――ガハハハ！　今回のキーワードは「面倒くさい」ですか（笑）。

前田　「面倒くさい」っていうのが、なんかの扉を開けるときのパスワードみたくなってるね。

――さらに大仁田選手や藤波社長まで出る出ないの話がありますけど、前田さんは然るべきときが来たら出ようという考えはないんですか？

前田　全然考えてない。俺は将来、人間国宝目指して刀作ってるから。

――ガハハハ！　刀鍛冶ですか。

前田　2～3年後に島根に国家試験受けに行くから、そのときは取材に来てよ。刀の形を作って、いろんな行程がちゃんとできるかっていう試験なんだけどね。トンテンカンテン刀を作って、人間国宝を目指す！　人知れずね。

3人がどういう道に進もうと、プライド持って頑張ってもらいたいよ

Akira Maeda

――人知れず刀を打つのはいいんですけど（笑）、5月の契約更改を期に山本、成瀬、田村の3選手が円満退団ということになりました。これは前田さん側からも円満退団という認識でいいわけですよね。

前田　そうだね。裏があるんだったら、これから見てみたいし、ないんだったらそのままだし。まぁ、わけわからんままピョーンと飛び出しちゃったのかなぁって感じやね（笑）。

――でも田村選手なんかは実際にエースとしてやってきて……。

前田　（遮るように）あのね、田村は確信犯だよね。

――か、確信犯？

前田　そう。そう思われても仕方がない（笑）。だってね、交渉の席でも、話をしようにもしゃべらないんだよ。

――やっぱりしゃべらないんですか（笑）。

前田　そう、しゃべらない。「契約をすると制限が出るんで、契約はしないです」っていうことくらいだよ、わかったのは。

――田村さんは、インタビューで自分でもそう言ってますね。

前田　条件を出し合って、お互いに妥協していくのが交渉やないんかってね。

――田村さんは、全くのフリーの状態で一回一回、話し合いたいっていう希望だったんですか？

前田　……わかんない。

――ガハハハ！　そんなカワイらしく（笑）。

前田　わかんないんだもん。

――わかんない中でも、田村さんのような考えには時代性を感じますか？

前田　時代性なんかなぁ？　まぁ、でも、田村には田村の考え方があるんだろうしね。俺は「来る者は拒まず、去る者は追わず」だから。それくらいしか言えないね。ただ、才能あるんだし、田村には、まだ選手として頑張ってもらいたいけどね。

――で、率直に言って、山本、成瀬という、生え抜きの選手が抜けたショックっていうのはないですか？

前田　ない！　そんなの、さんざん経験してきてるよ。いまさら落ち込んでどうのこうのっていうことはないよ。いちいち落ち込んで女々しいこと言ってんのも、面倒くさい！

――め、面倒くさい！（笑）。

前田　そういうことを考えるのが面倒くさいんだよ。

――でも、そういうことを考えなかったから3選手が退団したって考え方もできるじゃないですか。

前田　……ま、そうかもわかんないけど、結局たいしたことじゃないんだって。成瀬については、1年9ヶ月試合しなくって、それで、ギャラが落ちるのは当たり前やん。思わない？

――それはどこのスポーツ業界でもそうですよね。

前田　当たり前の話ですよ！　約2年間で1試合しかしてないのに、ギャラは試合に出てる相当分を出してたんだよ。それに加えて手術代、病院代、リハビリ代、その交通費だって会社が払ってる。試合に出ないからギャラが落ちるっていっても、プロ野球みたいにいきなり半分カットとかそういう話じゃないからね。下げても最大10パーセントぐらいだよ。成瀬がやったリハビリはね、PNFっていって、スポーツ専門の特殊なリハビリなんだよ。そういうものも会社が払ってるわけだから。

——経営者としてはたまったもんじゃないと。

前田　たまったもんじゃないよ（笑）。それでやっと怪我が治ったと思ったら「辞めて新日本に行きます」って。なに考えてんねん！っていう話になるやんけ。でしょ？　でも、そうは言っても、本人がそうしたいっていうなら、仕方ない。会社としてはやるだけのことはやったわけだから。

——成瀬選手が新日本に行くということに関してはどういう思いなんですか？

前田　別に構わないんだけど、プロレスっていうものを甘く考えたら大間違いですよ。いまの成瀬の受け身の技術だったらね。いまのレスラーがどうなのかわかんないけど、ちゃんと受け身を取れる人でも、何年もプロレスやってたらどんどん身体は壊れていくんだよね。それを中途半端な受け身の技術で……どうなんだろうね？　受け身は俺も教えたんだよ。教えたけど、トップロープの上から「エイヤッ！」って受けるのとか、そんなのやんないでしょ。総合系でどうやったらそういうシーンがあるの？　その総合系に沿って、必要最小限のことしか教えてないからね。

——腰が悪いのはネックですよね、いまのジュニア・スタイルの試合をやるには。

前田　バンバン動きまわって、バンバン受け身取るわけでしょ。それに加えて、プロレスっていうのは頭よくなきゃダメなんだよ。臨機応変に判断力も必要だしね。甘く考えて行ったら……。でも、な〜んか成瀬は思いつきで行ったような気がするんだよね。

RINGS is DEAD?

——思いつきだったら嫌だなぁ（笑）。

成瀬　ま、そうではないんだろうとは思いたいけどね。志があれば応援できるし、なければダメだっていうことでしょ。

——一方ヤマノリは、小川直也戦をブチ上げてるんですけど、これは2年前、リングスで実現寸前まで行った試合ですね。

前田　あのときは小川に逃げられたんだよ。川村さん（UFO社長）も猪木さんもOKだったのに、本人が嫌がった。ギャラに関しても、「いくら欲しいんですか？　その金額出しますよ」って言ったんだよ。

——ヤマノリは、リングスで実現しなかった、その小川戦を追いかけたいということですね。

前田　この業界の裏がどうなってるのかとか、わかんないんじゃないの？　ヤマヨシはなんにも考えずに本能的に動くっていう悪い癖があるからね。全くなにも考えてないんじゃないかな。どうすんだろう？

——全くなにも考えてない（笑）。そういえば、ヤマノリと前田さんが4・20の代々木大会のバックステージでスケールの大きな師弟喧嘩をしたっていう話があるんですけど、それはなぜ起こったんですか？

前田　それはね、今度メシでも食いながら話すよ。もう面倒くさい（笑）。

——ヤマノリも、それが原因で辞めたんじゃないって言ってますしね。

前田　もしそれが原因だったら、高校生の家出みたいなもんだよ。でもね、山本は良くも悪くもトンパチな奴だからね（笑）。まっすぐな人間だから。これから、変な話にダマされなければいいと思ってるけどね。

——前田さんとヤマノリは、いい師弟関係だと思いますけどね（笑）。8月には10周年記念興行もありますけど、田村、山本、成瀬の3選手には今後オファーを出していくつもりはあるんですか？

前田　オファーは出すよ。あとは本人たち次第でしょ。まあ、それぞれがどういう道に進もうと、信念、プライドを持って頑張ってもらいたいとは常に思ってはいるんだよ、俺は。

——TKの契約はどうなってるんですか？　アメリカにいるでしょ。

前田　高阪はアメリカに進出するのが決まったときから、あいつは独立心旺盛なヤツで、年に何回か契約すると。日本にいたら1年に6試合だけど、「4回にしてください」と。それで「勝手に海外に行ってるのに、試合がない月に給料もらうのは申し訳ないから、4回分のギャラ割る12でいいです」って。だから高阪は全然問題ない。高阪は一番オトナだよ。

——坂田（亘）選手は？

前田　坂田はつい昨日、留守電が入ってた。「会って話したいんですけど」って、やっと本人から連絡が来た状態だね。

——名古屋でジムをやるとか、いろいろ噂はありましたけどね。

前田　ジムやってるんじゃないの？

——現時点ではまだやってないみたいですけどね。

前田　みんな甘いんだよ。こんな不景気なときに、見返りもなにもなしに金なんか出してくれる人はいないよ。たとえ見返りなしで出してくれたとしても、タダの金ほど怖いことはないんだから。そんなんで、がんじがらめにされちゃうからね。

——坂田選手との話はこれからですか？

前田　うん、これからだね。（※後日、坂田は辞表を提出し受理された）

——でも、前田さん自身も前から言ってますけど、日本式の団体運営の限界っていうのはやっぱり感じますか？

前田　だから、試合があろうとなかろうとお金が出て、ちょっと怪我したら簡単に休めて、試合しなくてもお金もらえるでしょ、

俺は『PRIDE』には貢献してるよ！　功労賞出せって思うよ、ホント（笑）

Akira Maeda

いままでだったら、それを今年から、試合に出ないとお金はもらえないっていう方式に変えていこうと思ったんだよ。今回辞めた人間は、そういうことに対する反発もあったと思うよ。でも、それは当たり前の話なんだよ。

——アイブル、ヘンダーソン、オーフレイムなど、せっかくリングスで名を上げた選手が『PRIDE』に行くことに対しての解決策は考えてないんですか？

前田　それは、手付かずの新人を自分の目で見て発掘してきて、上げ続けていくしかないね。いくら取られても、いくらでもできるよ。

——そういう現象を指して、「リングスはまるで『PRIDE』のファームみたいだ」と書くマスコミもありますよね。

前田　でもね、『PRIDE』は、資金的なこととか、どう見てもペイするような興行じゃないんだよね。いつか亀がひっくり返るようになると思うよ。だから、こっちは粘り腰でいくしかない。でもな、ウチは『PRIDE』に貢献してるよ！　選手だけじゃなく、社員もブッカーもあっち行っちゃってるからね。功労賞でも出せって思うよ、ホントに（笑）。

——そのうちラウンドガールも行ったりして（笑）。「ラウンドガールを取られて、前田日明激怒！」っていう見出しが『東スポ』の一面を飾る日は、そう遠くないかもしれない（笑）。

前田　ハッハッハ。ヘッヘッヘ。でも、『PRIDE』はルールがどんどん厳しくなったり、ハッキリ言ってまだ暗中模索の状態でしょ。どうなんかね？　でも、ハッキリ言えるのは、選手の質や、やってることの中身は、ウチはまったく負けてないよ。

——いや、リングスは本当に面白いと思います。プロモーションでの差は感じますけどね。前田さんは、その『PRIDE』に対してジェラシーはないんですか？

前田　ない！　勝手にせい！　と思ってるだけやね。

——「クッソー、あいつらばっかり儲けやがって」とかは？

前田　だって、儲かってないでしょ。

——たとえばリングスと契約した金原選手や滑川選手が、リングスの試合以外に『PRIDE』や『DEEP』でバーリ・トゥードをやりたいとか言ってきたときにはどうするんですか？

前田　あのね、大前提として、契約試合数というのがあるんだよ。たとえば去年1年間の日本人選手の平均試合数は、金原は海外でもやって6回か7回出たけど、他の選手っていうのはリングスの試合に関しては平均2．5試合！　それで他で試合したいって言ってもおかしいんじゃないのか？っていうことでしょ。年間で契約してる試合数にちゃんと出てるんだったらいいんだよ。それもできないで、ヨソで試合してきて、リングスの本戦を怪我でポシャッたらどうすんの？っていうことが大前提としてあるんだよ。

——それは至極当たり前の話ですね。でも選手には隣の芝生が青く見えるっていう部分が少なからずあるだろうし。

前田　選手はなんもわかってないんだよ。みんなビジョンがないの、ビジョンが。

——リングスに残った金原選手、滑川選手にいま望むことはなんですか？

前田　まずはどんどん戦績を上げて頑張ってくれればいい。それだけやね。だから、今回の件に関しては、田村はともかくとして、山本とか成瀬が抜けたのは正直ビックリしたのはビックリしたけどね。でも、「なんでなんかなぁ？」って考えたら、アホらしくなってくるよ。

——たとえば選手にやりたいことがあって、どうしても他のマットに上がりたいとか……。

前田　（遮って）でもね！　年間の消化数が2．5試合ぐらいでしょ。本戦も消化できないのに他の試合に出たいっていっても、「それはちょっと待てよ」っていう話になるやんけ。ちゃんとやって、なおかつ出たいっていうんだったら全然いいんだよ、全～然。

——たとえば「試合数を減らしてくれ」とか、契約更改の席で言ってくる選手はいないんですか？

前田　いるよ。さっきも言ったけど、高阪はアメリカに行くときに「全部は出れないから4試合」っていう話をキチンと筋を通して話したからね。でも、他の選手は試合がなくてもお金は欲しい！　本戦を怪我で休んでもお金が欲しい！　本戦には出れないけども他の試合に出たい！……って、それは違うよって話でしょ。ちゃんと義務を果たさなかったら権利なんか得られないですよ。これ、当たり前の話。それをわかってないんだよ。

——その話自体は非常に理解できます。選手が、たとえば「『PRIDE』で誰々と絶対に闘いたい」とか、そういう格闘技者としての欲求がどうしても出てきた場合は、前田さんはまったく聞く耳を持たないわけではないんですよね。

前田　いや、聞く耳は持ってるよ！　聞く耳は持ってるけど、その権利を得る前に、“キミたち、やることがあるんちゃうんか”っていう話ですよ。ハッキリ言って、いまの現状じゃ難しいね。なんか選手の欲求って子どもじみてるからさ。だから「試合に出たらお金がもらえる、出なかったらもらえません」ってスッキリさせたんだよ。あとはフリーの選手と回数契約やっていきながら、発掘的なマッチメイクをしていくよ。その方が楽だからね。

——じゃあ完全な興行会社の方向に……。

前田　（遮って）試合がない月なんかさ、配ってるようなもんだよ。しかも、そういうのをわかって頑張ってくれるんだったらいいんだけど、なんかタラタラして緊張感やハングリーさが見えないんだよね。

——だから、隣の芝生は青く見えるんじゃないですか？

前田　でも、システム的にウチほどシッカリやってる団体はないと思うよ。

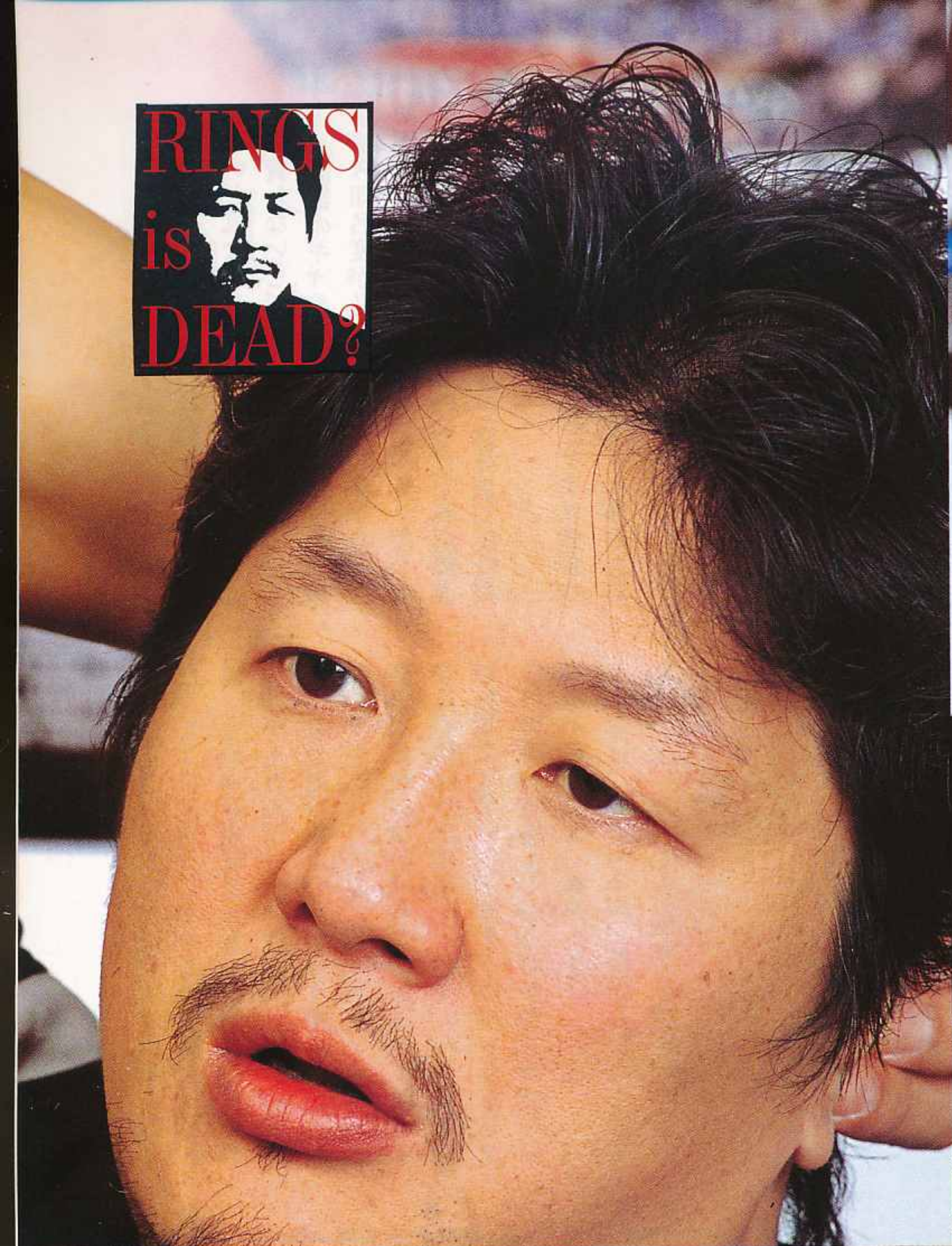
——それはそうですね。

前田　じゃあ、例えば『PRIDE』とかに出て行って怪我しましたって言って、2年間も病院代全部を出して、それプラス、ギャラも全部出してくれる？

——『PRIDE』はわかりませんけど、ウチは仕事しない人間には電車賃も払いません（笑）。

前田　ウチみたいなシステムが当たり前になっちゃうと、「試合できるんじゃないの？」っていう程度の怪我でも「できません、休みます」っていう感覚になってきちゃうんだよね。無意識のうちに。大きな安心感の中で試合を頑張っていかなきゃいけないっていう部分では、会社としては出来る限りのことはやってやりたいんだけど、ウチの場合はそれが行きすぎて甘えになっちゃったっていうのがあるんだよね。でも、それは長い試行錯誤の上でのひとつの失敗っていうだけの話だからさ。失敗っていうか、修正条項の中の一つだっていうことだね。それを修正するということやね。

——『PRIDE』のいまのルールだった

RINGS
is
DEAD?

ら年間4試合でもキツイですよね。
前田　無理や！　2試合ぐらいにしてやらないと危ない。そうなったら高額のギャラを貰わないとできないでしょ。
―高額のギャラを提示させるには、戦績プラス知名度が必要になってきますね。
前田　なにを偉そうなこと言ってんだってヤツおるやんけ？　お前の試合で客が何人来るのって話だよ。それがわかってないんだよ。
―いままでの話からすると、リングスの場合、前田さんが甘やかしすぎた部分もありますよ。前田さんが悪い（笑）。
前田　そうそう（笑）。いや、わかってると思ってたんだけどね。今回、こういうことがあって「わかってなかったんだ」ってことに気付いたよ。親の教育が悪かったんだよ。
―ところで、いまマスコミでは、「リングス存亡の危機」とまで言われてますよね。で、その原因は退団者続出っていうのと外人の転出、前田さん自身のスキャンダル、WOWOWとの契約問題、この三つが柱になってますね。
前田　WOWOWとの契約は問題ない！
―一部の報道によると、WOWOWとの契約が8月で切れるって書いてるところもあるんですけど、それは大丈夫？
前田　大丈夫。それにね、俺のスキャンダルっていうのは、あれは99パーセント、嘘です！
―99パーセント、嘘！
前田　結婚うんぬんの話に関して言うと、日本に国籍がある男女がアメリカで永住権もなにもないのに、どうやってアメリカで結婚すんの？　当たり前の話やんけ。
―ああ、あの東スポの記事はアメリカで結婚してたって報道でしたっけ？
前田　そう。それでアメリカで離婚裁判したって。なに言うてんの？って話や。あれは、その女が俺に暴力を振るわれたとか言って訴えたんだけど、裁判前に却下だよ。
―じゃあ、なんであぁいう報道になるわけですか？
前田　わかんない。本人だか周りの誰かだか、それはわかんないけど、いろんなとこであることないこと偉そうに言ったんじゃないの？　立場なくなったから。俺に対する嫌がらせだよ、嫌がらせ。
―実は、「前田さん、結婚してたんですね」って、今日一番最初に聞こうと思ってたんですけどね（笑）。
前田　常識で考えてみ？　2人とも日本国籍で、永住権もなにも持ってない。どうやってアメリカで結婚すんの？
―前田さんは、密かにグリーンカードとか持ってないんですか？（笑）。
前田　申請してるけど、持ってない。そんなんだったら、たとえばガールフレンド5人いるとするやんけ。で、5人とも手放したくない（笑）。
―そりゃあ手放したくないでしょうとも（笑）。
前田　それで「君とは中国に行って結婚しよう」「君とはブラジルで結婚しよう」ってできることになるでしょ。そんなわけあれへんやんけ。常識の話だよ。日本じゃ独身同士だけど、アメリカに行ったら夫婦って、なに言ってんだよって話でしょ。
―東スポの記事によると「昨年9月28日、ロスでの暴行、脅迫、大きな悲鳴などによる騒音でUさんに訴えられてる」とありますね。
前田　あのときはね、第三者が同じアパートにいたから。聞けばわかるよ。
―「5月1日の判決では暴行、脅迫は

常識で考えてみ？ 日本国籍の男女がどうやってアメリカで結婚すんの？

Akira Maeda

不問。近所に大きな迷惑をかけたことに対して罰金675ドル」とも出てましたね。
前田　アメリカの場合は刑事で訴えられれると、被害者との間じゃなくて、カリフォルニア州と俺との間で刑事の裁判をするわけ。それが却下されたんだよね。裁判まで行ったら陪審員裁判になるんだけど、それをやるほどのもんじゃないから、却下。
―よく映画で見るような、陪審員がズラーッといて、そこの真ん中に前田さんがドカンといるような光景はなかったわけですか。
前田　ないよ、そんなもん（笑）。
―報道通り結婚してたとしたら、「随分スケールの大きい夫婦喧嘩だったんだなぁ」というとこですよね（笑）。でも、こういうことは、マスコミも書き放題書くし、噂も流れ放題になるきっかけになるし、正直言ってイメージダウンになりますよ。
前田　でもね、いまは、そういうもんの中で名誉毀損の裁判っていうのは凄くいいんだよ（笑）。
―な、なにがいいんですか？（笑）。
前田　こないだ（ジャイアンツの）清原が、あることないこと書かれて、『週刊P』を訴えて1千万円取ったでしょ。名誉毀損に関する賠償金がアップしてるんだよね。へっへっへ。
―ボクは裁判官じゃないんで、どっちが正しいか正しくないかは、ホントどうでもいいんですけど、昨年から続いてる国内での裁判もありますよね。それと二つ重なっちゃってるから、イメージとして前田さんを貶めようとする記事を書くには絶好のチャンスですよね。
前田　そうやね。
―しかも退団者続出となったら、正直言って「リングス存亡の危機」というより、「前田日明存亡の危機」ですよ。
前田　そういうことに巻き込まれるのは、ね、原因がハッキリしてるんだよ！
―ゼヒ聞かせてください！
前田　厄年！
―ガハハハハハ！　ひと言！　前田さんを表紙にして、「厄年」って、でっかくコピーを打とうかなぁ（笑）。
前田　厄年が躍動してるんですよ。いや、これから、厄年に躍動する前田日明だった、というところやね。
―でも、ずっと前から前田日明を見てきた者や、ボクらにしてみると、このところ表に出るスキャンダルは、前田日明のスケールからしてみると小さすぎますね。
前田　ハッキリ言って、こんなん関わるのもアホらしくなるね。
―で、今後、前田日明自身がどういう哲学を持って、マット界と関わっていくのか、それがみんな一番知りたいことだと思うんですよ。
前田　哲学もなにも、俺は変われへんよ。同じ！
―ガハハ！　お、同じ。
前田　変わらないことが哲学！　俺、昔と全く変わってないよ。
―いや、それはわかりますけど（笑）、要はビジョンを聞いてみたいんです。
前田　前から言うてるやんけ。ボクシングのWBAとかWBCみたいに組織を作るって。階級別に細分化していって、頂点に世界タイトルを置く。それでアマチュアを育成して、オリンピック競技にでもなったらいいなっていうことだよ。
―それはリングスネットワークのビジョンですよね。前田さん自身のビジョンは？
前田　俺はリングス版のタイガー・ザ・グレートを目指す！

RINGS is DEAD?

——出た！ 漫画のタイガーマスクの虎の穴の総帥ですね（笑）。

前田 ワイングラス片手に猫を抱いてね、格闘技界を束ねるんだよ（笑）。でもさ、タイガー・ザ・グレートはロマンチストさんだよね。あんなドデカイ羽の生えた虎の建物を建てるお金があったら、他にいろんなことできるのにな。

——ロマンチストもなにも、漫画ですからね（笑）。あ！ 前田さんのロマンチストな部分がもっと見えないとダメですよ。最近ギスギスした話題ばかりだから。

前田 だから、刀鍛冶になって人間国宝を目指すって言ってるやん。それが私のロマン。

——わかりました（笑）。でもギスギスした話題ばかりだと、真偽のほどはともかく、選手も疑心暗鬼になる部分はあるでしょう？

前田 疑心暗鬼になるって言ってもね、言い訳だと思うよ。近くにいて、みんなわかってるやんけ。それは言い訳だよ。

——リングスは今後、興行会社へ移行していくんですか？

前田 そうしていきたいね。今後は力道山が作った興行形態っていうのは難しくなっていくだろうね。

——わかりやすく言うと、将来的には『PRIDE』みたいな形式でやっていくってことですか？

前田 『PRIDE』みたいなあれともちょっと違うんだよね。プラスアルファでやっていくよ。まぁ、見ててよ。

——KOKルールはもう変えるつもりはないんですか？

前田 ない。ルールっていうのはそのときの状況、見てる人間の状況、やってる選手の状況、それに照らし合わせて一番最良なものを選択していくことでしょ。自分たちがなにを見せたいか、いまだったら総合格

季節はずれの未公開ショット!!

天才カメラマン（自称）・モーリーが今年の2月にキャッチした、前田日明総帥のリングス事務所内でのたたずまい。各国の時間が表示される時計の前で、前田日明は心の奥で何を思うのか？

闘技の可能性だとか、素晴らしさじゃない。それをただ上から押さえてゴンゴン蹴飛ばしたり殴ったりで試合が終わってたらもったいない。だから、いまは創生期だから「そういうルールづけでいいんじゃない?」っていうのがKOKルールなんですよ。それが何年か経って、見てる方も全て理解できましたと。野球みたいにね。野球のいいところは、見てる人もみんな野球を経験してるでしょ。草野球だ、部活だなんだって。それで、選手が現役を終えたら解説に回って、正しい解説をするやん。

――はいはい。

前田　で、正しい解説を野球を経験したことがある視聴者に伝えるから、うまく回っていくんだよ。いま総合には、まだまだそれがないからさ。リング上から発生するもの、見せるべきものっていうのは、まず可能性を示して、その中から総合にしかできないルール作りっていうものを考えていくっていうことだよね。

――じゃあルールはその状況によって変わっていくこともありえるということですね。

前田　流動的で、全く問題ないよ。

――でもだいぶ普及してきましたよね。変化があったとしても、観客の方も対応できるようにはなってますよね。

前田　でも、いまでも、「講釈師、見てきたような嘘をつき」っていうような解説してるのが多いでしょ。

――ターザン山本みたいな人ですかね（笑）。

前田　ターザンっていえばね、藤原敏男さんのところのお弟子さんがチャンピオンになったときのパーティーに行ったら、ターザン山本がいて、「一度、前田さんとお話したいと思ってるんですよぉ～」って言うから「あ、そうですか、はいはい」って言っといたよ（笑）。

――ガハハハ。軽くあしらったと（笑）。KOKルールに移行したときに、「リングスルールの方がよかったっていう意見も多い」って前田さんも言ってましたよね。で、リングスルールに対しての未練みたいなものは、まったくないんですか?

前田　あのルールもいいと思うんだよ。だから、国によってはKOKルールにはまだ行ける状況じゃないから、ロシアの連中もあれを前面に押し出してやってるでしょ。ハンとコピィロフでこないだ試合したでしょ。ロシア選手権みたいなのやったんだよ。

――グレイシー、あるいはバーリ・トゥードがいわゆる黒船のように日本マット界にバーンと入ってきたときに、リングスが取るひとつの道としては、KOKルールのようなスポーツとしての総合格闘技を確立すること。もうひとつの道としては、リングスを「世界最強のプロレス団体です」と宣言する道も、いま考えるとあったなって気もするんですよ。

前田　世界最強のプロレス団体ね。

――バーリ・トゥードが台頭してきたときに、プロレスファン、格闘技ファンが潜在的に欲してたのは「世界最強のプロレス団体」だったんじゃないかなって気がしますよね。「最強」と謳ってても新日本はそれをやらないし、普段はリングスルールでやってても、「バーリ・トゥードがナンボのもんじゃい!」っていつでも出ていけるポジションに、一時期のリングスは非常に近かったと思うんですよ。前田さんは"プロレス"って言葉を使うのは嫌でしょうけど、ある時期のリングスが「世界最強のプロレス団体」と謳ってたら、かなりファンの溜飲が下がったかもしれないなって、いまになると思いますよね。

前田　なんかね、いまのプロレス界には勇

RINGS is DEAD?

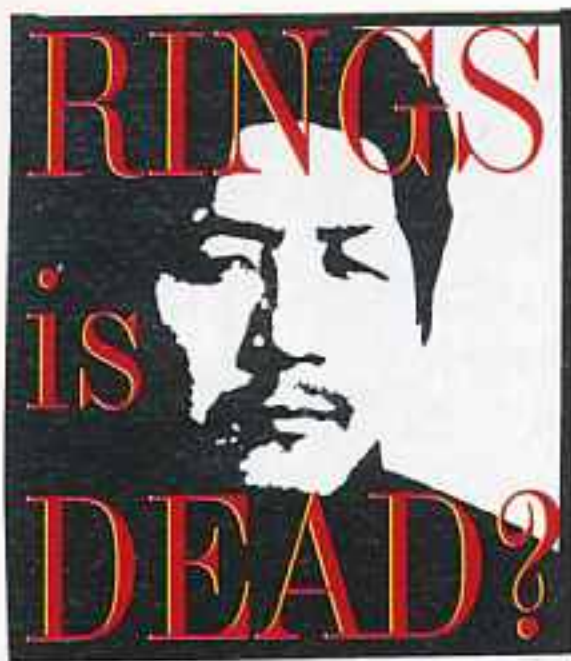
気がないんだよね。やろうと思ったらボーンとやればいいのに、言うだけでしょ。

――言うだけ番長（笑）。

前田　だからダメなんだよ。まだ昔はそういう気概があったのにね。だから俺なんかクビになっちゃうんかなぁ、みたいな感じやね（笑）。

――いま、プロレス界にもそういう団体が求められてるような気もするんですよね。総合が認知されてきた時代だからこそ。

前田　でもね、認知されたと思ってるのは身内だけでね、まだマイナーなんだよ、アメリカでは。市民権を得てるのはブラジルぐらいでね。だからみんな勘違いしてるんだよね。幻想だけが先行して。そんなもんに足並み合わせてたら自分でひっくり返るよ。だからもっと地に足が着いたことをしていかないとね。

――いまUWFルールを再認識、再検証しようという機運もあるんですよね。

前田　高田もね、「いままで自分がやってきたことが全然役に立たないってことがわかった」とか、なにを言うてんねんってことを言ってるじゃない。みんなゴッチ教室に行ったたって言っても、どれぐらいやってたんだよって話でしょ。あの藤原（喜明）さんでもたった半年しか行ってないんだからね。でしょ？　半年やって誰が一人前になるの？　みんな中途半端にやってて、自分が習ったもんが役に立たないって、そりゃあお前が悪いって話でしょ？　だから、なにも考えてなさすぎる。そうやって、自分が損するんだよね。それをわかってないんだよ。それを言う時点で自分が恥を掻く。誰もそれを言ってやれないんだよ。周囲の状況に流されちゃってね。俺がこんなこと言ったら、「また悪口言った」みたいな感じで言われるけどね。

――「また悪口言ってる」って言われたんですか？

前田　いや、そういう話になりがちなんだよ。

――会社や団体がこれだけ細分化してくると、確かにすぐ「悪口言ってる」ってなりがちですね。

前田　女の子の喧嘩じゃあるまいしさ、悪口言ったからってなんやねん、ホントに（笑）。

――ガハハハ。悪口言ったからなんやねん（笑）。今後、プロレスとの接点はどうなっていくんですか？　たとえば藤波さんが「10周年興行に選手を貸すよ」って言ってこないとも限らないじゃないですか（笑）。

前田　貸してくれるんだったら、貸してくれればいいよ。でも俺に「プロレスやれ」って言われても困るやんけ。マネージャーぐらいのことだったらいいけどさ。

――ガハハハ！　ぜひやってください！（笑）。

前田　本気で椅子でド突いてやるよ！　一番痛いとこで。

――たとえば「プロレスラー貸してあげるよ」って言われても、バーリ・トゥードよりもKOKルールのほうが難しいですよね。

前田　プロレスラーは、意外と心臓弱いヤツが多いからね。実際どんなヤツがいるんかわかんないけどね。俺がいた頃と変わってるから、良くも悪くもどうかとは思うんやけど、どうなんだろうね？

――10周年記念興行は全部KOKルールになるんですか？

前田　10周年だから、いろんなルールがあってもいいんかなとも思うんだけどね。いま、ハンと藤原さんでリングスルールでエキジビションっていうのが上がってるよ（※6・15横浜大会で正式発表）。

――はっはー。他に10周年のプランはないんですか？

前田　追々発表しますよ。

――セレモニーの類は？

前田　いまのとこ考えてないね。今回、WOWOWが10周年やってくれると思ったら、「ウチは12周年でやります」とか、思わずコケそうなことを社長が言うんだよ（笑）。「なんやそれ、12周年って」って思ってね、「12」っていう数字がどっから出てるのかと思ったら、十二支なんだよね。年寄りが考えるとそうなるんだよ。「はぁ～」ってね（笑）。

――前田さんがエキジビションやるとかは？

前田　ない！　そんな面倒くさいことやんない！

――あくまでも、今日のキーワードは「面倒くさい」と（笑）。でも、せっかくリングスはこれだけ試合が面白いんですから、プロモーションをなんとかしてください。もっとたくさんの人に見てもらいましょうよ。

前田　その部分では、いままで、試合のビデオとか素材の部分で使おうと思ったら、けっこう大変だったからね。今度、過去の試合映像もわりと自由に使えるようになったから。二次放映権をリングスが持つことになった。WOWOWの放送自体も、WOWOWで放送終わったすぐあとから、他の放送媒体で使えるようになったから。

――映像だけじゃなく、やる気になってる金原選手にリングスで6試合やってもらって、プロモーションとして、1試合『PRIDE』に出てもらいましょう！　前田さんがマネージャーで（笑）。……金ちゃんが壊れるか（笑）。

前田　壊れるよ（笑）。俺がマネージャーやったら凄いよ！

――そりゃあ凄いですよ！（笑）。滑川選手は最近絶好調ですよね。

前田　滑川は、目つきが怪しいんだよね（笑）。リング上でも大見得切ってるけど、自信があるからできるんでしょう。大きい試合も少しずつやらせていこうかと思ってるけどね。でも、あいつはすぐに周りが見えなくなるからね。試合でも、すぐムキになる。

――その辺は前田さん譲りってことで（笑）。ところで、選手が「前田日明」という名前を越えるには、どうしたらいいと思いますか？　これは選手にはマスコミが悪いって言われますけど、どうしても前田さんの名前が前面にダーンと出ちゃいますよね。

前田　いや、マスコミうんぬんっていうよりね、みんな自分っていうものがわかってないんだよ。無意識で生活する時間が多すぎる！

――無意識で生活する時間？

前田　田村にしても誰にしても、毎日生きてるんだけど、大半は無意識なんだよ、無意識！　俺はいつも朝起きたときに「俺は前田日明で、前田日明っていうのは、こういう親父がいて、その親父の雫から俺は生まれて、こういう兄弟がいて、いまはどういう環境にいる」っていつも思うからね。

――毎朝！（笑）。

前田　そう。自分が何者かを毎朝考える！　それで自分が暮らしてる環境を目の当たりにして、自分の経験を愛した上で、自分のスタンスを考えますよ。

――選手によっては、前田さんは引退したのに「前田日明、前田日明」って取り

女の子の喧嘩じゃあるまいしさ、悪口言ったからってなんやねん（笑）

Akira Maeda

上げるから俺たちの活躍が埋もれるんだって思ってますよね。

前田　それはお前が足りないだけの話や。そんなのね、俺らのときにも、なにがあっても「アントニオ猪木、アントニオ猪木」っていうのがあったやんけ。あったけど、そんなこと思ったことないよ。「アントニオ猪木がいるから俺はどうのこうの」ってさ、そんなこと言ったって、なに言うてんねん！　って言われるだけでしょ。思えへん？

――ボクらはそう思いますけど、一部の選手はそう思わないんでしょうね。

前田　ロックミュージシャンでさ、どっかのライブハウスで「みんなビートルズ、ビートルズって騒いでなにもできへん」って言うか？　それと一緒だよ。結局ダメなやつは誰かのせいにしたがるんだよ。自分でケツを拭かない。自意識がないんだよ、自意識が。無意識なんだよね。俺を見るな、自分を見ろ！　ですよ。

――出た！　今回の一連の騒動で、孤独感や孤立感は感じませんでしたか？

前田　全然ない！

――UWFが解散したときみたいな感覚は？

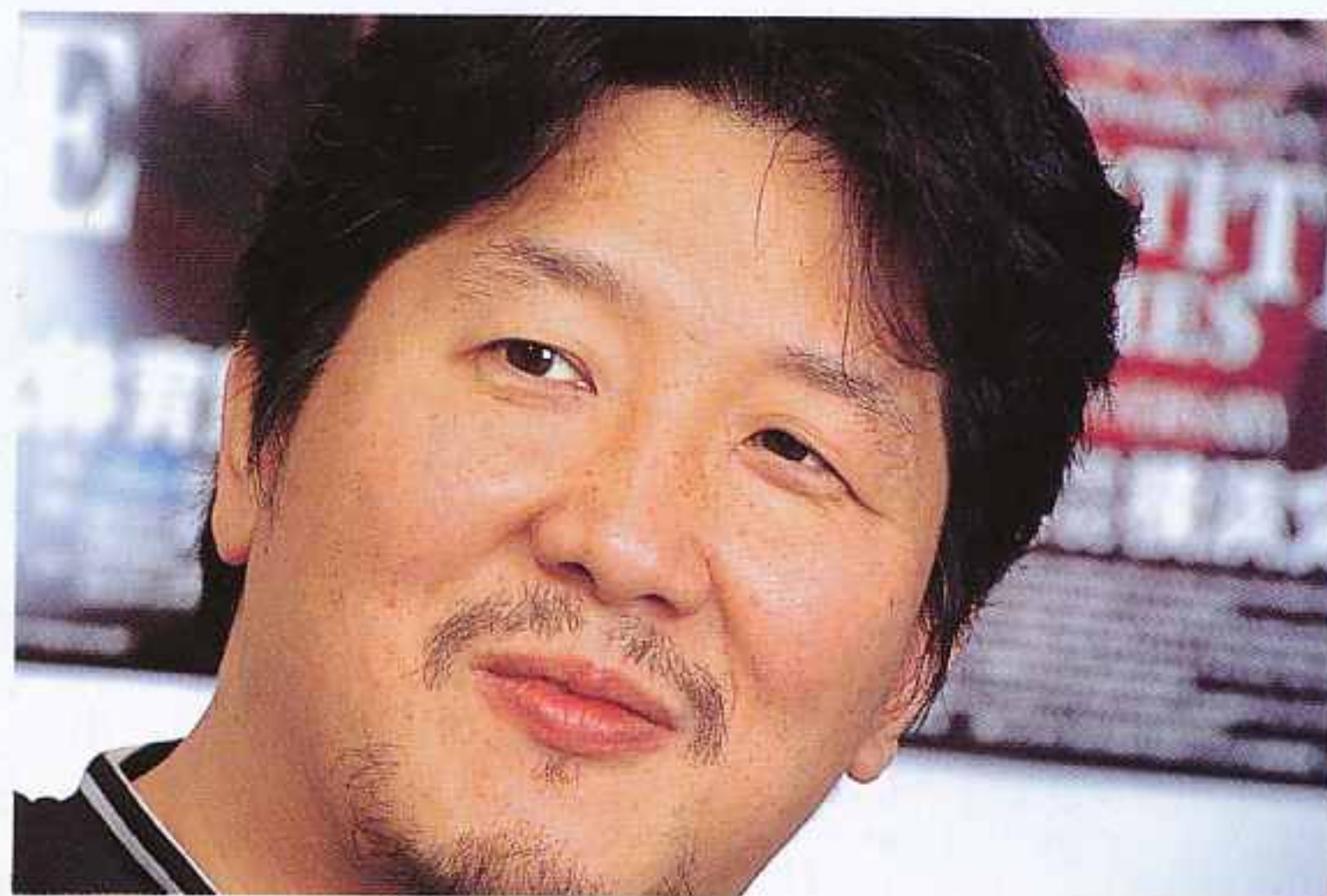
前田　全然ないね。な～んか……ないなぁ。

――どうにかなるって感じですか？

前田　そうだね、どうにかなる！　これから見えてくる部分もあるだろうしね。トラブルに関しては、俺は一通り経験してきてるからさ。昔は経験がなかったから慌てたりしたけど、いまはもう、いろんな経験あるからね。だから、なにかあったからって、躊躇してるヒマはないんだよ！　躊躇してるヒマがあったら、一歩踏み込む！　一歩踏み込めば、あとは極楽ですよ。

――穴があったら入れろ！　ということですか（笑）。

前田　そう（笑）。まあ、いまも見えてるものはあるし、ホントにこれから見えてくるものはたくさんあるよ。まあ、見ててよ。（テーブルの上のガムを手にとって）ガム食べる、ガム？

――いただきます。あ、「瞬発力チャージ！」って書いてありますね（笑）。

前田　そう。このガム食べてね、瞬発力をチャージする！　そういうことですよ。

【6月12日／東京都渋谷区・リングス事務所にて収録】

というわけで、前田日明の机の上には、4月に千葉ロッテマリーンズの始球式を行った関係からか、「瞬発力チャージ！」というキャッチコピーが踊るガムが、大量に送られてきていた。

ぜひともそのガムを噛んで、瞬発力をチャージして、8・11のリングス10周年大会を盛り上げてほしいものである。

トラブルに関しては一通り経験してきてるから、躊躇してるヒマはない！

Akira Maeda

「人にショックを与えることがダンディズム」と前田日明は言うが、もはや現役でない前田日明に対して、ボクらはいまでも〝ショック〟を与えてほしいと願っている。

でも、最近出てくる〝ショック〟は、明らかに前田日明に与えてもらいたい〝ショック〟とはベクトルが違うだろう。

しかしこれは、周囲の目や状況が変わっただけだ、という見方もできる。

前田日明は何も変わらずに、ボクらの見る目だけが変わったのかもしれないということだ。

はたしてチンケになったのは前田日明なのか？　ボクたちなのか？

前田日明の〝芯〟の部分は変わってほしくはないが、急激に変化している周囲の状況への対応力は見せてほしいものだ。

その対応力を見せつけたときには、いい形で、リングスのリング上から〝ショック〟が立ち昇るだろう。

このインタビューを行った数日後に行われたリングス6・15横浜大会では、リングス・ジャパンの頼みの綱、金原弘光と、TKがワールド・タイトル争奪トーナメントで敗れてしまった。

一般的に考えれば、やはりリングスを取り巻く状況はピンチだ。

しかし、ボクらが前田日明に同情してもまったく無意味である。

最大のピンチは、最大のチャンスなり！　前田日明は自ら「いろんなことがあるから、面白い」と言うが、きっと地力で切り抜けるはずである。

ボクらは、チンケなスキャンダルの渦中にいる前田日明は、もう見たくない。

〝攻める〟前田日明が見たい。

みんな、それを待っているのだ。

6・15横浜大会全試合終了後の共同コメント、前田日明かく語りき

「一事が万事塞翁が馬！ これがあったために、何かいいことがあるんですよ!!」

――日本人が全員1回戦で負けましたけど、この結果についてはどういうふうに？

前田　ま、しょうがないね。

――前田さんから見た金原さんと高阪さんの敗因というのは、どのあたりにあったと？

前田　そうだね。日本人の悪いところでね、なんか先手を取れないんだよね、先手を。いつも相手のペースの上に乗っかっちゃってるっていうところがあるんだけど、いつも何でかな？　と思うんですよね。

――滑川選手に関しては。

前田　滑川よくがんばったね。あれは1発目のねぇ、1発目のフックいった時に手の甲が折れちゃったんだよ。それで、右手使えなくて、ウダウダしてる間に首獲られて。「あれ？　ああ～、マウントの時にもういかれたなぁ」と思ったけど、ウマく凌いで、あいつにしたら今日は一番いい日やったね。意地があった、滑川の試合は。久々に意地がある試合を見ましたね。でも、なんかこう技術的なことになるんだけど、もっとこう、自分でどんどん仕掛けていったらいいのにね。なんかしら、みんな待っちゃうんだよね。待っちゃったり、見ちゃったりするんだよね。で、捕まれて、5手先読めたらいいんだけどね。そんなんめったにできないよ。ダンチの実力差がある場合は別だけど。技術的なとことパーツ的なものって、そんなハッキリ大きな違いはないんだよ。

ブラジル人のいいところは、どんどんどんどん強くなって、どんどんどんどん自分のペースつくってきてね、それはブラジル人のどの試合を見てもそうやね。だからなんか、先手必勝って言うんだけど、実力が拮抗していればいるほど、先手取られるとまず相手のペースやリズムに乗った部分で、自分のリズムとペースを取り返さなきゃいけないんだよね。その分後手に回っちゃうんで。いま言えることはそれぐらいかな。ブラジル人はあるよね。ブラジル人は一番シンプルなセオリーっていうんで、先手取らせないもんね。と思わない？　そうでしょ？　なんかそういう敢闘精神っていうか、なんか、何て言うかね、昔の日本陸軍的な、あのー、万歳突撃じゃないけどさ、あんな気持ちがほしいよね。（鈴木邦男氏に向かって）ホント鈴木さんにがんばってもらって、ちょっとなんか小学校の教育……参議院選出てくださいよ、ホント。一票いれますよ（笑）。

鈴木　アハハハ！　いや、前田さんが首相になってください。

前田　今回、誘われたけど、断った（笑）。

鈴木　そうですか（笑）。

――リング内での建て直しというか、いろいろ5月にあったじゃないですか。その時はまぁ、リング外の話で今回はリング上で。前回もそうですけど、リングス・ジャパンというか日本人選手ですよね。かなりキツイ状態になってると思うんですけど、再建というか……。

前田　（遮って）リングスっていうのはジャパンだけじゃないんですよ！

――はい。

前田　リングスっていうのはファイティング・ネットワーク全部含めて、総称でリングスっていうんですよ。リングス・ジャパンっていうのは8分の1なんですよ。ね？　いまなんかこう、ネットワーク全体の権威者と権導者になってますけど、それは魂胆じゃないんですよ。それぞれで何か、ハンだなんだっていろんな連中が第2世代……今日出たアターエフみたいなヤツ？　とかなんやったっけ？　ヒョードルとかアローナとか出てきましたけど、それぞれの国でやってるんですよね。まぁ、でも日本はその前に各ネットワークと比べて恵まれすぎたってところで気の緩みがあったんかなっていうのは自分の反省点ですね。

まぁ、でも今回、離脱者3名っていうんだけど、それぞれの事情を追ってみると、なんか、そんな離脱だどうのこうのと、ちょっと違うんですよね。1人は子供じみたアレだし、1人はやっぱり何か身体的な壊れ方でちょっと無理だなっていうのもあるし、純粋にいったら1人ぐらいかなっていうのはありますね。たまたま時期が重なって。なんか物事やっていたらこんなもんですよ。順風満帆なんかあるわけなくて、いろんなことがあるから面白いんじゃないですか。一時が万事塞翁が馬っていうじゃないですか。これを機にしてね、これがあったためになんかいいことがあるんですよ。まぁ、見ててください！

――有明の方はまぁ、ハン選手と藤原選手の発表になりましたけど。

前田　あれはなんか、あくまでウチのヤツはスペシャルだなんだ、ええやつだって発表したけど、なんかあんなんスペシャル（・マッチ）で発表するもんじゃないですよ、ハッキリ言ってね（笑）。半分笑われちゃったけど。（広報に向かって）だから言ったやろ。エキシビション・マッチでな、2人の業師がいろんなものをこうやって、グラウンドの攻防ってこういうものなんですよと見せればいいんだよ。スペシャル（・マッチ）でもなんでもない。

――いつ頃、全カード出せそうでしょうか？

前田　なるべく早く出したいですね。出したいですけど、いまハッキリ言って業界には仁義がないんでね。仁義がないし、あのー、最終的になんか契約書にサインがあって、ビザも通って、OK出すまで安心できないんですよ。契約書にサインしても、向こうが違約金払ってもいいとか、そういうことありえるんで、ホントに。俺はもうこの世界で生きてなかったらね、捜査一課のね、暴力団対策委員会に志願していきますよ。っていうふうなかんじですね（笑）。

――こんなこと聞くのもなんですけど、山本選手が昨日、橋本さんとここに現れて……。

前田　（遮るように）それは山本がなんかもう、なんかそのー、プロレス界の大きなアングルに入った話なんで、だからそれを見てどうこうって、俺はわかんないですよ。ホントにKOしたんかもわかんないし、してないかもわかんないし。でも聞くところによると1発目かすって2発目でやったっていうから。1発目かすった瞬間「しまった」って顔したらしいから（笑）。慌てて出したら、イラだってホントにノックアウトしたんかなっていう感じもしないでもないけどね。アイツのことだから（笑）。まぁまぁ、良くも悪くもね、かわいいトンパチだったから面白いことになるでしょう（笑）。みなさんも応援してやってくださいよ。

6・15横浜。試合開始直後に右手甲を骨折した滑川だが、負傷をおして矢野から勝利を奪った。即座に前田総帥に挨拶に行ったが、その直後に、リング上をのたうち回った。前田総帥の握手が滑川の右手骨折を悪化させたのだ（妄想）

は“旧リングス体質”の一掃だった!!

場の真実

RINGS is DEAD?

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by hisa(Two Three)

髪を染めに行ってた為に欠席
滑川康仁

“道場長”金原が激白! 今回の離脱騒動は

前田道場

「ハッキリ言ってリングスには
横柄な選手が多かった。
今は練習をする奴が
残ったんだよ」

事件は会議室で起こってるんじゃないんだよ!
と、「踊る大捜査線」では言っていたが、まさに
「会議室でのみ起こった事件」という感がある、
今回の選手離脱騒動。はたして、共に道場で
練習していた選手はどう思っているのか? 急
遽、新エースとなった金原が、前田道場内部の
真実について、ボヤキながらも遂に語る!

リングスの新エース

金原弘光

6・15横浜文体、アローナ戦を4日後に控えた11日。インタビューのために久しぶりに前田道場に訪れてみた。選手が3人抜けたので、さすがにガランとしたイメージはあったが、以前とまったく変わらないのは、金原がいつものようにスパーリングに励んでいたこと。そう、前田道場に行けば、いまも昔も必ず金原が練習をしていたのだ。実質的な"道場長"であり、リングスの新エースである金ちゃんに、生まれ変わりつつあるリングスについて話してもらった。

金原　今日はボヤキたいことが山ほどあるよ！

——久しぶりにボヤキング復活ですか（笑）。

金原　ホント色々ありすぎるからね。でも今日これから話すことは、ボヤキじゃなくて意見だから（笑）。

——アハハハ！　分かりました（笑）。それでは早速リングスの選手離脱のことからお伺いしたいんですが。

金原　オレが契約してからみんな辞めてるからさ、ビックリだよね。みんな契約しないって分かってたら、もっと待遇良くなってたかもしれないのに（笑）。

——選手離脱で浮いた分が上乗せされてたかもしれない（笑）。

金原　それが何も知らずに契約したからさ、オレと滑川は損してるよ（笑）。

——やっぱり今回の契約更改は厳しかったんですか？

金原　ウン、厳しいよ。正直ガックリ来たけど、前田さんに「現状は厳しいからガマンしてくれ」って言われたら、「そうですか」って言うしかないからね。オレなんかもキングダムが潰れて、前田さんに拾ってもらった恩があるから。そういう恩は返したいっていう気持ちはあるしね。もうだいぶ返したかな、とも思うけど（笑）。

——では、ホントに山本さんや成瀬さんが辞めることを知ったのは、僕らと同じ時期だったんですね。

金原　みんな言わないんだもん。辞めてからさ、「実は話したら長いんですけど、いろんな事が積み重なってこういう結果にいたりました」とか言ってさ。早く言ってくれれば相談にも乗るし、どうしようかって話にもなるのに。リングスは選手会ってのがないからね。

——そうなんですか。じゃあ全然やめそうな兆候もみえずに。

金原　そうだよ。道場には来てたし、山本さんと成瀬さんはリングスの生え抜きでしょ。ずっとリングスにいるもんだと思っちゃうよね。

——『紙プロ』でも前々号で「リングス10周年生え抜き対談」とかやってましたけど、二人とも10周年を目前にしていなくなるとは、夢にも思いませんでした（笑）。

金原　オレから見れば、二人ともいい待遇だど思うんだけどね。「色んなことが積み重なって」って、なにがあるのか本人じゃないからわからないけどさ。

——滑川さんも「なんで辞めるんですかね？」って言ってましたよ。「毎月ちゃんとお金もらえて、喰うモノも困らずに練習環境もいいのに」って。

金原　しかも、いいマッチメイク組んでもらって、メインエベンターとして扱ってもらえてたわけでしょ。……わかんないよね。

団体を窮地に追い込みながら雑誌に出まくる神経がわからないよ!

Hiromitsu Kanehara

——ケガの補償もしてもらってたわけですからね。

金原　それもあるし。干されるようなこともされてないでしょ。オレがUインターでされてたような毎回同じ相手とか、第1試合とかさ（笑）。

——Uインター時代に干されてたんですか？（笑）。

金原　されてましたよ（笑）。オレはリングスでも第1試合からやって、這い上がっていったからね。まぁ、辞めるって決めたならしかたないけど、プロレスやるにしても、格闘技やるにしても、負けて欲しくないよね。

——外人でもヴァレンタイン・オーフレイムが『PRIDE』第1戦で、早々に負けちゃいましたからね。

金原　みっともないよね！　試合が終わったあとに「何やってんだおまえ！」って言ってやったもんね。

——オーフレイムを叱りつけましたか！（笑）。

金原　バカみたいだよ。アイツは波があるじゃん！　勝つときはガッって勝つし、負けるときもガッって負ける！　ハワイ（去年7月のリングスUSA大会）なんかでもトム・サワーにあっという間にノックアウトされっちゃたじゃん。だから分かんないよね、アイツ。一発屋だから（笑）。

——ホント攻撃力は強いですけど守備力はメチャクチャ弱いってかんじですね（笑）。

金原　あきらめるのが早いんだよね。

——たったヒザ一発ですからね（笑）。

金原　その前にね、「指を目に入れられた」って言ってたよ。それで目が見えなくてダメだとかって。でもねぇ……勝つ気がなかったのかなぁ？

——離脱者と言えば、かねてから噂されていた田村さんも、予想通りリングス離脱となりましたけど、田村さんに対してはいかがですか？

金原　だからね、山本さんとか成瀬さんはまだいいよ。でも、どうしても許せないのは田村さん！　田村さんが辞めたことは本人から何も聞いてないしさ。あの人の辞め方は一番納得いかないから！（怒）。

——どんなところが納得いかないんですか？

金原　だって会社を窮地に追い込んだ張本人なわけじゃん。ただでさえ離脱者が出たのに、いま団体のエースやってる人間が辞めたら、会社がどんなに困るか本人が一番わかってるはずだよ。そういうこと分かってんのにさ、雑誌とか見たらさ色んなところに出て喋ってるわけじゃん。オレにはあの神経は信じられない！

——あれはとりあえず各誌に退団の報告をしたかったようなんですけど……。

金原　（聞かずに）前田さんもインタビューで「（田村は）言ってることとやってることが全然違う」とか言ってるけど、全くその通りだと思うから。結局、自分がずっと負けてるから「自分の選んだ相手しかやりたくない」って言ってるわけでしょ。自分が勝ってるときにそう言うのはいいと思うけど、負けてるときに「選んだ相手としかやりたくない」って言っちゃったらさ、ファンがどう思うんだろうね？　オレがファンだったらガッカリしちゃうけどね。

——それはありますね。

RINGS is DEAD?

金原　誰だって自分がやりたい相手とやるのが一番理想なんだけどさ。そんなこと言っていたら、会社も興行も全てが成り立たないでしょ。そう思わない？

——確かにそうですね。逆に選手がやりたくないようなカードこそ見たいというところがありますから。

金原　桜庭なんかも「自分で選びたい」なんて言わないでしょ？　言っても「同じ位の体重がいい」ぐらいでしょ。ましてやそれを連敗中の選手が言うセリフじゃないよ！

——まあ、シンドイ試合が続いて休みたいっていうことらしいですけど。

金原　その気持ちはわかるけどさ、シンドイ試合ってみんなやってんじゃん!!（怒）。オレは骨折ってもやってるよ！　肋骨折れても手が裂けても、注射打って次の試合やってるんですよ。一日2試合3回もやってるよ！　そんなの誰でもやってるよ！　田村さんだけじゃないよ、シンドイ試合は！（怒）。

——……。

金原　しかもインタビューで「前田さんには一生頭が上がらない」って言ってる人間がさぁ、思いっきり顔を踏みつぶすようなことをやってるわけでしょ。そうじゃない？　笑いながら殴るようなさ。そういうことしてんじゃない。そう思わない？

——そうとも捉えられますよね。

金原　オレはそう思うけどね。口では「頭が上がらない」って言ってるけど心の中で舌出してるようなな。言ってることとやってることが違う気がするよ。だってあの人なんかはリングスに恩があるわけでしょ。Uインターでだんだん居場所がなくなってきて、前田さんに拾ってもらったわけでしょ。しかもリングスに来て、1からやってたわけじゃないよね。ずっといい待遇受けてたわけじゃない！

——だから山本さんと成瀬さんが辞めて、ここで田村さんが「ボクがリングスを立て直します」って言ってたら株が上がってたんですけどね。

金原　それだったら「田村さん、カッコいいなあ」ってオレも思うよ。それがエースの本来あるべき姿じゃないの？　ここで自分が辞めたらどうなるかって、わかんないのかぁ。会社なんか潰そうと思ったら、簡単に潰れちゃうんだから！

——今まで2回潰れてる当事者にしてみたら（笑）。

金原　そうなんだよ。いまキングダムとUインターの崩壊のときとさ、雰囲気がソックリなんだよ（笑）。オレと和田さんはよくわかってるからさ。そろそろヤバイかなあって（笑）。

——皮膚感覚で危機感を持ってしまうと（笑）。

金原　毎日暗い話ばっかになっちゃうよ。だって毎月、武道館を満員にしてたUインターでも悪くなったら早かったからね。いつの間にか北海道のちっちゃいトコとか、巡業してたりさ。タイガーマスクも上がってるし、コブラは上がってるし。何かよくわかんなかったよね（笑）。

——リングスもこれからオープンにして、新しい血をドンドン導入していくらしいですけどね。ま、タイガーやコブラは上がらないでしょうけど（笑）。だから逆に生まれ変わるいいチャンスではあるとは思うんですよ。昔、SWSができて全日から選手がゴッソリ抜けて三沢さん達の評価が上がったみたいに。

金原　まぁ、ピンチでもあるしチャンスでもあるとは思うよ。でもチャンスにしてもアローナじゃ相手が悪すぎるよ！（笑）。

——確かに（笑）。せめて決勝で会いたい相手ですよね。

金原　うん、暗い話ばかりでモチベーションが上がらないときにさ、ホントに相手が悪い。だってアローナって柔術家のくせに、ティト・オーティズからタックル取っちゃう選手だからね。それでアブダビは2階級制覇でしょ。まだグレイシーの方が楽だよ（笑）。

——しかも今回、勝つと負けるのとじゃ、イメージ的にずいぶん違いますからね。

金原　今回は会社のためにどうしても勝たなきゃいけないからさ。胃が痛いよ、ホントに（苦笑）。和田さんなんかもさ、「会社が潰れたらオレはどうしたらいいんだ」とか言ってくるしさ。トレーナーも新しく入ったばっかりでさ、「いやあ、潰さないでくださいよ」って言ってくるわけよ（笑）。

——責任重大になってきますね（笑）。

金原　だから会社をナントカ潰したくないっていうのがあるよね。仮に潰れたら若い選手もいて、スタッフも10人位いるわけで

会議に平気で遅れてくるリングスの選手が信じられなかった

Hiromitsu Kanehara

しょう。路頭に迷っちゃう人が一杯出てくるわけだからさ、それも考えるとやっぱりね。

――選手が抜けてから、滑川さんや新弟子の二人とかと、「これから頑張ろうぜ」っていう話はしたんですか？

金原　いやあ別にそれはしてない。普通に練習するぐらい。

――道場のムードはいかがですか？

金原　ムードは今までと変わらないけどね。でも練習は凄いやってるよ、朝から晩まで。いま残ってる奴は、練習やる奴が残った感じだからね。その中で一人だけ30代だからさ。もう疲れが残っちゃってさあ、キツイよね（笑）。しかもオレとスパーリングやるときはみんなガムシャラに来るわけでしょ（笑）。

――アハハハ、どうですか新弟子は？　8月か9月のデビューが決まったみたいですけど。

金原　いいんじゃない。結構イイトコいけると思うけどね。横井なんか近大柔道部出身で基礎もしっかりしてるし、オレなんかでも練習やってて「おおっ」って思うことがたまにあるからね。●●より全然強いよ。

――●●より全然強い！

金原　だって●●は練習しないもん。オレは弱くても練習する奴は好きだけど、練習しない奴は嫌いだよ。たまに道場に来ても新弟子の練習は見ないでさ、「メシ作れ！」とか「タオル出せ！」とか先輩風だけは吹かしてさ。あれじゃダメだよ。しっかしさぁ、よくこれだけいっぺんに辞めるよね。こんだけ離脱者が出るとイメージが悪いよね。

――ですよね。離脱者が多いと「リングスに問題がある」と思われる向きもありますよね。

金原　でもねえ、その辞めた選手がちょっと変ったのが多いってのもね。

――変わったのが多いって（笑）。

金原　オレからすれば、リングスの選手は変わってるよ、横柄だし。

――横柄！

金原　会議とかでもね、Uインターの選手ってのは絶対遅れないのよ。5時なら5時で、絶対その時間に揃うのよ。でもリングス来てビックリしたもんね！　時間通りに揃った試しがないよ、1回もないんだよ！

――1回もですか！

金原　そうだよ。だって前田さんより平気で遅れてきたり、平気で休んだりするからね。そういうのが多いからビックリしたよ！

――Uインターでは信じられないことですか？

金原　オレらは口うるさい先輩がいっぱいいたからさ。先輩よりも遅れることが、どんだけヤバイかっていうのがあるじゃん。ましてやさ、高田さんより遅れるもんだったら……もう大変だよ！　例えばUインターでサイパンに行ったとき、桜庭と同じ部屋だったんだけど。すっごいぐっすり寝てたから、桜庭をワザと起こさずに、そうっと抜けて集合場所に行ったことがあったの（笑）。

――悪い人ですねぇ（笑）。

金原　もう高田さんとかみんなバスに乗ってスタンバイしてるわけ。そこに寝坊した桜庭が凄い寝癖で服もまんまで、バスに向かってガァーって走ってきてさ。そんときの顔っていったらなかったよ（笑）。

――アハハハ！　絶体絶命を絵に描いたような顔をしてたわけですね（笑）。

金原　そうそうそう（笑）。それくらい遅れたらヤバイってのがあったから遅れた人とかホントいないよ。

――前田さんも、「ちょっと甘やかしすぎた」って言ってましたけど、リングスにはそういう厳しさってのがなかったわけですね。

金原　それを怒る先輩ってのがいないのもね。もしオレの後輩がそんなことやっていたら、「なにやってんだ」っていうことになるけどさ。それで前田さんはそういう若い選手を殴るのかなって思ってたら殴らないしさ。

――あ、殴らないんですか。

金原　そういうことでは殴らないよね。だから全然イメージと違うなって。でも本当は前田さんが殴るんじゃなくて、前田さんのちょっと下に誰かいて、その人が手を出すのが一番いいと思うよ。オレらでも高田さんとかに殴られるんじゃなくて、その下の宮戸さんとか安生さんに殴られた方が多かったからね。ホントに高田さんは手を下す必要がなかったから、安心して任せておいたって感じで。そこら辺はしっかりしてたよね。

――前田さんも言ってましたからね。「オレが猪木さんだとしたら、小鉄さんみたいな人がいたらいいんだけど」って（笑）。そう考えると、本当にUインターでの宮戸さんの役目って大きかったんですね。

金原　大きいよ～。こないだ久しぶりに高山君の試合でセコンドに宮戸さんと2人で付いてさ、試合始まる前に昔話に花を咲かせて面白かったよ（笑）。

――どんな話だったんですか？（笑）。

金原　ちょうど桜庭もいたんだけど、桜庭がちょっと汚いかっこしててさ、「お前そ

RINGS is DEAD?

んなカッコで今日挨拶すんの」とかいう話になって。それで昔の話で、ルール説明ってUインターのころあったじゃん。あるとき桜庭がムチャクチャ汚い、スパーリングで汗掻いたよれよれのTシャツのままルール説明やったのよ。そのとき宮戸さんがオレと高山君に怒鳴ってさあ（笑）。「誰があんなカッコでリングに上げたんだよ‼」「どういうつもりだよ、お前ら！」「なんで後輩の管理しかっり出来ないんだよ！」ってもの凄く怒られたんだよ（笑）。『PRIDE』の控え室で、その桜庭の格好見てさ、その頃の話で盛り上がったよね（笑）。

——当時から桜庭さんは桜庭さんらしかったんですね（笑）。

金原　あるときなんか宮戸さんが「全員スーツで会場入りしろ」とか言い出したりさ（笑）。

——アハハハ！　リック・フレアーみたいに（笑）。

金原　試合すんのにさ、イヤじゃんそんなの。かたっくるしいさ（笑）。

——いやあ、宮戸さんは素晴らしいですね（笑）。

金原　それでオレが今回高山君のセコンド付くときもさ、Tシャツにサンダル履きで、首にタオル巻いてたらさ、「おまえ銭湯にでも行くのかよ！」って言われたよ（笑）。

——ワハハハ！　今になってもまだ言われましたか（笑）。

金原　「オレはこの日のためにジャージを新調してきたのに、お前は銭湯に行くカッコだな」って（笑）。懐かしかったよ。

——やっぱり宮戸さんみたいな人は必要ですよね。下の人間には目を光らせていて、表出たら高田さんを傷つけないで自分が全部悪者になってやっていましたからね。

金原　あういう組織づくりには欲しいよね。でもホント、宮戸さんの話で試合始まるまで笑ってたからね（笑）。

——試合後、高山さんとは話したんですか？

金原　ウン、喋ったよ。「負けてすいません」の一言だけだよね。その後検査しに行ったから。でも、高山君もオレと宮戸さんという先輩二人がセコンドだから、どやされて大変だったみたいだけどね（笑）。

——かなり檄入れたんですか？（笑）。

金原　うん。『PRIDE』の次の日に格通の取材でスネークピットに行く用事があって宮戸さんと話したら、高山君が宮戸さんに「いやあ、久しぶりに怖い金原さん見ましたよ」って言ってたらしいからね（笑）。

5・27『PRIDE・14』におけるプロレスラー同士のベストマッチ、藤田vs高山。そこで高山のセコンドにはUインター時代の先輩、金原と宮戸がついた。高山大善戦の陰には、前田道場とスネークピットでの特訓があったのだ。いまだ強いUインターの絆。これがリングスには欠けていたのか……。

でも逆にセコンドに先輩を付けるのいいかもしんないよね。松井（大二郎）なんてオレと高山君が付いたら、もう凄い力を発揮すると思うよ（笑）。

——その『PRIDE』ですけど、会場に行ったのは久しぶりですよね。

金原　久しぶりだよね。色々引き抜きとかあったから、会社側からすればあんまり付いて欲しくはないと思うんだけど、オレと高山君の個人的な付き合いがあるからね。

——会場のムードはいかがでしたか？

金原　いいよね。やっぱり民放で放映されると効果が大きいよね。だからうらやましいなって。

——大山（峻護）選手なんかも連日、スポーツニュースの格闘技コーナーとかで紹介されていただけあって、もの凄い歓声でしたもんね。

金原　そうだよね。オレなんかさ、10年やってんのに民放のテレビなんて全然出てないのにさあ（笑）。知名度なんてまだ2、3試合しかしてない選手に、あっという間に抜かれちゃうよね。オレは地道にさ、Uインターの前座から這い上がってさ、新日本と抗争して、チャンプア・ゲッソンリットとやって、キングダムで試合してさ、それでリングス来て、10年やってるけど全然知名度ないもんね（笑）。

——知る人ぞ知る存在ってやつですね（笑）。

金原　だってK—1の日本人の選手でもさ、見たこともない選手が、デビュー戦でいきなり土曜日の10時ぐらいの時間に出ちゃう訳でしょ⁉　それはもう10年やってるオレには信じられない（笑）。オレの試合なんか民放で放送されたことないからね。

——ありましたよ（笑）。

金原　ん？　新日本のとき（新日vsUインター対抗戦）あったかな？

——ありましたありました（笑）。その新日本の7・20札幌ドームにリングス辞めた成瀬さん出ますけど、こちらもいきなりジュニア王座挑戦が濃厚ですからね（笑）。

金原　でも新日本の選手は下地がしっかりしてるから、そんなに侮れないよ。多少蹴っても殴っても本当に効かねえなってのがあるからね。だからインパクトを残すのは大変だと思うよ。でもオレはそんな中でも相手に嫌がられてた方だからね（笑）。

——金原さんはUインターのスタイルでガンガン蹴りまくって、当たりがきつかったですもんね（笑）。

金原　あのころは新日の選手をとにかくいじめたっかったからね。〝S〟の金原だったから（笑）。いまさ、新日本の「ケンカマッチ」っていうDVDが出てて、〝S〟だった頃のオレの試合がたくさん入ってるから、自分で買っちゃったもんね（笑）。

——自分で買っちゃいましたか（笑）。

金原　買って自分で見てさ、「うわ～蹴り速いなぁ。なんでこんなに動けるだ。オレもオッサンになっちゃったな」って思ったけどね（笑）。

——新日に上がる成瀬さんになにかアドバイスはありますか？

金原　いや、そういうのはないよ。そういえば成瀬さんが辞めるときに「なんかいい技ないですか？」って聞いてきたけど、「自分で考えなさい」って言っておいたから（笑）。

——「ケンカマッチ」のDVDを見て研究しなさい、と（笑）。

金原　そうそう（笑）。でもね、今の新日ジュニアって、オレが大人になったからかもしれないけど、なんか見てて違うよね。

——いまでもテレビで見てるんですか？

金原　毎週見てるんだけどさ（笑）、昔のタイガーマスクvsダイナマイトキッドとか、

高田さんがチャンピオンだった頃と比べるとさ、なんかパッとしないんだよね。

——ファンとして言わせてもらえれば（笑）。

金原　そうそうそう。タイガーマスク時代からの新日ジュニアファンとして言わせてもらうとね（笑）。だから、そういった意味で成瀬さんみたいな違う血が入ることによってね、面白くなればいいなあって思うよね。

——それに成瀬さんが新日に上がる場合は「リングス」という名前が付きまといますからね。

金原　そうだね。だから何度も言うけどさ、格闘技やるにしてもプロレスやるにしても負けてもらいたくないよね。これは山本さんも同じ。

——では、これからのリングスについて伺いたいんですけど、金原さん的にはどうしていきたいというのはありますか？

金原　とにかくねえ、見に来てるお客さんが1人でも多くなってくれないと困っちゃうからさ。チケット買ってお客さんが入ってくれないと、ホントにオレ達終わっちゃう訳だからさ。なんとかそういうふうにしないと。外人選手にしてもせっかくいい選手揃ってると思うしさ。

——選手にしてみればやりがいもあるリングだと思うし、試合だって見れば絶対に面白いんですけどね。

金原　でもホントに窮地だよ。それでも前田さんは「大丈夫だ」って言ってるんでしょ？

——全然良くなるって言ってますけど（笑）。

金原　オレにはその読みがどこから来るのかわかんないよね（笑）。オレ自身は凄い危機感持ってるよ。やっぱり同じような過去があるからさあ。

——会社が2度潰れてますもんね（笑）。

金原　だから、まずみんな友達を増やしてほしいね。

——は？　なんで友達を増やすんですか？（笑）。

金原　リングスファンの人が会場に1人でも友達連れてきたらさ、最低倍に増えるわけでしょ。その友達がもう1人連れてくればまた倍だからね。そうなっていけばね（笑）。

——アハハハ！　昔、高田さんも新生UWFが旗揚げしたばっかりの頃言ってましたよ。最初後楽園でやって、これが友達2人連れてきたら今度は有明になるでしょ。それで3人連れてきたらドームになるでしょって（笑）。

金原　そうだね、そうだよ！　リングスファンはまず友達増やしてほしいなぁ（笑）。お客が増えて活気が出てきたら、またいろんな選手が上がりたいって来るだろうし。

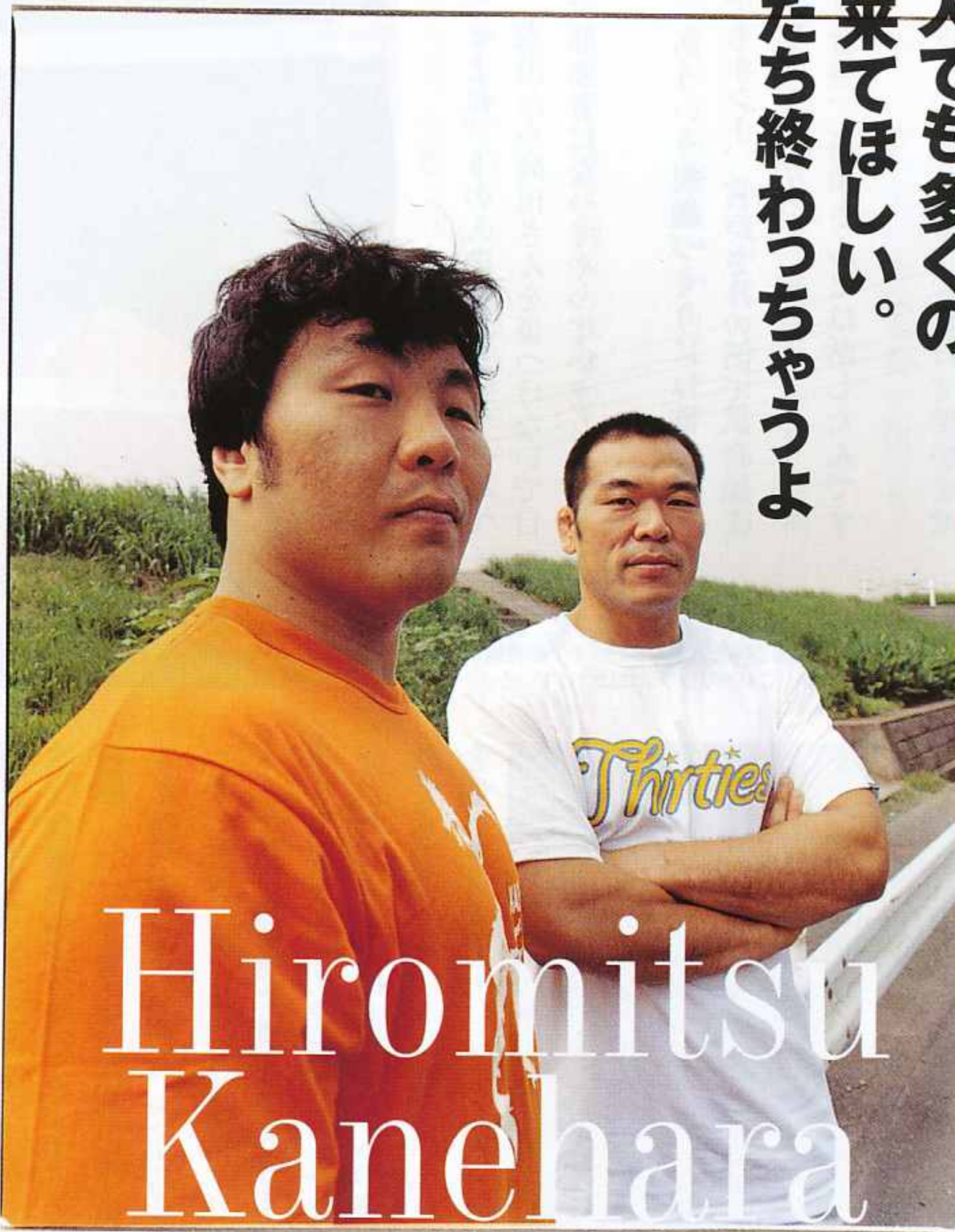
——客が増えればギャラも上がって、金原さんもウハウハと（笑）。

金原　いやあ〜、でも現役10年目にして一回ぐらいウハウハになりたいよね（笑）。まだ一回もないよ、ホントに。なんかオレが思い浮かべてた世界と違うよ！（笑）。

——アハハハハ！　華やかな世界とは違うと（笑）。

金原　そうそうそう。10年経ったらもうちょっといい思いしてもいいんじゃないかな

とにかく一人でも多くのお客さんに来てほしい。でないと俺たち終わっちゃうよ

Hiromitsu Kanehara

リングスがKOKルールに移行して以来、ヘビーとミドルの実質的なエース的存在であった金原とTKの「サーティーズ」。この実力者二人が残ったことはリングスにとって非常に大きい。"陰の実力者"から抜けだし、マット界のトップとなれ！

TK&和田レフェリーが語る、退団騒動

和田良覚

選手が退団して道場も人が少なくなって、やっぱり寂しいですね。特にジョーちゃん（山本憲尚）なんかとは、つき合いも濃かったから、余計に寂しいですよね。

でも、残った人間はホントに一生懸命やってますからね。滑川君なんかにしても、やる気になってるし。実際にキン（金原）と毎日スパーリングやってるから強くなってますしね。

それから新弟子二人も、8月のデビューが決まって一生懸命になってるし。伊藤は藤原ジムで練習して打撃が良くなってるし、横川は骨太で力が凄くてロシア人みたいだから期待できますよ（笑）。

あと、やっぱりキンですよね。いまサクが大スターになって。例えればサクが太陽でキンは月みたいな関係になってますけど、両方知ってるボクに言わせれば実力は一緒ですから。キングダムの頃、九州で二人の連戦を見たとき、レフェリーしててホント泣きましたからね。そんな試合は他にはないですよ。だからみんなでキンを盛り立ててやって下さい。ボクみたいな家庭持ってる人間は、リングスがコケたら、一緒にコケちゃいますから（苦笑）。

髙阪剛

風通しがよくなっていいんじゃないですか？

あって気がするんだけど、デビューしたときとあんまり変わらない気がするもんね（笑）。なんか変わったかなあって。何が変わったんだろう？

──試合の順番が後ろの方になったくらいですか（笑）。

金原　それぐらいかなあ（笑）。あんま変わらないんじゃないのかあ。ま、そう考えるやる気が無くなってくるんだけど。

──やっぱり最初にイメージしたのはいい車に乗って、デカイ家建てて、いい女連れて羽振りが良くてですか？（笑）。

金原　いいねえ～（笑）。喰いもんも毎日寿司焼き肉寿司焼き肉ってローテーションでね（笑）。

──メチャクチャ庶民的な夢ですね（笑）。

金原　これはUインターに入る前の話なんだけど、当時からオレさあ、天山選手と仲よかったじゃん。その頃の天山選手の一日のメニューがさ、朝が寿司、夜バイキングとかで。1週間毎日寿司、焼き肉、中華のローテーションなんだよ（笑）。

──へえ～（笑）。

金原　こいつは何モンだあって思ってさ。しかも自炊しないでそれが全部外食だからね。当時、せっせと自炊して身を立ててたオレとしては憧れの存在だったね（笑）。

──アハハハハ！　天山選手の食生活になるのが憧れですか（笑）。

──そのためにもこれから金原さん的には、リングスを引っぱっていくという気持ちはあるんですか？

金原　引っ張っていくっていうか、それしかないからね（笑）。頑張らなきゃいけないし、ケガも出来ないだろうし。暗い話ばっかりになっちゃうよ！

──最近はいい話ないですか。

金原　ないなぁ……。あ！　そういえば『紙プロ』のインタビューに載ったおかげで、パンツにスポンサーついたんだよ！

──え！　ホントに付いたんですか⁉（笑）。

金原　おかげさまで「ガル・インターナショナル」っていう探偵事務所がスポンサーに付いたんで、みんな奥さんや恋人の浮気調査とか人捜しの相談があったら、そこに依頼してください（笑）。

──探偵事務所ですか！　探偵事務所がスポンサーっていう選手もなかなかいないですよね（笑）。

金原　だからさ、リングスもいい選手を探偵事務所で探してもらった方がいいんじゃないかと思って（笑）。

──アハハハ！　まさに格闘探偵団ですね（笑）。

【01年6月11日／前田道場にて収録】

RINGS is DEAD?

ショートタイツ時代には、試合中「半ケツ」になってしまうことで有名だった金ちゃんのお尻。スパッツにしてから、本誌でスポンサーをしつこく募集してたか、それが遂に実現した！　そのスポンサーは探偵事務所！　これからも金ちゃんのお尻には注目だ。

6.15アローナ戦試合後、金原かく語りき

「プレッシャーで胃が痛かった。またケガ治して頑張ります。今日はごめんなさい。」

──試合を終えての率直な感想は。

金原　ちょっと様子見過ぎたっていうか、1ラウンド終わった時点で、アローナが凄いコンディション良かったんで、2ラウンドに攻勢かけようとかなと思ったんですよ。それで2ラウンドに入って自分が（グラウンドで）上になったんですけど、立ち技で勝負かけたかったんで、（ブレイクを待って）立ち上がろうかなと思った瞬間に足をパッととられ。それから膝がバキバキとなったんで一瞬の気の緩みですね。上になって自分の中でブレイクかけちゃったんで、その一瞬のスキで膝をとられました。

──実際、アローナ選手とKOKルールでやってみてどうでしたか？

金原　テクニックうんぬんじゃなくて、圧力はすばらしいものがありますね。最初はタックルに膝をあわせようと思ってたんですけど、いつもだったらタックルでつっこんで来るのに、向こうも凄い警戒してたんで。だから2ラウンドは作戦変更して蹴りからじゃなくてパンチから入って。だんだんむこうが疲れてきてるのがわかったんでグラウンドでいけるかなと思ったんですけどね。

──この大会前に、選手離脱があって、それがプレッシャーになったんじゃないですか？

金原　それはちょっとありますね（苦笑）。ここ数日間、胃が痛くてもう。最近ちょっと試合が連戦でトーナメントが続いてたんでちょっと疲れてますね。自分の中で「早く試合したい」という気持ちをなかなかつくれなかったんでちょっとプロとしてダメですね。

──セミで高阪選手も負けて、このトーナメント結局、日本人選手残れなかったわけですけど。負けた瞬間は、何か思いがあったりしましたか？

金原　そうですね、やっぱり、そういうのはありますね。

──いまリングスが危機と騒がれてますが、今後自分が立て直していこうっていう気持ちはありますか？

金原　いや、そりゃもちろんありますけど、なかなか体と気持ちがうまくバランスがとれないんで。なんかもう、気持ちの整理をつけるのが難しいですね。ゴタゴタが、やっぱり過去は、会社が2回つぶれてイヤな思いしてるんで、そういうことやっぱり、経験してるからこそ余計なんか、気持ちがいまいちなんか…うん。負ける相手じゃないんですけどね、なんかやってて、うん。負ける相手じゃないなってかんじがするんですけど。

──8月に「リングス10周年記念興行」があって、金原さんの出場もあると思うんですけど。

金原　そうですね、ふんばり所なんで、ケガを治して、気持ちの整理をつけて、また頑張りたいですけどね。

──最後にファンの方にメッセージ的にいただけますか？

金原　なんかつまんない試合したんで、ホント、申し訳ありませんでした。それだけです。

滑川康仁

［リングスジャパン］

RINGS is DEAD?

「正直、先輩たちにも負ける気がしないし、自分がミスターリングスになるつもりで頑張ります！」

山憲、成瀬、田村、坂田の離脱により、数少なくなったリングスジャパン勢として滑川に懸かる期待は大きい。本人もその辺は十分自覚しているようで「近い将来、KOKトーナメントで優勝するつもりなんで」という頼もしい発言まで飛び出した。6・15横浜大会での矢野倍達戦は自らのパンチで右手を骨折するというアクシデントに見舞われながら見事一本勝ち。滑川康仁の「俺がリングスだ！」宣言を聞け！

聞き手／チョロ　撮影／斉藤ユーリ
designed by hisa (Two Three)

――また凄い頭の色になりましたね（笑）。
滑川　リングスジャパンには今まで、こういうキャラクターはいなかったじゃないですか。それが大きいですね。前田さんに怒られるの覚悟で染めたんですけど（苦笑）。
――前田さんは金髪とか染めてる人はあまり好きじゃないって、よく言ってますからね。
滑川　それも頭にあったし、ボクは凄い心配性なんですよ。だから、ディファの試合の時、前田さんに挨拶しようと思って通路にいたんですけど、試合の時よりガッチガチに緊張しちゃって（苦笑）。試合前だから大丈夫だろうと思う反面、前田さんは試合前でも注意されるんじゃないかと思ったんですけど。
――それで、大丈夫だったんですか？
滑川　怒られなかったですね（笑）。逆に「カッコええやん！」って、この間、お会いした時に言って頂いたんですよ。
――それは良かったですね（笑）。それにしても滑川さん、3月の園田戦、4月の今村戦と2試合連続秒殺勝利で現在絶好調ですね。
滑川　（不満げに）いやぁ～、最近の試合は打撃系で寝技があまりない相手とだったんで、あまり触れられたくないッスね。それに、ボク自身のハードルは凄い高いところにあるんで、その話題は引っ張らないで下さいよ！
――わ、わかりました（笑）。
滑川　それにまだ自分は強いと思う人には1度も勝ったことがないんですよ。上山（龍紀）選手だって、ウイリー・ピータースにちゃんと勝ってますけど、自分にはそういうのはひとつもないんで、これからは強い人にドンドン挑戦していきたいですね。ハッキリ言ってリングに上がったら誰が相手でも勝てるって思ってるし。
――誰が相手でも勝てるって思ってますか！　やっぱり、そういった強気な発言が出てくるってことは、それだけ自信もあるんですね。
滑川　自分が強気なコメント出すときは自信があるときですよ。ボクは基本的に本音しか言わないんで（笑）。でもやっぱり、新

ハッキリ言ってリングに上がったら誰が相手でも勝てると思ってるんで！

Yasuhito Namekawa

弟子とかが入って反復（練習）とか出来るようになったのが大きいッスね。
――雑用からも解放されたわけだし（笑）。
滑川　そうそう（笑）。いまだったら正直、先輩にも負ける気なんかしないし……。
――先輩にも負ける気がしない！　さっきから頼もしい発言連発ですね（笑）。
滑川　（小声で）でも実際、金原さんとやったら寝技では自分の動きを全部読まれて先回りされちゃって動けないッスよ。
――そうなんですか（笑）。ディファの園田戦後も、成瀬さんか坂田さんとやりたいと言ってましたよね。
滑川　とりあえず、そのお二人には負けてるんで。やっぱ負けって恥じゃないですか？　逆に後輩のボクが勝って恥かかせてやる！っていう気持ちがあるし……（不安げに）そのぐらい言っていいッスよね？
――ドンドン言っちゃって下さい（笑）。でも、その成瀬さんをはじめ、山本さん、田村さんまで退団というかフリー宣言ということになってしまったわけですけど。
滑川　田村さんは、いろいろ面倒見てくれたし……違うんじゃないかと思ったこともあったんですけど（苦笑）、入門したときから、ずっと目をかけてくれてたんで凄いショックでしたね。
――違うんじゃないかと思ったこともあったけど、尊敬していたわけですね（笑）。
滑川　ボクは田村さんのことホント凄い尊敬してるんですよ！
――それは知ってますよ。『格通』の選手名鑑にも滑川さんの愛読書は『赤いパンツの頑固者』って書いてあったし（笑）。
滑川　あ、あれはただ、自分が写真に載ってたから書いただけなんですけど（苦笑）。
――それだけのことだったんですか（笑）。
滑川　でもやっぱり、プロの格闘家としてはリング上が全てじゃないですか。リング上の田村さんはホント大好きだし、尊敬してますし、最初の山本対田村戦の時なんてもう泣きそうになりましたからね。
――へぇ～、それは初耳ですね。
滑川　ボクは当時、22年間とか生きてて、こんな強い人いるのかって、あの試合を見て思いましたから。その頃は、成瀬さん、

なめかわ・やすひと■昭和49年10月27日、茨城県北茨木市出身。高校時代は3年間ラグビー部で活躍。20歳の時にアニマル浜口ジムで約1年間のトレーニングを積み、96年前田道場へ入門。98年6月、高田道場の豊永稔でデビュー。その後、ロシア、イギリス、オーストラリア、グルジア、オランダなど世界各国で試合経験を積み着実に力を付けている。今年は3連勝と絶好調の滑川。キャッチフレーズは"リングスの破壊工作員"。181cm、89kg

山本さん、あと長井さんもいたじゃないですか。その状況の中をたった1人でUインターのジャージを着て来るなんて凄いなと思いましたもん。それで、あのフィニッシュですからね。

——飛び付き十字ですよね。

滑川　あと、ヘンゾ戦でUのテーマ曲で入場してきたときも鳥肌立ちましたよ。

——ほとんどファン状態ですね（笑）。

滑川　ボクもあるんですけど、田村さんのUWFへの思い入れはホント凄いなって思いますね。それにウチの先輩とかは元々ファンじゃない人ばっかりなんで。

——山本さんも成瀬さんも、プロレスとかはあまり見てなかったみたいですからね。

滑川　ボクはよく「お前はファンか?」って言われてたんですけど、リングスには、そういうプロレスファン出身の人はあんまりいないじゃないですか? 高阪さんも「Uは知らない」とか言ってましたし。ボクは最初のUWFの時から見てるんで思い入れが強いんですよ。なかでもUインターは好きでしたよ。

——そういう意味でもUに思い入れがある田村さんが抜けたのは、滑川さんにとってかなりショックだったわけですね。

滑川　そうですね。やっぱ、田村さんとはリングスのリングで闘いたかったんですよ。凄い大きいこと言わせてもらえば、田村さんが"U"っていう文字にこだわりがあるなら、ボクは"R"って文字に凄いこだわりがあるんで!（キッパリ）。

——リングスのRですね。

滑川　そうです。UとRの闘いですよ。

——いつの日か必ず実現させましょう!

滑川　お、お願いします!

——ボクに言わないで下さいよ（笑）。で、Rにこだわりがある滑川さんに、この間、話を聞いて面白いと思ったのが「ボクにはインターの血も入ってると思ってるんで」っていう発言なんですけど。

滑川　血が入ってるんですよ、自分には。

——具体的にはどういうことなんですか?

滑川　和田（良覚）さんに言われてるもん。「お前にはインターの血が入ってる!」って。凄い名誉なことじゃないですか?

——確かに名誉なんでしょうけど、どういった意味で言ってるんですかね?

滑川　自分は技術的な面は、金原さんに教えていただいてるんですけど、田村さんにも教えていただいたし、あとヤマケン（山本喧一）さんの技術もいただきましたから。

——滑川さんにはヤマケンさんの技術も入ってるんですか。

滑川　ボクはヤマケンさんにも凄い感謝してるんですよ。チャンコのレシピをノートいっぱい書いてくれたんですよ。それもボクが書いてたら途中で頭がおかしくなって破りたくなるぐらいいっぱいの量なんですよ（苦笑）。あの人は下積みが長かったみたいで、辛さがわかるってよく言って下さったし。UFC—Jの時はガッカリしたんですけど、ボクはヤマケンさんに感謝してるんですよ。

——Uインターの血が入ってるのは、よく分かりました（笑）。でも、前田道場では田村さんよりも、山本さん、成瀬さんと一緒に練習することが多かったと思うんですけど、2人の離脱についてはどういう感想を持ってるんですか?

滑川　最初聞いたときはビックリしましたよ。それこそ、あのお二人はミスターリングスだったわけじゃないですか。

——Rを背負ってた人達ですからね。

滑川　そうですよね。だから一時的に抜けるのかなと思ったんだけど、話を聞いてみたら、お二人の気持ちは凄い強いっていうのがわかったんで。ボクは道場で山本さんから「退団したから」って聞いて、「戻って来ないんですか?」ということをしつこく言っちゃったんですよ。

田村さんが"U"なら、ボクは"R"って文字に凄いこだわりがあるんで!

Yasuhito Namekawa

——いつか戻ってきて欲しかったと?

滑川　そうです。でも辞めた後のインタビューとか見ると、リングスを背負って外から盛り上げるって話をされてたし、二度とリングスに上がらないってことはないみたいなんで、やっぱり離れても仲間なんだなって思いましたね……仲間って言ったら失礼なのかもしれないですけど（苦笑）。

——成瀬さんが道場に来たときは「いつかボクと闘って下さい!」って対戦を直訴したみたいですね。

滑川　はい。でも、「そんなに俺の首が欲しいのか」って言われましたけど（笑）。

——それで、なんて答えたんですか?

滑川　「そうです」とは言えないんで「いえいえ」って（苦笑）。でもリングに上がったら先輩も後輩も関係ないんで、山本さんもそうですけど、いつになるかわからないけど必ず闘ってもらおうと思ってます。

——でも闘いたいと思ってた先輩が一気に抜けちゃったわけですから、ショックはデカいんでしょうね。

滑川　いやっ、ボクはそんなにショックは受けてないッスよ。むしろ目立つチャンスだと思って前向きに捉えてるんで。それに、いま前田道場は金原さん中心に凄くまとまってるし、こんなことボクが言っていいかわかんないですけど、他の人もドンドンその輪の中に入って欲しいんですよ。リングスに入るとかじゃなくて、フリーの人にも道場を開放したいですね。

——でも前田道場には桜庭さんもたまに

目指せカリスマ! Paint in white 滑川康仁を"白く塗れ!"

こんなところ、写真に撮らせて試合に負けたら表歩けないッスよ!（by 滑川）

撮影場所は滑川御用達の美容院『MINX』。プライベートでも親交があるという原宿店店長の秋さん（右）と荒武者Tシャツのスタッフ（左）と。

「こんなふざけた写真撮らして試合に負けたら実家に帰るしかないよぉ（苦笑）」と滑川。ちなみに滑川のホワイトヘアーの所要時間は5時間!

見てみぃ、この店内!「広くて・綺麗で・上手い」と三拍子揃ったカリスマ美容院『MINX』。カッチョイイ美容師&カワイイ美容師、さらにはプロレス好きの美容師までイッパイの『MINX』。『紙プロ』読者も行けばわかるさ!【MINX】03-3470-3301

顔を出すみたいだし、この間の『PRIDE』前は高山さんも来てたっていうし、環境的には凄く恵まれてますよね。

滑川　恵まれてますよ。でも桜庭さんは凄いッスよ。そんな来ないんですけど（笑）、ボクは桜庭さんと金原さんには全然勝てる気がしないんですよ（キッパリ）。スゴ過ぎますもん、あのお二人は！

――勝てる気がしない（笑）。「滑川は道場での力が本番で出てない」って金原さんとかよく言ってますけど、最近はうまく出せてきてるんじゃないですか？

滑川　いやぁ、まだまだ出し切れてないッスね。でもこれからドンドン出していきますよ。やっぱり、格下の相手に勝ってガッツポーズしたって空しいだけなんで、いまは負けてもかまわないから上の選手とガンガンやらせて欲しいんですよ。

――前田さんが引退して、長井さん、山本さん、成瀬さんも抜けたいま、リングス、そして、前田道場生え抜きの滑川さんに懸かる期待は大きいですからね。

滑川　そうッスよね。駒もいないし（苦笑）。でもホントに、ボクがミスターリングスになるつもりで頑張っていきますよ！

――ミスターリングス宣言ですか！

滑川　まあ、いずれですけどね（苦笑）。

――いずれって言っても、年齢的には、いつまでも若手じゃいられないですよ（笑）。

滑川　年齢っていっても、ボクは成長遅いんですよ。下の毛が生えたのも遅いし（笑）。

――アハハハ！

でも外国人選手のトップどころは22～3とか多いですからね。滑川さんも、いつまでも若造にデカイ顔させてられないでしょう（笑）。

滑川　そう言わしたいなら、「うん」って言っときますよ（笑）。（唐突に）『ガチンコ』って番組ありますよね。あれの漫才のヤツ見てたんですけど、漫才師って笑いとる仕事なんで、表面的にはふざけた感じがするじゃないですか？　でも裏側は凄いシビアなんですよ。

――お笑いの世界も厳しいですからね。

滑川　そうですよね。それでトップになるためには漫才のことを24時間考えなきゃダメだって言ってたんですよ。それ聞いて自分も目が覚めましたね。

――お笑いに目覚めたんですか（笑）。

滑川　（ムキになって）ち、違いますよ！あれを見てから、自分も格闘技のことを24時間考えようって思って……寝てる時は無理ですけど（笑）。

――それは無理ですよね（笑）。

滑川　自分も24時間考えるくらいになって、もっと強くなりますから。ボクは近い将来KOKのトーナメントで優勝するつもりでいるんで。

――KOKで優勝ですか！　それぐらいの高いハードルを設定してるわけですね？

滑川　はい。これは言っておきたいんですけど、『紙プロ』さんっていうかチョロさんには、自分が全然何もない時から取り上げてもらって凄く感謝してるんですよ。いつかKOKで優勝して賞金もらったら、チョロさんの借金、全部返してやりますよ！

――ホ、ホントですか！　これまで以上に滑川さんを応援しますよ！

滑川　やっぱり、ボクが全部返すんじゃなくて、立て替えるという形で少しずつチョロさんから取り立てようかな（笑）。

【6月11日／東京・原宿「シズラー」にて収録】

RINGS is DEAD?

6・15絶好調男・滑川、矢野に激勝するも、試合中に右手を骨折!!

「根性だけで勝ちました。残ったボクが先輩たちの分まで頑張ります！」

6・15横浜大会、日本人選手で唯一勝利をあげた滑川。開始早々の右フックで対戦相手ばかりか自らの右手まで破壊してしまった。矢野のスリーパーを根性ではねのけると、2Rのゴングとともに放った左ハイからのネックロックで勝利。前田社長とガッチリ握手、その後、右手を押さえリング上でうずくまってしまった滑川は、治療後コメントルームに現れた。

滑川　最初に下に潜る感じでロングフックがいい感じであたって、その1発で（右手を）複雑骨折してしまいました。それからもうきつくなって、右腕が全く使えないから、どうしようかなと思って。途中で気持ちが折れそうになったんですけど、根性でなんとかやり遂げることが出来ました。たたき上げで育ったボクなんで、根性論だけで勝てました（苦笑）。最初、パンチが当たった瞬間にグシャッて音がしたんで、それから脇さされた時もパンチとか全然いけなくて、どうしようかなと（苦笑）。

――1ラウンド終わった時点で、やめようとは？

滑川　とりあえず、自分のハートは弱いんですけど、もともと自分自身のハードルはメチャメチャ高いところにあるんで、1ラウンドが終わった時はやめようとかは全然思わなかったですね。

――最後のフィニッシュは狙ってました？

滑川　いや、あれは、たまたまスポッと入ったんですけど、相手も抵抗して、もうヤバイと思ったんで、ここで極めようと思って全部力を使って絞めました。それで終わって、前田さんに報告して、安心したら、急に痛みがバーッて突然きまして、それでなんとか起こしてもらって、まだ痛いんですけど、痛みには結構慣れてるんで前田さんとは話ができました。これから闘ってみたいのはデイヴ・メネーですね。メネーとはハワイ大会であたる予定だったんですけど流れちゃったんでやってみたいです。

――今日の勝利で、田村さん、山本さん、成瀬さんとかに何か言いたいこととかありますか？

滑川　自分は頑張りました。先輩たちも絶対にリングスが好きだったと思うんで、残ったボクが先輩たちの分まで頑張ります！

こう力強く宣言して会場をあとにし病院へ直行した滑川。その結果、右第3・4中手骨々折と診断され、全治3ヶ月を余儀なくされた滑川。Rにこだわりを持つ滑川が出場を望んでいた8月のリングス旗揚げ10周年興行への参戦は難しいだろう。「全治3ヶ月って言われたけど、オレはプロの格闘家なん1ヶ月とかで治してやりますよ！」とやる気を漲らせていた滑川。そのままの勢いで突っ走れッ！

試合開始3秒、自身の右フックの威力で右手を骨折してしまったが、リングス魂で勝利を掴み取り、前田社長から「今日の大会の中で一番意地があった」との最大級の評価を受けた滑川。

RINGS is DEAD?

「女子便所説教事件」から6年——
いまだに前田の周りには様々な事件が勃発！

前田は変わってないのか
それとも変わり果てたのか？

紙のプロレス
WANIMAGAZINE MOOK
世の中とプロレスする前田
12
1995
「女子便所説教事件」勃発!!
よくやった、前田!!
●特集 色気とは何か？

緊急特別雑談会

座談会出席者
谷川貞治（SRS・DX編集長）
柳沢忠之（SRS・DX発行人）
山口日昇（『紙プロ』編集長）
吉田豪（『紙プロ』スーパーバイザー）

前田日明さんへ 愛を込めて2001

Dear Akira Maeda with love.

山口　さ、今日は『SRS・DX』の重鎮お二人を迎えて……。

【タイミング悪くサダハルンバの携帯が鳴る】

一同　あ～あ。

谷川　（電話に出て）あ、showちゃん？　あとでかけ直すよ。はいはい～。

山口　なんだよ、showか。その場にいなくても間を壊すヤツだなぁ。さ、というわけで、『SRS・DX』の重鎮お二人を迎えて……。

【今度は山口の携帯が鳴る】

一同　あ～あ。

山口　……showだよ。（電話に出て）うるさいよ！　いまサダハルンバと一緒！（ガチャリ）……というわけで、今日のテーマは「前田日明は是か非か」です。非常にボクらとしては喋りにくいテーマなんで、リングスから取材拒否を受けてる『SRS・DX』のお二人にいろいろ喋ってもらおうという卑怯な手を使います（笑）。

谷川　んあ～、リングスもうすぐ1周年興行だよね、どうなるんだろうねぇ（真顔で）。

一同　い、1周年⁉（笑）。

山口　去年旗揚げしたんだ、リングス（笑）。

谷川　あ、10周年10周年。

山口　で、前田日明は最近身辺にいろいろあったじゃない。退団者が大量に出たり、暴行疑惑や結婚疑惑があったりと。

柳沢　……いや、今日はホンットに喋りたくないなぁ。カケラも喋りたくない！

谷川　ボクが前田さんに言いたいのはさ、なんで取材拒否するんだってこと！

山口　そんなの直接聞けよ！（笑）。

谷川　だってさ、直接聞こうと思ったら「忙しくてそれどころじゃありません」とか、去年Uさんに言われちゃったからさぁ。ボクなんか、味方にしたら絶対に得な男だよ、ホントに。親身になってご相談に乗るのにさぁ。それで、ボクは前田に対して1回も悪意を持ったことないもんね。悪いこと言ったこともないし。

山口　それなのに取材拒否を受けるのは「非」だと。

谷川　「非」っていうかヒドイよ！

山口　ダハハ。サダハルンバは、去年のいま頃まではリングス行ってたでしょ。

谷川　うん。思い出した！　最後に話したのは男子トイレだよお。武道館のトイレに入ったら前田が入ってきて、ボクの隣で用を足してたから、「あ、前田さん、すいませんでした」って用を足しながら謝ったんだよ。

豪　とりあえず謝ったわけですね（笑）。

版型が小さい頃の「紙のプロレス」12号で掲載された、緊急座談会「前田日明さんへ愛を込めて」。96年当時、『フルコンタクト空手』誌、山田編集長に対する、通称「女子便所説教事件」を受けて、『格通』編集長時代のサダハルンバ、『紙プロ』発行人時代の柳沢忠之と山口昇（当時）が、「よくやった、前田！」と褒め称えた問題作。今回はそのときのメンバー、プラス吉田豪で、いま再び前田日明を語る！

谷川　前田さんに断らずにアイブルの取材しちゃったんですよ。それはKOKを煽るためにしたんですけど、「あの件はすいませんでした」って言ったら、「いいよ、いいよ」みたいな感じだったんですけどねぇ、あのときは。その昔なんか、ボク前田の家に行ったことあるんだよ！　それぐらい仲よかったのにぃ。

山口　最近の前田日明は見ててどう？

谷川　最近は……もったいないと思うなぁ。でも誰か助けてくれるでしょ。

豪　それが谷川さんかもしれない？

谷川　ボクかもしれないけど、あの人は誰かが助けてくれると思いますよ。ボクが助けられることといったら、マイケル・マクドナルドを貸すことぐらいですけど。

一同　ガハハハ！

山口　社長（柳沢忠之のアダ名）は最近の前田日明については？

柳沢　いや、あんまり見てないんで（小声で）。

豪　なんでそんなに話そうとしないんですか？

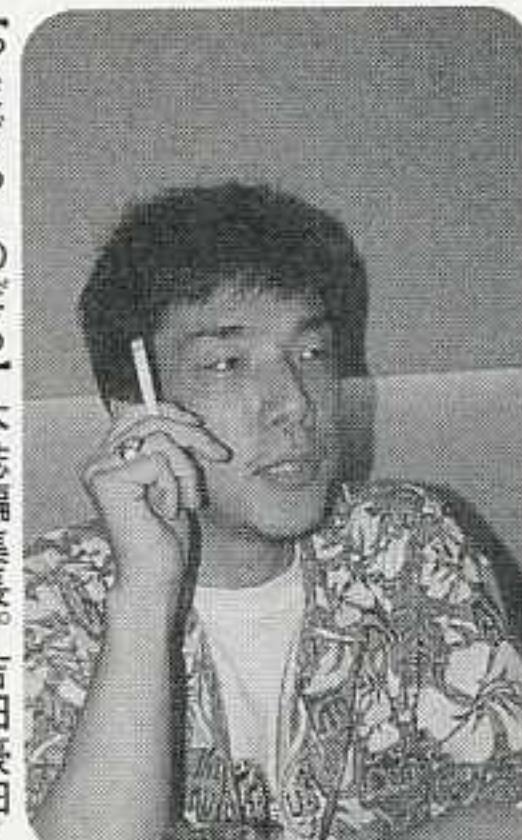
柳沢　ああ～、ホンットに話すの嫌だ！　だって、なにを話すんだよ。

谷川　ボクは話すよ。ボクは好きなのに、前田日明を卑下したことなんか一度もないのに、なんでこんなに嫌われるのか、理由がわかんないですよ！

豪　社長も、もともと前田のビデオ（『前田日明とは何か？』）作るほど好きだったわけですよね。

柳沢　いまも好きなんだよ！　でも語りたくはないね。全てが裏目、裏目に出るような気がして（笑）。

雑談会出席者

【たにかわ・さだはる】別名・サダハルンバ谷川。『SRS―DX』編集長＆日本一の格闘技評論家＆「前田日明とのマスコミ懇親会を実現させる会」理事長。その不的確な技術評論と、天然素材100％のボケは、他の追随を絶対に許さない。もうすぐ40歳。

【やまぐち・のぼる】本誌編集長。吉田豪曰く「山口日昇と退社したスモーノブの関係は、まるで前田日明とヤマノリの関係に見える」。入稿中にあんぱんと一緒に消しゴムを食べるという、幼稚園児よりも劣る判断能力で、よく経営者＆編集長が務まるものだ

【よしだ・ごう】本誌スーパーバイザー。相変わらず、多忙な日々＆本誌大女・ジャイ子に求愛される日々を送る。先日、エンタ―ブレインから濃縮2万字インタビュー集『男気万字固め』を上梓。この本を読んで、あの浅野忠信が感動のあまり失禁したという（嘘）

一番右が、相変わらず、ヌードを撮られた人妻のように顔出しを嫌がる『SRS-DX』発行人・柳沢忠之（やなぎさわ・ただゆき）。吉田豪とShowが入れ替わるが、このメンツで『SRS-DX』でも座談会を行っている。んあ～

山口 でも、谷川さんとか社長個人のことは嫌ってないと思うよ。

谷川 『PRIDE』が嫌いなんでしょ?

山口 簡単に言うとそうでしょ。2人を『PRIDE』の一味と捉えてるんでしょ。

谷川 ボクは『PRIDE』が出る前は「K―1野郎」って言われたからね。田村が無差別級トーナメントで優勝したときだったんですけど、控室で田村に「おめでとう、強かったね」って言ったら「ホントにそんなふうに思ってるんですか?」とか田村にも言われて。も、もう八方塞がりですよ!

一同 ガハハハ!

山口 普段から心のない発言をしてるからだよ。サダハルンバの発言は全てが上の空だからなぁ（笑）。

谷川 あ、でも、前田日明に関しては ね、是か非かっていうと、全然「非」じゃないんですけど、ボクらは反省しなきゃいけないですよ。ほら、『紙プロ』（ちっちゃい頃のNo12）で「女子便所説教事件」のときに前田日明を誉めた、あれはいまから考えると罪ですね。

山口 「よくやった、前田」ってやったやつ（笑）。そういえば、豪ちゃんを抜かしたこの3人だったよね、座談会やったの。

谷川 あれで前田はかなり自信持ったと思うよ。

豪 「これでええんや」って（笑）。

谷川 だからね、ボクは凄く責任を感じてます。

山口 それは建設的な意見ですね。

豪 社長もそう思ってるんですか?

柳沢 そういうことがあるから喋りたくないんだよ。

一同 ガハハハ!

谷川 そこはポイントだと思うよ、前田にとってもボクらにとっても。

柳沢 誉めても地獄、けなしても地獄だよ（笑）。

谷川 あのときはホントに前田日明は正しいと思ったし、いまでもそう思ってるんだけどね。でも、あれで前田が自信を持ったことに関してはね、ちょっと悪かったなと思ってますね。

豪 広い意味で「こういうことはアリなんだな」って確信しちゃったっていう。

山口 でも、あれは、"あのときのもの" だからさ。

谷川 でも前田は "あのときのもの" と思ってないよ。

山口 周囲が変化してるんだから、それに対応してくれれば、芯の部分は変わらなくてもいいんだよね、あのときのままでも。

谷川 『格闘パンチ』っていう雑誌でさ、百瀬（博教）さんと前田の対談やったんですよ。あそこで百瀬さんがね、「前田日明は頭を下げれば億万長者になれる」って言ってたんだけど、ボクはホントにそう思いましたね。

豪 それは非常に共感できるんですよ。

谷川 前田日明が頭下げたらね、いまごろ格闘技界は前田のものだと思うね。

山口 前田日明って役割に過剰に従順なとこがあるでしょ? たとえばエースになったらエースの役割をまっとうすることに全力を注ぐ。団体を興したら、団体の長として、やらなきゃいけないことをやりすぎちゃうとか。チケットを売り歩くためにスポンサー周りの力仕事にエネルギー奪われて道場に行けなくなって、それが船木や鈴木と袂を分かつ遠因になったとかあるじゃない。「俺がやらなきゃ誰がやる!」っていうのが強すぎるでしょ。で、最近の前田日明は "社長" っていう役割に従順すぎるっていう気がするんだよね。社長といえば葉巻を吸ってヒゲを生やしてっていうところから（笑）。

豪 だから社長らしく、恰幅もよくなったわけですか（笑）。

柳沢 あれは社長像なのか（笑）。

谷川 じゃあ前田日明を営業マンかなんかにしたら全然変わるの?

山口 営業マンになったら、過激な営業マンを過剰にこなそうとするでしょう（笑）。ただ、いまは前田の思い描いてる社長像とか経営者像が、どこかネジ曲がった形で出ちゃってる気はするんだよね。そんな細かいとこまで前田日明が見ることないのにとか、社員や選手に対してはなに言ってもいいっていう感覚のズレがでちゃったりとか。それは俺は感じる。

豪 そこに山本小鉄イズムも混ざって、とりあえず殴らなきゃわかんないってなっちゃってるというか。

山口 社長は最近の前田を見て孤立してるって感じる?

柳沢 孤立はあんまり感じないね。

山口 まだ目に見えない仲間がいるって感じ?

柳沢 でも、昔はいたの?（笑）。

山口 要するに、いまに始まったことじゃない、と（笑）。

柳沢 そういうイメージだけどね。

谷川 前田日明がね、いま一番やんなきゃいけないことはさ、マスコミ懇親会とかだと思うんだけどね。

豪 は? 懇親会はともかく、マスコミを次々と敵に回すのはホントに損ですよね。

谷川 一番損だと思うなぁ。前田日明が「プロレス、格闘技の記者集まれ。俺と飯食おう!」って言って、バカな話の一つでもしてさ、スケベな話でもしたら、みんな味方に回ると思うけどね。

豪 一社ぐらい敵にするんだったらいいけど、あまりにも敵を増やしすぎちゃったっていうのは問題だと思うんですよね。

谷川 そこは唯一直した方がいいと思う。

豪 取材してて思ったのが、たまに人のことを凄く誉めるんですよ。パンクラスの選手を誉めたことがあって、こっちはいい話だと思って書くじゃないですか。それを前田日明は削るんですよ。「なんであれを削るんですか?」って言ったら、「ああいうのはね、自分で言っちゃいけないんだよ。誉めてるってことが周りから伝わっていかないと」って（笑）。そういうのは直した方がいいと思うんですけどね。

山口 「女子便所説教事件」のときは誉めたけど、最近の前田日明は暴行疑惑とか、出てくるスキャンダルがチンケじゃない。それについてはどう思う?

柳沢 ……全部いいよ!

一同 ガハハハ!

柳沢 全部同じ。全く同じライン。見る側の目が変わったんじゃないの? それを「チンケだ」って見てるっていうのがさ。だって女子便所がチンケじゃないのかって話じゃん（笑）。

豪 あの時点からチンケだったわけですね。

柳沢 それをチンケって判断すればね。

豪 そもそも、相手が『フルコン』の山田編集長だったわけですからね（笑）。

山口 でも、現役じゃないし。現役のころは、守るべきものが俺らにもハッキリ見えたからいいけど、いまは前田日明の波動砲の矛先が内へ内へと向かってるイメージがあって、な〜んかそこはチンケに見えちゃうでしょ。

柳沢 うん。それはそうだけど。

豪 単純にあの頃の前田の顔は、ビジュアル的に爽やかで、悪の匂いがしなかったじゃないですか。それが、いまは誰が見ても悪の匂いが漂う顔になっちゃったっていうのが悪かったんじゃないかなっていう。

柳沢 俺は全然変わってないと思うけどね。

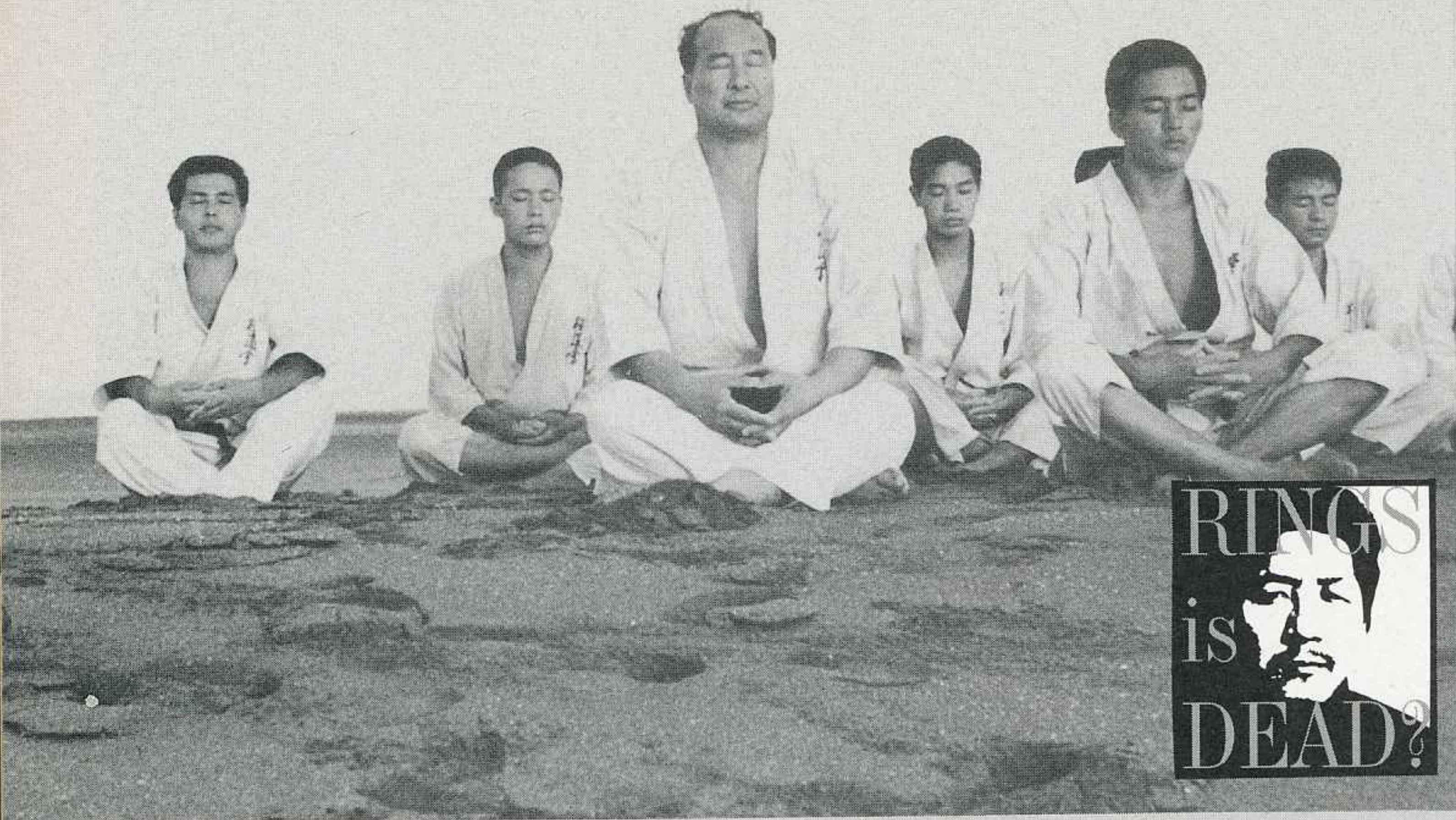
豪 本質的には変わってないと思うんですよ。ただ、イメージの問題で。

山口 こないだ前田にインタビューし

前田はまだまだ伸びるよ〜

稲庭うどんをすする、ファスティング成功者・サダハルンバ。先日、K―1の仕事でオーストラリアに行ったとき、長谷川京子らとピンポンパンゲームをやって、紹興酒一本空けて酔っぱらったという格闘技マスコミーの果報者

前田日明は猪木さんにもなれるし 大山倍達にもなれるのになぁ（谷川）

RINGS is DEAD?

たら「変わらないことが俺の哲学」って言ってたよ。

柳沢 うん。だから「変わらずにいてください」としか言いようがないよ（笑）。

一同 ガハハハ！

谷川 んあ〜。でも、ボクは変わった方がいいと思うよぉ。

柳沢 みんなが前田になにを求めてるかってことだよ。俺は女子便所事件のときにそういう前田を求めてたから「偉い！」ってやったわけじゃん。いまは自分でそういうふうに思えない反面、いろんな出来事を聞けば「そういう前田でよかった」って気持ちもあるわけ。だけど違う前田も求めてるの。たとえばリングスであったり、名実で言えば「実」も取ってほしいなと。そういう立場になってるんだから。そしたら実を取るためにはどうしたらいいかって方法論が出てくるでしょ。いまはその方面からも前田を見たいから、そっちの部分では変わらないことは損でしょ。

山口 ビジネスとしての部分ね。

柳沢 周りのファンが実の方ばっかり求めてるんでしょ。だからそういう角度から見たら変わった方がいいよって話でしょ。

豪 そこの部分はってことですよね。人間的に変わる必要は一切ないと。

柳沢 変わりようがないでしょ。

山口 芯の部分が変わったら前田日明じゃないからね。

柳沢 でも「自分を変えてまで実を取りたくない」って言うんだったら、それはそれでいいし。

豪 本人にも言ったんですけど、ホントに良くも悪くも力道山だと思うんですよ。あそこまで力道山イズムを受け継いだ人はいないくらい。ただ力道山は死んだから伝説になっただけじゃなくて、当時はスキャンダルってそんなに報道されなかったわけじゃないですか、マスコミを押さえてたから。だから、ボクなんかは幻想があった上で、あとから裏の情報を知っていくからOKだったけど。

山口 前田は、カレリン戦が終わってヨットレースに出て、太平洋の真ん中で沈んでくれればよかったんだよね。いま頃、伝説どころかスーパーヒーローだよ。あ、これは妄想の話だからね（笑）。

谷川 ボクは変わった方がいいと思うよ。人を見る目がね、もうちょっと人をキチンと見た方がいいですよね。

豪 昔っから信じちゃいけない人ばっか信じちゃうタイプなんでしょう。

谷川 それで、なんでボクを信じてくれないのかなぁ？

山口 結局、「ボク」の話？（笑）。

谷川 もっとボクを信用してくれればっていうか、もうちょっと人を見定めて付き合ってれば全〜然違いますよ。いまだったらマスコミ懇親会を開いたりして。

柳沢 だから、マスコミ懇親会開いてどうすんの？（笑）。

谷川 「みんな、リングスをよろしくね」って言って。

一同 ダーッハッハッハ。

豪 そこで暴れたりしたら面白いですけどね（笑）。

柳沢 俺もマスコミ呼んで暴れるのかと思ったよ（笑）。「お前ら、ええ加減にせいや！」って。

谷川 だけどさ、なんであんなにマスコミを嫌うのか、理由がわからないよなぁ。でももったいないよなぁ。前田日明はなんにでもなれるのになぁ。大山倍達みたいにもなれるし、いまの猪木さんみたいにもなれるし。

豪 変わらないでいいんですけど、許し切る心は持ってほしいっていうのはありますよね。それがあればだいぶ変わるのになぁ。「いろんな人と和解してください」って会うたびに言ってるんですけど、全然ダメですね。

山口 和解しなくていいと思うんだけど、たとえば『PRIDE』ってものに対しても、前田日明プロデュースでパッとカードを提供して盛り上がれる時期はあったわけでしょ。

豪 そういう歩み寄りの部分ですよね。

山口 歩み寄りというか、攻めて行く前田日明が見たいっていうかね。

柳沢 根本的にみんなは前田になにを求めてんの？　ここで「前田日明のこが悪い！」って指摘したら、共感はされるよね。共感されるってことは、みんなそう思ってんでしょ？

山口 まぁ、その共感は一般的なレベルだよね。社長業についてる人がこういう問題を起こしちゃいけないとか。それこそ非常にチンケな一般的なレベルの更正のさせ方を望んでるんでしょ。でも、前田がその器に収まったら、逆に格闘技界にとっても損失のような気がするなぁ。でもいまの前田を見てると、リングスの社長としては一所懸命やってるし、前田個人に対してはなんにも文句はないけど、格闘技というものに対しての情熱みたいなものは、あまりにも投げやりだと感じることはあるね。

柳沢 前田自身がなにを求められてるのかわかんなくなってきてんじゃないの？

谷川 だから、頭を下げる前田日明を求めてんじゃないの？

柳沢 頭下げてどうなればいいの？

谷川 「おはよう」っていうような。

一同 んあ〜！（笑）。

山口 いまでも挨拶はするよ（笑）。

谷川 そういうんじゃなくて、前田日明のほうから可愛らしいところを見せるっていうか。

柳沢 でもさ、ファンはそういうとこ見たいの？

豪 それはそれで見たいと思いますよ。いま、そういう部分が見えなくなってるっていうのも大きいと思うんですよ。どのインタビューも悪口ばっかりってイメージで。

柳沢 前はそういう部分が見えたの？

豪 猪木さんに対しても批判しながらも愛が見えたりとか、プロレスに対し

Dear Akira Mae

96年、「紙のプロレス」ダミー編集長、原タコヤキ君を相手に、嬉しそうに「女子便所事件」を再現する日明兄さん。

てもそうだし。最近は全面的に噛みつくことが多くて、認めるものが少なくなってるからじゃないですか。
山口　噛みつくことが前田日明っていう、自分をキャラクター化しちゃってる部分があるのかなぁ。以前の前田は、それをやるにしても自然だったような気がするんだよね。俺は"自然"を見るように前田を見てるから、そりゃあ地震も起きるし雷も落ちるし、津波も起こる。"自然"なんだから当たり前って感じだったんだけど、さっきも言ったように、いまはヘンに社長業という役割に対して、過剰に従順なんだよね。別に社長業なんてどうだっていいのに、前田日明なんだから（笑）。
谷川　猪木さんの引退のときかなぁ？東京ドームで前田と髙田が隣で見てたんだけど、マスコミがいないときはあの2人は兄弟みたいな関係だけど、マスコミの前だと急に前田日明を演じるんだって。髙田が「あの豹変はビックリした」って言ってたんだよね。
豪　本人に聞くと「俺は24時間前田日明だ」とか言うんですけどね。
谷川　ボクはね、いまは可愛げのある前田日明を出した方がいいと思うけどなぁ。だってさ、その他に前田日明らしさを貫く方法ってさ、それこそマスコミの人たちと懇親会をやった方がいいとかでしょう。
豪　懇親会にこだわりますねぇ。
柳沢　もはや、うわごとだよ（笑）。
一同　ガハハハ！
柳沢　だから、これは「是か非か」って次元じゃなくて、前田日明の理想像を考えた方がいいんじゃないの？
山口　じゃ、社長はどういう理想像があるの？
柳沢　……言えない（笑）。
山口　言えない理想像（笑）。
谷川　でも、いまのままだと、ホント野垂れ死にするよね。それもカッコいいけど、もうやることないんじゃないの？
山口　あのさ、老後を語ってるわけじゃないんだから（笑）。でも、前田って俺の中では成熟を禁じられた存在だからね。いまは成熟に向かってるような気がするんだよ。それもズレた部分での社長業としての成熟というか。
谷川　これは前田日明も猪木さんも石井館長も松井館長もそうなんだけど、ああいうトップの人たちってさ、仕事しちゃダメだよね。
豪　どういう極論なんですか？（笑）。
谷川　いかにいいブレーンをつかまえるか。御輿に乗るしかないでしょ。それをやらない限り、同じことの繰り返しでしょ。
柳沢　豪ちゃんは、なんでそんなに前田にマスコミと仲良くなってほしいの？
豪　いや、仲良くなってほしいわけじゃないですよ、別に。ただ、無闇に敵を作る必要はないっていう。
柳沢　で、どういう前田がいいの？
豪　何人かの好敵手をキープしとくぐらいでいいと思うんですよ。
柳沢　そうするとリングスも選手が離れずに、それなりにやっていけるの？

若干24歳で第１次ＵＷＦのエースとなった前田「ポジションか人を作る」とばかりに、「エース」や「社長」というポジションの責任を、必要以上に背負ってきたのか前田である

豪　まあ、イメージはいまほどは悪くならないと思うんですよね。
柳沢　豪ちゃんは、前田が猪木さんみたいになればいいの？
豪　それは全然望んでないですね。
柳沢　じゃあリングスが発展すればいいの？
豪　それも別に望んでないですよ。ボクは見に行くわけでもないし（笑）。
柳沢　じゃあ前田のどういうキャラクターがいいの？
豪　あんまりヒールになりすぎないぐらいのレベルをいかにキープするかっていう。
柳沢　っていうのが豪ちゃんにとっての前田の理想像？
豪　そうですね。
谷川　ボクは大山倍達みたいになってほしいんだよなぁ。なんか、失敗とかも「可愛いなぁ」と思うようなさ。
山口　その素質は十分あるでしょ、純粋だしさ。
谷川　あるんだよね。ボクは大山倍達みたいになってほしいんだよ。だから前みたいに人を殴ったり脅したりしたらダメだと思うけどなぁ。
柳沢　大山倍達みたいに選手を作ってほしいとか、そういうこと？
谷川　そうじゃなくて、可愛いキャラ。前田日明のカリスマ性にそれをプラスだけで、勝手に選手が強くなっていくと思うんだけどね。
柳沢　猪木さんもそうだけど、みんな突き抜けたいんでしょ。みんなの気持ちを考えれば、突き抜けた前田日明でいてほしいんじゃないの？
山口　そうそう。だから豪速球を投げて暴投しても、大振りして三振してもいいから、突き抜けた前田を見たいんだけどね。俺が前田日明に望むことはね、漠然としちゃうけど、成熟しないでほしいってことだけなんだよね。でも社長はそうはいかないっていうんなら……社長業をやめてほしい（笑）。
豪　いま、どの方向で行けば突き抜けられるかってことなんですよね。
柳沢　マスコミ懇親会やっても突き抜けられるとは思えんからなぁ。
一同　ガハハハ！
山口　前田が突き抜けるために、総合格闘技としてのリングスが世界のネットワークを広げていくっていうのは武器になり得るかどうかだよね。
柳沢　本来のモチベーションの中ではあったんだろうけど、「嫌だな、面倒臭ぇな」ってモードはわかるよね。
山口　わかった！　俺の理想像は、いまからトレーニングし直して、『PRIDE』に出る。
一同　ガハハハ！
豪　とりあえず痩せてくれっていうのはありますけどね（笑）。
谷川　ファスティングだね。
一同　ガハハハ！
山口　いまから1年間ぐらいトレーニングして、『PRIDE』に出るってなったら、相手は誰であれ、俺はその1年間それだけで持つなぁ。
柳沢　そりゃ持つね。
山口　KOKルールじゃキツイだろうし（笑）。『PRIDE』だったら強そうな気がするんだけどね。
谷川　前田vs小川と前田vsヒクソンは見たいよね。
山口　サダハルンバは、マスコミ懇親会以外でどういう理想像がある？
谷川　ボクはそれだけでいいですよ。懇親していただければ。
一同　ガハハハ。
柳沢　サダハルンバは、前田がプロデューサーとして突き抜けた存在になり得るんだから、その道をってことを言いたいんでしょ？
谷川　そうそうそう。

Dear Akira Maeda with love.

RINGS is DEAD?

柳沢 それは一つの方向性としてわかるけどね。
谷川 ボクは試合しない方がいいと思うんだけどなぁ。大山倍達になってほしいから、実戦は全然必要ないと思うけどなぁ。
柳沢 もちろん、あれだけの選手だったわけだからさ、今後の方向性として凄いプロデューサーになるってことはありだと思うけど、なんか違うイメージもあるじゃない。猪木さんもそうだけどさ、ホントにそんなんでいいのかなっていう。
谷川 ボクは、前田日明は「いまだにカール・ゴッチの技術がわからない」とか言ってた方が好きだけどなぁ。
豪 大山総裁が、「50年やってても、いまだに拳の握り方に疑問を持つよ」っていうような。
山口 たぶん前田の方向性としては、格闘技とは切り離したところで突き抜けたいはずなんだよね。
柳沢 それは猪木さんも一緒でしょ。でも猪木さんのスケール感の中では、格闘技以外でどうにかしたいんだけども、そのステップの中でいまのスタンスっていうのは全然ありだと思ってるし、猪木さんにはその器量はあるよね。そこは凄いなと思うよね。でも前田日明はそういう道を経て行けるかどうかだよね。いまだに猪木さんは「エネルギー問題がどうだ」ってやってるでしょ（笑）。
山口 前田日明の中に社長になった途端に「自分は上がり」って意識が芽生えてるように見えない？ そういうんじゃないんだよなぁ、もっと攻めてほしいのに。
柳沢 先が見つからないんでしょ。で、「本来俺は好きでプロレスに入って来たんじゃない」っていう前提の中で、自分なりにいろいろやりたいこととか考えてると、どんどんどんどん猪木さんに近づいてくっていうさ。方向性とか発想が一緒だからね。
山口 ところで格闘技評論家のサダハルンバから見てリングスはどうなんですか？
谷川 選手は凄くいいんじゃないですか。KOK自体も面白いでしょ。
豪 伝わらないだけですよね。
山口 それはなんで伝わらないの？
谷川 マスコミ懇親会を開かないから。
山口 んあ～。も、もう、そのうわごとはやめてくれ（笑）。
谷川 あと、前田日明はもう日本人はダメなんでしょうね。ロシアとかはいいけど。
山口 ロシアの選手には昔のダメな日本人の選手の気概みたいなものを感じてるはずだよね。
谷川 そういう人たちと一緒にやるしかないでしょ。
山口 社長はKOKは全然見てないの？

左が現役時代、そして右が現在の前田日明。あまりに外見から受けるイメージが違う。引退後の前田の悪い印象は、このヒゲに葉巻という"悪"を演出するようなアイテムの力によるところが、非常に大きいと思われる。前田日明の復活はまず、ヒゲを剃ることから始めた方が……。

ボクはマスコミ懇親会をやってほしい。懇親していただければ（谷川）

柳沢 こないだのテレビで見たよ。メチャメチャ面白いよ。
谷川 前田日明の作る世界は心地いいけどなぁ。
豪 ただそれが世の中に合わなくなってきてるというか。
柳沢 俺は全然世の中に合ってないとは思わないけど。客を入れたいんなら、それなりの方法があるんだろうし、『PRIDE』みたいにドームでやりたいとかさ、地上波のゴールデンでやりたいとかさ、なんか目的とか目標があるんならわかるけど、俺はここ1年会場に行ってないから、わからないって言われればそうだけど、そんなに寒々しいとか、変わったとかいう印象はないんだよ。
豪 会場の入りは寒々しくなってきてるわけですよね。
柳沢 俺はいい興行だと思って見てたけどね。
豪 面白いからいいんだけど、でもあれでいいの？ってことなんですよね。このままじゃヤバいんだろうなっていうのはあるじゃないですか。
柳沢 前田が望んでないんだったら別にいいやって思うじゃん。会長（山口日昇のアダ名）が言うように、いまは格闘技に情熱持てないだろうなっていうのはイメージとしてわかるし。それ以上に役割に従順っていう部分で、ファンがなにを求めてるかわかんないと。ファンが『PRIDE』みたいなハデハデしいイメージを求めてて、その部分で「『PRIDE』にはかなわない」と思ったら、それを目標にするのも嫌だろうしさ。それは普通の人間の気持ちとして当たり前というか、わかるよ。といっても、ファンは『PRIDE』みたいじゃないなにかを求めてるともハッキリ上がってこないわけだから、わかんないじゃん。「リングスはこうなってほしい」って明確なものがファンにあるわけでもないし。そしたら前田としてはなにやっていいんだかわかんないよ。だからちょっと精神性で刀鍛冶みたいな方に行ってみたりさ。
豪 豆腐パンとか、そういうテーマが欲しいわけですね。ビジネスの成功を狙うんなら狙うで、キッチリそっちに行って。
谷川 そういう混乱はよくないですね。前田日明はね、大山倍達を目指すべきですよ！
一同 ガハハハ！
山口 また、うわごとだ（笑）。
谷川 それが一番気持ちが楽だと思う。
豪 だけど大山倍達はマスコミ懇親会やらないと思いますよ（笑）。
谷川 でも、総裁は可愛かったよ、ホントに。だからね、前田日明が一番安心できる状態っていうのはね、極真の大山倍達みたいになったとき、一番心地いいよ。
山口 それはわかるけども、でも藤原敏男先生が、「前田君、とにかく道場に

なぜかここに来てプロレスラーとしての現役復帰を望む声が高まっている前田。現役時代は破壊王の宿敵トニー・ホームとも闘っている。「真撃」に上がる前田が見たいような気もするが……？

RINGS is DEAD?

柳沢　…通わなきゃダメだよ」って前田に言ったらしいんだよね。前田は引退する直前からほとんど道場に行ってないだろうし、選手ともほとんどまともに口聞いてないだろうし。そういうときに必要なのは、青臭いかもしれないけど、格闘技に対する情熱なんじゃないの。ビジネスとは違う部分で、その情熱が見えたら、前田日明は、一気に息を吹き返すし、周囲も熱を持つと思うけどね。

豪　猪木さんも大山倍達も、道場には行ってたわけですからね。

山口　だから、大別すると、猪木さん的な方向に行くか、大山倍達的な方向に行くかだね。

谷川　ボクは大山倍達的な方向に行くべきだと思う。

柳沢　そこでなんでマスコミ懇親会って必要なの？（笑）。

谷川　マスコミに可愛いところも見せないと。

山口　前田だって十分、可愛げあるよ。総裁みたいな部分は。

豪　会うと可愛いですからね（笑）。

谷川　前田道場ってものをキチンと持って、弟子に新宿で15人辻斬りしたみたいなヤツとか持ってさ、そういうところの長に収まってるのが、前田日明っていうのは一番心地いいと思うけどね。そういう日本人を前田日明がたくさん育ててくれるといいなぁ。

柳沢　俺、リングス見ててビジネス感を全然感じないんだよね。

豪　金の匂いがしないってことですか？

柳沢　たとえば「雑誌でこう煽ってリングスを盛り上げよう」とかさ、そういう発想にならない。

山口　あぁ、それは凄いよくわかる。俺もそうだもん。

柳沢　『ＰＲＩＤＥ』とかＫ―１とか、新日とか、自分のビジネス感覚で「こうしたら、こうなるんじゃないか」とか、そういう発想がいろいろ出てくるんだけど、リングスって全然そういうのがないんだよ。

谷川　リングスにそれがあったのって、正道会館とくっついてたときだよね。『ＰＲＩＤＥ』とＫ―１が出てきたら、もう逆流ってわかってるでしょ。

柳沢　俺の場合、リングスは自分の趣味の中で満足しちゃうっていうかさ。

日本人４人離脱、外人のPRIDE流出で、すっかり陣容が手薄になった気もするリングスだが、もともとは前田、ドールマン、フライの３人でスタートした団体　また生まれ変わるチャンスでもある

山口　もしかしたらマスコミのみんなもそう思ってるのかもしれないよね。いじくっちゃいけない世界というか。

柳沢　前田の方から積極的に「こうしたいんで、こういう煽り方をしてくれ」とかさ、そういう方向があればいいんだよね。俺はいまのリングスで全然満足なんだもん。自分の趣味の範疇だから。

山口　同感だね。ビジネス的にリングスを浮かび上がらせたいっていう欲求も俺の中にあることはあるんだけど、イザとなると、なにしていいか全然わかんない（笑）。ビジネス的感覚で見れない。だから前田に、格闘技界のプロデューサーとして豪速球を投げて、大振りを望むっていってもさ、いまのリングスの世界じゃ難しいよね。やっぱり大振りするには他とダイナミックに関わっていくしかないわけだから。

谷川　それは『ＰＲＩＤＥ』と闘うしかないでしょ。ダン・ヘンダーソンなんかリングス代表で出したらよかったのにね。ヘンダーソンあたりがホントに輝くよね、あぁいう地味で……。

豪　売りようのない選手が（笑）。

谷川　そうそうそうそう。ホントにリングスだとよく見えるよね。ザザとかさ。ボクは前田日明には大山倍達に……。

山口　もう、けっこう！

豪　具体的な話、大山倍達になるにはどうしたらいいんですか？

山口　マスコミ懇親会？（笑）。

豪　大山倍達ってそんなもんなんですか？

一同　ガハハハ！

谷川　ガンツ君（元・熱狂的リングスファン）は今日は誰が一番正しいと思ったの？

ガンツ　た、谷川さん。

谷川　でしょ。ボクが一番正しいよ！ボク、前田の気持ち、ホンットよくわかるんだよ（小鼻を膨らませながら）。

Dear Akira Maeda with love.

山口　ガンツは前田にどうなってほしい？

ガンツ　しばらく消えてほしいですねぇ。

一同　ガハハハ！

ガンツ　守る前田は嫌ですから。前田がリングスで一番カッコよかったのは、山本vsヒクソンのときに山本のセコンドについたときだったから、そういう選手を作ってほしいですね。

豪　じゃあ、『真撃』で山本憲尚のセコンドに（笑）。

柳沢　あ、俺、唯一嫌だなって感じるのは、山本が『真撃』に出て、成瀬が新日本行って、田村が『ＤＥＥＰ』行くみたいな、それがもの凄い嫌だね。ホンットに前田日明が冒涜されてる感じがして。

谷川　それは嫌だよなあ、ホントに。

柳沢　まだＴＫみたいな変な頑固者でさ、全然みんなと合わないようなヤツでも、ＴＫみたいのは安心するじゃん。

山口　なんか、前田日明を考えることは我々の趣味です、みたいな感じになっちゃったね。そういえば、リングスは一時期『紙プロ』しか扱わないぐらいのときがあったけど、前田から俺に対して「これやってくれ、あれやってくれ」っていう話は一切なかったよ。

谷川　それは『格闘技通信』時代にも一切なかった。

山口　ビジネスとしてはよくないかもしれないし、単に頑固なだけかもしれないけど、隣の芝生は青く見えるようなヤツばっかりの中で、前田だけは芯の部分で隣の芝生は青く見えてない。それはリングスのビジネスとしての方向とは別に、やっぱり素敵だよね。

谷川　だから素敵なんだから、マスコミ懇親会を開いてほしいんですよぉ。

一同　んあ～。

【6月18日／東京・青山『季菜』にて収録】

坂田亘がリングス退団、そして坂田道場『エボリューション』設立!　■山憲、成瀬、田村と離脱者が相次いだリングスだったが、態度を保留していた坂田亘も６月10日を持ってリングスを退団することになった。７月に予定している地元・名古屋での坂田道場『エボリューション』のオープンに合わせ今後の坂田の展望が発表される予定だ。

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間 AM11:00～PM7:00 年中無休

待望のビデオ化実現！

『アブダビ・コンバット2000』

お知らせ➡『アブダビ・コンバット2001』が今秋にもＤＶＤで発売決定！

新日本プロレス超闘列伝 Vol.1&2 DVD

●6/25発売各約100分各7,140円

パート1は以前発売されたビデオ「革命と抗争」のDVD化。昭和47年、アントニオ猪木は新しい闘いの場を求めて新日本プロレスを設立、それは日本のプロレス界に対する下克上宣言でもあった。その魂を受け継ぐかのように長州の維新革命、前田日明のUWF、藤波の飛龍革命と様々な「革命と抗争」が繰り広げられた。その新日本歴史をDVD化。主な収録内容としては「新日本の生い立ち」「長州力、維新の時代」「IWGP」「UWFの遺伝子」「マシン軍団」「海賊男の登場」「飛龍革命」「NWO」を収録。パート2では同じくビデオ「挑戦」のDVD化。「プロレスこそ世界最強の格闘技である。」猪木の理想を実現するために様々な闘いが行われた。その闘いの歴史をDVD化。主な収録内容は「新日本プロレス、世界への挑戦」(新日本米国初遠征、ブラジル遠征、パキスタンの死闘、シュツットガルトの惨劇等)、「外国人レスラー挑戦史」(シングル編～ゴッチ、アンドレ、シン、クラップ、ロビンソン、ハンセン、ブリスコ他。タッグ編～ハリウッド・ブロンドス、ザ・サモアンズ他)、「異種格闘技戦史」(坂口vsアレン、猪木vsミルデンバーガー、猪木vsクロケイド他)。

U.W.F.vs新日本全面戦争 VOL.1＆2 DVD

※VOL.2は6/13発売 ●200分各5,880円

1995年に開戦したU.W.F.インターと新日本プロレスの対抗戦をDVD化。(Uインターで行われた対抗戦を収録)プロレス史上最高の興奮を呼んだイデオロギー闘争、その試合の中での今では実現不可能な？試合や夢の対決が盛り沢山！VOL.1では現在リングスの金原と高田道場の桜庭がタッグで安田＆石沢と対決、パワーオブドリームの山健vsゼロワンの大谷、そして大注目は桜庭と新日本Jrの金本とのシングル対決。この試合はオススメです。VOL.2ではこの抗争時唯一行われた高田と長州のタッグ対決、今でも見応え十分なテクニックを披露した新人の頃の桜庭vs石沢。インタビューも入ってます！

●VOL.1収録試合

金原,桜庭vs安田,石沢、安生,垣原vs長州,永田(1995.10.11 大阪)山本vs大谷、金原vs高岩、桜庭vs金本、高山vs佐々木、垣原vs橋本、中野vs野上、安生vs蝶野(1995.10.28 代々木)中野vs長州、安生,高山vs蝶野,天山(1995.11.25両国)安生,高山vs山崎,飯塚、佐野vs武藤、高田vs越中(1996.3.1日本武道館)

●VOL.2 収録内容

金原vs木村、垣原vs斉藤、安生,山本vs小林,野上、高田,佐野vs越中,小原(1996.3.23 宮城県スポーツセンター)桜庭vs石沢、高山vs高岩、垣原vs永田、高田vs長州、金原vs佐々木(1996.4.19 大阪)金原vs野上、垣原vs越中(1996.5.27 日本武道館)高田,垣原vs藤波,藤原(1996.6.26 名古屋)垣原vs佐々木,佐野vs橋本(1996.9.11 神宮球場)

伝説の虎戦士スーパータイガー DVD

●2枚組カラー311分￥10,500

【完全保存版DVD BOXついに完成】

☆16年前の収録素材を最新の技術でデジタル化。市販ソフトのリマスターではありません。(一部の試合を除く)

☆試合は出来る限りノーカット。前田が仕掛けた大阪でのシュートマッチも完全収録。

☆貴重な当時のインタビューや練習風景も収録。高田にキックを教えるシーンは必見。

金曜夜8時のゴールデンタイムに常時20％の視聴率を誇り、史上最高のプロレスブームを巻き起こしたスーパーヒーロー・タイガーマスク。人気絶頂にあったタイガーが突然新日本プロレスを辞め、格闘技としてのプロレスを打ち出していた第一次U.W.F.で復活。格闘王前田日明、現ミスタープライド高田伸彦、関節技の鬼藤原喜明らと、壮絶な闘いを展開した。従来のイメージを覆した本格的なキック、骨が軋むような関節技を主体にしたファイトスタイルは、プロレス界に大きな衝撃を与え、現在の格闘技ブームへと続いている。

収録内容 ・藤原戦(1984.9.7後楽園)・前田戦(1984.9.11後楽園)・藤原戦(1984.12.5後楽園)・前田戦(1985.1.7後楽園)・高田戦(1985.1.20後楽園)・マッハ隼人戦(1985.2.18後楽園)・マーチン・ジョーンズ戦(1985.3.2後楽園)・木戸戦(1985.7.8広島)・キース・ハワード戦(1985.7.13静岡)・藤原戦(1985.7.17大阪)・高田戦(1985.7.21後楽園)・前田戦(1985.7.25大田区)・山崎戦(1985.8.25岐阜)・木戸戦(1985.8.29大宮)・前田戦(1985.9.2大阪)・高田戦(1985.9.6後楽園)・藤原戦(1985.9.11後楽園)

新日本ストロング スタイル 2001

PART1&2 ●ビデオ＆DVD発売各7,140円

2001年4/9大阪ドーム。色々話題を呼んだ新日本大阪ドーム大会をビデオとDVDで完全ノーカット収録。パート1ではIWGP次期挑戦者決定戦永田vs中西、長州vs川田初対決等を収録。試合以外でも乱入した小川と長州との乱闘は迫力満点。パート2では新日本の顔健介vsZERO-ONE橋本の一騎打ち、新旧2本のIWGPベルトが賭けられたノートンvs藤田、これぞプロレスBATTvs2000等を収録。

パート2DVDは7/25発売になります。

バトラーツ21世紀の幕開け

～UFOからの侵略者 バトラーツ大空襲～ ●120分5,040円

2001年1/7&3/1後楽園ホール。今回のビデオは昨年に引き続き、バトラーツを狙い続ける平成のテロリスト村上一成と迎え撃つバトラーツとの闘いを中心に収録。1/7では石川社長とタッグ対決、3/1では大暴走のあまりヨネとの無効試合を繰り広げ、後楽園に不穏な空気を漂わせた。他にもアレク、藤原組長のシングル初対決、インディペントワールドＪｒヘビー級選手権、大日本葛西＆関本登場、高田道場松井と日高の抗争と話題満載です。

第3回サブミッション・レスリング・ワールド・チャンピオンシップ

アブダビ・コンバット2000

2000年3月1～3日アラブ首長国連邦

●カラー115分 税込¥6,930

ついにそのベールを脱ぐ 世界最高峰の組技の祭典 これがアブダビ・コンバットだ！

桜井"マッハ"速人、佐藤ルミナ、宇野薫が揃い踏み！ 世界中の強豪が覇を競った真のワールドワイドな大会

桜井"マッハ"速人、宇野薫、佐藤ルミナ、金原弘光、矢野卓見、大山利幸など、錚々たるメンバーが出場したアブダビ・コンバット2000。ケァー、アルバレス、ホーンらのアメリカ勢、ホイラー、ヘンゾ、マチャド兄弟を筆頭に最も多くの選手を送り込んだブラジル軍団、そして豪州、欧州、アフリカから参戦した未知の強豪たち。組み技の世界選手権とも評されるワールドワイドの大会だけに、超豪華な顔触れが揃い、最高峰の技術を競い合った。

全6階級96試合の激戦の中から、厳選した名勝負27試合を収録。

収録試合

●-65kg級 ホイラー・グレイシー vs バレット・ヨシダ、マット・ハミルトン vs 若林次郎、アレキサンドレ・ソッカ vs 矢野卓見、レイナウド・ヒベイロ vs アレクサンドレ・フランサ・ノゲーラ、ホイラー・グレイシー vs 若林次郎、アレクサンドレ・ソッカ vs ジョー・ギルバート

●-76kg級 ジアン・マチャド vs マーシオ・クロマド、佐藤ルミナ vs ヴィトー・シャオリン・ヒベイロ、マーシオ・フェイトーザ vs 宇野 薫、イズラエル・アルバカーキ vs 桜井"マッハ"速人、レオ・ヴィエラ vs ヴィトー・シャオリン・ヒベイロ、ジアン・マチャド vs レオ・ヴィエラ、ジアン・マチャド vs ヘンゾ・グレイシー

●-87kg級 ヒカルド・リボーリオ vs 大山利幸、サウロ・ヒベイロ vs デイブ・メネー、サウロ・ヒベイロ vs ヒカルド・リボーリオ

●-98kg級 ジェレミー・ホーン vs アレクサンドル・ペレ、ヒカルド・アローナ vs 金原弘光、ヒカルド・アローナ vs ティト・オーティス、ジェフ・モンソン vs ヒカルド・アローナ

●+99kg級 リコ・ロドリゲス vs アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ、ヒカルド・モラエス vs マーク・ロビンソン、マーク・ケァー vs ヒーガン・マチャド

●Absolute級 マーク・ケァー vs レオ・ヴィエラ、ティト・オーティス vs 佐藤ルミナ、ヴィトー・シャオリン・ヒベイロ vs ヒカルド・アルメイダ、ショーン・アルバレス vs リコ・ロドリゲス

アブダビ・コンバット2001 9月発売決定！

●ＤＶＤ2枚組400分予定 ￥10,500

アルシオン グラフィティ Jan-Mar 2001

～府川唯未 愛と感動の旅立ち～ ●120分6,930円

2001年1/5～3/20日本全国。今回は今までの大会ビデオでもなくコンプリートシリーズでもない新ビデオ「アルシオングラフィティ」登場！コンプリートよりもより詳しく、大会ビデオよりも多くの試合を収録。今回は2001年の1月から3月の試合を収録。奥津の引退、美奈のデビュー、アジャ、美奈の離脱と様々な事があった3ヵ月。その中でもみんなの心を感動させたのは府川唯未の引退セレモニーです。3/20の引退セレモニー＆引退試合は勿論、3/15～18のラスト4大会の府川選手に密着。近づく引退への府川選手の心がこのビデオで感じられます。他にも大向選手とのオモシロ香港ツアーも収録。勿論、この3ヵ月に行われた名勝負も沢山入っています。V.I.Pの再編、Re:DRUGの内乱、大向、浜田、吉田、GAMI、玉田、AKINO、各選手の意識の変化等いっぱい収録。そして、アルシオンのライセンスナンバー0のアジャから45のレディ・アパッチェまでを紹介するライセンスナンバーグラフィティも特別収録。

収録試合 1/5～大向vs奥津、アジャ＆美幸vsラスカチョ他、1/27～日向vsマリー、浜田vsAKINO、2/10～スカイハイ選手権AKINOvs藤田、二上認定ツインスター選手権GAMI&玉田vsPIKO&PIKA、浜田＆大向＆マリーvsアジャ＆吉田＆日向、2/12～大向vs美幸、ツインスター選手権ラスカチョvsアジャ＆吉田、クィーン選手権浜田vs日向、2/25～三田＆下田＆大向＆府川＆JvsGAMI＆吉田＆PIKO&PIKA＆高瀬、吉田vsAKINO、大向＆玉田vsGAMI、3/3二上認定ツインスター選手権GAMI&玉田vsAKINO&藤田、ラスカチョvs浜田＆マリー、3/20ツインスター選手権ラスカチョvs大向＆J、府川vs吉田他沢山。

プライド13 DVD VIDEO

●ビデオ5/25発売9,970円 ●DVD6/8発売5,040円

2001年3/25さいたまスーパーアリーナ。グラウンド状態の相手への顔面キックOKの新ルールが施行されたPRIDE13。いつも以上な過激な試合となった。一番の話題は日本の格闘技界の救世主、桜庭和志がまさかの敗北、それも1R1分38秒の秒殺。桜庭だけでなくヘンゾ・グレイシー、アラン・ゴエスと柔術の実力者のKOシーンは衝撃！PRIDEの新しい流れとなるこの大会は要チェック。

収録試合 桜庭vsシウバ、コールマンvsゴエス、ヘンゾvsヘンダーソン、テリグマンvsボブチャンチン、メッツァーvsイーゲン、安田vs佐竹、ビクトーvsソースワース

格闘探偵団バトラーツ祝5周年記念ビデオ

●120分5,000円

2001年4/13後楽園。5周年記念ビデオはバトラーツvs他団体の対抗戦の豪華カード。メインでは石川＆ヨネと因縁のUFO村上と電撃参戦となったコンプリ田中がタッグで激突！セミではアレク＆junjiが大谷＆高岩と対決。他豪華カード日高vs松井、臼田vsMEN'Sテイオー、小野＆スペル・クレイジーvs土方＆サスケ、アーバン・ケンvs大日本関本。オールスター戦です。

NOAH VIDEO 3本同時発売

NOAHvsZERO-ONE

～激突！三沢vs小川～ ●6/21発売5,040円

2000年12/23有明コロシアム＆2001年1/13大阪府立体育会館＆4/18日本武道館。NOAH、ZERO-ONE、UFO。ついに夢のカードが実現した。4/18日本武道館で行われた「ZERO-ONE真世紀創造2」より、NOAHと他団体の交流戦を完全収録！更に、本大会の伏線となった橋本真也vsNOAH勢の2試合も完全収録した永久保存版。

収録試合 ●4/18日本武道館～三沢＆力皇vs小川＆村上、井上＆本田vs橋本＆安田、丸藤vs高岩、杉浦vsアレク●1/13大阪府立体育会館～三沢＆小川(良成)vs橋本＆アレク●12/23有明～大森vs橋本

初代GHCヘビー級王座決定トーナメント

～ノア最強は誰か？～ ●6/21発売5,040円

新たに設けられたタイトル・GHC(Global Honored Crown)を賭けて総勢16人による頂上決戦が行われた！3/18のディファ有明大会に口火を切り、4/15の有明コロシアムでついに決着の時を迎えた「初代GHCヘビー級王座決定トーナメント」の激闘を収録した永久保存版ビデオ。

収録試合 ●決勝戦～三沢vs高山(4/15有明)●準決勝～三沢vs秋山(4/11広島)●準決勝～高山vsベイダー(4/12大阪)●二回戦～秋山vs力皇(4/8ディファ有明)●一回戦～秋山vs大森(4/1福岡)他

GHCヘビー級選手権試合三沢光晴vs田上明

～頂上決戦第2章、GHC王者vsダイナミックT～

●6/21発売5,040円

GHC初代チャンピオンとなった三沢光晴に田上明が挑戦状を叩き付けた！「Navigation with breeze」から5/18に行われた札幌決戦GHCヘビー級タイトルマッチを中心にメインカードを満載したメモリアルビデオ。

収録試合●三沢vs田上、森嶋vs志賀(5/18北海道立総合体育センター)●三沢＆小川(良成)vs田上＆本田、秋山＆泉田＆志賀vs斉藤＆森嶋＆力皇(5/12ディファ有明)

ストーリー・オブ・ザ・F 7 DVD VIDEO

●DVD・VIDEO各140分¥8,000

FMWの激闘を記録した大好評の年間総集編ビデオ「STORY OF THE F」の第7弾。2000年5月5日の駒沢大会でHがハヤブサに戻りFMWの原点に戻る魂の闘いを制して田中もFMWへの想いを取り戻す。そしてこの日冬木が力ずくWEWシングルのベルトを獲り復権へ向けて次々と大デモを敢行する！拉致監禁。ダイナマイト爆破。超大型(超大物？)ハヤブサ出現！超常現象マッチ。富士の樹海置き去りマッチ。クッキングマッチ。15,000Ｖ放電爆破金網マッチ。鉄人マッチ。恐怖の呪いのベルト。等など衝撃的事件が次々にFMWマットを襲う！プロレスを超えた(？)ジェットコースター型スポーツ・エンターテインメント！収録試合および衝撃映像はすべて初ビデオ化！

収録内容

・2000.5.28[荒井社長、Hと決別宣言]・6.16[仰天！3代目ハヤブサ登場！正体は天龍!?][拉致監禁されたリッキー・フジ ダイナマイトで爆破！]・6.21[Hとハヤブサがタッグ結成大暴れ！]・7.23[NOAHとの交流戦スタート！][ハヤブサ復活！しかし盟友・新崎人生 ハヤブサを裏切る！]・7.28[リッキー・フジ「富士の樹海置き去りマッチ」]・7.28[前代未聞！奇想天外！「クッキングマッチ」][人が消える？UFOがやってくる？「超常現象マッチ」]・8.20[怨霊、新宿鮫FMWマットに登場！]・8.28[世界的有名ラップアーティストがプロレスデビュー][将軍KYワカマツUFO軍団結成!?][遺恨再燃?ハヤブサVS雁之助]・9.17[冬木が中山にまさかのピンフォール負け！]・9.21[北海道発の電流爆破マッチは凄絶！冬木病院送り]・9.26[雁之助が痛烈会社批判！永久追放処分に！][日本初のアイアンマン・マッチ！ハヤブサVS冬木]・10.29[「呪いのベルト」出現に騒然！]・11.12[完全決着!?ハヤブサVS冬木][え？マジ？ミスター雁之助負けたら即引退スペシャル・マッチ][愛憎劇に終止符!?荒井薫子争奪マッチ]

新日本プロレス名鑑 上巻&下巻 DVD VIDEO

●DVD&ビデオ5/23同時発売 上巻154分・下巻160分各6,090円

プロレス史上初！レスラー名鑑、遂に登場！旗揚げから30年間、新日本で活躍した数多くのレスラーたちを時代順に紹介！新日本レスラー133名の膨大なデータを全2巻に集結！上巻には日本人を72名、下巻には61名を収録。選手の戦歴・得意技等のプロフィールデータは勿論、名勝負名シーンを収録。

●VOL.1日本人篇～猪木、豊登、小鉄、木戸、藤波、浜田、藤原、小林邦明、カーン、健吾、坂口、星野、ストロング小林、マサ斉藤、長州、大木、馬之介、ジョージ高野、前田、平田、ヒロ斉藤、ヒロ・マツダ、保永、ブラック・キャット、初代タイガー、高田、谷津、高野俊二、山崎、後藤、佐野、コブラ、橋本、スーパー・ストロング・マシン、武藤、蝶野、AKIRA、船木、越中、飯塚、健介、馳、ライガー、北尾、青柳、小原、ムタ、金本、天山、西村、小島、斉藤彰俊、サムライ、3代目タイガー、大谷、高岩、永田、中西 他全72名

●VOL.2外国人篇～ゴッチ、テーズ、シン、パワーズ、アンドレ、クラッブ、ラッド、バーナード、ロビンソン、ルスカ、モラレス、グラハム、ハンセン、マスクド・スーパースター、カネック、バックランド、チャボ、アグアヨ、ブリスコ、ローデス、ダイナマイト・キッド、ホーガン、ブッチャー、ボック、マードック、ベンチュラ、初代ブラック・タイガー、アドニス、デイビー・ボーイ・スミス、バンディ、ブロディ、スヌーカ、ケビン、ケリー、ウィリアムス、ビガロ、リック・スタイナー、スコット・ホール、オーエン・ハート、ベイダー、ワグナーJr.、ハシミコフ、ザンギエフ、ワイルド・ペガサス 他全61名

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合￥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを1つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！(店頭・通販共)※割引きもあり。

【通信販売お申し込み方法】 ●郵便振込口座番号 00180-8-65236 レッスル通販

住所・氏名・TEL希望商品名を明記のうえ、現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。※振替通販の問合せは池袋店まで。また代金引換(税込¥5,000以上)に限りハガキかFAXでの注文となります。(手数料¥315がかかります)

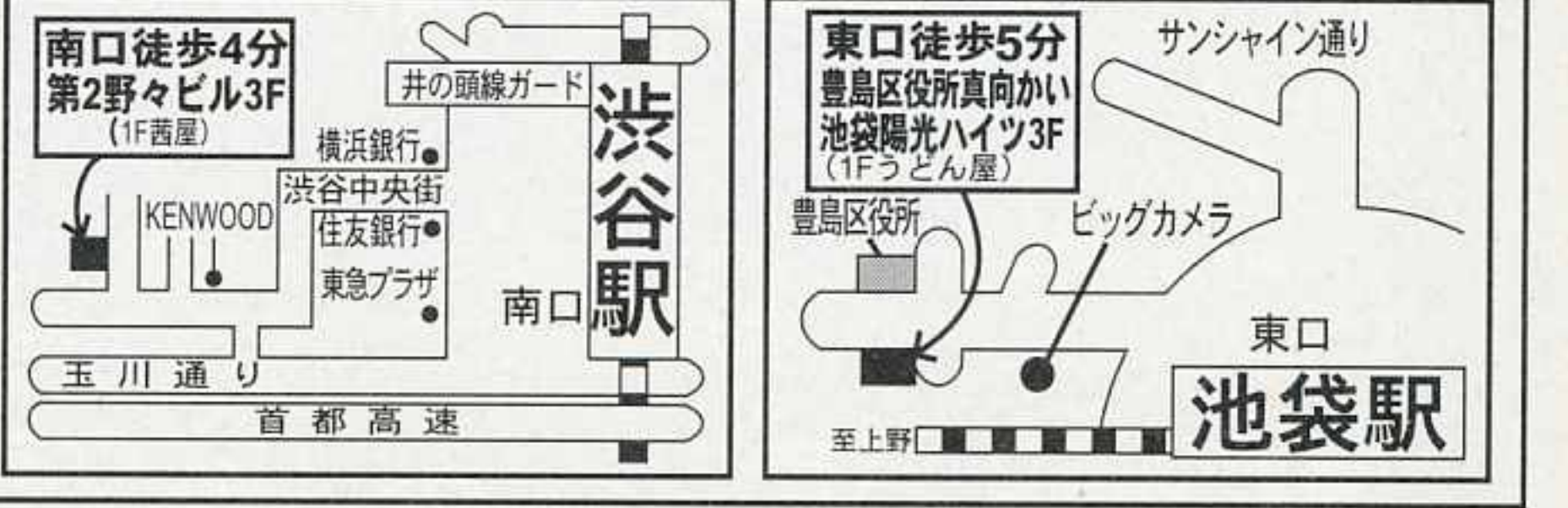
レッスル渋谷店 店頭TEL.03-3464-0078 通販部＆FAX.03-3464-1780
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル3F

レッスル池袋店 店頭TEL.03-3989-0056 通販部＆FAX.03-3987-7817
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306

南口徒歩4分 第2野々ビル3F (1F吉野家)

井の頭線ガード 横浜銀行 渋谷中央街 KENWOOD 住友銀行 東急プラザ 南口 渋谷駅 玉川通り 首都高速

東口徒歩5分 豊島区役所真向かい 池袋陽光ハイツ3F (1Fうどん屋)

サンシャイン通り 豊島区役所 ビッグカメラ 東口 至上野 池袋駅

●レッスルスタッフを募集しています！(女性限定、渋谷・池袋勤務)履歴書を渋谷店までご郵送下さい。●

紙のプロレスRADICAL

2001 No.39 CONTENTS

No.39 Main-Event

No.39 Semi-Final

Radical Fight

Columns

Another

RADICAL特製ピンナップ

ボクの彼女は闘魂ショップのカリスマ店員です♥ —— 片山ぼん

Cover Model
前田日明

Cover Photo
森鷹博●Takahiro Mori

Art Director
出田さん●San Ideta

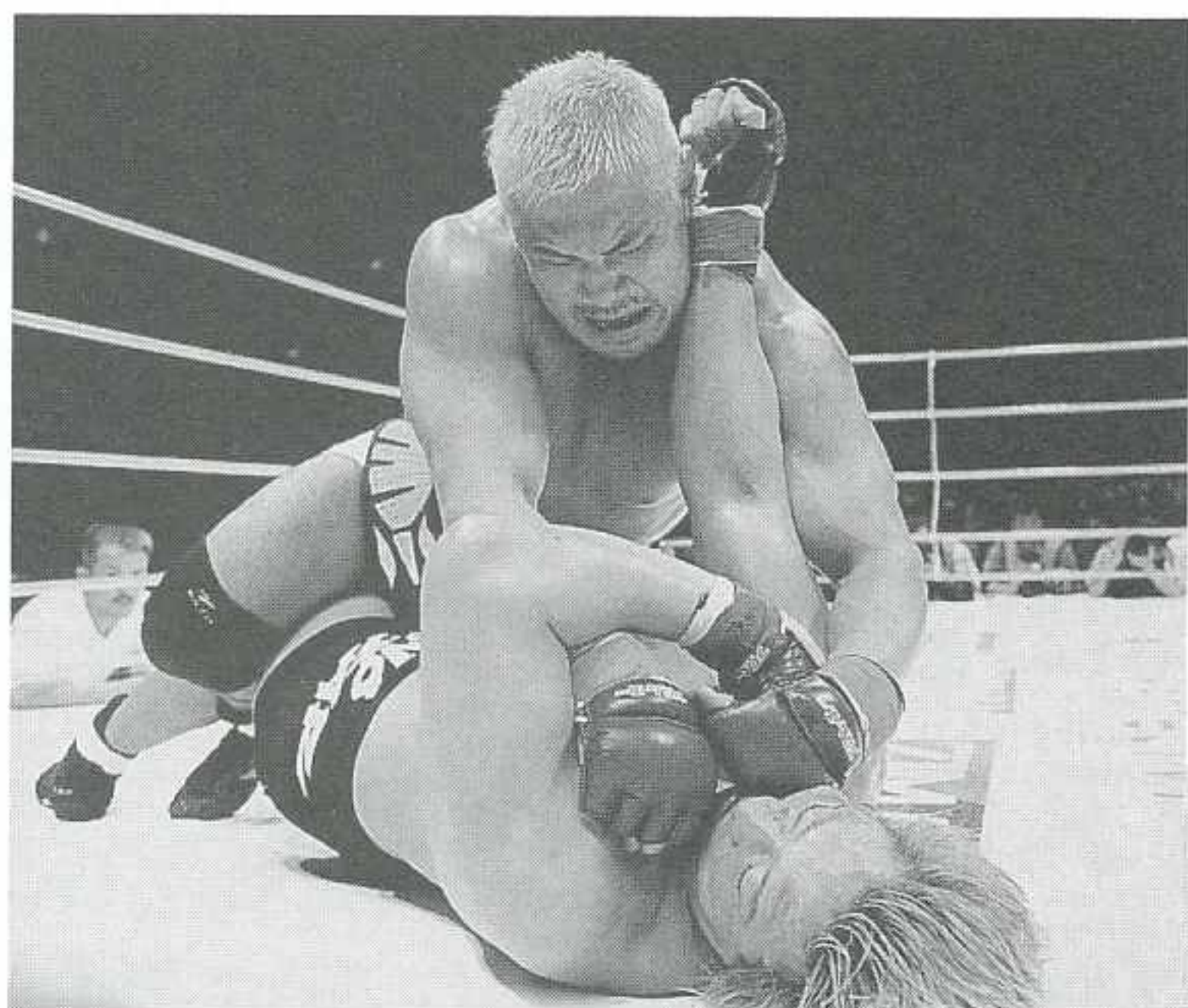
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツくん●Kun Matsu
村松さん●San Muramatsu
グッチー●Gutty
ミネ●Mine

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
あっちゃん●Atchan

ZERO graphics
海老沢勇●Isao Ebisawa
古賀ゆきえ●Yukie Koga

※※RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。お母さんは知ってた? じゃあ欲しい物があるのでそろそろ銀行に入金よろしく〜。

強い！凄い！ ド迫力！

でも、何かが足りない……？

和之 何だろう⁉ 座談会

完全無欠のIWGP王者

圧倒的な強さで、プロレス、格闘技を
股に掛け暴れ回る藤田和之。
ある意味選ばれた者でしかやれないことをやっているのに、
モノ足りなさが感じるのはナゼだろう？
この怪物をして、足りないものとは一体何か？
いまこそ藤田和之を考えろ！　座談会を読めーッ！

構成／クレ・斎藤（新人）
designed by matsu（Two three）

座談会出席者

山口日昇
大阪で『紙プロ』新人・スネ夫のママがやってる高級クラブの夜に大満足。東京に帰ってからも、あの夜が忘れられず大阪に失踪寸前な本誌鬼畜編集長。

吉田豪
多数の連載を抱え、信じられないほどの量の仕事をこなす本誌スーパーバイザー。お宝グッズや古本の山も、信じられない量で絶賛編集部侵食中。

松澤チョロ
原稿が落ちる、落ちないどころの騒ぎではない問題が私生活で勃発中！　空に向かって溜め息出まくりのキャットファイトマスコミ第1人者。

堀江ガンツ
サダハルンバ谷川から『SRS・DX』への移籍話を持ちかけられ、「給料はどうなるんだろう？」と新たな別天地を夢見る本誌泥酔編集者。

藤田って

藤田のプロレスに対するリスペクトって小川よりないと思いますからね（豪）

チョロ　さあ、今回の座談会のテーマは高山、永田を撃破し、いまやマット界の中心人物の藤田和之選手です！　藤田選手がメインを張った『PRIDE．14』と6・6新日武道館大会は、2大ベストバウトで大盛り上がりでしたよね！

豪　2大ベストバウトだったの？

チョロ　いや、他誌にそう書いてありました（笑）。

山口　（唐突に）チョロ！　結婚オメデトーッ！

チョロ　ち、ちっと……（ページ担当のフリテン君にむかって）い、いまのは入れなくていいから！

豪　そんなに結婚問題で困ってんだ？

チョロ　そ、そんなことより座談会を進めます！

山口　ガハハハ！　今日のテーマはチョロの結婚についてにしようよ。それの方がバツグンに面白い（笑）。

チョロ　（無視して）新日の永田vs藤田、6・8全日の天龍vs武藤と、どちらも話題になった武道館大会がありましたね。

ガンツ　今回の新日、全日と、ちょっと前になりますけど『PRIDE．14』は、かなり連鎖してましたよね？

豪　藤田2連戦と武藤2連戦として見れば1本の線に繋がるわけでしょ。

ガンツ　その辺が流れ的に繋がってましたよね。そしてそれぞれのメインイベントが、全く別のスタイルで「これぞプロレス！」みたいな言い方をされていて。

山口　でも、最近言葉遊びみたいに「新プロレス」と言ってみたり、「真プロレス」って言ってみたり、藤田vs高山戦こそ「純プロレス」だって言ってみたり、「プロレス」って言葉の捉え方が見る人によって多様化してきてるよね。だから面白いとも言えるんだけど。

チョロ　山憲的には「ケツの穴のちっちゃいこと言ってんじゃねえ」って感じでしょうけど（笑）。

山口　ガハハハハ！　実際に、山憲のケツの穴が大きいか小さいか確認したくないけどね（笑）。

ガンツ　山憲は難しいことが考えられないだけなんじゃないかと（笑）。

山口　だからいまほど「プロレス観」が重要になってきてるときはないんだよ。そこで高山戦、永田戦と2つの異なったスタイルで闘った藤田をテーマに話するのはいいんじゃない。

はっきりと感じられる強さとは、対称的な藤田のボンヤリとしたプロレスラーとしての姿。その姿を、より鮮明に見るためにも、プロレス観が重要になっていく。

豪　この先のプロレスのことを考えると藤田に乗るべきなんだろうけど、何でこんなに藤田に乗れないんだろうっていうのがボクの正直な気持ちなんですよね。デビュー前から藤田が好きで好きでたまらなかったはずなのに、最近は「あれ？　これが藤田？」って思うばかりで。

チョロ　吉田さんは、いろんな逸話も含め藤田の幻想部分が好きなだけで、試合はあんまり見たことないんじゃないですか？

豪　いや、ナマでも見てるんだ、これが。

山口　ナマで見ない吉田豪が、ナマの藤田を見てるんだから貴重だよね（笑）。

豪　デビュー前のたたずまいから何から、明らかに異質だったからね。例えばノアの杉浦と同じような匂いがしてたわけでしょ。プロレス界に紛れ込んできちゃった不思議な人っていう（笑）。

山口　その異質な藤田が『PRIDE』に出ていくっていうのは筋道としては合ってるわけだよね。

豪　でも、合いすぎてるというか、結局は異質だから面白いんじゃないですか。『PRIDE』では適材適所でしっくり行き過ぎちゃって。しかも今の『PRIDE』は藤田が光るためのルールみたいなものだし。何かボクが求めていたのはこれじゃねえなって。

山口　確かに藤田に対して、言葉にできない違和感を感じてる人は多いと思うんだよ。やってることは凄いっていうことは大前提としての話だけどね。

ガンツ　だからプロレス側やプロレスファンから見て、〝『PRIDE』に出て行ってくれた〟っていうよりも、〝『PRIDE』に行っちゃった〟って感じがするからでしょうね。

豪　もともと外敵みたいな要素があったと思うんですよ。藤田のプロレスに対するリスペクトって、おそらく小川よりもないと思いますからね。

ガンツ　それこそ「プロレスLOVE」が感じられない気がしますね（笑）。

豪　長州に対するふてぶてしい態度とか、組織の中にいたからこそ面白かった部分がなくなったわけじゃないですか。ホント、いまはただ「格闘技」のふてぶてしい人って感じで。不思議なのは小川が「プロレスラー」らしくないってよく叩かれてるけど、巡業にあれだけ付いて行った藤田に、何でプロレスの匂いがしないんだろうって。小川はまったく経験してないのに、あれだけプロレスってモノを感じさせようとしてるわけですよね。

山口　その小川の「プロレス」ってものに対する捉え方は賛否両論あるけどね。藤田の場合は新弟子時代も少ないし、プロレスの世界でも〝残酷〟な目にあってないからね。長州力があれだけ人気が出たのもヒドイ仕打ちをされて、それでも噛み付いて這い上がってきたから面白かったわけでしょ。たとえ〝残酷〟な目に合わなくても、昔は道場幻想があったから、新弟子を経験してるってことだけで、見る目が違ったからね。それが藤田に見えにくいからプロレスを感じられないっていう声が上がるのかもしれない。

豪　問題は溜めのなさですよね。

山口　そう。でも、いまはその溜めを作るのが難しい時代になってきてるから。流れは速いし。〝団体〟という概念自体も古いものになりつつある現状では、藤田の存在や、生き方は、ある意味で時代を象徴してるのかなぁって思うけどね。

豪　本当にそういうボンヤリとした言い方でしか評価できないんですよねえ。

“キラー”藤田を見せてくれたら感情移入できるんだよ（山口）

山口　だから、もっと明確に藤田の魅力や違和感を感じる部分を語ろうよ（笑）。

ガンツ　一番藤田に引っかかるのは「猪木イズム最後の後継者」っていうキャッチフレーズだと思うんですよね。

豪　それは本人が言うところの営業用猪木イズムなわけでしょ。絶対に後継してないのは確実なところでさ。おそらく佐竹と猪木くらいの関係だと思うよ（笑）。

山口　藤田のタイプは日本人としては新しいタイプでしょう。筋肉質で、並はずれたパワーで押し切るっていうイメージは。

豪　アマレス出身のパワーファイターって、そもそも長州の系譜ですからね。「長州イズム最後の継承者」ならわかるんですけど（笑）。

山口　ガハハハ。猪木さんや桜庭にしても、しなやかっていうイメージがあるでしょ。日本人は「柔良く剛を制す」っていうのがやっぱり好きだろうからさ。見かけは本質的に日本人好みではないかもしれない。

豪　だから、レスラーとしての猪木の匂いが全然しないわけじゃないですか。「いつ何時、誰とでも闘う」とか猪木のキャッチフレーズを頂くだけで、猪木イズムをつまみ食いしているっていう感じがプンプンしてるし。そういう意味でGK金澤が、「猪木を一番感じるのは秋山だ」って言ってて、面白いなあと思いましたよ。「えげつなさ、非情さ、スキのなさ、毒のあるところ」に猪木を感じるって（笑）。

山口　でも猪木さんは秋山を見て「なんかおとなしいね。もうちょっと与太った方がいいんじゃないっねえか」って言ってたね（笑）。「与太ったほうがいい」っていう言い方はバッグンだね（笑）。で、まず、みんなは5・27『PRIDE．14』の藤田vs高山はどう思ったの？

豪　確かにいい試合なんだろうけど……。やっぱり、個人的には高山に入り込み過ぎちゃったっていうのがあって。

ガンツ　もともと藤田を軸として見るのが無理がありましたから。

豪　無理とまでいうか（笑）。まあでも、結局は新日でもそうだったわけでしょ。外敵がベルト持って行っちゃうみたいな。

ウトレビュー◎

『PRIDE.14』

【○藤田和之（2R2分18秒TKO）●高山】
日本人同士とは思えない、ド迫力ファイトが横浜アリーナを揺るがした！　寝ても立っても壮絶な打ち合いになったこの戦いは、お互いがプロレスラーとしての凄みを見せつけた一戦だった。

山口　俺はね、プロレスのフィールドで闘うなら、藤田はキラーになるしか道がないと思うね。こないだの永田戦でもオレが見たかったのは、やっぱり〝キラー藤田〟だから。

豪　やっぱり、永田戦のような猪木祭りな寸止め藤田じゃなくて。

山口　そうそう。それはプロレスの試合を壊すとかシュートを仕掛けるっていう意味じゃなくて、場外乱闘があってもなんでもいいから、猪木さんのようにヨダレを流しながら闘う藤田っていうの？（笑）。それくらい試合に入り込んでる〝キラー藤田〟を見せてくれたら感情移入できるんだよね。試合後に永田と認め合っちゃうような藤田じゃなくて。

豪　狂気的な部分であったり、プロレスの枠内でバシバシ技を打ち込むというのであったり。

チョロ　でも藤田の中では以前にくらべて、キラーになってきてると思いますよ。こないだの武道館でも自信付いてきたんだなって感じられましたし。

山口　6・6の新日は初の座長興行で、立派に座長を務めたということでしょう。

チョロ　しかもマサ斉藤引退興行以来、2年4カ月振りの札止めしたからね！

山口　でも、それだけなんだよなぁ。浅草キッドの博士の話だと、とてつもなく会場は盛り上がったって言ってたよね。やっぱり、藤田がどうのこうの言う前に『紙プロ』で誰も見に行ってないってのが問題だよ（笑）。

豪　盛り上がったのは、セミの武藤の試合の影響があったからだと思うんですけどね。40分もつまらない試合を見せられたあとだから。

山口　でも藤田vs永田は俺がビデオで見た限りでは全然ダメだったよね。

豪　ちょっと愕然としましたよね（笑）。まあ、ビジョンのない武道館だったら、盛り上がるだろうとは思いますけど。

山口　むしろ前半のグラウンドのバックの取り合いとかのほうが面白かった。後半の〝なんちゃってPRIDE〟みたいな展開は、なんか嫌だなぁ。あれが〝闘い〟だって言われると、首を傾げざるをえない。

チョロ　猪木さんは「あの試合が闘いを呼び起こしてくれた」って言って満足してましたよね。

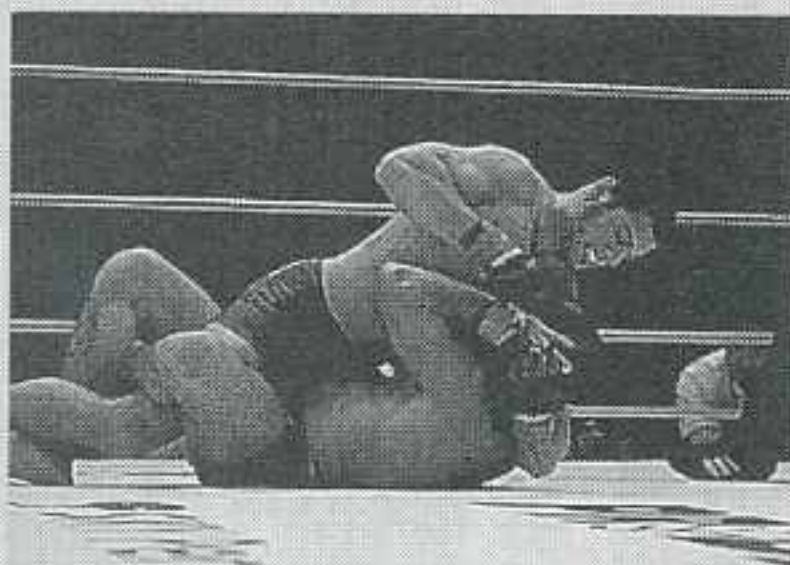
ガンツ　あれに文句を言わない猪木さんにも残念って感じがしますけど。

山口　でも、あれで猪木さんが「あ

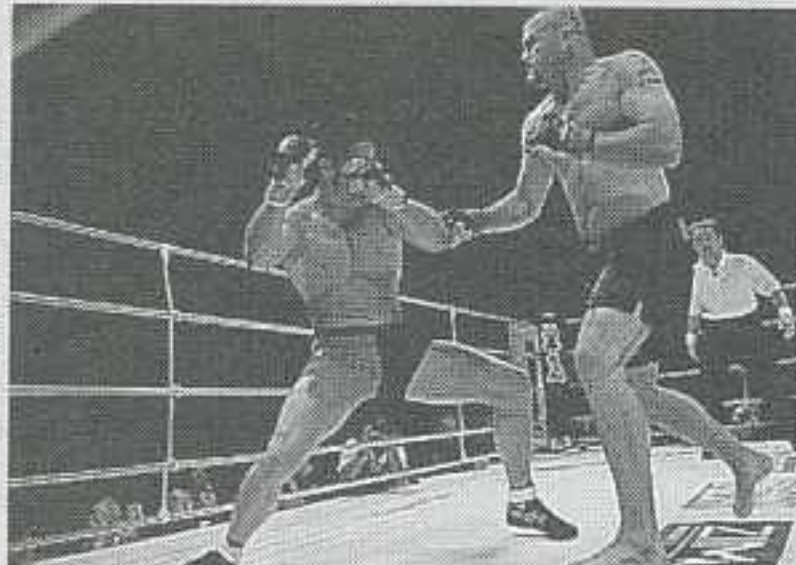
5：27『PRIDE.14』PETET REVIEW

大山vsシウバは桜庭ページへ行け!!

PRIDE.14

ニーノ“エルビス”シェンブリ vs ジョイユ・デ・オリベイラ

カーロス・ニュートンでさえ極められなかったルタの強豪に1本勝ちをおさめたニーノ・エルビス。打撃やタックルなどの動きでは「オイ？　オイ？　大丈夫!?」と不安を感じさせる部分もあったが、アブダビ王子が惚れ込む寝技の技術は素晴らしいの一言だ！　次回はバック・バンド付きで歌いながら入場してくれ!!

PRIDE.14

チャック・リデル vs ガイ・メッツアー

どちらが勝ってもおかしくないド派手な殴り合いに終止符を打ったのは、チャックの強烈右フックだった！　不自然にマットに横たわるメッツアーの姿が、この戦いのアグレッシブさを象徴しているかのようだ。リデルを送り込み、『PRIDE』と友好関係にある新生UFC。次回はナント、密林番長・ランデルマンが殴り込みだ！

PRIDE.14

ゲーリー・グッドリッジ vs ヴァレンタイン・オーフレイム

KOK準優勝の勢いに乗ってオーフレイムが『PRIDE』期待の飛来！……　だったのだが、ヒザ蹴り1発であっさり決着!?　確かに危険な体勢だったといえ、あまりにもあっけなかったオーフレイム……、ガッカリだ。門番が扉を閉めたとうよりは、扉のノブすらさわれなかった様なオーフレイム。次回はあるのか!?

「藤田vs永田」は要するに、猪木さんの実験でしょ（山口）

んなんじゃダメだ」って言ったら、ネットに書き込んでるファンと一緒になっちゃうから、それはそれでいいんだよ。猪木さんは作り手側なんだから。なにか狙いがあるんだよ、きっと（笑）。

豪　いままでの流れよりは少なくとも良くなって、客も沸いたわけだからさ。猪木さんがあれにダメ出ししたら、全てにダメ出しすることになるよ（笑）。

山口　要するに、これは猪木さんの実験でしょ。まだまだ実験の途中だってことは、猪木さんの発言を読んでいればわかるじゃん。猪木さんが現役じゃなくても、「猪木プロレス」っていうのは絶え間なく変化していくわけだしね。だから、猪木さんは引退したいまでも、実験を仕掛けてるでしょ。今回の実験は、99・1・4のオーちゃんvs破壊王を始まりにして、『PRIDE』までも巻き込んで（笑）。じゃあ新日本の中で、誰が他に実験してるんだって話だよ。仮に武藤vs馳の試合を実験だって言われたら、「すいません」って謝って俺は帰るしかないもんな（笑）。

豪　ある意味、壮大な実験ではありましたけどね（笑）。

ガンツ　でも猪木さんの実験は応援できないですね〜。

山口　それはまた、なぜ？

ガンツ　格闘技がプロレスに寄るよりも、プロレスが格闘技に寄った方が面白いと思うんですよ。より過激になるわけですから。あれじゃ格闘技に寄ったって言うよりは……。

山口　これはサダハルンバが言ってたんだけど、昔は他の格闘技がプロレスのパロディをやって、いまはプロレスが他の格闘技のパロディをやってるわけでしょ。プロレスが求心力を失ってる中で、猪木さんがどういう求心力をプロレスに付けていくかっていう過程を見ていくのが面白いんじゃない。あとはもう役者次第だよね。

豪　役者という意味でも永田の方が出来る感じですからね。むしろ藤田の方が落ちる。

山口　でもまぁ、猪木さんの実験って、これまで全部成功ってことじゃなんだから、失敗したら失敗したでいいじゃん。そこにダイナミズムがあれば。小川や藤田が絡んできたお陰で、90年代の新日本よりは面白くはなってるんだからさ（笑）。

豪　しかし、ヒドイ話ですよね。猪木さんは人にやらせて文句ばっか言って（笑）。

チョロ　実験しっぱなしだし（笑）。

山口　ガハハハ！　でも猪木さんは、自分でもいろんな手法を実験してきたよ、誰よりも。

ガンツ　で、でも『PRIDE』で藤田vs高山という試合が現実として行われた後に、何で藤田vs永田のあういう試合をやる必要があるのかって思うんですよ。

山口　だから、実験なんだから、いいじゃん。お前もしつこいね（笑）。猪木さんは、「藤田vs高山戦を見て、あんなんじゃダメだと言った新日の幹部のバカがいた」って言ってたでしょ。猪木さんの中にだって葛藤はあるとは思うよ。だから、新日本幹部に対しても、わかりやすい〝闘い〟っていうのを提示したんだろうし。プロレスの枠内でね。俺だって『猪木祭り』や今回の藤田vs永田戦が猪木さんの中でベストだと考えてるとは思いたくないよ（笑）。ガンツの中では、猪木さんはOKだと思ってるんじゃないかっていう不安があるんでしょ？

ガンツ　まあ、そうですね。

豪　というか、猪木さんの最終的な着地点が見えないですよね。緊張感のあるUFOみたいなことをやればいいってことなんですか？

山口　いや、俺にも全くわからない（笑）。でも、着地点が見えないから、俺はドキドキするんだけどね。でも現実的に立ち昇っている〝なんちゃってPRIDE〟に対しては、試合の方法論としてはNOだけどね。

ガンツ　藤田vs永田戦はコールマンでもできますからね。プロレスラーじゃなくても出来るんですよ。やっぱりプロレスはバンプじゃないですか？　あの試合は受け身は必要ないですよね？　パンチが当たってないんですから！

山口　お前はなんて言い方をするんだよ！（笑）。でもね、『PRIDE』というか、バーリ・トゥードでの闘いをスポイトで掬って、今回、新日本のリングに落とした。それをきっかけにして、取りざたされてる、猪木軍団vsK―1とか、猪木軍団vs『PRIDE』軍団っていう方向に向かって行ったら、これは面白いと思うよ。猪木軍団が全力で、K―1や『PRIDE』に戦争仕掛けて勝ったら、プロレス復権は夢じゃないよ。そういう楽しい妄想をしようよ（笑）。

豪　だから、今回の藤田vs永田戦にしてもガチだ何だっていう問題じゃないんですよね。それはプロレスがプロレスの枠内で、どれだけ出

◎藤田和之バ　ウ

新日本

【◎藤田和之（10分57秒TKO）●永田裕志】
こちらも大盛り上がりだった6・6新日・武道館。藤田が『PRIDE』必勝ムーブで永田を撃破と、高山戦と比較されること間違いない結末をファンはどう見たのだろうか？

PRIDE.14　ヒース・ヒーリング vs ビクトーベウフォート

『PRIDE.5』の桜庭戦で、拳を骨折して以来、力石戦の後遺症で顔を殴れなくなった矢吹丈の様になってしまった感のあるビクトー。今回の相手は快進撃で波に乗る荒馬ヒーリングだったが、無難にテイクダウンでグラウンドに持ち込み、うまさの判定勝利……ってまたかよ。頼む！　殴れ！　殴るんだビクトー！

PRIDE.14　小路 晃 vs ダン・ヘンダーソン

実力者・小路を全く寄せ付けず、藤原敏男が絶賛した打撃でボコボコにしたヘンダーソン。本当に強かった！　それでもバーリ・トゥードはアルバイト感覚に近いアマレスエリート・ヘンダーソンさんの次の『PRIDE』の登場は、家を新築してからだそうです。小路！お前は何処に行く!?　何でもいいからスゲエ小路を見せてくれ!!

PRIDE.14　ギルバード・アイブル vs イゴール・ボブチャンチン

な、なんと、『PRIDE』ストライカー頂上対決はボブチャンチンがチョークスリーパーでアイブルに勝利！　意外な結末にオドロキ感とガッカリ感場内に入り乱れた。う～ん、もう一丁ッ、と言いたいところ。それにしてもアイブルは『PRIDE』では消化不良の試合が続いている。このままハリケーンは巻き起こらないのだろうか!?

来るかっていう可能性を馬鹿にしてるというか。

山口　だから、猪木さんが現役末期のときに"キラー猪木"って言葉が流行ったでしょ。で、その頃に行われた猪木vs天龍を「あれこそがキラー猪木だ」って書いたマスコミもあったよね。ロープブレイクをしても全然離さない。チョークスリーパーで天龍を失神させちゃう。そういう猪木さんを指して。でもあれはグレードの高い猪木さんを見てきた俺らからすれば、全然キラーでも何でもないんだよ（笑）。

豪　キラー・ギミックっていうか。

山口　そうそう。キャラとしてのキラーでしょ。

豪　猪木の本当のキラーさってのはアクシデントをプラスにしていく部分なんですよ。長州戦での長州謎の流血で、とりあえずキレてごまかす猪木っていうか（笑）。

山口　ガハハハハ！　あれはね、キレてごまかすっていうか、血を見て狂ったって解釈した方がいいね（笑）。突然、流れ出た血を見て狂う猪木っていうさ。それで話を戻すと、キャラとして打ち出された"キラー猪木"を受けいれる世代がいても全然構わないんだけど、アクラム・ペールワン戦やグレート・アントニオ戦、あるいは一連のシン戦での怒りのエネルギーや、心の奥底に眠ってる部分を表現するプロレスができる猪木さん、リングの上で狂い人になれる猪木さんと比較すると、高山戦の藤田ですら、キラーじゃないと思うんだよね。

心の奥底に眠ってる部分を表現できる猪木さんのプロレス

豪　そうですねえ。

山口　ガチンコの世界で、本当に凄いことなんだよ。もはや俺らが目にしたことない闘いなんだから。

豪　プロレスラー同士であういう試合をしたわけだからね。

山口　確かに藤田の可能性は大いに感じられるんだけど、藤田にはもっと狂ってほしいよね。ふてぶてしいキャラとか、毒舌を吐くとかそういう部分ではなくて、本質的な部分で狂ってほしいなあっていう気はするよね。

豪　たとえば、何の段取りもなく、いきなりリング上で百瀬（博教）さんにビンタするとかね（笑）。

山口　ガハハハハ!!　なぜだ！

豪　「ウワー?」って、みんなが引くようなことしてほしいじゃないですか。「なにやってんだ、コイツ!?」って（笑）。でも、そのあと笑顔で握手でもしてごまかすっていう（笑）。

山口　ガハハハハ！　『PRIDE』のリングでは、格闘技の試合だから、冷静さを保たなければ勝てないよね。だから、狂い方っていうのは難しいと思うんだけど、でも確実に猪木さんが全盛期のころに『PRIDE』に出たら、狂えてると思うけどね。要は、10万人の群衆のがいる敵地の中で、しかも兵隊にライフルを突きつけられてる中で、その国の英雄の相手の腕を折れるかってことだからね（笑）。

豪　ただ、最近思ったんですけど、猪木さんが全盛期のとき『PRIDE』に出たら云々ってよく言われるけど、全盛期に『PRIDE』があったら絶対出てないだろうなって。

山口　俺の妄想の中では、攻める猪木っていうのがあるけどね。

豪　むしろ逆にプロレスの方でレベルアップしたことをやって対抗したんだろうなって思うんですよ。

山口　それも当然あり得るよね。でも、いずれにしても狂ったことをやっていたでしょう（笑）。その頃に『PRIDE』があったら、本当に真の意味でのジェラシーを『PRIDE』に持ったと思うよね。猪木さんは逆に受け入れつつ、ヒドイ仕打ちをしただろうね（笑）。相手を懐に入れると見せかけて突き放すっていう。

豪　笑顔でクビ絞めるようなね（笑）。

山口　そうそう。いまでも『PRIDE』に対して、それをやりつつあるじゃない（笑）。

豪　取りあえず『PRIDE』の高いチケットがどうとか、嫌味としか思えないことしか言わなくなってきてますからね（笑）。

山口　「元気があれば『PRIDE』の高い切符も買える！」（笑）。

豪　あれは明らかに桜庭に対するジェラシーだろうなって思ったんですけどね。桜庭に「元気ですよーッー！」をやられちゃったから、「今日はマイクはいいや、嫌味でも言って帰ろう」って。しかも笑顔で（笑）。猪木さんの笑顔って怖いですからね。

山口　そうだよな（笑）。笑顔の猪木さんは怖い。それは猪木さんの二重底の部分だよね。だから、藤田に物足りなさを感じるとしたら、その二重底の部分だと思うね。

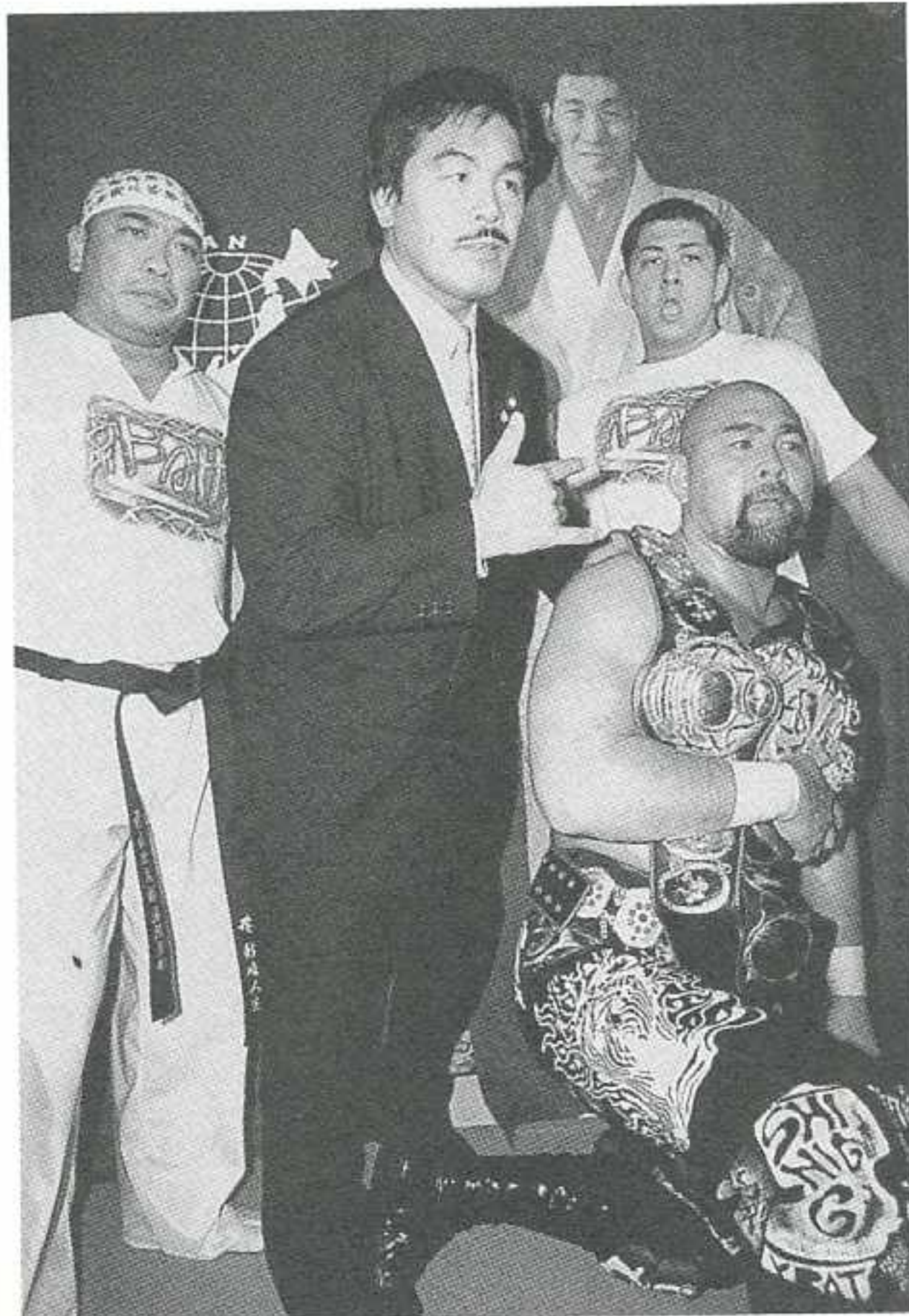
豪　……本当に、いまはただのパンクラスの選手なんだなあ。高橋道場の選手だなあっていう。そういう強さっていうか。

ガンツ　だから、藤田には本性出してほしいですよね。プロレスラーを名乗る必要もないと思うんですけどねえ。自分をプロレスラーと思ってるように思えないんですよね。

山口　小川もファンや関係者にそう思われてるわけでしょ？

豪　本人が必死になろうとしてるのと、本人にその気がないのとの違いはありますけどね。だから2人が入れ替わればいいんですよ。小川がやれば光る「格闘家としてプロレスラーと闘う」というのを藤田がやっちゃってて、藤田がやれば光

今までプロレスと格闘技を上手く両立できた人っていないですよね（豪）

る「プロレスラーとして徹する努力」を小川がやっちゃってるから。
山口　なるほどね。ポジションが入れ替われば藤田はプロレスラーとして光るんだ。でも、なんだろうなあ、オレは藤田vs高山戦で、藤田にプロレスラーを感じたって『SRS・DX』で言ってたんだよなぁ（笑）。
豪　言ってましたよね。ボクは全然それを感じなかったんで、なんでなんだろうって思ったんですけど。
山口　俺なに言ってたっけ？（笑）。
豪　皮を一枚剥いだらプロレスラーが見えたって言ってたんですけど、何が見えたんだろうって思ったんですよ。
山口　それちょっと、読み返さないと思い出せないなぁ（笑）。あ、だから「プロレスラーとしての衣を一枚剥ぐと、格闘家の姿が見えてくる」というのが最上級のプロレスラー像だったけど、いまは「格闘家の衣を一枚剥ぐとプロレスラーとしての姿が見えてきた」っていうのが、いまの時代性の中では一番最上級のプロレスラー像なんじゃないかってことだよ。その、新しい時代の〝新プロレスラー像〟が可能性として見えてきたということなんじゃないかなぁ（笑）。
豪　藤田から見えたわけじゃなくて？
山口　あの試合の中に見えたってことだよね。
豪　それってボクは高山の存在が大きかったと思いますけどね。藤田には可能性はありますけど、いままで結局プロレスと格闘技を上手く両立できた人って誰もいないんじゃないですか？
チョロ　ジュニアになりますけど、そういう意味では村浜の評価は高いですよね。プロレスだったらプロレスって割り切ってやってるし。
山口　だから、結局、やる側や見る側が、どう「プロレス」というものを捉えてるかという問題だと思うんだよね。俺は村浜vs田中稔戦は「好試合」だと思うけど、「いいプロレス」だと思わないからね。
豪　アレはイマイチだったよね。
チョロ　凄い絶賛されてましたけどね。
ガンツ　ボクは両方出来る人が素晴らしいともあんまり思わないんですよね。
山口　だから、藤田にしても『PRIDE』の闘いこそ「プロレス」って言いたいんだけど、現実のプロレスがそうじゃないから、高山戦の前に「格闘家としてプロレスラーを潰す」っていう発言をしたと思うんだよ。
豪　おそらくこないだの武藤vs天龍が、プロレスの中でのクオリティーは1番高いんだろうなって思いますけど。
ガンツ　いやあ、武藤vs天龍は最高に面白かったですよ！　あれが純プロレスが生き残っていく道だなと思いますけどね。
豪　ただ、問題はそのスタイルを継承できる選手がいなくて、後継者のいない伝統芸になっちゃてるんだよね。だから未来を見ると藤田に乗るべきってなっちゃうのかなって。天龍のスタイルで、できる人がいるかっていったら、もういないでしょ。武藤ぐらいプロレスができる人って誰だよっていう。天山・小島がいい線いってるって評価されるのが現状なわけでしょ。
山口　GKは今年の1・4の天山を絶賛してたけどね（笑）。
豪　ホントにそれがトップになるのはノーフィーチャーな感じがプンプン漂ってるでしょ。天コジがは確かに上手いんだろうけど、はっきり言ってかなり末期的なわけじゃないですか。
山口　試合そのものだけを見せていくっていう手法じゃ、純プロレスには限界がきてるじゃない。WWFは、ドラマをライブで見せるっていうことまで昇華しちゃってるわけだから。
豪　武藤vs天龍も、もうちょっとその辺をウマく煽れば、メチャクチャ面白かったと思うんですよ。だって、元子さんが突然「武藤君だったら全日本をあげてもいい！」とかとんでもないことを言いだしてたんですよ（笑）。
山口　ガハハハハ!!　何を言い出すんだ（笑）。
豪　その直後ぐらいから天龍が「もう試合に出たくない」って北向き発言連発で、明らかに何かが起こっていたいう（笑）。実際に怪しい電波がビュンビュン出てきてるわけじゃないですか？　見てくださいよ、このゴング（No872）のグラビア！　武藤と元子夫人のツーショットですよ（笑）。
山口　ガハハハ！　凄いな！（笑）。
豪　こういうのをもっと全面に出していけば面白いんですけど。ドラマ的には最上級なわけじゃないですか。馬場ファミリーって、完全にマクマホン・ファミリー級なわけなんですから（笑）。
山口　武藤vs天龍は試合内容は良かったらしいけど、WWFのように「純プロ」を見せていく方法論のグレードが上がってるわけだから、「試合内容ではこっちの方が上なんですよ」っていう切り返しそのものが、もうすでに自主規制にしかすぎないもんな。
豪　せっかく、リアルなドラマもあるんだから、もっと外に伝えてくやり方に変えていかなきゃダメですよ。
山口　それは専門誌が悪いよ。試合だけ見ろとか、橋本にファイターに専念しろとか、プロレスの中にムリヤリ純粋性を求めようとするから。その試合内容で見せるやり方は、四冠王の時代に…。
ガンツ　四冠王ってなんですか？　四天王じゃないんですか？（笑）。
山口　あ？　四天王か？　馬場さんが存命中の抑圧された中で、〝あのときのもの〟として、試合内容だけで見せる四天王プロレスが成立したわけだから。それは、〝あのときのもの〟なんだよ。
豪　四天王は自己表現させてもらえなかった部分もありましたからね。
山口　そういう試合内容で見せるしかないっていう情念が爆発してたから面白かったんでしょ　だから「純プロ」は先細りする前にWWFスタイルに江戸城明け渡しちゃって、開国した方がいいんじゃないの（笑）。

豪　そしたら、江戸城を藤波社長ひとりで守っちゃったりしてね（笑）。

山口　ガハハハ！　城好きなだけにね（笑）。それからね、「試合内容」という言葉だけとっても、武藤vs天龍より、藤田vs高山のほうが俺は上だと思うけどね。

ガンツ　む、武藤vs天龍戦と藤田vs高山戦は較べられないですよ。

山口　なんで？

ガンツ　藤田vs高山戦と藤田vs永田戦を比較するのはできますけど。

山口　だから、それが「プロレス」を考えるときの自主規制であり、「純プロレス」を閉鎖的にしてる原因でしょう。藤田個人にしても、『PRIDE』に軸を置くのか、新日本に軸を置くのか、猪木軍団に軸を置くのか、

プロレスファンの理想でもあるから憎らしいほど強いってのは

それとも、どこにも軸を置かないのか？　それをハッキリするだけでだいぶ受け取り方も違うかもしれない。『PRIDE』、新日本、全日本と、5月6月のビッグマッチを比較して、どれが一番大衆に発信していく装置としての「歌謡曲」になりえる可能性があるかっていったら、俺はいまの時点では『PRIDE』だと思うんだよね。

チョロ　それじゃあ、やっぱり藤田じゃダメなんですかねえ。

山口　ど、どうして？

チョロ　藤田は歌謡曲じゃなくて〝ソウル〟ですから。ウヒャヒャヒャ！

豪　ウワッ！　そういうシメ？　今回？

チョロ　い、いや、真面目に言うと藤田は外人だったら良いと思うんですよ。ハルク・ホーガンみたいにアメリカンなノリで「猪木イズム最後の継承者」を名乗ってくれたらかなり乗れると思うんですけど。最初に会長（山口日昇のアダ名）が言ったように、いままでの日本人レスラーにいないタイプだから、受け取る側も難しいんですよね。

若貴兄弟によって外人横綱・曙の良い意味でのヒール的強さが引きだされた。外敵要素が強い藤田にも、常にそういった存在が必要なのかもしれない。

豪　いっそブラジルに帰化するとか（笑）。

山口　そうか！　猪木さんの隠し子とか、そういうのがよかったんだ（笑）。

チョロ　外国人レスラーが「シンニホンハ、オチテネエゾ！」って言ってくれたら、そうとう乗れると思うんですけどね（笑）。

豪　つまり、藤田は国籍が悪いと（笑）。日本人なのがいけないわけね。アドバイスはそんなとこだと（笑）。

山口　ガハハハ！　それが結論か！　藤田！　いまからブラジル人に帰化しろ！って（笑）。

豪　ブラジル人に帰化したら、「猪木イズムの継承者」としてみんな認めますよ（笑）。そこまでやったら、もう何も言わない。アントニオも名乗っていいし（笑）。

チョロ　でも、藤田はなんか生き急いでいる感じがして、目が離せないんですよね。

山口　生き急いでるっていう感覚はわかるなぁ。

ガンツ　まさにダイナマイト・キッドみたいな（笑）。

チョロ　いい意味で、いなくなってから評価が高まるタイプと思うんですけど。

山口　それは短命ってこと？（笑）。でも、その生き急ぎ感がもっとでれば面白いんじゃないかなぁ？　いままでのプロレスは、選手の成長と共に、選手が現役を終えるまで一緒に見ていくところに共有感が生まれたんだけど、そういう甘い関係をバシッと断ち切る存在になったら面白いね。でも、この間の永田戦とか見ると、なんか他のプロレスラーやファンと協調しようというのが見えちゃったから、ガンツなんかは嫌なんじゃない？

豪　こんなプロレスやっていたら、10年持つ体が1年でダメになってしまう。猪木さんの発言を拾うならそこだろうってことですよね。

山口　今回の永田戦は、純プロレスに戻ってきたときの居場所を作ってるって見えてもしょうがないもんね。

豪　ホントもったいない。せっかく生き急いでいるんだから、ダイナマイト・キッドぐらいハードヒットで派手に吹っ飛ぶプロレスやらなきゃ。

ガンツ　一番刺激的なのは小川と絡むことですよね。

豪　藤田がこのままプロレスと格闘技の両サイドをうまいこと渡っていけば、完全に小川の対立概念として光ってくるわけじゃないですか。ビックマッチで藤田が呼ばれるようになると、小川の食いブチがなくなるわけですから。面白いことにはなってきますよね。

山口　チョロとガンツは藤田のいいところをひと言で言うと、なに？

チョロ・ガンツ　（同時に）強い！

豪　シンプル・イズ・ベストですねえ。

ガンツ　単純に日本のプロレスラーで一番強いんじゃないですか？

山口　小川より強いんだ？

ガンツ　藤田に勝てそうなのは、相性という意味でTKだと思いますよ。

山口　ガンツの中では評価は高いんじゃん、藤田は。

ガンツ　だから、もっと憎らしくなってくれれば面白いと思うんですけどね。

山口　昔の相撲でいうところの北の湖みたいなもんだ。憎らしいほど強いっていうのは、一方でプロレスファンの理想でもあるからね。

豪　相撲でも何でもそうですけど、強くて憎まれるのはやっぱり外人じゃないですか？　外人横綱とか。

山口　また外人の話か。

ガンツ　シメとしては、藤田は最強の外人横綱になれ！　そんな感じでよろしいでしょうか？（笑）。

豪　藤田は外人になって生き急ぐ！「ダイナマイトキッド最後の継承者」ということで頑張ってほしいと（笑）。

チョロ　でも、キラーになれとか、憎まれ役になれとかみんなヒドイこと言ってますよね（笑）。

山口　おまえのほうがヒドイよ、外人になれなんて。やっぱり結婚が決まると、発言も吹っ切れるね。

チョロ　ち、ちっと……ダイナマイト・ちっと!!（意味不明の叫び）

【6月13日／編集部にて収録】

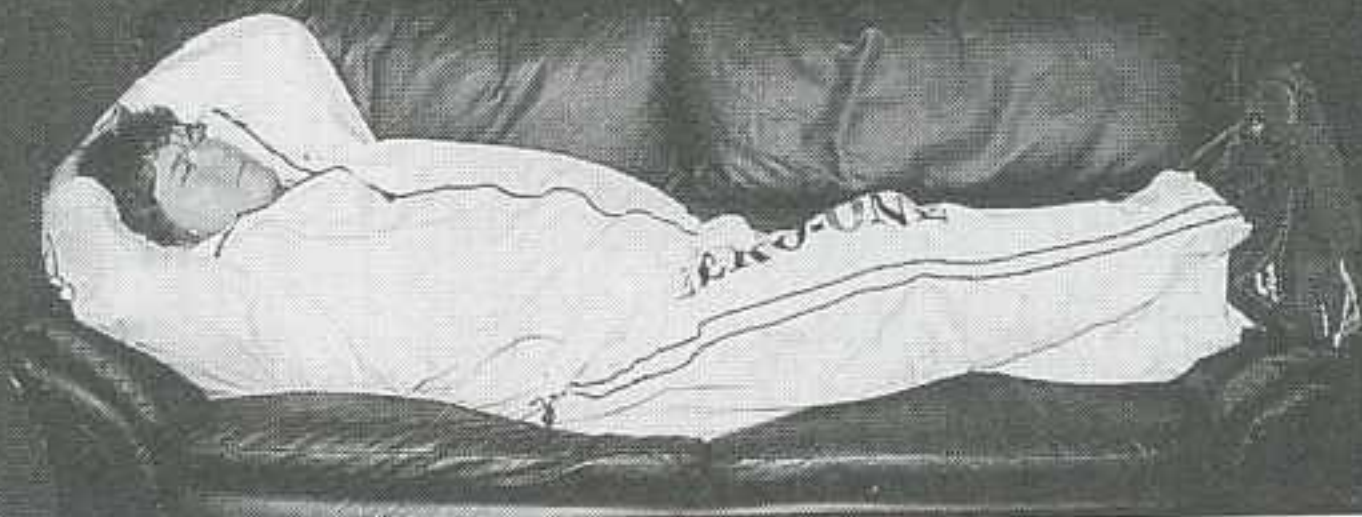
武道館での激闘後、タイで合体を果たした藤田&永田。それぞれ可能性は見えるレスラーの合体だけに、彼らの視線の先は気になるところだ。プロレスの明日はどっちだ!?　ⒸShow大谷泰顕

新日福岡ドームに現れた
この白覆面の正体が分かるまで

『紙プロ』本誌 半額セールを 続けます!!

ウガァ〜〜

お前は一体誰なんだ!?

こればっかりは
ワイも
ようわからん……

第8号
特集 さらば新日本プロレス

ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第17号
特集 実況パワフル北朝鮮

猪木×永島のナマハゲ対談（©大仁田）、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!?　ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

パンクラス公式読本［矛］

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

第13号
特集 道場破りとは何か?

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄＆上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第19号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

パンクラス公式読本［盾］

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

第14号
特集 神秘とは何か?

佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第21号
特集 幻的格闘技

古武道を通じてプロレスを考えよう!　前田日明も登場!　スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

第15号
特集 インディペンデントの逆襲

インディーレスラー10人斬り＋大物インディー3人　高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

第22号
特集 この人が喝っ!!

巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

第16号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談

極真とは何か?

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

50%

とっても気になる申込み方法

●その他の号、『猪木とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』『大山倍達とは何か?』は完売しました。どうしても欲しい方は旅にでも出て探して下さい。
●お値段の方は半額セールのため、8号は700円→350円、11号〜22号は780円→390円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円→630円、『極真とは何か?』は1530円→630円、『紙の前田日明』は送料込みでサービス価格の2000円となります。
●送料は1冊＝310円、2冊＝380円、3〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上は700円となります。
●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

【郵便振替】——00130-3-769154（株）ダブルクロス
【現金書留】——〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス

★50%OFFセール特別設置店★
アイドール新宿店・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・パディスラム・タコシェ

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
(通称＝I編集長)
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

Inoue mode

――さて井上さん、今月の御題は『21世紀のチャンピオン像』ということです。ま、要するに藤田を軸にして考えていこうということなんですが。

井上　はい。

――ここんとこ、藤田のビッグマッチが続いていますよね。まずはvs高山戦からお聞きしましょう！

井上　まず、あの試合は非常にストレートだったということが一番に挙げられる。高山は「もう一ヶ月欲しかった」って言ってるけども、それは本心だと思うよ。腰のボルトが云々という話も本当だろう。そういう意味ではやる前から勝負は決まっていたという見方もあったからねえ。でもね、俺が思ったのはとにかく藤田は打たれ強い！

――まあハンパじゃないっすよね。

井上　一点集中の急所を攻め続けるような攻撃をしないと、藤田は倒せないでしょう。ほんで、藤田vs永田なんだけどね。

――あ、もうそっちに行っちゃいますか（笑）。

井上　俺はあの試合は、プロレス史に残る試合だと思っているから！

――おお！　いやあ、実は僕、現時点でまだ観てないんですよ。

井上　やっぱりね、永田と藤田という、今一番充実しているというか、ハッキリ言って一番強い連中だからねえ。

――一番強い！

井上　言うちゃ悪いけど、永田や藤田、あとは天コジ。この連中だよ、これからは！　ハッキリ言うてね、天コジなんてもっと実力を評価されないとイカンよ！（ドンッとテーブルを叩いているはず）。今は人気が追いついていないようだけどな！

――逆に人気が追い越しちゃってるような気もするんですが（笑）。

井上　藤田vs永田はな、俺は藤田vs高山よりいい試合でしたよ。どっちもいい試合だったけど、俺は永田戦の方を評価する。

――へえ。

井上　やっぱり試合の中にテクニックがあり、パワーがあり、スタミナがある。実力ナンバーワン決定戦ですよ、言うちゃ悪いけど。そしてこの試合で、新世代が武道館のメインを張ったというのはね、これは後に語り継がれるような事件ですよ！

――なるほど。

井上　そういうことをマスコミはもっとちゃんと書かないとダメなんだよ！「これからは藤波でも長州でも天龍でもない。藤田であり永田であり中西なんだ」と。マスコミには大いに責任があると俺は思う！　マスコミがハッキリ書かないと、デルフィンたちはわからないんだから。きっちり伝えたら、「あ、これからは藤田たちの時代なんだな」ってデルフィンもわかると思うんだよ。

――はい。

井上　ハッキリ言ってね、その前の武藤vs馳なんて、プロレス者はそっぽ向いてたんだから！　いや、プロレス者はわかるよ。デルフィンたちまで試合を観ないでぺちゃくちゃお喋りしてたんだからな。

――評判よくないようですね、あの試合は。そっか、そんなに藤田vs永田はいい試合だったんですね。

井上　結論を先に言うと、これからのチャンピオンは間違いなくプロ格ファイターだよ！　そして若い世代であること。プロ格と世代交代。これがカギですよ！　何度も言うけど、藤田vs永田は、その両方を満たしたという意味で、歴史的な試合なんですよ！

――なるほど！

井上　でもな、不満もあるんだよ。あの試合の翌日、永田は新日の事務所に顔を出してるんだな。そんでインタビューに答えたりしているんだけど、俺はガッカリしたよ、言うちゃ悪いけど！　やっぱりね、あれほどの試合の翌日にケロッとした顔で取材に応じていたりすると、ファンからは、「なんだ、プロレスってそんなもんか」という誤解を受けてしまうんだよ。やっぱりビッグマッチの後は静養するなり治療に専念するなり、そういうことが必要なんだよ。

――そうですね、そういう意味での演出ってとても大切だと思いますね。特に今の日本のプロレスならまだまだそういう演出が説得力を持つというか、必要なんですよね。

井上　そんなことで試合の価値が下がったりするのは馬鹿馬鹿しいんだから。とにかく、何度も言うけど、永田や藤田をもっと押し出さないと、新日本は。あの連中で商売できるようにしなきゃいけないんだよ！　会社の上の連中は怖がってるのか知らんけど、もう長州や藤波じゃないんだから。

――結局、うまく次の世代にスライドできないってことですよねえ。例えばね、井上さんなんかも長く『ファイト』の編集長として活躍していたじゃないですか。次の世代に編集長の座を譲る時って抵抗はなかったんですか？

井上　ない！　そんなもん、アンタ、井上イズムなんかその時点で古かったんだから。だから次の世代には期待したよ。

――井上さんの次はS氏ですよね。

井上　彼は非常にデルフィン的な男だったから、俺とは全然違うことをしてくれると期待したな。

――でも僕の記憶では割とすぐにフラ

今月のお題

藤田和之は新時代の王者として相応しいのか？

『PRIDE・14』でのvs高山戦、新日本のvs永田戦、とメインを張った2試合が、ともに高い評価を得た藤田和之。まさに新時代のチャンピオンに相応しい闘いぶりだったが、この藤田を井上さんはどう見たのか？「喫茶店トーク」今月も元気いっぱいでスタートです。

聞き手／原一博（元タコヤキ君）

ンク井上さんに代わりましたよね。で、フランクさんって井上さんのテイストがあるじゃないですか。個人的にはやっぱり『ファイト』って井上色が残っているというか、似合うと思うんですけど。

井上　確かにフランクは俺に似ているところがあるかもしれんな。

――どうなんですか、次の世代の『ファイト』を読んだりして、「やっぱり俺のほうが上だ」とか思わないんですか？

井上　思わん！（キッパリ）。

――あ、そうなんですか。ターザンさんなんて、自分の抜けた後の『週プロ』をガンガン批判してましたけどね。

井上　俺はそうは思わなかったな。それぞれにいいところはあるんだから。山本がやってた頃も、「こういうところは山本は凄いな」って素直に思っていたよ。俺がやってた『ファイト』は俺の『ファイト』なんだからって、そんだけだよ。

――ということは、人の記事なんかどうでもいい？

井上　どうでもいいですよ。全然気にならない。むしろ昔の自分の記事を読んで、懐かしんだりはするけどな。

――じゃあれですね、自分の記事の中での優劣というか、そういうことの方が気になると。

井上　そうそう。自分で気に入っている記事は10や20はあるけども、自分でいいと思う記事を読んでると、「この井上って男は凄いな」と感心するからねえ！

――究極の自己愛ですね（笑）。

井上　それぞれが自分のプロレスを確立することが重要なんだから。

――なるほど！　確かに最近、借り物でプロレスを語る輩が多いですよね。大して好きでもないくせに、猪木さんを語っていればいいやってのが。

井上　自分がいいと思ったものに自信を持てばいいんだよ！　だから俺は今の藤田は凄いって押すしねえ。藤田が新日を離脱した時、俺は「来年の暮れには藤田がメインを張っている」と書いたんだよな。ところが暮れどころじゃない！　現実はもっと先を行っていたんだから。

――いつも5年10年先を読む井上予言も、いまや現実の流れの方が速いんですね！

井上　それが時代なんだよ！

――ここで一発井上予言を聞きたいですね（笑）。

井上　予言というか、これはいつも言っていることだけど、50年後にはプロレスなんかなくなってるんだからな！（ドンッ）。

――最近よくおっしゃってますよね。

井上　プロレスだけじゃない。野球もサッカーも相撲も陸上競技も全部跡形もなく消えてますよ、言うちゃ悪いけど！

――凄いですねえ！　その根拠は何なんですか？

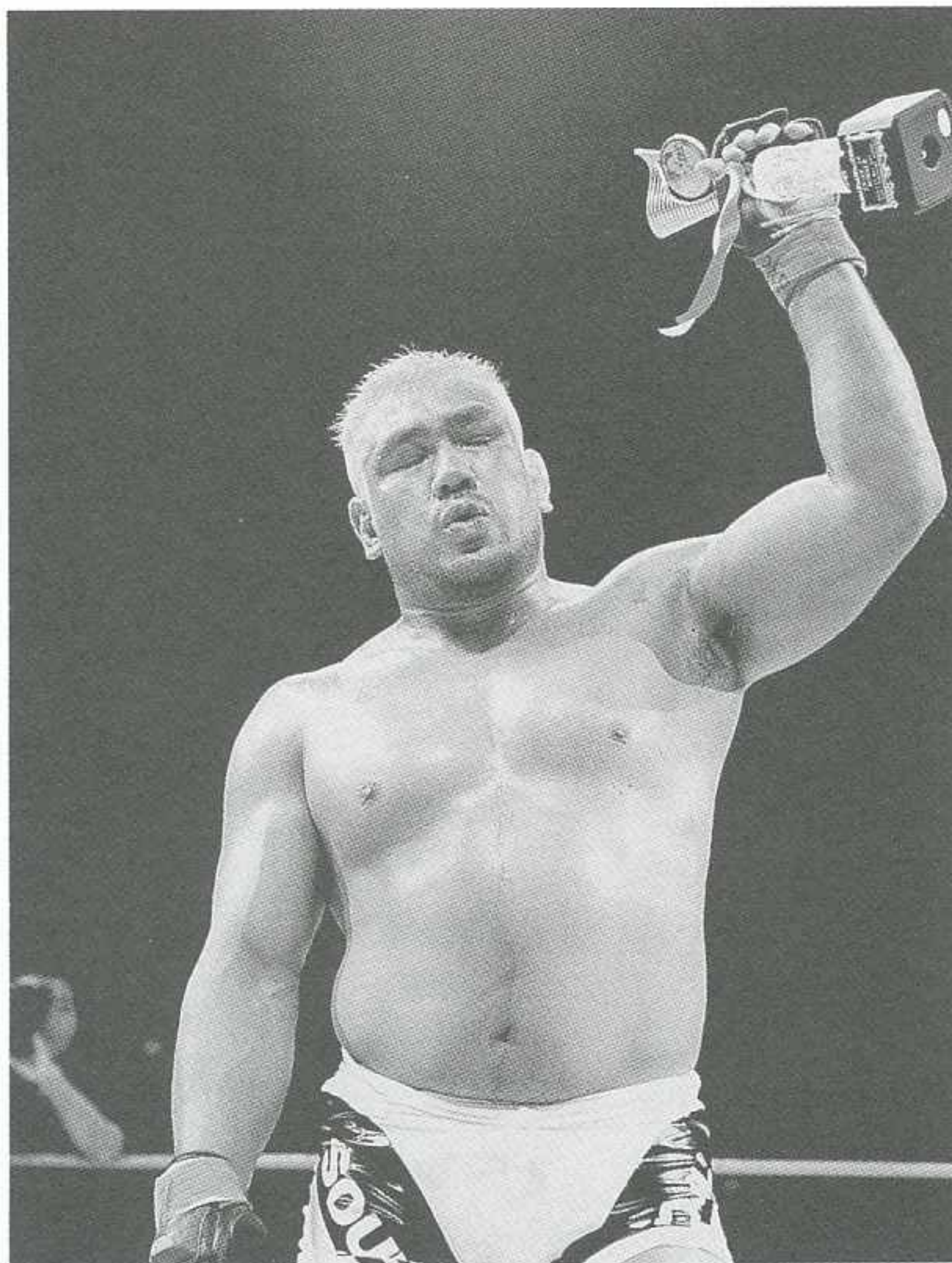
井上　そんなもん、アンタ、ステロイドですよ！（キッパリ）。

――ステロイド！

井上　この間ニュースで見たんだけど、どこかの国では警官にステロイドの使用を認めているらしいんだよな。そんなもん、ステロイドだドーピングが認められるようになってみなさい、スポーツで優劣を争っていたって何の意味があるんだ！（ドンッ）。

――50年後は凄い時代になるんやなあ（笑）。

井上　言うちゃ悪いけど、誰でも陸上で世界記録を出せるようになるんだもん。俺だって100メートルで世界記録狙いますよ、ほんなら！

――ワッハハハハ！（爆笑）。死ぬぅ。ステロイド漬けの井上さんって絶対見たいですよ！　お願いですから長生きしてください。今日はありがとうございました。

言うちゃ悪いけど今月の結論

藤田、永田、天コジの時代だとマスコミがちゃんと書かないとダメなんだよ！

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのＧＫ金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

●マット界の1ヶ月丸わかり●
紙の新聞

編集長／堀江ガンツ
助手／斉藤&片山

5/18
↓
6/20

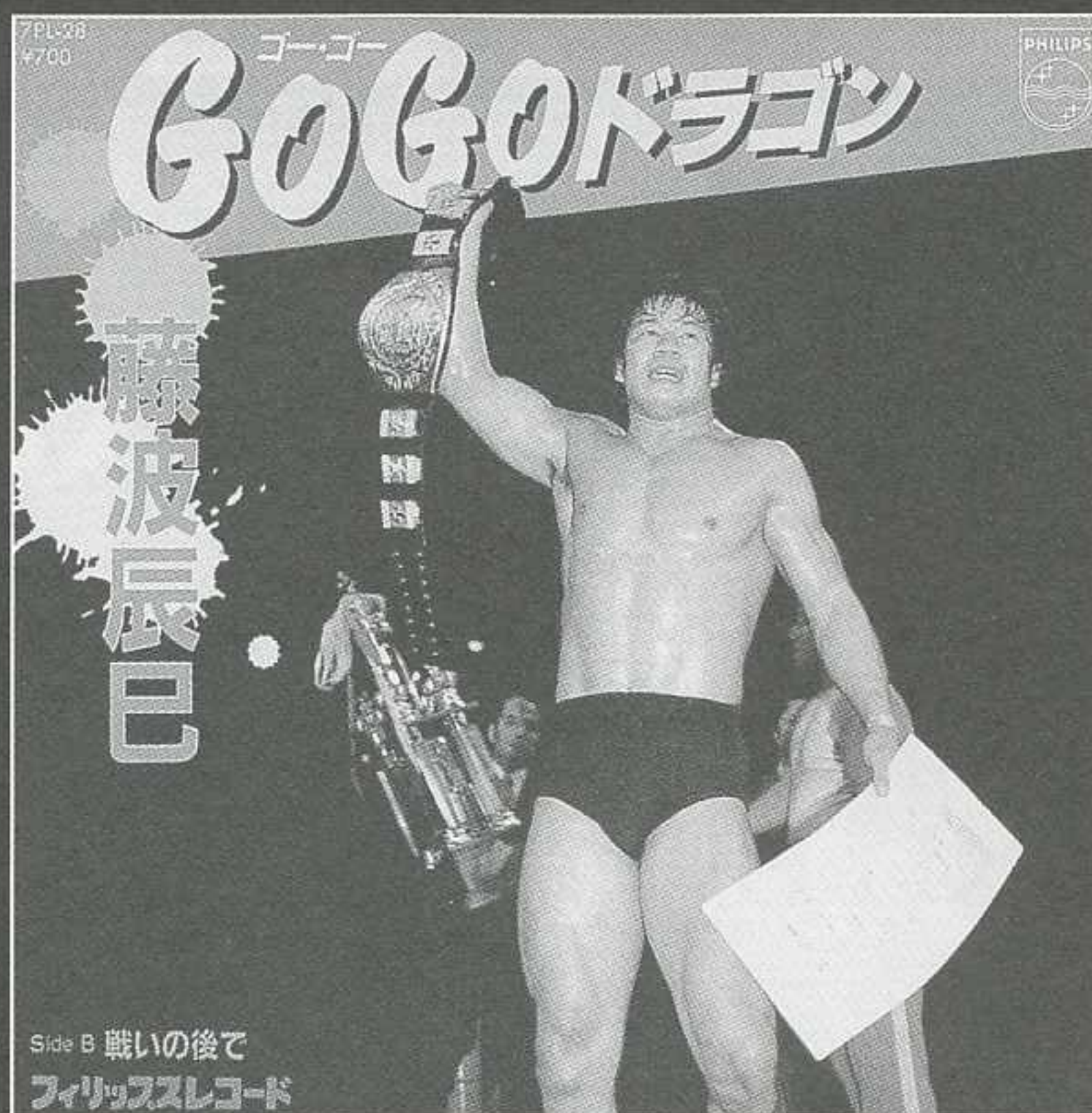
まさに時代はドラゴン！　参院選出馬騒動、三冠挑戦宣言、前田、三沢、長州とやりたい宣言などなど、連日ドラゴン狂い咲き状態の今月。幻のレコード「GOGOドラゴン」（81年発売）を発見したので紹介しよう。注目はライナーノーツ。そこに書いてあるドラゴンのメッセージにはこんなことが書いてあった。「プロレスラーという人生の中で、あの一番星のようにいつまでも光り続けていきたい」20年前から現役に固執してる……。

7PL-28
¥700
ゴーゴー
GOGOドラゴン
PHILIPS
藤波辰巳
Side B 戦いの後で
フィリップスレコード

5/22

【新日本プロレス】
東京スポーツ

永田が長州と健介を痛烈に批判！

今春からの新日へのアントン介入で、すっかり実権を失い、欠場に追い込まれた形となっている長州&健介。その政治力の弱まりを如実に表すように、22日付の東スポで永田による過激な「旧教育スタイル批判」が掲載された。「これ、シュートだろ!?」と思わずにはいられないほどなので、以下引用させていただく。「長州や佐々木は、技術論うんぬんじゃなくて、常におっかねえこと言ってビビらせるタイプ。だから誰も聞いていなかった。でも、いまはそういう時代じゃないし、2人が欠場してみんないい意味でのびのびやっている」後日、「こんな事かかれたら出世に響く」と永田は否定。

5/23

【全日本プロレス】

堀田が自由連合から参院選出馬！

堀田由美子が自由連合から比例代表候補として出馬する。3年前のスポーツ平和党からの出馬以来自身2度目となるが、「前は会社からやってくれと言われたからやったんで正直わけがわからなかったが今回は前よりかなり政治を勉強したし、気持ちが違う！」と鼻息は荒い。同席した自由連合代表・徳田虎雄氏の堀田評は「スポーツの人は八百長ないから!!　スポーツ界から20人くらいいきますよ！　スポ〜ティ〜に。素人ばっかりいきます！　まぁでもホント、誰でもいいんです。勇気がある人なら！」と人類のために偽りのない人生を生きてきたという徳田先生のあけっぴろげぶりはさすがである。なお堀田は今後、「佐山さんがマスクを被るなら…」という条件付きだがコスチューム姿で選挙活動を大々的に行っていく予定。（スネ夫）

5/21

【新日本プロレス】

ドラゴン「前田と話し合う準備ある」

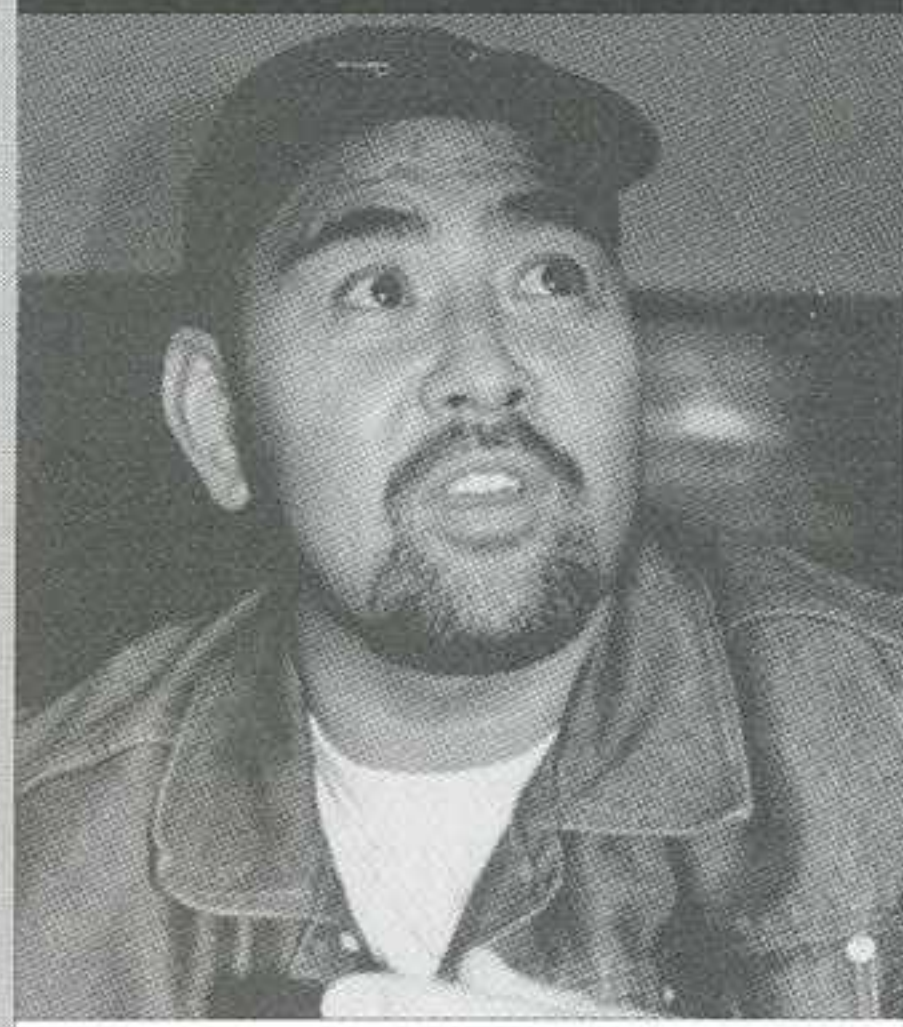
選手大量離脱に見舞われたリングスにドラゴンが救いの手をさしのべた！　ドラゴンがかつてのライバルのピンチに一肌脱ぐ。このところ前田と電話でのやりとりをしているというドラゴンは、「前田とはいつでも話しあう準備がある」と名言。会談次第では、新日本の選手がリングスの10周年興行に参加する可能性も出てきた。確かにブライアン・ジョンストン、ドン・フライなどが、KOKに参加すればこれは面白そうだ。さすがドラゴン、男気がある！……と思いきや、どうやらドラゴンの真意は、「前田、オレと闘おう」であることが濃厚。やっぱり……。

5/20

【全日本プロレス】
後楽園ホール

全日本で「J・鶴田一周忌セレモニー」

天龍、川田の両エースがシリーズ全休を発表するなど、揺れる全日本プロレスの後楽園大会で、昨年5月13日に肝臓がんの手術中に出血死したジャンボ鶴田さんの追悼セレモニーが行われた。ジャンボのお兄さんがジャンボが「オー」をやっている遺影をもって登場。新人時代、ジャンボの付き人を努めた鬼神・ターザン後藤も駆けつけた。そしてメインでは18人参加の追悼バトルロイヤルを開催。天龍が「オー」をやるなど、それぞれがジャンボへの哀悼の意を表した。結局優勝は長井。そういえば長井は最近、ジャンピング・ニーをフィニッシュにしている。

5/18

【新日本プロレス】

武藤が改めて、西村をBATTに勧誘

「プロレスLOVE」を合い言葉に、太陽ケア、馳、新崎人生など、無作為かつデタラメチックにメンバーを増やしているBATT。連日、「LOVE」を感じるレスラーの勧誘に余念がないが、中でももっとも熱心に誘われているのが、無我を守り続ける男・西村修である。ガンと闘いながらリングに上がり続ける西村に、武藤が「プロレスLOVE」を感じまくってのことだと思うが、それにしてもしつこすぎるきらいがある。まさか！　武藤は、西村をメンバーに引き入れることで、ドラゴンを完全に孤立させるつもりじゃ……。

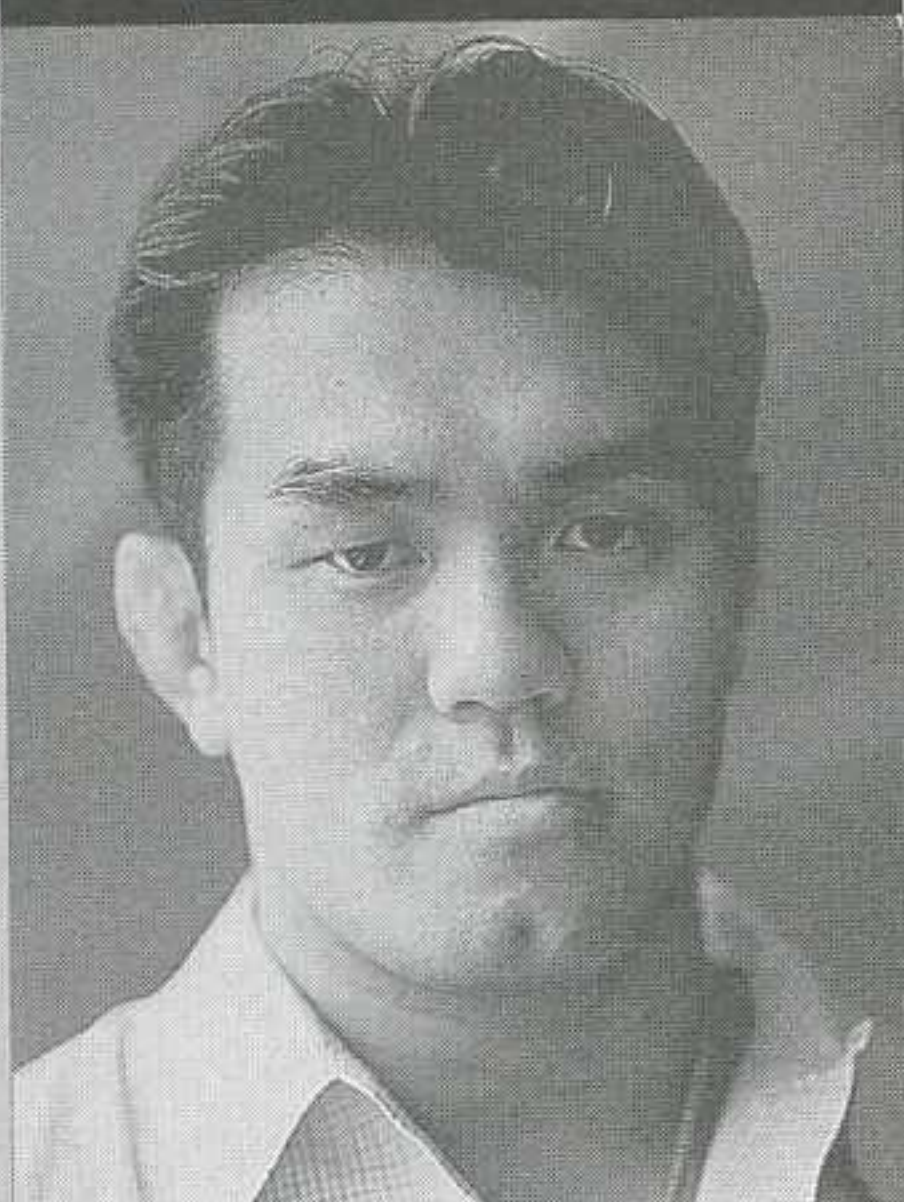
【ノア】きたえ〜る（札幌）　三沢が田上を破りGHC王座初防衛に成功。【新日本】後楽園　「スーパージュニア」開幕。入場式に邪道外道が乱入。

6/3

【新日本プロレス】

ドラゴン、秋山の「金魚のフン」発言に激怒！

秋山の「永田とやりたい」発言を受け、28日には三沢社長とのトップ会談も実現。すっかり、ノアとの交流気分に浸っていたドラゴンに冷水をぶっかけるように放たれた、秋山の「金魚のフン」発言。「交流話に便乗するな」と、ズバリ痛いところを突かれたドラゴンは、ダークドラゴンに変貌し、厳しく言い放った！「彼が本気で言ってるなら、どうぞご自由にしてください。秋山について触れるのはやめましょう。終わり、終わり」。「そんなこと言うなら、ウチに上げないモンね～」と言わんばかりのこの発言。明らかに逆ギレである。キレる40代藤波辰爾。くわばらくわばら。

6/2

【プロレスリング・ノア】

秋山、先走るドラゴンに不快感

秋山が新日マットでの永田戦をブチ上げて以来、ここまで三沢―藤波会談が実現。テレビ問題もクリアと、順調にきていた、このプラン。しかし、ここに来て秋山にいらだちが見えてきた。それは、秋山が新日参戦を公言してから「オレもやりたい」と、次々と便乗して名乗りを上げる選手がいるからだ。「言い出したのはオレ。オレを飛び越えて話されるのは気分のいいもんじゃないし、便乗作戦とか金魚のフンみたいに後ろをついてくるヤツとは、一緒にしないでほしい」と不快感を露わにする秋山。その「金魚のフン」の中に、新日本プロレス社長も当然含まれているのだろう。

5/30

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

ドラゴン、マット界再編を大いに語る

秋山の新日出陣宣言を受け、ドラゴンがまたしてもフライング気味に、新日本、ノア完全交流について不用意かつ熱く語った！　28日に三沢社長と会談し「お互い大変な時期に社長の座についちゃったね」と話したというドラゴンは、三沢社長と会ってすっかり気持ちが盛り上がってしまったのか、肝心の秋山vs永田戦をすっ飛ばして、こんなことを言い出した。「永田と秋山の関係だけで終わりにしてはダメ。僕だって三沢と戦いたい」……ジャンボ鶴田と闘いたい、前田と闘いたい、に続いて、またしても根回しなしに「三沢と闘いたい」発言！　そんな不用意なドラゴンが大好きです！

5/29

【ＺＥＲＯ－ＯＮＥ】
成田空港

破壊王、三沢にポエムで求愛

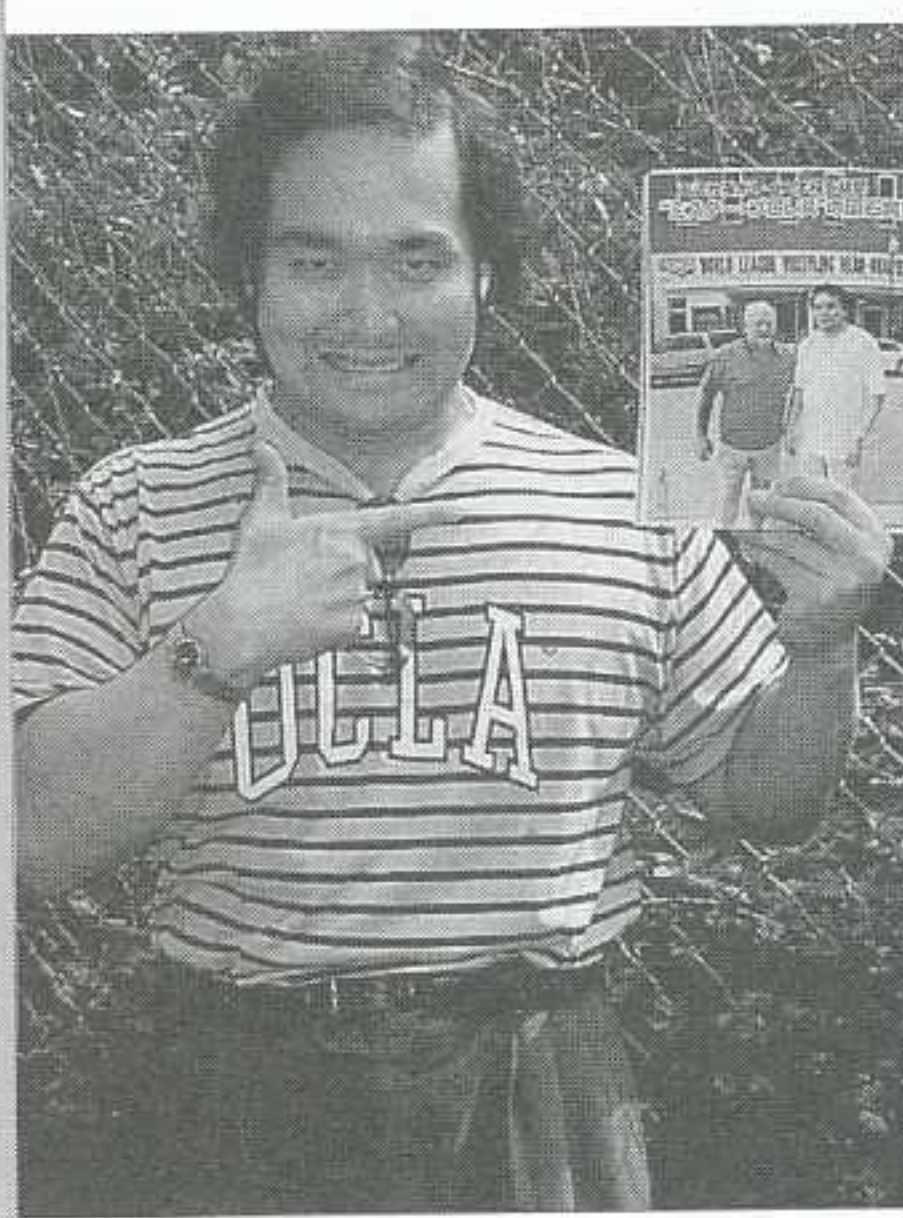
破壊王がノア三沢社長との関係修復にポエムを送った！
あまりに素晴らしいので皆さんご覧下さい。

長き冬の雪解けで
桜も舞った春も去り
今は梅雨と思ぶれど
真の晴天来るように
夏の花火を打ち上げましょう

6/4

【正道会館】

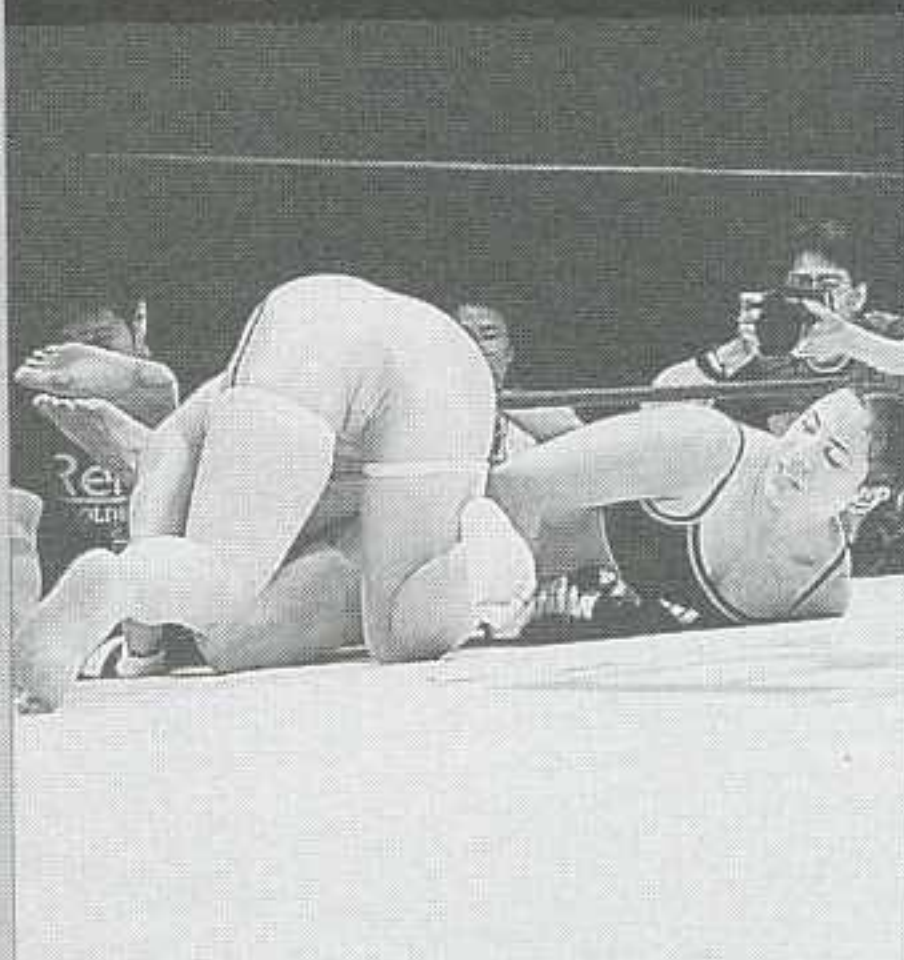
歌う空手家、角田信朗！

正道会館・芸能部門を背負って立っている角田が、今度は東映アニメフェア「キン肉マンⅡ」のテーマソングを歌うことになった。作詞の方も角田が担当し、レスラーや格闘家にありがちな、とんでもない歌詞をつけることもせず、（例・逃げる相手は三段蹴りだ！）レコーディングではマスコミ宣伝用とはいえ、上半身裸で熱唱！　キチンと仕事を果たした。1人で頑張る角田ではあるが、どうしても1人では限界な部分がある。そこでどう考えても、お笑い系な顔の武蔵に登板を希望したいところである。（クレ）

【ＵＮＷ】

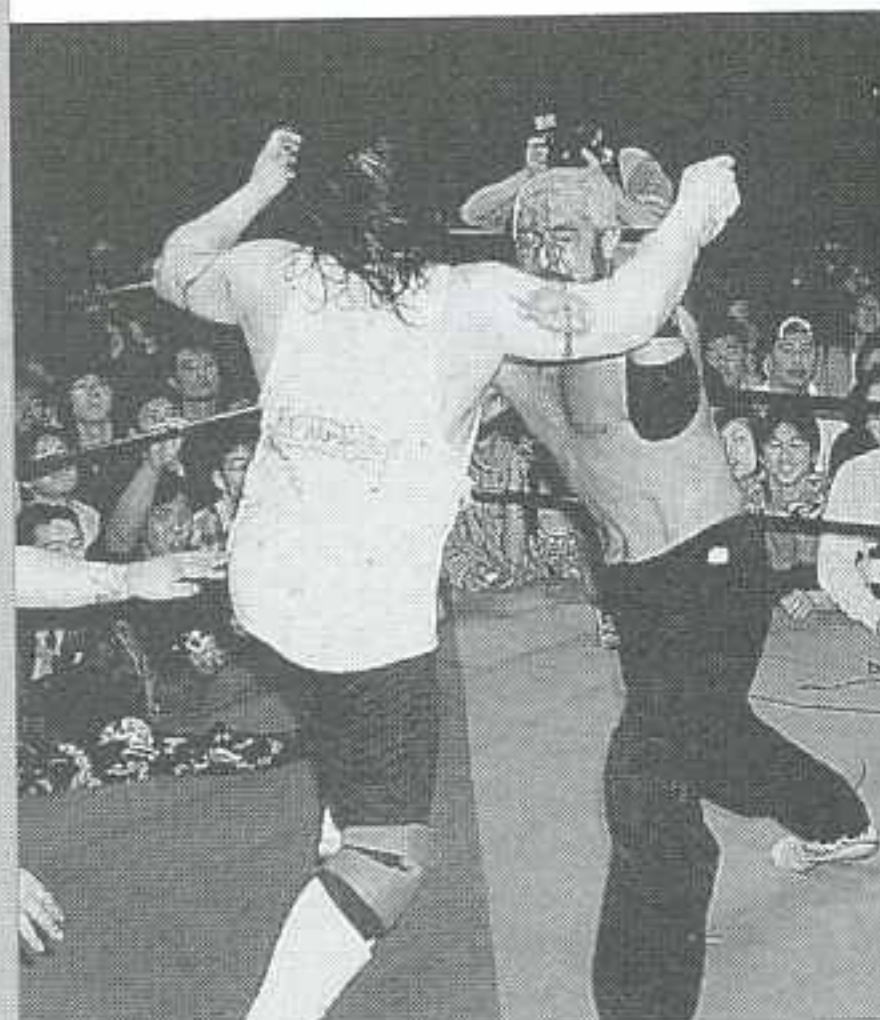
ジニアス、懲りずにレイスを語る

三沢、レイスの載った雑誌を持ってジニアスが吠えた！　三沢がレイスのところに行ったのは6月1日。アメリカ現地時間6月1日は、日本時間で6月2日。つまりジニアスvsレイス戦が行われる予定だった日。……やはり最初から出来上がっていたのか……!?　他誌（紙）には、ジニアスvsレイスに関する記事、レイスのコメントは一切なし。やはり……

※この原稿はセッド・ジニアスさんの持ち込み原稿です。

6/1

【全日本女子プロレス】

伊藤薫がトーヒルとVTで激突！

5・3ReMIXで籔下めぐみに腕ひしぎ十字固めで一本勝ちを収めた、"蜘蛛女"エリン・トーヒルの次の試合が決定した！　その対戦相手はなんと現WWWAシングル王者伊藤薫！　しかもルールはバーリ・トゥードとなるという。伊藤薫と言えば、プロレスと共に、そのガチンコの実力も女子プロ最強と噂されたほどの実力者。現在は女子プロレスの頂点、赤いベルトを巻くまでに上り詰めたが、ここで女史格闘技の世界トップ選手であるトーヒルを倒せば、純女子プロレスとバーリ・トゥードの両方でトップになるという偉業を成し遂げることになる。決戦は7月27日の代々木第2体育館。ガチンコ大好き松永イズムが爆発するか？

【ＷＷＳ】
伊勢崎市民体育館

茨城清志遂に現る！W★ING復活！

ついにW★INGが帰ってくる！　先の4・22ディファ有明大会で「同窓会」を行い、ディファ史上最高の観客を動員するという、奇跡の狂い咲きを見せたW★ING。そのエンディングで「茨城清志が帰ってくる！　W★INGが8月に復活する！」とポーゴが絶叫したとおり、この日、ホントにあの茨城清志氏が登場！　そしてホントにホントに8・6後楽園で、「W★INGプロジェクト21」と題して、もはや第何次かもサッパリわからないW★ING再興が決定してしまった！　しかも今回のW★INGは興行だけでなく、メキシコに「W★INGレスリングアカデミー」という、プロレス学校も開校！　まんま闘龍門という気もするが、これで少しは金銭的メドがつくというモノ。はたして今回こそ、以前のW★INGでの未払いのギャラ、踏み倒した会場費等を払うことが出来るか!?

6/16

【新日本プロレス】

健介、アメリカで悲壮な決意!

正直、スマン!　でお馴染みの、マット界の一本気男・佐々木健介。4月のドームで破壊王にKO負けしたショックから、欠場を続けており、行方不明とまで言われていたが、この度、アメリカでその姿が発見された!　欠場中、ヒクソン戦で復帰という仰天情報が流れていた健介、それがあながちガセでないかのように、宿敵ドン・フライに弟子入りし、そのアルティメット・テクニックを学んでいるようだ。健介はその不退転の決意を表すかのように、アメリカに久子夫人と愛息・健之介君を帯同。……って、これって長目の家族旅行じゃ……。

6/11

【新日本プロレス】

新日本プロレス公式ルールブック遂に完成!

株式公開を目指す、マット界の優良企業、(株)新日本プロレスリングが、このたび旗揚げ29年目を迎えたいまになって、ようやくルールブックを完成させた。そこには「ひじ、ヒザの鋭角的攻撃禁止」や「場外フェンスにぶつける」ことまで禁止まで明記。30年近く明文化されたルールがないという、プロレスの素晴らしきいい加減さが損なわれるのではないかという危惧があるが、「反則は5カウントまで可能」という、ほとんど無法地帯なルールまでご丁寧に明記されているので、とりあえず一安心なのであった。

6/9

【リングス】
ヴァージンメガストア新宿

渦中の前田がトークショーに登場

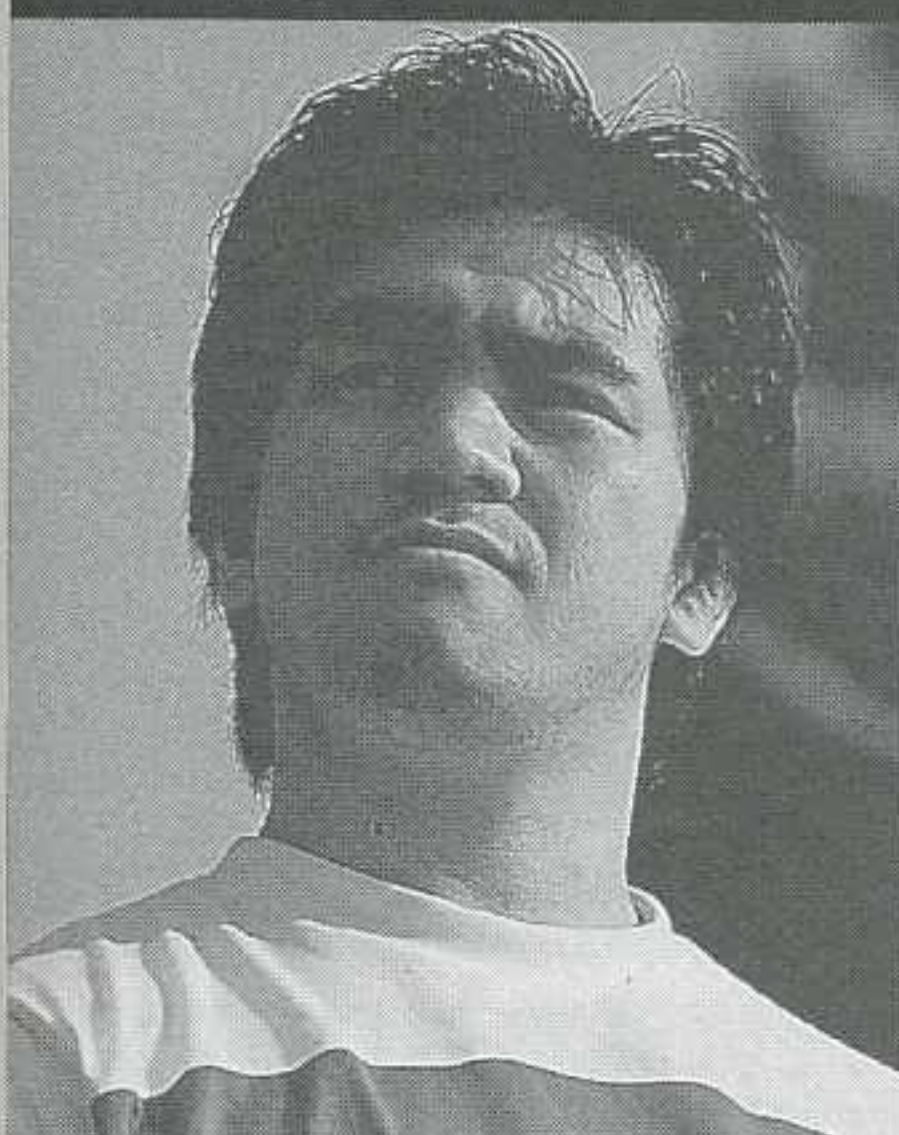
リングス公式テーマ曲集CDの発売を記念して、リングス総帥・前田日明が東京のヴァージンストア新宿店でトークショーを行った。選手の大量離脱と東スポの離婚報道などで、渦中の前田が登場するイベントということで多数のファン、報道陣が詰めかけた。が、一般イベントとあってか、司会を務めたMANZAI-Cも無闇なツッコミはいれられず、離脱問題ですら触れられることはなく終了。その後控室でわざわざ会見してもらった記者たちだったが、前田に質問する記者は誰もいない。　結局前田の問題については、まるでわからず、前田の怖さだけがわかったトークショーだったのである。(クレ)

6/7

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

仰天!　ドラゴンに自民党から出馬要請!

比例代表制の投票方法が変わり、タレント候補が乱立する、今回の参院選。プロレス界からも、佐山と堀田の出馬が決定しているが、なんと我らがドラゴンにも自民党から出馬要請が来ていることが発覚!「常に政界と新日本をダブらせてきた」ドラゴンにとっては、まさに渡りに舟。東スポの「政治の裏の裏まで知っている菊池久氏が檄筆!　激烈連載　永田町の熱闘」の愛読者である(?)ドラゴンだけに、「国会に雪崩式リングイン」をキャッチフレーズに、「江戸幕府復興」を公約としての出馬が期待されている。

6/18

【新日本プロレス】

7・20札幌ドームカード一部決定

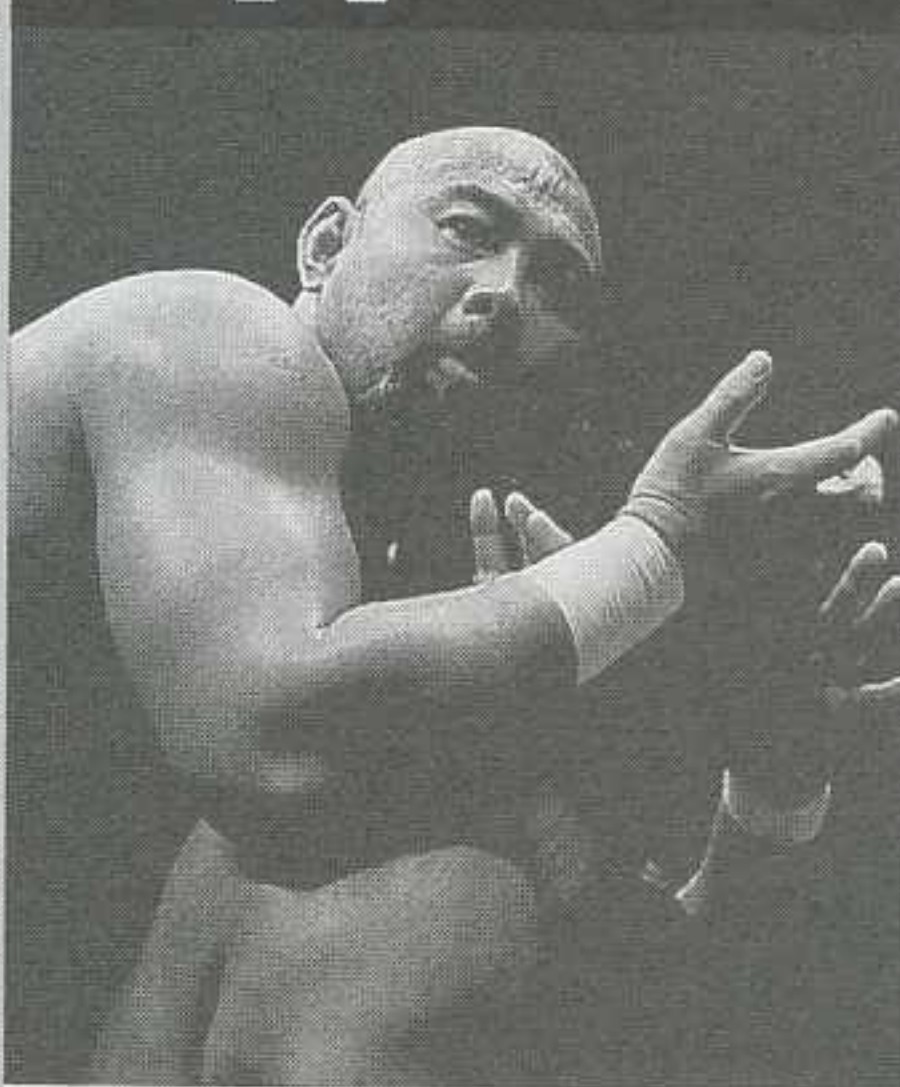
話題豊富な7・20札幌ドームの第一弾カードが発表された。そのカードとは、永田vsコールマン、武藤vs蝶野、田中vs成瀬(IWGPジュニア)の3試合。新日の力の入りようがわかる、好カード揃いである。追加カードは決定次第発表されるが、自ら札幌ドーム大会出場に名乗り上げた男がいる。もはや言うまでもないだろう、ドラゴン(47)である。誰よりも必要以上にやる気満々のドラゴンは、長州戦をブチ上げるだけにとどまらず、「これは武藤の3冠への挑戦や8月のG1出場に向けた自分としての意思表示」とずうずうしくも、ちゃっかり3冠挑戦や、G1出場まで一緒にアピールしたのだった。

6/15

【新日本プロレス】

ドラゴン、参院選出馬断念

全国1千万人のドラゴン信者が固唾をのんで見守っていた、ドラゴンの参院選出馬問題。ちっとも聞き取れない該当演説や、ドラゴンスマイルで巣鴨のおばあちゃんと握手するドラゴン。国政に掛ける決意を表すために、「やりますよ!」と中途半端に前髪を切り落とすドラゴンなど、夢のようなシーンが見られるかと期待していたのだが、この日正式に出馬辞退を申し出た模様。この決断の裏にはかおり夫人助言があったという、予想通りのドラゴン。「議員の夢は持ち続ける」らしいので、3年後に期待しよう。

6/11

【新日本プロレス】

ドラゴン三冠挑戦宣言!

6・8武道館で武藤が天龍を破り、遂に他団体選手の手に渡った三冠ヘビー級王座。新王者武藤は、新日本での防衛戦にも意欲的だが、新日のレスラーの挑戦には「歴代IWGP王者に限る」という条件をつけてきた。その武藤の言葉に過剰反応する男がひとり。新日本プロレス社長、藤波辰爾(47歳)である。「一度巻いてみたかったんだ。歴代王者ならオレにも権利があるハズ」と、周囲の困惑&苦笑いなどモノともせず、やってる本人大マジメとばかりに訴えたドラゴン。なぜこうも次から次へと面白いネタを提供し続けるのか。

6/8

【新日本プロレス】

辻アナがコールマン新日参戦大歓迎

ナチュラル・ボーン・ヒールとして、全国のプロレスファンから森内閣に劣るとも勝らない程の圧倒的な支持率を誇る辻アナ。最近ではサムライTVの『PRIDE』番組でも司会を務めるなど、その不快指数は高まるばかりであるが、その辻アナが東スポで連載中のコラムで「コールマンに"霊長類ヒト科最強""北の最終兵器"に負けない形容詞を考える」とブチ上げたので紹介させていただきます。「芸術的スタチュー」「肉体芸術家」「彫刻的闘いのフェロモン」「ミスター・セクシーリッチ」「闘う時給億万長者」……まさに辻イズム爆発!「毎日が革命アニバーサリー」並の迷作揃い。脱帽だ。

6/19

サ■ケ、スキャンダル発覚!!!!!!!!

清純派アイドルの全裸ニャンニャン情交写真が流出するなど、ゴシップ誌等でのスターのスキャンダルが絶えない昨今。我らが東北の英雄、ザ・グレート・サスケ社長にもスキャンダルの火の粉が容赦なく降りかかった！ そのスキャンダルとは、まずご覧の全裸写真である。3度のメシより裸になるのが好きなサスケ社長であるが、このマスクと靴下だけは残しての全裸となると、その性癖が伺い知ることができ衝撃的。この写真、事情通によるとある編集部から流出したという。そしてもう一つ、『噂の真相』誌に掲載された左記の一行情報。「G・サスケ」と名前の一部は略してあるモノの、これはサスケを意味するのは明らか。まだ本人かどうかの真偽は定かではないが、一つ言えるのは、「G・サスケ」という名前が他にいるかどうか……。

G・サスケの元愛人兼秘書が
銀座高級クラブ「ティファニー」でホステス

公式コメント

一昨日の北海道札幌月寒グリーンドーム大会はお陰様を持ちまして大盛況となりました。これもひとえに報道関係の皆様の日頃のご支援の賜物であり、心よりお礼申し上げます。

さて、今回の「噂の真相」誌の報道には、ただ驚き、とても胸を痛めております。
私の知らないところで記事だけが一人歩きし、毎日辛い思いをしています。
今後は、スタッフと相談し、対処していきたいと思います。
今回の件で、励まして下さった方々には感謝の気持ちで一杯です。
ご心配をおかけしました。
この場をお借りしてお礼申し上げます。
又、6月23日、8月19日両日共にニューワールド仙台においての大きな大会と夏の4週間ロングツアーも控えており、強敵との闘いに備えておりましたので、今はとにかくリングに集中していきたいと思っております。
頑張ります。

平成13年6月19日

取締役社長　ザ・グレート・サスケ

『PRIDE.15』出陣決定!!
サクのいまさらながら素敵なモチベーション!!

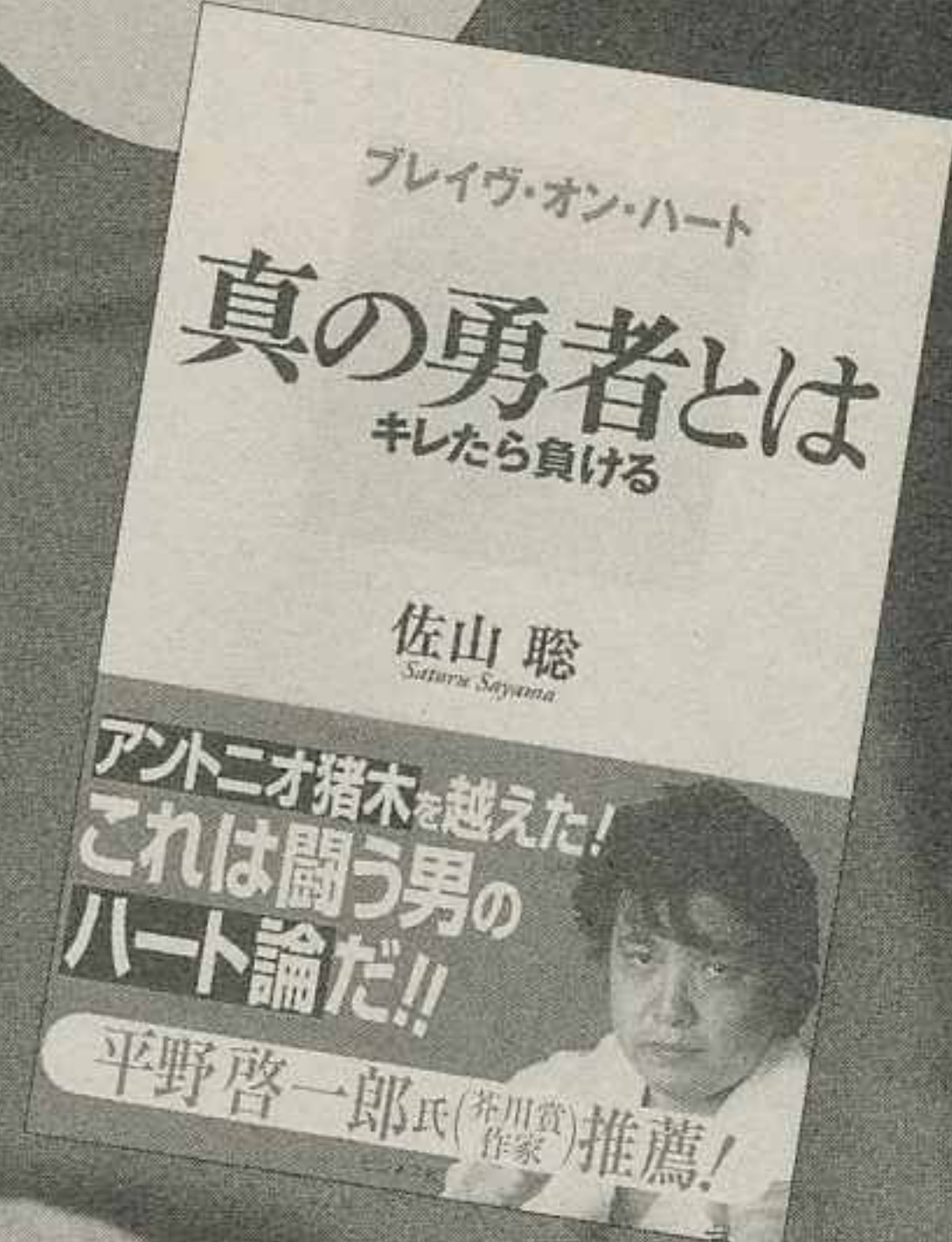
昭和格闘家のコク深い人生に触れる
実録! 豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター外伝

聞き手／中村カタブツ君（38歳）
撮影&助手／堀江ガンツ
designed by matsu（Two three）

推薦図書
今回のお話は佐山聡氏の新刊「ブレイヴ・オン・ハート～キレたら負ける～」（ビジネス社刊）を合わせてお読みになると、数倍楽しめます。

ブレイヴ・オン・ハート
真の勇者とは
キレたら負ける
佐山 聡
Satoru Sayama
アントニオ猪木を越えた!
これは闘う男のハート論だ!!
平野啓一郎氏（芥川賞作家）推薦!

佐山サトル伝説
UFOオーちゃん特訓秘話
前田日明、ヤマノリ殴打事件
の真相を語る!

古くはタイガーマスクになる前の佐山、最近ではUFO入り当初のオーちゃん、そしてKOKでの"血尿"ヤマヨシなどに、地獄の特訓で打撃を伝授した「敏ちゃん先生」こと鉄人・藤原敏男。「路上の王」としても有名な先生に、今回は佐山、オーちゃん、ヤマノリの知られざる濃密エピソードをたっぷり語っていただきました。

鉄人
藤原敏男
〈元・ラジャダムナンスタジアム　ライト級王者〉

—今日は藤原先生に、小川選手、山本選手、佐山さんといった教え子たちのエピソードをたっぷりお聞きしたいんですよ。

藤原　そういや佐山とは昨日も一緒だったよ。長野県でやった全日本キックの興行で一言挨拶してもらったんだけどね。選挙の宣伝のことで「トシちゃんところにマスコミが来たらよろしくねぇ～」って言ってたよ（笑）。

—いやぁ、佐山さんの突然の参院選出馬にはびっくりしましたね（笑）。

藤原　だから、すぐに電話をかけたよ、新聞見て。「デブ、ホントに出るの？」って。

—デ、デブ？（笑）。

藤原　デブじゃなくてデーブ（笑）。「デーブ、これからは佐山先生って呼ばなきゃいけないの？」って（笑）。

—ホントに国会で見てみたいですけどね（笑）。でですね、佐山さんとの最初の出会いは目白ジムですよね。

藤原　いまより痩せてたけど動きが早くてね。で、やっぱりあいつはあの頃から変わってるんだよね。

—変わってましたか（笑）。

藤原　そうだね。だって、プロレスをしながら、また別に自分なりに最強のものを求めていたわけだからね。

—佐山さんはまだタイガーマスクになる全然前の若手も若手の時代でしたからね。

藤原　当時は新日本の道場で山本小鉄さんとか藤原組長に仕込まれたりしてるわけだから、そこのトレーニングだけでもハンパな内容じゃないと思うんだよね。そこの合間をくぐって鬼の黒崎道場って言われた目白ジムに来たっていうのがね（笑）。

—ですよね。鬼の黒崎道場の話はのちほどゆっくり聞きますが、当時、佐山さんとはどんな練習をしてたんですか。

藤原　いや、俺は打撃を教えながら、佐山からはプロレスの技を教わっているからね。

—レスリングの技を？

藤原　そうそう。いかに相手の背中に回るかっていうことだよね、遊び半分で。

—そういうのって熱くなったりしがちですよね（笑）。

藤原　結構、熱くなるよ。だって、「こんな若造に負けるか」って思ってるからさ（笑）。

—佐山さんも負けず嫌いですから、関節を極めてきたりしたとかしたんじゃないんですか。

藤原　だから、その前にこっちにはヒジもヒザもあるから（笑）。

—すいません、それレスリングの練習ですか？（笑）

藤原　うん、レスリングだけど、結局なんでもありっていうね（笑）。だって、こっちは体重的に不利だしさ。向こうはいかに早く関節を取るかっていうのが本職だったから、こっちはその前に頭突きやったり、ヒザやったりさ。

—頭突きまで！（笑）。じゃあ、バーリ・トゥードなんてずいぶん昔から経験してたんですね。

藤原　いま考えればそうなんだよね（笑）。もちろん立ち技は立ち技で教えてるよ。で、それが終わって「今度はプロレスな」って言いながら、やっぱり後ろ取られたり下になったりしたら悔しいじゃない。そういう中で気持ちは冷静でいながら、「こいつ！」ってなってね（笑）。

—冷静に頭突き（笑）。結局、佐山さんは何年ぐらいやってらしたんですか。

藤原　2、3年は、やってたんじゃないか。

—当時、目白ジムと言えば、鬼の黒崎と言われた元極真の高段者・黒崎健時先生がバリバリ教えてた頃ですよね。常に竹刀というか、木刀を持ってた怖ろしい方じゃないですか。

藤原　竹刀も木刀もあったけど、先生は八角棒が好きで、それでガンガン殴られたよな（笑）。

—八角棒を好まれたんですか（笑）。その練習内容がまた凄くて、例えば、黒崎先生がサンドバッグを「蹴れ」って言ったら「やめ」がかかるまで蹴り続けなきゃいけないと。だけど、黒崎先生自身は「蹴れ」って言ったまま、どっかに行っちゃうんですよね（笑）。

藤原　そうそうそう。

—で、黒崎先生が帰ってくるのが1時間後になるのか、2時間後になるのかわからないんですよね。

藤原　先生、忘れたりするからね、飲みに行ったりしてね（笑）。

—ヒドい話ですね（笑）。その間もずっと蹴ってなきゃいけないんですよね。

藤原　慣れてきたら抜き方を覚えたけど、休んでるところを見られたら八角棒だよ（笑）。

—そういう厳しい練習を佐山さんも受けてたんですか。

藤原　そうだよ。「こら、佐山、貴様！　やる気あるのか、この野郎！」とか言われてブン殴られたら、それは佐山だって怖いよね（笑）。だけど、いま振り返ってみるとね、練習の中身や精神面では凄く鍛えられてるからね。

—藤原先生の場合はそこの内弟子でしたから24時間逃げられないわけなんですが、佐山さんは通いだから多少は楽だったところもあったんですか。

藤原　そこでは佐山は楽でしょ。2、3時間、我慢してやればいいことだから。だけど、佐山はそのあとで新日の練習があるからね。

—鬼のもとに24時間いるか、新日道場と黒崎道場をはしごするかっていう、どっちにしても辛い修行ですね（笑）。当時、佐山さんは打撃の基本的な練習をきっちりやってたんですか。

藤原　そう。いまもたまに蹴りとかやったりするのを見るけど基本に忠実な蹴り方してるよ。

—当時、佐山さんと飲んだりとかっていうのはなかったんですか。

藤原　当時はお互いに練習生の立場だからね。飲むようなことが違反だから。現役当時は飲んだことがないよ。

—酒は厳禁だったんですか！　じゃあ、もうホントに練習の間だけっていう。

藤原　そうそうそう。

—ということは練習が濃かったっていうわけですかね。

藤原　だから、結局お互いに引退してからパーティーなんかで、いろんな場面で出くわすことが多いから。そういう時は。あとは友達が共通な部分が多いから。

—藤原組長とか。

藤原　彼とは田舎が岩手で一緒だ

「ラボ」だの「キャンプ」だのが蔓延る現在の格闘技ジムであるが、「新格闘術・藤原道場」は、まさに格闘技の"道場"。壁には道場訓、そして選べる楽しさ木刀のフルコースが掛けられていた。身が引き締まる思いだ。押忍。

『PRIDE.15』出陣決定!!

サクのいまさらながら素敵なモチベーション!!

し、日本酒が好きだしね。で、結局最後はケンカなんだよね(笑)。

——いまでも新日イズムなんですね(笑)。梶原一騎先生とのつながりについてはどうなんですか?

藤原　梶原さんは極真でしょ。大山さんの方でしょ。ウチの先生も極真だから。だから、猪木さんが先なのか、梶原さんが先なのかわからないから。夜の部分で一緒になってる部分じゃないからさ。だから、俺にはわからないよ。ただ、新間さんと梶原さんとウチの先生が凄い仲のいい間柄になってたから。だから、オレが猪木さんの興行に俺が出て行ったりしてたから、2、3回出てたよね。

——ところで、佐山さんが目白ジムを選んだのはムエタイの最高峰ラジャダムナン・スタジアムのただ一人の日本人王者であった藤原敏男がいるジムだからってことだったんですか。

藤原　どうなのかね。雑誌とかテレビを見たりして来たんであれば、腹を決めて来たでしょう。それからしばらくして佐山は「格闘技大戦争」でマーク・コステロとキックルールの試合をして、何回もブッ倒されてね。佐山もバックドロップを何回か出したけど、殴られて何回もぶっ倒れてたなぁ(笑)。

——でも、あの試合はいま見ても面白いですよね。

藤原　それから佐山はメキシコに行ってタイガーマスクとして帰ってきたんだよ。

昭和格闘家のコク深い人生に触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター外伝

「キレる」っていうのは、そもそも佐山が先駆者なんだよ

——それから何十年という付き合いが。

藤原　25年ぐらいになるんだよね。

——その間には二人で相当暴れまわった時期もあったりしたんでしょうね(笑)。

藤原　俺はないよ。品行方正だから(笑)。

——いやぁ、ボクの聞いたところによると、藤原先生も飲んだら凄いという(笑)。

藤原　そんな噂があるの?

——とにかく佐山さんが二言目には「ボクより藤原先生の方がヒドいですからぁ」って言ってますからね(笑)。

藤原　あ、そう。ふ～ん、あいつのことみんなバラしちゃおうかな(笑)。あのね、いまの子供で「キレる」って言うのがあるじゃない? でも「キレる」っていうのは佐山が先駆者なんだよ(キッパリ)。

——先駆者! キレるのも人より十年早い、と(笑)。

藤原　ヤツは酒飲んで暴れた方だろ。で、いまはすっかり酒やめてるけど。まあ、酒飲んだらハンパじゃないからな。新日本プロレスの興行によく行くじゃない、そうすると奴らの飲み口はハンパじゃないから。1時間も試合をしてから、よく飲むと思うけどね、みんなスケベだし(笑)。

——そんな場面に出くわしてるわけですね(笑)。

藤原　だけど、俺らは試合を終わったら早々短時間で食えるわけじゃないよ。彼らの場合は食って飲んで身体を大きくしないといけないから、そこはやっぱりな、格闘技の違いだよな。

——その中で飲んでたのはやっぱり佐山さんだったんですか。

藤原　あの頃は組長だな。だって、レスラーって試合が終わってから飲むじゃない。逆にキックボクサーっていうのは体重制限あるから飲めないんだよ。俺もこの世界に入るまでは毎晩一升酒飲んでたから、18、9の頃。二十歳で入って酒もタバコも女もやめて。

——女も(笑)。

藤原　それは別だけど(笑)。

——当時は藤原組長はいて、佐山さんがいて、前田さんがいてっていう素晴らしいメンバーだったんじゃないですか。

藤原　前田君はまだあとの方だから。大木金太郎だとかがいた頃だよ。タイガー・ジェット・シンだとか。

——大木金太郎とタイガー・ジェット・シン! じゃあ、もっと濃い人たちがいたころですね(笑)。誰かと誰かが喧嘩したりとかっていうのは見たことないんですか。

藤原　そういうのは見たことないよ。だいたいいちゃんことかだけど、ある程度、食えれば俺はもう帰るから、食えれば俺だから。いまだったら朝まで付き合うけど。

——じゃあ、初っぱなからガンガンいってたのが組長だったと(笑)。

藤原　あの人はねぇ(笑)。まあ、俺は2回しか、興行に行ったことがないんだから。その中で飲んだりしてるわけだから。俺たちは食い終われば帰るから、そのあとの状況がどうだとかっていうのは。それに喧嘩に参加したってこっちは60キロそこそこだよ。

——いやいやいや、そんなことないでしょう(笑)。

藤原　それは過信しすぎだよ(笑)。

——喧嘩の話が出たところで藤原先生にちょっと検証してほしいものがあるんですよ(笑)。(佐山聡著『ブレイヴ・オン・ハート～キレたら負け』を出しながら)

藤原　(本を見ながら)ふ～ん「キレたら負ける」ね。あのね、佐山は信号待ちで後ろの車からクラクション鳴らされただけで「ぶっ殺すぞ」って言って運転席から出て行った男だよ(笑)。

——「キレたら負け」と主張する人とは思えないキレやすさですね(笑)。

藤原　向こうが「あ、佐山さんだ。ファンなんですよ」って言ったら「どうも～」ってなるんだけど、そんなの何回もあるから。あと、店を一軒

伝説の「猪木 vs ウイリー戦」のポスターには、確かに藤原先生の姿があった! あの異様な雰囲気の中、メインに登場し、ムエタイ戦士と堂々闘うその精神力や恐ろしい。例えるならば、1・4橋本 vs 長州戦の後の、川田 vs 健介……とは、違うか。

潰したところも知ってるけどね（笑）。

—そんな方がいまやこのような本を。内容を見ていくと「私は一時期よくストリートファイトの仲裁をやってたことがある」と書いてあるんですね（笑）。

藤原 仲裁!? だって、ストリートファイトをやってたのはヤツだよ。なんでもヤツは先駆者ですよ（笑）。

—あ、ストリートファイトを始めたのも10年早い（笑）。

藤原 俺のせいにしてるけど、じゃあ、俺の仲裁ばっかやってたってこと?

—「藤原さんはよくそういう場面に直面する」とは書いてあって、この本の読者には佐山さんは仲裁役で、藤原先生は喧嘩ばっかりっていうイメージを植え付ける手法ですかね、これは（笑）。

藤原 俺、まだ読んでないんだけどさ、何、この本は! まったく、あいつの思想っていうのはねぇ、常に自分を正当化するね（笑）。

—そうなんですか（笑）。ただ、藤原先生も負けず劣らずで、夜、飲んで帰ってきたら、傷だらけだったことがあるそうじゃないですか、まあ、これも佐山さんの証言なんですが（笑）。

藤原 あのね、俺はヤツと違って品行方正なほうだからね。

—傷だらけで帰ってきても（笑）。

藤原 傷はないって（笑）。だって、俺はそういう喧嘩の場面に出くわすことはほとんどないから。要するに飲み方がキレイなの。サラリーマンが店で喧嘩してても「バカだね」って、そういう感じだからね（笑）。

—だけど、この本では「新宿で10人、銀座で6人をKOしている」って書いてあるんですけど（笑）。

藤原 それはデッチ上げだよ!（笑）あいつはね、道を間違えたと思うんだよね。あんな想像力のたくましい男はいないよ。

—いやいや、藤原先生だったら、そのぐらいの人数は軽くKOできると思うんですよね（笑）。

藤原 昔、ガッツ石松が池袋で8人と喧嘩してテレビや新聞に出たでしょ。

—武勇伝として騒がれましたね。

藤原 それを佐山の場合は出ないようにやってるから、頭の回転が速いんだよ。

—そのガッツさんの話で言えば、昔、藤原先生はガッツさんに挑戦状を叩きつけてますよね。

藤原 キックのことを「シャモの喧嘩」とか言ったからだよ。そんなこと言われて黙ってられないだろ。

—当時、ボクは劇画『四角いジャングル』で見て興奮しましたよ（笑）。

藤原 こっちはさ、手も使えれば、足もヒザもヒジも使えるんだから。ボクシングなんかに負けるわけがないんだよね。

—しかも先生は元WBA世界チャンプの西城正三にも勝ってますからね（笑）。ただ、ガッツ戦は実現しなかったのが残念ですよ。

藤原 やってたら絶対に負けないよ。

—シビれるセリフです（笑）。やっぱり「藤原さんはどんな時でも格闘心を忘れていない」って佐山さんが書いてる通りですね。

藤原 それは忘れてないよ。だから、窮地に陥ったとしても相手にケガさせないで5分とか10分とかで眠らせることっていうのは自然に出来るよ。

—自然に手慣れた感じで（笑）。

藤原 手慣れてないよ（笑）。ただね、やっぱり、酒を飲むとどうしても人間だから、本能的に足が出るよりもパンチが出るんですよ。だけど、普通の人のボディだと鍛えてないからまずおかしくなっちゃう。顔を殴れば傷跡が残るし、過剰防衛になる可能性もある。倒れた瞬間に頭を打ってヤバい場合もあるよね。そうなったら、どこを打つかっていったら下半身しかないじゃない。そういう心構えだよ。

—ローキックの心構え（笑）。

藤原 ローキックって言っても蹴り方も変わってくるんだけどね（笑）。

—ストリートファイト用の蹴り方（笑）。

藤原 相手にケガをさせないってことを瞬間的に判断するの。だけど、それは俺自身がやってるわけじゃないんだよ。やったとしたら新聞沙汰になってるって。

—ということは新聞沙汰にならないようにきっちり仕留めてきたわけですね（笑）。

藤原 ん? ちょっと待てよ、なんか俺だけに飲まして喋らせようとしてるだろ（笑）。

—すいません、じゃあ、一気をやらしていただきます!

藤原 なんだ飲めるじゃないの。さっきから飲めないような顔して、そっちも随分こすっからよね（笑）。

—取材で来てますから（笑）。で、さきほど『四角いジャングル』の話が出たんで聞きたいんですが、猪木vsウイリー戦の時には藤原先生は黒崎先生と一緒にウイリーを鍛えまくったんですよね。

藤原 当時、ウイリーは極真を破門になってたでしょ。それでウチの先生が預かってずっと面倒を見てたから毎日来てたよ。

—最初、ウイリーは全然スピードがなかったらしいですね。

藤原 なんにもないよ（キッパリ）。

—なにもない（笑）。

藤原 結局、空手の打ち方じゃ倒せないって。それで「プッシュのパンチじゃないよ、打つんだよ」って言ったってイメージ的にはわかるんだけど、言葉が通じないから、やっぱり極真のドスンドスンって打ち方でしょ。何回言ってもわからないから最後は「頭悪いんじゃないか?」と思ってね（笑）。

—なかなかわかってくれなくて（笑）。一時、黒崎先生もサジを投げたっていう話もありましたよね。

藤原 「それじゃ、猪木さんに負けるよ」って言ってたね。

—黒崎先生と藤原先生にかかったらウイリーもかたなしですね（笑）。当時、ウイリーとはスパーリングとかもしてたんですよね。

藤原 だけど、「身体デカくても、なんだよ、こんなもん」って感じだったからね。

—え! 熊殺しのウイリーをつかまえて「なんだ、こんなもん」って感想ですか。

藤原 熊って言ったって年取ってる熊かもしれないよ。もし、それが歯も爪もボロボロで糖尿で通風みたいなんだったら怖くねぇだろ（笑）。

—藤原先生だからこそ言える言葉ですね（笑）。じゃあ、練習中も全然問題としなかったんですね。

藤原 だから、ウイリーは気持ちの面で弱い部分があったよね。ヤツはね、ホントは優しいんだよ。そういうのは闘いになった時にモロい部分もあるんだよ。

—だけど、猪木戦前に行われた極真の第2回世界大会では大暴走したじゃないですか。

藤原 相手選手のエリを掴んでヒザ蹴り、ガンガン入れたやつだろ。

—確かにあそこで反則負けになりましたけど、ウイリーはモノ凄く強くなったなって思いましたけど。

藤原 だけど、俺は空手の人間じゃないからどの程度、強くなったのかはわかんなかったよ。

—選手の中ではケタ外れに強かったですよ。ご覧になりました、世界

いつ何時でもケータイは離さない佐山サトル。「"路上の王" 藤原敏男伝説」のほとんどは、[illegible]世に広めたものである。ちなみに[illegible]カはせずに、仲裁に入っていたと[illegible]たして真偽のほどは。

『PRIDE.15』出陣決定!!
サクのいまさらながら素敵なモチベーション!!

インタビュー中、ホントに佐山に電話を掛け始める藤原先生。あいにく留守電だったが、「電話してこないと、昨日のことバラしちゃうよ～」のメッセージに、すぐさまコールバックがあった。さすがタイガーマスク。素早い行動である。

昭和格闘家のコク深い人生に触れる実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター外伝

大会は。

藤原　行ったと思ったけどな、あんまり記憶にないんだよ。極真の試合そのものが俺に取ってはつまんないから。

——それは顔を殴らないから？

藤原　胸をド突き合ってもね。

——喧嘩空手・極真すらも問題にしないと（笑）。

藤原　だから、俺はキックの人間だからね。

——だけど、ウイリーは鍛えがいがある素材ではありましたよね。

藤原　身長2メートルあって丸太ん棒みたいな腕をしてたから、それを生かし切れば凄いなと思うんだよね。あれで相手を倒すコツというのを会得したら凄いだろうなとは思うけど。

もしもし、佐山先生？　昨日のことバラしちゃっていいの？

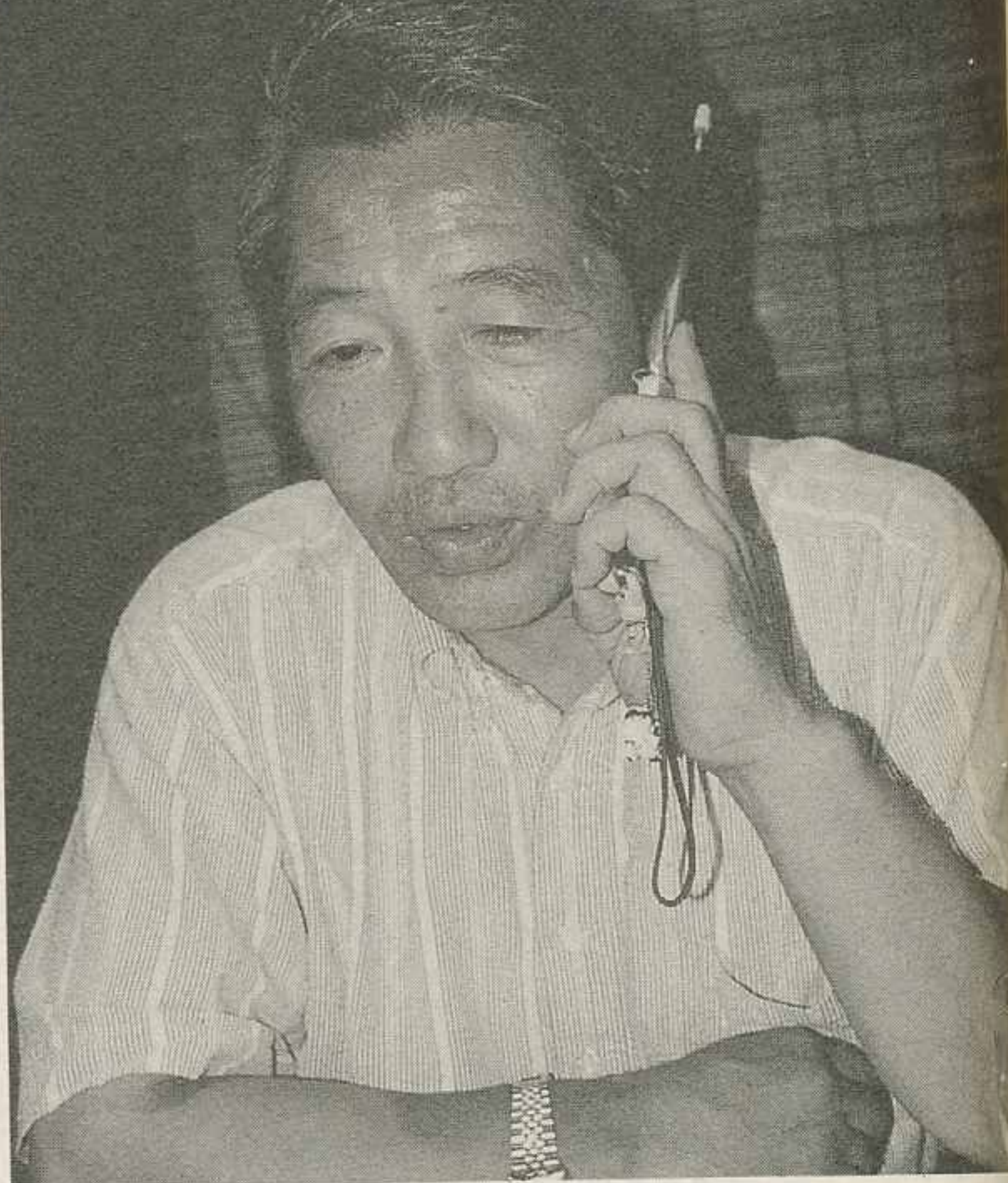
——それで先生はウイリーvs猪木戦っていうのはご覧になってるんですよね。

藤原　いや、ウイリー猪木戦がセミファイナルで、俺がメインイベントだったから。

——え！　あの興行は先生の試合がメインだったんですか。

藤原　「たぶん乱闘が起きるだろうから、それを鎮めるために、俺の試合をメインイベントにもってく」っていう段取りだったらしいよ、あとから聞いた話だけど。そうすればこっちはスタンバイしなきゃいけないから。

——そうだったんですか、勉強不足でした。あんなモメた試合の後に出ていくのは大変だったんじゃないんですか。

藤原　大変って言ったって自分の試合をするだけだから。そんなこと気にしたってしょうがないじゃないの。前の試合がどうだろうと、自分の仕事に入ったら関係ないよ。

——自分の仕事をするだけ（笑）。黒崎先生としては藤原にメインを任せておけば大丈夫っていう信頼感があったんでしょうね。

藤原　そんなことは知らないって。俺は選手だったんだから言われたら試合をするだけだよ。

——いやぁ、凄い話ですねぇ。そして、そんな藤原先生を「トシちゃん」って呼べる佐山さんも改めて凄い人だと思いますね（笑）。

藤原　昨日も長野で「藤原先生とは目白ジムからのお付き合いで25年、タテの社会で厳しく」とか言い出してね。なにも観客の前でそんなことを言う必要ないじゃないの（笑）。

——素晴らしい師弟関係ですね（笑）。藤原先生は猪木さんと話す機会とかはあったんですか？

藤原　猪木さんとはいろんな場所でよく出くわすから話はするけど、別にプロレスはどうの、格闘技はどうのっていう論争はしたことないよ。挨拶程度のことしかしてないよ。

——ただ、引退試合の時も荒川さんとか、栗栖さんとか出てたじゃないですか。だから、新日本とのつながりって言うのはずっとあったんですよね。

藤原　その時は新間さんに言って「引退（興行）するんで2試合ぐらいお願いできませんか」っていうことでお願いしたんだよ。

——当然、そのころはお酒もよく飲まれたんですよね。

藤原　飲まないよ。いまは飲むけど。現役時代は飲まないから。リングスの忘年会が凄いんだって？

——有名ですよね、毎回荒れに荒れる山賊の飲み会だって（笑）。

藤原　俺が聞いたところだと、なんかモノは飛んでくるし、喧嘩は始まるしで大変だって。で、2回誘われたんだけど、1回も行ってないんだけど、ゴングの熊ちゃんに（クマクマンボ熊久保氏）行くの？って聞いたら「行かない、行かない」って「藤原さん、行くんですか」「大変ですよ、あれは。あ！　藤原さんだったら大丈夫か」って言ってからね。「だって灰皿は飛んでくるし、血だるまの喧嘩になりますよ」って。だから、やめたよ（笑）。

——先生は酒を飲んでるうちに気がついたら喧嘩に巻き込まれていたってことはあるんですか？

藤原　それはあるよ。

——それはあるんですか（笑）。

藤原　だからね、わかってほしいのは、結局、その場面、場面で警察にしょっぴかれてもすべてが正当防衛だから（笑）。その場ですぐに帰してもらえるからね。相手は薬とかやってるようなおかしな連中が多かったし、それに「あなたはかなり品行方正なんで」ってことで帰れるから。だから、俺は新聞に出ないでしょ？

——シャブ中にからまれるようなこともあったと。

藤原　俺の車にぶつかってきて「なんだ、この野郎」って言って出てきたのが100キログらいあるヤツで、そいつが片腕で胸ぐらを掴んで俺の身体をフッと持ち上げるわけよ。

——凄い力ですね。

藤原　そのまま一本背負いで投げられてね。俺はガードレールを飛び越えて歩道に叩きつけられたからね。で、倒れてるところをグサッとヒザを腹の上に乗せられたんだよ。それにはキレたよ（笑）。

——品行方正な先生も（笑）。

藤原　頭もキレたけど、背広の背中も切れたんだけど（笑）。そのあとはどうやって相手を揺さぶったかわからないけど、たぶん、立ち上がって金玉蹴飛ばしてって。

——それは正当防衛ですね（笑）。

藤原　しかも、交番の前でやってるからね（笑）。

——正当防衛が完全に証明できますね（笑）。

藤原　そう。だから、リングの中も外も頭脳プレーをしなきゃいけないんだよ（笑）。

——佐山さんの本には「掣圏道のモデルは藤原敏男である」って書いてあるんですけど、そうやって市街地戦を冷静にさばくあたりの話を聞いてると本当なんだと確信しました（笑）。

藤原　佐山ぁ～、あの野郎はそんなことを書いてるの。モォ、電話しなきゃダメだ！（笑）

（といって本当に携帯を取り出し）

「もしもし佐山先生ですか。昨日はありがとうね。いま、マスコミの取材を受けてるんで早く電話してこないと昨日のことバラすよぉ～。大至急電話くださ～い」。

——ワハハハ！　ホントに掛けたんですか。

藤原　掛けたよ。これで掛かってこなかったら、昨日のことはバラすからね（笑）。

——藤原先生と佐山さんって仲がいいですよね（笑）。

藤原 仲悪いと思うよ、会えば喧嘩ばっかりしてるんだから（笑）。だけど、あいつがキレた時の顔は怖いもん、ヤクザだってビックリするよ。閻魔大王がびっくりするような顔してるんだもん、目がつり上がってさ（笑）。

——ということはキレたら負けるんじゃないんですね。

藤原 これは逆転の発想なんだよ。キレたら、ヤツは勝つんだよ。

——勝つんですか!?

藤原 要するに闘わずして勝つ。手を出さず、足を出さず、言葉で相手を威嚇して、相手は意気消沈しちゃう。これがヤツの七色のテクニック（笑）。

——七色のテクニック（笑）。意外に冷静なんですね。

藤原 冷静だよ、キレたフリをするだけだから。

——じゃあ、この本に書いてあることは正しいんですね。

藤原 正しい、正しい。たぶん、このキャッチフレーズから察するとそんなことだろうと思うよ（笑）。

——ホント、その通りですよ（笑）。

藤原 そうなの（笑）。だから、プロなのよ。リング上だって同じなんだよ。お客さんを楽しませることを常に考えるんだから、熱くなってても冷静な部分はあるのよ。ホントにキレたら負けてるから。キレたら前後左右が不覚になるから勝てないでしょ。

——さすがは喧嘩をやり慣れてる人たちの言うことは違いますよね（笑）。

藤原 ちょっとそれどういうこと？もぉ今日の取材は打ち切り！（笑）

——勘弁してください（笑）。とりあえず、一緒に喧嘩したりはしてないんですよね。

藤原 俺は紳士だから（笑）。

——わかっております（笑）。佐山さんにしても先ほど店を一軒壊したっていう話がありましたけど、それも若気の至りだと。

藤原 それはつい最近だよ（笑）。

——ワハハハ！ 最近ですか！ ホント、佐山さんと先生の仲は抜群です（笑）。

藤原 いや、俺は佐山とは気が合わないような感じがするんだよ。普段はしゃべり方もソフトで「こんないい人いないなあ」って感じでしょ佐山。それがヤツの18番なんだよ。腹話術師みたいなところがあるのよ（ここで藤原先生のケータイが鳴る）……ん？ 佐山だ（笑）。

——ワハハハ！ 来ましたか（笑）。

藤原 「もしもし、いま、取材を受けてるんですよ。うん、うん、紙のプロレス（笑）。で、なんか佐山先生が書いた本の話を聞いたんだけど、いろんなことを一杯書いてるみたいだね（笑）。で、いまね、どこまでしゃべったらいいのかなって。現実と空想の世界でどこまでしゃべったらいいのかなって。ガハハハ！ 電話が来なかったら昨日のことを喋っちゃおうかなって思ってさ。うん。うん。でも、俺は意志は固いけど口は軽いのよね（笑）。うん、うん。じゃ、選挙運動頑張ってねぇ（笑）」

——佐山さんは、なんて言ってたんですか（笑）。

藤原 「せ、先生、なんでもしますから、よろしくお願いしま〜す」って（笑）。

——ワハハハ！ 何でもするから黙っていてくれ（笑）。

藤原 俺は脅したわけじゃないからねぇ（笑）。

——ホントに濃密な関係です、これこそ男同士の付き合いって感じです（笑）。

藤原 いやぁ、全然仲悪いよ（笑）。

——でですね、佐山さんの話も尽きないんですが、小川さんのことも山本さんのこともお聞きしたいんですよ（笑）。

藤原 もうやめようよ、疲れたよ（笑）。

——確かに佐山さんの話だけでたっぷり1時間は話してますが、ここはぜひ（笑）。

藤原 小川を連れてきたのは佐山でしょ。「オーちゃんにキックとパンチを教えてよ」って言うから「お前が教えるのが一番早いだろ」って言ったんだよ。

——いえいえ、やはりエキスパートの藤原先生にっていうのがあったと思いますよ。

藤原 だけど、テクニックも精神力もすべてマスターしてるんだから佐山は。それにヤツは教え方もうまいんだよ。相手の力量によって段階的に教えることが出来るから。

——それでもやっぱり先生にっていうのがあったと思いますよ。

藤原 だから、俺からすればオーチャンの練習はマイペースで歯がゆい感じはしたよ。だけど、それは人それぞれだから。まあ、いまは伊原のところでやってるから俺から言うことは何もないよ。

——では、山本選手の場合はどうでした？

藤原 山本は「これをやれ」って言ったら、向かって来るんだよ。そういう姿勢は立派だと思う。それに練習をやる時はありとあらゆる状況を熟知した上でやんなきゃいけないのよ。自分の間合いや、攻めてる時の守り、守る時の攻撃とかすべての状況を考えながらやらなきゃいけないんだけど、彼はそれが出来るんだよ。

オーちゃんの練習はマイペースで歯がゆい感じはしたよ

——へぇ〜、意外ですね。ボクらが思っていた山本選手っていうのは猪突猛進型だとばっかり思ってたんですが。

藤原 雑誌にはそういう風に出ているよね。血尿出るまでやったとか。だけど、そういう中でも考えなければいけないよ、フタを開けてみなけりゃわからないのが格闘技なんだから。紙一重のところでの勝負でしょ。技と精神力とパワーが一体となった時に力が発揮されるんだけど、それはすべて一瞬の判断力から発するものなんだよ。確かに厳しいことキツイことはやらなきゃいけないよ。だけど、判断力は自分で考えないと絶対に進歩はないよって教えたんですよ。

——新しい山本選手像が見えてきましたね。藤原先生はKOKの試合はどういう風に見ています？

藤原 みんな個性があるよ。これまでの体験もパワーも違うから、それぞれが自分の攻防を常に最大限にするようにしないと絶対に総合は難しいと思うよ。で、俺が理想とする選手はすべての攻撃を紙一重でかわして、かわした瞬間には相手が倒れてるというそういう選手を作ろうとしてるから。

——華麗な闘いですね。そして、そういう選手を育てるには鉄柱を蹴るようなドロくさい練習が必要だと。ボクらはそこに好感が持てるんですよね（笑）。

藤原 好感が持てるんだけど、あれも変わった男だよ（笑）。

——トンパチと言われてますからね（笑）。鉄柱って本当に思いきり蹴れるものなんですか。

藤原 いや、最初はタイヤだよ。5、6メートル離れたところから走って思い切り蹴飛ばすんだよ。それを蹴った上じゃないと鉄柱は蹴れないから。

——ちゃんと段階があるんですか（笑）。

藤原 それはそうだろ。中学、高校、大学って進んでいくのと同じだよ。

——中学生レベルでタイヤを思い切り（笑）。

藤原 タイヤと言っても柔らかいタイヤ。乗用車のタイヤ、それが中学生。で、高校生になるとコーナーポストの鉄柱。

——高校生レベルで、いきなりもう鉄柱なんですか！

藤原 そう。だってコーナーポストって丸いでしょ（笑）。で、大学生レベルになるとサンドバッグをぶら

『PRIDE.15』出陣決定!!
サクのいまさらながら素敵なモチベーション!!

昭和格闘家のコク深い人生に触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター外伝

98年10月、離陸当初のアーリーＵＦＯ四天王。とにかく無闇に面白そうな、最高のメンバーである。嗚呼、ＵＦＯアゲイン！

下げてる四角い鉄柱。それもカドの部分ね。

——カド！（笑）

藤原　それを思い切り走ってきて蹴るのよ。要するに骨が折れるか、鉄が折れるか（笑）。

——イチかバチか。

藤原　イチかバチかじゃないの。気でぶつかれるかどうかなのよ。だって、キックっていうのは手の3倍から5倍ぐらいはあるんだから。よし、骨が折れるか、鉄が折れるか、っていう気でぶつかれるかってことなんだよ。俺が言ってるのは心を言ってるんだよ。

——いや、だけど……。

藤原　「鉄だぞ、相手は」ってことだろ？

——はい、それはもう。

藤原　だけど、そう思ったら負けてるんだから。「よし」って思った時は十中八九、骨は折れないよ。そうなった時は当たる角度も計算されたものになってるんだよ。

——そういうもんなんですか……。しかし、丸い鉄柱じゃなくて四角い鉄柱のカドだったんですね（笑）。

藤原　最後はやっぱり四角いジャングルの中での闘いだからね（笑）。

——やっぱり四角だと（笑）。当然、藤原先生もやって見せてるわけですよね。

藤原　俺はやってみせてるよ。だって、やって見せなきゃ誰もついてこないでしょ？　確かに蹴ったところはポコっと腫れちゃうけど。

——もう言葉をなくしますよ（笑）。

藤原　昔さ、風速45メートルの台風があったんだよ。そんな時でも俺たちは走ってたからね。全然前に進まないんだよ、ホントに（笑）。こっちも台風だから走ってもしょうがないんだよ、ずぶぬれになるのが目に見えてるからってことを言うと黒崎先生が「貴様らはぶったるんでる、いまから行くから覚悟しとけ」って言われるんだもん。それは走らなきゃしょうがないよな（笑）。

——切ないですね（笑）。

藤原　要するに先生は「明日、ヤツらはさぼるな」っていうのがわかるわけで、こっちはさぼってるわけよ。で、こっちも電話に出なけりゃいいものを出るわけよ（笑）。

——それはバレますよね（笑）。

藤原　「この野郎！」だから、いきなり（笑）。電話に出なきゃよかったって（笑）。

——切ないですね（笑）。

藤原　純粋な気持ちよ（笑）。だから、スポーツをやってる中で相手に対する駆け引きはあるけど、先生に対しては絶対だから、出ちゃうんだよ（笑）。しょうがないよね。教える側と教わる側が一体となったものが、この先生に付いていこうって気持ちになるんであって、そこで嘘をついたら、俺のいまはなかったと思うよ。

——そういう部分は山本選手にもある感じがしますよね。

藤原　それは前田君とね。

——で、今回、山本選手が退団したきっかけみたいなものが藤原道場のサンドバッグって言われてますよね。

藤原　それがなんかおかしいじゃないの。だって、山本君が蹴って壊したって話になってるみたいだけど、ウチにはヘビー級が一杯いるんだし、山本がやったって限らないよ。それにサンドバッグなんて消耗品なんだからさ。

——だから、サンドバッグ一つのことで先生が怒ってるみたいな言われ方されるのは心外ですよね（笑）。

藤原　ホントだよ（笑）。あんなの

記憶に新しい、ヤマヨシの藤原道場での血便血尿トレーニング。ヨダレを垂らし、叫びながら蹴り続けた結果（？）、無惨にもサンドバッグは壊れてしまい。そしてそれが遠因で前田、ヤマヨシ師弟の絆も壊れてしまった……。

前田君には「道場で選手と一緒に汗を流した方がいい」と会うたびに言ってるよ

3万とか5万だせば買えるんだから。前田君には「ウチにはいろんな選手が来てるんだから山本君が壊したわけじゃない」って言ったんだけどね。だけど、前田君は納得がいかないと。

――そういうのはキチンとしたいんでしょうね。

藤原　前田君は選手とコミュニケーションがいまはミツじゃないのかもしれないよね。だから、俺は言ったのよ「前田君、選手と一緒になってミットを持ったり、道場に出ないとダメだよ」って。俺がなんで常に道場にいるかっていうと、いまの選手にない変速的な動きが自分に出来るか、この状態の時にこういう動きが出来るのかっていうのを選手に考えてもらいたいからだよね。

――気づかせるという。

藤原　それを見て新しい動きを発掘させるのが俺の役目なんだよね。

――だから、そのサンドバッグの話で言うと藤原先生が変な形で巻き込まれちゃった感じですよね。

藤原　山本選手に対して悪い気持ちはないよ。俺は「山本よ、2000万取ったら、ウチの若いのに焼き肉でも食わしてやってくれよ」っていうことだったんだから。

――前田さんは引退して選手の気持ちがわからなくなってる部分っていうのがあったんでしょうか。

藤原　やっぱり、経営者の立場の前に、先生の立場ってあるでしょ。「道場に行って一緒に汗流した方がいいよ」って会うたびに言ってるよ。だって、選手と肌をぶつけていかないと、何を感じてるのかっていうのはわかりにくいよ。もちろん、リングスは給料の面とかは素晴らしいし、選手の気持ちに立ってやってると思うよ。

――素晴らしいと思います。

藤原　ただ、サンドバッグを壊したとか、壊さないとかっていうのは問題から言えばさ。俺にとってはそんなのどうでもいいよ。

――たぶん、それはきっかけだったと思うんですよね。

藤原　とは思うけど、それ以上、俺は関知できないよ。

――だから、あれはいろんなところで誤解があると思うんですよね。

藤原　だいたい、俺はサンドバッグの話なんてしたことないからね。ただ、道場にマスコミが来た時にいろいろ話す中で、「出稽古に来てる人から月謝ぐらい取った方がいいよ」とか言われたりするのよ。だけど、「俺にすれば勉強したいと言って来てるんだから金は取れないよな」みたいな話をしてるうちに「そういう体制は変えた方がいいよ」ってことになって、例えの一つとしてサンドバッグにしてもさ、って話になっただけなんだよ。難しい話じゃないんだよ。

――だから、前田さんとしても最高の礼を尽くすべきだと思ってるのは間違いないと思うんですよね。単純なボタンの掛け違いが大事に発展した感じというんですか。

藤原　それはやっぱり前田君と話してみないとわからない部分はあるからいまはなんとも言えないよ。

――まあ、いまでも山本選手はジムに来てるわけですよね。

藤原　来てるよ。だから、「いまお前が殴られてもなんで殴られたかわからないだろうけど、トップは理屈にならないことで怒ることもあるし、怒った状況の先生の裏を読む冷静さも必要だよ」とは言ってるよ。「お前のために殴ってる場合もあるしね」って。それでこの前、前田君から電話があった時に「山本君は前田さんに対してはいまでも師と仰いでる」って言ったら、黙っちゃってね。俺の前ではシュンとしたところを見せられるわけよ。

――みんな不器用な人たちですよね。

藤原　ホント、格闘家っていうのは不器用だと思うんだ。やっぱり、俺も先生に自分の気持ちをストレートに言えないからさ、それはわかるんですよ。やっぱり、師と仰いだ人に対してざっくばらんに話すのはできないよ。直立不動の姿勢だよ。

――藤原先生にしてもいまでも黒崎先生に対して、そうですか。

藤原　そうですよ。

――先生の奥さんは黒崎先生の妹さんなんですよね。「お兄さん」とか呼んだりしないんですか（笑）。

藤原　女房がさ、「もう現役選手じゃないんだからお兄さんと呼んでくれ」っていうけど、俺は言えないって。言えるわけないよ（笑）。

――いくら義理の兄弟とはいえ（笑）。

藤原　だから、山本君の気持ちも俺と一緒の立場だと思ったよね。

――愛憎というところなんでしょうね。

藤原　いや、辞めた当時は愛情以上に憎しみがずーっと出るから。だから、巻き込まれたって話は別にして俺は良かれと思って教えてるわけだしね。ただ、サンドバッグはホント、くの字に曲がってたんだよね（笑）。（といってタバコを折って）こんな感じだったんだよ（笑）。

――そんなヒドイことになってたんですか（笑）。

藤原　「こんなサンドバッグどうやって蹴るの？」っていう風にはなってたよ（笑）。いくらテープでグルグル巻きにしても全然ダメだったんだから。みんなそれを見てみっともないっていうんだよ。だけど、「これだって面白いだろ。動きによって変わるから」って言ったんだよな、俺。でも、「汚いから」っていうから全部キレイに新しくしたわけ。もう、ただそれだけの話なのよ（笑）。さあ、もういいだろ、取材は。もう一軒飲みに行こう（笑）

――ハ、ハイ。喜んでお付き合いさせていただきます！

［01年6月12日／藤原道場、居酒屋「庄屋」にて収録］

ふじわらとしお　昭和23年3月3日、岩手県出身。S44年に〝鬼の黒崎〟と呼ばれた黒崎健時に師事し、キックボクサーとなる。その後、S53年には外国人として初のムエタイ王者になった日本格闘技史上最強のキックボクサー。現在は新格闘術・藤原道場を主宰。リングスの審議委員も務める。生涯戦績126勝13敗2分97KO。

昭和格闘家のコク深い人生に触れる実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター外伝

『PRIDE.15』出陣決定!!
サクのいまさらながら素敵なモチベーション!!
「もっと強くなりたいです」

これはアングルか、
偶発の出来事か!?
紙プロNo.39に
39（サク）が
シウバ戦以降初登場!!

元気ですよーッ!!

桜庭和志

聞き手／山口日昇
撮影／森鷹博
試合写真／乾晋也
designed by matsu (Two three)

いよいよ、サクがリングに帰ってくる。

あの歴史と興奮が詰まった鳥肌もののテーマ曲が流れるのは、7・29『PRIDE．15』さいたまスーパーアリーナに決定した。またサクの試合が見れると思うと、本当にドキドキワクワクしてくる。

今回は、「リベンジ前哨戦」ということで、シウバ戦は見送られる模様で、対戦相手は現時点(6・21)ではまだ未定だが、サクはいつもの笑顔の奥で、久しぶりに試合ができる喜びを噛みしめているに違いない。

このインタビューは、『PRIDE．15』出陣決定前に行われたものだが、サクのニコニコ顔と、相かわらず気の抜けた発言の向こう側に、静かに燃え上がるモチベーションが立ち昇っているのを、どうか読みとってほしいものである(ニコニコ)。

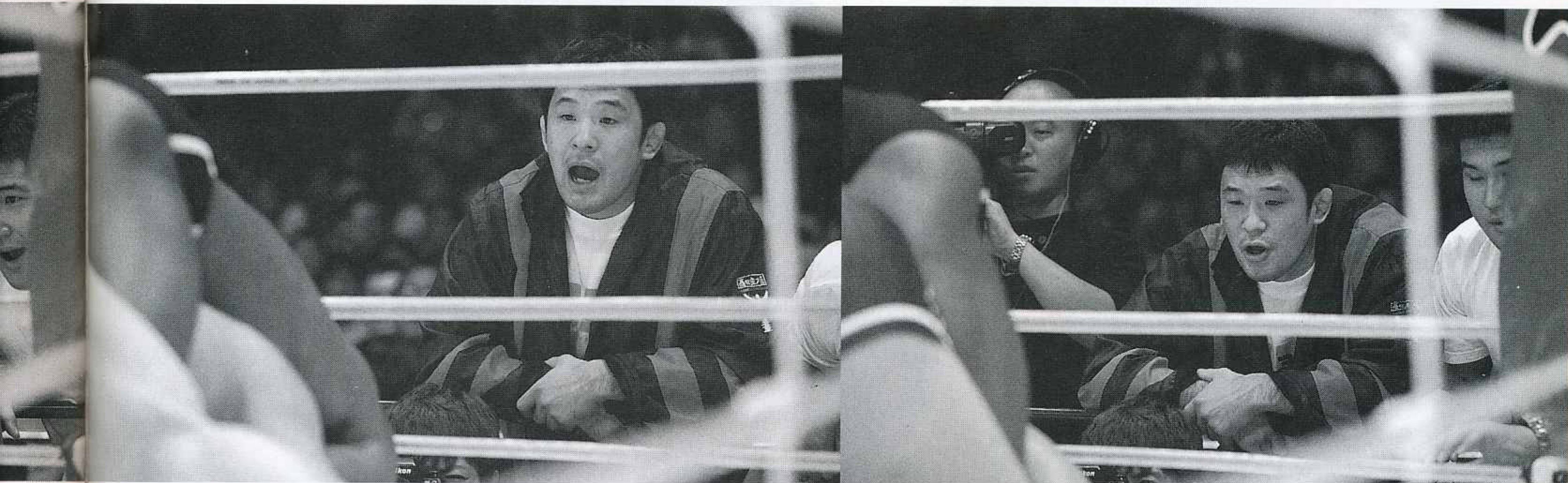
──昼寝してたところ申し訳ありませんけど、桜庭さん目を覚ましてください(笑)。

桜庭　いやぁ、最近起きれないんですよ。今日も取材あるからって時間に起きようと思ったんだけど、お、起きれない。齢ですかね？　あ！　今日は重い人ばっかりとスパーリングやったからかなぁ(ブッブッ)。それとも齢かなぁ……(ブッブッ)。

──『PRIDE．14』では「元気ですよーッ!!」って挨拶してたじゃないですか。ほとんど「元気ですかーッ!!」で報道されてましたけど。

桜庭　あ〜、でも、よく見たら発音は悪くないですよぉ。ちゃんと聞こえてる人は聞こえてましたよ。「あれは『元気ですよー』って言ってたんですよね」って道場にメール来てましたよ。

──「元気です」まで行ったら次が「か」だと思っちゃうんじゃないですかね。パブロフの犬的に(笑)。ボクは「元気ですよーッ!!」って聞こえましたけどね(笑)。

桜庭　母音が違うのに、なんで聞き間違えるんだろう？　まだ「フランクさん」と「船木さん」だったらねぇ。

5・27『PRIDE.14』──。"助手"豊永稔と共に、松井のセコンドについた"博士"サク。この日は、自分の試合のときよりもいろんな種類の表情が見れたサクだった。次回、7・29『PRIDE.15』では、闘うサクの姿が見れる！

──『PRIDE．6』のときですね。「フランクさんと闘いたい」と言ったのが、「船木さん」に間違えられた。

桜庭　そういうふうにしたいんじゃないですか、みんな？　それか、ただ単に見てる人が勝手にそう思ってるだけで。

──あのときだって、桜庭さんの試合の後にフランクがリングで挨拶したから、そう言ったんですよね。

桜庭　ね。フランクさんが目の前にいるのに、なんで他の人の名前を出すかって。あのあと大変でしたよ。いろいろ騒動になったから、謝りましたよぉ。

──今回は間違えられても、別に謝るとこないですよね(笑)。

桜庭　でも、猪木さんに意味ありげに言われましたよ。「今度メシでも食いに行こう」って。怒られんのかなぁ？　人のネタばっか取ってるからかなぁ。

──猪木さんに「メシでも食いに行こう」って言われたのは初めてですか？

桜庭　初めてですね。な〜んか意味があるんじゃないかと思って。

──アレクがなんかのパーティーで、猪木さんがいるところで「1．2．3．ダーッ」をやったんですよ。そしたらその後、「今度、ホントのダーッのやり方を教えてあげるよ、ンムフフフ。メシでも食いに行こうよ」って言われたらしいですよ(笑)。

桜庭　あ、じゃあボクもそういう意味で言われたんだと思います(笑)。でも、あの挨拶は、ボク的には猪木さんのあとの方がよかったんですよぉ。「元気ですかーッ!!」って言ったあとに「元気ですよーッ!!」ってやりたかったんですけど。まさか、ボクのすぐあとに、猪木さんが出るとは思わなかったんで。

──ダハハハ。ところで、咳が止まらないとかの症状は完全に治ったんですか？

桜庭　大丈夫ですよ。咳はまだチョビっと出るけど。

──タバコの吸いすぎ？(笑)。

桜庭　面倒くさいから、病院でも「もう咳は止まりました」って言ってるんですけどね(ニコニコ)。

──医者にはちゃんと言った方がいいですよ(笑)。

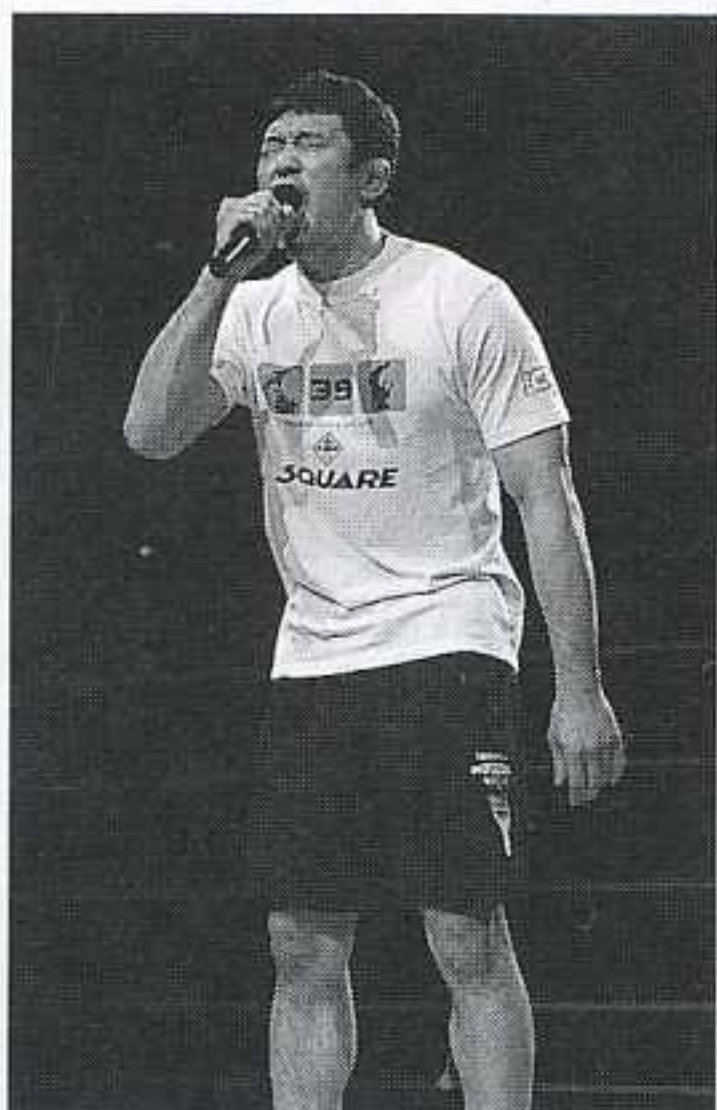
桜庭　でもね、全然大丈夫ですよ。

──練習は普通にやってるんですか？

桜庭　普通にやってますよ。でも、年齢的にキツいんですよぉ。練習やっててチョコチョコ怪我するんで。肉離れとかするんですよ。いままでは全然そんなことなかったんですけどね。

──だって年齢的って言っても、まだ全然若いじゃないですか。

桜庭　いやぁ、体力落ちますよ。23〜24歳ぐら

サクとアントンが「元気です」共演!!

5・27『PRIDE．14』で、アントンとサクの素敵な競演が見られた。先に登場したサクは「元気ですよーーッ!!」。後から登場したアントンは「元気ですかーーッ!!」。質の違う「元気です」競演に、集まったファンは大興奮！

いで1回落ちたんですよ。それで28～29歳ぐらいでまた落ちて、順番としたら、次は今年が落ちる年。

――3～4年周期ですか。じゃあ、来年からまた上がっていくんじゃないですか？

桜庭　それはない（笑）。最近、朝勃ちが悪いし（笑）。

――あ、下ネタ。元気ですね（笑）。

桜庭　いや、元気がないんですよ（笑）。

――取材ラッシュは落ち着いたんですか？

桜庭　もうないですよ。「週に二つぐらいしかやりたくない」って言ったから（ニコニコ）。

――空いた時間で新しい趣味が増えたとかは？

桜庭　ぶあっ！　ないですよ！　ただ怪我しても治療に行く時間ができましたね。昼寝もできるし。でも、昼寝しても起きれないっていうか、疲れが取れないんですよぉ。

――それはマズいんじゃないですか？

桜庭　しょうがないことですよ、年齢がアレだから。

――また歳の話だ。おじいさんじゃないんだから（笑）。最近変わったことはないんですか？

桜庭　か、変わったことですか？……ないですねぇ。

――知らない間に子どもが一人増えたとか。

桜庭　それはないですねぇ（笑）。

――知らない間にパプアニューギニアに旅行に行ったとか。

桜庭　……どこも行ってないですねぇ。試合が決まれば、なんか変化があるかもしれないけど。あ！　変わったことあった。

――聞かせてください。

桜庭　暑くなってきて眠れなくなってきた。嫌な季節になってきましたね。

――ズコッ！

桜庭　それで寝たいときに一回目が覚めると、もう眠れなくなるんですよ。足が暑くて。冷房ガンガンにつけたいんですけど、子どもと一緒に寝てるからできないし。

KAZUSHI SAKURABA

猪木さんに「今度メシでも食いに行こう」って……怒られんのかなぁ

――それ以外変わったところはない（笑）。

桜庭　そうですねぇ、季節が変わったってことだけですね。暑いのは嫌なんだよなぁ。

――夏が嫌いなんですよね？

桜庭　嫌いですよぉ。

――あいも変わらず気の抜ける発言三昧ですね（笑）。ところで『PRIDE．14』では、松井選手のセコンドお疲れ様でした。セコンドだけだともの足りなくないですか？

桜庭　たまにはいいんじゃないですか？

――リングに上がりたくなったりしません？

桜庭　1回上がりました。

――それは挨拶！（笑）。試合やりたくてウズウズしたりとかはないんですか？

桜庭　あんまりなかったですね。あ、でも少しありましたね。こないだはセコンドだから居場所がなくてウロウロしてましたから。椅子に座っててもヒマだし。

――ガハハハ！　でも松井vsペレ戦では、ひっきりなしに声出してましたよね。

桜庭　体動かさないぶん声を出して、あとでうまいビールでも飲もうかなぁ、と。

――今年に入ってから、なんかのインタビューで「2ヶ月に1回ぐらいは試合やりたい」って言ってましたよ。

桜庭　言ってました？　無理ですねぇ。3ヶ月に1回にしましょう。でも試合はやりたいですねぇ。でも、試合に絡んで……。

――アイコンタクトはやめてください（笑）。

桜庭　いろいろ別の仕事があるじゃないですか。

――こういう取材とか（笑）。試合に付随する面倒くさい仕事がなければいいんですか？

桜庭　うん。

――ガハハハ！　注目されるのも飽きた。

桜庭　いや、そういうのがなくても、いい試合すればちゃんと見てもらえるから。その場でワーッと盛り上がればいいんですよ。

――そういうわけで、松井vsペレ戦を間近で見た感想を聞かせてください。

憎っくきシウバは『PRIDE.14』で大山峻護を秒殺!!

ロープ際の大山をシウバのパンチが捕らえ、大山は背中を向ける。その瞬間レフェリーがストップ！　1Rたった30秒！「早すぎる」というブーイングも飛んだが、シウバ伝説はバク進中だ！

シウバがラッシュを開始！　大山のパンチもヒットして、シウバがグラついたように見えたが、シウバはグラつくと同時にタックルに行く。意外と試合巧者なところもみせるシウバだ

ゴング直後、ローリング・ソバットを放っていった大山に対し、シウバはムエタイ仕込みのミドルキックを放つ！　緊張感のある相打ちだ！　それにしても大山への声援は凄かった

サクを破ったことで、一躍時の人となった、現SAKUベルト保持者・シウバ。相手が新鋭の大山でも、試合前のガンつけは相変わらず鋭く濃くしつこい！　負けずに大山も睨み返した

桜庭　いい試合だったんじゃないですか？　3ラウンド目以外は。2ラウンド目まではよかったですね。3ラウンド目は……バテちゃってたからしょうがないですけどね。ペレは、凄いタイミング取るのがうまかったですね。あと、顔が小っちゃいわ、手足が長いわ。

――それ、タイミングとまったく関係ないですよ（笑）。

桜庭　ウヒャヒャヒャ。

――ペレって強いですよねぇ。それに勝った松井選手は凄いですね。

桜庭　いや〜、セコンドが………。

――よかったと（笑）。

桜庭　でも松井がよく練習したから。

――一番印象に残ってる場面は？

桜庭　向こうの膝蹴りと飛ぶやつ。最初、飛んでたじゃないですか。松井はいつも見てるから、特には……。あと、ペレは立ち技だけかと思ったら、グラウンドもできるし。

――桜庭さんはやってみたいですか？

桜庭　機会があれば（ニコニコ）。やったら噛み合いそうだと思いますけどね。

――いい試合になりそうですよね。

桜庭　彼が飛ぶから、ボクはなにしようかなぁって感じですけどね。リングの下から凶器出したり。

――なぜだ（笑）。松井選手の一番の勝因はなんだと思います？

桜庭　体力じゃないですか？

――スタミナありますよねぇ。ホンットあるよなぁ。松井選手のこれからの課題みたいなものは見えました？

桜庭　課題は前と一緒ですね。極め。極めれるとこで極めないから、もったいないですね。

――桜庭さんから見て極めるチャンスは何回かあったと。

桜庭　はい。一回、横四方になったときに。アームロックでもなんでもイケるじゃないですか。

――上四方も取りましたしね。

桜庭　そういう部分で、極めればそこで終わるのに、余計な3ラウンド目までやっちゃって。

――タフだから（笑）。その松井選手が試合後に、マイクで「桜庭さん、もうちょっと休んでてください」って……。

桜庭　（すかさず）はい！

――ガハハハ！「シウバ、俺と闘え」と言いましたけど、それを聞いてどうですか？

桜庭　それはそれでいいんじゃないですかね？　ボクにはボクの課題があるから。

――その課題を教えてくださいよ。

桜庭　もっと試合で冷静になれるように。あんな（シウバの）睨みでカッとしちゃダメですよ。

――あ、そっちの課題（笑）。

桜庭　ま〜だ車運転しててもカッとなることありますからね。

――やっぱ、まだ若いですね（笑）。

桜庭　仙人ぐらいの心を持ちたいなあって。なにがあっても冷静でいられるっていう。

――仙人は霞を食って生きなきゃいけないですよ（笑）。桜庭選手的には、松井選手とシウバが当たってもいいんですか？

桜庭　いいんじゃないですかね？

――松井選手が勝っちゃったら悔しくないですか？

桜庭　それはそれで、松井にとってはいいことだから。

――でも、桜庭さんにとってはシウバへのリベンジという部分で、ちょっと面白味がなくなりませんか。

桜庭　いや、別に……。そういう意味では面白くなくなるとは思うけど。ボクはボクで、彼は彼だから。

――シウバの顔を思い出すと、いまでもムカつくんですか？

桜庭　いやー、ダ、ダ、ダ、だんだん平気になってきました。

――ちょっと前は？

桜庭　ハ〜ラ立って腹立って、ムカムカしてました。でも、それは、お酒飲んでムカムカしてたのかもわかんないけど。

USHI SAKURABA

今度シウバを こうやって 睨もうかな？

――ズコッ（笑）。シウバの顔を思い浮かべてサンドバッグにパンチ入れたりしないんですか。

桜庭　ダメですよ！　そうなったらダメなんですよ、冷静になれないから。顔しか見れなくなっちゃう。

――だいぶ落ち着いてきたんですね（笑）。でも、桜庭さんの場合、どこでムカつくかわかんないからなぁ（笑）。でも、あそこまでガンつけられたっていうのは初めてですよね、プロになってからは。

桜庭　高校生の頃には1回ありましたけどね。最後にキレて自転車で突っ込んでいったけど。あのときの状況と一緒ですね。あのときも顔しか見えなかったです。学ラン着てたから、学ラン掴んで顔だけボコボコ殴って。その状況と一緒でした（笑）。

――あそこまで睨みきる選手もいないですよね、試合前に（笑）。

桜庭　今度は睨み返してやりますよ。

――シウバvs大山戦はどう見ました？

桜庭　う〜ん、彼もまたカッとなっちゃったんじゃないですかね？

――大山選手は、睨み返して、気の強いとこ見せましたよね。見方によっては落ち着いてるようにも見えたんですけどね。

桜庭　やっぱカッとしちゃうんじゃないですかね？　ムカつくんですよ、あの顔が。あそこまで睨まれると腹立ってきますよぉ。

――もし再戦して、同じように睨んできたら、睨み返しても冷静でいられる自信はあるんですか？

桜庭　ありますね！……あ、わかんないなぁ。カッとなっちゃうかも。こ〜うやって下から覗いてやろうかと思って。「どこ見てんの？」みたいな感じで。あと、フェイントかけて睨むとかね。下向くフリして。

――視線をかわして（笑）。それはシウバもムカつくだろうな。

桜庭　こ〜ういう感じで（P68の写真参照）。

——それはムカつくな。

桜庭 ヒャハハハ。逆に向こうがカッとなっちゃうかな。

——でもシウバっていうと、2年近く前かな、『PRIDE.7』のときにカール・マレンコとやった試合を見て、桜庭さんが「あの選手とやったら面白そう」って言ってた選手なんですよね。覚えてないでしょうけど。

桜庭 あ、ボクが？ 覚えてないですねぇ。

——あれからシウバもファイトスタイルが変わりましたからね。あのときはグラウンドも結構やってたんですよ。

桜庭 ああ～！ なんか覚えてるような気がするなぁ。

——シウバのいまの野獣的なファイトスタイルは、変わった『PRIDE』のルールには向いてるじゃないですか。

桜庭 いや～、そんなこともないんじゃないですかね。イメージはそうですけど、考えてないようで考えてやってるから。

——シウバが？

桜庭 シウバが。

——桜庭さん的に4点ポジションでの膝&蹴りOKのルールは、別に変えなくてもいいんですか？

桜庭 別に、あれはあれでいいんじゃないですか。

——ルール変えてシウバとやって勝っても、あんまり嬉しくないですからね。

桜庭 そうですねぇ、やるんだったら、こないだと同じルールの方がいいかな。噛みつきありで（笑）。

——噛みつき！

桜庭 「うるせー、この野郎！」って、言葉で噛みつくの。

——んあ～（笑）。イメージとしては桜庭さんが亀になったときに上から膝でガンガン打たれるのは、見てる方としては怖いですよ。

桜庭 だから、前にも言ったけど、あの膝蹴りはそんなに効いてないんですよぉ。

——全然効いてないんですか？

桜庭 全然じゃないけど、ただ、来るのわかってるから「あ、痛いな」って感じ（ニコニコ）。一番効いたのは立ってるときの膝蹴り。バーンと鼻に入ったんですよ、一発。

シウバとやるなら同じルールの方がいいかな。噛みつきありで（笑）

KAZUSHI SAK

——写真で見ると結構凄いですよね。膝がメリ込んでますよ、桜庭さんの顔面に。

桜庭 鼻に入って、痛ッテーと思った瞬間、真っ白になって、「痛ッテー!!」（絶叫）と思ってパッと目を開けたら鼻血がポタポタ出てきたんですよ。それでヤッベーと思って。

——アゴに喰らったときみたいに、フラーッとなるような感じは？

桜庭 ああいうんじゃないですね。

——最後、仰向けになりましたよね。

桜庭 あれは、足を掬えねぇなと思って仰向けになろうとしたんですよ。

——止められる前の最後の蹴りも効いてない？

桜庭 下から蹴ったヤツですか？ たぶん全然効いてないですよね。ボクが仰向けになろうとしたときにバーンと蹴ったから。それがボクが前に出ようとしたときだったらキツいけど、力が逃げちゃってたから。

——当たり前だけど、スタンドでの膝が効いたってことは、それが要注意になるわけですよね。

桜庭 彼の得意技があれだからですよね。

——それへの対処はもう自信あり？

桜庭 やってみないとわからない……。

——そりゃそうですけど、これからムエタイ特訓をやるとかの計画はないんですか。

桜庭 いや、やんないですよぉ。

——やんないでしょうね（笑）。

桜庭 レスリングにそういう組手とかありますからね。

——首相撲系の。

桜庭 やっぱり頭落とされたらレスリングもキツいし、それと一緒じゃないですか？

——シウバの首相撲で思い出したけど、藤田vs高山戦も、高山選手の首相撲&膝がキーポイントでしたよね。ああいうシーンを見て、これから打撃が重要になるなぁとか、そういう感覚はないですか？

桜庭 ああやって捕まらなければいいかなと思って。あそこの場面になったらすぐ引いちゃうとか。

——すぐ引けるぐらいムカついてなければいいわけですね。

桜庭 そうそう（笑）。ムカついてたら、そのまま無理矢理ガーッて力で取ろうとしますからね。

——とにかくムカつかなければいい（笑）。

桜庭 ムカつかなければなんとかなるんじゃないですかね。まぁ、やってみないとわかんないですけど。

——でもなぁ、素人がこんなこと言うのもなんですけど、何回ビデオ見直しても、桜庭さんが負ける相手じゃないんですけどね。シウバ。

桜庭 やられちゃいました（笑）。

——いま考えても、ストップは早いと思いますか？

桜庭 う～ん、ビデオで見るぶんには、止めて正解なんじゃないですか？ ボクが血だらけになってるし。

——顔も変形してましたしね。

桜庭 しょうがないんじゃないですか？ 血だらけで、顔が腫れても止められない人もいますけどね、ペレとやった人。カッコ松井、カッコとじ（笑）。

——あの人はいつ何時でも、誰にも止められないって感じですけどね（笑）。あそこからが真骨頂ですから。

桜庭 そのときの状況もあるし。

——さっきの続きですけど、4点ポジションの膝&蹴り解禁によって、こないだの『PRIDE.14』も、一試合一試合、グラウンドになるといままでと緊張感が違いますね。

桜庭 でも緊張感がある試合の方が面白いじゃないですか。それでいいんじゃないですか？

——やってる選手にそう言われると、凄く心強いですけどね。

桜庭 全く気にしないわけじゃないけど、一応バーリ・トゥードってことでやってるので、なに

やってもいいんじゃないですか？　みんなそう思ってますよ。

——アブダビ王子が「あのルールをすぐに変えて欲しい」って言ってましたね（笑）。王子のように、ルール改正によって、技術の攻防が見れなくなるという心配をする向きもありますね。

桜庭　それはないんじゃないですかね。それは選手の意識の問題じゃないですか。判定勝ちでもいいから、ただ勝とうという人は、基本的には面白い試合はできないだろうし。極めて勝ちたいと思う人は面白い試合ができると思うんですよね。あのルールでも。

——でも、4点ポジションでの膝&蹴りがあると、休むヒマって少なくならないんですか？

桜庭　だから、そのポジションにならなきゃいいんですよ。あとは別の部分で休めば。一服コーナー作って、灰皿置いてもらって。

——な、なに言ってるんだ、この人は（笑）。

桜庭　ベンチと自動販売機も置いてもらって（笑）。いくらでも休めますよ。あとは試合中に休んでるフリして攻撃する。押さえ込んで「フゥ～ッ」ってちょっと休むような雰囲気を出しといて、ガツーンと極める！（ニコニコ）

——でも、桜庭さんはグラウンドでの膝蹴りで勝とうとは思わないですか？

桜庭　思わないですね。

——チャンスがあっても？

桜庭　チャンスがあったらやりますけど、それで勝とうとは思わない。やっぱりガッチリ極めて、相手に「まいりました！」って言わせたいですね。アマレスやってるときもそうだったんですけど、基本的にはポイントじゃなくてフォールして勝ちたかったんですよ。柔道の一本と一緒ですよ。

——逆に判定で負けても、そんなに負けた気はしない？

桜庭　そうですね。だから、やってる人の意識の問題じゃないですかね。あと、相手が白目剥くぐらいのKOできる力があるとか。

——復帰戦やったときには見事な打撃ファイターになってたりして（笑）。

桜庭　それはないですねぇ。

——みんな驚くでしょうね。「得意技・スタンドでの膝」って言ったら（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。それはない。確実に「まいった」を言わせたいから。

——ぜひ、シウバをグラウンド地獄に引きずり込んでほしいですね（笑）。

桜庭　（タップの仕草をしながら）「まいりました～」って、これを言わせたいですね（ニコニコ）。

——その「まいりました」を松井選手が、桜庭さんより先にやっちゃうかもしれないですよ。いいんですか？

桜庭　う～ん、ホント、それに関しては、特にはないですねぇ。

——そういえば、ニュートンかゴエスとやりたいって言ったと一部で報道されてましたね。

桜庭　ぶぅぁ～、それ話の流れでそう言っただけで、やりたいとは言ってないんですよぉ。

——あ、またその類の話ですか。

桜庭　話の流れでもう一回やってみたい相手としてそう言っただけで、ゴエスにしても、いますぐじゃなくてって話をしただけですよ～。だから嫌なんだよぉ。

——今度から死んだ人の名前とか出せばいいじゃないですか（笑）。

桜庭　あ！　辞めた人とか（笑）。その方がいいですね。そういうのが嫌だから、最近はだんだん名前を出さなくなってきたんですよ。

——『PRIDE.14』は全試合見ました？

シウバとやるなら（タップの仕草をしながら）「まいりました～」って、これを言わせたいですね

桜庭　全試合は見てないですね。会場をウロウロしながらモニターで見てって感じなので。

——藤田vs高山戦は見たんですよね。

桜庭　あれは見ましたね。最後、高山さんがスタミナ切れちゃったって感じですけどね。

——バーリ・トゥード初戦でしたけど、高山さんの闘いぶりはどう見えました？

桜庭　人の試合を語る前に、いまは自分の試合を語らないといけないですからね（ニコニコ）。

——それはとりあえず置いといて。

桜庭　バーリ・トゥードもなにも、高山さんは、昔からやってきたことをそのままやっただけじゃないですか？

——だから、Uインターって考えてみたら凄いですよねぇ。

桜庭　それにプラス、バーリ・トゥードはちょっと違うので、それを足せるか足せないか。試合では普段のクセとか出てくるから、練習でクセをいろいろつけておかないと。

——高山戦の試合前に、藤田さんが「重量級のフリーファイトがどんなもんかっていう試合を見せる」って言ってたんですよ。その通りのド迫力の試合になったんだけど、重量級がド迫力で見せるんだったら、中量級は……。

桜庭　コ迫力！　小さい迫力で見せる。

——ガハハハハハ！　中量級はコ迫力！　第1試合に出た、ニーノ"エルビス"はいい選手でしたね。やってみたくないですか？

桜庭　軽いんですよね？

——80キロジャストぐらいですね。

桜庭　厳しいですねぇ、軽すぎる人とやっても「体重が軽かったから」とか言われますからね。

——「重い人とはやらない」って言えば、なんか言われるし（笑）。

桜庭　どうすればいいんですかね？　ピッタリの人があんまりいないんですよ。

——ピッタリの人はヒクソンですよ（笑）。

桜庭　あ～。ニュートンのときはピッタリでしたよ。あのときはちょうどだったんですよ。

——いずれにしても、中量級の核は桜庭さんだからなぁ。

桜庭　ニーノがいるじゃないですか。

——ガハハハ！　なぜ他人任せにする！

桜庭　ち、違いますよ。面白いのがいっぱいいた方がいいじゃないですか。ボクも試合したいですけどね。

——バンバンやってほしいですね。今度の『PRIDE.15』で石澤vsハイアン戦と、ヘンゾvs大山戦が決まりましたけど、このブラジル勢2人とも桜庭さんは対戦したことありますよね。この2試合はどう見ますか？

桜庭　日本の選手2人に頑張ってほしいですね。

——それだけ（笑）。

桜庭　いい試合になればいいと思いますよ。

——石澤選手は勝てますか？

桜庭　十分勝てると思いますよ。

——桜庭さんは、相変わらず日本人とはやりたくないんですか？

桜庭　あんまり。

——一緒に練習してない人だったら？

桜庭　たとえば誰ですか？

——長州力とか（笑）。

桜庭　体重差も年齢差もありすぎるじゃないですか（笑）。

——じゃ、グレート・サスケとか（笑）。

桜庭　体重同じぐらいですかね？　やらないですけど（笑）。

——リングスでは成瀬、山本、田村が退団してフリーになったわけですけど、桜庭さんが山本、成瀬に対戦迫られたらどうします。

桜庭　一人抜けてますねぇ。やらないですよ。……これ以上はやめましょう（ニコニコ）。

——ま、今日はそっちの話じゃないんで。純プロレスの試合は今年はなさそうですか？

桜庭　ボクは……（小声で）やっぱり、向いてないです。

——確かに向いてないかもしれないなぁ（笑）。WWFは見てないですか？

桜庭　はい。別に見たいと思わないです。

——面白いんですよ、ホントに（笑）。

桜庭　それ、繋がってるからでしょ？

——ドラマをライブで見る感じですね。でも、不思議なのは試合も全部見れちゃうんですよ。日本のプロレスは試合を早送りすること多いですからね、俺。

桜庭　ヒャハハハ。でも、マジメな話、ボクがなんでプロレスラーになりたいと思ったかっていうと、強くなりたかったからなんですよ。

——いまでも強くなりたいと思ってますか？

桜庭　はい。強くなりたいとは思ってますよ。練習中に取られたら悔しいですからね（ニコニコ）。

——それだけで十分です！『PRIDE．15』期待してます！

桜庭　いや、まだ出るって決まってない……。

【6月11日／東京・武蔵小山／髙田道場にて収録】

というわけで、そうこうしてるうちに、サクの復帰戦が7・29『PRIDE．15』に決まったという記者会見が、このインタビューの、ちょうど1週間後に開かれた。この模様は次のページへどうぞ！

KAZUSHI SAKURABA

SAKU is BACK!!

サクの試合がいよいよ見れる!!

7.29『PRIDE.15』出陣会見!!

元気ですよーッ！ 元気が出たので練習してます。ちゃんと練習してるので、今度の『PRIDE.15』にサクが出ちゃいます！

真夏に桜が狂い咲くか!? 桜庭和志が復活だ！

『13か…とんでもないことが起こらなきゃいいが…』

そんな『PRIDE.13』のキャッチコピー通り、桜庭がヴァンダレイ・シウバの狂気な打撃の前にTKO負けを喫するという、まさにとんでもない衝撃の事態が起こり『PRIDE』の磁場を揺るがしたシウバ戦。

あの悪夢から約4カ月。7月29日に行われる『PRIDE.15』に桜庭が出場することが、6月19日に高田道場で行われた記者会見で発表された。

会見には多くの報道陣が高田道場に詰めかけ、桜庭の発言に注目が集まったのだが、当の桜庭は、

「また試合をしますので、よろしくお願いします（笑）。」

と2秒であっさりと秒殺会見。

質疑応答の方に移り、まだ決まってない対戦相手のことでは、

「何も考えてない。5キロなら仕方ないけど、10キロ重い人とはやりたくないですね」

と、以前と変わらない桜庭のスタンス。シウバのリベンジ戦のことも

「やりたくなったらやる」

と核心に触れる発言をせず、相変わらずノラリクラリとマイペースに質疑応答を進め、松井の新『PRIDE』ルールの対応していたのは桜庭の指導によるものなのかという、裏を返せば桜庭も、何か新ルールに対応する練習をしてるんですか、という意味合いの質問を受けても、

「ボクは知りません。それは松井に聞いてください」

と、全く寄せ付けずバッサリ切り、とりあえずマイペースな桜庭健在をアピールするかたちの記者会見となった。

会見終了後には当然DSE関係者に今後の話を聞くかたちとなったが、DSE関係者によると、『PRIDE.15』の対戦相手は「シウバの匂いのする選手」を再起戦の相手に用意する方向らしい。すでにシュートボクセ関係の選手を複数リストアップしているともいう。

しかも驚くべきことに、なんと『PRIDE.15』のオープンニングマッチが桜庭になるプランが浮上中！ 実現すれば『PRIDE』史上空前の盛り上がりをみせる第一試合になることは間違いなし！

あくまで『PRIDE.15』との雪辱前哨戦として考えるDSE関係者。来るべきシウバとのリベンジマッチを11月の東京ドームに照準に合わせている。その闘いの終了のゴングが鳴ったとき、立っているのはシウバか、サクか？ 今から気にしてろっ！

大山、そして石澤常光の背水の陣!!

日本勢のリベンジか!? グレイシーの復権か!?

石澤常光 vs ハイアン・グレイシー

新日本とグレイシーが運命の接点をはたした、昨年の8・27『PRIDE.10』西武ドーム。石澤はハイアンの狂拳の前に軍門に見事に散った。今回満を持して、ハイアンにリベンジマッチを挑む石澤。グレイシーブランドが崩れつつある中で、今回のハイアン戦はある意味、前回よりもリスクが高い戦いだ。石澤の苦渋に満ちた1年の溜めが爆発するのか!? 石澤のリアルな姿を確認せよ！

【文・クレ斉藤】

大山峻護 vs ヘンゾ・グレイシー

大チャンスか、大ピンチか!? 大山峻護の『PRIDE』第2戦目の相手はヘンゾ・グレイシー！ 桜庭、ヘンダーソンと連敗が続いてるとはいえ、ヘンゾの実力はやっぱり一級品だ。大山にとっては、また厳しい一戦となりそうだが、柔道がベースの大山は自分の総合における寝技のレベルが計れる相手。今後の可能性を見る上でも楽しみなヘンゾとの闘い。シウバ戦の悔しさをにぶつけろ！

【文・クレ斉藤】

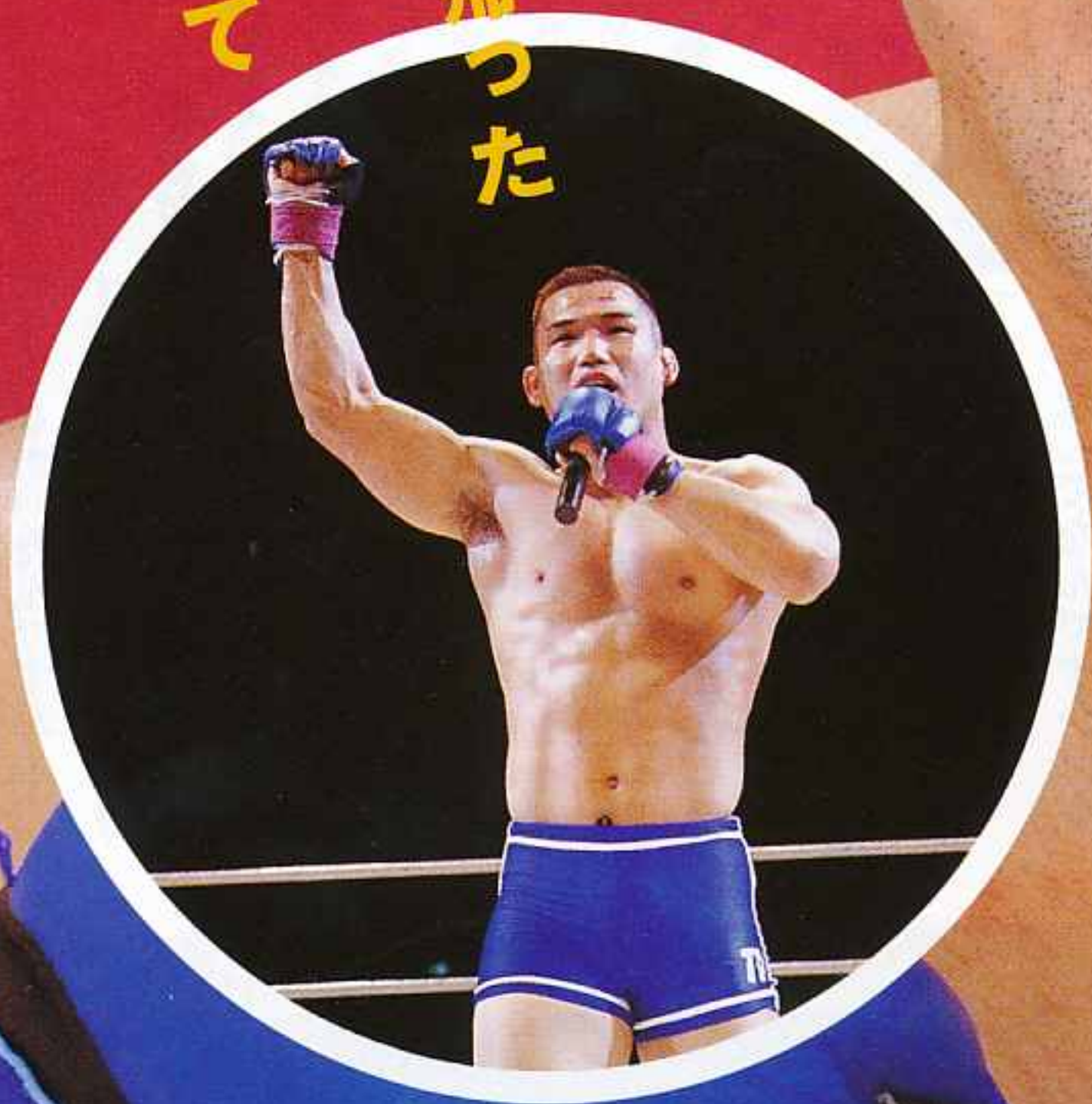
PRIDE.15

開催日◆2001年7月29日（日）開場／14:00 開始／16:00
会 場◆さいたまスーパーアリーナ JR京浜東北線、高崎、宇都宮線「さいたま新都心駅」下車徒歩すぐ
チケット情報（入場料/全席指定・消費税込み）◆VIP（ビップ）…100,000円（特典付き） RRS（ロイヤルリングサイド）…23,000円 スタンドS…13,000円 スタンドA…7,000円
●株式会社ドリームステージエンターテインメント 03-5775-5700

次号『PRIDE.15』直前大展望&大予想特集（7月25日発売予定）

“未知の強豪”を撃破した髙田道場の斬り込み隊長!!

来るか、大二郎の時代!!

シウバさん、あなたが持って帰ったあのベルト、ボクが奪い返してみせます!!

松井大二郎

聞き手／山口日昇
撮影／森鷹博
試合写真／乾晋也
designed by matsu（Two three）

5・27『PRIDE.14』——戦前の大方の予想を覆し、"幻の強豪"ペレを判定ながらも打ち破った松井大二郎。また松井が"流血大王"となって顔面がボコボコになるという一部の格闘技関係者の達観をものの見事に裏切り、あのシウバが「俺より強い」と言った男の壁をブチ破ったのだ！　勝利後は、憎っくきシウバに向かい、高らかに（声も）対戦表明!!　超満員のファンから大喝采を浴びた。

7・29『PRIDE.15』ではサクも復帰戦を行う。このリングで松井はシウバ戦に挑むことができるのか？　まだ当確マークは出てないが、とりあえずは、VIVA大二郎インタビュー、字は小さいけど読んでくださ～い!!（カン高い声で）

——今日は松井さんに闘龍門の面白さを語ってもらいたいと思ってきました（笑）。

松井　ウォーーーッ！　いくらでも喋りますよ。

——いや、そんなに興奮されても（笑）。ちなみに闘龍門はどこが面白いんですか？

松井　全部！　僕にはできないことをやってるじゃないですか！　凄いですよ。

——というわけで、闘龍門の話は今度ゆっくりしてもらうとして（笑）、『PRIDE.14』でのペレ戦の勝利、おめでとうございます。

松井　ありがとうございます！

——ペレって格闘技マニアや関係者の間では評価が高い選手ですよね。ぶっちゃけた話、闘う前に、ビビらなかったですか？

松井　そういうのは全くなかったですね。今回はなぜかいい意味で力が抜けてたんで。

——なんでですかねぇ？

松井　う～ん、いままでの負けが今回の勝ちに繋がっていったからじゃないですか？

——「相手は関係ねぇ！」って感じですか？

松井　はい。相手が誰でも絶対勝ってやろうと思ってましたね。

——凄く面白い試合だったと思うけど、内容的には満足感はあるんですか？

松井　少しはありますけど、課題がまた見つかったし、やることも見つかったんで。

——じゃあ充実感は？

松井　あります！

——やっぱり勝つと嬉しいですよね？

松井　嬉しいですねぇ～。初めて味わいましたよ、嬉しいです。ちゃんと勝ったのはいつ以来だろ？　この前、『キング・オブ・ザ・ケイジ（KOTC）』（4・29カリフォルニア／リック・カーンズに判定勝ち）で勝ちましたけど、あれはアメリカじゃないですか。日本でちゃんと勝ったのはキングダム以来じゃないですか？

——プロレスの試合ではありますけどね。『KOTC』で勝ったのは大きく作用してないですか？

松井　したと思いますよ。あのときは勝ったことで、周りの反応が全然違ったんで。「松井、いい試合だったよ」みたいなことを通る人がみんな言ってくれて。それまでは、いつも「松井、残念だったな」みたいな感じだったから。

——通る人通る人、みんなが「残念だったなぁ」って決めゼリフみたいに言ってたのに（笑）。

松井　特にアメリカはそういうのハッキリしてるじゃないですか。

——ペレ戦の勝利は、一番に誰に報告したいとかありました？

松井　髙田さん、桜庭さんを始め、道場のみなさんと、田舎の母ちゃんに。

00回に1回取れるとメチャ嬉しい!!

——母ちゃん、見に来てなかったんですか？

松井　来てないです。デビュー戦に来たっきりで。「あんたの顔が腫れるの、よう見ん」って言うんですよ。

——松井さん、いつもボコボコですからね（笑）。勝ってなんて言ってました？

松井　「よかったな、また頑張りなさいよ」と。やっと勝利の報告ができました。

——でもこれで、桜庭さんに続いて、ブラジルでは二番目に有名な日本人ということになるでしょう。

松井　嬉しいですね。

——もともとブラジルでは評価が高かったらしいですね、松井さんは。

松井　なんでなんですかね？　流血するからですか？

——ガハハハ。派手だからかなぁ（笑）。

松井　ああいうの、ブラジルで受けるんですかね？

——でもアメリカのファイターも評価してますよ。コールマンも誉めてたみたいだし。

松井　ビックリしましたよ。ホームページに書いてあったんですけど、「今日よかったのは、フジタとヘンダーソンと、ダイジロウ・マツイだ。俺はああいう闘い方が好きだ」って。嬉しいですね。でも、まだ1回勝っただけなんで、これから続くようにしないと今回の勝ちがまぐれになるんで。もちろんまだ満足してないし。どんどん上を見て、髙田さん、桜庭さんという素晴らしい先輩がいるから、その人たちに追いつけるようにしないと。

——ちなみに桜庭さんは、なんて言ってました？

松井　桜庭さんは打ち上げで乾杯の音頭を取っ

松井VSペレ PETIT REVIEW

5・27『PRIDE.14』横浜アリーナ

松井大二郎（3R終了 3－0判定）**ペレ**

ゴング直後、いきなり弾丸のような飛び膝蹴りを狙ってきたペレ！　この脅威の跳躍力は、同門のシウバが一目置く超人というより、いやはや鳥人だ！

松井がタックルに行ったところ、遠距離からカウンターを合わせてきたペレ。この一撃で松井は頭が空白に。この後、殴られ続けたり、蹴られまくってたら止められてた

カウンターの膝で松井の動きを止めたペレは、スリーパーを狙う。セコンドの桜庭の声で我に返ったのか、松井は冷静に対処。なんとか逃げ切った。危なかった……

てくれたんですよ。「それじゃあ松井、お疲れ。今度は一本勝ちできるように頑張りましょう」って（笑）。

――ガハハハ！　また嫌味なこと言いますね、人が喜んでるときに（笑）。桜庭さんは「松井の課題は、あとは極め」って言ってましたね。

松井　ガード取られても、僕、パスガードしようとしないで、顔が見えたら殴りに行っちゃうんですよ。まだそこで冷静さが残ってないんですよ。

――でも、それはそれで持ち味ですからね、ある意味。逆に桜庭さんみたいに冷静な松井さんは見たくない気もしますよ（笑）。

松井　ハハハハ。

――その桜庭さんは今回セコンドで、実にかいがいしく働いてくれましたね。

松井　完璧じゃないですか？　今回は『ギミック』っていうビデオの博士と助手がついてたんで、最高のセコンドでした。

――あの衣装のまま来てほしかったですね（笑）。

松井　あ、そうですね。

――桜庭さんは真剣な表情で、ズッと声出しっぱなしでしたからね。インターバル中も松井さんの腕を揉んだり、背中の汗拭いたり、かいがいしかったですよね。桜庭さんがいると心強いですか？

松井　メチャメチャ心強いです。的確、適切なことを言ってもらえるんで。

――（豊永）稔君はどういう役割なんですか？

松井　稔はねぇ、あいつは「松井さん、ラスト1分です！」とか言うじゃないですか。でもアナウンスと30秒ぐらいズレてるんですよ（笑）。「この野郎、嘘教えやがって！」と思いながらやってるんですけど。あとで「実はですねぇ、ストップかかったときに時計止めるの忘れたんですよ」とか言いやがるんですよ。見事な助手ですよ（笑）。

――ガハハハ。それは見事ですね（笑）。しかし松井さんは、つくづくスタミナの化け物ですよね。柔道時代からそうなんですか？

松井　柔道時代は、すぐ息上がってハーハー言ってましたけど。でも、それでもまだ続けてましたね。

――粘着質なのかなぁ？

松井　ただしつこいだけですかね（笑）。

――もともと負けず嫌いなんですか？

松井　変なとこで負けず嫌いかもしれないですね。ダメだと思ったら、とっとと引いちゃいますね。

――「変なところで」って、たとえばどういうところですか？

松井　……なんだろ？

――たとえばゲームで1回負けると勝つまでやるとか？

松井　いや、対戦ゲームやって負けたら「チクショー！」ってなるヤツいるじゃないですか。そういうの相手にするとややこしいんで、わざと負けて「終わり終わり、僕の負け」って（笑）。

――あ、そうなんだ。その話からすると、そんなに短気じゃない？

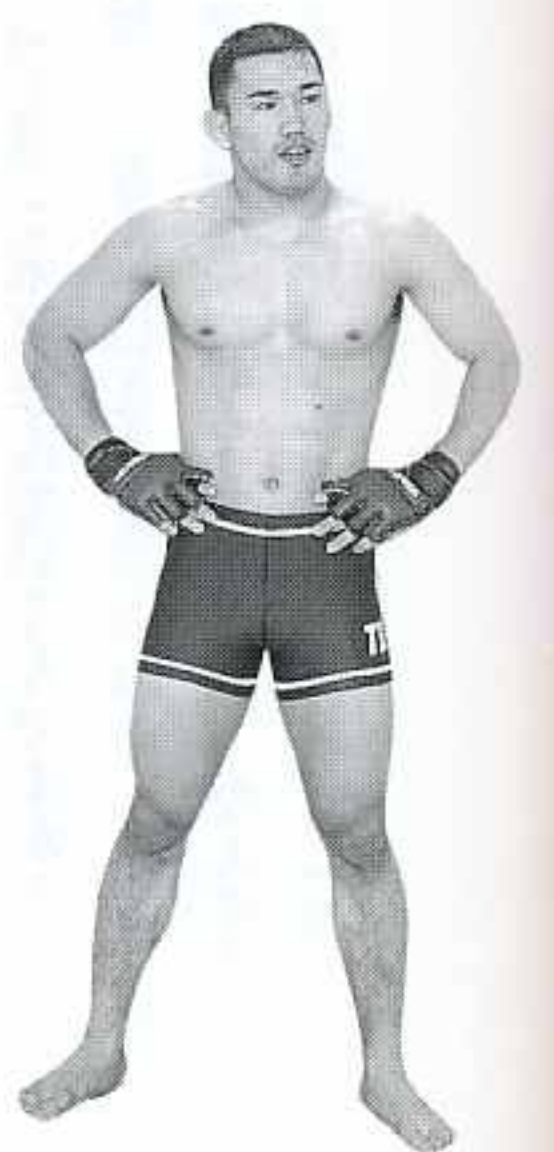
松井　全然短気じゃないですよ。優しい、ま～るい性格ですよ。気のいいアンちゃんですよ。

――自分で気のいいアンちゃんて言わないですよ。そういう人に限って気が悪いもんです（笑）。

松井　じゃあ、実は腹黒いんですかね（笑）。

――かもしれない（笑）。練習で一番楽しいことってなんですか？

松井　スパーリングで桜庭さんから100回に1回ぐらい

DAIJIRO MATSUI

スパーリングで桜庭さんから100回

取れるときがあるんですよ！　そのときがメチャメチャ嬉しいですね。「クッソー！！！」って桜庭さんが言うときがあるんです（笑）。

――それは見てみたい！（笑）。

松井　桜庭さんがやってくるイビリ技があるんですけど、それを僕が逆にやったりすると「チックショーーーー！」って桜庭さんが叫ぶんです（笑）。

――負けず嫌いでいいなぁ、桜庭さんは。ところで松井さんはもともと体育会系の気質ですか？

松井　ズッとそれで生きてきましたからね。

――桜庭さんは体育会系じゃないですよね？

松井　そうですか？　ああいう人もいますよ。

――タチ悪いからな、桜庭さんの場合は。軟式ボールをゆる～く投げるフリして、硬球を剛速球で投げますからね（笑）。

松井　やりかねませんね（笑）。

――でも、高田道場は体育会系の悪い部分は排除してますよね。

松井　それでも新弟子は育たないですよね。

――それは練習のレベルが高過ぎるんじゃないですか？

松井　稔のイジメが凄いからかもしれませんよ～（笑）。陰でやってるかもしれないですよ。「俺をナメるなよ」とか、僕らが帰ったあとで道場の裏に呼び出して（笑）。

――ガハハハ。そういえば桜庭さんが言ってた、自転車に乗って逃げ出した新弟子っていうのは戻ってきてないの？

松井　あ、帰ってきましたよ。自転車戻して、またいなくなりましたけど。

――冷蔵庫に、自分が食う分だけは、いい肉を残してるっていう新弟子ですよね（笑）。

松井　す、凄いんですよ！　今村と

スリーパーを逃げたと思ったら、今度は腕十字！　場内から大きな悲鳴とタメ息が漏れたが、松井は持ち上げて叩きつけるなどして隙をつくり、これも脱出に成功！　いいぞ、松井！

1Rの立ち上がりのピンチを凌いだ松井は、セコンドの“博士”と“助手”の的確なアドバイス（一部、助手はいい加減）に耳を傾けながら、落ち着いて強豪と向き合った

2Rになると、上四方を取るなど、完全に大二郎ペースに。場内にも「いけるかも」という雰囲気が充満し、「松井コール」も起こった。ここは極めるチャンスだったのだが。惜しい！

ペレはグラウンドでもしつこく密着し、ポジションを確保しようとするが、松井は、ペレがマウントを取ったと同時にスイープするなど、確実に相手の動きが見えていた。一本は取れなかったが、完勝だ！

か稔がメシ食うときは、切り落としの安いクズ肉を炒めて出して、「僕のは自分で作ります」とか言って、見るからに全然いい肉を自分で炒めて「同じです」とか言うんですよ！　稔が「てめえ！」って怒ってパック見たら、パックからして高級感が違う。値段も全然高くて！　ふざけたヤツだったんですよ。

——ガハハハ！　フルーツ事件もあったんですよね。

松井　冷蔵庫にフルーツが置いてあったから、俺らがメシ食い終わったら出してくれるのかと思ったら、出てこないんですよ。で、次の日道場行ったら、そのフルーツがないんですよ。「フルーツどうしたんだ？」って聞いたら「いや、僕が夜食べました」って、そういうひどいヤツだったんですよ。そんなことします？　新弟子が。

——ダハハハ。あの桜庭さんが「なんでああいうことができるんだろう？」って、ホントに不思議がってましたからね

松井　凄いヤツでしたね。

——当時、19歳でしたっけ。ある意味大物ですよね（笑）。

松井　大物ですよ。残ってれば凄いヤツになったと思うんですけどね。あいつの話はいくらでもできますよ。桜庭さんと稔がいたらボンボン出てきますよ。次回特集組みましょうよ。

——ゼヒ組みましょう（笑）。それにしても、ペレも強かったですね。なにが一番印象に残ってますか？

松井　「まさかこんなとこから来ないだろう」というような、遠距離からの膝蹴り！　あれ、全然覚えてないです。

——ああ、立ち上がりのカウンターの膝。

松井　ペレの試合をいくつか見たんですけど、彼はそれがうまかったんで、僕はその戦術にはまったな、と。あとでビデオで見たら、「あ、イッてるな」って感じだったから。スリーパー取られてしばらくしてから気がついたんですよ。

——ペレが寝技に来ないで、あのまま殴られ続けたら止められてたかもしれないですね。

松井　ヤツの作戦ミスですよ。でも、それは髙田さんにも言われました。「膝蹴りもらって、お前がガクッとなってるところをペレが殴り続けてたら、間違いなくレフェリーが止めてた」って。

——髙田さんは厳しいこと言いながらも、嬉しそうでしたね。

松井　はい。ありがたいです。

——その膝の後、スリーパーを凌いだものの、腕十字は実にヒヤヒヤしましたね。

松井　伸びましたよ。でも、ちょっとズレてたんで、極まらないなと思って、じゃあ伸ばして逃げようと思って自分から離して。

——ペレは極めの部分はどうなんですか？

松井　そこそこできるとは思うんですけど。でも僕は、そんなに。桜庭さんよりも全然ユルユルだったんで。桜庭さんだったら間違いなくあそこで極めてます。

——逆に2ラウンドに入ると、上四方取ったり、ポジショニングとしてはベストでしたけど、チャンスを逃しましたよね。

松井　しっかり押さえ込もうと思ったときに、彼がグニュグニュグニュって。強いですよ、ペレは。あいつもしぶとい性格なんですかね？

——かもしれないですね（笑）。試合後に「ポジショニング等の課題がある」って言ってましたけど、そういう部分ですか？

松井　そうです。

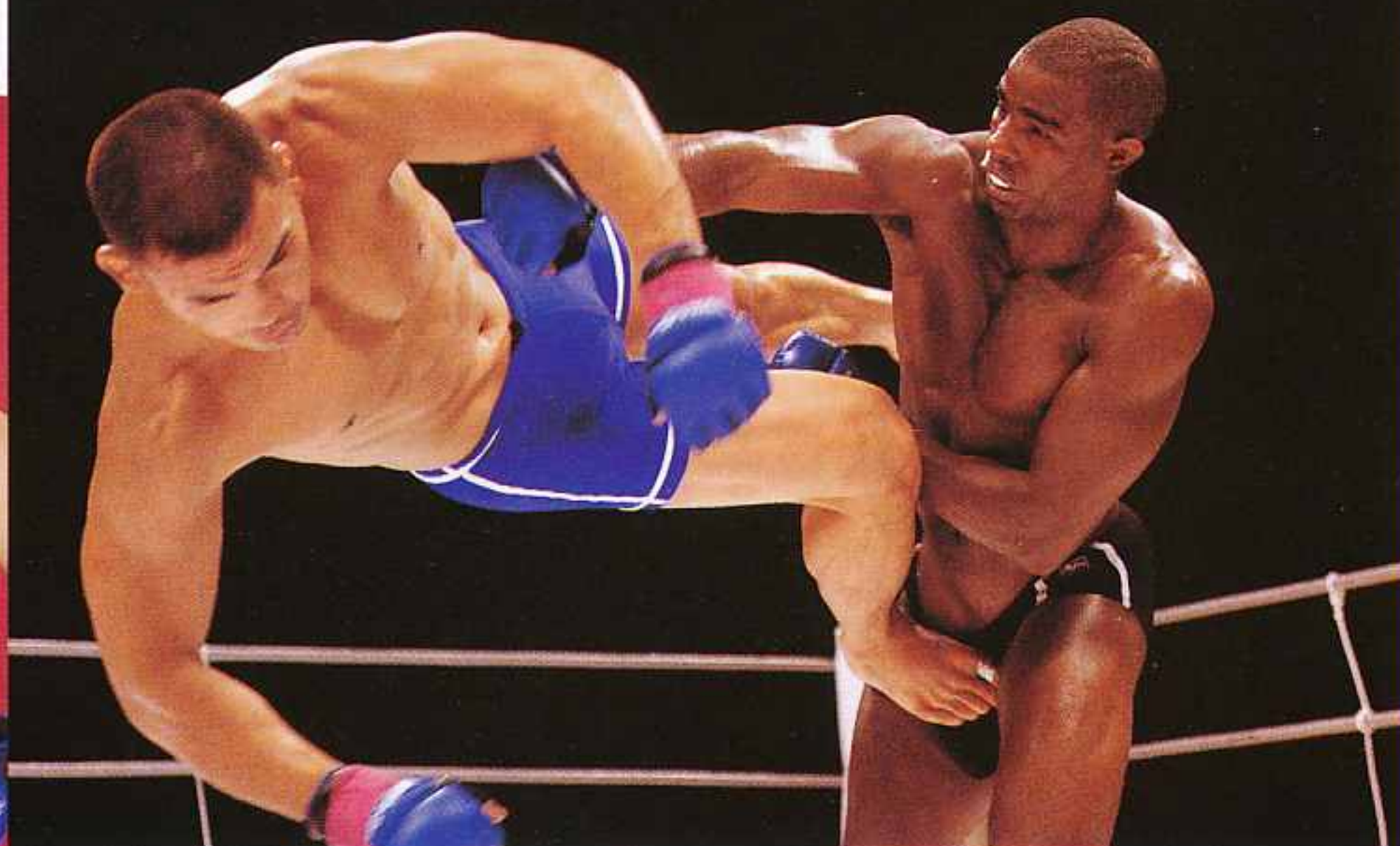
——2ラウンド目も優勢でしたけど、桜庭さんは「3ラウンド目さえなかったらよかった」って言ってましたね。

松井　3ラウンド目、猪木vsアリ状態になってましたからね。最後の方、あいつバテてなかったですか？

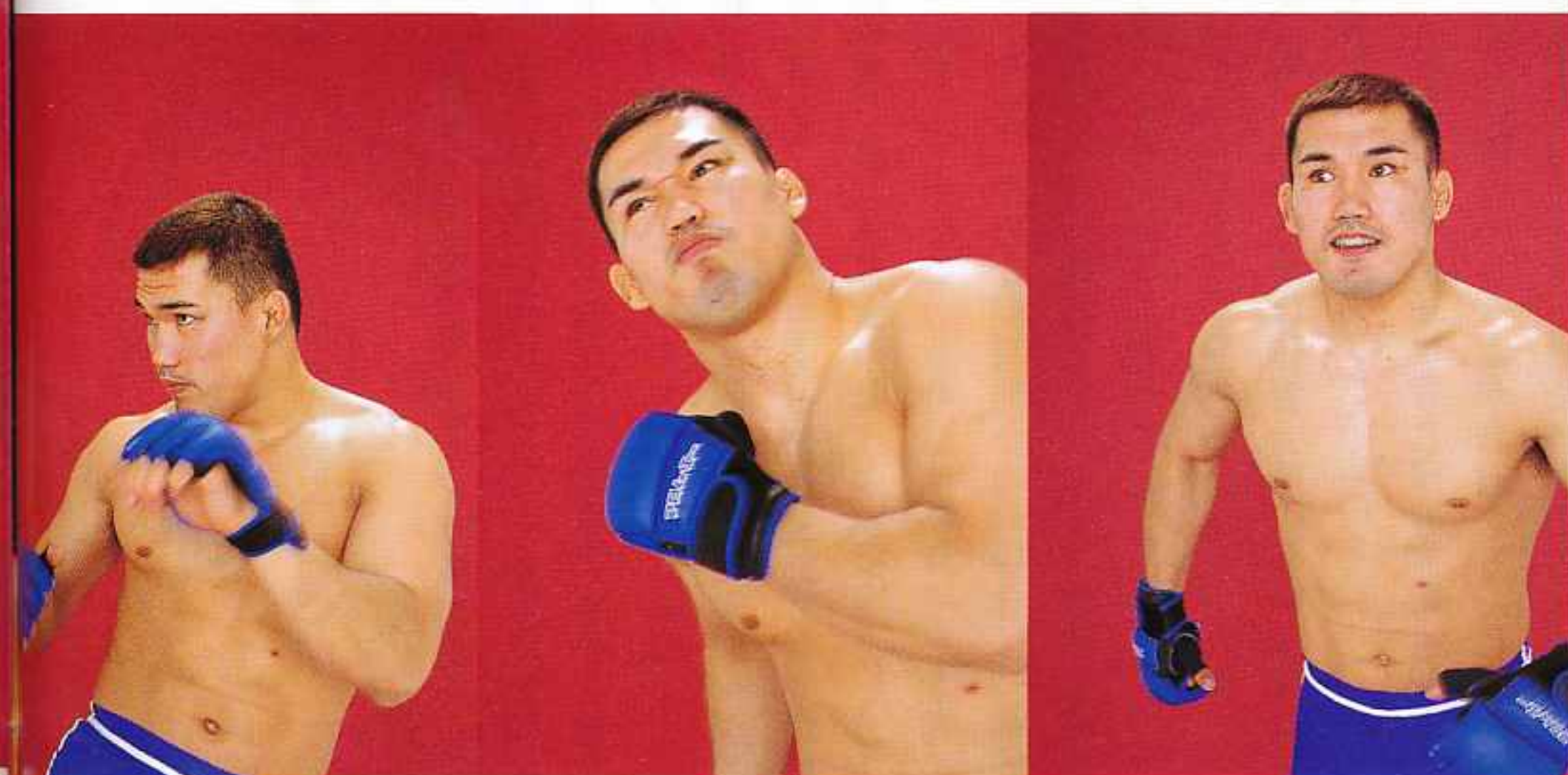
——かなりバテてましたね。

松井　ペレって本名なんていうんですか？

——は？　なんだいきなり。ジョセ・ペレ・ランジですかね。わかりません（笑）。なんで？

松井　なんでペレっていうのかなと思って。

ちゃん」っていうのが来てます（笑）

リーチの長いペレの懐に入るため、ドロップキックに数回トライした大二郎！　さすがマスカラスファンだ。ペレもさすがで、これにストレートを合わせてきた！

DAIJIRO MATSUI

——んあ～。ペレ戦では純バーリ・トゥードのセオリーにはない技が飛び出ましたよね。オンブ状態に抱えてコーナーポストに叩きつけたり。あれは試合中に思いついたの？

松井　そうです。「こういうシーンがなんかの試合であったな」と思って。

——あと、ガード状態の相手の後頭部をガンガン、マットに叩きつけるやつ。

松井　あれ、まだ名前がないんですよ。

——道場にメールで来ないですか？

松井　来てますよ。「ラッコちゃん」とか（笑）。

——ガハハハ！　ラッコちゃん！　あれは練習してたんですよね。

松井　練習で髙田さん相手に使いました。

——らしいですね（笑）。

松井　髙田さんが「ちょっと待て！」って言って（笑）。

——髙田さんが解説席で「あれは効く。松井はやったあとに謝るんですよ」って言ってましたね（笑）。

松井　その通りです（笑）。

——面白い技を使うんで「桜庭和志が乗り移ったようだ」みたいな言い方をするマスコミもあったんだけど、ボクは全然そういう感じがしなかったんですよ。松井オリジナルって感じがしますけどね。ああいうのは桜庭さんを意識してやってるんですか？

松井　してないです。あれは普段の練習で思いついたことやってるんで。桜庭さんの方がもっと凄いの思いつくんで（笑）。僕のはストレートだから。グチャッと潰すだけですから。

——ドロップキックも出しましたね、何回か。あれは、試合前からやると言ってたらしいですね。

松井　言ってました。相手が手足が長くて打撃がうまいから、なんとか懐に入りたかったんですよ。タックルで行ったら膝合わせるのうまいし、なんかないかな？　と思って。ドロップキックってたぶんヤツらのバーリ・トゥードのセオリーにはないだろうと思って。

——ヒクソンが練習してたら面白いですけどね（笑）。ドロップキックの練習ってしたことあるんですか？

松井　ないですよ！　あ、でもそういえば昔、バトラーツに出る前に、佐野（巧真）さんに教えてもらったことがありましたね。

——でもペレもさすがですよね。ドロップキックに合わせてストレート繰り出してくるあたり。

松井　後で写真見たら、凄いですよね。もう少しで顔に当たるとこですよ。やっぱりうまい選手ですよ。

——でも、あの試合、松井さんは全体的に冷静さを保ってましたよね。反則（ペレの脊髄への肘）にはカッとなってたみたいだけど。

松井　なりましたね。「馬鹿じゃねえの？　ルール知らねえのかよ！」って思いましたね。そのあと、試合再開のときに、ペレに「じゃあやろう」って握手しに行ったら、あいつが拒否しましたよね。あれだけはクソ腹立ちましたよ！

——クソ腹立つ！（笑）。あ、思い出したけど、試合終了後に、帰りの花道で抱きかかえてた子どもは誰？

松井　あれは僕の隠し子！……というメールがいっぱい来てるんですよ（笑）。あれは、道場のキッズファイターの子が応援に来てて、帰るときにその子のお父さんがこっちに差し出すんですよ。だから抱えて連れてっちゃいました（笑）。

——人さらいかと思われますよ（笑）。今回の試合はキッズの評判はいいですか？

松井　今回はよく言ってくれます。ビクトー（・ベウフォート）戦のときは、「松井先生の試合、つまんなかった。勝つって言ったじゃん！」って言われて。子どもは残酷だなぁ、と思いましたよ。

——子どもは一番残酷ですよ（笑）。でも、そういう声は励みになるんじゃないですか？

松井　なります！　いい試合すればそういうふうに言ってくれるし。だから子どもたちがいい評価をしてくれればいい試合だったと思うし。

——キッズの評価が基準になってる。

松井　ヤバいですかね？

——いや、ノー問題です（笑）。

松井　じゃあ、いいです（笑）。

——大人だったら「残念だったね、大丈夫？」とか思ってもいないのに言う奴がいるけど、子どもは残酷で純真だから、ストレートに言いますよね。「いっくら顔腫らしたって、勝たなきゃダメじゃん」って（笑）。

松井　そうそう。「試合、つまんなかった」って言いますから。

——落ち込みますよねぇ。

松井　落ち込みますよぉ（笑）。

——松井さんは負けても拗ねないところがいいですよね。最近多いんですよ、拗ねちゃう選手（笑）。

松井　「拗ねない男」。肩書きはそれにしましょう、「髙田道場の拗ねない男！」（笑）。

——それはヘンです（笑）。で、次に闘いたい相手は……。

松井　（即座に）ヴァァァァァンダレイィィィ・シウバ！

——巻き舌にしなくてもいい（笑）。『PRIDE』のガイジン・アナウンスじゃないんだから。「桜庭さん、もうちょっと休んでてください。シウバ、俺と闘え！」っていう試合後のマイクアピールがありましたね。

松井　前からアピールはいろんな媒体でさんざんしたと思いますけど、やっぱリングの上でペレをやっつけて、マイク持って言うのが一番強烈かなぁと思ったんで。

——あれは勝ったら言おうと思ってました？

松井　思ってました。

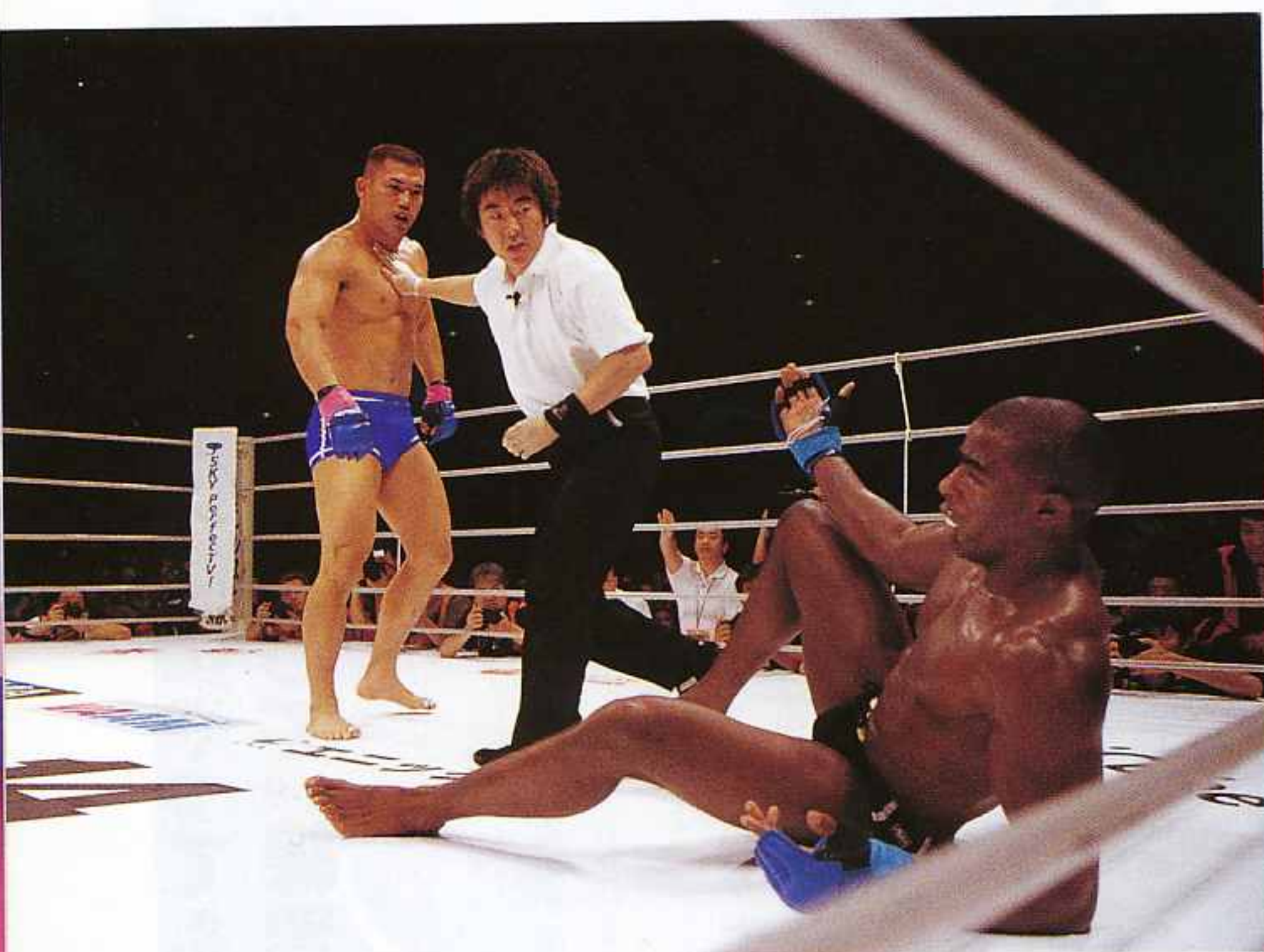
——意外と声がカン高いんですよね（笑）。

松井　あ〜、なんか、カン高かったですね。なんであんな声だったんだろう？

——もっと野太いイメージがありますからね。自分でも思いましたか。

松井　あとで見たら。メールもいっぱい来たんですよ。「松井選手、声がカン高いんですね」って（笑）。

ペレの脊髄への反則肘攻撃に怒りの表情を見せた松井。試合再開後、松井の握手をペレは拒否！「あのときだけはクソ頭に来ました！」と素敵な大二郎語が爆発

後頭部を叩きつける技？「ラッコ

——マイクになんか仕掛けてあったんですよ。

松井　そういうことにしましょう。あとヘリウムガスを吸ったとか（笑）。

——で、松井さんとしては、是が非でもSAKUベルトを取り返したいと。

松井　そう！　それが言いたかったんですよ。闘龍門で斉藤了がフジに自転車取られて、「フジさん、あの自転車は僕のです、返してください！」って言ってたんですけど、あれを僕が言いたいですね。「シウバさん、ブラジルに持って帰った桜庭さんのベルト、僕が奪い返します！」って。あぁ、こないだそれ言えばよかったなぁ。

——でも、あれ、ちゃんと保存してあるのかなぁ？

松井　向こうではホンットに大切に飾ってあるらしいですよ。

——あれはいま、世界で一番価値あるベルトですからね。

松井　でしょうね。世田谷区認定の（笑）。奪い返したら、第三代世田谷区認定SAKUベルトチャンピオンとして名前が残るわけじゃないですか。

——ガハハハ！　それはマスコミもちゃんと記録しないとダメだな（笑）。NWA世界タイトルより権威ありますよ。

松井　ハハハハ。

——でも、ホントにどんな金ピカのベルトよりも価値ありますよね。段ボールのベルトが一番価値あるっていうところがいいですよね。

松井　俺も自分で作ろうかなぁ？　マツベルト。「このベルトを賭けて闘おう！」って。

——なにで作りますか？

松井　段ボールで。

——それじゃ二番煎じですよ（笑）。

松井　じゃあ半紙かなんかで弱々しく。

——ガハハハ！　溶けますよ（笑）。桜庭さんがシウバに負けたときは悔しかったでしょうね。

松井　悔しかったですねぇ。ショックでした。まさかと思いましたよ。でも、当日の桜庭さんのコンディションの悪さは、僕は側で見てたし、あの状態でよくリングに上がったなと思います。いつもは何試合か前になったら控室で動きだすんですけど、直前までずーっと寝たままでモニター見ながら「しんどいなぁ」って。アップするときも何本か走ったら「あぁ、ダルい、面倒くせぇ」って。そういうこといつも言うんですけど、あの日は、いつも以上に口数が多かったし。

――やっぱりメインイベンターは大変ですよ。求められてる期待値が違うから。

松井　控室で誰かが「桜庭さん体調が悪いんで、試合中止していいですか？」って言ったら「そんなことしたら暴動が起きるぞ」って言われてて……。

――「プロレスラーはホントは強いんです」っていうのは桜庭さんの以前の名言だけど、松井さんはもペレ戦後のコメントで「プロレスラーは強いんです」っていうことを言ってましたよね。

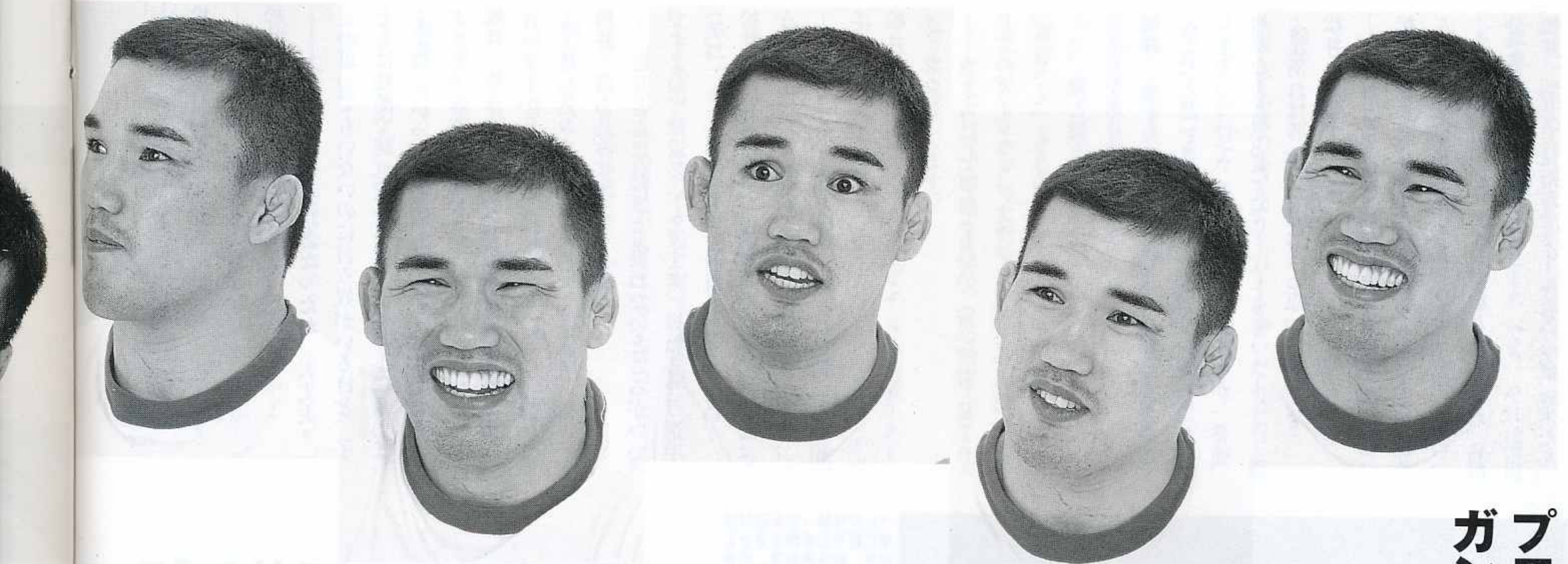
松井　ペレはブラジルの中量級で最強の男の一人だって言われるぐらい知名度があって、僕はプロレスラーのトップでもない、中堅でもない、下っ端です。その僕でさえブラジル中量級最強の男に勝てる。これがプロレスラーのレベルですよってことが言いたかったんですよ。プロレスラーはもっともっと強いんだよってことを言いたかったんです。

――松井さんが考えてる〝プロレスラー像〟は強いってことですね。

松井　もちろんそうです。なにやっても強い。酒もいくらでも飲んで、メシもガンガン食って、練習もいつまでもやって。

――超人ですね（笑）。

松井　そうです、超人です。

――根拠がないと超人性って出ないと思うんですよ。根拠のひとつは練習なんだけど、その根拠をスッ飛ばして超人性ばかりを強調してきたんですよね、ここ十数年のプロレスは。

プロレスラーはなにやっても強い。酒も飯もガンガン飲んで食って。練習もいつまでもやる（笑）

松井　練習しないとリングの上でそういうところを見せれないですから。

――そういう部分で、ここ数年、高田道場の果たした役割はホントにデカいですよ。あとUインター。

松井　ここ最近、Uインターの先輩が活躍してるじゃないですか。僕も同じところで同じ練習してたんだから、僕もそうなれるはずだっていうのが僕の中にありましたね。桜庭さん、金原さん、田村さん、高山さん、みんな活躍してるじゃないですか。僕もこうなれるはずだって、自分自身のお尻叩いてました。

――藤田vs高山戦の感想は？　2人とも知ってるから複雑な心境だった？

松井　複雑と言えば複雑でしたけど、でもどっちが勝つかわかんなかったですね。確かにレスリングの技術は藤田さんの方があるけど、高山さんは打撃があるから、一発入ればヒョッとしたらっていうのがあったんで。でも、あれは凄い試合でしたね。プロレスラーのぶつかり合いが見れたと思いますね。

――ホント、「お互いのプライドがルールだ」って感じですよね。高山選手は「あれは新しいプロレスじゃなくて、あれこそが真のプロレス、〝真プロレス〟だ」って言ってましたね。

松井　いい言葉だと思います。

――松井さんの目指してるものも、そういうもの？

松井　そうですね。強くなりたくてこの世界に入ったんで。『PRIDE』のリングにはそれが求められると思ったんで。

――いま、純プロレスでは、闘龍門以外見ないんですか？

松井　見ないですね。闘龍門は、気になって気になって仕方ないです。

――そんなに面白いの？

松井　マジで面白いですよ！

――今度見に行こうっと。髙田さんもファンなんですよね。

松井　髙田さんも好きなんですよ。僕はね、ストーカー市川と闘いたいんですよ。彼もずっと勝ってなかったんですけど、去年の年末に僕の目の前でフォール取って、プロレスで完璧な一本勝ちをしたんですよ。だから僕の中でジェラシーがあるんです。

――ガハハハ！　ストーカー市川にジェラシー（笑）。

松井　彼は試練の十番勝負のとき、たまにストーカー柔術の使い手になるんですよ。「四百戦全敗」っていう。

――ほえ～。

松井　それとやりたいなと思って。

――闘龍門は若い女の子のファンが多そうですよね。

松井　メチャメチャ多いですよ。

――それが目的なんじゃない？（笑）。

松井　な、なんてこと言うんですか！　僕は会場行ってもファンになり切って、凄い技やったら「オー」って拍手してますよ。子どもの頃にタイガーマスクやマスカラスの試合見て「ウォーッ」って思ったじゃないですか。その感動が闘龍門にはありますね。

――ボクはそれを『PRIDE』見てると感じるんですよね。桜庭さんの試合なんかその典型ですね。

松井　ああ、なるほど。

――でも、強くなりたいという欲求と、マスカラスが好きだったというのは違う方向ですよね。

松井　違いますねぇ、なんなんですかねぇ？

――その二つを追い求めるっていうのは、凄く

難しいことですね。

松井　全然反対ですもんね。でも逆に闘龍門とかマスカラスは、僕ができないことだから面白いっていうか、興味があるっていうか。『PRIDE』は僕がやってることだから。だから両方面白いです。

―松井さんは「プロレスと格闘技はそんなに分けて考えてない」って言ってますね。

松井　格闘家とプロレスラーを線引きする気持ちは、僕の中ではそんなにないですし、線引きするとしても点線くらいです。桜庭さんもそう言ってましたけど、その通りだと思いました。どっちがよくて、どっちがダメってことはないです。どっちも素晴らしいと思いますから。

―マスカラス以外では誰のファンだったんですか?

松井　僕、ズッと全日見てたんですよ。ジャン鶴（ジャンボ鶴田）が好きでした。新日見たかったのに、ウチのテレビが壊れてて、そのチャンネルが映んなかったんですよ。

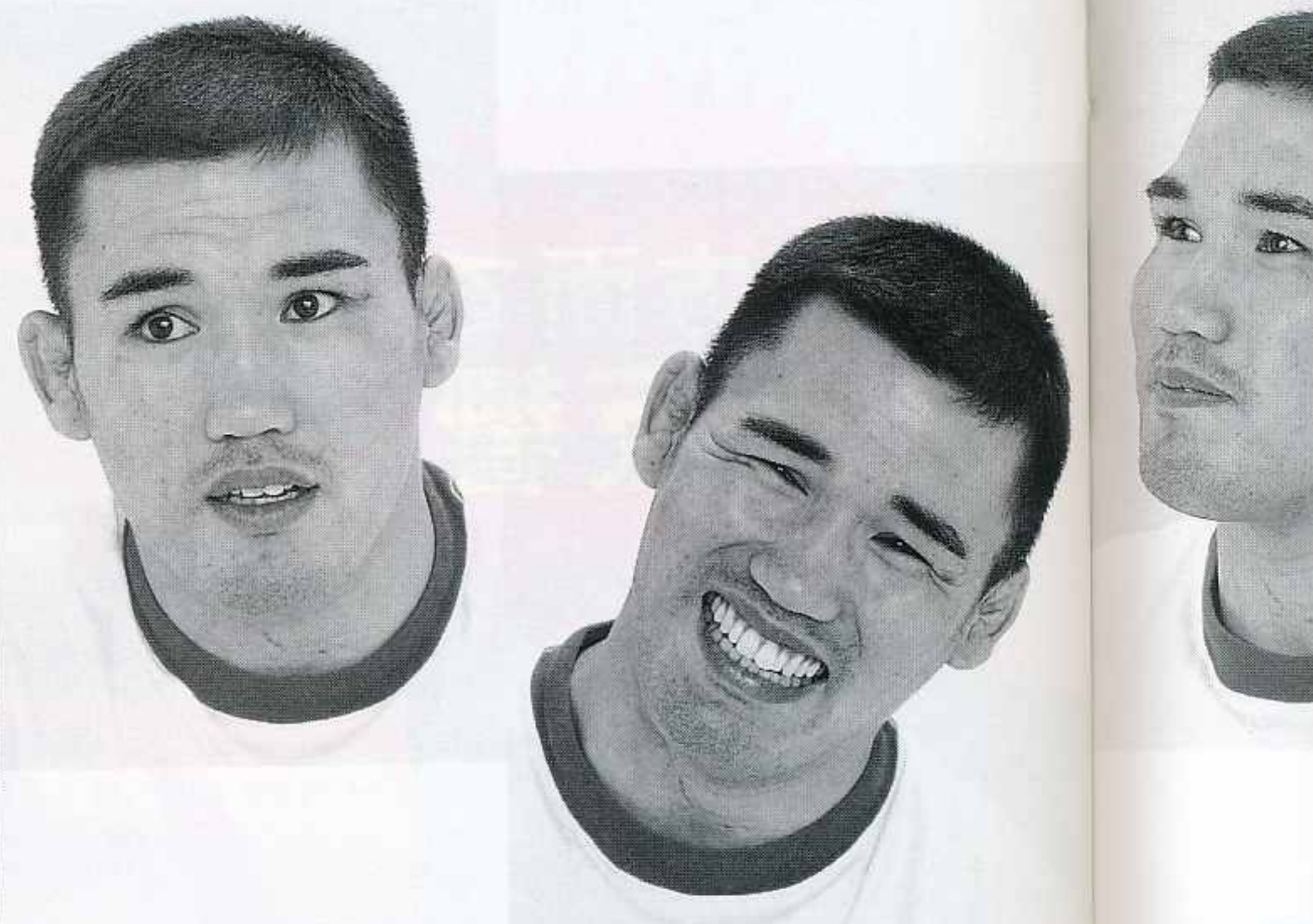
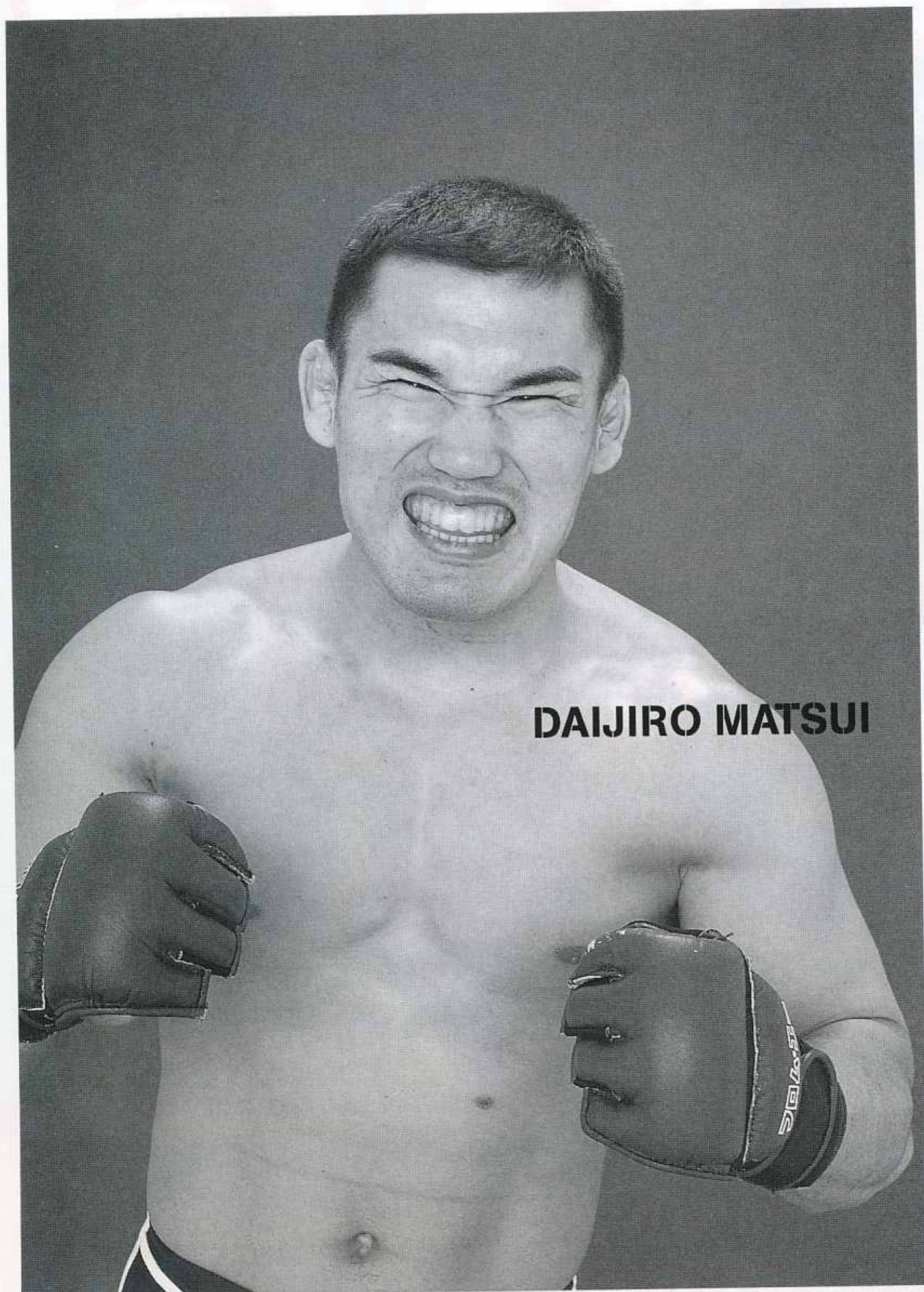
―ガハハハ！　直せよ。

松井　新日のチャンネルだけ映んなくって、次の日学校で話について行けなくって。その頃はまだ『月刊プロレス』だったんですよ。だから、情報が入ってくるのが1ヶ月後なんですよ。凄い寂しくて。

―全日本はどういう部分が好きだったんですか?

松井　楽しい！　ハンセン&ブロディ組を馬場さんとか、ジャン鶴とか、天龍さんがやっつけてくれるのがよかったですね。

―じゃあ新日本にはそんなに思い入れはなかった?

松井　いや、ないことはないですよ。見たくて見たくて仕方ないんだけど、見れなかったっていう辛さがありましたね（笑）。それで、中学の途中ぐらいで、一時プロレス見なくなったんですよ。たま〜に『週プロ』とか『ゴング』とか立ち読みするぐらいで。で、大学に入ってからUインターができたときに、友だちからチケットもらったんですよ。それをリングサイド2列目で見て、カラダ中に電気が走って「これだ！」と思って。

―Uインターを見て人生が変わったんだ。

松井　メインがね、垣原さんとゲーリー・オブライト！

―2分ぐらいでカッキーがジャーマンでKOされちゃったやつ?

松井　そうです、そうです。「スッゲー！」と思いましたね。その一戦で火が点きましたね。

DAIJIRO MATSUI

―その後、Uインターという会社にも火が点きましたけどね（笑）。その頃になると、プロレス＝Uインターってイメージ?

松井　Uインター以外は全然見えなかったですね。

―その当時に闘龍門とかあったら「あんなのプロレスじゃないよ」って……。

松井　言ってたかもしれないですね。見向きもしなかったかもしれないです。

―「プロレス観」っていうのは大事ですよねぇ。で、松井さんはこれからどういう選手になろうと思ってるんですか?

松井　いまの髙田道場の流れが僕は好きですし、このまま行きたいし。バーリ・トゥードもやって、プロレスもやって、ルチャもやって（笑）。

―ルチャもやる！（笑）。

松井　それは無理ですね（笑）。バーリ・トゥードとプロレスをやって行きたいです。

―"バーリ・トゥーダー"としてリングに上がりたくはないんですか?

松井　それは特に意識したことはないですね。プロレスラーという肩書きを持って上がってるんで。

―その肩書きは外したくないと。

松井　外したくないです！

―シウバ以外でやりたい相手はいますか。

松井（囁くように小さな声で）ストーカー市川。

―ガハハハ！　また言ってる。じゃあ、最後にひと言どーぞ！

松井（カン高い大きな声で）シウバさん！　あなたがブラジルに持って帰ったあのベルト、僕が奪い返してみせます！　以上!!

【6月13日／五反田／パオラスタジオにて収録】

道場のキッズ以上に元気な松井先生の次の狙いはシウバの首である。現時点（6・21）では、『PRIDE.15』にはラインナップされてないが、実現したら、ド熱い、SAKUベルトタイトルマッチになりそうだ。松井の動向に注目せよ！

DEEPとは何か？

8・18横浜文化体育館
謙吾vsドス・カラスJr.決定！
カト・クン・リー、VTに出陣！
田村潔司も登場か？
何が起こるかわからない
DEEPを徹底分析！

構成／堀江ガンツ
designed by matsu (Two three)

DEEPインターナショナル代表

佐伯繁

『DEEP』をやって自分が一番感動しちゃいましたから、赤字で何千万払ってもしょうがないって（笑）。

今年1月、突如出現し、村浜vsホイラーを実現させ、第2弾興行となる、8・18横浜文体では、さらに豪華カードが噂される『DEEP2001』。すっかり、マット界の台風の目となってきた感があるが、その全貌はまだ明らかにされていない。そこで本誌は代表である佐伯氏を直撃。ズバリ聞いてみた。「DEEPとは何か？」

——いきなりですけど、突然『DEEP』を開催して、ヒクソンまで呼んでしまう佐伯さんって何者なんですか？（笑）。

佐伯 何者って、ボクは怪しい者じゃありませんよ（笑）。いろんな仕事はしてるんですけど、もともとは名古屋を中心にインディーのプロレス興行を手がけてたんですよ。

——では、地方のプロモーターさんだったと。

佐伯 形的にはそうなりますね。大阪プロレスさんとかCMLL、そして忘れられないのが、ロード・ウォリアーズ・ツアー（昨年10月のバトラーツのシリーズ）ですね。

——あのツアーは佐伯さんの興行だったんですか！

佐伯 そうなんですよ。ツアーを丸ごと買ったんですけど、開幕戦当日にホークが出れなくなりましてね、もう参りましたよ（苦笑）。でも、プロレスの興行をたくさん打ったおかげで、プロレスラーとは深いつき合いの方が多いんで、それが今後に繋がればな、と思いますね。

——インディーのプロレス興行をやっていた佐伯さんが、『DEEP』を作ろうと思ったきっかけは何だったんですか？

佐伯 やっぱりプロモーターをやっていくうちにどうしても興行を買うだけではなく、自分でプロデュースしたくなったんですよ。あと『PRIDE』の森下社長はボクの知り合いの知り合いで何度かお目にかかって頂いたんですけど、凄くカッコ良く見えましたね。それで「自分も何か大きいことをやってみたいなぁ」と思ったんです。

——森下社長に触発されたわけですか（笑）。

佐伯 でも、『PRIDE』さんと違うのは、ウチの中心は中量級なんですよ。中量級はアマチュアから考えれば日本で一番層が厚い階級なんでレベルも高いですし、スター性も秘めてる人間もいっぱいいると思うしね。まぁ、まともにやっていって『PRIDE』さんに勝てるわけないっていうのもありますけど（笑）。

——ぶっちゃけますね（笑）。

佐伯 あとウチの特徴としては、若い選手にチャンスを与えていくということですね。これからの格闘技界は、新しい日本人選手がどれだけ出てくるかってことだと思うんですよ。格闘技ってどんな大物でも、試合に負けると価値が下がったりするじゃないですか。

——ドンドン資源を食い潰している感じはしますよね。

佐伯 だから新しい選手が出てこれる環境作りとして、前回も第1試合前に『フューチャー・ファイト』として、アマチュアの試合を組んだんですよ。

——なるほど。では佐伯さんが『P's LAB大阪』を出されたのも、それと同じ理由なんですか？

佐伯 そうですね。やっぱりパンクラスさんは新人育成を凄く考えてると思いますし、次の世代が見えるプロの集団は他にはないんじゃないかと思うんですよ。それで社長の尾崎さんに会いましてね。ウチに大阪の会社が基盤が強かったんで、パンクラスの道場を大阪で出しましょうってなったんです。

——『DEEP』の日本人はパンクラス勢が中心ですし、その上、道場まで出しているので「パンクラスのタニマチだ」という声もありますけど、そうじゃないと。

佐伯 やっぱり初めて『DEEP』というイベントを開催するわけですから、信用もない段階でなかなか協力してくれるところは少ないんですよ。ヒクソンも最初はホイラーに「訳のわからないところに出るな」と言っていたらしいですから（笑）。でも、パンクラスさんには協力していただいて、無事開催できたんですよ。

——では、『DEEP』にパンクラス勢が出場するのと、『P's LAB大阪』を出したのは、まったく別ということですね。

佐伯 ハイ。パンクラスさんとは、アマチュアのことを考える部分で一致したんです。それといま総合格闘技の道場がメチャクチャ増えて、アマチュアの人口はたくさんいますよね。でもプロへの受け皿が修斗を除いたらないじゃないですか。だったらそれを何とかしなくちゃいけないと思うんで、来年ぐらいから小さい規模の会場で何回か興行をやっていこうと思うんですよ。

——修斗の下北大会みたいな感じですか？

佐伯 ええ。『DEEP・JAPAN』でもいいですし。そこにチャンスがあればドンドン良い選手が出てくると思いますしね。そのための常設会場を作るという夢もあるんですよ。

——常設会場まで考えてるんですか！

佐伯 やりたいですよね～。すぐ出来るかっていうと色々問題はありますけど、目標としてはありますよね。でも常設会場というとみんな3000人から5000人位収容がいいって言いますけど、ボクが考えてるのは500人位の会場なんです。

——500人ですか！

佐伯 ボクはインディの興行やっていたから分かるんですけど、インディーにとってはディファ有明は大きすぎるんですよ！（笑）。

——確かにメジャーどころ以外で、ディファを満員に出来るところはほとんどないですよね（笑）。

佐伯 だから採算のことを考えるとサイズ的にはディファの半分で、もっと安く借りることができればいいですね。そうすれば定期的にアマチュアの大会が出来ていい刺激になると思うんですけどね。

——では「次の世代ことを考えてやってますよ」っていうのも『DEEP』の色だと。

佐伯 ハイ。正直言って1回目の『DEEP』は赤字が凄かったんですよ（苦笑）。ボクも赤字だと思ったんで、経費節減していく方法もあったんですけど長いスパンで考えると、ある程度の赤字はしょうがないと思ったんで。

——これからのための投資と考えているわけですね。

佐伯 そうですね。だからボクの方もいろんなビジネスやってますけど、これからは格闘技の方を真剣にやろうと思ってるんですよ。やっぱり中途半端な気持

ちでやったら失礼ですから。ファンの方や、他の団体さんにしても泡銭でやっていると思われてもいけないし。だからいつも噂で「もう終わりだ」とか言われてますけど、この1、2年で終わるとかはっきりいって絶対ないです！　それぐらいの自信はあるんで。

――前回の『DEEP』は本当に面白かったですからね。マニアの中では『PRIDE』以上に期待しているファンも多いと思いますよ。

佐伯　一回目の『DEEP』は自分が一番感動しましたからね（笑）。美濃輪選手の試合でウルウルきちゃって、それで村浜選手がホイラーとあれだけの試合をしたでしょ。もう、赤字で自分が何千万払ってもしょうがねえなと思ってね（笑）。

――アハハハ！　まるでアブダビ王子みたいですね（笑）。

佐伯　例えばあの赤字で次の興行が打てなくても、それだけの感動をボクはもらったから良いと思いましたね。結構、試合を見てると涙が出て来るんで、人には見せられないんですよ（笑）。

――その1・8では、U・FILEの上山選手が出場しましたけど、U・FILEとはどんな接点があったんですか？

佐伯　ボクは選手の友達が多いんですけど、田村さんとも友達なんですよ。だからその関係でですね。

――田村さんのことでズバリ聞いちゃいますけど、業界の一部では今回田村さんがリングスを退団したことで、『DEEP』とU・FILEは話が出来ていたんじゃないかとも言われてますけど、その辺はどうなんですか？

佐伯　田村さんとはよく色んな話をしてるんで、そういうことを言われると思うんですけど。確かにプロモーターとしての話は軽くはしてますよ。ただこれはボクの考えなんですけど、今は彼をそっとしとかなきゃいけない時期だと思うんですよ。彼が色んな事に苦しんでいるのをボクは見てますし、リングスを辞めたのも彼の考え方があってのことだと思うし。

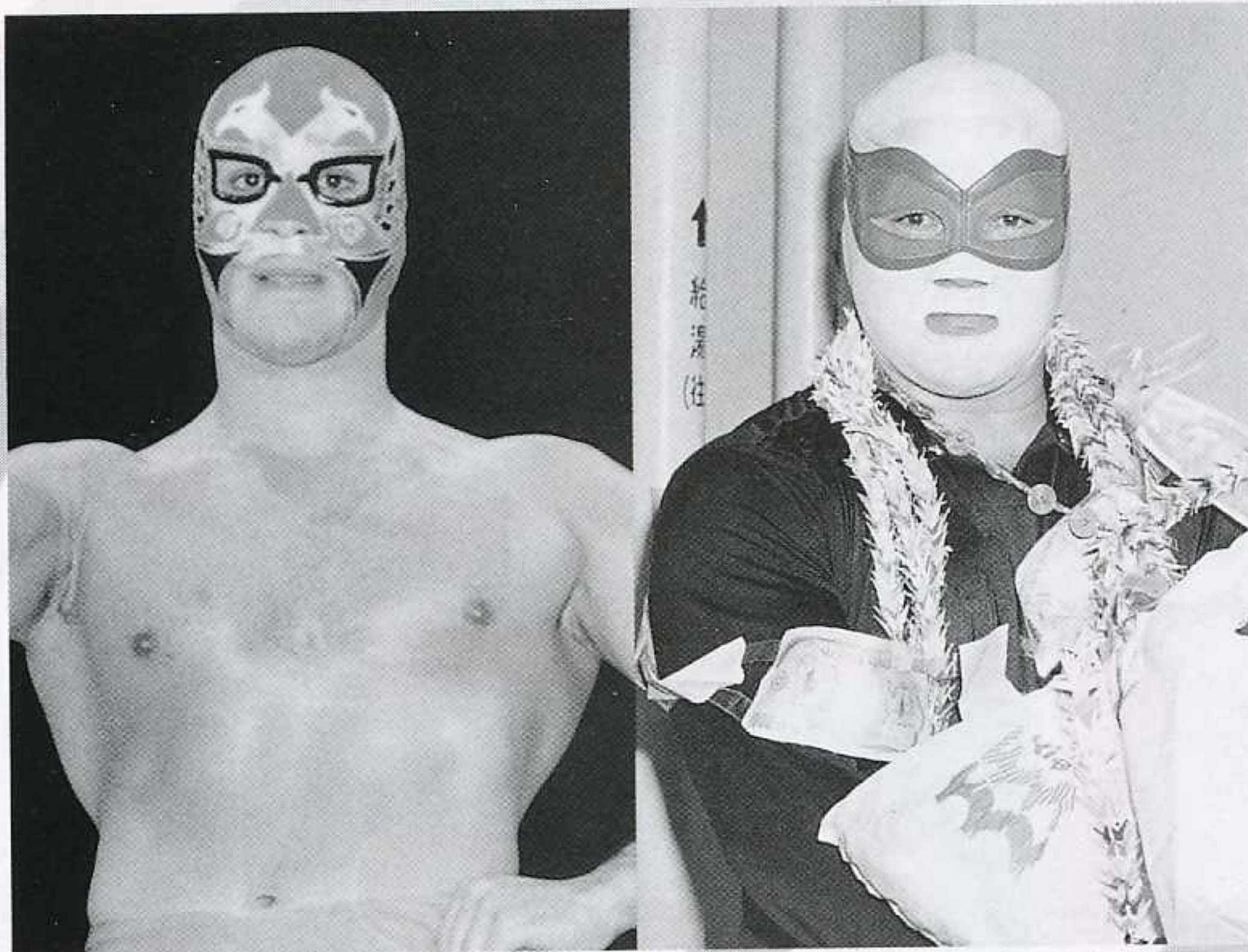
――では、噂されるようなことは、現時点ではまだないということですね。

佐伯　そうですね。まぁ、田村さんに関しては選手としては、もちろん魅力ありますけど、とりあえずゆっくり休んだ方がいいんじゃないかなって。ただU・FILEの社長としては仕事の話はさせてもらってますよ。

――次の大会のラウンドガールにU・FILEインストラクターの府川さんも出ますし（笑）。

佐伯　これは今度の場所が横浜じゃないですか。それでチャイナドレスを着てるイメージで思いついたんですよ。ボクの横浜のイメージは中華街なんで（笑）。

――8・18横浜文体のカード発表はいつ頃になりそうですか？

佐伯　菊田選手がパンクラスの後楽園があったり、近藤選手もUFCがあったりで、それが終わらないと彼らのカードが決められないんですよ。でも、順次決まり次第、小出しにして発表していきます。少しでも多く報道してもらえるように（笑）。

ドスJr.はマスク姿で闘います！
テーマ曲はもちろん「スカイハイ」です！

――その第一弾発表は、普通じゃ考えられない選手らしいですね。

佐伯　これは凄いですよ！　プロレスラー2人なんですけどけど。まず謙吾の相手はドス・カラス・Jr.です！

――やっぱりドス・カラス・Jr.でしたか！

佐伯　そうです。で、どう思います、ドス・カラス・Jr.は？

――いいですよ！　絶対面白いですよ（笑）。

佐伯　もちろんテーマ曲は「スカイ・ハイ」ですから！

――いいですねぇ〜（笑）。

佐伯　またボクは本部席で感動してしまいますよ（笑）。それにドス・ジュニアはアマレスでシドニー五輪のメキシコ代表候補ですからね！　しかも197センチぐらいあって飛びますから！

――飛ぶのは余り関係ないんですけど（笑）。でも運動神経的には申し分ないですね。

佐伯　下手したら謙吾ヤバイんじゃないかと思いますよ。ただね、脱げないんですよ。

――は？　脱げないって？

佐伯　マスクだけは脱げないっていうんですよ（苦笑）。

――マスクを付けたまま戦うんですか!?（笑）。それは実現したらVT史上初ですよ！

佐伯　でも、殴られてケガの状況が分からなくなるのが怖いんで、ベイダーマスクみたいなモノにしてもらうか、止めるタイミングを早くすることで対応しようと思ってるんですけどね。あと、もうひとつ困ったことがあったんですよ。

――なんですか？

佐伯　ドス・ジュニアに話を持っていったら、マスカラスが「オレがやってやる！」って言ってたらしいんです（笑）。

――マスカラスのバーリ・トゥード！（笑）。本気なんですか？

佐伯　本気で言ってるらしいですよ。さすがに出せませんけどね。何歳だと思っているんですかねぇ。死ぬって！（笑）。それでもう1人のXも同じメキシコ人なんですよ。

――こっちもルチャドールなんですか!?（笑）

佐伯　ハイ。彼はケンカが強いんですよ。ストリートで負けなしっていわれてますからね。そして今大会の最年長になります。

――ケンカが強い最年長？　……ペーロ・アグアヨとか（笑）。

佐伯　違います！　カト・クン・リーです！

――カ、カト・クンリぃぃぃ〜!?　それは凄すぎますね！（笑）。

佐伯　カトは「絶対勝つ」って言ってますからね。「オレはメチャクチャ強い」って（笑）。

――凄い自信ですね（笑）。

佐伯　4代目タイガーとかデルフィンとかも、「カトだったら見てみたい」って言ってますからね。「でも負けるだろう」とも言ってますけど（笑）。なんせカトはピストルで何人か殺してんじゃないかって言われてますからね（笑）。

――ピストルで殺人疑惑！　メキシコのハイアン・グレイシーみたいなもんですね。メチャクチャ幻想が沸きますよ！　それもVTとはあまり関係ないですけどね（笑）。

鈴木vs田村戦を「UWFルール」で実現させようと思ってます！

佐伯　こうなったらお客さんは「いい」って言うか、「ふざけんな」ってなるかどっちかでしょうね。ウチは前回も謙吾vs大刀光なんかを組みましたけど、ブラジルで評価が高かったんですよ。だから、これからもしっかりした路線プラスおちゃらけた路線というか、夢のあるカードを組んでいきたいですね。

——他にはどんな選手を考えているんですか？

佐伯　一時期ロブ・カーマンにも話をしたんですけど、ギャラが高過ぎました（笑）。

——カーマンまで！　目の付け所がちがいますね（笑）。

佐伯　ボクはキックとかはあまり知らないんですけど、真樹道場の沖縄興行も行ってるんでつながりはあるんですよ。そこでムエタイを見たんですけど凄いですね。ムエタイの選手も上げたいですね。

——それにしても色々アンテナが張り巡らしてますね。ホントに期待しちゃいますよ。前回はホイラーが出ましたが、グレイシーの参戦はないんですか？

佐伯　アブダビに行ったときホイラーとは軽く話をしたんですよ。それでOKだったんで、今回はないですけど、12月の両国では考えてますよ。あとホドリゴとか、ホーレスとかまだ見ぬグレイシーも呼びたいですね。

——それは見たいですね！　では、グレイシーの親玉、ヒクソンなんかはどうですか？

佐伯　やってみたいってのもありますけど、ヒクソンはあと一回で辞めるとは言ってないんですよね。だからあと3試合やるとしたら、2試合目、3試合目にはやれるようになっていたいですね。ヒクソンはこないだ来たときも紳士的で、ラインも出来ましたので。

——先ほどのちょっと話に出ましたけど、12月には両国国技館に進出するんですよね？

佐伯　ハイ、こないだ両国を見に行ったんですけどデカイですね！　こんなところでやっていいのかなぁ（笑）。

——これだけの器ですから、もういろんなプランは練ってるんですか？

佐伯　ええ。これまでブラジル人が多かったですけど、両国では大部分が日本人になると思いますよ。

——え!?　日本人中心ですか？　日本人をたくさん呼ぶとなると色んな団体から集めなきゃいけないですね。

佐伯　まだ時間はありますから（笑）。次回に限らず夢はありますよ。実現させたいカードもありますし。その中では鈴木みのるvs田村潔司であるとかね。

——鈴木vs田村ですか！

佐伯　まあ田村さん絡みのカードは色々言われてますけど、ボクはあえて鈴木さんがいいと思うんですけよ！　このカードなら田村さんも燃えると思うんですよね。田村さんは最後のリングスの試合を見ててもテンション低いなあって伝わってきましたから。ましてやアブダビのすぐでしたよね。

——5日後ですからね（笑）。

佐伯　大丈夫かなあって思ってたら、やっぱりって。そういう意味ではお互いテンション上げる意味ではいいなあと思いますけどね。この間の後楽園での鈴木さんの気合いなんか凄かったんですよ。ぜひ実現させたいですね。

——両国では佐伯さんが見たいカードがドンドン実現しそうですね（笑）。

佐伯　そうなればいいですねぇ（笑）。他にも美濃輪選手と純プロレスラーの対戦とか坂田vs髙橋のケンカマッチとかね。まだまだ組めるんじゃないかなって思うし。

——『DEEP』は中量級ってことですけど、軽量級とかのマッチメイクは考えてないんですか？

佐伯　もしかして宇野選手のことですか（笑）。もちろん慧舟會さんにも話をしてますし、宇野vs村浜は見たいですからね。でも、いまは宇野選手自身、UFCに頭が一杯なんで、それはタイミングだと思うんですよね。

——宇野選手以外にも軽量級はまだまだいい選手がいますよね。

佐伯　そうですね。マッハ（桜井速人）も上げたいですしね。ホント、坂本さん（修斗プロデューサー）お願いします、って感じですね（笑）。それとアブダビで会ったヤノタク（矢野卓見）も今凄く気なってますよ。彼はスターになるんじゃないかって思いますよね。彼の寝技は凄いですからね！

——アブダビみたいな試合も考えてるんですか？

佐伯　ウチはバーリ・トゥードにこだわらず、マッチメークに合ったルールにしようと思ってるんですよ。田村さんと鈴木さんやる場合はUWFルールとかでいいと思いますしね。

——なんかホントにこれからの『DEEP』は何が起こるかわかりませんね。

佐伯　ボク自身、どんなカードが組めるか楽しみですよ。これで文体がコケたら笑いますけどね（笑）。

——これからのためにも8・18横浜文体は重要ですよ！

佐伯　そうですよね。12月の両国で凄いカードを組むためにも、まずはファンのみなさん、ゼヒ8月18日は横浜文体に足を運んでください！

オイ、ホントかよ!?　12月の両国ではこんなカードが実現!?

鈴木みのるvs田村潔司

美濃輪育久vs日本人プロレスラー

髙橋義生vs坂田　亘

DEEP2001 in YOKOHAMA

●8月18日（土）、神奈川・横浜文化体育館

〈試合開始〉午後6時
（開場午後5時、5時30分からフューチャーファイトあり）

〈入場料〉※当日1000円増し
VIP（最前列）……30000円　アリーナS……20000円
アリーナA……15000円　アリーナB……10000円
2F指定……10000円　3F指定……6000円

問い合わせ●DEEP2001事務局　052-339-0303
（ホームページ　http://www.deep2001.com）

禁断の“シュート活字”で読む『PRIDE.14』

MVPは高山善廣!!

そして藤田vs高山は現代に甦った“キャッチ”だった!

プロレスラー同士のバーリ・トゥードでの
超ド迫力名勝負として、ファン、関係者の間で
高い評価を得た、5・27『PRIDE.14』での
藤田和之vs高山善廣。
この一戦をシュート活字で再構築、再評価します!

聞き手／堀江ガンツ
designed by matsu（Two three）

すっかりおなじみ
歌うシュート活字王
田中正志
インタビュー

レイシーの親玉、ヒクソンなんかはどう

ったですけど、両国では大部分が日本

ますけどね。この間の後楽園での鈴木

も上げたいですしね。ホント、坂本さん

なぜ藤田vs高山は素晴らしかったのか？

――さて、田中さん。前回は田村を通してUWFを語っていただいたんですけど、今回は藤田vs高山戦について伺いに来ました！　田中さんはこの試合を非常に高く評価していると聞いたんですけど。

田中　いやぁ、藤田vs高山戦は素晴らしいですよ。感動ですよ。

――ですから今日は、「なぜ藤田vs高山は素晴らしかったか」ということで語っていただきたいんですよ。

田中　わかりました。まず第一にね、あの日『PRIDE．14』の試合は完全に彼らがメインイベントだったって事に尽きるんですよ。

――完全にメインイベントですか？

田中　そうですよ。あの日はあの試合以外ないでしょう。他にあります？

――正直言ってメイン以外ほとんど覚えてません（笑）。

田中　そうでしょ？　それでお客さんもたくさん来たし、満員のお客さんを満足させて帰したんだから、彼らがMVPでしょうと。

――メインエベンターとしての役割をキッチリはたしたということですね。

田中　そうです。プラス、もう1個あるんです。やっぱりボクはその試合がシュートであれワークであれ、予想を超えたことをやられた時に、「こんな凄い試合をしたんだ」という最大級の評価を与えたいんですよ。それはバーリ・トゥードでもはしごマッチでも同じなんです！

――バーリ・トゥードとはしごマッチの評価の基準は同じですか！（笑）。

田中　ハイ、想像を超えたことをやってくれという部分では一緒です！　例えばレザー・ラモンvsショーン・マイケルズでは、「ハシゴにはこんな使い方があったんだ」という感動がある。あるいは単純な例でいったら6・8の武藤vs天龍でもいいんですよ。天龍がこのままずっと勝ち続けるとは誰も思ってないわけですよ（笑）。そして試合時間が長くなるのもわかってるんです。でも試合内容は想像を超えていたわけですよ。ホンマ、ようやるは、このおっさんというね（笑）。だからボクは武藤vs天龍は年間最高試合でいいと思うんですよ。

――プロレスを知り尽くしたスマートファンの想像をも超えたものが凄いと。

田中　だからボクもね、藤田vs高山戦については、見る前は否定的だったんですよ。そりゃあね、プロレスラーとプロレスラーが闘えばいくら舞台が『PRIDE』といえどもひどいことになるんちゃうか、と。やっぱり業界に長くいた人間としてはね、もう直感的にやめてくれと。むしろ否定的に考えていたことは事実なわけやからね。それをいい意味で裏切ったんだから、それは誉めなきゃウソでしょうと。簡単に言えばそれに尽きるわけですよね。

――砕けて言えば、プロレスラー同士の対決ながら、プロレスの枠の中に収まらない闘いをふたりが見せたということですね。

田中　そうなんですよ！　だから今回の藤田vs高山戦についてはね、ネットのガチ馬鹿、ざまぁみろ、と！

――そこに噛みつきますか！（笑）。

田中　もうね、アメリカなんか特にガチ馬鹿が多くて、インターネットも発達してるんでひどいんですよ。向こうのMMA（ミックスド・マーシャルアーツ＝バーリ・トゥード）のインターネット番組なんか、「今度の試合はワークになるかシュートになるか」ってAかBかでね、投票を受け付けてたりするんですよ！

――そんなことやってるんですかぁ⁉

田中　実際、彼らは毎回やってるんですよ。今回の藤田vs高山でもあったし、安田対佐竹の時もやってたしね。

――プロレスラーというのは、どこまでもそういう宿命を背負ってるんですね。

田中　でも、実際はガチ馬鹿のヘンテコな不安を吹き飛ばす闘いを見せてくれたわけだからね。単にメインイベントでこのカードがお客さん集めるだけじゃなくて、ホントにみんな感動したしね。ボクらですら感動したよ、と。だからボクらはすぐにその番組に「ざまーみろ」というリポートを書いて送ってやったんですよ！

――ガハハハ！　「ざまーみろ」って、送っちゃいましたか（笑）。

田中　それでも「あの高山の手術はアングルかもしれない」、とか言うムキもあるんだけど、それはどうでもいいんだよ！　全く100％のコンディションでやったわけじゃないことは事実なんだからね。

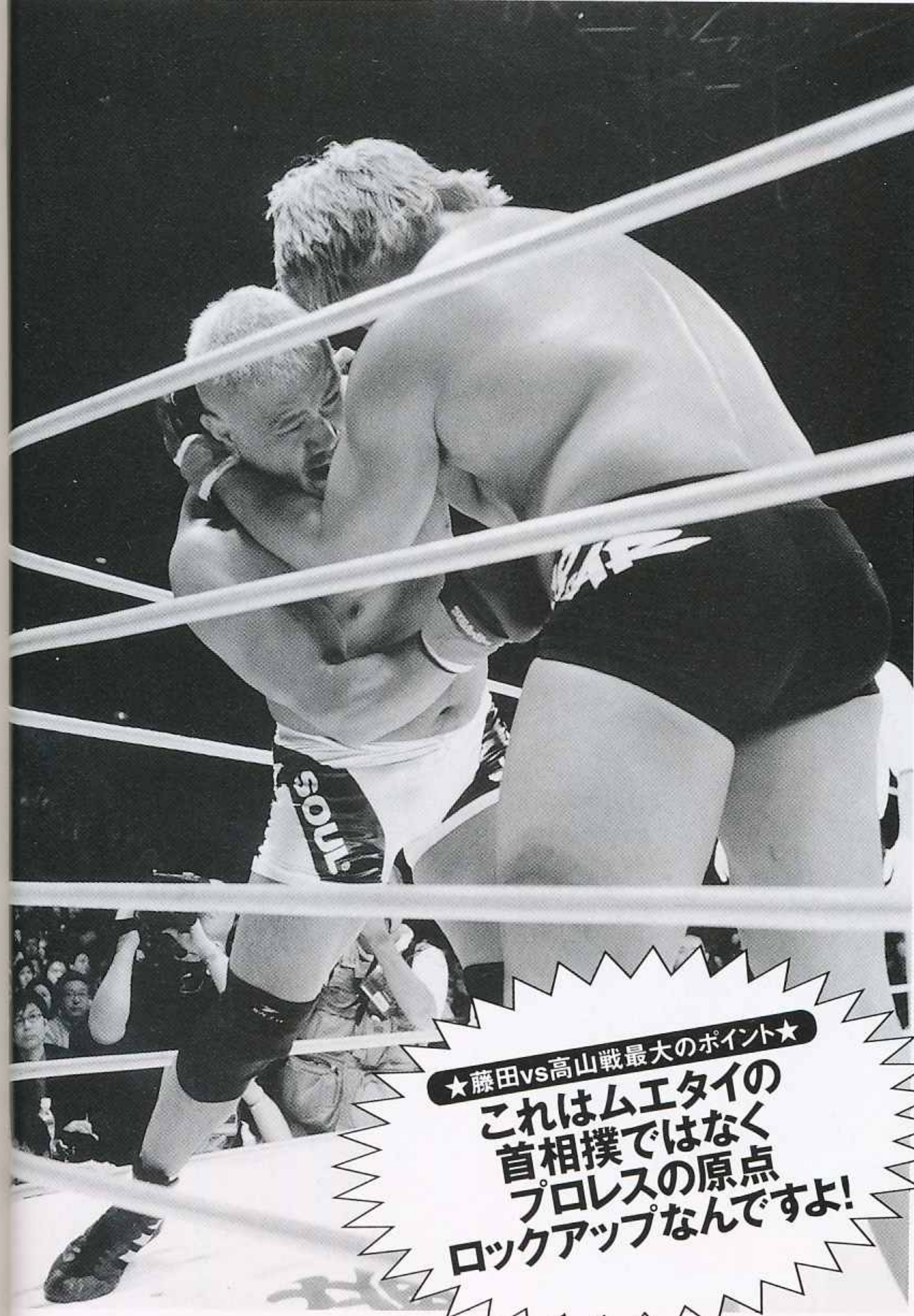
――しかもあの短い準備期間でしたもんね。

田中　しかも1回目の挑戦でね、あんだけやったっていうのは、凄いことですよ。ホントは『PRIDE』なんか出なくても、ノアでノーフィアーとして、ものすごい注目されてて、もう下手すりゃ三沢を食うくらいの立場にいてね、それを全部捨ててあそこに行けるっていうね。それで実際に一番『PRIDE．14』で一番面白かったのも、感動したのもあの試合なんだから、これはもう誉めるしかないと。

――なるほど。

田中　ただね、前回の『PRIDE．13』では「桜庭散る」で、スポーツ新聞の一面なんか独占でそりゃあ凄くて、それに比べたら小さな世界でしかなかったとかいうのはあるけど、あれは「貴ノ花優勝」と同じ日やったというのが、あまりにも衝撃的やったということですよ！

――『PRIDE．14』の次の日はあれがスポーツ紙の一面を独占してましたよね。

田中　ボク的には大相撲で小泉首相を巻き込む感動劇があった日にね、真実の意味で原点に戻ったプロレスが逆襲する逆転現象が象徴的だと思うんですよ。

★藤田vs高山戦最大のポイント★
これはムエタイの首相撲ではなく プロレスの原点 ロックアップなんですよ！

てくれという部分では一緒です！　例えばレザー・ラモン vs ショーン・マイケ

シュートでもワークでも想像を越えたものが名勝負なんです！

藤田 vs 高山戦のポイントは「ロックアップ」だった

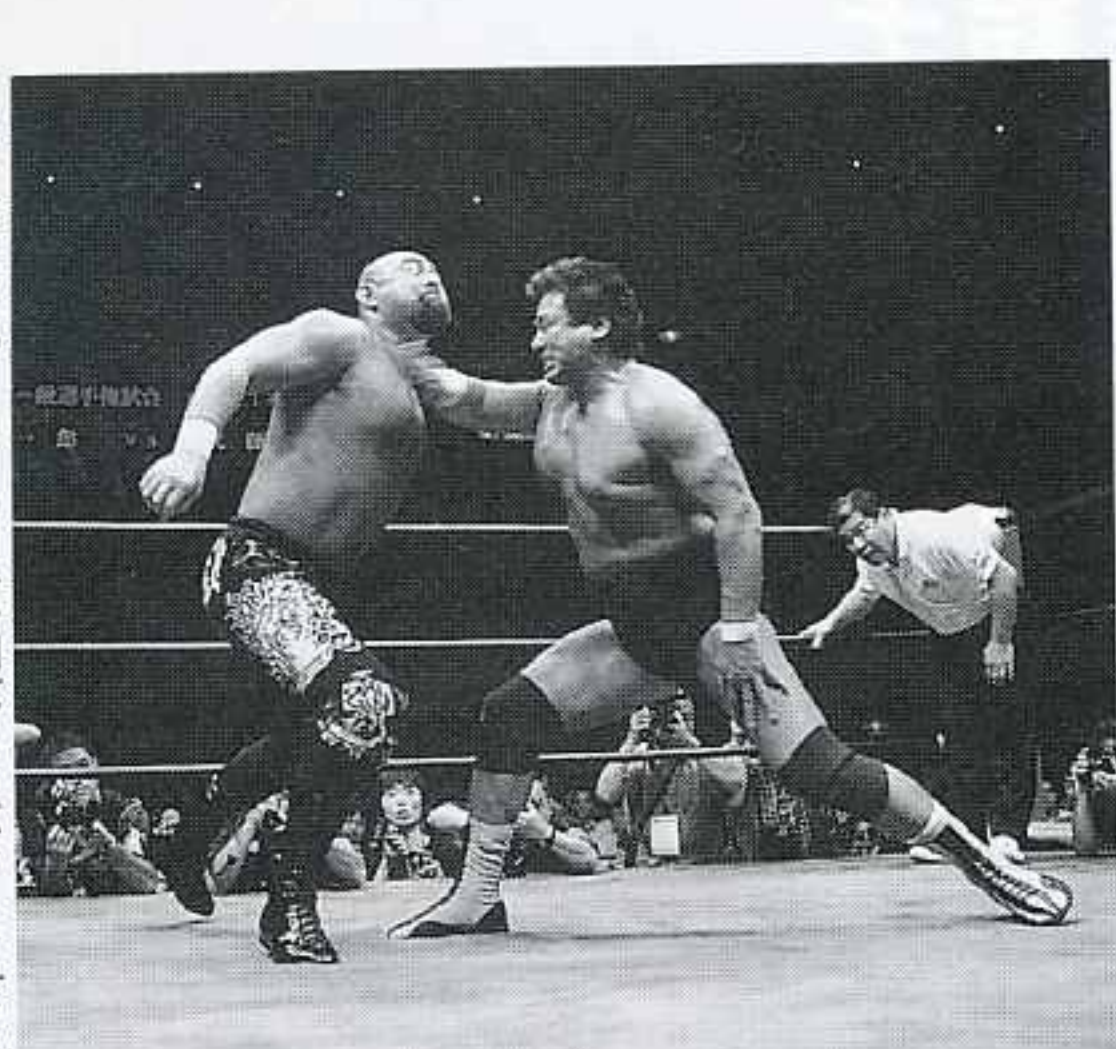
田中　あとボクはここに来る前に『PRIDE.14』のPPVを録画したビデオを見てきたんですよ。

――改めて見てどうでした？

田中　解説の谷川さんがダメね。

――ガハハハ、谷川さんはダメですか！（笑）。ちなみにどの辺がだめなんですか？

田中　プロレスファンの気持ちわかってないっちゅうことにつきるんです！　谷川さんはね、高山が藤田と組み合ったとき、「ムエタイの首相撲」って言うんだけどね、ムエタイの首相撲、あれは首相撲じゃないんですよ！（ドンッ）。

――え!?　首相撲じゃなかったら何なんですか？

田中　あれはプロレスの原点、ロックアップなんですよ！

――ロックアップですか！

田中　そうです！　あの試合の最大のポイントはね、あのロックアップなんですよ。キャッチ・アズ・キャッチ・キャンの時代からプロレスラーっていうのはまずなにをやるかと言ったら、ロックアップからはじまるわけでね。

――そうですよね。

田中　だからあそこでは「本当のプロレスラー同士の闘いが今、現代の『PRIDE』のリングで甦ってるんだ！」と谷川さんは言うべきなんですよ！　それをね「ムエタイ首相撲の攻防」というふうになるんかも知らんけど、そりゃ違うだろと。あそこはキャッチの話をしてね、感動の涙を流すべきなんですよ！

――アハハ！　涙を流しますか！（笑）。

田中　あそこで見た真実っていうのはロックアップの真実。プロレスの原点のような攻防っていうのは何であったかという、真実が明かされたんですよ！　だからプロレスラー二人がやって意味があったんです！

――あの試合で見えた「ロックアップの真実」というのは興味深いですね。詳しく話していただけますか？

田中　高山がロックアップの体制で倒れないように踏ん張ったでしょ？　それで倒れても立ち上がったでしょ。ここですよ、見るべきところは！

――ワクワクしますね（笑）。

田中　よく言うんだけどバーン・ガニアがスリーパーする時にお客さんに見せるためには、寝転がってやったらいいかんと、立ってやるんだと。要はお客に見せるために立って闘うと思われていたわけですよね。

――ホントは寝たほうが極まるわけですからね（笑）。

田中　ところが今回のロックアップの攻防で見られたことはね、テイクダウンされないためにね、高山がロックアップで立ち続けてるんですよ。

――ああ、確かにそうですね。

田中　シュートの現実でもね、やっぱりロックアップしながら踏ん張るんだと、立つんだと。そこからね「なんでキャッチの人たちは立ってやろうとしたのか、立とうとしたのか」という答えが見えたんですよ！

――キャッチのロックアップは理にかなっていたことが判明したと。

田中　だからアレは感動の試合だったんです！　そう考えるとあの試合はね、真実の意味で原点に戻ったプロレスだということなんですよ。

――そう考えると面白いですね。

田中　しかも高山は試合前にスネークピットに行って、ビル・ロビンソンの指導も受けてるんですよ。そのつながりも、プロレスの原点に戻るという作業もUWFだからね。Uを見てよかったということなんですよ。

――やはりそこに行き着くわけですね（笑）。

田中　だから谷川さんなんかあんまりUを見てなかったんだろなぁと。そのへんが残念やったね。この試合がどういう意味があったのかを考えるとね。

――どうしても高山の話になってしまいますけど、藤田はいかがでしたか？

田中　藤田っていうのはチャンコを食って大きくなった人じゃないというのがあってね、何かやっぱりオレは元々なんかピンとこないというかね。

――プロレス者からの人気はホントにないですよね。

田中　ないよねぇ。だから藤田 vs 永田があった新日本の武道館と武藤 vs 天龍のどっち行こかってなった時に迷わず、武藤と天龍行こうと。藤田 vs 永田はおもんないと。

――でも非常に評判はいいんですよ。

田中　他がダメやったからね。馳と武藤が40分でしょ？　それ聞いてね、ボクは武藤が「全日とは何か」を3日前に予行演習したかったんちゃうかと。

――ガハハハハ！　あれは予行練習でしたか（笑）。

田中　40分やってみることで、全日の精神とは何であったんかと。ファンには受けなかったけどね二人だけの世界で、これが現実なんだということをやって、それで天龍に向かっていったんだと。

――その考え方はすごいですね（笑）。武藤 vs 天龍は田中さん的にはどうでした？

田中　いや、もうこんなん年間最高試合候補でいいんじゃないのと。

――そこまで評価高いですか！

田中　もう最初驚きながら、口を半分ポカンと空けながら見てましたよ。

――具体的にはどこがよかったと思いますか？

田中　やっぱ、お客さんのニーズにこたえてるっていうことなんちゃうの？　お客さんが名勝負を見ようとしてんねんやったら名勝負してくれるいうて、実際それをデリバーしとるわけやからね。逆に新日の今の欠点、長州対小川やったら、結構マジな闘いするんちゃうかいうて、全然それを見せないわけやからね、それはお客さん怒るよと。

――ガハハハ！　確かに（笑）。

田中　それで天龍 vs 武藤と高山 vs 藤田の共通点というと、どちらもファンのニーズを超えたモノを提供してるんだよね。天龍対武藤やったら、まぁこれくらい、いくやろと、こんだけ見せられてんからんな。高山対藤田もそういう点でいったら、これくらいの意地見せちゃうかと、ここぐらいまで見えてきたわけやからそりゃ誉める以外ないでしょうと。

――どっちもキーワードは観客の想像以上のモノを見せるということですね。

田中　そういうことなんですよ。だから、シュート、ワークは関係ないんだよと。それで今回は今年上半期のベストバウトと言っていい武藤 vs 天龍と、プロレスラー2人のね、シュートのメインイベントが成立したと。その二つが素晴らしかったということですよ。

田中正志氏がプロレスの上半期ベストバウトと言う、6・8全日本プロレス、日本武道館大会での天龍 vs 武藤の三冠ヘビー級タイトルマッチ。起承転結のある試合展開、そしてお互いの良さがでた名勝負。いまこんな純プロレスができるのはこの二人だけだろう。

る逆転現象が象徴的だと思うんですよ。

イメージ戦略と最先端の演出が時代をガッチリ、キャッチ！コンテンダーズは21世紀型"新生UWF"である!!

そして鈴木みのる参戦！！

Doubles2（10分・2本先取）

宇野　薫
高瀬大樹
【和術慧舟會東京本部】

（時間切れ引き分け）

鈴木みのる
伊藤　崇文
【パンクラス横浜】

CONTENDERS

横浜高校出身同士の攻防。宇野のタックルをがぶりフロントチョークで宙に浮かせる鈴木。

今回のコンテンダーズパンフレットには大会プロデューサーを務める宇野薫への一問一答式のインタビューが掲載されていた。

その中で一番気になったことは、宇野薫の最近のお気に入りのアイドルは奥菜恵ということだった。冗談でも何でもなく気になってしまった。宇野は一連の奥■恵騒動に何を感じたのか？『ブブカ』は買ったのか？　本物の可能性が高いと聞いてショックを受けたのか？　等々、どうでもいい興味は尽きない。

そんなことを考えていそうな、若者たちが梅雨時の日曜日『ZEPP・TOKYO』へ集結した。もちろん今回も超満員札止め。

開場のかなり前から、宇野商店、そして当日券を求めるお客さんが会場をぐるりと取り囲んでいる。聞けば一番乗りは朝の5時というから驚きだ。一体、みんな、何を期待してコンテンダーズに足を運んでいるのだろう？

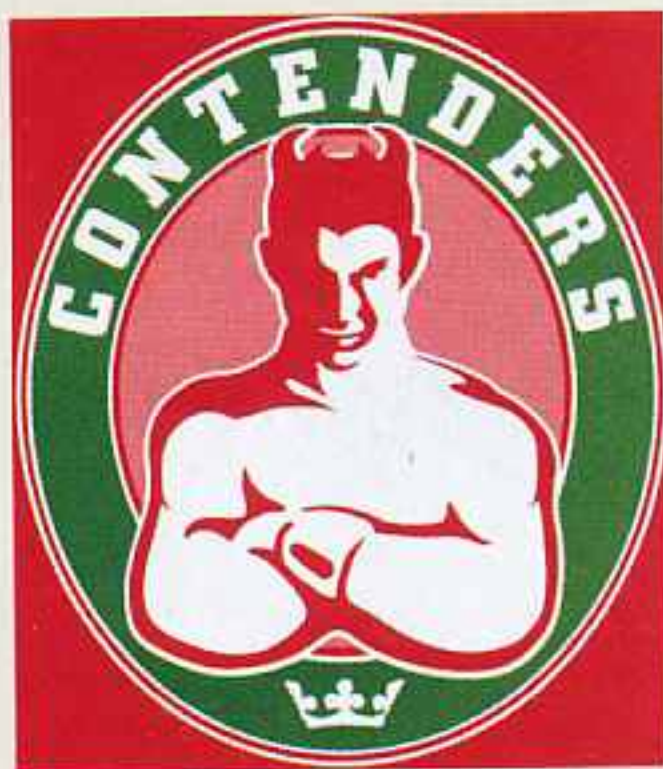
行列をなしている若者たちの会話をそれとなく聞いてみるが、それほど組技限定の試合に興味があるようには思えない。それでもチケットは発売数日でソールドアウト、当日券も秒殺だ。恐るべし、コンテンダーズ！

会場装飾、映像、照明、DJ、各種グッズ等、コンテンダーズのイメージ戦略は、若者そして時代のニーズをガッチリ、キャッチしているのだ。やっぱ、おじさんには難しい。

ここまで書いて、コンテンダーズはどこかで見た光景だなとぼんやり気づいた。

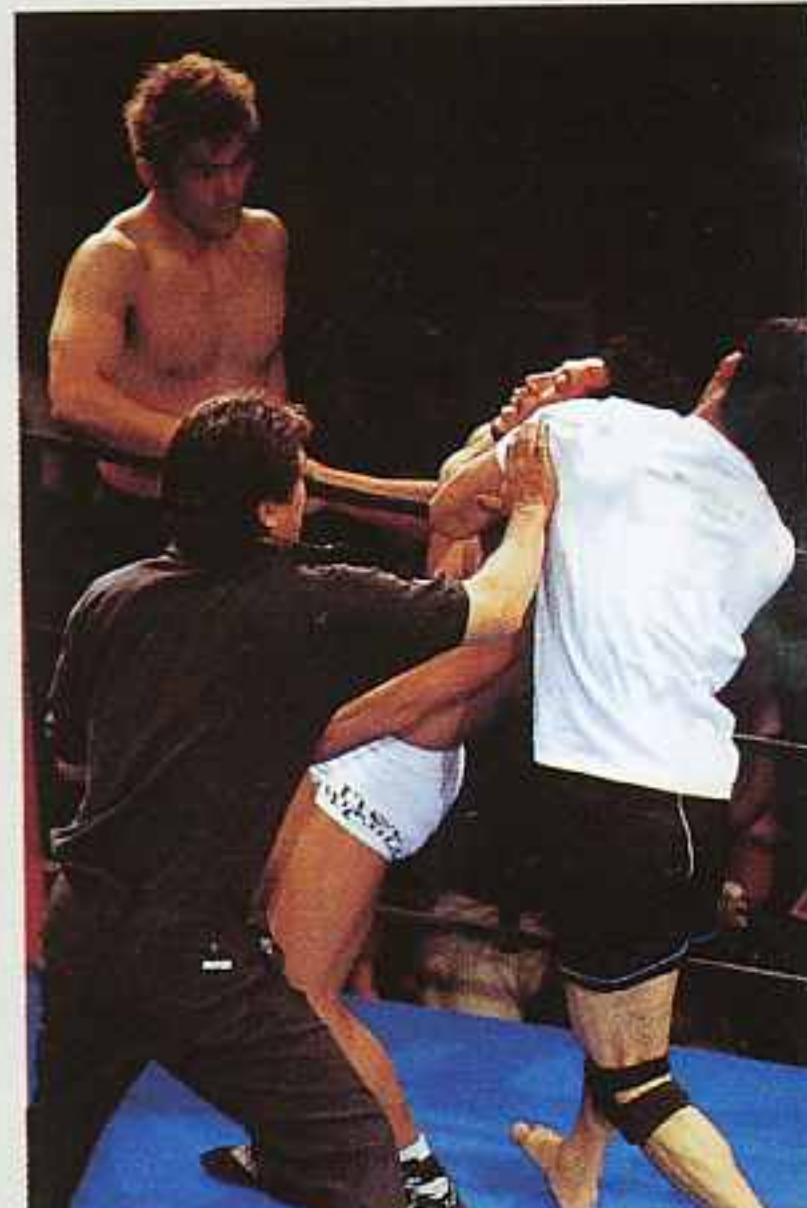
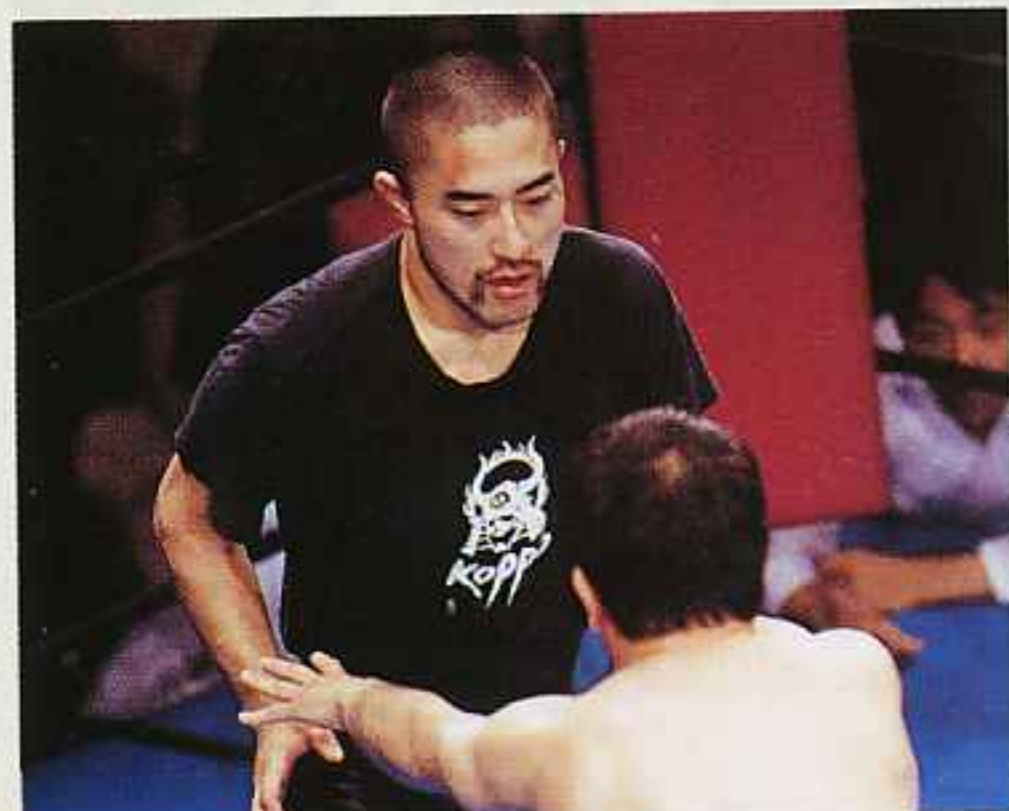
そうだ、コンテンダーズは21世紀の新生UWFなのだ。そう考えれば合点がいく。チケットはすぐさま完売、ビデオ&グッズはバカ売れ、プロレス&格闘技に興味のなさそうなファン層まで取り込み、当時はセンセーショナルな話題を提供したものだ。

リング上での闘いには、かなりの違いがあるが、役者が揃えばノー問題である。

そういった意味で今回の注目は、なんといってもパンクラスの鈴木みのるの参戦だろう。ビジュアルから生き様まで正反対な鈴木と宇野、キャラ的には被っていると思われる

CONTENDERS
Millennium-1
JUNE 10th ZEPP TOKYO

今大会のメインともいえるライト級トーナメント。一回戦から注目のカードが続出！　優勝者は抜群の強さを見せつけたバレット・ヨシダだ！

構成／洗濯わさび　撮影／吉澤晃　designed by さおとめの事務所

柔道強化選手である小室とレスリング全日本準優勝者でもある山本の攻防は緊張感溢れる一戦だった。小室は敗れたが、カニ挟みで山本の足首を破壊！　小室恐るべし！

完全に極まった伊藤への高瀬のチョーク！　伊藤はタッチで難を逃れ、さあ、みのるの出番だぜ〜。タッグマッチならではのシーンだ。

"東洋の神秘"矢野卓見は随所にらしさを見せてくれたが、ポジショニングでのポイントで戸井田に判定負け……。バレット・ヨシダとの夢の対決は実現しなかった。見たかったなぁ。

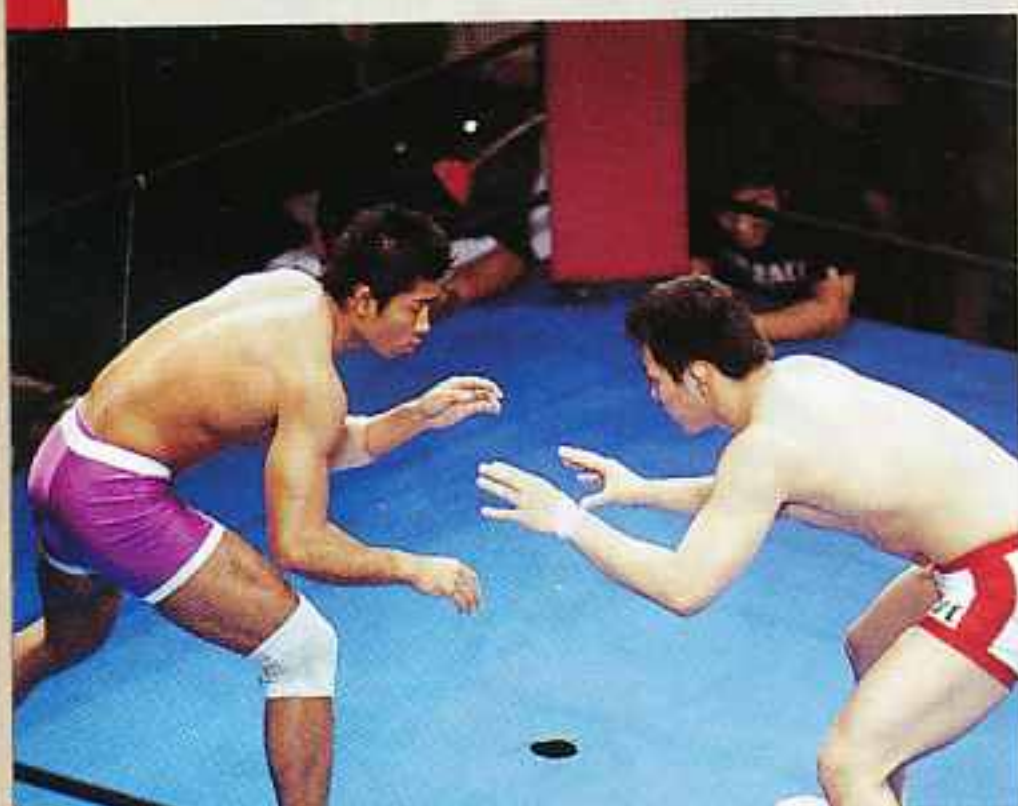
何度か一本を極めれる機会はあったバレットだったが、守りに徹した戸井田を極めきれず判定勝利。バレットにとっては不満が残る準決勝だった。

終了間際に今度は宇野のチョークが伊藤に炸裂!!　リング中央で決まったが、根性で耐えて終了のゴング。さすが横浜道場！

足首を負傷していながら、若林の驚異の足関節をなんとか凌いだ山本。スタンドでの攻防で圧倒し、山本が辛くも決勝進出をモノにした。

負傷を抱えながら決勝まで辿り着いた山本。バレットとはいわば同門対決になったこともあるのか、開始26秒でセコンドのタオル投入により、本命・バレットの優勝となった。

スゲエぜ！　バレット・ヨシダ!!　サンボの実力者でもある五木田を三角絞めでの失神劇！　今大会で一番インパクトがあった試合だった。

みのるが「風」仕様のガウン姿で入場すると、それまでの会場の雰囲気がガラリと変わった！　どうしても一本勝ちが少ないコンテンダーズだが、あの入場は間違いなく一本でしょ！　次回もぜひコンテンダーズに、みのるの風を吹かしてもらいたい。風になれ！

U-FILE・上山とグラバカ・石川の対決は、ほとんどがスタンドの攻防に終始し、大相撲コンテンダーズ場所といったところ。打撃ナシの面白さが出なかった一戦だった。

修斗のチャンピオンシップが控える五味が昨年ネオブラ覇者の五味を判定で下して弾みをつけた。星野も関節で勝負をかけるなど、存在感を見せつけた。

山本"KID"徳郁 (PUREBRED大宮)
小室宏二 (R.J.J)
阿部裕幸 (RJW/CENTRAL)
若林次郎 (SKアブソリュート)
矢野卓見 (烏合会)
戸井田カツヤ (和術慧舟會東京本部)
五木田勝 (木口ワークアウトスタジオ)
バレット・ヨシダ (グラップリング・アンリミテッド)

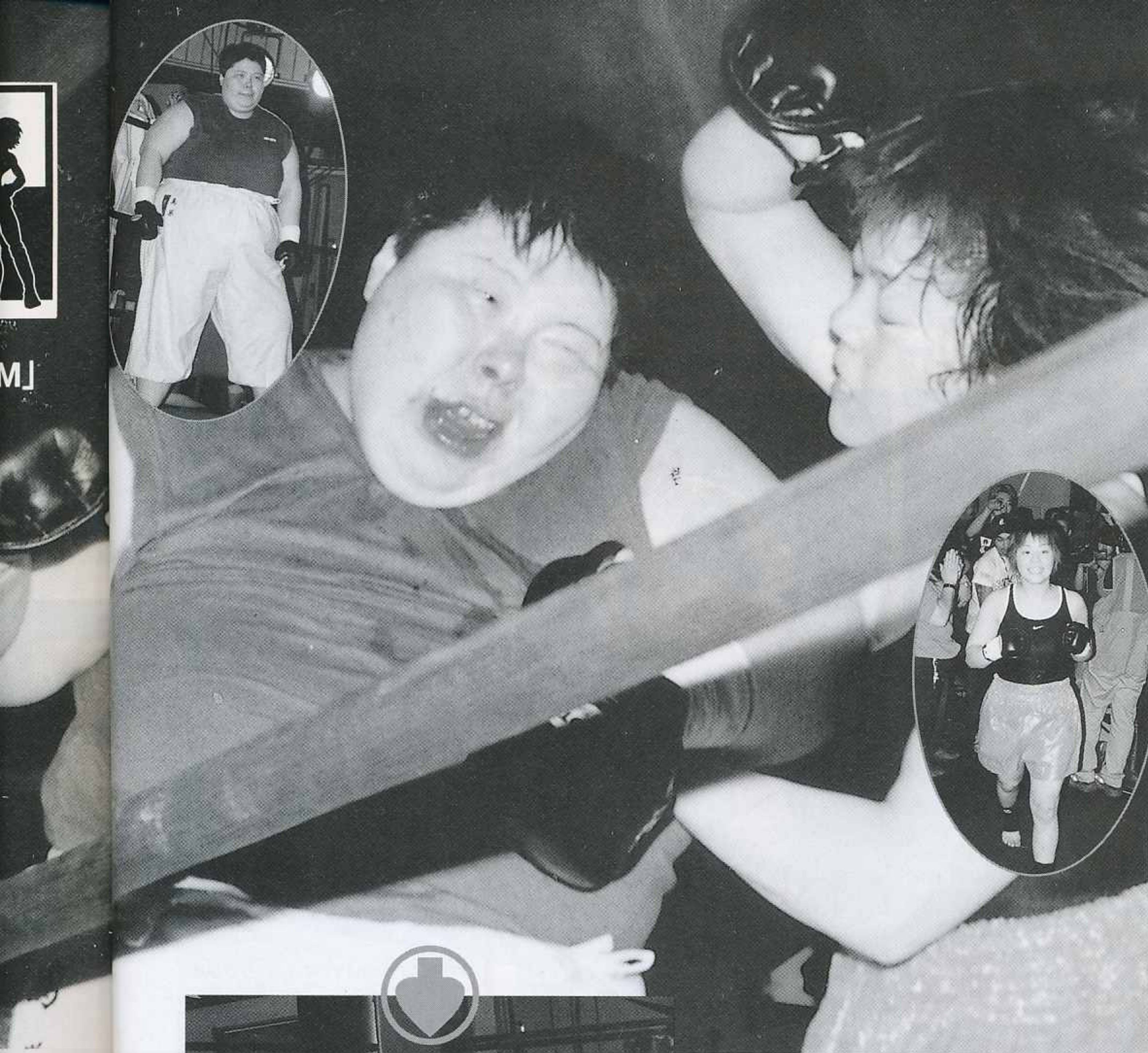
伊藤崇文と高瀬大樹。体格差、実力差、知名度などを考慮してもバランスが取れた見事なマッチメイクである。もちろん試合も白熱！

みのるが出場しコンテンダーズは21世紀型新生UWFとなった（かなり強引）。

まあ、今の勢いなら、コンテンダーズが新生UWFと同じ運命をたどることはないだろう。時代の象徴とも言えるコンテンダーズ、見るなら、今だ！

（洗濯わさび）

『紙プロ』認定 5月のMVP

星野育蒔

誰よりも大笑い！ 誰よりも大泣き！ 強くて凄くて面白い〝天然格闘家〟星野育蒔が女子マット界を変える！ むきぃ〜!!

『紙プロ』で、毎月一番活躍したと思う選手を勝手に認定、勝手に表彰しようというこのコーナー。記念すべき一発目の今回は、5・3ReMix代々木大会でロシアの柔道女王コボチノバ・タチアナを撃破、続く5・24スマックガールclub「ATOM」大会では165センチ、165キロの〝佐賀のびっくりみかん〟こと鳥巣朱美を殴って殴って殴りまくってのKO勝利をあげた星野育蒔に決定！ 文句があるなら星野の試合を見ろッ！

星野の相手は、以前、全女の異種格闘技戦でバット吉永や堀田祐美子とも対戦している165センチ、165キロ“佐賀のビックリみかん”鳥巣朱美。星野の打撃で、その巨体が崩れ落ちると、会場はもの凄い地響きに包まれた。ドス〜ン。

見てみィ、この顔ッ！ ノックアウト勝利を収めた星野は世界中の誰より嬉しそうな顔で勝ち名乗り。そして、しなやかなバク転を披露すると会場からは割れんばかりの大星野コール！ 生き物として星野は見ていて飽きない。お前も見ろ！

5・3ReMix代々木大会

星野が衝撃のデビューを飾ったのが、5・3ReMix代々木大会。昨年、桜庭あつこと闘い、えげつない攻撃を見せたロシアの柔道女王コボチノバ・タチアナを打撃で圧倒、最後は必殺のコンソメパンチで完全KO！

6・8ディファ有明大会、白鳥智香子引退記念興行に出場した星野育蒔。この日の小河真子戦後に星野に5月MVP記念インタビューをしようと控室を訪ねると、そこには、いかにも大泣きした直後の、ふがふが言っている星野がいた。

◆　◆　◆

星野　くやちぃ〜。だって向こうの体重重くてさ、（ヒザが）カクッってなんの。こっち（自分）とあっち（相手）の跳ねが違ってバランスが取れんの。

——今までの格闘技用のリングと今日のリングは違うからね。

星野　うん。ちょっと練習前にやったんやけど、やっぱダメやった。「プロレス用やからちょっと跳ねるよ」って言われてたん。でもあそこまでなるとは思わんかった。自分の認識不足で悔しい限り！

——でもマァ☆ティン（星野のニックネーム）は最強目指してるんだよね。

星野　（ブルブルと首を振って）最強まではほど遠い！ そんなすぐになれへんなって。地道に練習するしかない。

——何がそんなに納得いかなかったの？

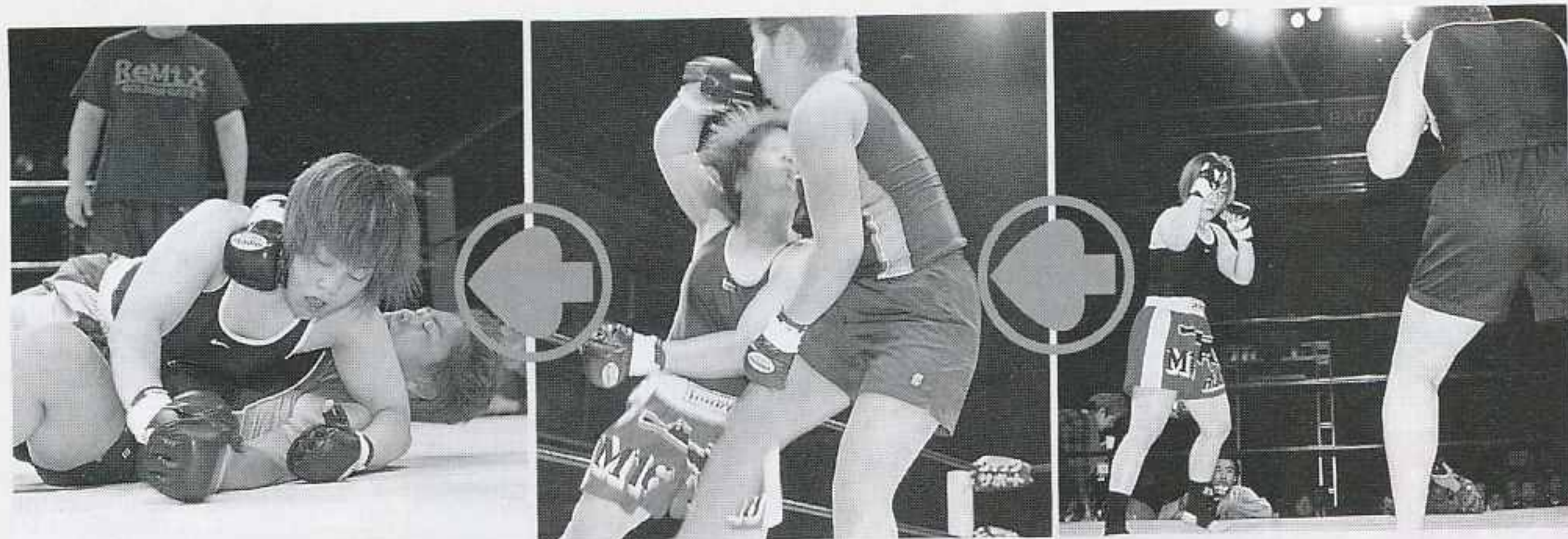
星野　んと、まず相手がガーッと（積極的に）来る相手で、自分もガーッと（これまた積極的に）いく選手で、ガーッとやりあったら、ガチャガチャ（ワケのわからない状態）になって喧嘩みたいにな

って意味のない試合になってしまった。

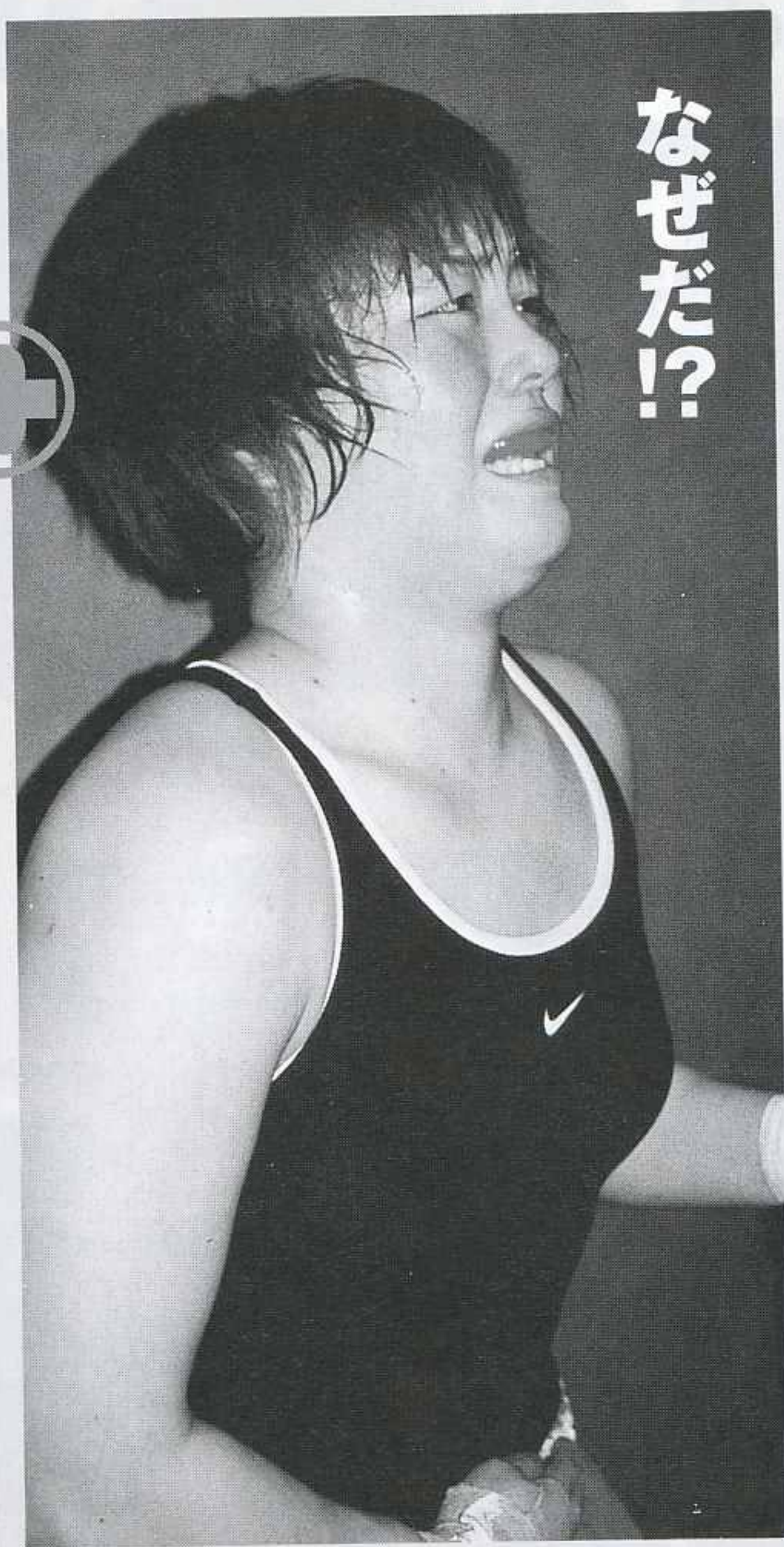
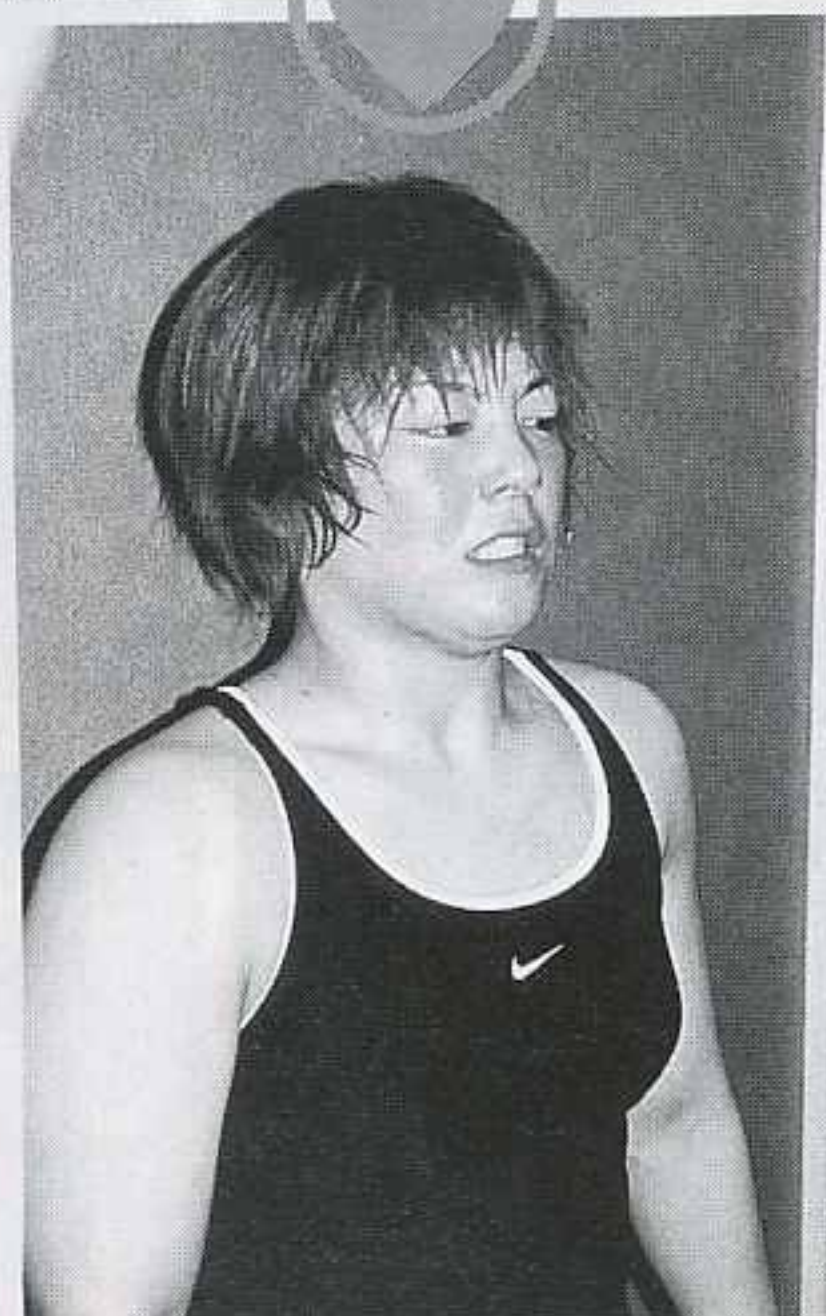
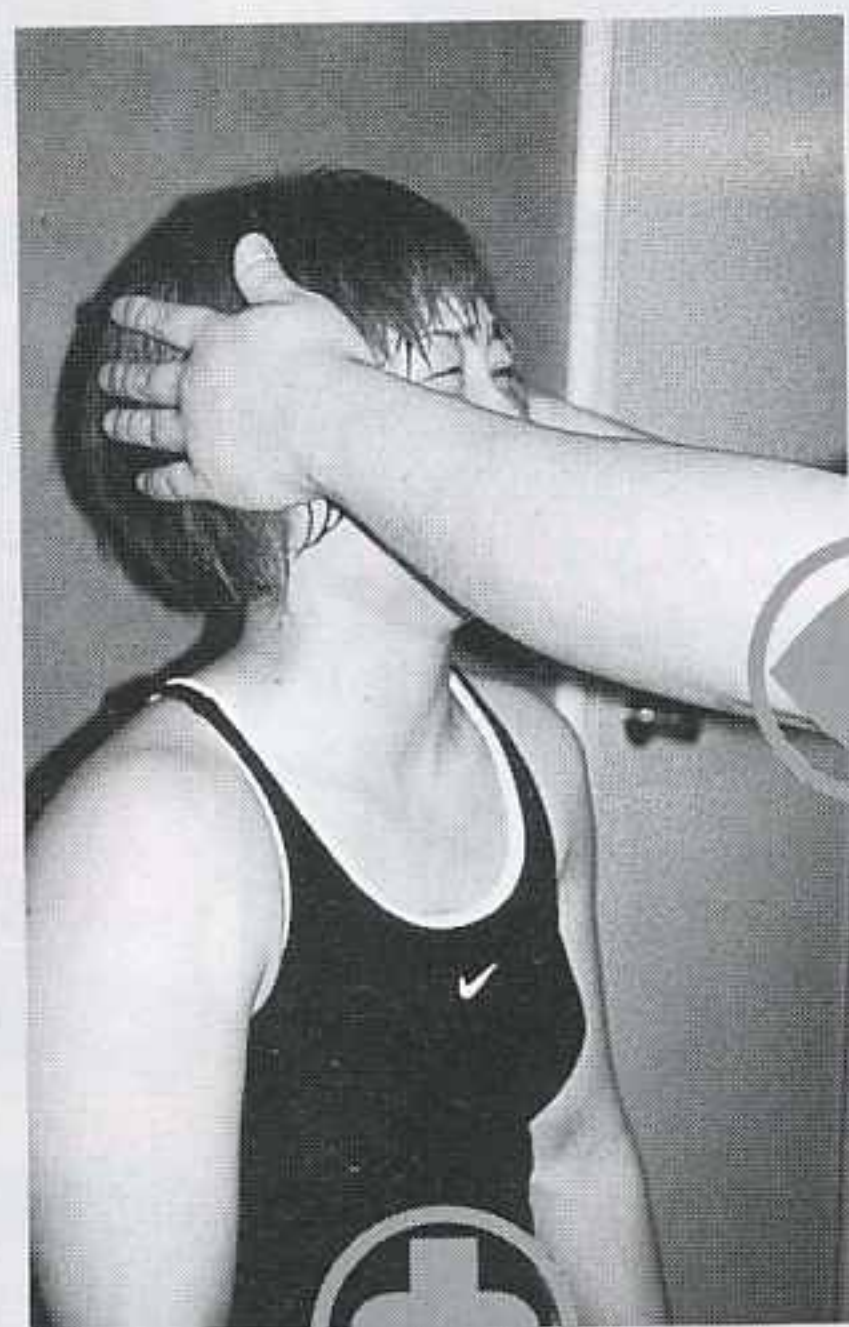
SMACK GIRL!

渋谷系女子格闘技

5・24
渋谷club「ATOM」

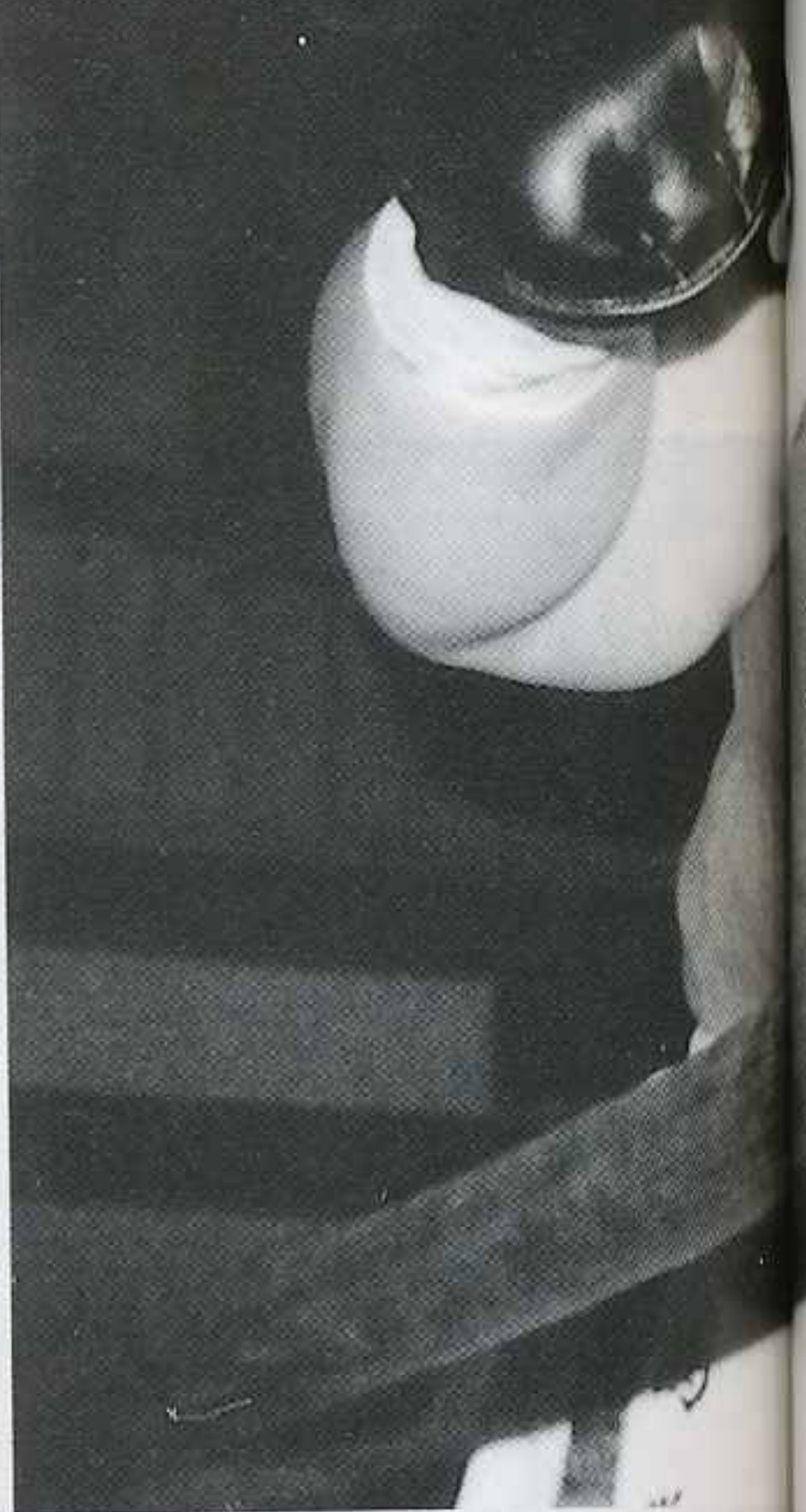
そして6月8日、ディファ有明『白鳥智香子引退興行』では一本勝ちを収めるも試合後、号泣！

殴ろうが蹴ろうが投げようが
自分の持っている力を全部出したい！　ふがふが

最強になるまではもう泣かん！　むきぃ～～!!

なぜだ!?

女子総合格闘家・星野育蒔

マァ☆ティン
HPを見ろ！

↓アドレスはこちら↓
http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=ikumachan

からない状態）になって喧嘩みたいにな

って意味のない試合になってしまった。

――熱くなってしまったの？

星野　熱くなったんじゃなくて、相手をちゃんと見るのと、こうやって（ガードを取りながらキックを出す）パンッっていうのをやりたかって練習してたんやけど、それが相手のペースと合わなくて、リングも合わなくて……悔しい！　ガードもちゃんとしてたから、全然何も痛くないし……けど、自分の技が出せなくて悔しい！　自分自身に納得がいかない。自分に負けた感じ。人に勝っても自分に負けたら意味ない。

――私はこんなもんじゃないと？

星野　私はこんなんじゃないっていうか、練習してきたことが出せなかったし、この間の試合（5・24、鳥巣朱美戦）からの時間がやっぱり短かったし。

――体調的にあまり良くなかったの？

星野　（首を振って）下痢だけ（笑）。

――マァ☆ティンってよく泣くの？

星野　あんま泣かん！（照れ臭そうに）それに、マァ☆ティン、最強になるまで泣かんと決めてたのに泣いてしまった。最強への道のりはやっぱ険しい。もう悔しくて悔しくて。も～う（と頭を掻きむしる）。自分にむかつく。いらつく。こんなしょっぱい試合したらさ、もうダメ。

――今日の試合は百点満点で何点？

星野　（元気よく）2ポイント！

――ポイントかよ！（笑）。

星野　今は、とにかく勝ちたい！　けど、殴ろうが蹴ろうが投げようが自分の持ってる力を全部出したい！（今日は）出し切ってない、あんなん！　2ポイントしか出してない。全て2ポイント止まり。

――次の試合に向けてどうするつもり？

星野　練習しかない！……あぁ、くやちぃ～。また泣きたくなってきた。むきぃ～～!!（と裸足で会場の外に向かって走り去る、星野育蒔・19歳であった）

決まったそれともしたドラマ女の子は粒揃い♥（それでいいのか？）

「渋谷系女子プロレス」制作記者発表

7月5日スタート木曜深夜3:14～ テレビ朝日

「渋女なら何をやっても許されるのか！」

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

⑦小島しずく

（16）B型　おとめ座

しずくは、小さい頃家族を捨てアメリカへ帰ってしまった父を未だに憎んでいる。しかし存在意識の中で沸き立つ父親への思いは、いつしか父親への自己存在証明へと変わり、有名になれば父親が自分を見つけてくれるのでは、と…。

⑧高田衣李紗

（14）O型　しし座

現在、新体操部に所属している衣李紗。それは、いつの日かプロレスラーになってオリジナルの技を編み出したいという願いから。プロレスが大好きな少女である。

⑨桜井真由美

（19）O型　てんびん座

ある日、彼の家を訪ねた真由美は男の浮気相手に遭遇する。その場で浮気相手の女と男の取り合いの喧嘩になるが、簡単にやられてしまう…。真由美は女への復讐のため強くなることを決意。彼女が選んだのは女子プロレスの世界だった。

⑩西村優子

（19）B型　おひつじ座

幼い頃から身長か高く、常にどこかに頭をぶつけている少女。いつの間にか額は鍛えられている。その身長（170cm）を生かし存在感のあるプロレスラーを目指す。もちろん得意技は「ヘッドバッド」。

の夏、前代未聞の美少女エンターテインメントドラマが誕生します。それは、オーディションによって選ばれた10代の渋谷系美少女たちで結成されるプロレス団体『渋谷系女子プロレス』の、結成からデビュー戦までの模様を綴る究極の格闘エンターテインメントドラマです。ドラマでは伝説のプロレスラーを母に持つ一人の美少女が仲間とともにプロレス団体を立ち上げ、今年12月に実際に開催される旗揚げ興行を成功させるまでが描かれます。このドラマには、実際に厳しいオーディションを潜り抜けた『渋女』の12人のメンバーたちが主演するのです。父親と祖母に育てられ、母親は死んだと教えられていた一人の少女が主人公。しかし、その父親も亡くなります。葬式の日、主人公はひょんなきっかけで失踪していた母親がアメリカで生きていることを知ります。祖母に尋ねると、家の裏にある蔵の鍵を突然渡されます。蔵を開けた少女は、そこで不可解なものを見つけます。それはプロレスのリング…！」（あとは各自調査）

『渋女』は結末のプロレスなのか？ プロレスを題材になのか？ でも、

篠さん、『渋女』拝見させてもらいました。今後の動向を見守りたいと思います！

プロレス道にもとる行為か!?

①亀井なつみ(18) B型　かに座
なつみは寂しがり屋で愛に飢えていた。ある日、不倫関係にあった男性が突然腹上死してしまい、失意の彼女は拠り所を求め、女子プロレスの世界へ飛びこんでいく。

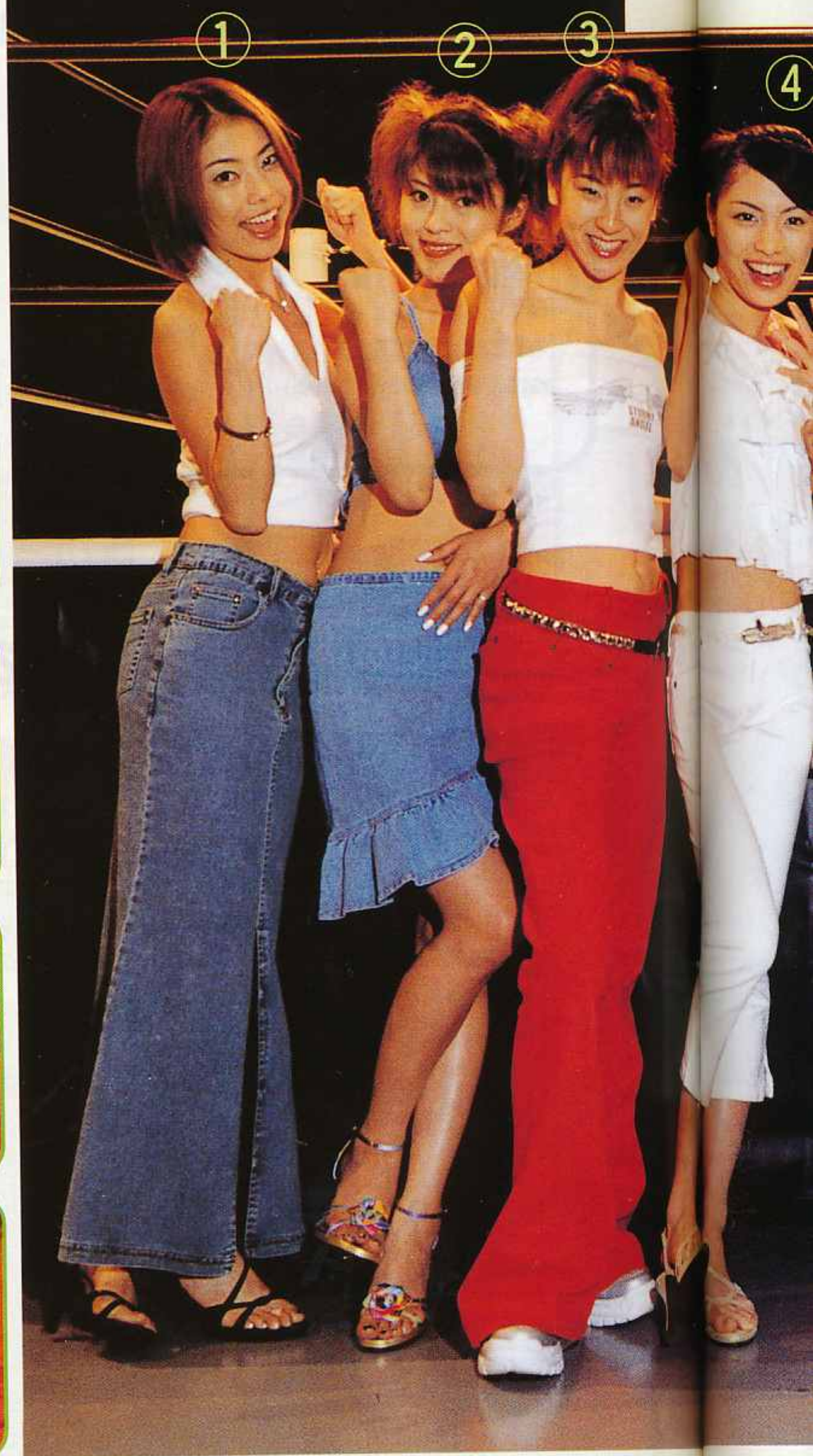
②aki(19) B型　さそり座
高校時代、片思いの男子生徒が同性愛教師に迫られているところを目撃。以来そのことがトラウマとなり、男性を拒絶してしまうようになる。そしてやがて女同士の闘いの場へ…。

③藤井真喜子(18) O型　おひつじ座
渋谷の街で男にストリート・ファイトを挑み倒すことを生きがいにしている真喜子は、より強い相手を求め女子プロレスラーになる。12人の中でも一番の武闘派。

④浅香友紀(16) O型　さそり座
海外生活で合気道を学び、武道を極めるため日本に行くことを決意する少女。その途中、主人公麻弥に出会い、半ば無理やりプロレスを一緒にやることになる。

⑤宮本麻弥(18) AB型　かに座
母親は死んだと教えられ、父親と祖母に育てられていた主人公。しかし、死んだと伝えられていた母親が実はアメリカで生きていることと、昔、プロレスラーだったことを知る。独自のプロレス団体を立ち上げるため、さまざまな難関を乗り越え、一人また一人と仲間を増やしていく渋谷系女子プロレスリーダー。

⑥市川由衣(15) A型　みずがめ座
熊本で軍鶏（闘鶏）を育てる家に生まれた。酒好きの父親に自分が可愛がっていた軍鶏「美代子」を「闘鶏賭博」に出されてしまう。闘いにお金を賭ける大人たちが信用できずに東京に家出する。

『渋女』のコーチ役は工藤めぐみに決定。そして記者会見の司会は真鍋アナが務めた。真鍋アナは新日中継で乙葉ちゃんと話している時のように幸せそうな表情だった

渋谷系女子プロレスの特番が6月9日遂に放送された。「結末の決まったプロレス」ということで、マニアの間では放送前からかなり評価が高かった『渋女』だが、特番を見るかぎり、結末の決まったプロレスと言うよりは、むしろプロレスを題材にしたドラマという方がしっくりくるような内容であった。放送後の反響はかなりデカかったが、「『渋女』は是か非か？」というと、圧倒的に「非」の方が多かった。会見で発表されたように年末には、実際に観客を入れてプロレス興行を行うという『渋女』。果たして、それまでに大きな話題を作ることができるのか？　というわけで『渋女』の簡単なみどころを紹介！「こ

構成／松澤チョロ　撮影／吉場正和　designed by さおとめの事務所

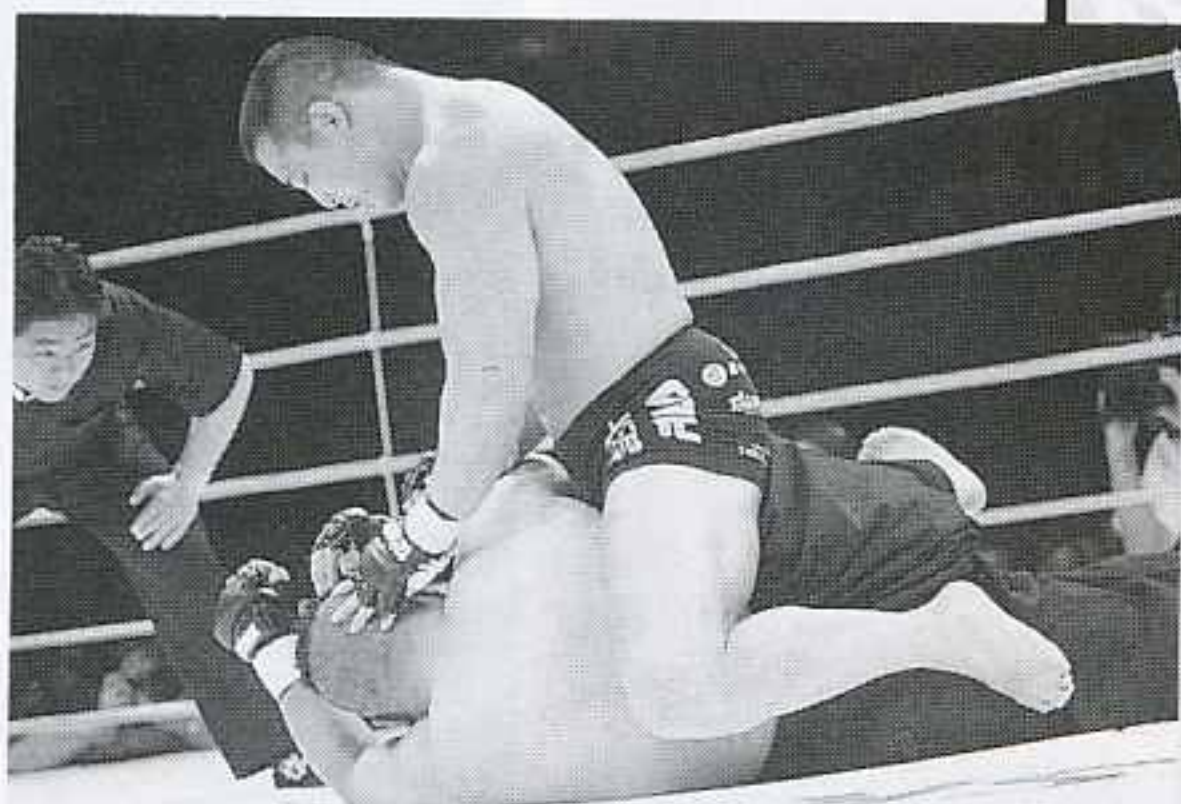
リング外 秩父セメント情報通信

俺が(リング外)上情報

リング外のアっと驚く情報やイベント、何でもいいから凄いリリース受け付けているぜ。

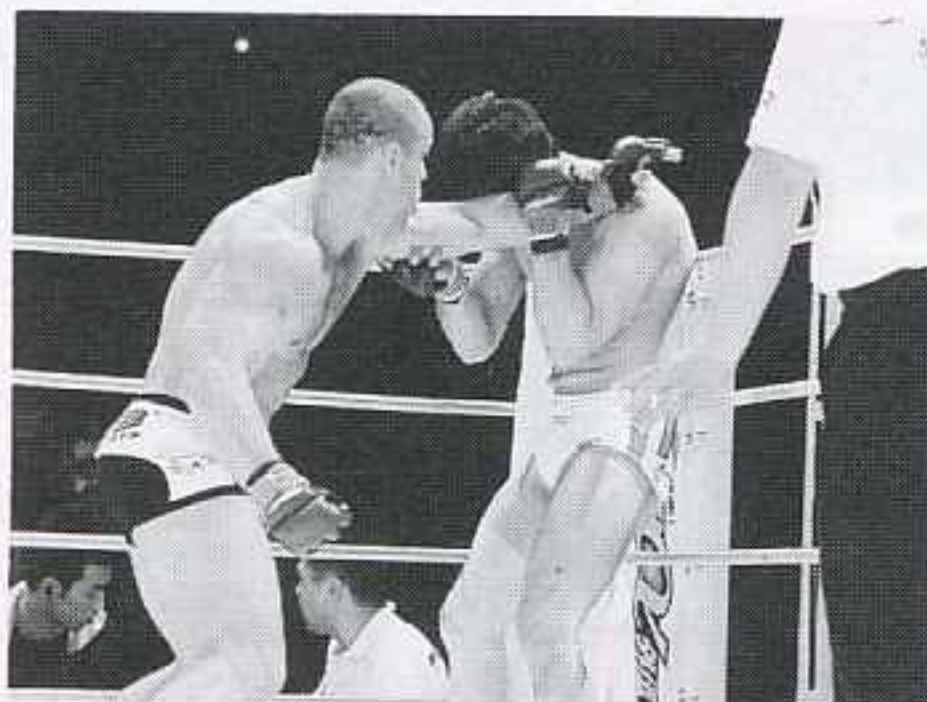
俺がエンセン

「エンセン井上と楽しく食事会をしよう!」のお知らせ

エンセン井上を応援するホームページの方々が中心となりエンセンとの食事会が開催されることになった。もちろんエンセンファンなら誰でも参加OK! 大和魂な食事会を期待しよう!?
【日時】7月1日（日）
【時間】18：00
【お問い合わせ】
poteto66@hotmail.com

エンセン井上と、とっても楽しい食事会！（想像図）

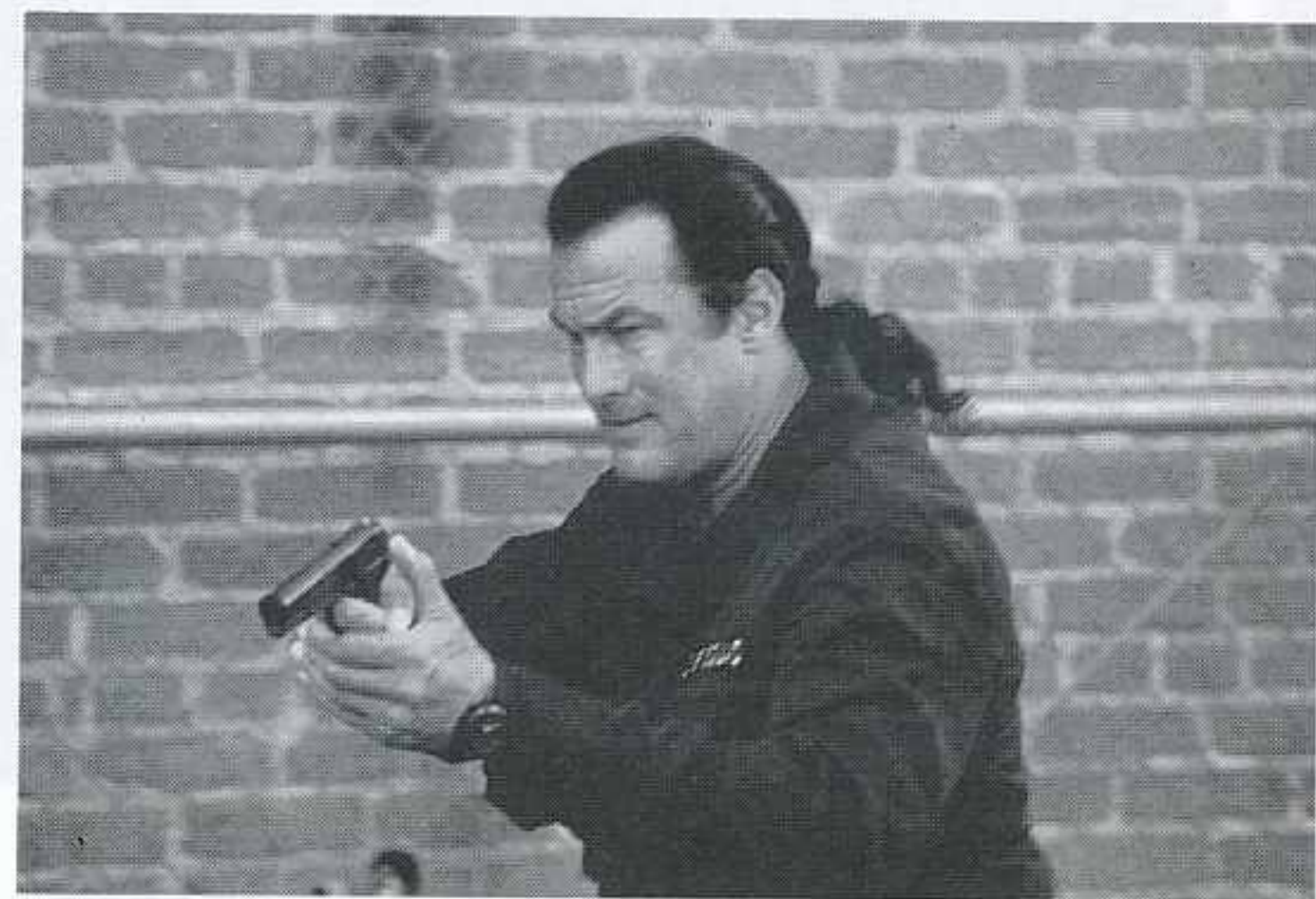
俺がシウバ

桜庭が解説! ヴァンダレイ・シウバ特集

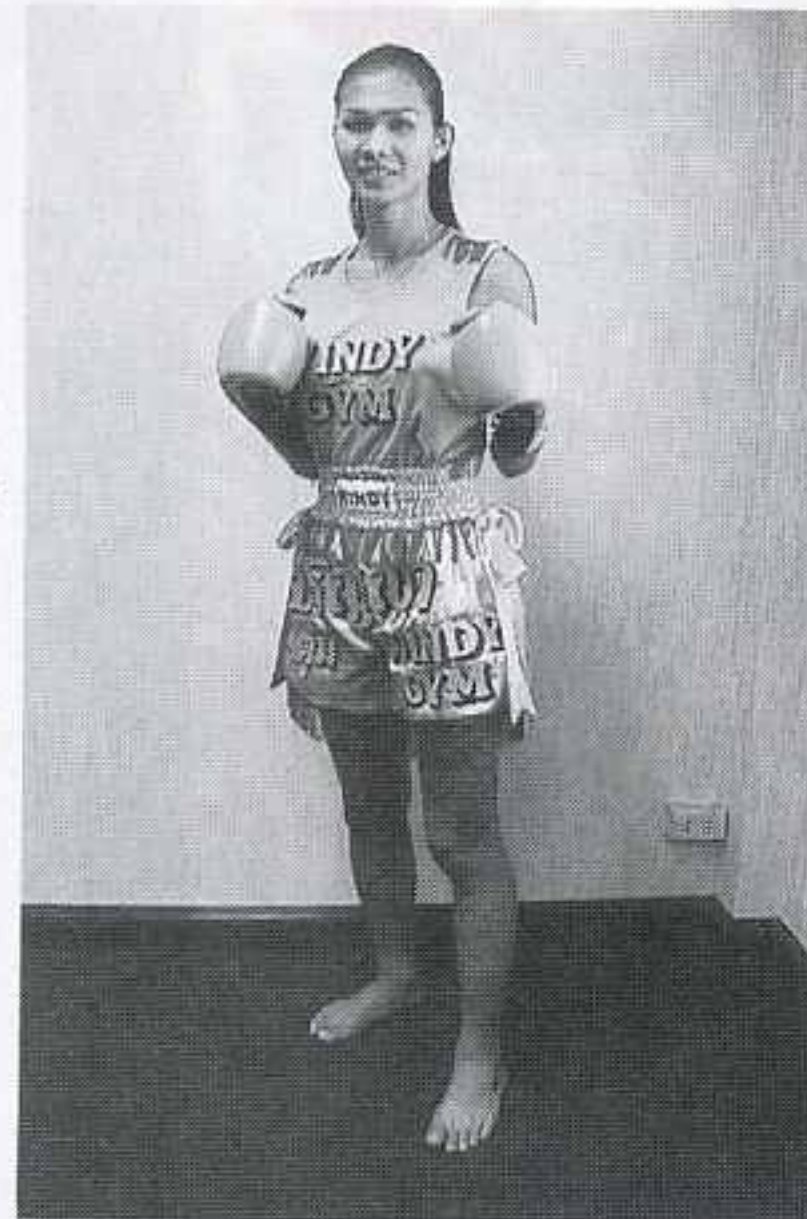
“バーリトゥードの原点”ともいえる危険なIVC大会シリーズの中からバンダレイ・シウバが登場した回のアンコール放送が決定！ ナント、当時解説したのは桜庭！ 一体シウバに対し桜庭がどんなコメントをしていたか気になるところ。一夜限りの放送だけに見逃すな！
【ジェイ・スカイ・スポーツ】
7月1日深夜2時～4時

IVCはヒジ・ヒザなどの制約がなかった危険な大会だけに桜庭戦の様なシウバの凶暴性が大爆発だ！

俺がテロリスト

S・セガール「沈黙のテロリスト」絶賛公開中!!

スティーブ・セガール主演・最新作「沈黙のテロリスト」が全世界に先駆けて、日本で公開されてるぞ！ かつて大阪在住で、流暢な大阪弁を喋るセガールだけに日本のことなら何でもバッチリ。日本人好みのバイオレンス・アクションの連発だ!!
【日比谷映画ほか全国東宝洋画系ロードショー絶賛公開中！】

私がパリンヤー

あのパリンヤーがまたもや日本上陸!!

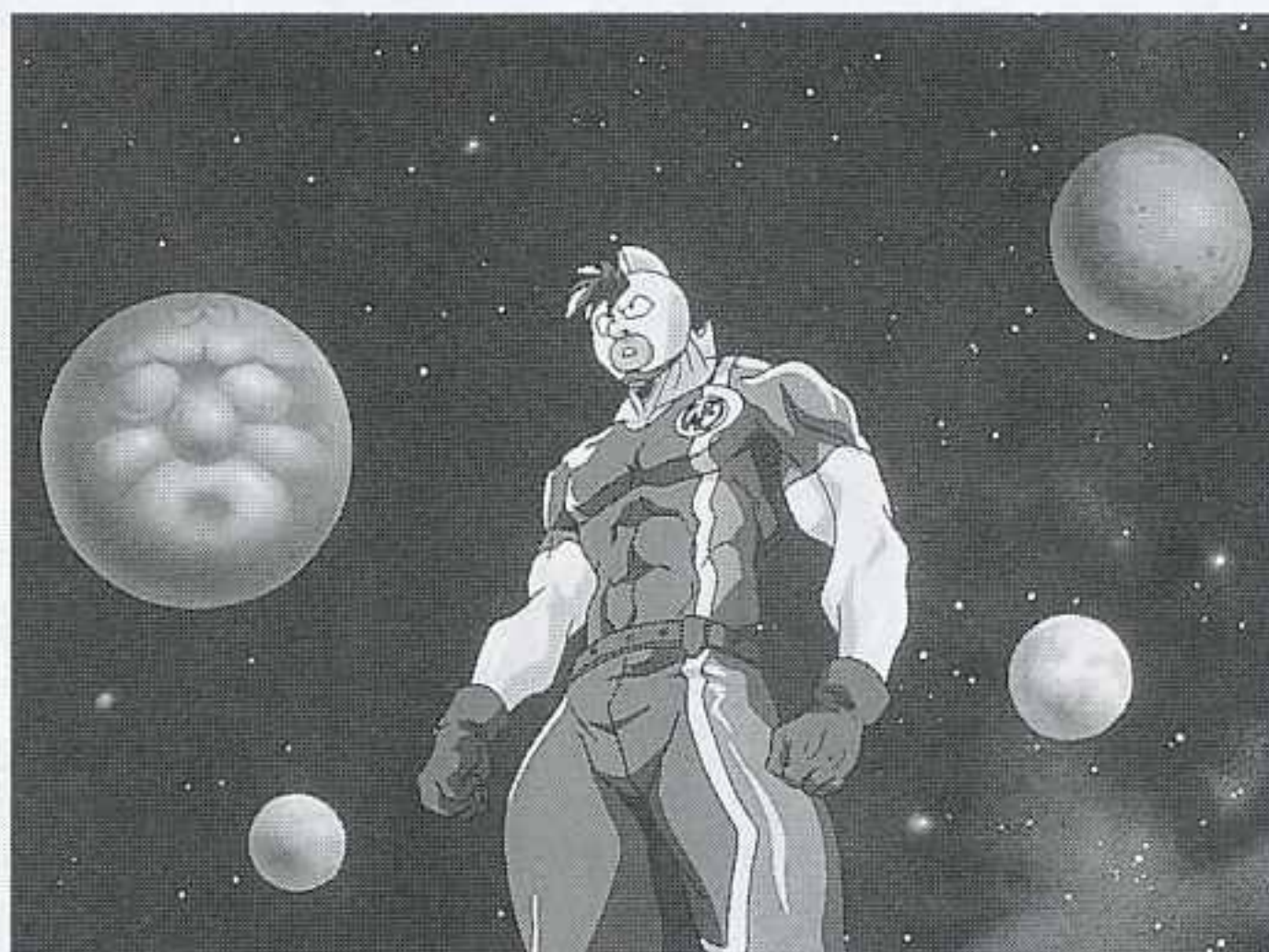
性転換後、色気たっぷりになったパリンヤーが（スリーサイズB93・W58・H93）後楽園ホールにやってくる！ はたして殺伐としたリングという四角いジャングルで魅惑の花を咲かすこがとできるのか？ ワイクーもお楽しみに!!
【日時】7月17日 18:00～
【場所】後楽園ホール
【お問い合わせ】J-NETWORK
TEL.03-3419-0536

すっかりオトナの女らしくなったナイスバディのパリンヤー♥

『紙プロ』mini【@KMAX/KAKUTOU/TOP.CGI】

俺がキン肉マンII世

©ゆでたまご／集英社・東映アニメーション

『2001夏東映アニメフェア』映画新登場!!「キン肉マンII世」

「週間少年ジャンプ」に連載され、数多くの人気超人キャラクターを生んだ『キン肉マン』　その息子・「キン肉マンII世」（週間プレイボーイ連載中）ことキン肉・万太郎が映画に登場だ！　キン肉マンを愛してやまない、「正義」「友情」「勝利」が座右の銘な人は５回は見ないといけないアニメフェアだ
【７月全国東映系ロードショー予定】

©ゆでたまご／集英社・東映アニメーション

テーマソングは自分で作詞した角田が大熱唱！でもやっぱりキン肉マンといった平田だよ、平田淳嗣！　次回作は平田の熱唱を希望！

俺が真樹

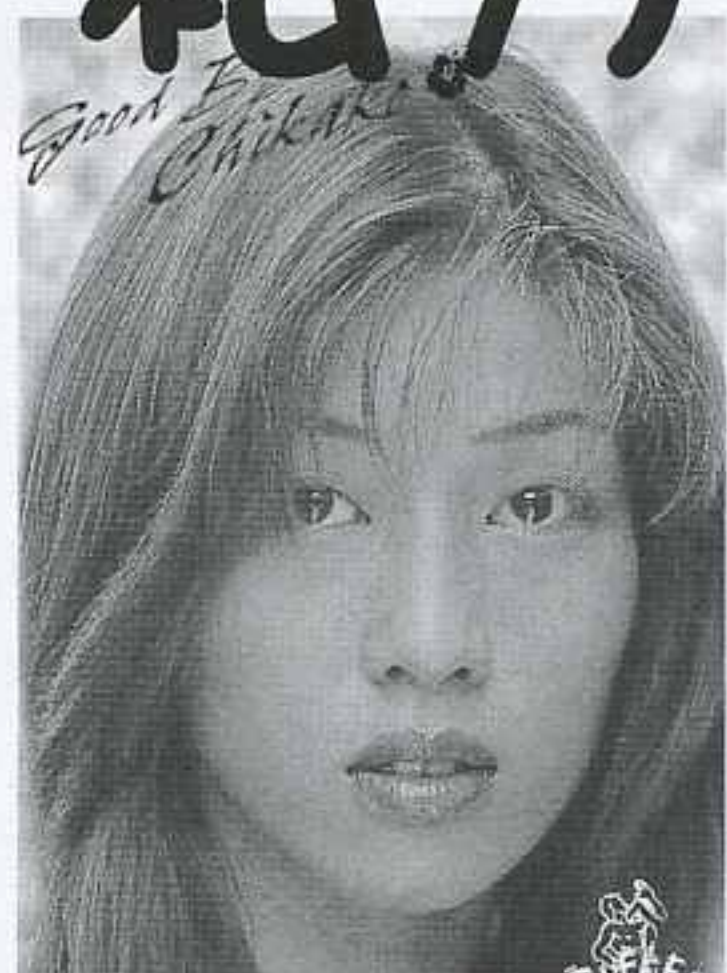
©中山画伯

真樹道場主催
第2回全日本空手道選手権

今号で最終回を迎えた格闘プロレス小説「無比人」執筆の真樹日佐夫先生が主催するオープントーナメント第２回全日本空手道選手権が開催される！　男を磨きたい奴、男を感じたい奴は集合だ!
【日時】9月16日10:00開始
【お問い合わせ】
真樹道場愛知支部 TEL.0565-24-3861

私が白鳥

『白鳥智香子　GOOD BYE CHIKAKO』

6月8日、ディファ有明で行われた「白鳥智香子引退興行GOOD BYE CHIKAKO」ビデオが販売されるぞ。白鳥の最後の姿をドキュメントタッチで送るオフィシャルビデオ。いまなら直筆サイン入り!!　急げ!
【代金】￥5000（送料は無料です）
【口座番号】01640-8-21249
伊藤演出オフィス　白鳥ビデオ係

星野育蒔からターザン山本まで！　たくさんの人間が、白鳥智香子の引退興行に駆けつけた。

俺がヤマケン

『タイタンファイト』
インターネット中継

今回で４回目を迎える７月１日、東京・TRCアールンホールで開催されるタイタンファイトが、インターネットで無料ライブ中継で見られるぞ!　噂のリアル天下一武道会とは何か?　じっくり見て感じてみよう。
【配信日時】7月1日　14:00～
【URL】
http://www.titan-fight.com
【お問い合わせ】（株）パルテノンプロモーション　TEL.03-5312-7522

その他ブッ込み情報

★骨法・整体セミナー開催のお知らせです!

手に職を！　整体で独立！　骨法整体セミナーが新たに10月生を募集中！　もうすでに開業したセミナー生もいるという凄いセミナーにコールマンやクーネンちゃんが参加したとの噂をキャッチ！　来月号でその真相が明かされる！
【お問い合わせ時間】20：00～22：00　TEL.03-3362-0010
【場所】東京都中野区東中野4-3-2

★『紙プロ』miniがやってますよ～ッ!

『紙プロ』がH“・Feel H”オフィシャルサイト「格闘MAX」で『紙プロ』miniが始まってるぞ！　タイムリーな情報や壁紙配信など、随時更新!!　新企画も予定している。『紙プロ』miniに行くんだ！→【@KMAX/KAKUTOU/TOP.CG】

KINGS吉祥寺パルコ格闘トークライブレポート

５月26日に吉祥寺パルコで行われた菊田・大日本・エンセン・トークライブ３連発！　トークイベントとしては一日に３つと珍しいイベントなので、超簡単ながらレポートしてみました。

主に菊田のアブダビ話が中心だったグラバカ。もう、全然喋んないなんて。佐々木君と石川君は照れ屋さんなんだからっ！

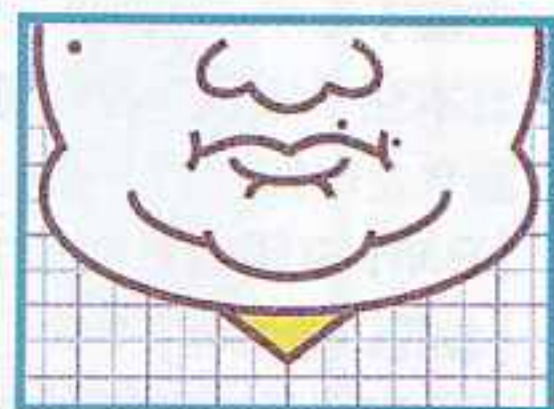
山川や葛西の乱入に次ぐ乱入で、一番盛り上がったと思われる大日本。　前評判（？）を覆す結果になった。

復活の話題を振られると「ワタシは橋本真也じゃないから」と否定したエンセンだが、すぐさま「一回は出るかもね」と、一回はOKな大和魂。

〜白鳥智香子に捧げるポエム〜

ターザン山本（格闘詩人）

★6・8ディファ有明★
白鳥智香子引退興行
『GOOD BYE CHIKAKO』

ひょんなことから白鳥智香子引退興行をレポートすることになった本誌。とは言っても今の『紙プロ』で女子プロそして白鳥を語れるヤツはいるわきゃない。どうにかなるさ、と思い会場にたどり着くと、いましたいました、ターザン山本。どうやら引退セレモニーで白鳥にポエムをプレゼントするらしい。それでは、聞いてみますかーッ！

『紙プロ』表紙イラストでおなじみ

中川画伯の白鳥引退興行観戦記

自分は文章を書くのが苦手です。女子プロレスのことも白鳥選手のことも全然知らない素人です。でも松澤チョロ氏に頼まれてしまったので頑張って書きたいと思います。きっと人手不足なのでしょう。

最近、吉田豪先生の『男気万字固め』という素敵な本を読んだので普段よりも「男気」が2ポイント程、上がっていたので引き受けてしまいました。

第2試合の井上貴子&神谷美織vs伊藤薫&渡辺智子戦の後、リングに白鳥選手が呼ばれて、大向選手、ジャガーさん、高山善廣選手のコメントが読まれました。そしてアジャ選手、元・バイソンさん、試合を終えたばかりの神谷選手、伊藤選手がリングに上がって白鳥選手を囲んで写真を撮りました。実はこの5人、ジャングル・ジャックなのです。自分は初めて知りました。撮影後5人は着ていた迷彩のTシャツを客席に投げました。元・バイソンさんだけ異常に肩が強いのか、とても遠くに飛びました。まさに、バイソン。

休憩の後、セミの大阪プロレスのロイヤル・ランブル。スペル・チカコとして白鳥選手も出場しました。スペル。チカコって名前はドクトル・チエコみたいで格好悪いと思いました。怪獣キングマンドラ選手は、とても大きく、その暴れっぷりは故ビッグ・ジョン・スタッドのようでした。楽しい試合でした。ワーイワーイ（仁）。

久々に勢揃いのJJ・ジャックス！ じゃなくてジャングル・ジャック。この後、迷彩Tシャツを客席へ。さすがバイソン、強肩だ！

いよいよメイン、白鳥智香子vs玉田凛映。この2人は、10年前のお互いのデビュー戦の相手なのです。途中から玉田選手は泣きながらDDTやミサイルキックを出していて、それを白鳥選手がフラフラになりながらも返していって、最後は白鳥選手がDDTからフォールに入った所で時間切れ引き分けでした。

白鳥選手と玉田選手が抱きあっていて、会場中が一寸しんみりとして、自分も「なんか友情っていいなぁ」などと甘っちょろいことを思っていたら、前川久美子選手がリングに上がってきて「私も試合がしたい！」と言いました。最初から決まっていたのかもしれないし、前川選手も同期なのですから、その気持ちもわかりますが、何とも間の悪い印象。いつも思うのですが、前川選手と堀田裕美子選手は天性の間の悪さがあると思います。空気が読めない才能があると思います。試合がしたいのなら、会場中がしんみりとする前に、もう少し早く出てこいよ！と思いましたが、3WAYダンスのような感じで試合が始まり、前川選手のカカト落としから玉田選手と二人で白鳥選手をフォールして試合が終わりました。

セレモニーで志生野温夫氏が白鳥選手のコメントを読み上げました。「今日が自分の青春の終わりなんです」

自分は青春なんて、ここからここまでなんて区切るもんじゃないと思います。白鳥選手なんてまだ27歳です。自分の祖母なんて77歳なのに色々な所に旅行に行ったり、嫁（母）や孫（自分や姉や妹）にイヤミを言ったり、青春真っ盛りといった感じです。こんな所で祖母批判をしても仕方がありませんね。

白鳥選手は美人だし、いかにも品の良さそうな御両親や、美人のお姉さんがいらっしゃるし、会場に来ていたたくさんのレスラーの方々は今後も友であることに違いないと思うので、これからの長い人生を謳歌して頂きたいと勝手に思いました。それじゃあ、1、2、3、ダァ〜!!

プロレスラーのコク深い人生に触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

赤いパンツの呑気者

田上 明

今はまだ人生を語らず

“今風”を標榜するノアの中にあって、強く、大きく、呑気でお茶目という、ジャイアント馬場からジャンボ鶴田へと受け継がれたイズムをただ一人継承している男・田上明。そんな田上にこれまでの人生を伺ってみました。臨場感を出すために、ゆっくりとした口調でお読みください

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松澤チョロ
designed by matsu (Two three)

俺が田上だ!

I am Akira Taue.

〜白鳥智香子に捧げるポエム〜

ターザン山本（格闘詩人）

★6・8ディファ有明★
白鳥智香子引退興行
『GOOD BYE CHIKAKO』

——今日のテーマは「田上明、人生を語る」なんですよ（笑）。

田上　人生って……いきなり難しいこと聞くなぁ。わかんねぇよ、俺。

——いやいや、小さい頃から現在までを遡ってお話を聞くだけですから、難しく考えないでください（笑）。まずお相撲の話から伺いたいんですけど、大相撲出身ということで、中学卒業してスカウトされて相撲部屋に入ったものだと勝手に思ってたんですけど、違うんですね。

田上　うん。学生相撲を高校でやってただね。

——しかも中学時代は陸上競技をやってたらしいですね。

田上　いや、メインは野球部だったんだけど、陸上部にも駆り出されて高飛びとか砲丸投げとかに出てたの。

——それは陸上部の選手よりも田上さんが出た方がいい記録が出たんですか？

田上　うん。いい成績だった。

——へ〜、凄いですね。

田上　野球部だったから肩は強いんだよ。投げ方は違うけど。

——中学時代、それだけ八面六臂の活躍だと、かなり校内でもモテたんじゃないですか？（笑）。

田上　どうなのかね？　わかんねぇよ（笑）。まぁ田舎だからね、ケンカもやったし、ホント昔の悪ガキだったから。悪いことも結構してるしさ。

——え！　田上さんが悪い遊びとかしてたんですか!?

田上　運動ばっかりやってたから、変な方の遊びはやらなかったよ。部活の帰りにブドウ畑に忍び込んでブドウ食ったりとかだな。

——アハハハ、ブドウの盗み食い！　非常にほのぼのした悪事で安心しました（笑）。それで悪ガキ時代を経て高校に進学されて、そこで相撲をやるわけですね。

田上　うん、いろいろやってたのを高校で相撲一本にしたの。やっぱり、高校になって国体に出たり選抜に選ばれたりすると、他のとこに行く余裕がないのよ。

——いろんな競技の中で相撲を選んだのは、やっぱり相撲が一番能力を発揮したって感じですか？

田上　そうだろうね。

——身体が大きかったから、というのもやはりありますか？

田上　いやぁ、身長は高かったけど、体重は70キロ台だったからね。身長は入学のとき183で、卒業のときが188だから。

——じゃあ、かなり細かったんですね。

田上　志賀よりガリガリ（笑）。

——アハハハ！　分かりやすい例を出していただいてありがとうございます（笑）。相撲は小さい頃から好きだったんですか？

田上　テレビで見てて、好きなことは好きだった。でも、相撲取りになるのは嫌だったなぁ。

——え!?　嫌だったんですか？

田上　高校1年から国体に出てたから、相撲部屋に合宿に行ってたのよ。だから相撲部屋っていうのが恐ろしいところってわかってたから、行くの嫌だった（笑）。練習も厳しいし、上下関係も厳しいしね。

——それでも相撲部屋に入ろうという気持ちになったのはなぜなんですか？

田上　スカウトされた後、お袋と親父に入れさせられたんだよ。小さい頃からヤンチャで悪いことばっかりしてたから、お袋が「親孝行一個ぐらいしてくんないか」って。普通は親が反対するのにウチは逆（笑）。

昔は結構悪いこともしたよ。ブドウ畑に忍び込んでブドウ食べたりとかね

——スカウトはいつごろされたんですか？

田上　1年のときから「高校辞めて来い」って言われてたんだけど、監督が「卒業するまでは」って言ってくれて。でも高校3年の1月に入門しちゃったの。高校も一応県立なんだけど、いい加減で「もう行っていい」とか言って（笑）。

——高校もバックアップしてくれてたんですね（笑）。

田上　そうだね、十両になったとき、高校が化粧マワシ作ってくれたもんね。それは高校に返したけど。

——それで相撲部屋に入られたわけですけど、やってみて「やっぱり思った以上に辛かった」とかはないですか？

田上　そりゃあさ、思ってたよりずっとキツかったよ。朝3時〜4時に叩き起こされて、稽古やって、掃除させられて、チャンコ作ったりとか、先輩にこき使われてさぁ。

——新弟子っていうのは3時、4時から起きてるんですか!?

田上　そうじゃないと稽古ができないのよ。兄弟子が起きてきちゃったら自分たちの稽古ができないから。だから階級と一緒なんだよ。序の口とか、序二段とか、下の方は早くっからやるの。そのあと三段目とか幕下が降りてきて、それから関取から上が降りてきて、そしたらもう全然練習どころじゃない。その頃は掃除やチャンコ番だから。

——強くなりたかったら早起きして稽古するしかないんですね。

田上　そうそう。楽したかったら強くなれっていうね。

——あ、そうか。逆に言えばいいシステムですね、嫌でも向上心を持つという。

田上　うん。強くなれば雑用もなくなるし、金もよくなるし。

——目に見えて扱いが違うなにから、変わっていくんですね。キツい思いから抜けられたのは、いつ頃からなんですか？

田上　幕下のもうすぐ十両ってぐらいのところだね。待遇もよくなってきたし。稽古に関してはその辺が一番キツいけどね。

——このあいだ力皇さんに話を聞いたら、番付が上になってからは「朝まで飲んで、そのまま稽古して」みたいなこと言ってましたけど（笑）。田上さんもそんな感じだったんですか？

田上　そりゃそういうときもあったよ。

——ありましたか（笑）。

田上　若いからさ、できるんだよね。昼寝すればいいし。いまじゃとんでもないけど。練習するどころか、その前に死んじゃうよ（笑）。

——死んじゃいますか（笑）。相撲ってホントに体力使うと思いますけど、遊びのパワーっていうのもどんどん湧き上がってきてた頃なんですかね？

田上　やっぱり体育会系はね、飲んでドンチャン騒ぎが好きだよね。

——そういうのが強さの秘密みたいな感じもありますからね。

田上　そうだね。君が言うように、それも人生。

——ドンチャン騒ぎも人生ですか（笑）。相撲時代に「これはハメ外しすぎたな」っていうエピソードはありますか？

田上　遊んでて一番しんどかったのはね、新宿で飲んでたのよ。3時ぐらいに表に出たら、30センチぐらい雪が積もってたの。急に大雪が降ったんだよね、ビックリしたなぁ。タクシーもまったくいないし、どうしようかと思ったよ。

——もう一軒行こうと思わなかったんですか？

田上　帰れるかどうかが心配で、それどころじゃなかったんだよ。酔いも一気に覚めたよ。部屋に帰んなきゃ殺されちゃうと思ってさ。

——殺されちゃう！　もし帰れなかったら大変なことになっちゃうんですか？

田上　かわいがりだよ！　だから新宿から雪ん中、歩いて部屋まで帰ったよ。雪駄で歩けないからさ、脱いで裸足で。

——雪の中を裸足ですか！　部屋はどこにあったんですか？

田上　木場。

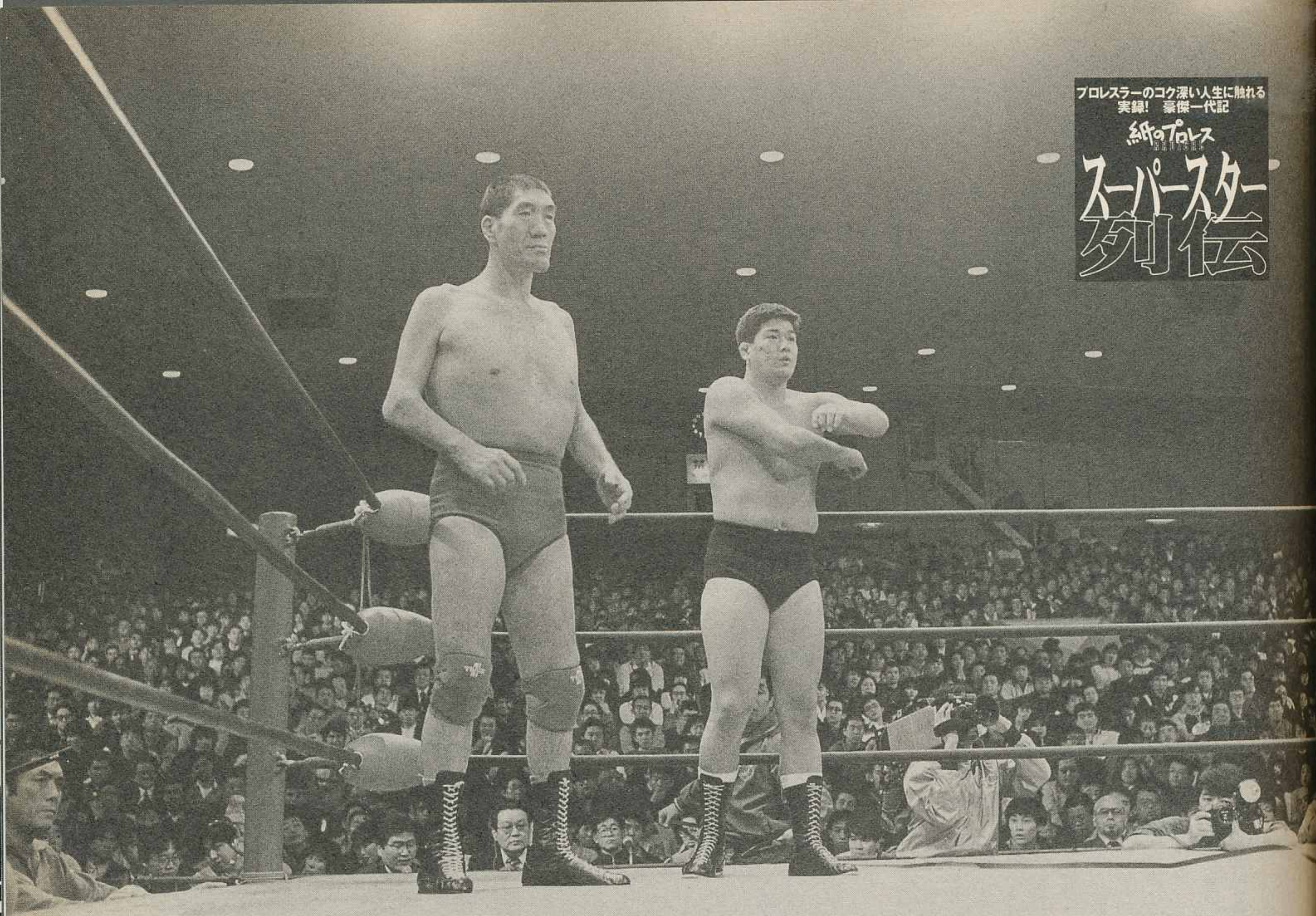
——メチャクチャ遠いじゃないですか！（笑）。

田上　3時ぐらいに新宿を出てね、部屋に帰ったのが7時ぐらい。着いたら下っ端の稽古が始まってたよ。あれはしんどかったなぁ。足はかじかんじゃってさ、冷たいしさ。だからあれから神経質になって、いまは絶えずジープに乗ってるの、雪だと嫌だから（笑）。

——ダハハハ！　トラウマになっちゃってるんですね（笑）。その後、「相撲界の体質に馴染むことができなかった」ことで相撲を廃業するわけですけど。どんなところになじめなかったんですか？

田上　いやぁ、早い話が師匠と喧嘩したの。北尾ほど派手じゃないけど、親方とちょっと意見の食い違いでね。

——「相撲界の体質」ってほどの

スは痛いモノだよ。いつでも来い」って（笑）。

I am Akira Taue.

昭和63年1月2日後楽園ホール　師匠G・馬場とのコンビで、B・ランデル、P・ハリス組相手にデビュー。新春シリーズの開幕戦。しかも馬場がタッグパートナーというところに、田上への期待値の高さが伺える。

違いでね。

——「相撲界の体質」ってほどのことでもなかったんですか？

田上　うん、そんなんじゃなくて、人間関係だよな、自分の師匠との。

——やっぱりお相撲さんにとって師匠っていうのは、親方っていうぐらいですから、凄い密な関係ですよね。

田上　密というか絶対服従みたいな感じだよね。親方が「白」って言ったら黒いもんも白だからさ。それが嫌なら辞めるしかないわな。

——なるほど。それで相撲を廃業した後、プロレス入りするまでどうしていたんですか？

田上　いや、辞めてすぐプロレス入りみたいなもんだから。5月場所で辞めて、7月にはプロレスラーになっちゃったんだもん。

——そんなにすぐだったんですか！　じゃあ相撲を辞める前からプロレス入りの話があったんでか？

田上　それはなかった。突発的に辞めて、ホントにやることがなかったからさ。トラックの運転手にでもなろうと思ってたの。そこに楽ちゃんが口聞いてくれて。

——ああ、三遊亭楽太郎さんですね。

田上　うん。楽ちゃんは相撲も好きで、ウチの部屋によく出入りしてたから、その関係で口聞いてくれて。俺がまだチョンマゲ結ってた頃に馬場さんに会いにキャピタル（東急ホテル）行って、そしたら馬場さんにそこでいきなり首極められちゃってさ（笑）。

——挨拶代わりのネックロックですか（笑）。

田上　それで「痛いか？」って聞かれて、痛いに決まってるから「痛いです」って言ってたら「プロレスは痛いモノだよ。いつでも来い」って（笑）。

——それも早い話ですねぇ（笑）。その場で「いつでも行きます」って感じだったんですか？

田上　俺はもう廃業届けを出しちゃってたから、まだ体がナマッてないうちにと思って、すぐお願いしたの。

——で、全日本に入団かと思ったら、最初発表されたのは、「ジャパンプロレスに入団」でしたよね。あれはどうして全日じゃなくてジャパンだったんですか？

田上　前の年に輪島さんが入ったばかりだったから、相撲協会にまた刺激を与えないようにじゃない？　だからワンクッション置いてジャパンに入れたんだと思うよ。あのときは表向きは別団体だったからね。

——表向きは（笑）。

田上　俺も現役辞めてすぐだからさ、引き抜いたと思われたら嫌だったんじゃない？　詳しいことはわかんないけど。

——なんかわかんないけどジャパンに入れられたと（笑）。

田上「行け」って言われたらね。そしたらジャパンは永源さんとかさ、寺西さん、栗栖さんとか古ダヌキが多くてさぁ（笑）。

——クセモノばっかりですねぇ（笑）。当時、全日とジャパンの道場は別だったんですか？

田上　道場は一緒。でも俺はもう所帯持ってたから、寮には入らないで通って。

——プロレスに実際入ってみてイメージと違ったりしました？

田上　もともと怖いイメージがあったから、変わんないよ。俺の一緒の部屋で益荒雄関っていうのが

~白鳥智香子に捧げるポエム~

ターザン山本（格闘詩人）

★6・8ディファ有明★
白鳥智香子引退興行
『GOOD BYE CHIKAKO』

いるんだけど、益荒雄関は高田選手とか前田選手と付き合ってたから、俺もいくらか知ってて、怖いなと思ってたから。

——酒の席での前田さんと高田さんは、そりゃ恐ろしいですよ（笑）。

田上　いや、チラッとテレビとか見るじゃん。で、血なんか流れてると「あ、怖い」って（笑）。転んでも叩かれるし、エラいとこだと思って。

——実際に入ってみても怖いイメージでしたか？

田上　恐ろしい社会だと思ったね、見た目が。

——見た目が（笑）。

田上　髪の毛長いのがいるわさ、身体はムキムキーッとしてるしさ、ヤバいとこ来たんじゃないかと思って。冬木さんとかカブキさんなんて、髪の毛ボッサボサで異様な雰囲気だからさ。二人ともよくしてくれたんだけどね。

——冬木さん、当時はカーリーヘアでしたもんね。

田上　意外におとなしくていい人だったよ（笑）。

——当時の全日本とかジャパンは昔ながらのプロレスラーというか、豪傑が多いって感じですよね。

田上　天龍さんもいたしね。天龍さんなんか先輩みたいなもんだから、イビられましたよ（苦笑）。面倒も見てもらったけどね、いろいろ。

——練習とか試合でガンガンやられて、夜はガンガン飲まされると（笑）。

田上　そう、リングでイビられた後、お姉ちゃんとこでイビられて（笑）。

——それは鍛えられますね（笑）。プロレス入りして練習はは誰に教えてもらったんですか？

田上　俺はカブキさんに見てもらったね。若いときは飯食いに連れてってくれたりね、私生活の面でも世話になって。

——カブキさんが師匠みたいな。

田上　そうだね、だいぶお世話になったね。

——プロレスでの同期はいたんですか？

田上　小橋が俺より1ヶ月早く道場に入ってて、菊池が2ヶ月ぐらい早いのかな？　あと北原（光騎）がほとんど一緒ぐらい。でもデビューは俺のがちょっと早かったんだよな。俺は一応プロでやってたから、そういうのもあったんだと思う。

——基礎体力っていう面ではみっちりやりすぎるぐらいやってたわけですからね。デビューが決まったときは、やっぱり嬉しかったですか？

田上　いや、嬉しいっていうより緊張したよな。

——いきなり馬場さんとのコンビですもんね。対戦相手の名前は覚えてますか？

田上　覚えてるよ。ポール・ハリスとランディ……ランディ……なんだっけ？

——バディ・ランデルです（笑）。

田上　あ、そうか。なんだよ、知ってんじゃん！

——テレビで見てましたから（笑）。

田上　俺は何やったかも覚えてねぇな。緊張しちゃって。

——それでデビューして半年ぐらいですぐに伝説の決起軍入りするんですよね。メンバーは皆さん同年代ですけど、キャリアは全員5年以上でしたよね。その輪に括られるのは大変だったんじゃないですか？

田上　そうだね、10年近い人もいたよね。ウチの社長（三沢＝タイガーマスク）と、信ちゃん（仲野信市）と、高木と、俊二と。そうだよな、まだウチの社長がマスク被って馬場さんに「トラオ」って呼ばれてたた頃だもんなぁ（笑）。

——アハハハ！　三沢さんのあだ名が「トラオ」でしたか！（笑）。

田上　俺なんか「おい、タマ」。外人に紹介するときも「でぃす・いず・タマ」って（笑）。

——アハハハ！　凄い紹介の仕方ですねぇ（笑）。ちょうどその頃、天龍さんと一番当たってた時期だと思うんですけど、いかがでしたか？

田上　あれは嫌だったよ。「今日もかよ」とか思ってた（苦笑）。函館かどっかで信ちゃんが怪我しちゃって、ピンチヒッターで俺が入ったんだけど「なんで怪我するんだよ、今日は俺じゃない日なのに、やられたじゃねぇか！」って（笑）。

——天龍同盟ってファンからすれば毎回激しい試合が見れて嬉しかったですけど、やってる当人からすれば「こんなキツいこと」って感じだったんですか？

田上　そんなのさ、一番キャリアがない俺がやられるに決まってんだもん。

——しかも、天龍さんなんかは、田上さんが相撲から来たってことで、可愛がるって意味で一番ガンガンやったんじゃないですか？

田上　（ドスの利いた声で）「来んか～い！」ってあの調子でやられたよ（笑）。

——アハハハ。それで決起軍ていうのは、いつも仲野、高野、高木がツルんで悪さしてたって聞いたんですけど（笑）。

田上　あいつら不良だから。オイタばっかりして（笑）。

——オイタばっかりしてましたか（笑）。

田上　信ちゃんと高木が仲よくてね、あいつらと一緒にいると、ロクなことにならないの。

——どんな感じだったんですか？

田上　酔っ払って無茶苦茶やってさ、イケイケドンドンだよ。付き合ってらんないよ！　一回ひどいのあったなぁ。天龍さんと高木とか信ちゃんが一緒に飲みに行ってさ、俺、ホテルの部屋で鍵かけて寝てたの。そしたらスペアキーかなんかで開けて、ウワーッと入って来てさ、俺が寝てるベッドひっくり返してさ、ビックリしたよ。

——『スターどっきり』を超えてますね（笑）。

田上　なにがなんだかわかんないんだよ。ひっくり返されちゃて、ベッドの下敷きになってんだよね。それで笑ってんだよ。Hビデオのスイッチ全部押してさ、冷蔵庫の飲み物飲んじゃってさ、で、「じゃあな」とか言って。

I am Akira Taue.

昭和63年夏に結成された、伝説のユニット「決起軍」。ターゲットにした天龍同盟に対し、リング上で張り合うだけでなく、リングを降りてからの破天荒エピソードでも対抗していた、実に見上げたチームでもあった。

プロレスラーのコク深い人生に触れる実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

天龍さんには試合でイビられた後、お姉ちゃんのトコでもイビられましたよ(笑)

―ガハハハ! ひどい人たちですね(笑)。それで天龍さんなんかがSWSに行ってからは、そういうこともすっかり減ったと。

田上 そう、平和になったよ(笑)。まぁ、あの頃は面白かったけどね。

―そういう人はみんなSWS行っちゃったわけですけど、田上さんも気持ちが揺れたりしませんでした?

田上 いや、別に。やっぱり相撲を辞めて馬場さんに拾ってもらったっていうのがあるから、行きたいっていうのはなかったね。選手がずいぶん抜けたんで、「会社、大丈夫かな」って心配はしたけど、自分が行こうとは思わなかった。

―ちょうどその頃、田上さんも調子が上向いてきた頃ですしね。

田上 そうだね。ある程度周りが見えてきたよね。

―それでアジアタッグを奪って、初めてチャンピオンになったのもつかの間、すぐパートナーの仲野さんがSWSに行っちゃったと(笑)。

田上 そうなんだよ、初めてベルト獲ったと思ったら、相棒がいなくなっちゃって返上だって。なんのために獲ったんだよ(笑)。

―選手の大量離脱があった頃って一致団結という感じで、みんなで話し合ったりとかしてたんですか?

田上 いやぁ、レスラーは話し合ったりとかさ、そんな頭ありゃせんよ(笑)。まぁ「頑張って行こう」ぐらいだね。

―その後、超世代軍を結成して浜辺で合同合宿をやってましたよね。

田上 でも、そんだけだよ。

―すぐ正規軍に引き戻されて(笑)。

田上 俺は何しに合宿に行ったんだ(笑)。

―ちょうど鶴田さんのパートナーだったカブキさんがいなくなっちゃって、田上さんが戻されたんですよね。カブキさんがいなくなっと時は淋しかったですか?

田上 そうだね。カブキさんの背中がやっと見えてきたら、いなくなっちゃった。超そうと思ったのに。俺から逃げたのかな?(笑)。

―それでいきなりジャンボ鶴田さんのタッグパートナーという大役がきたわけですけど、そのときは「チャンスだ!」って感じだったんですか? それとも「参ったなぁ」って感じだったんですか?

田上 プレッシャーはあったよね。「大丈夫かなぁ?」っていう。それでいざ試合してみりゃさ、やっぱりみんな俺を狙ってくるもんなぁ。アッサリやられちゃったら鶴田さんに申し訳ないっていうのもあるしさ、なかなかキツい立場だったね。肉体的にも精神的にも。

―一気にメインエベンターですからね。

田上 キツかったね。でも、あれがあったから、ある程度イケたんじゃないかとは思うんだけど。

―自分が強くなるしかないですもんね。それと、あの頃って、よくダニー・スパイビーと組まれてましたよね。なにかいつも田上さんが苦戦してるイメージがあったんですけど(笑)、やっぱり苦手だったんですか?

田上 あぁ、ゴッツいし、重いし。でも、ちょっとドン臭いんだけどね。デカいからパワーあるよね。まぁ、俺もヘボだった(笑)。

―それで一時期ブーイングなんかも出てましたよね。

田上 いいんじゃないの? ブーイングが出るってことは、それだけファンが見てくれてるっていうことだから。シーンとされるよりいいよ。

―でも最初の頃は「田上、しっかりしろ」ってブーイングだったのが、途中から「田上、憎らしい」に変わったのは凄いですよ。

田上 いや、なんでもいいよ(笑)。一番やり辛いのがシーンとしてて、たまにパチパチパチっていうの。

―あの辺りから吹っ切れたところがあるんじゃないですか? いわゆる今の田上さんを予見するような持ち上げてロープに落とすとか、そういうのが出始めたのがちょうどあの頃だったと思いますけど。

田上 どうせブーブー言われるんだったらさ、いろいろやってみようかと思ってさ。俺にベビーフェイスはできないから(笑)。

―それで「ノド輪落とし」という、オリジナル・ホールドが生まれたんですよね。あれはどんなきっかけで使い始めたんですか?

田上 あれはね、輪島さんがやってたじゃない。その改良型なんだよね。

―ああ、「輪島スペシャル」を使ってましたよね。あれが原型ですか!?

田上 うん、あんまりやんなかったけどね。それを改良したの。

―それがいまや、あの技は世界的にブームというか、みんな使ってますもんね。アンダーテイカーも、ベイダーも。あれに前もって「俺が田上」って名前をつけてたら、世界中でその名前が使われてたわけですからね(笑)。

田上 あんなもん、新聞記者が決めたんだよ。

―田上さんが決めたことにしましょうよ(笑)。

田上 「名前聞かせろ、名前聞かせろ」ってしつこいんだよ。技にいちいち名前なんか付けてないのに。

―あの技はどうやって生まれたんですか。パッと閃いちゃったんですか?

田上 そうだね、閃いた感じだね。ちょっと技のこと考えてるときに閃いて、やってみたらうまい具合に決まったから。

―それはGHC用に暖めておいたわけですね。

田上 ホントはもう一個あったんだよ。

―まだ秘密兵器があったんですか!

田上 こないだの札幌で出してみたんだけど失敗しちゃった(笑)。

―失敗しちゃいましたか(笑)。ちなみに成功してたらどんな技だったんですか?

田上 ノド輪でガーッと上げて、膝の上にケツを落として、そのまま頭からズコーンと行くわけよ。

―うわっ! 豪快ですねぇ。

田上 腰をゴーンと打つから、受身もよく取れないんだけど、それを失敗しちゃって。バッと上げて膝を出したら俺も潰れちゃって(笑)。技喰らいすぎてフラついちゃって。そのあとはやられちゃったよ。あれがきまてりゃあな。

―もう一度王者の田上明は見たいですね。全日時代は96年に、チャンピオンカーニバルで優勝して、三冠王者にもなってますからね。

田上 あぁ、あったね。間違った年だ。

―間違った年ですか(笑)。あの頃が一番調子がよかったんですか?

田上 そうだね、調子がよかった時期だね。

―どうですか、三冠のベルトを巻くのは?

田上 まぁ、それを目標にはやってきたからね。

―その時期は三冠戦や世界タッグ戦で、武道館のメインを何度も張ってましたけど、「武道館のメイン」というものには、特別な思いがあったりしますか?

田上 武道館のメインだからっていう、特別なものはないね。武道館だったら1万何千人のお客の前でみっともない試合はできないっていうのはあるけどね。だからメインじゃなくてもそうだし。それはいつも思ってること。別にメインにこだわりはあんまりないよね。

―では、当時の世界タッグのパートナーでもあった鶴田さんについて少しうかがいたいんですけど。鶴田さんの思い出っていうとなにが印象的ですか?

田上 まずタフネスだね。あとは……優しい人だったね。頭ごなしに人を叱るっていうことは絶対しなかったな。いろいろ言ってくれて、諭してくれる、優しい人だったね。

―タッグ組んで、いろいろ勉強

プロレス入りして練習は誰に教
えてますか?
がほとんど一緒ぐらい。でもデビ
ったですけど、やってる当人から
あな」とか言って。

鶴田さんは優しい人だったね。
頭ごなしに叱るってことは絶対にしなかった

I am Akira Taue.

プロレスラーのコク深い人生に触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

になったと思いますけど。

田上 そうだね、試合終わってからいろいろ分かりやすく注意点とか言ってくれて。

——鶴田さんとリングを降りたあとの付き合いとかはあったんですか?

田上 それはあまりないですね。たまにゴルフやるぐらい。鶴田さんは酒飲みに行かないでしょ。住んでるとこも違うしさ、そうすると自然とプライベートの付き合いはなくなるね。

——ゴルフはよく行かれたんですか?

田上 馬場さんとかはよく行ったけど、鶴田さんはたまに。それも馬場さんが鶴田さんを引っ張って行ってたんだけど。

——馬場さんは多趣味というか、いろんな遊びが好きだったと聞いてますけど。

田上 ゴルフも好きだし、絵も描かれてたし、読書も好きだったね。あ、あと麻雀は一番好きだったんじゃないかなぁ。

——鶴田さんも多趣味な人でしたし、そういう意味では田上さんがその流れを汲んでプライベートも充実してるんじゃないですか?

田上 俺は仕事一筋。プロレスバカ一代だよ（笑）。

——いろんな凝った趣味があって有名じゃないですか（笑）。

田上 いや、ないよ。「ちょっと好き」っていうのはいっぱいあるけど。

——その中でも有名なのは、バイクであったり、熱帯魚とか釣りとかですよね。

田上 熱帯魚はやめた。電気代が凄いから。面倒臭いし死んだらパーだから。釣りはやってるよ。

——海釣りなんですよね。

田上 うん、大体海釣り。

——お子さん連れて行くんですか?

田上 ううん、釣りは一人で行くか、仲間と。子どももなんか連れてったら、釣りになんないよ、大変で。自分が好きでやってんのにさ、世話ばっかりしなくちゃなんないじゃん。一番いいのは、いまの季節バイクでプラッと出かけるのがいいけどね。釣りは車じゃないと道具持って行けないから。

——釣り竿片手にハーレーに乗るわけにもいかないですよね（笑）。前に話していた刀にはそんなにハマってはいないんですか?

田上 まぁ、ハマってる方かな。こないだ酔っ払って庭に出て、白樺の木を切って、次の日家内が「なにこれ?」って。

——酔っ払って刀振り回してたんですか！（笑）。危険ですねぇ。

田上 自分の家の庭だから大丈夫。「切れるのかなぁ?」と思って（笑）。

——いい刀をお持ちなんですね。

田上 刀なんて幅が薄くてよく研いであれば切れるんだよ。

——どういう刀がいい刀なんですか?

田上 それはちゃんとした人が作って、古い時代のもんが高いの。説明したらキリがないんだよ（笑）。刀が一番難しいよね、騙されやすいし。

——テレビでもやってますもんね、ずっとお宝だと思って代々持ってたら偽物だって（笑）。

田上 時代、時代の偽物があるからさ。あと最近、鎧欲しいなと思って。それも俺が着れるような。

——田上さんが着れる鎧ですか！ メチャクチャでかそうですね（笑）。

田上 古い鎧っていうのは汚いんだよ。だから、近所に甲冑師がいるんだけど、それに「俺が着れる鎧作れ」って。

——ゼヒ鎧着て入場してほしいですねぇ（笑）。

田上 嫌だよ、面倒臭くって。

——普段は飾っておいて、着たくなったら着たりするんですか?

田上 着ないよ。ただ自分の寸法で欲しいだけだよ（笑）。刀もね、刀鍛冶屋がいるから、自分の体に合った注文打ちってできるんだよ。

——マット界だと前田日明さんなんか、刀の話したら止まんなくなるんですけど、今度ウチで「Wアキラで刀対談」でもゼヒやりましょう！（笑）。

田上 いやいや。彼の方が全然いっぱい知ってるだろうし、俺なんか齧る程度だから。

——では、この辺りでプロレスの話に戻らせてもらいます。1年前に全日本プロレスからノアに移ったわけですけど、「三沢光晴という男について行こう」と思ったというのは、全日本の頃から信頼できる人物として認識してたわけですか?

田上 まぁ、下から慕われる人間だよね。上の方は「うるせぇな」と思われるだろうけど（笑）。いいアイデアもあるしね。

——その一年前に馬場さんが亡くなってしまいましたけど、馬場さんという象徴がいなくなって、徐々にガッチリ固めるものがなくなってきて、全日本とノアにわかれたようなところはありますか?

田上 そうだろうね。旗印がいなくなったんだからね。やっぱり馬場さんがいたから押さえるところは押さえてたんだろうし、そういうのはあると思うよ。それはばっかりじゃないと思うけど。俺にとっても馬場さんの死は大きい出来事だったからさ。俺の師匠だし、仲人だし。息子の名前もつけてもらったし。

——心にポッカリ穴が開いたというか。

田上 そういう表現はよくわかんないけど、確かにショックだったね。

——それでノアになるわけですけど、不安は大きくなかったですか?

田上 不安はあるよ、新しく会社を興すんだから。不安はあるけど、移っちゃったんだからさ、頑張ってやってくしかないじゃない（笑）。自分たちで頑張ってやってくしかないから。

——でも、うまく回ってますよね。1年でこれだけちゃんとしてるんですから。

田上 1年やっと持ちました（笑）。次は2年持つように頑張りますよ。若いヤツらも頑張ってるしさ、いま小橋は入院してるけど、小橋も頑張ってたし、そういうのがあるんじゃない？ 一人一人が頑張ってるから。

平成4年3月4日日本武道館　ジャンボとのコンビでゴディ＆ウイリアムス組を破り、念願の世界タッグ王座初奪取！ 田上よりも鶴田の方が嬉しそうなのがかいい。こうして"平成の馬場＆鶴田組"と呼びたくなるような、強く、スケールが大きく、そして呑気な名タッグ、鶴田＆田上組は全日本を代表するチームとなり、そして田上は鶴田の最後の正パートナーとなった。

これまでのライバル関係、そして私生活での性格の不一致が奇跡的にいい方に作用し、全日本史上に残る、名タッグとして長く世界タッグ戦線のトップを張り続けた田上＆川田組。この二人が再び同じリングに上がることはもうないのか。

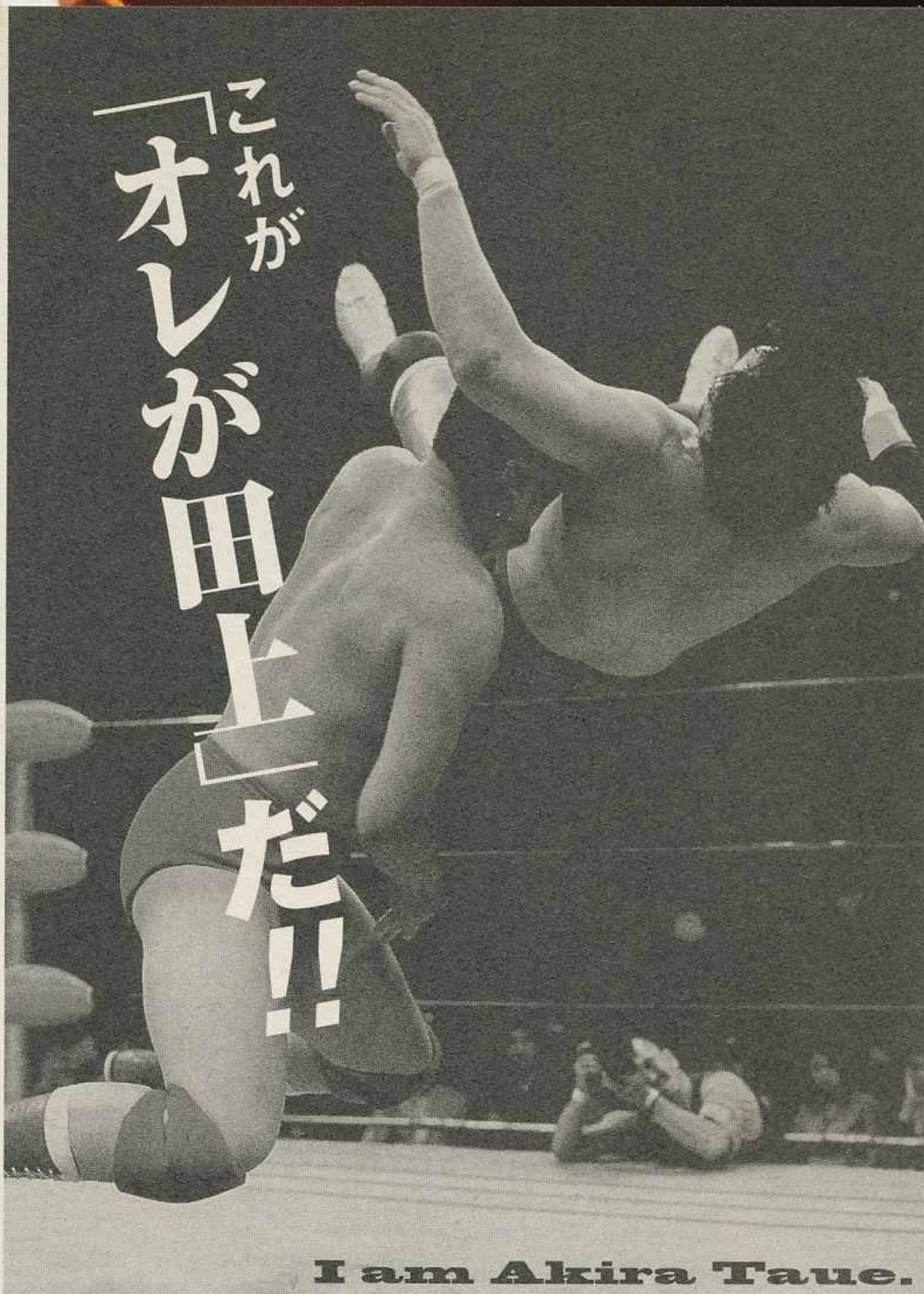
〜白鳥智香子に捧げるポエム〜

ターザン山本（格闘詩人）

★6・8ディファ有明★
白鳥智香子引退興行
『GOOD BYE CHIKAKO』

プロレスラーのコク深い人生に触れる実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

これが「オレが田上」だ!!

I am Akira Taue.

秋山は新日本見に行ったんだ。好きだねぇ（笑）
オレは他団体なら坂口さんとやりたいな

——活気がありますよね。

田上　若いヤツが威勢がいいところは面白いよ。年寄りが頑張るとさ「ええ加減にせい」って思われるから。ウチの会社で木村さんや永源さんがウワーッて頑張ってたらさどう思う？（笑）。志賀やら力皇やらがガーッとやってるから面白いんだよ。

——永源さんが「俺もGHCを狙いたい」とか言いだしたら大変ですもんね（笑）。

田上　「やれば？」って（笑）。見てみてぇよ。

——一度見てみたいですね（笑）。

田上　次、永源さんが三沢に挑戦すればいいんだよ。そのまま引退になっちゃうかもしれないけど（笑）。

——それ、逆にお客さん集まると思いますよ（笑）。ところで田上さんは他団体には興味はないんですか？ 今晩（このインタビューは6月6日収録）秋山さんが新日本プロレスに乗り込むというか、リングサイド観戦なんですけど。

田上　秋山、新日本見に行くんだ。……好きだねぇ。

——ダハハハ！ 別に休みにプロレス見に行ってるわけじゃないんですから（笑）。

田上　あとでレポート用紙に感想書いて見せてもらわないと。まぁ、秋山も頑張っていいんじゃない？ 他の団体を刺激したり。

——これでルートができたら、田上さんもって話になってくると思うんですけど。

田上　だからウチの会社と新日本で話してね、社長が決めることだから。それで「行け」と言われたら行きますよ。自分からは言わないけど。

——新日本じゃなくても、ZERO-ONEの橋本さんなんかとやったら面白いと思いますけどね。

田上　俺は他団体でやるんだったら坂口さんとやりたい。

——ダハハハ！ それは見たい（笑）。かつてのタッグパートナーである川田さんも新日本に上がってますけど、多少は気になったりするんですか？

田上　もうお互いにガキじゃないからさ、どうのこうのっていうのはないけど、頑張ってるかなって気にはなるよね。頑張ってほしいし。

——昔、田上さんが「川田はリング上ではいいパートナーだけど、プライベートでは夕焼け番長みたいなとこがあって、変わってる」って言ってましたけど。

田上　うん、わがままが歩いてるみたいな。一緒にいると疲れちゃう（笑）。俺は本人にも面と向かって言ってたから。「お前なんかと居られるか」って。だって嫌だもん。いい年こいて「一気、一気」なんてやってられるかよ（笑）。

——アハハハ！ いまでもそんな感じらしいですね（笑）。

田上　ジョッキでさ、一個は焼酎のストレートで、一個は水割で、俺に飲ませようとグルグル回してさ、「こっちお前ね」なんてやったりさ。

——ほとんど学生ですね（笑）。

田上　しかも自分がストレートの方取ってんだもん。「あ、間違えた！」なんてさ、あんまり賢くないんだよ（笑）。

——では、最後に田上さんのこれからの目標や野望をお聞きしたいんですけど。

田上　そうねぇ、俺はプロレスを一生懸命やって、報酬を貰うよね。それで楽しく暮らしたい。そのために苦しいこともやるし。自分の人生を楽しくしたいね、好きなことやってさ。釣り行ったりさ、そういうのができるのも苦しいことのあとだから。そういうのがなかったら耐えらんないかもしんない。だから、それはいい息抜きでさ。仕事のことばっか考えりゃ、そりゃ野望もあるよ。ベルトを獲るっていう。これは決して楽なことじゃないしさ。そのあと一生懸命やってれば釣りも行けるしさ。そういうことだよ。

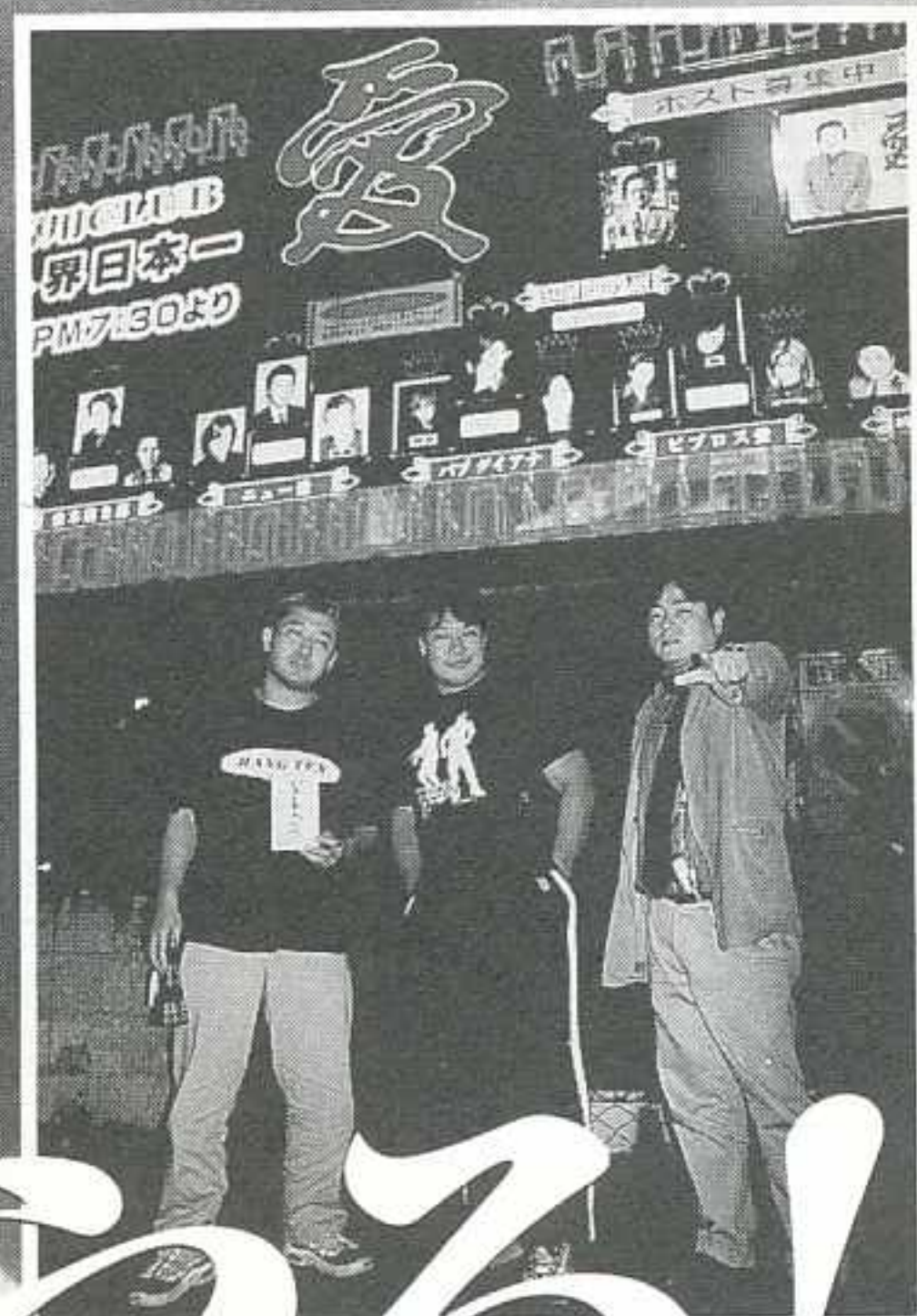
——それが田上さんの人生哲学なんですね。

田上　あんたも「人生」とか「哲学」とか難しいこと言うねぇ。人生なんて語るもんじゃないんだよ。いま生きてるんだから、それが人生だろ？

——その通りです（笑）。今日はありがとうございました！

【6月6日／田上邸近くの喫茶店にて収録】

たうえあきら　昭和36年5月8日、埼玉県秩父市出身。S55年に押尾川部屋にスカウトされて角界入り。玉麒麟という四股名で西十両6枚目まで昇進。S62年廃業し、その後全日本プロレス入団。三冠ヘビー級を奪取するなど頂点を極める。190cm、120kg。

石川雄規
with 臼田勝美&島田裕二が初期バトの元気さを取り戻し咆哮!!

絶対呪ってやる!! 俺はプロレス界の“貞子”になる!!

「方向性が見えない」「旗揚げ当時の熱がない」「ファンをないがしろにしてる」「島田、死ね！」など、数々の厳しい意見に晒されてきらバトラーツ。荒波の中、5・13駒沢の5周年記念大会を見事に乗り切った石川社長が、久々に『KOTC』で久々にバーリ・トゥードに挑む臼田勝美、『PRIDE』のレフェリング問題で揺れる島田裕二を帯同し、夜の新宿で初期バトの馬鹿さ加減を彷彿とさせる大放談を行った。バトの明日が狂い咲く！　ナーシャッ!!

聞き手／山口日昇
構成&撮影／チョロ
セクハラ担当／ジャイ子
designed by matsu(Two three)

※この大放談は、かなり石川、臼田がビールを飲んだ後に収録のゴングが鳴らされた!! ちなみに臼田はKOTC出場のため、つらいつらい減量中。

——いきなりだけど、社長、駒沢のときに試合後にやたらと怒ってたのは、なんでですか？

石川 大谷の野郎がね、終わってから「次は俺とやるんだ、どうのこうの」ってね、そんな理屈はいらねぇんだよ、あんにゃろう！

——あんにゃろうって、子どもじゃないんだから（笑）。

石川 負けてしまったけど、なんだかんだで村上、石川の世界が出てんのに、人の興行を次の自分たちの繋ぎに使うんじゃねぇよ、失礼な！ でも村上がうまく言ってくれたね、「お前なんか目じゃねぇんだよ、熱を感じねぇんだよ、出直して来い！」って。そういうこと。俺も追い討ちかけて「ウチにはマイクアピール要らねぇんだよ、文句があったらいつでもリングに上がって来い！」って言ったけどね。

臼田 「マイクアピール要らねぇんだよ」ってマイクで言ってたじゃないですか。

石川 そ、その通りなんだよ！

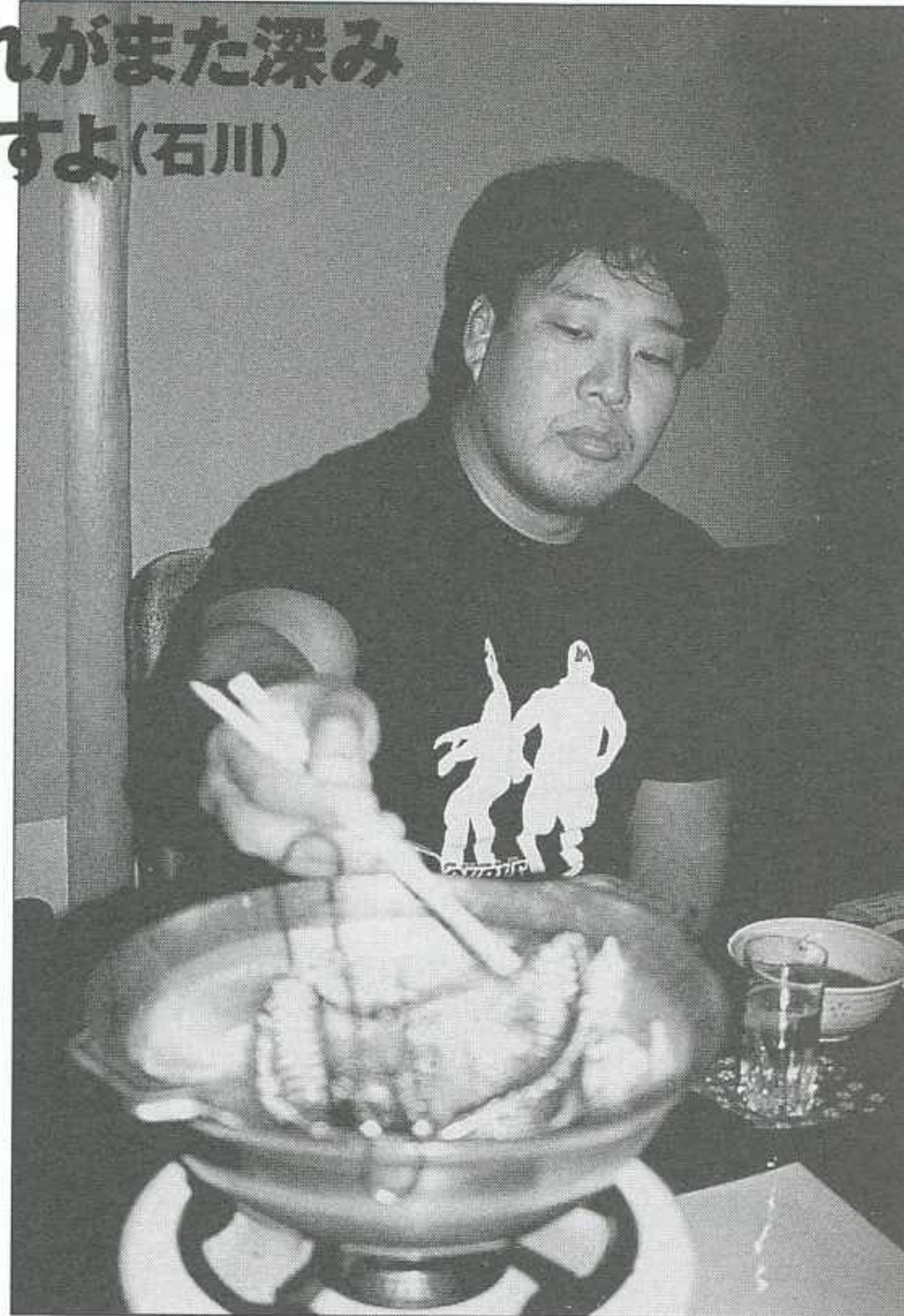
——ガハハハ！ ウッシー、ナイスツッコミ！

石川 俺は自分の試合を説明してないんだよ。俺は確かにマイクで言うけれども、決して説明じゃない。未来のことを言うわけ!!

臼田 未来のことか、もしくは「頭打ったからわかんねぇや、ごめんよ」とか（笑）。

——ガハハハ！ 社長は行間を読んでほしいわけね。

石川 うん。それをさ「次は俺とだ！」みたいの、つまんないじゃん。

器用なヤツが不器用にやると、これがまた深みが出るんですよ（石川）

——でも、いまのファンはそれをやらないとわかりにくいんでしょ？

島田 だからダメなんですよぉ～。

石川 そんなことやってたら、いつまでたっても幼稚園の人間に幼稚園のことだけ教えてるのと一緒で、幼稚園の子には、騙しつつ小学生ぐらいの問題を与えといて、3問のうち1問わかればいいじゃん。時間はかかるけど、それをやっていかないと、バカばっか増えちゃう。

——それは非常によくわかるんだけど、それまでバトラーツが持つかどうかだよね、問題は（笑）。

石川 バトが潰れるか、それが認知されるか、どっちかの競争だってことだよね。結果的に負けるかもしれないけど、それでもいいや。俺は意地を張り続けるよっていうだけであって。

——最近押され気味でしょ？

石川 押されてませんよ。

——だって、5・13の駒沢でビックリしたもん、試合開始前のあの客入り。

石川 ……ビビッたよね、俺も。

——ガハハハ！ 社長もビビッたんだ。

島田 俺もビビりましたよぉ、は～い。

石川 でも別に埋めることが目的じゃねぇからさ。

島田 え～ッ？ 社長がそんなこと言っちゃダメじゃん！

——そうなの？ そんなこと言ってたらダメじゃん（笑）。

石川 満足させることが目的だから。

——社長的に駒沢を総括すると、どうなんですか？

石川 スゲェ面白かったと思う。ホントによかったと思うな。

——どういう点が？

石川 自分自身で言えば、村上vs石川でまた違う味付けができたっていうね。いまは個人事業主バブルっていうか、みんな「フリー、フリー」ってやってるでしょ。いわゆる有名な凄いプロレスラーの人たちがフリーになったことによって、夢のカードが実現するわけでしょ。ただし、それについてくるファンていうのは、内容うんぬんを理解できる人間がいないんだよね。だから有名な人たちが当たるとワーッと集まるの。それがいいとは限らないじゃない。それで納得しちゃってるっていうか、そういうもんだと思ってるだけだから。もし片っ端から有名な人たちが集まって闘って、ある意味グレードの高いものが作れなかったら、次はなにで客を呼ぶのってこと。だからこそいまの時期は、逆に内部でいい意味での同じ闘いっていうの？ グレードの高いものを作り上げるものを提供していく、そういう時期だと思う。だって5年前は、の俺た。がいまの時代の先取りでしたよね。

——バトラーツは確実に先取りしてたよね？

石川 アマチュアジムもそうでしょ？ だからこそ、いまは内部を育てようと思ってんの。

——プロレスのスタイル的にも先取りしてたしね。

石川 そうそう。そういうのを全部通過したとこで、ベーシックなものをやりつつも、それぞれのエンターテイメント性が出てくるのがバトラーツでね。

臼田 早すぎたって感じですよ。早漏団体。

——ガハハハ！ ウッシー、面白い！ 社長は頷いてる場合じゃないよ（笑）。

——社長的にはこれからバトラーツはどういう方向に行こうとしてるんですか？

石川 ありのまま。

——抽象的すぎて全然わかんない。

石川 ちゃんとしたレスリングが生き残る時代になると思うよ。

——それでBルールを始めたの？

石川 うん、始めたけど、もう戻ってんだよね。

——ガハハハ！ やめたの？

石川 封印したの。

——なんだよ、それ（笑）。

石川 しょうがないじゃん、俺が勝っちゃうんだから。

——あ、社長が優勝したもんなぁ。bルールっていうのはシュートレスリングだよね。わかりやすく言うと。

石川 絶対「嘘だ！」って言ってるヤツいるよね、失礼な。俺は強ぇんだっつーの。

——いいなぁ、社長。

島田 予想見たら、ウッシーと小野武志が多かったですね。

——社長はそういう目で見られてこないんでしょ？

島田 イロモノと思われてんのですよ、は～いい。

臼田 あの状況で優勝するっていうのが凄いですよね。

石川 たいしたもんでしょ？ 勝たなきゃいけねぇし、ライダーも上がってきてるから負けるわけにいかないじゃないですか。

——プロレスラーだなぁ、やっぱり。初期バトは不器用でみんな強そうっていう雰囲気が良かったね。

石川 みんな器用になったとこもあるけど、いいんですよ。前は不器用なヤツが不器用にやってた時代だったけどね、今度は器用なヤツが不器用にやると、これがまた深みが出るんですよ。これは時代の流れですからね。

——いま、新日本はタマとしてはスターが揃ってるけどさ、「世界最強のプロレス団体」と名乗る練習はしてないでしょ、正直な話。

石川 ヨソのことはわかんないけど、俺も別にしてないけどね。

一同 ガハハハ！

石川 それで強ぇんだから、しょうがないでしょ？

俺みたいにインテリジェンスになってみろってんだよ、バカのくせに!

YUKI ISHIKAWA
with KATSUMI USUDA
& YUJI SHIMADA

——I編集長が〝母艦プロレス〟って言葉を発明したんだよね。バトラーツは母艦プロレスをどこよりも先にやってたんだよね。選手が戦闘機として『PRIDE』とかZERO-ONEとかいろんなとこに飛んでって、最後は母艦に戻って来るっていう。ただその母艦がさ、いまどうなってるのかっていうのを知りたいのよ。

石川　母艦はどこにいるんだろうって(笑)。「沈んでんのか?」って。俺がいるんだから浮いてんだよ。俺が世間にムカついてるうちは大丈夫だよ。

——いま一番なににムカついてるの?

石川　ネットに書いてるバカ。

——またそれか(笑)。

石川　ホンット、バカのくせに偉そうなこと書いてるでしょ、頭悪いくせに! 俺みたいにインテリジェンスになってみろってんだよ、バカのくせに! ボキャブラリーねぇしさ。「いつでも刺しに来いよ」って言ってんのに、来ねぇだろ?

——ガハハハ! 刺しに来れないから書くんだよ。

石川　だったら書くなよ、バカ! 夜中にチマチマチマチマ書いてさ、そんなヒマあったらオナニーしてろっつうんだよ、俺だったらそうするよ!

臼田　オナニーしながら書いてんですよ。

——オナニーだけに掻くと(笑)。

石川　そうだ、この自慰野郎が! 猿以下だよ。いや、猿に申し訳ないよ。

——社長は「所詮こんなもんだろう」って目が嫌なんでしょ?

石川　そうそう、それが気に入らない。だったら真っ向から来てみろよ、どんなもんか見してやるよ。ブチ殺してやるよ、あいつら!

——ガハハハ! 今日はウッシーもいるから聞いてみたいんだけど、最近のバトラーツ、どうなんですか?

臼田　ノーコメントです。

——なんでだよ!(笑)。

臼田　最近のバトラーツはみんな大人になりすぎちゃった。昔は子どもだったから、殴られると頭にきて殴り返してたけど、ちょっと頭を使うようになっちゃって、頭脳先行型になりすぎちゃってる。もうちょっと原始人ぽいのが魅力だったのに。昔は裸で葉っぱ一枚で闘ってたのが、ネクタイ締めるぐらいまでいっちゃったかな。

石川　だから俺はいつもスーツ着ないんだよ。人間は外見じゃないんだと。俺がだらしねぇ格好でキャデラックに乗るのがいいんだよ。

臼田　俺も新潟で飲んでたら、気がついたらパンツ一丁で靴下と靴履いて飲んでましたよ。

——ダハハハ。ウッシーはこれからこういうことやりたいとか、バトラーツがこうなって欲しいっていうのはない?

臼田　難しいこと聞きますねぇ。いまのままでも面白いと思いますけどね。昔の方がギラギラしてたけど。いまはちょっと落ち着いちゃったっていうのがあるんですけどね。

——なんで落ち着いちゃったんだろうね?

島田　やっぱり、客を入れなきゃいけないっていう発想になっちゃうから、バトラーツにないプロレスを見せようとしすぎてるんですよ。他の団体の選手に合わせるから。は〜い。

石川　まだ、なんとかして客をビビらせようと思ってるけどね。

島田　TAKAちゃんみたいに、ウチのスタイルでもいいからやりたいって言ってくれると嬉しいですよね。

——社長はスタイルうんぬんはこだわってないんでしょ?

石川　まったくこだわってないね。ハートがあれば伝わるもんだと思ってるから。ましてやそういった血が出ます、飛びますっていうんじゃない、表現しづらいもの、それを考えるのがプロレスでしょ。定義なんかないと思うんだよね。だけど必ずあるのが根っこのレスリングだよ、当然のことながら。それを軸にして自分なりの表現をするべきだよね、それがあればいいと思うんだよね。

——最近は、俺はそこが薄れてると思うよね。

臼田　俺は、前から言ってるけど臼田スタイル。俺がやるレスリングは俺のレスリングだから。U系とか、そういうのは関係ないっていうか。俺は俺のスタイルで、社長は社長のスタイルでやってるところのせめぎ合いっていうか。そこが面白いし。

石川　だから何度やっても変わるんだよね。

——それは凄いよくわかるんだよね。初期の頃なんか、なんの宣伝文句もなくても試合見たら面白いから、それが伝わるでしょ? じゃあ最近はなんでファンが吸い寄せられないのかってことだよね。

石川　こっちの問題もあるけど、同時に、メシっていうのは腹減ってるときが一番美味いでしょ? 満腹だったら、どんないい肉だって「まぁ、こんなもんか」って思うんだよ。「毎月やりゃあ、いつでも見れると思いやがって」って言うから毎月やりゃあ、いつでも見れると思いやがってさ、そんな気持ちで見てたらね、いいものもつまんなく見えるよ。

——プロレスが飽和状態なんだね。

石川　そう。やりすぎですよ。

臼田　社長もやりすぎッスよ(笑)。

石川　だから俺は相手を変えてるんだよ。

臼田　やりすぎってことは一緒じゃないですか(笑)。

石川　だから、初対決をいろいろとやってるわけだよ(ニヤリ)。

——ガハハハ! いま言ったようなことは理解できるけど、やっぱバトラーツは明確な方向性を打ち出すべきだと思うけどなぁ。

石川　どういうのがいいんだろ?

——あなた社長なんだから(笑)。

石川　たとえば剣の闘いで間合いって考えてみてください。みんな『PRIDE』とプロレスを分けようとしてるけど、違うんですよ、間合いの違いなんですよ。競技性。あれは他流試合であって、いわゆる一撃必殺というか、絶対に切れないところにいていいのよ。それで、たまに隙があったときに切り込めばいいわけでしょ。だけど、プロレスっていう、俺たちがやるものは、絶対に切れる間合いに入ってるわけですよ。そこで凌ぎあうんですよ。いわゆる極真空手みたいなもん。そういうことなんだと思うんですよ。

——極真も、ある意味、受け合いだからね。

石川　だからといって全部受けなさいってことじゃなくて、絶対ここにいたら切られる間合いだけど、それを凌ぎ合いなさいっていう競技だと思うんだよね、定義すれば。だったら俺たちしかやってないのはこの凌ぎあいでしょ。村上なんか、狂人が切りまくってるようなもんでしょ? その中をあえて切れる間合いに入って一緒になってやってるわけですよ。それがプロレスリングのエンターテイメントだよ。テーマは間合いだと思うよ。それが緊張感を生み出すんだと思う。

臼田　いまのバトラーツって、インディーって言われてる団体の中ではかなり高いレベルになると思うんですよ。でも技術ばっかりがクローズアップされちゃってるから。俺が一番面白いと思うのは、大げさに言うと、ガキの頃からの生活の匂いっていうか、そういうものが全部リングに上がったときに見えてくるぐらいの人生観みたいなものぶつかり合い、それが一番面白いと思うんですよ。じゃないと感動しないと思う。技術的な部分で、それこそ柔術のブラジリアンの黒帯のトップ

★特別付録★　久々にエロ社長復活! セクハラ三昧二態!!

プロレス命の仲居さんが「さわっていいですか」と社長の筋肉にふれると、ここぞとばかりに「俺もさわるぜ」と逆タッチ! さすが!

本誌巨女スタッフ・ジャイ子に、おしぼりでチ●●の形をつくり「さわっていいよ」とセクハラ三昧の社長。ジャイ子も満面の笑み

レベルみたいなものを見せても、それは「あ、凄いな」とは思うけど、感動はしないんじゃないかなぁ？　感動は生き様を見せつけないと。

――さすがウッシー!!　わかってるじゃん（笑）。でもバトラーツは興行としてバラエティーに富んだものにしようとしちゃってるでしょ？　俺は絞り込んでいいと思うんだよね。

石川　そうします、わかりました。

――いや、早いよ（笑）。

石川　それをやんないから呼び込めなくなってきてるんだよね。

――バトラーツの興行の色っていうのが見えにくくなってるのは事実だよね。

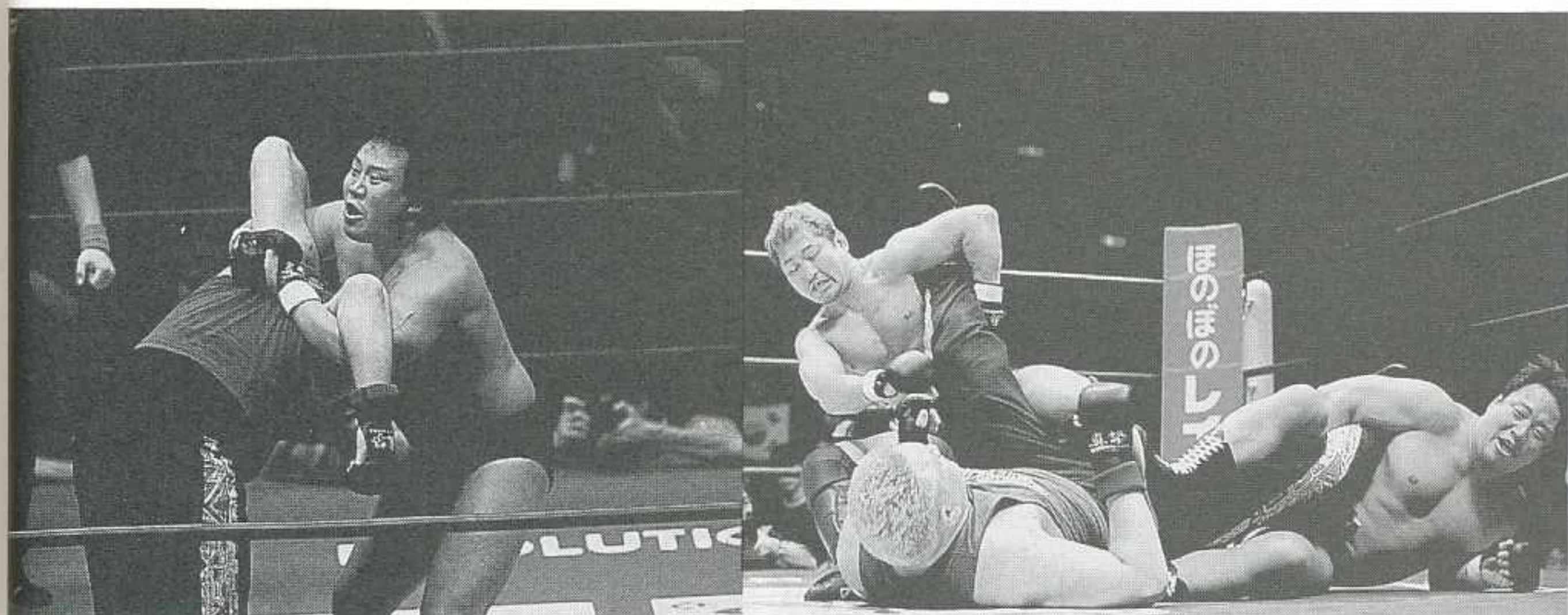
島田　そうなると、外人とかに頼っていくしかないでしょうね。日本人でウチの闘い方するヤツっていないですからね。だからみんなイージーなプロレスに行くじゃないですか。

――そうか、そういう闘い方ができる人が少ないのか。

臼田　いや、絶対できないッスよ、初期のバトラーツなんて。でも逆に言うと、そういう中であれを見て「二度とここは上がりたくねぇ」って言う選手が大半だと思うけど、その中で「うわっ、なにやってんの？　この団体面白ぇ！」って言ったのがTAKAみちのくで、スタイル的に言ったら全然違うのにやってましたからね。俺はあれを面白いと言った感性を凄いと思いましたね。

――要は感性と感性の勝負だからね。馳浩が言うところの感性じゃない部分での感性ね（笑）。それを社長的には情念というんだろうけど。

石川　ウチは少数派を集めてるとこなの。少数派を少しずつ集めて城を作ってるようなもんですよ。

――でもシステム的にもジムやったりだとか、俗に言う総合格闘技と言われてる舞台に出たりとか、プロレス界が芯として持つべき部分をバトラーツがやってきたでしょ？　それが会社としての体力が新日本とかよりは劣ってるから、貧乏臭く見えるだけで（笑）。

石川　かなわないもんね。でもいいよ、俺たちをないがしろにしてると痛い目にあうよ。絶対呪ってやるから。俺がプロレス界の貞子になるよ!!

――ダーハッハッハッ。貞子!!

島田　会場の雰囲気もありますよ。そういうのを好きなファンがガーッと来てたのが、だんだんプロレスの華やかさが好きな女子のファンが来たりして、逆に、そういうのが嫌なファンがミーハーな会場になってきちゃったから離れちゃったっていうのは明らかでしたね。

臼田　初期のバトラーツってプロレス界の中でトンガってたじゃないですか。客もトンガってるヤツが集まってきてて、だけどある程度いって、もうちょっと広い層にわからせる試合っていうのも組み立てていなかいといけないのかなってなったときに、トンガってるヤツは「あ、丸くなったバトラーツはいいや」っていなくなったんですよね。少ないけど、トンガってるから凄い熱かったのが、大きくなったけど、熱が冷めちゃって。だから「最近バトラーツ元気ねぇよな」ってなっちゃう。でもね、いま落ちてるっていっても、動員数で言ったら旗揚げした年と比べたら変わんないと思いますよ（笑）。

石川　セックス覚えたてのときってヤりまくるじゃん。そうだったでしょ？

臼田　札幌で藤原さんが出たじゃないですか。あのとき、みんな控室一緒になりたくなかったんですけど（笑）、それだと藤原さんが拗ねるからって俺が一緒の控室だったんですよ。藤原さんと二人っきりでずっとモニター見てて、第一試合がヒジ（土方）vs小野さんで、小野さんのタックル見て「タックル早いしうまいし、いいんだけど……ダメだ。怖くねぇだろ、この試合見て」って言われたんですよ。「殺気がねぇだろ。なんでロープ際で分かれるときに平気で背中見せてんだよ」って。で、ケンとjunjiのタッグの試合見て、ケンに「こいつはいいなぁ、ダメなとこいっぱいあるけど、いいんだよ。心が思いっきり試合に出てる、それが一番いい」って。いまのバトラーツがダメだって言われてる部分の核心がそこなのかなって感じましたね。

――みんなうまくなろうとしてるか、うまいと思ってアグラを掻いてるんだよね。

島田　いい試合をしようと思って、受けなきゃダメだみたいな。他団体に出たことによって「この技だったら受ける」っていうとこばっかりいっちゃうから、殺気がなくなってきちゃうんですよね。は～い。

石川　俺なんてどうやったら人をビビらせるかしか考えてねぇからな。

臼田　スタイルは全然違うけど、山川（竜司）なんかは本当に凄ぇと思うし。

――猪木さんが言ってたね。「哲学っていうのは人を驚かせることなんだ」って。「格闘哲学っていうのは、どうやって客を驚かせるか。驚かせられないプロレスラーとかプロモーターっていうのは、自分でプロだと思っててもプロじゃねぇんですよ」って。

臼田　驚かすってことはコケるか大成功するか、どっちかじゃないですか。イチかバチかの世界じゃないですか。ホント、リスクがデカいから、やる方は怖いんですよね。それよりも、ビックリはされないけど「まぁ、凄いかな」っていう拍手を欲しがるんですよ。俺はコケたときはコケてもいいと思うんですよ。

――でも、誰も注目しないで継続していくよりは、前のめりに倒れていった方が全然いいでしょ（笑）。

石川　俺は倒れねぇよ!!　俺が倒れるぐらいだったら、世の中全部皆殺しにするよ。俺は自分の子どもに教えてるもん。「たとえイジめられても死のうなんて思うな。自分が死ぬぐらいだったら世界中皆殺しにしろ」って。

――ガハハハ！　社長は面白いなぁ。

石川　そしたら「わかった！」って。

――「わかった！」って言うの？　危ねぇな。

臼田　ここまで狂ってなかったら、両国以降、下り坂になったときに会社畳んでますよ（笑）。

石川　両国だって成功だと思ってねぇもん。俺にとってのセイコウなんかセックスだけだよ！

――ガハハハ！　さすがインターネット野郎を「ボキャブラリーがない」と言うだけある!!

石川　俺のIQ超えてみろよ、俺、180だよ！

臼田　俺もさ、「減量中だから、減量中だから」って言いながらバクバク食ってさぁ、やっぱね……流されちゃうんだよね。

――ウッシー面白い！

臼田　だってさ、『キング・オブ・ザ・ケイジ』で契約ウエイトだからって、23日の前に死ぬかもしれないじゃん。

石川　（突如、ジャイ子に向かい）だ

オープン・フィンガーグローブを付けたバト勢という摩訶不思議な風景を生み出した6・14「真撃」――。石川＆臼田の日本を代表する変態コンビと対戦したのは、サモア・ジョー＆ケイジ・サコダという米国の変態コンビ（？）だった。石川社長はインディアン・デスロックまで繰り出し“燃える情念”を噴出しまくったが、最後はサモアに臼田が斬って落とされバト勢は試合を飾れなかった

5・13駒沢――。5周年記念大会のメインを飾ったのは、石川社長vs村上一成の狂乱のバト魂対決。バト勢総崩れの後を受けて、最後の砦として登場した石川社長は、まるで返り討ちにあうかのように、村上の狂刀に沈んだ。2人の闘いは地獄の果てまで続くぜ！　ナーシャッ！

俺なんてどうやったら人をビビらせるかしか考えてねぇからな（石川）

YUKI ISHIKAWA
with KATSUMI USUDA & YUJI SHIMADA

から、ヤりたいときにヤっといた方がいいんだよ！　俺が明日死んじゃったらどうすんの？

――ガハハハハ！

石川　でも俺、前から「わかりにくいプロレス」って最初っから言ってんじゃん。わかんねぇんだって、プロレスは。悔しかったらわかってみろよ、このバカどもが！

島田　ウチの魅力は「見なきゃわかんないです」としか言えないですもんね。は〜い。

臼田　ウチの試合で消えたのは、痛みだと思うんですよ。昔は見てて、痛みが凄い伝わったと思うんですよ。

石川　でも、いまでも痛ぇぜ。見てる方も麻痺してんだよ。

島田　秋以降、ウチは変わりますよ〜。

――秋以降、バトラーツはどう変わるの？

島田　いや、そういうふうにしようかなって。

――どういうふうにだよ！　全然わかんねえよ！（笑）。

島田　こだわりのうどん屋にしようかなと。見たくないヤツは来るな！

石川　スタイルは内部から変えてきてるからさ、練習にしても。ホントにそれはわかってくると思うしさ。

島田　だから、レスリングの芯の部分を見せれるようになってくると思いますよ。

――猪木さんは、ああ見えてもサービス精神の塊だよね。目に見えないサービスがありすぎるんだよ。ズバリ言って、バトは目に見えないサービスをしてない。表面のサービスだけで。

石川　猪木さんはリング降りてるけど、違うことでプロレスやってると思うんですよ、世間に対して。わけのわからん事業やったりとか。ウンコを肥しにして、その肥しを食べたら牛が巨大化するとか。

――ガハハハ！　全然違うよ。アントンハイセルでしょ？　牛は巨大化しないよ（笑）。

石川　あ、違うの？　「猪木さん、政治に出ないんですか？」って言われて、「いまの政治は小っちぇえからな」って言ったりね、カッコいいねぇ。常にそういうものにカリカリしてなきゃいけないの。俺は女の子がミニスカートの下にスパッツ履いてんのにカリカリしてるよ。

島田　（無視して）いまは記者もダメでしょ。なんか文句言われたら、「怖いから行かない」とか、恨みに思ったりするじゃないですか。

石川　まさにその感覚はインターネット野郎なんだよ！　その感覚が世の中をダメにしてるの。あいつら全員殺さなきゃダメですよ！　俺が殺してやるから自首して来い！　さもなきゃ俺に土下座しろよ！

――ガハハハ！　社長、インターネットになに書かれたの？

石川　存在が気に入らない。バカのくせに偉そうなこと書いて。バカはバカなりに生きろ！　俺より頭悪いくせに、俺に意見するんじゃねぇよ！

島田　でもメールで遊んでるじゃないですか。

石川　いいんだよ、これは出会いメールなんだから！　俺はエロサイトと出会いメールしか使ってねぇんだよ！　あれは有効だぜ（ニヤリ）。

臼田　自分にとって有効なだけじゃないですか（笑）。

石川　そうそう。これ載せないでよ、家庭に波風立てたくないから。

――さっきの仲居さんとの2ショットの方が波風立つよ。

石川　別にいいんだよ、オッパイ触るぐらい。

島田　……潰れますね、ウチは。秋の大会が最後ということで（笑）。

――バトカウントダウン（笑）。ところで、社長は『PRIDE』とかは見てるの？

石川　見ないよ（あっさり）。

――Bルールで優勝したんだから出れば？　社長が出たら面白いと思うよ。

石川　そうかなぁ？　全然面白くねぇよ。

島田　社長とホイスがやれば面白いですよ。は〜い。

石川　勝ったら藤原紀香とヤれるんだったらいいよ。

島田　勝ったらヤらしてくれますよ、絶対！（笑）。

石川　だったらやろうかな？

臼田　凄い単純だなぁ（笑）。

――それは実にいい動機だよ。

石川　俺、強ぇもん！……だけど気力がないんだよね、根気もないし、ブン殴られると痛いし、人を殴れないし、もう俺もダメだよ。

――ガハハハ！　なんだよ、急に。

石川　でもね、一回、朝起きたら「『PRIDE』に出よう」と思ったんだよね。翌日になったら「まぁいいや」って。俺のピークは1日！

島田　そろそろウチの後楽園の煽りをやりましょうよ。

――いままでの話で十分煽りになってるからいいよ。

石川　俺のトークはね、そのことに触れなくても煽りになるの。

――でも、キチ●イには触れたくないと思って、みんな見に行かないかもしれないから（笑）。

――村松さんがさ、昔の凄玉を現す表現として、「プロレスラーの衣を一枚剥ぐと格闘家の姿が見えてくる」って言い方をしたでしょ。いまは時代的に「格闘家の衣を一枚剥ぐとプロレスラーが見えてくる」っていうのが新しい〝凄玉〟像なんだよね、それが桜庭とか藤田でしょ。初期のバトラーツにファンが求めてたのは、それだと思うんだよ。先取りしてたんだよ、絶対。いまはどうしても、みんな「プロレスラーになろう、プロレスラーになろう」としてるから。

石川　俺、別にプロレスラーになろうなんて思っちゃいねぇもん。

――ガハハハ！　なんだいきなり！　380度ぐらい話が引っくり返ってんじゃん。自分で書いた『情念』さえも否定してるよ。

臼田　ホントの破壊王だ（笑）。

石川　全部破壊して、作り直そっと。破壊を恐れちゃいけないよ、な？

――「な？」って、誰に言ってんだかもわからない（笑）。

石川　俺は生き方がプロレスラーであればいいと思ってるんです！

――そういうことですよね。

石川　素人が「シュートだ、ワークだ」って言ってんじゃねぇよ、バカのくせに！

臼田　俺がいま一番怖いのは、明日体重計に乗ることなんですけど（笑）。

――で、7・5の後楽園はなんで1対3になったの？

石川　面倒臭ぇから。

臼田　そっちの方が面倒臭いと思いますけどね（笑）。

島田　興行が少ないから、一人ずつシングルやると時間がかかるから。

石川　まとめてやってやるよ！　まあ、よくわかんないけどさ、4Pみたいなもんだな。たまにはいいかなって。俺が全員に勝ったら、中山（香里）は俺のもんだよ！　ナーシャ!!

【6月12日／新宿歌舞伎町「月亭」にて収録】

臼田6・23KOTC出場!!
対戦相手はシャノン“ザ・キャノン”リッチ!

この「紙プロ」が発売時にはすでに結果は出ているが、臼田勝美が6・23「キング・オブ・ザ・ゲージ」のオクタゴンに乗り込むことになった。の対戦相手は「PRIDE. 11」で桜庭和志の対戦相手だったシャノン“ザ・キャノン”リッチだ！　臼田にとっては、ヴァリッジ・イズマイウ戦以来のバーリ・トゥードになるが、勝利して次の道を切り広げてくれ！　臼田は一体どうなったんだ!?

7·5バトラーツ後楽園大会
『熱気集会』
(試合開始18:30)

★石川雄規vs田中将斗&邪道&外道 with中山香里(コンプリート・プレイヤーズ)

★大谷晋二郎(ZERO-ONE)&日高郁人 vs松井大二郎(高田道場)&カール・マレンコ

★臼田勝美vs高岩竜一(ZERO-ONE)

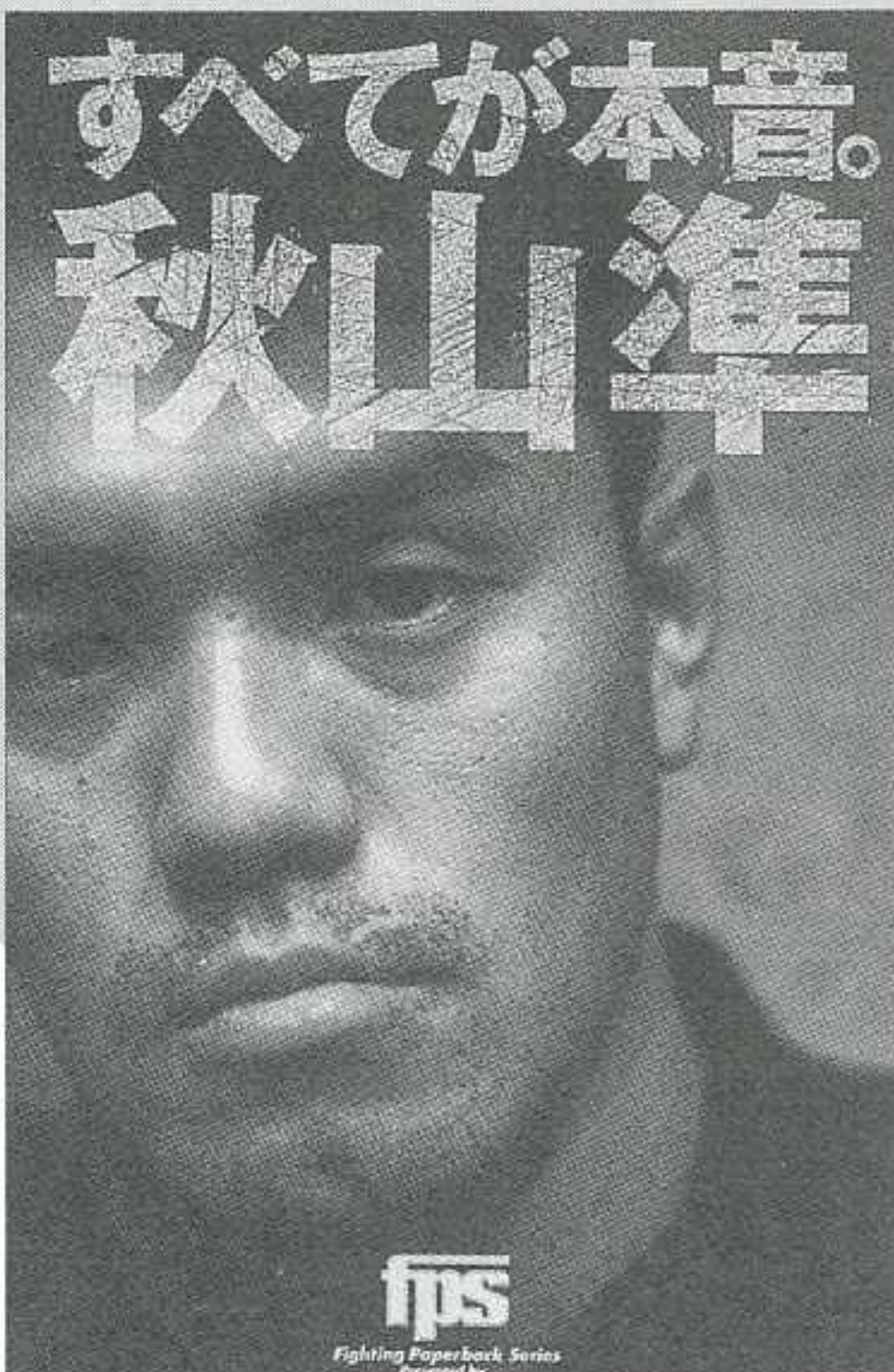
★アーバン・ケン引退エキジビション

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

読者の方々から「物足りない!」との声が多数届いたので、前号は頑張って通常版でお届けしたわけだが、それほど大きな反響もなかったから本当に寂しい限り。そういうことで近頃はプロレス本の発刊も少なくなっているので、今回もさほど反響がないようなら容赦なくコーナーを縮小するとここで勝手に宣言する、読者の声にとことん左右されやすい書評コーナー。あ、そうそう。秋山が結婚を決めたのは「彼女の誕生日と僕の誕生日に避妊しないでしてみた」結果、彼女が妊娠したかららしいので、チョロもせいぜい気を付けるように。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『すべてが本音。』

（秋山準／アミューズブックス／667円）

同じシリーズから出た定価500円の橋本&永島のナマハゲ本よりちょっと値段が高い分だけページも多い、長谷川博一氏構成による初の秋山本が登場。いろんな意味で平成新日の選手よりよっぽど新日らしい秋山ではあるが、格闘技方面のことを聞かれればすかさず**「プロレスをキング・オブ・スポーツと呼んだのはぼくじゃないから、そう呼んだ人が自分で刈り取ればいいんじゃないかな」**と新日に責任を押し付けたりするタチの悪さもやっぱり新日らしくて、シビレる限りなのであった。

プロレスに対する姿勢にしても、**「自分から掟は破りませんよ。でも相手がそのつもりなら、こっちだって目の中に指突っ込んだっていいんだから。いつもそれくらいの覚悟は決めて試合やってますからね」**という物騒な代物（三沢イズム？）だったりするから、秋山には絶対に乗れるはずなのだ。プロレスラーはこうじゃなきゃいけねえんです！

しかし、あえてその姿勢をわざわざ前面には出そうとしないのが、秋山の秋山たる所以なのである。

「小橋さんとの試合は、心を悪魔にすれば、僕があの人より上に見せることはできるんですよ。まずはグラウンドでコントロールすれば、小橋さんは力では返せない。僕が一度、後ろに回ったら絶対にスイッチさせない。するとお客さんには、僕が相手を圧倒しているように映るでしょう」

そこで心が悪魔にならなかったのは小橋に対する恩義や尊敬の念があったからなのだろうが、こと喋りの面では**「僕は大口なんか叩いてないですよ。心の中のドロドロした思いを、ストレートに吐いてるだけですよ」**という姿勢で、なぜか川田利明に関してだけはとことん心を悪魔にしてドロドロした思いをストレートに吐き出していくわけなのであった。

まずは**「陰でどうのこうの言う人なんで、レスラーじゃなく人間として腹を立てたこともあります」**と、ノアに加われなかった男・川田の人間性を全面否定！

さらに、**「川田さんだって、自分があれだけ言ったんだから秋山がどんな気持ちでいるのか、それくらいは分かるでしょう。気付かなければアホですよ」**と言い切るから、何を言ったかはともかく後輩にまでアホ呼ばわりされてしまう川田の幻想は無限に膨らむばかりなのである。

三沢が「喋らないのに一言多い」「余計な憎まれ口を叩くから、思い切りぶっ飛ばした」だのとしつこいぐらい口にしていたように、とにかく陰で余計なことをとつまらないギャグばかり言っていたらしい川田。

それは、川田が飲みの席でも「吉田豪っていう人はボクのこと嫌いなんでしょ」とボヤいたり、「渕さん、（水道橋）博士はね、『紙のプロレス』で俺の悪口ばかり書いてる吉田豪のインタビューを受けろって言うんですよ」と愚痴をこぼしたりしているらしいことからも容易にうかがえるんだが、それはそれでキャラクター通りだから個人的には一切問題なし！

しかも、こうして馬場にまで駄目出しされていたことまであっさり暴露していくから、川田をトップに据えたいまの全日がどれだけデンジャラスなK（会社）なのかつくづく痛感させられた次第なのであった。

「確か三沢さんと川田さんの試合の時だったかな、僕は馬場社長の所にわざわざ呼ばれて『試合を見とけよ』と。川田さんがガンガン蹴りを使うんだけど『な、余り強く見えないだろ？』なんて指導してくれるんですよ。蹴りを多用すると品がない。品がないというのはトップとしてダメなんだと、おっしゃってました」

垣原&長井がなぜ全日で冷遇されてきたのか謎がようやく解けた、この馬場発言。

そして、なぜ秋山がここまで強気でいられるのかという巨大な謎も、この発言であっさり解けたわけである。

「はっきりいって僕を潰すなんて無理ですよ。試合の勝ち負けなんかじゃ僕の心は折れないし、どうやったって僕の心を折るなんて無理な芸当なんです。はっきりいって背負ってるものが違うんだから、折れるものなら折ってみろという気持ち。僕の気持ちが落ち込むとしたら、身内が死んだ時くらいでしょう。それ以外は落ち込むことなんてない。みなさん考えが甘いですよ」

さすがは秋山。しかし、ここで秋山が唐突に**「身内が死んだ時」**なんて例え話を持ち出すのは果たして何故なのか？

実は彼氏、**「どうしても手に入れたいものがあるんですよ。僕の手で一軒家と犬と子供部屋を手に入れたい。僕は子供のころからお金の心配が絶えなかった。だから子供には一切、お金のこととか、大人のドロドロした世界なんかを見せたくないんです」**との小市民的な夢を抱いていることからもわかるように、背負っているものの違いとはどうやら「身内」だったとしか考えられないわけなのである。

しかし、身内以外のことでは気持ちも落ち込まないはずの秋山が、**「今のままだと心配が多すぎて、僕の自律神経の病気なんか治らないかもしれない（苦笑）」**と告白したりで、どうやら想像以上に心配性らしいこともここで発覚。

「風呂に入っていて急に呼吸ができなくなって、体に石鹸をつけたまま風呂場から出て床に倒れたりしましたね。ノアはこのままだと、どうなるんだろう？ウチの家族はどうなるんだ？若い奴らはどうなるんだ？どこかインディー団体にでも入って、試合のない時はアルバイトをするみたいな生活を強いられるのか？そんなことを考え出すと、もう心配で寝られなくなるんですね。大体、試合前に精神安定剤を飲んで闘ってるレスラーなんて、自分だけじゃないですか（笑）」

これだけいつ何時でも団体のことを考えて自律神経を病むまでになっている秋山にしてみれば、どう見たって何も考えていない川田や田上明への発言が自然と厳しくなるのも確かに当然の話なのであった。

『格闘技の描き方』

（監修・原田久仁信、著・ゴーオフィス　林晃／グラフィック社／1500円）

プロレスファン的には『プロレススーパースター列伝』や、そして『男の星座』で梶原一騎最後のタッグパートナーを務めたことで知られる漫画家・原田久仁信先生が格闘シーンの描き方をスーパーバイズする、漫画家志望者のための技術書。実はこれまでにも『バトルの描き方』『格闘技資料集』なんて代物が人知れずリリースされていたらしいから版元のグラフィック社も侮れないが、収録されたインタビューを読めば原田先生も侮れないなんてもんじゃないことに気付くはずだろう。

なにしろ原田先生、もともと**「大学のばりばりの応援団員で空手部だった」**というから、そりゃあ梶原先生とも意気投合できるだろうし、そんな強豪を侮れるわけもないのであった。

しかも、あの逮捕騒動でいきなり連載終了となった『列伝』に梶原先生のお気に入りレスラーだった幻のジャンボ鶴田編が存在し、**「鶴田の話の下絵がすんで、表紙描いてるときに『連載終了です』の連絡が入ったんだよ。下絵して、ペン入れしようとしたら電話が鳴って……。その話をしたら、『読みたかったなあ』って言ってくれて、『いつか描きますよ』って返事して……」**という秘話があったことも、ここで告白してくれるわけなのだ！

さらに、**「『コロコロコミック』で、タイガーとキッド（ダイナマイト・キッド）の話……佐山がいなくなって、スーパータイガーになって、ていう話」**を描いていたことも発覚するから、もうビックリ。

ただし、最も驚いたのは原田先生がいま〝よみうり文化センター川越〟で似顔絵入門講座の講師をやっているという衝撃事実だったのである。入門させてよ！

『写真集・門外不出！ 力道山』

（撮・田中和章 編・流智美&佐々木徹／集英社／2500円）

古本屋で創刊号から100号までのセットが50万円という高値で当たり前のように並んでいたり、それをボクが勇気を出してわざわざ現金で一括購入したりするほど貴重なプロレス黎明期のレア雑誌『月刊FIGHT』（編集・田鶴浜弘）。

そこに掲載された写真を中心とした力道山のビジュアル本に果たしていまニーズがどれだけあるのかはまったく推測不可能ながらも、とりあえず親が死んでも力道山信者なボクは迷わず即買いの一円。

案の定、デザインが異常にカッコいい『月刊FIGHT』や『月刊RIKI』（ボクもカネやん&リキさん&北原三枝の3人が表紙と巻頭対談をしている新春創刊号を持っているが、広告モデルも何もかもが全部力道山という奇跡のような雑誌だった）の表紙の再録ページには本気でシビレた次第であり、ついでにセッド・ジニアスの天敵・流智美先生の仕事っぷりにも心底シビレたわけなのであった。

なにしろ、これまでの力道山写真集とは違って全ての写真に長文のキャプションを付けるという、非常に苛酷な作業に挑んだ彼氏。

どう考えたって力道山についてそうそう語ることはないのでキャプションのネタが一部被ったりするのもしょうがないだろうが、それでも**「大木（金太郎）はいまでも日本プロレス再建をあきらめていないという」**などのちょっといい話を随所に折り込んでいくセンスは、さすがと言うしかないだろう。

「日本では報道されていないが、（ボボ）ブラジルの私生活における艶福家ぶりは有名。前妻との間に生まれた子供は元レスラーを含む6人だが、長年共に暮らしてきた白人女性（葬儀でも彼女が付き添った）により、再婚しないまま全米各地に13人の子供と25人の孫がいることが明らかにされている。合計19人も子供をつくったのだから、少子化の現在では考えられない〝精力絶倫男〟（?）」

こんなエピソードを普通に紹介する流智美イズム溢れる文章もやっぱり抜群なんだが、遺族側のチェックゆえなのか写真もエピソードも力道山に関してはどうやら無難なものしか載せられないでいる様子なのが残念でならないのであった。

特に顕著なのが巻末インタビューに登場するマティ鈴木の証言であり、まずは「**お酒もね、そんなに飲まなかったです。付き合いでのむことはありましたけど、ベロンベロンに酔うほどは飲みません**」と、なぜか力道山の数限りないほどある酒乱エピソードを彼はあえて完全に無視。

地方巡業でも「**キャバレーなんかに出向くと大変な騒ぎになりますからね。旅館の自分の部屋にいました**」という意外な真面目さをアピールするから、力道山信者じゃなくても驚くばかりだろう。

そして、「**豊登を呼びつけて、『おい、キャバレーからひとり、女を連れてこい』と命令するわけです**」「**豊登は力道山の好みの女性のタイプを知っていますから、すぐに連れてくる**」というボクらの大好きな力道山らしいエピソードが登場しても、やっぱり「**いや、違うんですよ。連れてきてお酌をさせるだけなんです。一杯だけお酒をついでもらうんですね。で、その女性はさっと帰らせる。力道山は実に遊びに関してはきれいでしたよ**」と否定するから不可解なのだ。これは、選手の前で読み上げられない原稿は書かない主義だったという田鶴浜イズムなのだろうか？

それはそれでいいのだろうが、ボクにとっては「随分迷惑もしましたよ。飲むと暴れるから（笑）」「リキさん暴れ者だもん」「店全部壊しちゃったの！」という、力道山と義兄弟同然の付き合いをしていた張本勲による証言の方がよっぽどリアルに感じられてならないのであった。

木村政彦をリング上で潰した伝説の試合についても同様であり、「俺は2ヶ月前からもの凄く鍛えた。それなのに、あいつの体見たら遊び呆けてる。これは負けらんない」と憤慨してチャンスを狙った力道山が、木村の「なんだ、この朝鮮人が！」という不用意な差別発言にブチ切れて容赦ない手刀を叩き込んだ。そんな張本証言の圧倒的なリアリティに比べると、マティ証言はあまりにも奇麗事すぎて心にまったく届かないというか。

それでも、ビデオで確認する限りはほとんど当たっていないので、おそらく木村を潰すためのきっかけでしかなかった木村の金的蹴りについて、マティはこう語って見せるわけなのだ。

「**控室のドアが閉まった瞬間です。山が崩れ落ちるような感じでドサリと力道山が倒れ込んだんです。リング上では平然とした顔をしていましたけれども、必死に痛みをこらえていたんでしょうね。腰を押さえてね、うめき声を上げながら、しばらくは立ち上がれなかった。それくらい、木村さんの当たりが強烈だったわけですよ**」

試合後にはこれだけのダメージが残っていたとセコンドのマティが証言したためか、そのうち聞き手も力道山暴走の原因をこう推理するまでに至るのであった。

「**リズムの悪さをとらえて、あの試合を真剣勝負だったと評価している人は多いのですが、実はそうではなく単に木村さんのレスラーとしての技術か未熟だったからではないか**」

つまり、「**木村の野郎、金的を狙いやがって。真剣勝負なら自分のほうが強いとか豪語する前に、お前はレスラーとして知っておかなければならない基本もろくに知らねえじゃねえか。そんなことも知らずにプロレスのリングに上がってくるんじゃねえぞ**」という意思表示で力道山が木村を潰したんじゃないかとの推測を口にすると、「**まったくその通りだと思います。その推測はほぼ間違っていないでしょう**」とマティは断言し、こう言い切ってみせるから驚くばかりなのだ。

「**ただひとつ言えることがあるとすれば、観客の前で見せる格闘技はどんな試合でも真剣勝負などありえない、ということです。これは真実です。だからといって、プロレスが八百長であるとか、そんなくだらない次元の話でもないんですよ**」

真剣勝負はありえない！

ただ、それならこれがどういう次元の話なのかというツッコミもないまま話が終わっているので、できればこういうOBインタビューはシュート話の大好きな流智美先生にやっていただきたいものだと心から痛感させられた次第なのである。

『梶原一騎伝』

（斎藤貴男／新潮社／743円）

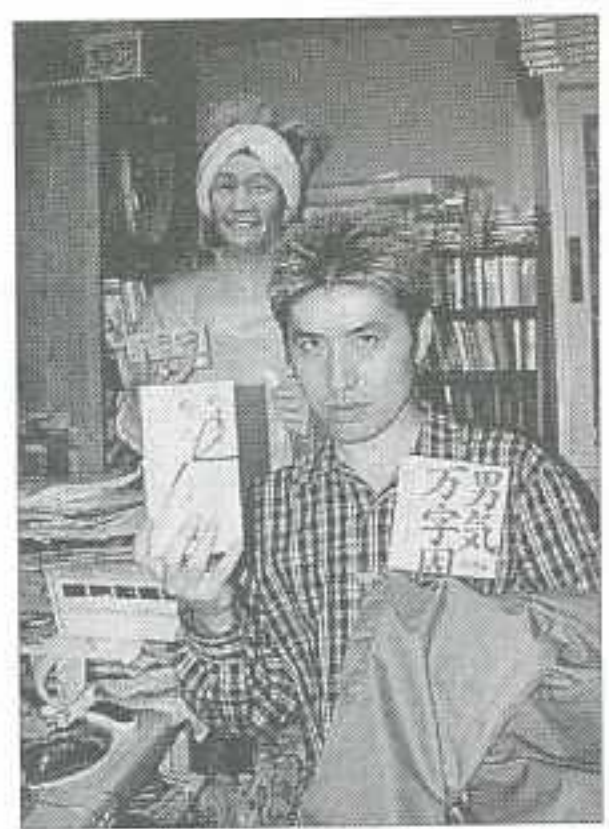
最近、『音楽生活』という雑誌でボクが書いた原稿『夕やけニャンニャンを見ていた男たち』の元ネタとなった梶原研究本屈指の名著『夕やけを見ていた男』が、えらくわかりやすいタイトルに改題&補筆ページも加えてようやく文庫化。

ただ、タイトルはともかく東映の副社長と銀座のクラブのママに追加取材した約6ページの補筆部分は正直言って蛇足だとボクは指摘せずにはいられないのであった。

スムーズに流れていくドラマの中に、いきなり講談社社員への「暴行事件」の現場となったクラブに梶原先生が初めて行ったときのエピソードや、ママの「**もちろん多少のトラブルはありましたよ。でも、そんな時は次の日、少し早めにいらっしゃって、小切手をひらひらさせて、私を呼ぶの。『オイ、静香ちゃん』。普段は〝静香〟と呼び捨てなのに。茶目っ気たっぷりの、失礼だけれど、すごく可愛い部分を持っていらした方でした**」という証言などが入ってくるのは、いかんせんエピソードの長さと事件の核心とは関係ない部分が多いせいもあって文章のリズムが崩れ、作品から致命的に浮いているというか。

文庫用あとがきで篤子夫人が白冰冰について語るエピソードを追加しているのだから、いっそ巻末に追加取材用のページを作った方がボーナス感も出るし、前のバージョンを買った読者にとってもどこで書き加えたのかすぐわかるから、それだけでも有り難いはず。

……と、ボクはそう思ったのだが、それだと前の読者には立ち読みだけで済まされる可能性が非常に高いので、どこを加筆したのかわからないようにしておいた方が商売としては正しいのだと気付かされた今日この頃なのである。とりあえず、いい本なので必読。

吉田豪がWOWOW解説席で宣言した金ちゃんへの金一封、遅ればせながら贈呈!

2月のKOKトーナメントでWOWOWのゲスト解説を務めた吉田豪。その際、金ちゃんのファイトに感動し、放送中「ボクの出演料を金原さんに金一封としてさしあげたいですね」と男気溢れる発言。なかなか手渡す機会がなかったが横浜大会で無事贈呈!

CAT FIGHT WORLD

第13回「オイル・レスリングの魅力」

バトル編集部・編集長 **猫宮**さん

オイル・レスリングとは？

キャットファイトの世界では古くから親しまれたオイル・レスリング。今回はキャットファイトの中でも妖艶度をさらに掻きたてる、そのオイル・レスリングの魅力をバトル編集部・編集長・猫宮さんに語ってもらいました。

光沢がとってもいやらしく糸を引く オイル・レスリングは永遠に不滅です！

―今回はオイル・レスリングの魅力ということだそうですが、一体キャットファイトとオイルに何の関係があるんですか？

猫宮　どうも、バトル編集部・編集長の猫宮です。

―あ、わざわざご丁寧に（笑）。

猫宮　えー、オイルとキャットファイトと言えば1つしかないでしょう？

―1つしかないって……わかんないです。

猫宮　オイル・レスリングですよ！　キャットファイトの原点です！

―オイルがキャットファイトの原点だったんですか！

猫宮　いや、それは、まあ冗談ですけど。

―……それで、オイルがキャットファイトをより魅力的にさせるモノなるんですね？

猫宮　オイルというか、その辺りです。オイル・ローション・泥とか。

―アダルトビデオの企画で、よくローション使ったりしますよね。

猫宮　アダルトとか言わない！（笑）。オイルレスリングって、日本のビデオレンタルに初めて並んだ洋物キャットファイトビデオだって記憶してます。それで、さっき原点って言ったんですけど。

―なるほど、キャット・ボクシングと同じノリ……？

猫宮　水着や、裸とオイルの組み合わせって、とってもセクシーじゃないですか。あのイヤらしい光沢とか、糸が引く辺りなんて。

―エロエロっすね。

猫宮　まあ、そうです。エロエロです（笑）。そんなオイルまみれになりながら、女の子二人が取っ組み合うんですよ！

―例えば、ローション（オイル）SMって聞かないですよね。どうして、キャットファイトに限ってローションを使ったんでしょう？

猫宮　まあ、ローションが滑るから怪我とかしなくて済むし。滑って転んだりする様が、滑稽でよくビアホールなんかでは観られましたよね。

―元々、皆そういうのが好きってことなんでしょうかねえ。

猫宮　例えば普通のキャットファイトはちょっと、と言う人でも、ローションレスリングなら観たいって人多いですよね。ローションにはそういうなんて言うか、引きつけるモノがあるんでしょう。

―じゃあ、ローション・ボクシングとか、ローション・相撲とかが、キャットファイトの企画の中で生まれる可能性があるんですね！

猫宮　さあ、それはどうでしょう（笑）。ただ、キャットファイトというマニアックなジャンルを、一般的にする力を持っているのが、ローションだったりするんですよね。マニアック＋マニアックで、マニアック度が軽減されるというか。

―はぁ、難しいですね。私はローション好きですけどね（笑）。

猫宮　ローションまみれになりながら、取っ組み合う美女二人（笑）。世界中で行われているだけに、その魅力はお墨付きでしょう。

―世界中にですか！　それは凄いですね。世界が認めるオイルレスリング、これは観なきゃ損ですね!?

今月のオススメビデオです!!

ローションマッチ ～CAT編～

ローションマッチ -CAT編-　ローション史上、かってないほどの興奮バトル!!　麻由vs隆子

麻由 19歳 B 88 W 60 H 93　隆子 19歳 B 88 W 60 H 90

2人とも19歳の麻由ちゃんと隆子ちゃんのファイトはローションファイトから始まり、Tシャツ剥ぎ取りファイト、そしてバイブ挿入10カウントマッチの3本勝負！　敗者には罰ゲームと申し分ナシの一本！（50分・¥10000）

Desiree vs. Kelly

Black Falcon Productions Presents "Battling Babes Series"　Video #OIL 101　Desiree Vs. Kelly　SEXY OIL WRESTLING!　Copyright 2000 Black Falcon Productions

まずはデズリーとケリーのタメ息もののボディにオイルを塗りつけるというたまらないシーンからスタート。ファイトの方はヌルヌル滑るオイルに苛立った2人がセクシー&ダーティーアクションに突入するぞ！（50分・¥10000）

比人

衝撃の完結編!

巨匠入魂最終回

真樹日佐夫

illustration▶ 中川雅博

前回までのあらすじ

天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜きプロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。交渉は難航したものの、道場での非公開試合という形でヒクソンと運命の対峙を果たし、そこで無比人は互角の闘いを繰り広げたのだった——。

無比人は、WBC・IBF統一ヘビー級王座を防衛したレノックス・ルイスが勝ち名乗りをあげるところに乱入、リング上で王者に対し強烈な正拳突きを叩き込んだ。この無比人の突飛な行動は、最前列で観戦しているマイク・タイソンに対してのアピールであった。数ヵ月後、紆余曲折の末、実現したタイソン戦はダブル・ノックアウトという結果に終わったが、続いて、巻道場主催の大会ではエキシビションながらレノックス・ルイス戦を行った無比人。忘年会の席上では、世界各国の大物格闘家がズラリとラインナップされた〝ザ・ストロンゲスト・センチュリー21〟。決戦のゴングまで一月足らず、札束攻勢で選手を集めまくった無比人の元へは脅迫が相次いだ。そしてある夜半、無比人の乗ったベンツに十トントラックが進入してきた。

(59)

青コーナーよりボブチャンチンがリングへ上がった。

対戦相手である無比人は登場しないまま、

「赤コーナー、万無比人選手。事故により出場不能のため、イゴール・ボブチャンチン選手の不戦勝となります……」

場内アナウンスが流れた。

さしたる反応はなかった。無比人が交通事故で負傷し入院したと、すでにしてスポーツ紙などで報じられていたからである。

五月十五日、夜。東京ドームで開催の運びとなった〝ザ・ストロンゲスト——センチュリー21〟ワンナイト・トーナメントの予選第1試合は、かくてボブチャンチンが戦わずして勝ち上がり、続く第二試合、藤田和之対アレクサンドル・カレリン。

大歓声のなか、青コーナーから藤田が、赤コーナーからカレリンがそれぞれリングインし、

「〝プライド〟などでバーリトゥーダーとしても波に乗る藤田選手。日本のリングは先の前田日明戦以来でありますグレコローマン・レスリングの帝王カレリンをどう攻略するか。見どころはとりわけグランドが得意とされる藤田の技術が、カレリン相手にどこまで通じるか、ですが——」

報道席の中心を占めるアナウンサーがマイクへ声を送るうちにも、試合開始のゴングが鳴って、両者はリング中央へ。

十センチ近い身長差を利して上から押し潰そうとするカレリンに対し、下から藤田は潜り込むように飛び込んで、ダブルリストロックを仕掛ける。

カレリンが押し返す。

背中を弓なりに反らせ、絞り上げんとする藤田。金髪が逆立ち、眉は吊り上がり、口許も歪んで早くもトレードマークの猿顔だ。

一進一退の力較べのさなか、不意に藤田が左膝を飛ばした。相手を転がし、その上にのしかかっての膝蹴りには定評があるが、カレリンの懐が深くて届かない。

右をフォローするが、これも空振り。

空振りの瞬間にタイミングを合わせ、強引にリストロックを外したカレリンは、すかさず藤田のバックを陥れ両手で腰を掻い込んだ。そうして引き付け、腹の上に乗せるとともに上体を反りらせて後方へと運ぶ。

「投げ捨てバックドロップ——!!」

アナウンサーの絶叫調が、いやが上にも緊迫感を盛り上げる。

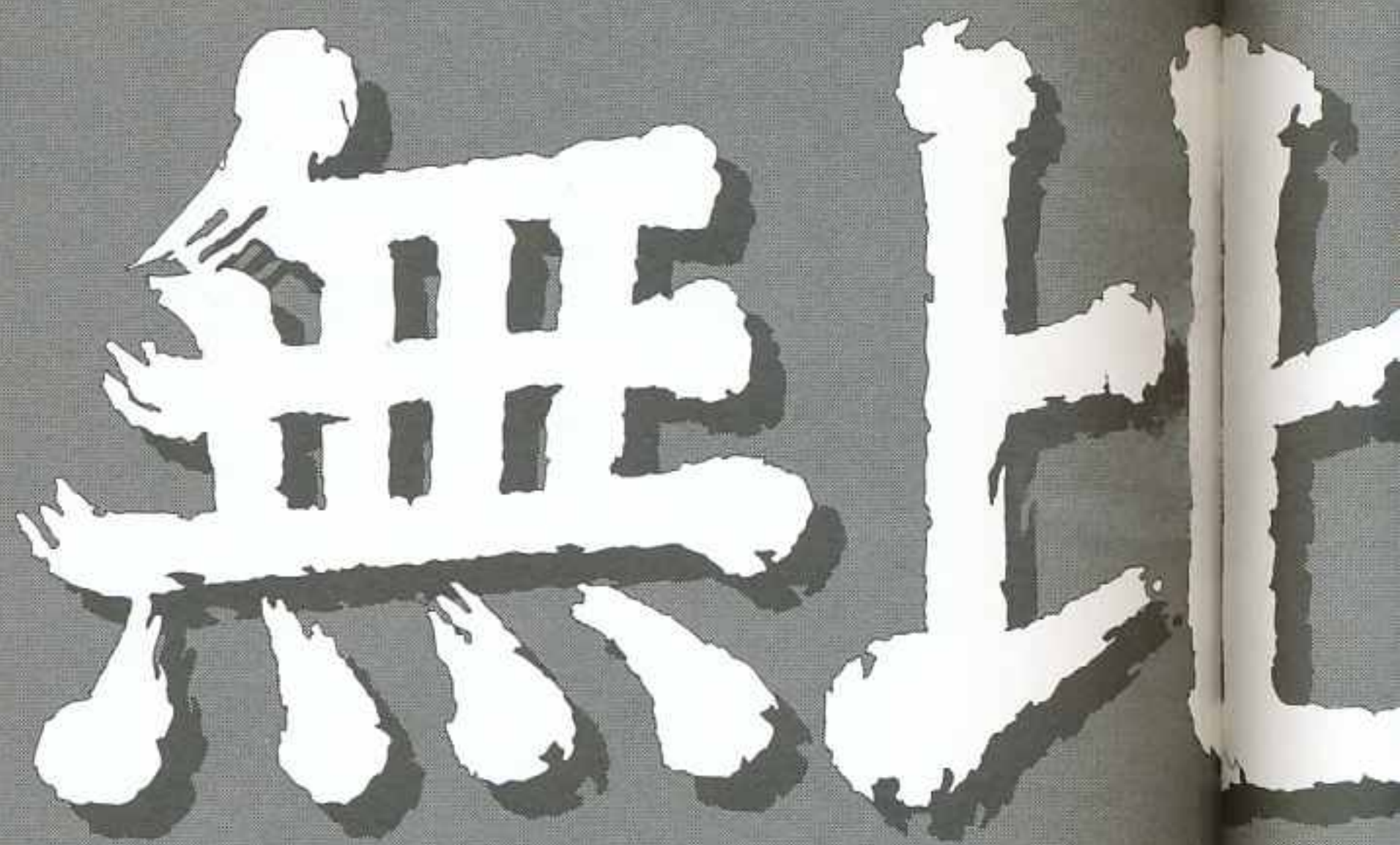
満場総立ちのなか、投げ捨てられた藤田はしかしすぐさま身を跳ね起こし、闘争心の余りか顔を真っ赤にしてカレリンへ突進。掴みかかると見せて、いきなり右のロングフックを放った。

意表を衝かれたか、これが浅いながら顎にヒットし、がくんっとカレリンの腰が落ちた。が、とっさに右足を後方へ送って、辛くも踏み堪える。

ドームの天井を揺るがす大歓呼。

千堂は、リングサイド最前列の主催者席にいてメモ帳にペンを走らせながら、いまひとつ集中しかねていた。頭のなかの半分以上を無比人のことが占めている、そんな感じを拭えなかった。

その頃、芝浦港に程近い救急病院の万無比人の名札が掛かる個室病室では、氷見子、真澄、絹子の3人が申し合わせたように緊張の面持ちでベッドに横たわる彼の顔を見入り、言葉も忘れたかのようであった。

ここへ入院して以来、氷見子と千堂とで昼夜の別なく詰めていて、この日、主催者だし被写体として会場にいてくれないことには、とマスコミに請われて抜けざるを得なくなった千堂の穴を埋めるべく真澄らに声が掛かった次第だが、意識不明の状態が続いていた無比人が少し前、酸素吸入装置を付けられた顔をひくひくさせ、頭を枕から浮かそうとしたのだ。

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン
本格格闘プロレス小説

無比

生命の危険は遠のいたとの担当医師の判断により、集中治療室から移されたのが五日前。その後もずっと意識は戻らず、症状がまた悪化するのではと氷見子などは病室に付きっ切りでいながら安んじられないまま、目を覚まさせ、目を開けてと祈る思いだったが、その一念が通じたものか。集中治療室のときは廊下に待機し、千堂と交代で待合所で仮眠を取るという態勢でやってきた。

救急車で運ばれた時点で無比人は、全身打撲と複雑箇所に及ぶ骨折のため瀕死の状態にありながら、救急隊の記録によると一一九番通報してきたのは本人とのことで、無意識裡に携帯電話で番号をプッシュしたものと視られた。

袋小路の奥に待ち受けていたショベルカーと、後ろからきた十トントラックによって無比人のベンツはサンドイッチにされたばかりか、ショベルカーも誘導役のバイクもその上を乗り越えて去ったのだが、彼が喋れないために病院サイド、事故処理に当たった警察にも詳細は掴めていなかった。

「ねえ、無比人。頑張って！」

と歌を忘れたカナリヤがそれを思い出したのにも似て氷見子。声が届いたか、顔の肉の動きが顕著になり、ややあって無比人は半月振りに覚醒したのである。

万歳、と期せずして同じ言葉が女三人の口をついて出た。

目を見開いた無比人は、最寄りの氷見子をまず見やり、次いで真澄、絹子へと向きを転じた。その後、改めて氷見子を注視すると、物言いたげに顳顬（こめかみ）の辺りの筋肉を痙攣させた。何やら訴えている、そんな印象だった。

「出してご覧よ」

小さく頷きつつ氷見子が、真澄と絹子へ視線を巡らせた。三人とも丸椅子をベッドに寄せて坐っていた。

「出すって、何をでございましょ」

と当惑顔で絹子。

氷見子は焦れた様子で、毛布に覆われた無比人の下腹の辺りを顎の先で示し、

「大王様の、あれだよ。あれ」

「あれって、ま、まさか——」

「さあ、早く」

急かされて絹子は毛布を裾の方から捲り、病院の浴衣の下半身を露わにした。脚にはギプスの類は見られなかった。

無比人はパンツは着けておらず、絹子が恐る恐る浴衣の前を割った途端、怒張しきったペニスが飛び出した。

「凄い……」

氷見子が血の上った顔で呟いた。

絹子と真澄の目も起立するそれに釘付けにされ、信じかねるといった気色である。

「溜まり溜まっているようだね。ご奉仕して差し上げな」

と氷見子に言われ、絹子は我に返った面持ちで、

「よろしいんでございましょうか」

「絹子、真澄。そして最後の一番濃いところをあたしが頂く」

「ではお言葉に甘えて、露払いを」

絹子は濡れ濡れした目色を見せて頷くと、無比人の股の間へ膝を揃えて上がり、さっそくに舌を這わせた。土下座した格好のうちに、ぺろぺろと音を立ててねぶり回した。

ペニスの側面に浮き上がって見える血管が一杯に膨れ上がった、と思われた瞬間、絹子は喉を激しく上下動させるとともに、口の端から夥しい量の白濁した液体を溢れ出させたのだった。

「美味しゅうございました〜」

絹子に代わって真澄がベッドへ上がり、勃ったままのペニスにやさしく口付けした。それからおもむろに舌をそよがせはじめた。

脳に受けたダメージによるのか、喋るのは無比人はまだまだ無理なようだったが、それでも目と顔全体で快感をあからさまに表現し、五分もしないうちにまた果てた。

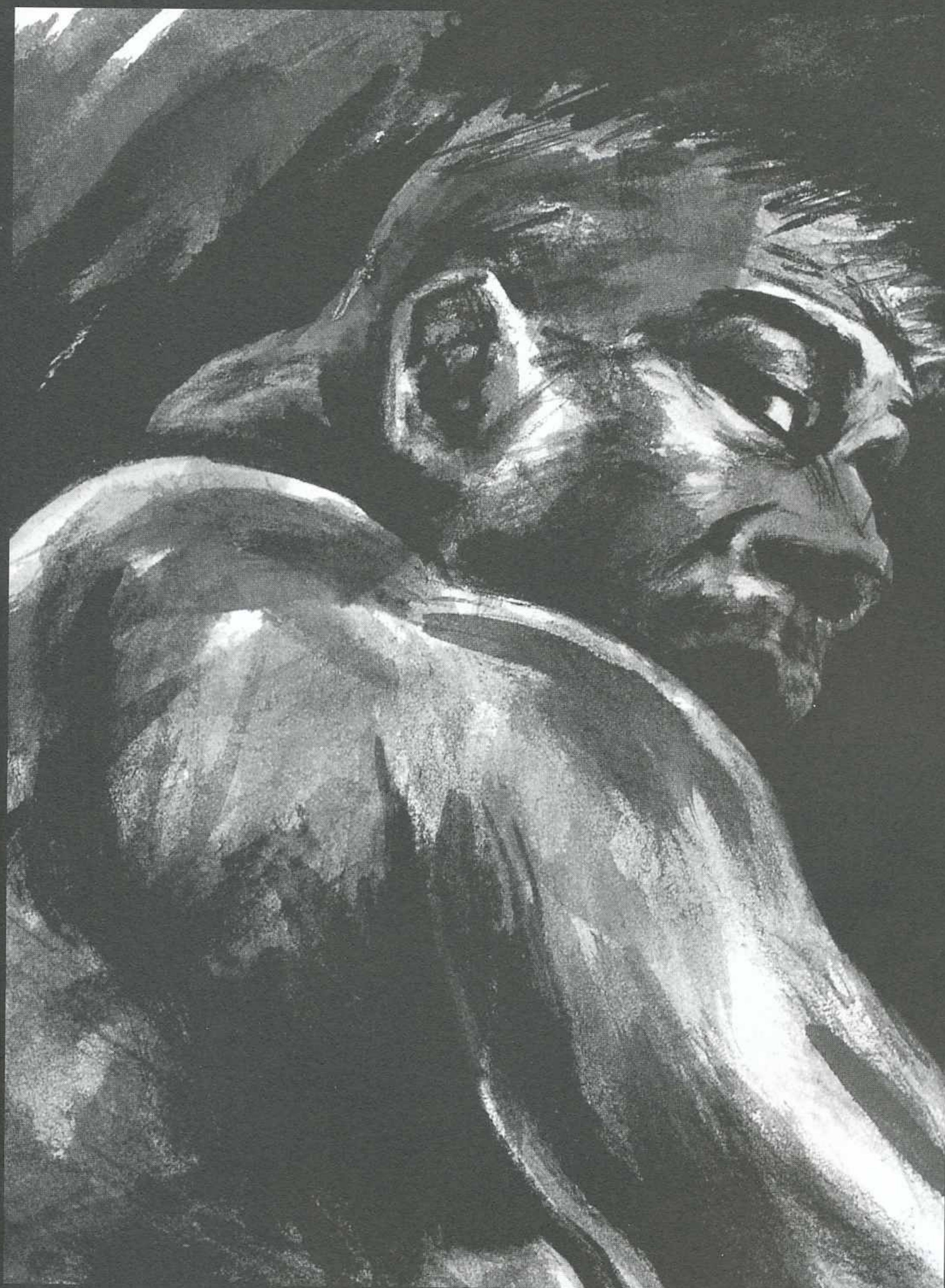
氷見子は矢庭に歯を軽く立てた。それだけで半勃（だ）ち状態のペニスは忽ち甦り、最初

無比人は、全身打撲と複雑箇所に及ぶ骨折のため瀕死の状態に…

にも優るとも劣らない量のザーメンを呆気なく彼女の口腔へ迸らせた。
しかしなお底を突いた感じはしなかった。

(60)

万無比人の葬儀は、ニュー東都プロレスリングの道場で社葬として執り行われた。
関東地方が平年より一日早く六月七日に梅雨入りして十日、中休みということか東京はこの日、曇天ながら雨の心配はなさそうで時折晴れ間が覗きもした。
喪主は魚津市で船宿を営む父親が上京してきて務め、葬儀委員長にはニュー東都の営業本部長ということで千堂が推されていた。
式は午後一時にスタートし、リング上にしつらえた祭壇で微笑む遺影を前に縁りの者と一般弔問客と、焼香の順番を待つ二つの列が道場の外まで延びた。
列中には小川、船木、小路らも見られたが、焼香をすませるとマスコミ勢を避けるかのように一様に足早に立ち去った。無比人の訃報が格闘技界を駆け巡ったのが二日前で、その死の背景についてあれこれ取り沙汰されており、最小限義理を果たすだけに止めて置きたい、ということでもあろうか。
事故発生から約一ヵ月半。社会復帰もそう先ではないのではと一時は伝えられていたのがなぜ、とファンには寝耳に水だったろうが、病院側の発表したところでは酸素吸入装置が夜中のうちに外れ、それに誰も気づかなかった、装置が外れた原因としては患者が暴れたという以外考えられないとのことなのだが、胡散臭いといえばその辺も大いに胡散臭く、揣摩憶測に拍車を掛けていた。享年、二十八。
グレート嵐、竜村勇以下のニュー東都組、編集長徳永をはじめとする『四角いジャングル』誌スタッフも残らず駆り出されて受付、案内、場内整理などを分担し、それらの要として千堂が進行全般に気を配る。氷見子には受付を任せてあり、真澄と絹子もそちらにいて客の応対に追われているものと思われた。
リング下に二箇所、横並びに焼香の用意がされていて、すぐ手前が遺族席。千堂もその席の際に立ち、焼香を終えた客が次から次から礼をして行くのへ、遺族の者たちと一緒に答礼する。それを繰り返しながら、無比人との最後の夜、息詰まるようなそのひとときが頭を離れることはなかった。片時も。
三日前、千堂は五時半に仕事を切り上げて社を出、六時少し前に病院へ着いた。六

無比人の目が笑った。はっとしたほどやさしく、しかも哀しげな眼差しで…

時に氷見子から付き添いを受け継ぐ必要があったからだ。無比人の意識が戻って以来、二人して付いていなくとも、ということになって交代制に切り替えていた。

交代制といっても二十四時間や十二時間間隔では、だれて逆に疲労が蓄積されよう。またそれだけ纏まった時間を割かれては仕事にも影響が及びかねない、どうせならもっと刻んでスピーディーに運んだ方が勢みがついて張りも持たせられるかも、と話し合い、一日を四つに割って六時間交代とする線に落ち着いたのである。

無比人は着実に快方へ向かっていたが、言語機能に未だ回復の兆しは見られず、酸素吸入装置も付けられたまま。なお予断を許さなかった。

——それじゃ、十二時に。

——頼むよ。半には社の方に国際電話が入ることになっていてね。日付が変わった途端に飛び出さないことには厳しいんで。

——大丈夫、目覚ましをちゃんと掛けて寝るから。一分でも遅れたら、帰っちゃってくれて構わないわ。

そんなやりとりがあって、氷見子は病室を出て行った。出しなに千堂は、いつも起き抜けに飲むようにと渡している強力ドリンク剤をまた持たせた。この日に限り睡眠薬を混入してある、その一本を。

十時過ぎには、無比人は深く寝入ったようだった。

千堂はベッド脇の椅子に坐り、寝顔を飽かずに眺めた。自分で発掘し世に送ったモンスターなれば、この手で引導を渡してやらないことには……。ここ何ヶ月か頭のなかで渦を巻き続けた言葉が、またぞろがんがん鳴りだしていた。

無比人にこの世から消えてもらわなくてはと思い詰めるに至ったのは、何よりも真澄のことが原因で、千堂の視るところ彼女の方が絹子よりもずっと深いところで壊れかかっている感じがした。絹子にはどこまでM地獄に堕ちようが平気で生きていけるしたたかさがあるが、真澄はそうはならずに存在そのものまでも破壊されていくだろう……。金のこともある。

二人から二十億の寄付をせしめてしばらく経った、ある日、無比人と東京ドームでの興行について打ち合わせていて、

——これをね、恒例化しようと思うんだ。

唐突に彼が言った。千堂は耳を疑いつつ、

——恒例って。

——毎年行うのさ。大阪ドーム、福岡ドームと順繰りに。頼むよ部長、協力して。

——しかし、資金面の問題が。

——あ、それなら心配要らない。無尽蔵に札束が唸ってる金庫が、ほれ、二つも。

そのひとことを聞いたとき、千堂の殺意は固まったといえようか。

真澄を救済せんがため、無比人を尾行するなどもしてチャンスを窺ったが、いざとなると車をぶつけようにも撥ねようにも躰が言うことを聞かず、入院後もふんぎりが付きかねるままずるずると日を重ねた。事故の起きた夜は仕事が立て込みやむなく尾行を中止したのだが、似たような方法を考えていた手合いがほかにもいたのを知り、千堂としては曰く言い難い心境であった。

この日、いよいよ決断を迫られたのは、明日には試験的に酸素吸入装置を外してみるとの話を午前中に主治医よりされていたからで、そうなってはもはや付け入るすべはなし、と心を鞭打って計画を実行に移すことにしたのだ。

時計の針が十一時半を回るのを待ち、無比人の鼻孔から出ている管へ手を伸ばした。それを鷲掴みにせんとしたが、やはりまた躊躇いが生じた。駄目だ、できない……。

不意に無比人が目を見開いた。千堂に近い方の手が浮き上がってきて、宙ぶらりん状態の彼の手首を掴んだ。凄い力だった。

——赦して。つい出来心で……。

無比人の目が笑った。はっとしたほどやさしく、しかも哀しげな眼差しで千堂を包み込むようにしたところで、手を放した。

次いでその手を管に掛けると、無造作に横へ引いた。ベッドの頭の壁の向こうでボンベに繋がっていると思われる管の端が壁穴から外れ、枕辺に落ちた。早く立ち去れ。無比人の目はそう言っていた。

真澄より先に、その仮借（かしゃく）しない闘争心のゆえに彼の方が壊れていたとは……。千堂は手を合わせて別れを告げ、そそくさと病室を後にした——。

二時近くなって、巻と佐山が連れ立って現れた。記者たちがどっと二人を取り囲んだ。佐山は例によってにこにこ顔で口を濁すばかりだったが、

「紐付きでしか興行を打てないプロ格闘技界の悪しき体質が、万を死なせた……！」

と巻がひとこと痛烈に言い放った。

焼香も総て終わり、まだ六十代前半であろう無比人の父親が喪主の挨拶をはじめたところへ氷見子が小走りにやってきて、千堂と肩を並べて立った。耳許へ顔を寄せてき、

「自殺。自殺したのよ、彼、きっと」

「え？　なぜ、そう——」

「受付へ保険会社の人が訪ねてきて、あたしと真澄と絹代、部長を受取人にして総額三十億円にも上る保険を無比人が掛けていたって」

「三十億……」

充満する香の匂いのせいか、鼻の奥につんときて思わず千堂は顔を顰めた。無比人の最後の笑顔が脳裡をよぎる一方で、俺はミスター・プロレスリング、と胸を張る彼の自信に充ちた声を聞いたようにも思った。

氷見子は声を立てずに泣いていた。

〈了〉

暑い夏には熱い日記がよく似合う!

ターザン山本公式HP
『マイナーパワー』の人気連載
『往生際日記』。今月も行きますか——ッ!

『2001年往生際日記の旅』

ターザンには日記上で絶縁宣言されたり、身に覚えのないことを書かれたり、かと思えば「出来の悪い末っ子の兄弟といった感じで憎めない」などと、突然兄弟扱いされたりしているターザン日記担当のチョロです。ちなみにターザン認定、6月のMVPは豪ちゃんと浅草橋の駅で会った43歳のおっさんに決定ッ!

★5月19日（土）

食事中『紙のプロレス』からケイタイに電話がある。私の原稿を読めないのでその部分を教えて欲しいという。家に帰ってから連絡すると私が言ったら、もう印刷所への入稿がてんぱっているので、今、教えて欲しいと言う。私はその瞬間、キレた。ふざけるなバカ野郎。私が原稿を送った時、「字は読めるのか」とチョロに電話したら、彼は「大丈夫です」と言った。それももう10日以上も前の話。それもチョロのヤツ、自分で電話しないで新人に電話させてきた。お前らいい加減にしろ。俺の原稿はもう載せなくてもけっこう。私は一方的に電話を切った。本当にダメな人間が多過ぎる。不愉快だ。ガマンできない。

★5月24日（木）

今日はまず〝日記論〟について書いておきたい。

浅草キッドはホームページを持っていて、そこに水道橋博士が日記を載せている。その中に私と博士がいっしょに映画を見に行った日のことが、写真入りで掲載されていた。例のIマックスに行った時の話である。あれはたしか5月14日のこと。その日記を私の友人が私に見せてくれたのだ。3Dのめがねをかけた私の写真は、なかなか迫力があった。評判になったようである。

しかし私は博士のその次の日の日記を見てガグ然とする。そこには博士が『紙のプロレス』の編集部を訪れた時の写真が何枚か載っていたからだ。正直言っていい気持ちがしない。わかりやすいたとえ話をすると「なんだ私とデートした次の日に、この人、別の人とデートしているじゃん」ということになるからだ。博士、あれはないよ。失礼だよ。それに日記というのは私にとっては、いつも自然体で生きている私の姿をそのまま書いているだけ。アングルで日記を作るのは邪道だよ。日記を私流に定義すると「ああ、俺はまだ生きているんだ」という証明なのだ。死んだら日記は書けなくなるもんね。それに俺と〝紙プロ〟を同じレベルで扱って欲しくない。それだけは博士に言いたい。

★5月25日（金）

午後6時40分、新宿の街をぶらぶらしていたらケイタイに〝紙プロ〟のチョロから電話がある。午後6時に更新された私の〝往生際日記〟を見て「ボクは間違っていません。〝紙プロ〟を視界から消さないで下さい」と言ったので「言い訳をするな。お前が悪い」と言って一方的に切ってやった。その5分後、今度は吉田豪ちゃんから「今回の日記はとにかく最高。無差別にいろんな人に噛みついているのが最高!」と、最高という言葉を何度も言った。

あの辛口で意地の悪さでは超一流と自他ともに認めている豪ちゃんが、わざわざ自分の方から私に電話してきて、それも人（他人）をほめることは、まさしく前代未聞の出来事。私は〝してやったり〟と思った。なにしろ日記が更新してから1時間もたっていないのだ。これはうれしい限りだ。気分がいいよ。これも私の中では〝VIP待遇〟なのだ。

★5月29日（火）

ロックウエストの田中社長から電話があり、一揆塾の申し込みがすでに17人あったという報告を受ける。その中には京都に住む人もいたそうである。え、京都から。それは凄すぎる。

『紙プロ』の片山君が体験入門を受けて、感動し涙を流したそうだが、そういうのはやめてもらいたい。人のわからない所で泣け。『紙プロ』のほかの連中に知れたら、私まで格好悪くなるではないか? そういう気を使ってくれないと君はものにならないぞ、きびしく注意しておく。

★5月30日（水）

『SRS・DX』の新しい号が届いた。藤田vs高山戦が表紙。タイトルは〝毒と夢〟。なんとばかばかしいほど陳腐ではないか。座談会は今ごろWWFを〝黒船〟と言っている。WWFは今、ピークを過ぎて下降線にはいっているのだ。また日本に来る意志はまったくない。こいつら何も考えていないなと呆れてしまう。

桜ちゃんにラブレターを書こうとするが書けない。物事は最初が肝心。ゲイリー・ムーアのCDをかけて気持ちを高めるが、どうしても書けない。

外に飛び出して自転車で本奥戸橋から平和橋をぶっ飛ばし1周した。それでも書けなかった。頭が痛い。

★6月1日（金）

家で巨人対広島戦を見ていたら、上原が打たれて巨人がボロ負けしていたので、チャンネルをカチャカチャしていたら「ミュージックステーション」をやっていた。アイコと小柳ゆきの歌を聞いた。アイコは〝ルーザー〟という題名だったのか、詳しいことはおぼえていない。

小柳の方はたしか〝my all〟という曲。この両方とも詞もメロディも最悪。第一、歌詞になっていない歌になっていない。ひどい詞である。愛がどうした恋がどうしたという内容だが、なんの説得力もない。あきれて腹が立った。

あれだったらオレでも作詞・作曲ができる。適当に詞を書いて、適当に声を張り上げて歌になる。才能のかけらもないとはこのことだ。よくあんなダメな連中を相手にタモリさんは司会をやっていると思う。自己憎悪にならない方がおかしい。

俺の原稿はもう載せなくてけっこう。私は一方的に電話を切った。本当にダメ人間が多過ぎる。不愉快だ。

さすが豪ちゃんだ。5月27日、石和温泉に来ていたら一緒に温泉に入ってのんびりできたのに。

ターザン山本の

http://www.nifty.ne.jp/minorpower/

SMACK GIRL
2001年6月28日(木)

プロレス＆格闘技ファンが高じてスマックガールでビューを果たしたナナチャンチンとターザンの2ショット！

★6月4日（月）

午後10時、上野駅のすぐそばのホテルに泊まっているサスケを直撃。

この日、試合を終えたサスケをつかまえ『プロレス激本』のインタビューをした。サスケが大の映画ファンで一番好きな映画が『タクシードライバー』と言ったのには私と意見が一致。「山本さん、あの映画は今の若者に見せるべきですよ」とサスケはその時、声を張りあげた。もう一つ「ケイタイは現代の悪魔だ。オレが試合で脳をやられた時、ベッドでケイタイが鳴り、それを耳にあてた瞬間、頭がガンガン響いて強烈な痛みを感じた。ボクはあれは絶対に体に悪いですよ。それを体験したんだから。それにあんなものに1ヵ月、お金を取られているのは、バカですよ。ケイタイは世の中からなくすべきだ」と言ったのには笑えた。サスケはいい。私と話が合う。このインタビューは大正解だった。

★6月6日（水）

『週刊ゴング』の"GK"こと金沢編集長とアリーナのすみで雑談した。彼は私にマット界のことをいろいろ教えてくれる。それは私が原稿を書く時に大きな助けになる。ありがたいことである。そうしたら私のケイタイが鳴った。何かと思ったら浅草キッドの水道橋博士が「金沢編集長と仲がいいじゃないですか？ ターザンのことはいつもボクらは見ていますからね」と言った。博士、君はターザン山本のストーカーか？ 私に気を取られるよりも試合を見ろ。そんなのプロレス観戦の邪道だ。しかし私は悪い気はしなかった。

★6月11日（月）

6月末に発売される単刊本『プロレスのあばき方』の校正がどかっときた。読むのが面倒臭いので版元のエンターブレインには、著者校はパス。そのかわりそちらできっちり直して欲しい。くどい言い方はどんどん直して、わかりやすく読みやすい文にしろ。さらに固有名詞は最初はフルネーム、次は略す。たとえば『週刊プロレス』は週プロに、長州力は長州にと行った具合に"統一感"を出すようにと。それだけはきつくお願いした。

『紙プロ』の編集部に寄ったら吉田豪ちゃんと山口編集長の奥さんである一枝さんの2人しかいなかった。チョロに会いたかったのに…。彼は出来の悪い末っ子の兄弟といった感じがして、なかなか憎めないのだ。豪ちゃんは私がこの日記で小柳ゆきに噛みついたことを、えらく気にいっていて盛んにほめてくれた。だって本当に彼女が歌っている歌（my all）は、どうみても才能がないんだもん。もう一度言う。あれはひどすぎる。

★6月13日（水）

家に帰ると郵便が届いていた。その中に新しい号『SRS・DX』があった。パラパラと見る。別に読む必要はない。そのかわり私は出ている人の"人相"を見るようにしている。人相を見ればそれで十分だからだ。そう思っていたら夜、友人から面白いことを教えてくれた。座談会の中で『紙プロ』の山口編集長が吉田豪ちゃんの言葉を紹介してくれた。「こんな試合（『PRIDE14』）をみるならターザン山本の講演会に行った方がよかった」。えらい。さすが豪ちゃんだ。5月27日、石和温泉に来ていたら一緒に温泉にはいってのんびりできたのに。豪ちゃんは私のことをよくわかっている。私はこの世の中でひとりでもいいから自分のことをわかってくれる人がいたら、もう人生においてはなにもいらない。私はそういう人間なのだ。そのほかの人たちには私のことを誤解する自由を与える。ただしそれは感性のリトマス試験紙。感性の実力測定と考えてもらうしかない。

一揆塾ではいったい何が行われているのか？

もともとプロレス記者になることを夢みていたボクは、ターザンの「きみィ！　プロレス記者になりたかったら大阪にいちゃあダメだよぉぉぉ！」の一言で迷わず上京。「え？　ホントに出て来たの？　いま、この業界は厳しいからねぇ（しみじみと）。チャンスを待つんですよ！　チャンスを！」と、上京より約1年、何もしてくれなかったターザンの「オレが保証人になるよ！」との突然のフォローが効いて第一志望の『紙プロ』に合格。そして入門より半月、ターザンがプロの編集者を育てるという『一揆塾』の取材を志願したボクだったが、『紙プロ』記者として、憧れだったターザンに向かい合ってる自分に感動せずにはいられず、開始5分で涙ボロボロ前も見えなくなり、当然「一揆塾」の内容はほとんど覚えていない。でも、あの炎上ぶりでは一期生の卒業と共に、ターザンは燃え尽きて死んでしまうかもしれない。一期生のためだけの「一期塾」ということなのだろうか？　だけど、ターザン！　あなたが探していた"拾いもの"はきっとボクです。さようなら。

（片山ぽんちゃん）

爆笑新連載

ほんとにジョーク

更級さんがやらないのならオレがやります！（勝手に）

埼玉県坂戸市
中川雅博

誰がイチバンB'zファンか決めればええんや！

田中

成瀬

●応募方法
プロレスに関したものなら何でもけっこう。ジョーク、ギャグ、コント、漫画、標語、何でもいいんだ。とにかく〝ホントニ面白い〟ヤツを頼む▼毎月1名の作品をこのページで掲載。めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼントします。▼原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ。当然のごとく作品等は返却しません。

当コーナー担当★
松澤チョロかく語りき

「皆さん締め切りは必ず守って下さい！」

毎月15日必着！　締め切り厳禁!!　でも間に合わなかったら次の月へスライドする場合も有ります。
今回は本家を意識してややヌルメです。もっと毒々しいネタでもノー問題！　ジャンジャン送って下さい。

〒151-0051　渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス　紙のプロレス編集部「ほんとにジョーク」係

イラストレーション
中川雅博

JUNE.2001

BEST OF THE スーパーコラム™

ご満足いただけたか、わかりませんけど、本当に手作りのスーパーコラムです。押忍！

★今号のラインナップ★

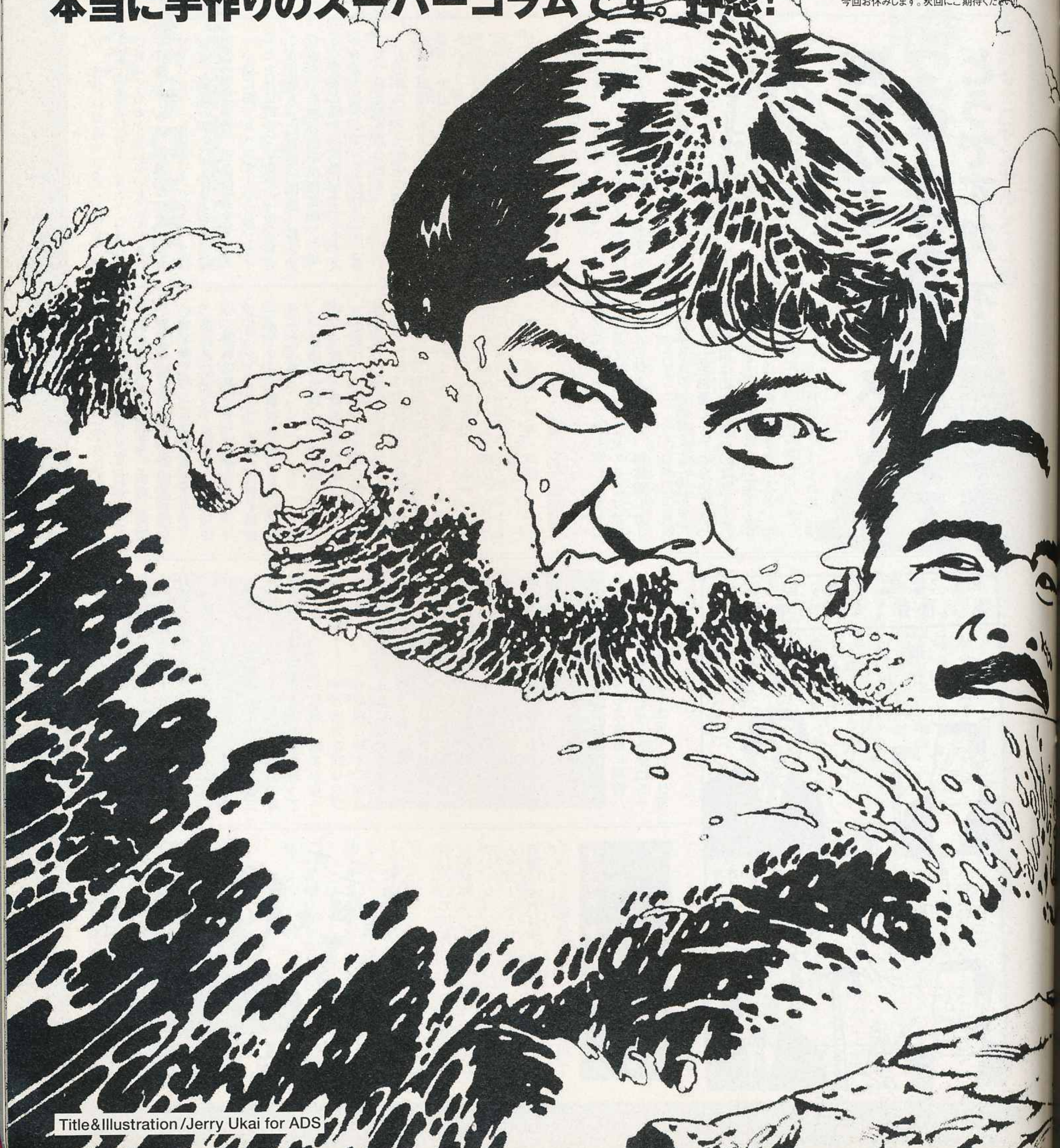
※真下純子さんの『ひりきな奥さん』は今回お休みします。次回にご期待ください!!

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

BEST OF THE スパコラム

シェインのダイブには脱帽！

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

来年のアブダビ・スーパーファイトは桜庭vsニーノでどうですか、不思議王子様

「悪魔を憐れむ歌」、ストーンズの中で一番好きなこのナンバーで自分が入場する妄想をいままで何回しただろう。だからこないだの高山がうらやましかったなあ。ストーンズバージョンじゃなかったけどね。とにかくあの曲は最高なんです。高阪のストーン・ローゼス、ヤノタクのハカイダーのテーマ（身内の大会で使用してた）以来のうらやましい入場でした。そして試合はサンダ対ガイラだった。

ニーノ参戦はうれしいが、寝技は最高もスタンドは見ててヒヤヒヤしっぱなし。あれでは今後誰に負けてもおかしくないと心配。負けて評価下げる前に桜庭と打撃なしのサブミッションレスリングでやってほしい。来年のスーパーファイトはこれでどうですかね、不思議王子様。

小路に勝ったヘンダーソンがプライドガールに抱きついたが、プライドガールは明らかに戸惑い困惑。第2次UWFで前田と船木が抱きあったが、よく見ると船木は拒絶してるんですよぉぉぉ！とターザンが力説してた『週プロ』黄金期を思い出す。

大山のストップはやっぱ早いよね。桜庭や藤田がああなっても止めんのかな？　大山こそ、もう一丁だ。がんばれ。

プライドはそんなとこで、6月はコンテンダーズでしょ。こんなに見る前からワクワクさせたのは、そうはない！　浮き足で、ゆりかもめに乗ってお台場へ向かった。

山本KIDvs小室……山本が1R取ったのはいいとしても、2Rがイーブンなのは納得いかない！「判定おかしくないか？」とヤジリたくなったが、そんな勇気はないのと声が細いので届かなかったらハズかしいの二重苦で断念。極めのある小室の方が面白いので勝ち残ってほしかったナリ。

若林vs阿部……目的が一本取りにいく若林は素晴らしい。サブミッションレスリングとは一本取りに行く競技なんです！　観客もそれを見に来てるんだよね。

戸井田vs矢野……「喧嘩っ喧嘩っ喧嘩っ喧嘩っ骨法！」と骨法のテーマが流れ、一瞬もはや幻の骨舟同盟が復活！んなわけないか。一本取れなかったらいつも通りに判定負けのヤノタク。これでまたも対バレットが消えてしまった、残念。

バレットvs五木田……今やっても面白かったが4～5年前ならもっとスリリングだったカードかも。

廣野・漆谷vs石井・阿部……ただでさえタッグだとお笑い的で緊張感なくなりつつあるのに、WKネットワーク同志でやるので更に緩い空間になり、見てる方はただ見てるだけ状態でなんの印象もなし。観客殺しカードか？

山本KIDvs若林……この試合中、ずっと「若林勝て！」と念力を送った。理由は山本が強いのは判るんだけど、まだ試合スタイルはつまらないから！　決勝のことを考えると、ホント若林に勝ってほしかった。

バレットvs戸井田……それにしてもヤノタク&バレットに寝技で勝負して互角に闘う戸井田凄い。いま植松と再戦したらどうなるだろうか？

上山vs石川……見てたはずだが何も覚えてない。緊張感はあったけど。

宇野・高瀬vs鈴木・伊藤……トーナメント以外で一番楽しみだった。だってさ、高瀬が鈴木みのるから三角極めちゃいそうでしょ!!　恐いのは体格差だけだろ（たぶん）と思ってた。もうずっと「高瀬、鈴木から一本取っちゃえ！」と念力を送りつづけてました。でも高瀬と鈴木の絡み少なくて残念。それにしても鈴木の存在はいろんな面ででかった。

五味vs星野……はじめは五味にとってキツイカードだなあと思ってたが、五味凄い。底力を感じた、これでタイトルマッチへ弾みをつけたね。

メイン決勝　バレットvs山本KID……準決で若林が勝ってればなあとつくづく思った。

ということではじめの期待から、徐々に盛り下がりつつはあった今大会。しかし、いつも大会前に期待パンパンにふくらまさしてくれるコンテンダーズには今後も注目。カギは選手しだいではないか。この大会は客から金を取ってるプロの試合、そしてサブミッションレスリングは一本取ることをゴールとした試合。これをもっと自覚させれば少しは変わるのではないでしょーか？

どーしてそんなに次から次へと面白いのか？

はなくま・ゆうさく■バンバンビガロより一年間で数種類のTシャツシリーズ作製決定。7月から発売か？

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ(ロマンポルシェ。)の

祭☆勝ちます

『O編集長の喫茶店トーク』の巻

BEST OF THE スポコラム

モー娘。を理解するには朝から晩までプロレスのことを考えろ!

R大学3回生のKくんがある日こんなことを私に言ってきた。

「今回のモーニング娘。のシャッフルユニットっちゅうのはなんですか、あれ。なんで10人祭なんていう寄せ集めのガラクタ集団に吉澤が追いやられねばならないんですか。メロン記念日が3人も入ってるわ、保田までねじこまれてるわじゃあ、これでは最初から敗戦処理でしょう」

この手の質問を受けるたび私は思わず空を仰いでしまう。

彼等のような『平成のデルフィン』たちを前にしてはモーヲタ者のBさんですら「頭数が多い分、ヲタの数も多いんやからチャートアクションええんとちゃいますか」などと筋違いのレクイエムを奏でかねない……。

言うちゃあ悪いがね、何年モーヲタやっとるんだと言いたいんだよ、俺は! 俺なんかは大阪府立で猪木とドリーが60分フルタイム闘った時代からモーヲタやっとるんだよ!! 「モーニング娘。と新日本プロレスは合わせ鏡である」という定理に則って言えば、こんな愚問に即答できず逡巡しとるのはモー娘。への愛情が足りん証拠だと言うんだよ(ドンドンドンと机を叩いて抗議し、コップになみなみとつがれたスプライトをひっくり返す)!!

今回のシャッフルユニットをじっくり見てみろと言うんだよ! 10人祭が〝新日本隊〟、7人祭が〝ZERO-ONE〟で、3人祭が〝UFO〟を意味しているということは一目瞭然なんだよ!

モー娘。の一匹狼=りかっちは小川。早々に本隊を飛び出した小川が佐山と猪木と結託して闘魂ダチョウ倶楽部を結成していたように、石川もカントリー娘。にレンタルされる形で〝母艦プロレス〟を実現していった訳だよな。

3人祭は加護(村上)と松浦(小路)という実力者に守られて王道アイドル浪漫を突き進むに決まっとる。

7人祭はゴマキ=橋本が引っ張っとる以上、実質上の本隊であり、勝ったも同然! 本隊にいるときはジュニア(ミニモニ)で頑張っとった矢口が本格的な『プロモニ戦士』に転向したしな。「オイ、これだけはいっとくぞ。この先、矢口真理を取った団体ユニットは台風の目になるぞ!」という入団時のコメントも実にふるっていた。矢口あたりを目覚めさせてしまった『プロモニ』ってのは時代の要請であってな、当然っちゃあ当然過ぎることなんだよ!! レファ(ジェラルド・ゴルドー。ただ外人だというだけで)も参加することになったしなアンタ、ここはほっといても問題ないだろ。

そして肝心の10人祭が当然新日本隊であることは誰の目にも明白だよな。「保田が入ってる時点で平成維震軍ちゃいまっか」とBさんなんかは言うんだが、俺なんかに言わせりゃあアンタ、今の新日本隊なんて維震軍以下だよ!! 維震軍並の結束力と血の団結が今の新日にあるのかって言うたら誰もが「ノン!」と言うだろ? 手駒が歩でも香車でも保田(越中)って漢はそいつらをまとめあげて成金させてしまうんだからな。ただ、今の新日=10人祭の中では保田は浮いているだけだし、ただのカメラ小僧でしかないよ。吉澤(藤田=腕っ節の太さが)一人の力量じゃあどこまで売れるかもわからない。だが、それでも新日本隊に猪木(つんく)が一番情をかけているなとわかるのは、最も王道の路線を新日に託していると見えるから。何故かって? そりゃアンタ、コスチュームみてみろというんだよ!! 10人祭だけが全員ハッピ着て3ユニット中唯一、祭らしいことをやらされとるからじゃあないの!!

面子は確かにやまびこ学級、アパッチ球団並かもしれん。だが、それもこれもつんくの、「ピンチをチャンスに変えろ」という猪木流の愛情表現なんだよ!!

ピンチの中で己を磨け、とつんくは言うとるんであって、彼女たち10人は逆に「選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり」と思えと気をかけられまくっとるんだよ!!

それが何故わからんのか、そっちの方が理解に苦しむと言うとるんだよ、俺は!!

これだからデルフィンは困るよ!!

KING OF SPORTS NEW JAPAN PRO-WRESTLING = 恋愛レボリューション21 モーニング娘。

俺は何度も口を酸っぱくして言い続けてきたはずだよ! 「モー娘。を理解するには朝から晩までプロレスのことを考えろ」とな。

娘。がプロレスだということを「今更」の一言で片づけようとするから、しっぺ返しを食うんだよ! つんくという男は誰よりもプロレスのことを考えて居るんだから、俺なんかがつんく以上にプロレスとモー娘。をタイトロープで無理矢理くくりつけて綱渡りせんでどうするという話なんだよ!

言うちゃあ悪いがね、新日本プロレスとアップフロントの商売に符合を感じないようじゃあ、モーヲタの看板をとっとと降ろした方がいい! 木村健吾がCD出すのもシェキドルに刺激を受けたからこそインディーズリリースなんだし、〝ハロプロショップ〟なんてアレも〝闘魂ショップ〟みたいなもんだしな(ただのショップつながり)。そのうち業務提携がハッキリした形で行われ、天コジと加護辻のトレードなんかも現実としてあり得ると言うとるんだよ!! タンポポに天山、青色7にコジマックス加入は時間の問題! なんて言うたらアンタ、今はデルフィンたちに笑いものにされるんだろうがな、ベルリンの壁だって今じゃあ跡形もなくなっとるんだよオォォオッッッ(ドンドンドンドンッ、バキーッ!! 激昂のあまり、テーブル真っ二つ)!!

ハァハァ……誤解されんように最後に一言だけ言うとくがね……、I編集長、ゴメンナサイ。

おきて・ぽるしぇ■できるだけくだらないエロビデオを用意し、音だけ消し[illegible]上から『戦メリ』のサントラをかける。なにか非常に高尚なビデオアートかなんかを観ているような気になるので不思議。坂本教授の偉大さを再確認中です。

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

実録 最狂プロレスファン列伝

構成/イナズマ★K

PROFILE

No.15 DARTHREIDER (MICADELIC)

彼とSANADAJINの2MC十ターンテーブルのDJ OSHOWによるヒップホップ・ユニット、MICADELIC。決してゲテモノにならないエンターテイメント性を追求するスタイルは、B-BOYラッパーの中で逆に異彩を放っている。DARTHREIDER & DJ OSHOW名義のアルバム『WELCOME TO THE 変態 ZONE』の中の『RAMBLE』は、全編プロレスネタ・リリックの衝撃ナンバーだ。「プロレス技やレスラー名って言葉のパワーが凄い。今後シリーズ化してそれ分かるよう吹っ飛ばしていきます」。"ビッグバン・レイダー"にするか"ダース"にするかで迷った彼の、できたて(!?)ミステリアス・プロフィールは『ナゾの黒人に拉致されアメリカのラップ道場へ。そこで"男ならヒゲを生やせ""しゃべる時はマイクを通せ"とマイクパフォーマンス徹底的に鍛えらる。ヒップホップ界のカール・ゴッチといわれた●●●から、日本には無い闇のラップを修得』というもの。そんな彼のラップが爆発する新作EP『THE JUKE BOXING』も現在発売中だ!

和製ババレイ・ダッドリー、もしくは懐かしのスモーノブにも通じるルックスのダースレイダーさん。プロレスネタオンリーの『RAMBLE』でリリックを爆発させたスムーズさは、海外生まれ海外育ちというルーツも関係しているのかもしれない。彼は一体プロレスのどんなとこに惹かれていったのか。

「アンドレと同じで、フランス生まれなんです(笑)。フランスに住んだ後、ロンドンに移って、日本に帰って来たのは11の時です。オヤジがブロディと同じく(笑)新聞記者で、その関係で世界中いろんなとこ行ってました。それで海外で見たプロレスが強く焼き付いてるんですよ。イギリスは見てる人が労働者階級で荒っぽくて、飲んだくれたオヤジがビン投げてレスラー血出てたり(笑)。そういうドサ回り的イメージが大きいんです(笑)。あと、ニューヨークでたまたまテレビで見たのが、試合後にエクスキューショナーズっていうのが乱入してきて負けた奴の腕折って。そんなのが家に来たらどうしよう、アメリカは恐いっていう(笑)今だに覚えてる。洗練されてるよりも、うさん臭い、泥臭い感じが好きですね」

サッカーはキャプテン翼、プロレスはキン肉マンにだまされたクチ。ウルトラマンと同じ感覚で普通にワクワクしてプロレスを見た彼は、ゴールデンタイムのプロレスがギリギリ見れた世代。中学、高校の時はみごと梶原一騎マジックにかかって『列伝』を全部信じていたという。この和洋折衷の擦り込み感覚が、音楽をやる上でもみごと反映されている。

「ファンキーなものって好きなんですよ。プロレスのドロドロしたとこも通じてて、感覚的に匂いが出てるのが好きなんです。遠く離れてるよりも、テレビ見ててもクサいぞみたいな(笑)。オレが音楽やる上でもそれを感じてもらいたいです。生で見るとマットやロープ、チョップの音一つでも違うじゃないですか。それと同じ感じをライヴのエンターテイメントとして楽しんでもらえれば」

弾かないキーボード持ってラップしてたりするのも「場外で都合良く置いてあるイスやゴングと一緒の感覚」だという。

「何でキーボードがあるんだって(笑)突っ込み所のある、余裕のある感じでいきたいですね。今の新日は、狙ってそうで狙ってないですよみたいなのじゃ突っ込めないですよ(笑)。橋本は今コンビニ弁当業界を賑わしてるんで、そんな所で大活躍かって突っ込めますよね(笑)。どの弁当よりカロリー高い時代と逆行ってる所が、プロレスのゴリ押し的でいいです(笑)。小川も話し読んでておもしれーって思うし」

プロレスのミステリアスな部分が好きだという彼が、今の日本のプロレス格闘技界の物足さへ改革案をブチあげてくれたぞ。

「リングスも昔ヴォルグ・ハンとかナゾめいてましたよね。プライドはグレイシーやっつけちゃったのでナゾの部分が減ってきちゃって。やっぱり好きなのってなると昔の外人レスラーになっちゃう。頭の良い人が筋書き考えないとダメですね、梶原一騎に皆一緒にだまされてたみたく(笑)。昔のまんまじゃなく、プライドの予習で新日本キックを見に行ってホンモノのケリを見たとか、ボクシングでボブチャンチンのパンチじゃ倒れないとか(笑)あちこちを気になるように仕立て上げて。ミステリアスなところもいろいろまぜエンターテイメントとして盛り上げて、誰が強いのかって決めてったら面白くなりそうな気はしますよね」

あと最近の格闘技とヒップホップの融合、みたいなのは、彼のスタンスとは違うようだ。

「殴ってる横で踊るなんて事は無いんだし。レスラーはレスラー、ミュージシャンはミュージシャンの価値体系でやってた方がぶつかった時に面白い効果があって良いですよ。入場曲もやるんならバシッと。ただWWFがヒップホップの人と組んだああいう企画は嬉しいんで、もしあったらメチャクチャ頑張ります呼んでください(笑)」

最後にプロレスとヒップホップの共通点と彼の目指す方向性を見事まとめてくれたぞ。

「いろんな音楽のおいしい所を全部集めて、これはヒップホップだって見せてたりするのでプロレスと一緒じゃんと(笑)。昔レスラー最強って平然と言えてた時代があったように、そういう意味でヒップホップ最強みたいなものを納得させるものを作って行けたらなあと。例えばこれ読んでるプロレスファンが興味持ってもらえるくらい、説得力のあることの言えるジャンルにしていきたいですね」

MICADELIC
THE JUKE BOXING

DARTHREIDER
SANADAJIN
DJ OSHOW　ヒゲ
FUNK PRODUCTION

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

vol.6 金の価値・不器用の価値の巻

ブラジリアン柔術の世界ではハデハデなパッチを見れば分かるように「スポンサー」というのは一般的な世界のようだけど、日本の格闘界ではまだごくわずか。今回はそんな中で日本のバスコダガマはAVメーカーだった!ってお話。

7月24日(予定)のクラブファイトからフリーの女子格闘家・高橋洋子選手をスポンサードすることになったのがセルAV業界NO1メーカー・ソフトオンデマンド(以下SOD)。実は同社は3年前から全日本女子プロレスのスポンサーとしてリングや選手用Tシャツの提供も行っているので、AVを見ない人でもその社名は見聞きしたことはあるのでは? 今回はSOD代表取締役・高橋がなりさんに話をお伺いした。

「要は俺、不器用に生きてる人間が好きなんですよ。それでなおかつ自分の目標があって、その為に頑張ってる物作りの人。全女の子達も感動を作ってるんだけど、ホント儲かってないんだよね(笑)。しかも3年前って選手が大量離脱して、倒産してって時期。全女さんとは僕がTV番組作ってた時からの付き合いもあったし、ちょうどウチの会社もお金が出来てきたんで、ホント後付けじゃなくって応援してあげたいと。そしたら向こうからリング作りたいんで作ってくんないかって。あと聞いたら毎日リング組む時鉄柱運ぶんで肩が痛いと。じゃあそこにパットが入ったプロレスラー用Tシャツを作ってあげようって。それで喜んでくれるし、ウチにとってもすごく安い宣伝になったなぁって」

元々、高橋さんは柔道歴が長く格闘技に興味はあったそうで、高橋選手スポンサードの話もそういう所からヒョッコリやってきた。

「ウチのデザイナーがJdのプロレス講習会に行ってて、柔道に自信あるなら一度行く?って言われたんですよ。それで薮下って選手がいて誰も勝てないって。それで『身長150何センチ? 俺が負けるわけないだろ!』って、俺小さいんだったらヤワラちゃんでも負ける気しないから(笑)。それで薮下さんと闘ってきたんですよ」

おおAVメーカー社長対グンダレンコを破った女、夢の異次元対決! その結果は?

「最初、腕ひしぎ取ったんですけどね、すぐこっちのスタミナが切れちゃって(笑)。でも凄いのが、最初に『彼女たち絶対ギブアップしないから完全に極めないで』って言われてたんだけど、本当に参ったしないの。その根性が凄く好きだなーと。あんまり気に入って寄付だってお小遣いあげちゃったよ(笑)」

てなわけでJdとの繋がりが生まれ、そこから高橋選手との繋がりが生まれたというわけだ。さっそく高橋選手は次回大会からSODのロゴ入りタイツで出場するということ。

「それでこの前本人に始めてお会いしたんだけど、不器用そうで良かったですね(笑)。だってさぁ、普通だったらスポンサーになる会社の社長にお世辞のひとつも言ってもいいじゃないですか(笑)、そういうのがないんであらためてこの子で良かったな、と。上手く泳いでるようなやつは嫌いだから」

また、高橋さんはプロレスや格闘家のスポンサーになったもうひとつの理由をこう語る。

「AVと格闘技って一緒なんですよ。要は疑似体験じゃないですか、いい女とセックスできないとか人を殴りたいとかの。だから男優にいつも言うのが、視聴者の代わりにヤるんだから思い入れ出来るようにしろ、と。とにかくファン層がすごく似てる人たちなんですよね。だから全女のスポンサーになる時も、普段は会社の金はAVのお客さんから預かってる金なんだから勝手に使っちゃいけない、と思ってるんだけど、ファン心理が近いって事を考えるとプロレスにお金出すのはありかな、と入りやすかったですね」

ちなみに高橋さんは前回紹介した『女空手家vsレイプ魔』のプロデューサーであり、これまた以前紹介した『一軒家プロレス』『バーリトゥードin商店街』など安売王のプロレスビデオのプロデューサーという過去もある、当コーナーの父のような人なのだ。しかも以前のTV制作会社時代だとこんな話もあったりする。

「僕の先輩が『ギブアップまで待てない』やって大非難喰らっちゃったんですよ。もう内容はヒドいわ視聴率は取れないわって。救いはベイダーが生き残ったことで『あれは俺の企画なんだ!』っていまだに言い張ってる(笑)。大日本さんも頑張ってるし、また『一軒家』みたいなバカっぽいビデオは作りたいですけどね。でも高橋や全女に金出したり、『女空手家』なんてビデオばっかり作ってると、SODの大将の高橋がなりは強い女フェチだと思われるんじゃないかと(笑)。全然そんなことないですから!」

おおつぼ・けむた■『紙プロ』十デラべっぴん&ビデオメイトDX8月号で勝手にエロ格闘技祭り開催中。必見!

➡前回紹介した「女空手家vsレイプ魔」の続編『女格闘家ガチンコキャットファイト』が8月9日発売! 今度は女同士の異種格闘技戦だ!

ラーメン王・石神秀幸の

闘魂★たべある記

VOL.5 『パワー亭』

数あるプロレス系のラーメン店の中でも、他の追随を許さぬ存在感を誇っているのが「パワー亭」だ。7年前にオープンして以来、シャッターに描かれた長州力は道行く人々を威圧し続けてきた。「新日経営か？」「長州の副業では？」などの飛び交う噂の真相を探ってきた

プロレスラー系ラーメン店の聖地に相応しい威風堂々たる外観。御本尊リキ様には後光が射しておらっしゃる。
住所東京都世田谷区上馬4-2-6　TEL.03-5430-3460
営業時間11:00～翌3:00休無　東急田園都市線駒沢大学駅より徒歩4分

近年、脚光を浴びてきたプロレス系ラーメン店だが、何と言ってもその先駆けとなったのはここ「パワー亭」だろう。シャッターには龍にサソリ固めをかけるイラストが、あまりに露骨と言えば露骨、長州のドラゴンに対する心象風景が見事に描かれた名画と言えよう。是非ともその気概で参院選出に待ったをかけてほしいところ。橋本の甘えを一喝し、ZERO-ONEへの選手貸出拒否を公言しつつ、プロレス界活性化のために選手交流せよと三沢へ呼びかけてしまう迷走ドラゴンの事、当選しても公約なんて覚えてる筈がない。プロレス界のイメージ悪化を防ぐために断固阻止してもらいたい。雑誌のインタビューなどでは、新日の選手は好きなラーメン店として必ずこの店を挙げる。特に小島は大のお気に入りらしい。「新日が経営してるのでは？」「長州の副業らしい」等々、様々な噂が飛び交っているが、その真相を確かめるべく店に入った。壁には「ラーメン界にラリアート」という貼紙が。全くもって意味不明だが、そこに（金沢以外には）コメント不足の長州イズムを感じるではないか。意外にも店内はファミリーが多い。食後にはアイスクリームをくれるなど、豪快ようで繊細なサービスを織りまぜているのが人気の秘密か。オーナーは北海道にいるそうで、店長に事情を伺った。「オーナーがリキさんと友達なんですよ。それでメニューをリキさんに色々アドバイスしてもらったんです」やはり新日の選手はよく来るらしい。「一番よく来てくれるのは健介さんですかね。それから馳さんや蝶野さん。小島さんですか？　一度も見たことありませんよ」？？？

おかしい…長州の圧力よる嘘偽発言なのだろうか？　新日の恐怖政治に身の危険を感じながらも、真実の深淵に迫るためにインタビューを続ける。妻や子供いたらとてもこんな危険な取材は出来っこない、独身ならではだ。店長のお気に入りは何と健介。これまで取材してきたラーメン店からケチョンケチョンにけなされ、ラーメンマニア支持率0パーセントを誇っていた健介に、ついに支持者が現れた。それにしても橋本戦前ならいざ知らず…。「健介さんの試合は緊張感がありますよ」確かにどんな試合もしょっぱくなってしまいそうな緊張感はあるが。長州のコピーとか言われてるけど？「全然コピーなんかじゃないっスよ（怒）スタイル、全然ちがうッス。真剣に試合を見てれば、絶対わかりますよ」正直すまんかった。どうもそこまで真剣に健介の試合を見れなくて。こんなにまで純粋に健介を擁護するファンがいようとは。失踪してる場合じゃないぞ、健介カムバック！「失踪なんかじゃないッスよ（怒）健介さんは逃げるような男じゃない！」

無償の愛に感動しつつ、健介お気に入りの「達人三点セット」をいただくことに。これはパワーラーメンと特製キムチ、ライスのセットで、麺を食べ終えた後のスープにライスとキムチをブチ込んで即席クッパにしてしまう、いかにもレスラー向けの豪快なメニュー。しかしながら味は確か。スープは一口で啜ると辛さが猛然と襲いかかってきて、ドッと汗が吹き出てくるが、深みのある辛さで実に後を引く。鶏ガラでしっかりとダシをとっているので、辛さばかりが浮き立つことなく調和の取れた一杯に仕上がっている。しかしこの量はやはり我々一般人にはちとキツい。達人と言うよりレスラー三点セットというネーミングが相応しいだろう。「健介さんは丼はガバッと持って豪快に食べてくれるんです。見てて気持ちいいですよ。」最後まで揺るぐことのなかった健介賛歌に、新鮮な気持ちで店を後にした。長州ー健介ラインをそのまま模したようなこの店。彼らのように凋落してしまうのか、逆に彼らを援護射撃するように繁栄するのか、思いを巡らせていた私の目に、信じ難い光景が飛び込んできた！「STUDIO NOAH」！　店からわずか二軒隣、しかも中からはサクTを着たジャイアント落合似のアフロ男が！『PRIDE』やNOAHに外敵を包囲された新日の絶望的な未来を暗示するようで、いつまでも震えが止まらなかった…。

これがパワー亭達人三点セットだ！

これがパワー亭の能書きだ！　キメ手の一発！

そしてパワー亭の二軒隣は、なんとNOAHだ！

いしがみ・ひでゆき■近頃は宮戸優光氏とタッグを組んで美味いレストランの発掘に力を入れている。最近のヒットは宮戸氏に教わった世田谷区赤堤の広東料理店「火龍園」。前菜からデザートまで全てにおいて死角なし！

武田いづみの

ディスカバー・シンニホン

VOL.4 コシティーとは何か？の巻

なにかと不満が多くなりがちな現代社会。いちいち腹を立てていたら身が持たないわけだが、どうしたってちょっと納得いかないことというのはあるものだ。先日、『週プロ』で久しぶりに〝虎ハンター〟小林邦昭を発見。喜んでいたところ、そんなゴキゲンな気分をひっくり返されるような一文が、サラッと、ごくあっさりと記事の中にあった。

記事は、引退したレスラーの復帰について、ひとこと言わせろ、というかたちで、激怒する虎ハンターの主張がブチまけられているものだが、問題は、そのなかで虎ハンターの現在の仕事について書かれた部分にある。現在は、新日の道場設備の充実や、選手の健康管理に努める虎ハンター。いままで夏場は蒸し風呂状態で、もちろん言うまでもなく、スクワットする選手の足元には汗の海ができる状態だった（推測）道場に、「扇風機を設置」したりしているらしい。さらば、床上1cm（推定）の汗。しかし問題はそこではない。設備の充実をはかる新日道場から「コシティー（注：こん棒のような木製の練習器具）など昔ながらのものが姿を消した」というところだ。そのかわりバーベルやら、ダンベルやらの種類が増えて、きれいに配置されているらしい。それはさながら「アメリカのジム」のように。『週プロ』（談）。ジムはわかるが、なんで「アメリカ」なのか、というところに『週プロ』の謎掛けがあると勘ぐれないこともないが、たぶん謎なし。で、それはいいとして、消した？　じゃあ消えたそれはどこへ？　ゴミ？　燃えるゴミ？

コシティーは、新日に残された、いまや数少ないゴッチイズムではなかったか。新日が燃えるゴミの日に出している間にも、海の向こうの神様は、コシティーをブン回して「人を殺せる練習」をしている。

プロの身体づくりに口を出すのもアレだが、たとえば、うどんを食うときは「手打ちうどん」と「機械打ちうどん」、どっちに金を払って食うのか選択権ぐらいあるはず。どっちも同じうどんだが、つくる過程も重要なのだ。うどん屋がバッシンバッシン打ったうどんと、機械からテンポ良くつくり出されるうどん玉。近代的なのは機械だ。じゃあ、近代的ならエライのか。もしも、人の手の圧力などをカンペキに計算した機械が発明されたとしても、「手打ち」は、なくならないだろう。「手打ち」という行為、言葉、それ自体にブランド感と、うまそうな雰囲気があるからだ。食う客は、つくられる過程にもうまさを求める。

新日本にとって、「プロレスの神様、カール・ゴッチ」は、とっくにブランド感をなくしているのだろうか。平成ファンと呼ばれる「客」は、人を殺す方法をいつでも考えているレスラーに、うまさを感じないらしい。ゴッチなんて単なる物騒なじいさんで、現役時代もプロレスがヘタだから対戦相手がいなかったんだ、という意見を目にした。どうでもいいけど、この人は「物騒なじいさん」という存在がおもしろくないのだろうか。

H13 3月 29日

お友達のりょうこちゃんが書いたいづみちゃん（たぶん）

機械をガシャガシャ動かして、メシも食わずにプロテインを飲みまくる「近代的トレーニング」は、もちろんすごいにはすごいが、コシティーをブン回して、食ったら何キロ、飲んだら何ガロン、というプロレスラーって、やっぱりうまそうだと思うけど、どうだろう。機械打ちのうどん屋に「手打ちより、こっちのほうがうめぇんだよ！」と言われたら「そうですか」だが、手打ちに価値を見出す客なら店を変えるんじゃないだろうか。とはいえ、近代的であれ、「手打ち」的であれ、「うまりゃいいじゃねぇか」ということが前提なのだ。しかし近代的でうまいものが新日にないのが、消されてしまったコシティーより問題だ。

たけだ・いづみ■現在出稼中（プロレスのために）。「コシティー！」とか言いながらペットボトルをムチャクチャ振り回してスジを違えたことも。人を殺せる練習は「なっちゃん」じゃできませんでした。

ザ・検証
プロレス点と線

編集者としてのブタは坂井君、人のらくだは大塚君というわけで、ボクも担当として精一杯やる象!(次号から)。前号でも前々号でも、さらに、もう一丁! 前々々号でも公開予定だった「死神Tシャツ」は一番暑いTシャツ日和の次号でお披露目します!

ザ・検証

【今月の検証】
編集者としてのブタ
by 椎名基樹

ブタが『紙プロ』を辞め、このページの担当を降りた。ブタとはもちろん、スモー・ノブこと、坂井君のことである。突然の引退は、まさに豚走、いや、ブタだけに尻尾を巻いて逃げ出したというべきか。そこで、今回の検証テーマは、「編集者としてのブタ」。ブタの思い出を書きつづることで、死豚に鞭を打ってみたいと、思う。ブーブー。

まず、ブタで思い出されることは、「原稿催促の仕方がものすごく腹が立つ」ということだ。俺は原稿が遅い。しかも、たまに落とす。いけないことだ。いけないルージュマジックだ。しかし、近頃ではやっとそれがすごくいけないこと気づき、原稿を落とすようなことはなくなった! うん、落とすようなことはしない! 落とさない! 落とさないんだよ! 改行。

しかし、原稿は遅い。と、いうかキッチリ締め切りを守るようなヤツこそ、信用できぬといえよう。テメーらどうせ、「文字数埋めればいいや」ぐらいに思ってるんだろ?……いいや、違う。一体、俺は誰に向かってエキサイトしてるんだ? 締め切りはキッチリ守ったほうがいいに決まってるし、当然だ。俺は何を言ってるんだ? 逆ギレごめ~んね。改行。

俺がエキサイトしているのは、ブタの催促の仕方であった。ブタの催促はいきなりまず、「本当ヤバイんですよ、もう本当これがデッドなんですよ」から始まる。いきなりそんな言い方するのは、いろんな編集者を見てきたが、ブタくらいのものだ。まず俺は、そこで「カチン」とする。で、よくよく聞いてみると、まだ発売日も決まってなかったりする。なのに、連日、何回も何回も電話をかけてくる。そのうちこっちも、勉強しろといわれるとやる気をなくす子供のように、やる気が失せてくる。あと、毎度毎度、いきなり「デッド」とかいわれると、「本当かよ」という猜疑心も生まれる。で、ムカつくから1週間くらい放っておくと、「今度は本当に本当にデッドです」ってな調子の電話が入る。お前のデッドは、何回あんだよ! こっちだって、署名で書いてんだし、より良いものを書きたいよ! なのに、いきなり「デッド」じゃムカつくだろ! ここで、ライターと編集者の信頼関係はなくなるのである。

ある時、相変わらず、俺の原稿は遅れていた。その時、ブタから電話がかかってきた。俺はまだ書くことも決まってなかったし「うるせーなー」という気分で電話に出た。ちょっと話していたらブタの野郎、いきなり「辞めますか?」と言いやがった。俺は10年以上仕事しているが、こんな屈辱的な気分になったのは、初めてだった。ブタのことだから、言葉の配慮がねえバカってだけで、「今回はやめますか?」って意味だったかもしれない。まあ、言い方は自分にアドバンテージあるつもり満々だったけどね。俺は悔しくてすぐ原稿を書いた。いっとくけど、仕事なくすのが嫌ってワケじゃなく、悔しいのと『紙プロ』が好きだからすぐ書いただけだからな。に、しても、何で俺が、ガキのしかも編集者とは名ばかりの、茶坊主みてえなヤツに、そこまで言われなきゃなんねえの?

その後ムカついたから、半分嫌がらせ、半分本気で、「ギャラをちゃんと払ってくれねえと、お前の催促はやってられねえ」とブタに言った。『紙プロ』のギャラは安くて遅い。値段はともかく、支払いの遅さは尋常じゃない。それでも、書きたいと思うのは、『紙プロ』が世知辛い出版界で頑張ってる存在であることは、素晴らしいし、そこに書ける誇りがあるからだ。でも、ブタとつき合うには、「仕事」としての割り切りが必要だったからそう言ったのだ。で、ブタが何言うかと思えば「ギャラの件は掛け合ってみますが、タイミングが悪いと山口が、また暴れますんで……」だって。だから、俺は、はした金欲しさに言ってんじゃねえつうの! それに、俺はただ「ちゃんとしてくれ」言ってるだけで、お前の会社の中のことまで知るかつうの! 一番、腹が立ったのは、大体、山口さんがそんなことで暴れるとは思えないし、たとえそうだとしても、外部の人間にテメーの親分をそんなふうに言うか? 本当に信用できねえヤツと思ったと同時に、もはやまともに相手にできないと悟ったよ。プロレス用語でいうバカ負けしたってやつだな。

と、いうことで最後に、ぶちまけついでに、ブタとの思い出を箇条書きする。

★藤波の手相を占い師に鑑定してもらった時、ブタの回したテープには何も録音されていなかった。俺もやる気が失せ原稿が遅れた。その時あいつの催促の言葉。「いいかげん、決着つけましょうよ」。何に決着? お前の失敗だろって(越中風)。

★ある時、ブタが急に「打ち合わせがしたい」とか言い出すから新宿で待ち合わせた。そしたらちょっとして電話があり「今日、行けなくなりました。代わりにジャイ子を行かせます」だって。俺が彼女と何を話すわけ? そもそも打ち合わせってなんなの?

★アブタビに行った時、ビザを俺に渡さなくて、空港でえらいめに合ったことは前に書いたが、その旅行記の担当を、いきなりタマリンとかいうバカ女に回しやがって、それがまたブタとは別次元の、最初から文句言う気すらなくすバカで(要するにブタには少しはプロ意識があるが、バカ女は皆無)、本当嫌な気分で原稿書かされたよ。

と、まあ、女の腐ったヤツのように、色々書いてきたが、バカバカしくなってきたな。俺も俺か? まあ、とにかく、長い間、俺みたいな扱いにくい人間の担当、5963! いつか酒でも飲みましょう。いや、やっぱいいや。コマネチ!

担当編集・チョロの
『チョロっとプロレス子守歌』……vol.1

ザ・検証

【今月の検証】

健介を探せ!

by せき詩郎

健介が消えた！　藤田戦だかの後、健介はいまいち人気がない。私としては、健介が入場時に着ている革ジャンの後ろに「健介」とこれでもかというくらい大きく書かれているのをみるたびにおもしろいと思うのだが、おもしろいだけではダメらしい。親友であった馳がいなくなり（馳、きみがいなくなったら道場ががらんとしちゃったよ。でも……すぐに慣れると思う。だから……心配するなよ、馳」と独り道場で膝を抱える健介）、そして良き相棒でもあった馳がいなくなった（同じ背広を初めて買って、同じ形の蝶タイつくり、同じ靴まで買う金は無く、いつも笑いのネタにして、いつか売れると信じてた健介。客が二人の地方興行で）ことが少なからず影響しているのか（多分影響していないと思うが）マイクもさっぱり上達しない。それも人気の出ない要因の一つであるだろう。

とにかく好き嫌いは別として、いつもいるべき人がいないと気になるもの。そんな時、私のもとに健介目撃情報が次々と舞いこんできた。そのいくつかを紹介してみよう。

☆開店前のパチンコ屋の前に並んでいた

☆昼間っから漫画喫茶で漫画（みやすのんき）を読んでいた

☆ファミレスのカウンター席でモーニングを食べていた

☆昼間っからデパートの屋上で飴玉を取るゲームをやったりしていた

☆ゲーセンに行くも、最近の格ゲーや音ゲーについていけず、仕方ないので古いゲーム（アルカノイド）をやってた

☆拾った雑誌を100円で売っていた

☆鳩にえさをやっていた（近所住民には不評）

☆WE5のマスターリーグでボディバランスだけを重視して選手を選んでいた

☆朝刊の4コマ漫画の意味がわからなくて周りに訊いてみたが、みんな面倒くさがって意味を教えてもらえないでいた

☆寝てた（オリンピックの年になると起きてくる）

☆ガンダム記念切手を買うために郵便局に並んでた

☆たけし城に出演するも『竜神池』で早々と脱落してた

☆ヤフーオークションの「本人確認」に手間取っていた

☆ヤフーオークションで服を落札するもサイズが合わずに再出品していた

☆ヤフーオークションで落札後すぐに入金。「この方は大変信用できる方です！」とかなんとか過剰なまでのコメントを貰っていた

☆力を前面に押し出した芸で学校帰りの小学生を楽しませていたが、PTAからは「あの人とはあまり遊ばないように」との通達がでていた。

☆ケンスケコアなる新たなジャンルを作っていた

☆ケンスケタル（健介メタル）なる新たなジャンルを作っていた

☆ケンスキート（ケンスケのアート）とかなんとか言ってCGを作っていた

☆ヒロ・ヤマガタ展示即売会の客引きをやっていた

☆「Anarchy & Peace」を旗印に活動していくことに決め、メディアへの露出を拒否していた

☆新進のギターバンドの多くがHusker Duの影響を受けていたが、独特の哀愁を帯びたメロディセンスを持っていた健介は他のバンドと違う音を出すバンドを結成していた

☆健介の母体はコミューンである。健介はそこで自給自足の共同生活をしていたが、パンクに触発され自分の主義主張を表現する手段として音楽を選び活動を開始していた

☆うわべだけを着飾った退屈な売れ筋ロック、そして高まる失業率や古くさい慣習に対する激しい反発の元、健介は一気に爆発していた

☆　サンフランシスコの市長に立候補していた・ウッドストックの会場にて、ヘルス・エンジェルと客とのケンカの仲裁に入っていた

☆新しい必殺技の予告を出したはいいが、なかなか考えつかなかった（『新必殺技のお知らせ～机の引出しから飛び出したのは!?』と、どんな技かは書いていない前代未聞の予告を雑誌に載せてしまう。予告だけだして誤魔化せば、一ヶ月猶予があるわけだからその間に何か浮かぶだろうと考えていた健介。しかし何も浮かばない。困った健介。「そういえば、ストラングルホールドの時も小田急の中で頭をひねったけど、ちっともまとまらなかったなあ」などと考えているうちにいつしか寝てしまう。目覚めるともう朝！「わしゃ破滅じゃ～！」と錯乱しながら自宅を走りまわる健介。そして、子供のおもちゃにつまずいてしまう。その時健介の頭の中で何かがひらめいた！　子供のおもちゃプラス猫……ネコ型ロボット……ポケットから便利な必殺技をだして……頭の悪いぐうたらな男を助けてくれる……。カチャッ、カチャッと点が線となり繋がった！「これでなんとかいけそうだ！　行って来ま～す！」と家を出る健介）

☆蝦夷地を経て大陸に渡り、モンゴルの覇者チンギスハーンになっていた

などと、あることないこと（というか無いこと）書かれた情報に目を通しながら、「仕事は眠っている間に小人さんたちがやってくれるから」と30才とは思えないスタンスで家でゴロゴロしつつ、フルーチェが冷えるのを待ちながら東京スポーツを読んでいたら、なんと健介が発見されたというではないか！　その記事から抜粋すると、健介はアメリカでドン・フライと練習しているらしい。

アメリカで練習？　しかもドン・フライと？　なんで？　その記事を読んだ人なら疑問に思ったに違いない。総合格闘技、猪木軍団……などなど様々なキーワードが浮かびあがることだろう。しかし、どれもしっくりこない。し、第一健介には似合わない。『コンテンターズ』に出る健介、デビロックの健介Tシャツ（バックに〝健介〟とでかでか書いてあるやつ）、そのTシャツを求めてできる若者の行列……、そんな健介に似合わない。似合う行列といえば石原軍団による炊き出しの列くらいだ。いや、列なんてどうでもいい。今はなぜ健介がアメリカで練習しているのか、ということを考えなければ。

きっと健介は梅雨の日本から逃げ出したかったのだろう。湿気の多いじめじめした気候でははかどるものもはかどらない。

でも雨の日には雨練習ができるのに。きっと健介は雨練習までしても始まらない、そう思ったんだろう。しかしな健介、練習はまず、そういう怠け心に勝つためにやるんだ！（以上、スクールウォーズを見ながら）

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

田村さん!
リングス退団の経緯を教えて下さい!!

今までの『紙プロ』を
読めばわかるでしょ

アブダビでターバン姿にさせられテレ気味の田村潔司さん

田村潔司を振りかえれ!
・・・・・掲載バックナンバー・・・・・

No.7

★田村潔司、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健吾/前田日明/富宅飛駈/垣原賢人/冬木弘道/松永高司/T・アボット

★NO.16　前田引退! その後のリングス、UWFスタイルを田村が語る!
★NO.24「ボクがUWFを守ります!」ヘンゾ戦5秒前直前インタビュー
★NO.25「UWFのテーマ」に武道館が震えた……田村がヘンゾを撃破!
★NO.26　最初で最後か!? ヘンゾ戦勝利記念企画・前田&田村対談!
★NO.28　東京ドーム初見参! Uスタイルで船木vsヒクソン戦の露払い!!
★NO.31「このままじゃ、リングスはダメになる」UFC王者撃破後独白
★NO.34「前田さんはリングスの可能性を分かってない!」爆弾発言!
★NO.36　アブダビ参戦で新展開!? それでも彷徨う田村の魂は何処へ……
★NO.37　歴史的一戦から1年2カ月……田村&ヘンゾの夢の対談が実現!

No.5★徹底検証! 高田延彦×ヒクソン戦直前大特集号
ドン荒川&藤原組長/前田日明/柳澤龍志/ディック東郷/サスケ/佐山聡

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦/谷津嘉章/サスケVS松永高司/北沢幹之/冬木弘道/T・山本

No.11★衝撃対談第二弾! 高田延彦vsエンセン井上
前田日明/佐山聡/福田雅一/ザ・グレート・カブキ/アポロ菅原/石川雄規

完売間近
No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号!
浅草キッド/アポロ菅原/サク/アレク/前田日明/菊田早苗/八木淳子

No.13★アレクサンダー大塚、『PRIDE.4』で大ブレイク記念号
高田延彦/前田日明/谷津嘉章/浅草キッド/ケンドー・ナガサキ/松永光弘

No.15★小川直也、橋本を破壊! 1・4ドーム大激震号
前田日明/カレリン/馬場さん追悼特集/語ろうマサ・サイトー/佐野なおき

No.16★猪木! 前田! エンセン! ロングインタビュー連発号
田村潔司/坂田亘/高阪剛/山本喧一/コールマン/語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO襲撃三昧! オーちゃん大特集号!
桜庭和志/高田延彦/アントン/前田日明/山本宜久/成瀬昌由/T・山本

No.19★ケアー戦直前! いまー度高田延彦に大注目号!
小川直也/前田日明/ドン荒川/エンセン井上/上田馬之助/「世界のプロレス」

完売間近
No.21★小川直也、橋本を返り討ち! 恐怖のプロレス大魔王降臨号
大仁田厚/前田日明/鶴見五郎/桜庭和志/CIMA/田中健一/平直行

No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦/大仁田VSエンセン/前田日明/ヒクソン・グレイシー/ヘンゾ

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志/田村潔司/堀辺正史/サスケ×矢追純一UFO対談/守山竜介

No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司/前田日明/小川直也/村上一成/石川雄規&小路晃/ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前! やっちゃてくれサク!
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!前田日明&田村潔司/小川直也/大仁田厚

No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明/田村潔司/鶴田夫人/ヘンゾ・グレイシー/TKおかん/堀辺正史

No.29★「格闘環境」は激化する! ノア勢『紙プロ』にフル登場!
秋山準/三沢光晴/丸藤正道&金丸義信/桜庭和志/仲野信市/里村明衣子

No.30★『PRIDE.10』直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
村上一成/小川直也/石沢常光/「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り/高阪剛

No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也/サク&TK/永源遥/ユセフ・トルコ/川田語録/田村潔司

No.32★リングスvs新日! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
小川直也/高田延彦/サク/前田日明/金原弘光/藤波語録/ラッシャー木村

完売間近
No.33★リングス、『PRIDE』、猪木祭り、世紀末イベント大検証号
小川直也/橋本真也/谷津嘉章/ミスター・ヒト/山本宜久/前田日明

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり! 特大号
小川直也/高田延彦/『紙プロ大賞2000』発表!/金原弘光/ヴォルク・ハン

No.35★「純プロレス」を考え倒せ! 「純プロレス」徹底検証号
橋本真也/大仁田厚/馳浩/杉浦貴/ジョー樋口/リングスKOK大特集

No.36★面白きなきを面白く! 純プロレス復興記念号
橋本真也/三沢光晴/高山善廣/前田日明/桜庭和志/金原弘光/鍋野ゆき江

No.37★小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻号
小川直也/橋本真也/安田忠夫/村上&小路/田村&ヘンゾ/アブダビ

No.38★激突! 小川vs長州 見えたモノは「孤独」だった……!?
高田延彦/小川直也/ジェラルド・ゴルドー/阿修羅原/山本・成瀬リングス退団

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております (バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません)
【郵便振替】00130-3-769154 (株) ダブルクロス　【現金書留】〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 (株) ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
●代金は、NO.5~NO.10=680円　NO.11~NO.19=780円　NO.21、NO.24~NO.32、NO.35=850円　NO23、NO.33、NO.34=880円　NO.36~NO.38=840円　送料1冊=310円　2冊=380円　3冊~4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
アイドール新宿店、新宿ファイター、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、書泉ブックマート、書泉ブックタワー、書泉グランデ、ワールドスポーツプラザKINGS (池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店)、グレート・アントニオ

NO.1~NO.4/NO.6/NO.8,NO.9/NO.18/NO.20/NO.22/NO.27は、完売!!!!

今夏、マット界に究極の激震!!

- 秋山準の純プロレス至上主義宣言！
- 田村潔司の離脱の真相はアブダビにあった！

緊急直撃

- 山本憲尚、オーちゃんをテロ攻撃！
- 小川直也、ヤマノリの挑発を挑発！
- 6.14真撃、衝撃の出撃！
- 成瀬昌由、新日マット出陣の意味！

みんなが格闘技に走るので私、プロレスを独占させてもらいます

聞き手＆構成／坂井ノブ
聞き手＆助手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

今さら説明は不用だろう！　ノアの秋山準が、5月14日の試合後に超ド級の爆弾を落とした。
「新日本に参戦したい」
「永田裕志選手と闘いたい」
この発言で、不可能かと思われたノアの新日の〝接触〟が実現しそうなのだ。思い返せば、ノアの社長・三沢光晴は新日との〝接触〟には、常々否定的なスタンスを取ってきた。猪木の存在、藤波の存在、長州の存在が引っかかっていたことは言うまでもない。しかし、今回はノアの中核を担う秋山から、その要望が飛び出したのだ。早速、秋山は三沢に要望を直訴して、実際に三沢が動いた。何かと話題を振りまき続ける藤波社長と三沢社長が会談を持ったのだ。そして、このインタビュー（6月5日）の翌日に秋山が初めて新日本の会場に乗り込む（といっても観戦だけだが）こととなったのだ。ここ最近、ZERO—ONEの破天荒な話題や藤波社長の爆笑発言ばかりがクローズアップされていた純プロレス界を一気に混沌状態に叩き込んだ秋山の真意は一体どこにあるのか？　じっくり話を聞いてみた。

秋山　（いきなりインタビューを始めるなり）上司とケンカしたんだって？（笑）。

——ううっ！　何で知ってるんですか!?　そうなんですよ（笑）。それで辞めてしまったので、お恥ずかしい限りなんですが……。

秋山　ボクもよく上司とケンカしてるんで人のこと言えないですけど（笑）。

——でも、秋山さんみたいに上手くはいかなかったんですけどね（笑）。それはさておき、今日はいろいろうかがいたいことがあるのでよろしくお願いします！

秋山　はい。

——まず、今日は新日本の永田（裕志）選手への対戦要求の話を聞く前に……ボクが会社を辞める直前の4月26日、ノアの後楽園大会の秋山さんがすごく怖かったのが凄く印象に残ってるんですよ。秋山さんが控え室で記者陣に囲まれて「ベルトには挑戦しないんですか？」と聞かれたときに、「体調が万全になってから挑戦しますよ！（怒）」って吐き捨てて、控え室の窓をガーンと殴ってヒビを入れるという事件がありましたよね。

秋山　あのときは手を切りそうになりましたよ。危なかった（笑）。軽くやったつもりだったんですけどねぇ。自分でも「ああ、俺もプロレスラーなんだなぁ」と思いましたよ（笑）。

——そんな他人事みたいに（笑）。あのシーンからは、秋山さんの中に苛立ちみたいなのが見え隠れしてましたけど。

秋山　あのときはですね……僕らもプロでやってますけど、記者の方もプロであってほしいと思うんですよ。あのとき質問した方が、ちょっと聞き方がね……。あと、今までノアの中で新しいことをやろうとしてきましたけど、さらに新しいことに挑戦しようと考えていたし。「ノアの中だけでやっていたら無理なんだろうな」という思いもあった。そこを突破しないとしょうがないなと思っていたんですけど。

——それが新日本の永田選手への対戦表明につながっていったわけですね？

秋山　まあ、それをやってみてダメならダメでしょうがないな、と。ダメでも何でも、とにかくやってみようと思ったんです。もちろん、（大きいことを）ただ吹いてるヤツとは違いますからね。聞いてる人は「なぜ、突然そんなこと言うの？」って思うかもしれないけど、僕は覚悟の上で言ってますから。べつに腹が立った勢いで言ったわけじゃないですよ（笑）。

——ええ、それはわかります（笑）。でも、秋山さんのいままでの言動を見ていると、「攻めながらもノアを守る」という姿勢だったと思うんですよ。今回の行動はそこから一歩踏み出たもののような気がするんですが、いかがですか？

秋山　まあ、結果的にはノアのためになると思っての行動ですから。それにボク個人が起こした行動なんで、マイナスをこうむるとしたらまずはボク個人ですよ。もちろん、そんなマイナス志向で行動を起こしたわけじゃないですけどね。

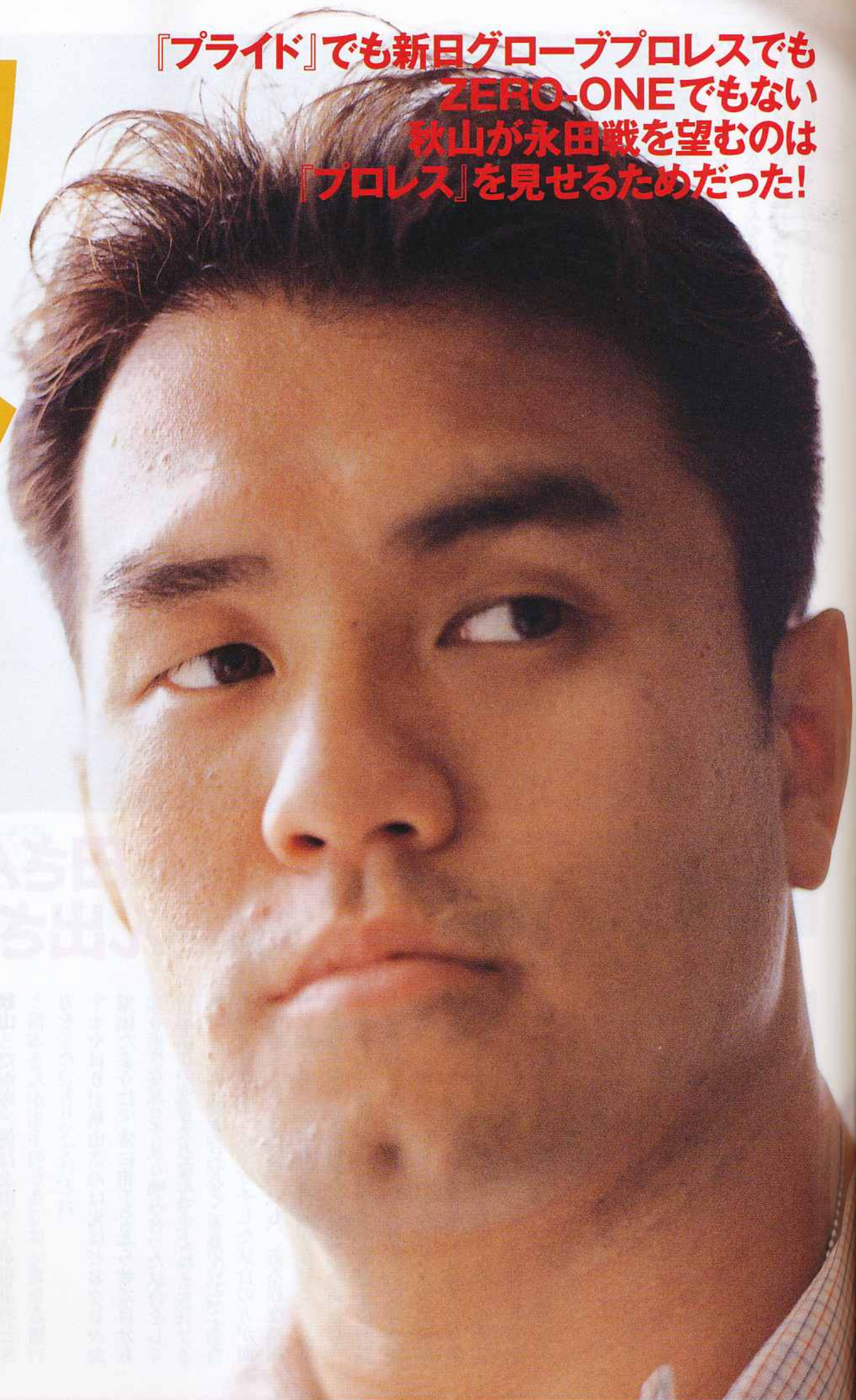
——そして、秋山さんはいろんな雑誌などで「ちゃんとしたプロレスがしたいんだ」とも語っていますよね。その「ちゃんとしたプロレス」というのがどんなものなのか、ちょっと掘り下げてうかがってみたいなと思うんですよ。

秋山　そうですね（としばらく考える）。ボクが常々掲げてるプロレスのチャンピオン像というのがあるんですけど……。

——ほう！　それは、どんなものですか？

秋山　「相手を光らせる」「自分も光る」なおかつ「お客さんを沸かせる」。そして、最後に「試合で勝つ」という、この4つです。

秋山準

『プライド』でも新日グローブプロレスでも
ZERO-ONEでもない
秋山が永田戦を望むのは
『プロレス』を見せるためだった!

これが真のチャンピオン像ですね。

――なるほど！

秋山　これは新日本でいったら永田さんに当てはまるんじゃないかと思うんです。

――3・1のZERO―ONE旗揚げ戦で実際に肌を合わせてみたら、永田選手はこの条件に当てはまっていたという感じですか？

秋山　そうです。まあ、テレビで試合を見てればだいたいわかりますよ。

――永田選手のどんな部分が目に付きましたか？

秋山　まず、永田さんは自分と同じような状況に置かれてるじゃないですか？　言っちゃえば……中間管理職！

――中間管理職みたいな（笑）。

秋山　上の人間は動かないし、下の人間は「ああだこうだ」と抜かしやがるし……。それこそ一般社会でも、自殺しちゃう課長さんとかいるでしょ。それと同じですよ。そういう感じで永田さんを見てると、いろんなものがビンビン伝わってくるんですよ。「今の状況を突き破って上にいきたい！」「その方法もわかってる！」「でも、周りの状況とかを考えて、自分は一歩引かざるを得ない」という感じでしょ？　テレビで見てると、「ああ、この人も苦しいんだろうなぁ」と思いますよね。あまりにも状況が似すぎているんで。それで、初めて対戦して……。

――試合を通じて悩みまでも分かり合えるっていうのはプロレスラーならではですね（笑）。新日本では中西さんが頭一つ抜きん出た形で、その次ぐらいに永田さんがいるという状況ですけど。

秋山　（遮るように）中西さんが抜きん出たんじゃないんですよ！　あれは、（永田さんが）抜きん出させてるんです！（キッパリ）。

――出させてる！

秋山　ええ、ボクにはわかりますよ。いろんな状況を考えて、「いまは、この人（中西）を前面に押し出した方がいいな」って永田さんが頭を働かせてるのが、よくわかります！　俺と小橋さんの関係も似ているし。でも、永田さんは「もう、そろそろ俺が前に出て行ってもいいだろう？」と自分から出てきたわけですよね。だから、あのときの試合は燃えたんだと思いますよ。

新日本では永田さんが中西さんを抜きん出させてるんですよ

――そうですよね。あの試合の中で秋山さんと永田さんは、プロレスの技術的な部分ももちろんなんですけど、細かい心理的な部分でもバチバチやりあってましたよね。

秋山　そうですね……マスコミとかでは三沢vs橋本みたいな部分で盛り上がってましたけどね、俺としてはあの2人はどうでもよかったんです。

――ど、どうでもいい!?　そこまで言いますか！

秋山　だから、俺は永田さんが相手のときと橋本さんが相手のときでは、異なる闘い方をしたつもりですけどね。

――やはり、秋山さんは先ほどおっしゃっていたように、常に相手を光らせて自分も光るようなガッチリと噛み合った試合をしていこうという考え方なんですよね？

秋山　いや、噛み合わなくてもいいんですよ。噛み合わずに、ガチガチした試合の方が面白い場合もあるんで。でも、ある程度は相手をリスペクトする気持ちがないと、見てる人にとってもいい試合にはならないと思うんですよ。たとえば、（5・5の）福岡ドームの長州さんと小川選手の試合にはそういう部分がなかったから、ああいう試合になってしまったんだと思うし。あの試合も少しはお互いを認め合う部分があれば、「単なるギクシャクした試合」という評価じゃなくて「殺伐としたいい試合」という評価になっていたと思うんですよ。

――まあ、「ギクシャクした試合」というのもある部分では面白いと思うんですよ。でも、「ギクシャクしただけの試合」になっちゃうと面白くないですよね。秋山さんと永田さんが闘った場合、「ギクシャクした試合」になると思いますか？

秋山　……ならないでしょうね。技術の攻防になるでしょう。俺からギクシャクした

秋山新日出撃宣言の軌跡

5月13日　秋山が突如永田戦をアピール

▼13日のディファ有明大会終了後、秋山準が「（ノアには）ボクを輝かしてくれる人間がいない、フライングかもしれないけど（永田がベルト）とったら挑戦させてほしい。あとは会社に話すだけです」と今シリーズ中にも三沢社長に他団体進出の直談判を行う考えを明かす。

5月15日　藤波社長が三沢社長と会談熱望

▼ノアとの交流を望む藤波社長が「うちはいつでも（秋山を）受け入れる準備がある、秋山があそこまで言うのは相当な決意だし、真剣なのが痛いほど分かる。あの発言を誌面だけの問題にしてはいけない。まずは、三沢社長と会って両団体の問題をクリアにしなければならないだろう」と前向きな発言。藤波社長の後押しを知った秋山は「うれしい。お願いします」とだけ話し、あとの交渉事は三沢社長に託した。

5月18日　ドラゴン、ノアを生観戦!?

▼藤波社長が自分の目で秋山を確かめるため、ノアの会場に出向く意向を明かす。一方、三沢社長は「ノアのシリーズ参戦も辞さず」とブチ上げた永田裕志を評価。

5月21日　TVも協力

▼TV問題について藤波社長が21日、テレビ朝日・茂木英治スポーツ局長と秋山の新日参戦について会談し、「まず、三沢社長との話し合いが先だが、テレビ問題についてはいい感触を得た」とドラゴンスマイル。三沢社長との会談は予定の26日～28日のうちで調整中。

5月27日　焦るドラゴン

▼26日～28日の会談予定がズレ込み、交渉が難航していることが予想される中、「自分ひとりが焦ったんじゃ、どうすることもできない。（三沢社長とは）どこ

試合を仕掛けることはないと思います。

——そういう闘い方はしたくない、と?

秋山　う〜ん……そういう闘い方は若手のものだという考え方が、俺の中に昔からあるんですよね。かといって動かない試合っていうのも、上の人たちと同じように「どっしりしてる」って評価で終わっちゃいますからね。だから、俺は他の誰にも出来ない

ZERO-ONEみたいのは若手でも出来る試合

ノアの評価を一気に高めた、4・18ZERO—ONE武道館での力皇の闘いぶり。しかし秋山は、この試合を「負けん気さえあれば誰だって出来る試合」と断罪！　これで今以上に力皇の「負けん気」が秋山にぶつけられれば、ノアはさらに面白くなる。

AKIYAMA

技術の攻防がしたい（キッパリ）。「ギクシャクした試合」っていうのは、ようするに力皇や杉浦がZERO—ONEに出た時にやったような試合のことでしょ?　ああいう試合は、今の俺には必要ないです。4・18のZERO—ONEを見ましたか?　ああいう試合なら力皇や杉浦でも十分出来るんですよ。

——たしかに、あの日ノアの若手はムチャクチャ光ってましたもんね。

秋山　それと同じレベルのことを俺はやりたくないんで、もっと高いステージで勝負したいです。技術は何年もかけて身に付けるものですけど、ZERO—ONEにはそれを発揮できる場所がないでしょ。だから俺は会場に行かなかったんです。若手とは違うことを俺たちは見せないといけないんですよ。俺の考え方、おかしいですか?　あんなの負けん気さえ強ければ、誰だって出来ますよ!

——あ、あんなの（笑）。極論すれば、総合格闘技で活躍してる選手をポンッと連れてきても出来る試合であったと?

秋山　そうですよ（キッパリ）。昔からあるプロレスの技術なんか、何一つ必要ない試合ですから。

——いま、ホントにプロレスが出来るということの価値をプロレスラーもプロレスファンも忘れてますよね。

秋山　今はちゃんとしたプロレスが求められてると思うんですよ。プロレスファンって、プロレスを求めてますからね。総合格闘技を見たい人は『PRIDE』に行くんですから!　あっちでも、こっちでも同じことをやってたら、そのうちファンも嫌気がさしてきちゃいますよ。ウチも新日本も、プロレスが好きな人をしっかりつなぎとめておくような試合をしないと、ファンがどんどん総合格闘技に流れて行っちゃいますよ。

——いや、ホントそうですね。そして純粋なプロレスを求めるんだったら、ノアがや

かで気持ちのピッタリ合う日が来る。それまで待つしかない」と改めて三沢社長との会談を熱望した。

5月30日　行われていた極秘会談!

▼藤波・三沢トップ会談が28日、極秘で行われていたことが発覚し、秋山の6・6視察が決定。秋山は「やっぱりこの目で新日プロを確かめたいから足を運ぶ。あくまでも永田選手を中心に」と発言。永田は「三沢社長、オレたちの情熱を受け取ってくれてありがとうございました。秋山選手はオレと藤田の試合をとくと見てくれ」

6月1日　中西先輩の命令

▼専修大学レスリング部の先輩が秋山迎撃へ名乗りを挙げた。「（秋山）と闘わずして、何になる。魅力あるでしょ」と一騎打ちをアピール。観戦だけでは帰さん!

6月2日　天山便乗、小橋戦希望

▼欲深い天山は「武道館に秋山が来るらしいな。オレも秋山と闘ってみたいが、永田の二番煎じじゃ面白くない。オレは小橋と闘ってみたいと」と鼻息の荒い挑発。

6月3日　金魚のフン

▼交流機運に便乗する中西、天山、藤波（オレも一選手として三沢と闘ってみたい）に対して、ついに秋山が爆発。「俺も俺もと便乗するな」と金魚のフン発言。これを伝え聞いた藤波社長は「もう一切、この話題には触れません。秋山の名前も出しません」と態度を硬化。

6月6日　「次に来る時はタイツをはいて」

▼この日、秋山は永田とともに入場花道に姿を現し、そしてガッチリと握手。本部席で試合を観戦後、「すばらしい試合だった。永田選手に対する気持ちは、負けたからって変わることはないし、ただ今日は藤田選手が強かったってことです。チャンピオンだと思いましたよ。次に来る時はしっかりタイツをはいてきますから」と参戦を改めて表明。

高山戦の藤田選手は俺のチャンピオン像にピッタリ一致するんです

はり最高のレベルにあると思うんですよ。

秋山　ウチが一番かどうかは見る人の判断ですけど、少なくとも……ウチのプロレスは新日本がやろうとしている「プロレスと格闘技の中間」ではないですね。

――そうですね。最近、プロレスそのものが揺らいできて格闘技方面に針を振る団体も多いですけど、ノアは完全にプロレスが立脚点ですからね。秋山さんも、乱入や舌戦なんかでノアの中に流れを作りつつも、節目のビッグマッチではもの凄くハイレベルなプロレスの試合をやってますよね？　そのへんに「俺はプロレスで勝負してるんだ！」という覚悟が見えるなぁと思うんですよね。

秋山　まあ、ノアになっていろいろ仕掛けてますけど、最終的に行き着くところは「最高のレベルのプロレスを見せる」ということなんですよ！　ノアになる前は、ただリングがあるだけ、そこで試合をするだけ、流れも何もあったもんじゃない。ロボットが試合をしていたようなもんですよ！

――ロボットですか！

秋山　素晴らしい試合をするロボットでしたよ。だって、感情とかまったく出てなかったじゃないですか？　いまは、表に感情が出てきてる。それがシリーズを通じてガンガンぶつかりあって、最終的には高まった感情をぶつけあって最高のプロレスをしてますから。そのへんは進化したかなと思いますけどね。

――いわゆるシリーズがドラマになってますよね。

秋山　煽るだけ煽って、試合がしょぼかったらお客さんも「はぁ～（と落胆の表情）」ってなっちゃいますよ。それは一番やっちゃいけないと思うからね。

――永田選手とはそういう闘いが出来そうですか？

秋山　出来ると思いますよ。

――それが、さっき言ったように「いきなりシングル対決じゃなくてもいい」という発言につながってるわけですね。

秋山　そうですね。いきなりクライマックスである必要はないんですね。俺たちは、まだ焦る必要もない年齢なんで（笑）。楽しみにしてます。

――早くも「永田さんとタッグを組んでもいい」ということを秋山さんは言ってましたけど。

秋山　そうですね。焦ってシングル対決して、再戦して、「ハイ！　さよなら！」っていうのもどうかと思うし。そうやっていった方が長く続けられると思うんですよ。

――そうですね。それに今回、秋山さんが新日参戦を熱望したことによって、永田選手以外にも藤波社長、中西選手、天山選手が名乗りを上げてます。

秋山　まあ、レスラーですからね。風穴が空いたら、そこからどんどん出てくるのはいいことだと思いますよ。本音を言えば「やりたいんだったら、最初から名乗りをあげろよ」とは思いますけど（笑）。ただ、社長がね……（苦笑）。

――三沢さんとの対戦をブチ上げてましたけど（笑）。

6・6永田戦では、秋山の言う「理想のチャンピオン像」に近い闘いぶりを見せ、評価がうなぎ上りとなっている藤田。ある意味、秋山vs永田戦以上に刺激的なマッチメイクである秋山vs藤田戦ははたして実現するか？

秋山　藤波辰爾という〝一選手〟がそうやって名乗りを上げるのはわかるんですよ。ただ、俺がまだ何も始めてない段階から、先のことを言われてしまうのは困りますよね（笑）。もちろん、新日本プロレスの社長として、今回の件ではもちろん感謝してますけど。

――困ったことに「俺と三沢の社長対決だ」と言ってたみたいですからね（笑）。

秋山　そう言われると「ちょっと待てよ」と思いますよね。まあ、俺が新日本に行ってみて、その結果でそういう流れになるんだったら構わないんです。でも、俺は明日初めて会場に行くんですから。最初の一歩が一番難しいですからね。

――明日はお一人で行くんですか？

秋山　客席には、俺ひとりだけです。でも、武道館には金丸（義信）と一緒に行きます。車に乗せていってもらうんですけど（笑）。まあ、金丸が「（新日に）興味がある」と言ってたんで、雰囲気だけでも味わわせてあげようかなと。他にも興味あるヤツは言ってくれれば連れていったのに。そのへんが、ちょっと情けないですよね。

――あいかわらず若手の選手には厳しいですねぇ。秋山さんは旗揚げの前から、若手の意識改革についてはずっと苦言を呈してましたもんね。ノア設立から約1年が経ちますけど、そのへんに成長は感じられますか？

秋山　力皇や森嶋はいいと思いますよ。言ってることに試合内容が追いついてないですけど、やってるうちに追いついてきますよ。自分達でレールを敷き始めてから、お客さんの空気が掴めるようになってきてますから。他はやっぱり全日本時代に「プロレスラーはリングですべてを表現すればいいんだ」という思想をあまり刷り込まれていない連中ですからね。

――でも、秋山さんもそういう思想は刷り込まれていたんじゃないですか？

秋山　まあ、そういう教育は受けてましたけどね、俺はあまり性格が良くないんでこ

うなっちゃいましたけどね（笑）。普通の選手は、そういうレールが敷かれていたら逆らえないと思います。

――そういう意味では、杉浦選手は試合も発言も抜群に面白いですよね。

秋山　そうでしょ？　やっぱり記者の方も「ここで派手なことを言ってくれたらいいのにな」って思うことありますよね？　何というか……怒りを表に出さない教育をされてきたんで、急に「やれ」といっても難しいと思いますけど。普通にやればいいだけなんですよ。たとえばボコボコにされて腹が立つんだったら、怒ればいいというだけのことだから。だって普通の人でも……上司とケンカして辞めたんでしょ？

――ええ、僕は辞めました（笑）。

秋山　あいつらには、それがないんですよ。「腹が立つならケンカしろ！」って。そういう部分が足りないんですよ。腹が立つなら自分の意見をボンッ！　とぶつけて、「ダメならクビでも何でもいいよ」っていうぐらいの気持ちじゃないと。俺に何か言われてムカつくんだったら、言い返してくりゃいい。言い返してくれれば、俺はどこがダメなのかちゃんと言いますから。そういうことをドンドン俺に言ってきてほしいですよね。俺はクビにしたりしないから（笑）。

――アハハハハハ！　さすがです！

秋山　俺と同じ意見は必要ないですよ。むしろ違う意見をぶつけてきてほしいですね。そうやって自分でレールを敷いてやってみりゃいいんですよ。たとえそれが失敗しても、俺のレールに近づけてやりますから。どんどん自分で発言して、責任を持って挑戦していってほしいですね。出来るんだから！　大きいことをボーンと言っちゃえば、それを自分で実現させるためにやっていかなきゃいけないでしょ。

――今回の秋山さんの発言もそうですよね。いわゆるフライングだったと思うんですけど。

秋山　そうですよ。でも、自分の頭の中では実現させるための道筋はちゃんと考えてましたからね。覚悟は決めてましたから。

――覚悟してましたか！

秋山　そう。だから、言ったことは必ず実行しないと。そうやって俺はステップアップしてきたから。「あそこまで言うんだから、やらなきゃマズいだろう」という周囲の目を常に跳ね返してきましたから。自分に自信がないと大きいことは言えないですけどね。特に三沢社長や馬場さんにそれをぶつけるっていうのは……俺も最初は自信なかったですけどね（笑）。でも、それをクリアして、やっと自信がついてきましたから。俺は小橋さんと組んでたときは、「こうしてください！」って言って、自分で小橋さんを動かしたりしてましたから！　キャリア5年以上違いますけどね。若手も俺とタッグを組んだときに、俺を動かしてくれるぐらいにならないと。

――いま、小橋さんの話題が出たんでおうかがいします。他誌のインタビューで「小橋さんが欠場していなければ、こうやって永田選手との対戦を希望することもなかっただろう」とおっしゃってましたよね？

秋山　そうですね。小橋さんがいれば、こうなっていた確率は少なかったでしょうね。いま大森（隆男）もしょぼんとしてるし、力皇&森嶋も頭の隅っこで考えてれば、どうにかなるし。

――つまり現時点のノアでは満足いく闘いが出来ないと？

秋山　う～ん……というかですね、三沢さんが、小川直也と橋本真也という選手と対戦したことによって、付加価値がついてしまいましたから。そして、今度小橋さんが帰ってきたときにお客さんはもの凄く応援すると思うんですよ。このノアの二枚看板の壁を破るために何をするかということを考えたらね、自分も何かをしないといけない。それも三沢さんと同じところに出て行ったら、おいしいところを取られちゃいますからね。

――よくプロレスラーが『PRIDE』に出たりすることを「飛び級する」という言い方をするんですけど、今回の新日参戦にはそれと同じ意味があるということですか？

秋山　そうですね、付加価値をつけるためですよ。ただ、「『PRIDE』に出たからプロレスラーとしての価値が上がる」っていう考え方はどうかと思うんですよ。どっかの格闘技の専門家が「『PRIDE』はプロレスラーにとってのメジャーリーグだ」とか言ってましたけど、それは違うんじゃないかと思います。

――それはプロレスラーに失礼な物言いですよね（笑）。

秋山　でもね、こないだ藤田選手が高山さんと『PRIDE』で試合したでしょ？　あの感じをプロレスの試合で出せたら、藤田選手はもの凄いプロレスラーだと思いますよ。

――おおっ！　それは興味深い意見ですね。

秋山　高山さんを光らせて、藤田選手も光って、お客さんも沸かせて、なおかつ勝ったわけでしょ？　それは、さっき言った「チャンピオン像」にぴったり一致するんですよ。

――なるほど！

秋山　だから、もし『PRIDE』にチャンピオンがあるんだったら、間違いなく藤田選手はチャンピオンだと思いますよ。プロレスのリングでも同じことが出来るんだったら認めます。今まで、藤田選手は俺のスタイルの路線からは興味なかったですけどね。

――興味なかったんですか（笑）。それも凄い話だなぁ。

秋山　こないだは『PRIDE』という自分の土壌で凄い試合をやったわけですから、今度はプロレスのリングでどうなるか？　それが出来なかったら、結局「飛び級」は出来ていなかったということですね。これで、もし凄い試合だったら、本当にプロレスでもチャンピオンですよね。そのときは俺から藤田選手に挑戦させてもらいますよ。

――おおっ！　それは凄い！　そういえば藤田選手がIWGPのベルトを獲ったノートン戦（5・5福岡ドーム）は、ご覧になりましたか？

秋山　ええ、見ましたよ。あのときの藤田選手は相手の光を消して、自分だけ光っ

AKIYAMA

かつて全日本で行われた天龍と高木、田上ら決起軍の闘いを思わせる、秋山と力皇&森嶋の闘い。秋山はかつての天龍同盟よろしく、若手を叩きつぶすことで、リングを活性化させているのだ。そして天龍にとっての鶴田的存在である小橋が戻ってきたとき、秋山の闘いはさらに加熱するだろう。

藤田選手がプロレスでも凄い試合をしたら挑戦させてもらいます

てましたよね。お客さんのことも置き去りにして。それが、明日の試合で永田選手と対戦してどうなるか？ですね。すごく楽しみですよ。でも、ホントにこないだの『PRIDE』を見て、藤田選手に対する見方は変わりましたよ。いい面が見えるようになりましたから。

——いわゆるリスペクト出来る対象になったと。明日の試合如何によっては、秋山さんのターゲットがひとつ増えるかも知れないわけですね！　そういえば猪木さんも明日は会場に来るみたいですね。

秋山　……ホントに？　じゃあ、試合が終わったら早く帰ったほうがいいな（笑）。

——逆に、秋山さんが猪木さんを利用してやろうというようなことはかんがえていないんですか？

秋山　猪木さんを？　利用？　猪木さんを利用するんだったら、ノアにはいられないかもしれない（笑）。

——アハハハハ！　それはヤバいですねぇ。まあ、明日はホントに秋山さんがノアと新日本の壁を壊しに行くわけですからね！　去年の8月に渕（正信）さんが、全日本と新日本の「壁を壊しに来ました！」ってマイクアピールしてましたけど。

秋山　あれは壁じゃないですよ。ウチのケースとは全然違うと思いますよ。

——ホントそうですね。僕らもノアと新日本の壁の方が分厚い壁だなと思いますからね。あのときの渕さんはメチャクチャカッコよかったですけどね（笑）。

秋山　渕さんは自分で小説を書いたりしてるぐらいだから、自分の中で脚本書いてたんじゃないですか？（笑）。でも、俺はあそこまではしないですよ。明日はIWGPのタイトルマッチがメインなんだから、俺が何かを言うことによって、それを消しちゃいけないと思うんで。だから、ひっそりと見たいと思います（笑）。

——わかりました（笑）。あと最後にひとつうかがいます。秋山さんは天龍（源一郎）さんとの対戦も希望していましたよね？

秋山　ええ。俺はずっと鶴田さんが好きでしたけどね、鶴田さんと抗争して現在の俺たちがやってるスタイルの礎を築いた人だと思ってますから。一度、対戦してみたいんですよね。

——いま、秋山さんがノアの中で担っているポジションややっている作業というのは、かつて天龍さんが全日本の中でレボリューションをやっていた状況とすごく被るんですよね。

秋山　そうですよ。だから、もし対戦して勝ったら「レボリューション」の名前をもらおうかなと思って（笑）。

——アハハハハ！　それいいですね！　天龍さんは眠っていた鶴田さんの怪物性を目覚めさせた人だと思うんですけど、秋山さんの場合は小橋さんの怪物性を目覚めさせようとしているわけですよね？

秋山　そう、同じ作業ですよね。目覚めるまでが大変なんですけどね……なかなか目覚めないから（笑）。そういうものを身体で感じてみたいなと思います。だから、天龍さんとはタッグを組まなくてもいいです。歳も歳なんで、早く対決しないといけないでしょ（笑）。

【01年6月5日、東京・ノア事務所にて収録】

インタビュー後記■この取材の翌日、秋山は新日本プロレス・日本武道館大会に乗り込んでいった。控え室ではアントニオ猪木、坂口征二、藤波辰爾といった新日最高幹部と挨拶を交わし、猪木からは「プロレス界を面白くしてくれ」と声をかけられたとのこと。ノア勢と新日の関係を考えると、非常に大きな意味を持つ〝接触〟だったと言えるだろう。

そして、新日ファンの前にも鮮烈な形で、秋山は登場した。何と、メインイベントに出場する永田と一緒に花道から入って来たのだ！　闘う選手と一緒に入場してくるVIP、そして花道で両者は握手を交わした。

試合は永田が自らも光り、藤田を光らせ、観客も沸かせたのだが、ただ一つ勝利にだけ手が届かずに敗北を喫してしまった。一方藤田は怪物的な側面を見せつつ『PRIDE』の興奮をそのまま新日に持ち込んだような闘いぶりで、藤田の「プロレスベストバウト」と言ってもいい試合をやってみせた。

そして秋山もこの試合から大きな手応えを感じていた模様で、「藤田選手とも闘える。次ぎに会場に来るときは試合タイツを履いてきます」と語り、新日参戦に意欲を見せた。

秋山の語るように、現在の新日本は「プロレスと格闘技の中間」のような試合を繰り広げていた。しかし、両者が認めあっていたために、白熱した試合となったが、やはりこの試合を通じて浮き彫りになったのは、永田のプロレスラーとしての力量であったように思う。

本来ならば、秋山はチャンピオンである藤田を狙うのが「プロレスの文脈」としては正しいのだろう。しかし、この試合を経た後でも、やはり秋山の第一ターゲットは永田である。なぜ永田なのか？なぜチャンピオン・藤田や中西ではないのか？　そこには永田のプロレスラーとしての力量、秋山の戦略、ノアの懐の深さ、そしてプロレスの奥深さはそんなところに隠されている。秋山のレボリューションは、もう始まっている！

AKIYAMA

7月シリーズ"Accomplish Our First Navigation"日程

日付	会場	開始
7月14日(土)	東京・メッセ昭島[TV]	18:00～
7月15日(日)	東京・ディファ有明[TV]	15:00～
7月16日(月)	大阪・大阪府立体育館第2競技場[TV]	18:00～
7月18日(水)	島根・くにびきメッセ(松江)	18:30～
7月20日(金)	高知・越知町民総合体育館	15:00～
7月21日(土)	福岡・博多スターレーン	18:00～
7月22日(日)	広島・広島サンプラザ[TV]	17:00～
7月24日(火)	岡山・倉敷山陽ハイツ体育館 ～旗揚げ一周年記念大会～	18:30～
7月27日(金)	東京・日本武道館[TV]	18:30～

ジャンボ鶴田一周忌 法要&追悼興業レポート

ジャンボの人生はローリングドリーマーだった

PRO-WRESTLING NOAH ジャンボ鶴田メモリアルナイト 一周忌追悼興行

文／坂井ノブ

「人生はチャレンジだ！」という言葉を残して、1999年に現役を引退、そして翌年にはこの世を去ってしまった〝不世出の怪物〟ジャンボ鶴田。あの突然の死から早くも1年が経った。

プロレスラーとしての活躍を考えれば〝怪物〟というイメージばかりが先行してしまう鶴田だが、その人生は常にチャレンジの連続だったように思う。たった3年間のトレーニングでアマレスの五輪代表になってしまったり、大学院合格どころか大学の教授にまでなってしまったり、そして焦って治す必要のない肝臓の病気に立ち向かっていったり……。節目節目で常に鶴田は前向きに挑戦を続けてきた。「人生はチャレンジだ！」の言葉に偽りはない。

そんな鶴田の座右の銘とも言うべき言葉が刻み込まれたお墓が鶴田の生家に近い山梨県北巨摩郡の慶徳寺にある。そう、本誌6号で突撃取材を敢行したジャンボ鶴田園（ぶどう園）の近くである。そこで一周忌の法要があるというので、取材半分お参り気分半分で取材に行ってきた。

中央自動車道で都心から約1時間30分（ホントは法定速度の倍ぐらい出していたので約1時間）の「勝沼IC」で降りると、あたりは見渡す限りの山！山！山！

そして果樹園！さらに勝沼ICから、山深い方面へ車で走ること40分。ジャンボ鶴田園の前についた。

ここに到着するまで、「坂」と呼ぶにはあまりにも急勾配な「山道」をずーっと走ってきた。しかし、高校時代の鶴田はここを自転車で登っていたというから驚くしかない。車でさえヒーヒーいってるのだ、もはやその体力は人間の限界を軽く超越している。ズバリ言ってしまえば、この坂を見ずしてジャンボ鶴田は語れない！この坂を通じて、少しだけ鶴田の強さに触れた気がした。

その坂をさらに登りきった見晴らしのいい場所に慶徳寺はある。この近所には「鶴田」姓の家が多いらしく「鶴田家之墓」という墓標が非常に多いのだが、ジャンボのお墓は一発ではわかった。写真を見ていただければわかると思うが、とにかくデカい！ジャンボの身長と同じサイズのお墓なのである。そして、真ん中には「人生はチャレンジだ！」という鶴田のメッセージとともにタイトル歴も刻まれているのだ。大らかさと力強さを兼ね備えた、じつにジャンボなお墓である。鶴田ファンならば、一度はお参りすべき〝聖地〟である！

法要では、三沢以下ノアの所属全選手がここで手を合わせて焼香をあげた。試合の時間が迫る中、あわただしく選手たちがバスに乗り込み、この日の試合会場に移動している中で三沢だけがコメントを残した。「鶴田さんに一度でいいからノアのリングに上がって欲しかった」。それは誰もが同じ思いであろう。

そして、僕も再び車に乗り、一時間ほど山の中を走って甲府市へ。アイメッセ山梨という会場でジャンボ鶴田一周忌記念大会が行われるのだ。会場の中に入るとジャンボ鶴田基金（臓器移植に関する基金）を呼びかけるボランティアの方々が目に飛び込んできた。別の場所に目を向けると、ジャンボの愛用品が展示してあり、オールドファンなら涙モンの☆パンツが飾ってあるではないか！極めつけは休憩時間。あの伝説の名曲〝ローリング・ドリーマー〟が流れてきたのだ！しかも歌ありバージョン！お世辞にも上手いとは言えないが、「人生はチャレンジだ！」の言葉どおりにチャレンジ魂に溢れすぎてしまった名曲であった。

「♪人は誰でもローリング・ドリーマー」と鶴田が歌っていたように、新たな夢を追いかけていく活力こそが強さの源だったのではないか？リング上のファイト以上に破壊力のある鶴田の歌声に耳を傾けながら、そんなことを考えてみた。

ジャンボ最後の正パートナー田上。思い切り気持ちを込めて墓前で手を合わせる田上の姿は印象的だった。

「鶴田さんにノアのリングを一度は踏んでほしかった」と語った三沢。ジャンボという存在なくして、いまの三沢はありえなかっただろう。

「ジャンボ鶴田園」を営むジャンボのお兄さん、鶴田恒良さん。3年前にブドウ園を訪れたときはジャンボそっくりの笑顔で迎えてくれた。

日本で脳死移植が出来るための環境を整えるために立ち上げた、ジャンボ鶴田基金。ジャンボの意志はこうして、一周忌を迎えてからも、しっかりと続けられているのだ。

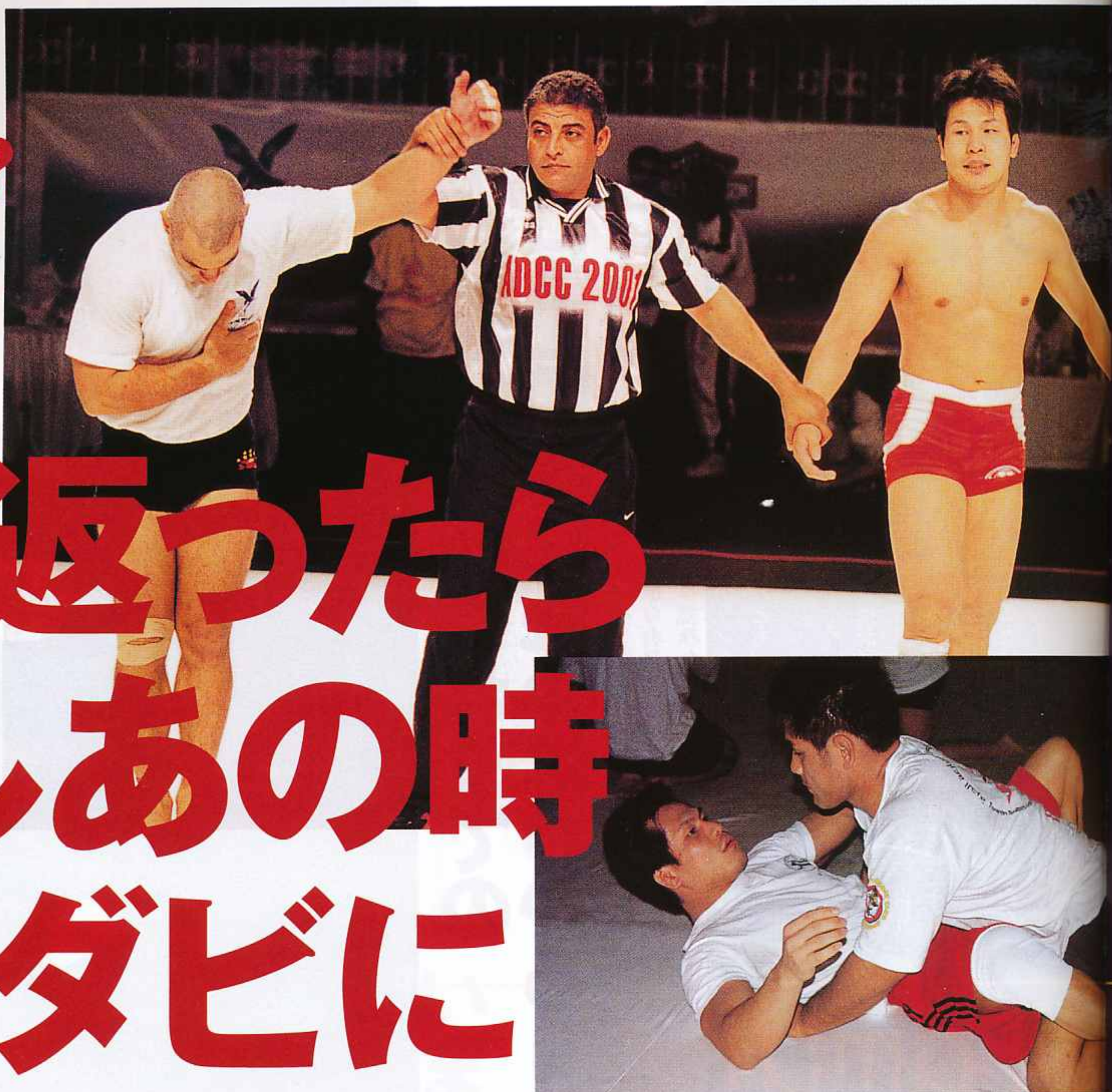
STARTING OVER

田村潔司

(U—FILE CAMP)

大方の予想通り、先月正式にリングスを退団した田村潔司。さすがに大物だけあってインタビューが殺到していたが、どれを読んでも離脱の具体的理由、そして今後のプランは語られていなかった。はたしてこの春、田村にどんな心境の変化があったのか？　その謎を解く鍵は以外にも『アブダビ』にあったのだ。

田村を“決断”させたのはこれだった!?

後々振り返ったら「もしあの時アブダビに行ってなかったら」って思うでしょうね

聞き手／堀江ガンツ　撮影／モーリー　designed by さおとめの事務所

――田村さん、まずは念願のリングス卒業おめでとうございます！（笑）。

田村　アハハハ、念願じゃないって！（笑）。そもそもめでたいの？

――いや、あんまりめでたくはないですね（笑）。というわけで、予想通りというか噂通りというか、田村さんはリングス退団という結果になったんですけど、率直な今の感想はいかがですか？

田村　いや、あんまり変わりはないね。

――え!? 変わらないんですか？

田村　だから自由になった分、多少楽になった部分はあると思うんだけど、これからなんでも自分でやらなきゃならない辛さもあるから、プラスマイナス・ゼロ。だから喋ることもないんだよね（笑）。

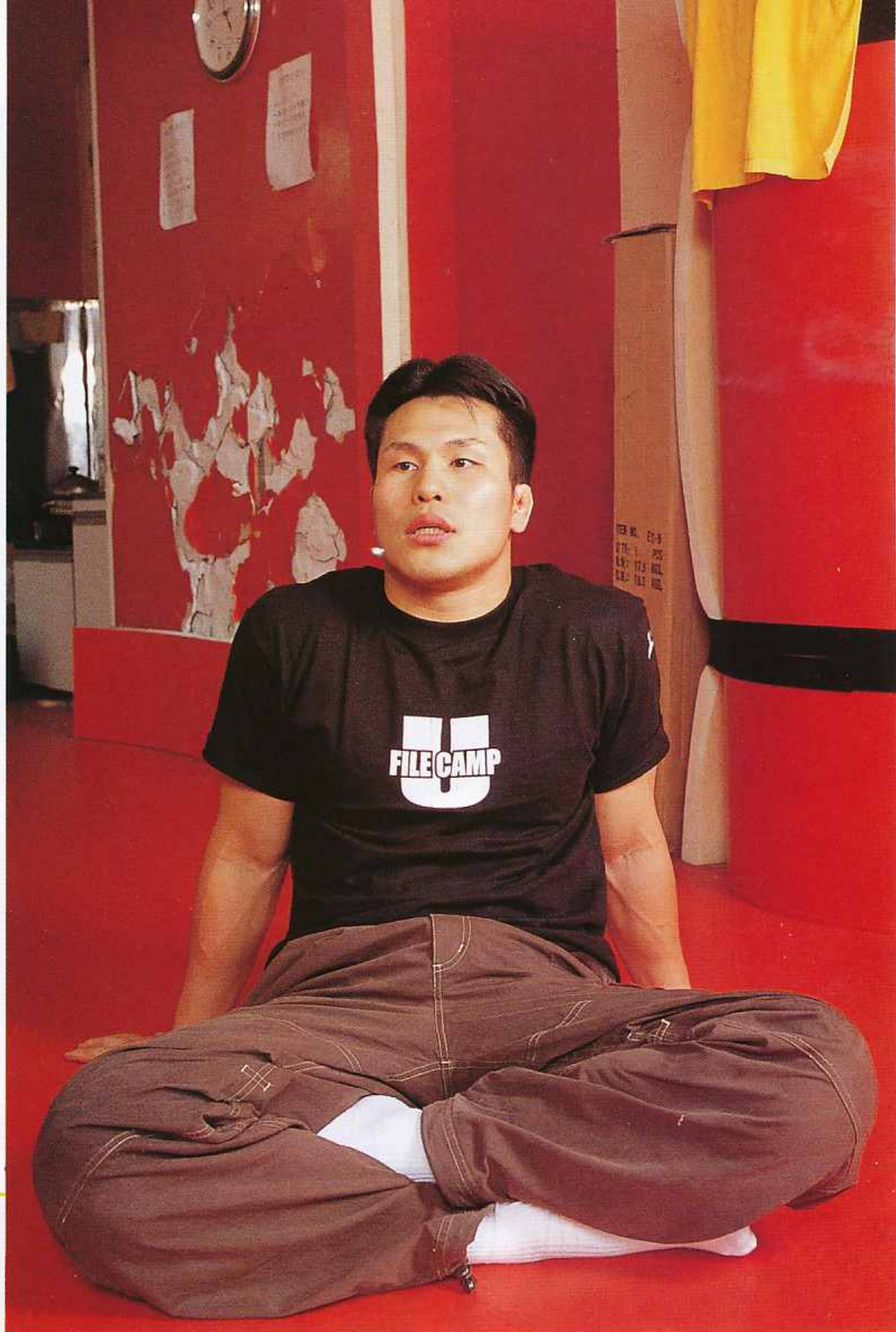
――散々各誌にインタビュー受けといて、なにを言ってるんですか！（笑）。

田村　もう取材受けすぎで疲れたよ（苦笑）。今回、これだけインタビューを受けたのはね、「リングスを退団しました」っていうのを自分の口から言いたかったのよ。でも、も～う10回以上同じこと喋ってるんだよね（笑）。

――質問内容もほとんど一緒でしょうからね（笑）。

田村　そうそう。だから記者会見にすればよかったって、今さらながら後悔してる（笑）。

――最後の力を振り絞ってお願いします！（笑）。で、お聞きしますけど、田村さんは団体のエースだったわけですよね。エースが辞めるというのは、かなり重大な事件だと思うんですけど、リングスを辞めるにあたってそれなりの決心というのはあったんですか？

田村　もともと色々悩んでいましたからね。やめる決断に関しては……ないですね。ただ、確かに自分で色々やるというのはかかったるかったり、つらかったり、めんどくさかったりするんだけど、それは生みの苦しみとして頑張りたいと。キツイけどやり甲斐がある。そんな感じです。

退団までの経緯はこれまでの『紙プロ』を順番に読めばわかる（笑）

Tamura

――ちょっと具体的に聞きたいんですけど、リングス退団までの経緯というのはどんな感じだったんでしょうか?

田村 退団までの経緯は、これまでの『紙プロ』でのインタビューを順番に読めばわかるでしょ（笑）。

――アハハハ! 田村さんの離脱の経緯が知りたい方は、『紙プロ』バックナンバーをお買い求め下さい（笑）。

田村 というわけで、インタビュー終わりっ!

――終わりませんよ!（笑）。

田村 だからホント、自分でやりたいことを自由にやってみたい。ただそれだけですよ。

――それがリングスと同時進行で出来れば良かったけれども、それは出来ない状況であったと。

田村 ……そう、お互い失礼でしょう。だから今回は、指が完治してないんで、そんな状況で契約しても会社にも迷惑かけるし。自分にもやりたいことがあるんで契約はしませんと。

――ということは、田村さんの方から契約を拒否したんですか?

田村 そう。あ、これ言っちゃたらヤバイかな（笑）。だから変な意味にとらえて欲しくないんだけど、リングスさんに対しては、そういうことで「ありがとうございました」と。それだけですよ。

――実際、田村さんはケガをしてるわけですけど、リングスではケガしている場合は公傷ということで欠場できて、契約でギャラが保証されてましたよね。それは選手にとってはありがたいシステムだったと思うんですけど、それにお世話になるという考えはなかったんですか?

田村 ウン、そういうのにはね。色々めんどくさいでしょ、借りを作っても。それにボクはメインを任されることが多かったし、骨が折れても休める立場じゃないし、休みたいとも言えなかったから。

――田村さんは4月の段階では「契約してもらえるのであれば契約する」ということだったと思うんですけど。契約しないということはリングスと田村さんがお互いに合い譲れない部分があったわけですか?

田村 ウ～ン、そこら辺はデリケートだから。選手が会社との選手契約を結ぶにあたって、お互い折り合いがつかないから今回は契約ナシにしようと。それだけですよ。向こうも気持ちをくみ取って退団のリリースを流してくれたんだと思うし。いい形で見送ってくれたんだなと。そういう風に捉えないとね。

――では、一部で噂されたギャラの問題ではないわけですね。

田村 ウン、ギャラじゃないですね。リングスさんはね、ギャラに関してはちゃんとしてる会社ですからね。だから他の選手もそうだけど、それを蹴るとうことはそれなりの覚悟があったということでしょうね。

――ぶっちゃけった話をすると、年間の契約でリングスと同じ年棒を貰うとなれば、『PRIDE』のレギュラーになるか新日本に入団するかっていう位しかないですよね。

田村 そうだね。前田さんは経営者として素晴らしいから。そういう面では責任感あるし、自分でも苦労してきた部分もあるしね。だから経営者としては尊敬しますね。

――田村さんの1回目の交渉終わって次の交渉までの間に、山本・成瀬退団という我々も思いもよらなかったことが起きましたよね。これに関しては田村さんも驚かれましたか?

田村 いや、驚きはしないけど。ん～、やっぱね、オレら選手しか分からないことはあるよ。彼らがあういう行動を取ったっていう気持ちは芯の部分では分かんないけど、同じ空間で苦労していた人間として半分ぐらいはわかるね。

――お二人が辞められたことで、田村さんの決断に微妙な影響を与えたということはなかったんですか?

田村 ウン、あんまりないね。1回目の交渉で自分の気持ちは伝えたんで。いまさら、変な打算的なものもなかったし。リングスでもフリーでも悩むんだから、同じ悩むんだったら自分の可能性に賭けて方がいいでしょ。

――その「可能性に賭ける」という意味では、あのまま田村さんがリングスに上がり続けても消耗されるだけのような気がするんで、辞めることで大勝負を仕掛けてくれるなら退団も大賛成なんですよ。でも最近の田村さんを見てると選手としての希望よりも、U－FILEの経営者として比重の方が大きくなってる気がするんですよね。

田村 そうだね、いいとこついてくるね（笑）。実際ケガしていることもあって、その分試合に対するプレシャーもないし、練習も追い込んでするわけではないから。そういう意味で裏方に回って、ジムの組織作りを強化したいというか。裏方に徹するのもいいかなあと。オレも見えないところで色々考えたり、動いてんのよ（笑）。ある意味さ、選手だけやっているのは楽じゃん。

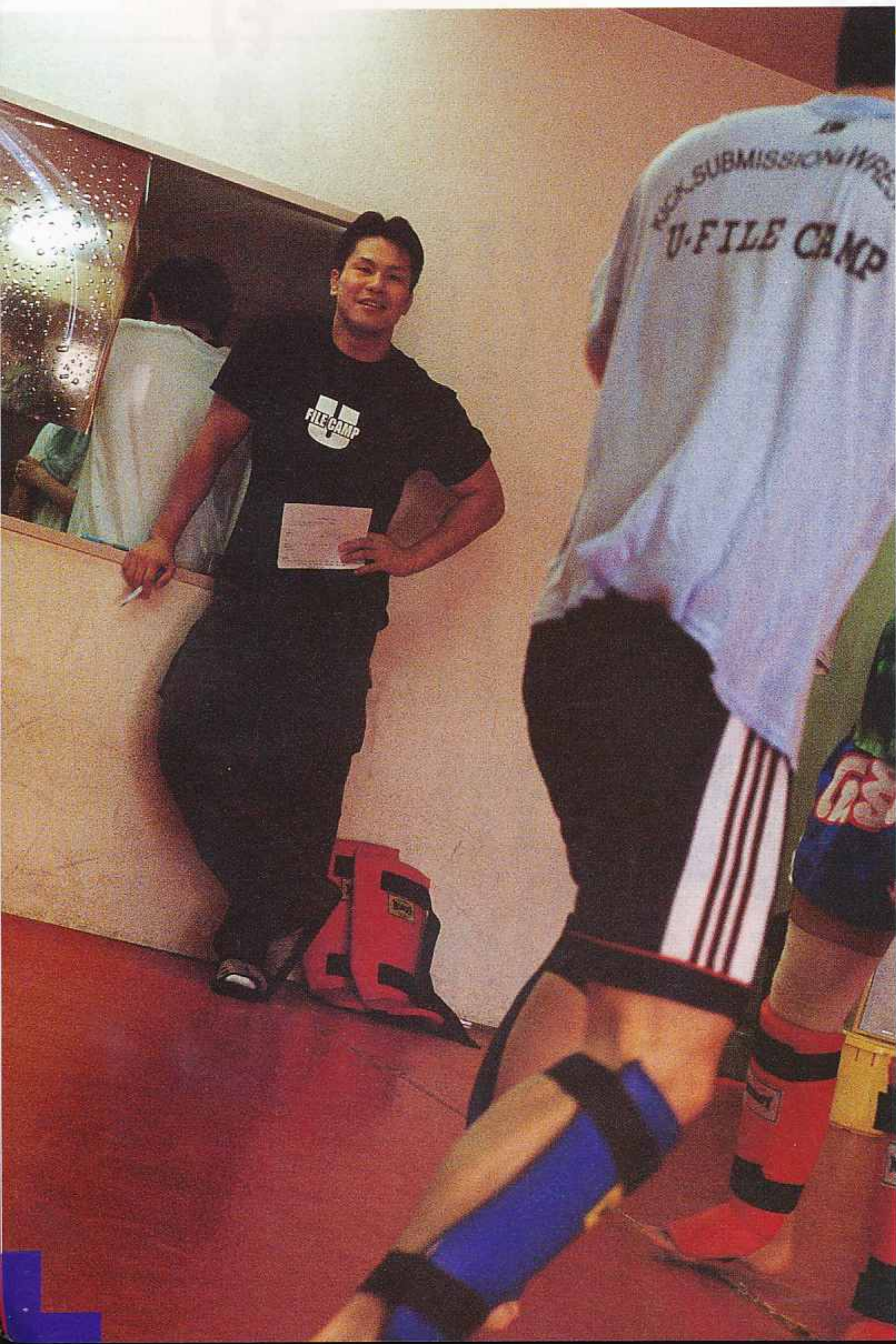
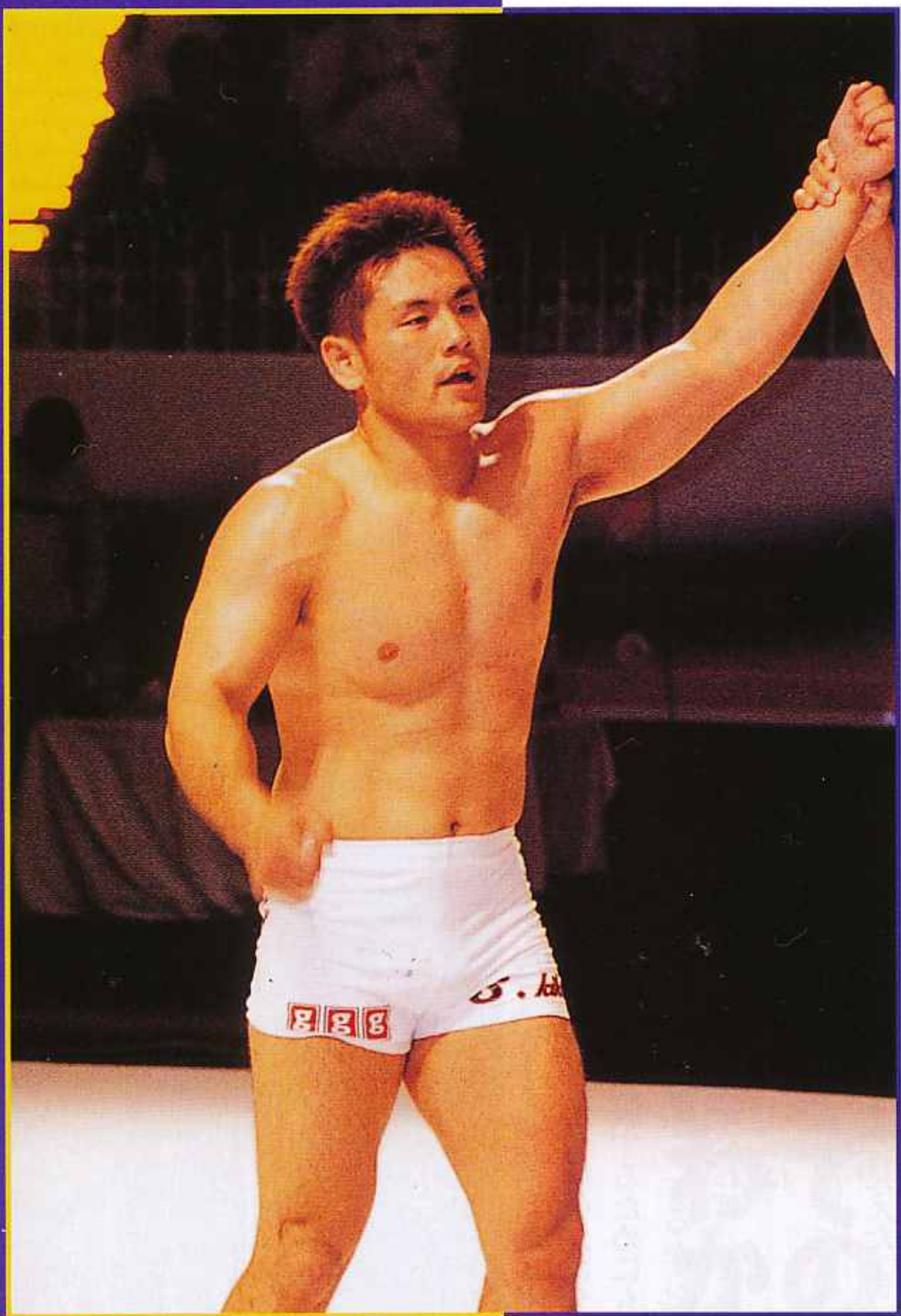
――でも、まだ裏方に回るのは早すぎると思うんですよね。田村さんには選手として、もっともっと大きな花を咲かせてもらいたいし、

それからでも遅くないと思いますよ。
田村　う〜ん、でもねぇ。
——最近、田村さんはパンクラスのネオブラッドとか、アマチュアの大会にも顔を出しているわけじゃないですか。当然ジム経営者としては必要なことだと思うんですけども、それによって考え方がプロというよりもアマチュアに近くなってるんじゃないのかなと危惧してるんですよ。
田村　ウ〜ン、でもオレは自分の生き方を貫きたいんだよね。周りが『PRIDE』に上がれだの、パンクラスの選手とやれだの、そういう期待感があるのはわかるの。だけどそれをやることが自分の生き方になるかっていったらわからないし。その辺は微妙な話でね、デリケートな部分もあるから、現時点でみんなに期待を持たすような選択はできないし。ある意味ちょっと、ホントに離れたいってのはあるね。
——1回姿を消したいって感じですか。
田村　そう。いろんなことを見つめ直す意味でもね。花だけ咲いていてもしょうがないじゃん。花だけ咲いてて根っこの部分でしっかりしてなきゃどうせ枯れていくんだから。それだったら花が咲いていなくても、根っこをしっかり地面に植え付けるというか。そういう作業をした方が、いますぐ花が咲かなくても芽となり花となりってなるから。だから根がしっかりしてないうちは花を咲かせようようとは思わないのよ。オレ個人としてはケガもしているしオファーもないから、いまはそういう言い方しか出来ないんだけど、色々自分の中ではファンの皆さんにまた夢を与えられることを考えてるから。
——考えてるんですか！
田村　考えてるっていうか、今それを煮詰めている、まとめているから。
——それを早く聞きたいですね！
田村　そのためにも今はさっき言った話を含めて、ちゃんとしっかり腰を据えて、根っこを植え付けなきゃいけないから。
——根を植えつけるという意味ではちょっと違いますけど、以前某選手がリングスを辞めたときに、「毎月試合があったらスキルアップ出来ませんわ」って言ってたんですけど、田村さんも2カ月にいっぺん強豪と試合して、それに照準に合わせて体作ってたら、新しい技術を覚えるヒマがなかったんじゃないかなっていう気はするんですけど。
田村　うん。技術っていうのは職人技だからさ。すぐに身につけられるモノでもないからね。だから誰だってそういう気持ちはあると思うよ。オレ自身に関しては自分の欠点は分かってるわけだし、それを克服するためにもやんなきゃいけないことも分かってるから。ケガが治って練習出来るようになれば、また強さを追求したいと思いますけどね。
——こないだのグスタボ・ジム戦にしても、そういう実験的な部分がちらりと見えたような気がするんですよ。田村さんが引き込んで、アンダーからの攻めを積極的にやるっていうのは今まで見れなかったものですよね。元々ガードポジションが好きじゃないっていうのもあったと思うんですけど（笑）。
田村　うん、ガードポジションは好きじゃないね。でもガードポジション自体が嫌いというより、それによって動きが止まるのが嫌なの。だから今回はアブダビ行って色々勉強させてもらったから。そういうのも参考の1つになったと部分はあるんで。アブダビはアブダビで凄く勉強になったからね。良く見てんね、やっぱり。
——じゃあ、田村さん的には収穫ありだったんですね。
田村　収穫ありだね。アブダビはもしかしたらこれから振り返ってみると、「あれがなかったら」って思うような経験かもしれないね。
——え!?　それは詳しく話すとどういう経験ですか？
田村　それは次号へ続く（笑）。
——なんでだ（笑）。それは自分の進むべき道の考えの1つになったわけですか？

Kiyoshi

いま自分の中でファンに夢を与えられることを煮つめているから

田村　考えの1つにはなったよね。それとね、菊田が頑張ったからというのもあるし。
——ああ、菊田さんの優勝も微妙に影響してるんですね。
田村　だからマスコミ関係者はもっと菊田の存在を認めて欲しいですよね。だってあそこで優勝するってスゴイ事じゃないですか！
——確かにスゴイですよ！
田村　内容はね、菊田本人が言ってるように地味だったと思うんだけど、地味ほど大変なことないから。パスガードっていうのは、ただ足を1つ抜いただけかもしれないけど、あれがいかに大変かっていうのをわかって欲しいよね。だからオレも声を大にして菊田がいかにスゴイかっていうことを言いたい。……ちょっとほめすぎてるかな（笑）。
——素直な気持ちだし、見る方に対してもいい提言になるとは思いますよ。
田村　ただ、これから彼に何かアドバイスするのであれば、本人は望んでないかもしれないけれど「総合的にバランスのとれた選手になれ」ってことだね。向こうからは「田村さんはバランスが取れてる」って言われたんだけど、オレは菊田の闘い方はスゴイと思し。自分の中で秘めた雑草魂が出たと思うからね。あれはもうちょっとね、みんな見る目を変えてもらいたいなって思う。日本は関節取ったら歓声が上がるけどさ、例えば武道館とかでサイド・ポジションを取っただけ盛り上がったらスゴイだろうね。そうしたら、菊田が

『アブダビ』で優勝した菊田がいかに凄いか、声を大にして言いたい

今年、組み技最強トーナメントと呼ばれる『アブダビ・コンバット』で日本人初の優勝を成し遂げた菊田早苗。田村は『アブダビ』本戦の前日夜、この菊田を相手に激しいスパーリングを何本も行っている。この大会から田村は何を持ち帰り、この経験から田村の心に何が芽生えたのか!?

Tamura

生きてくると思うんだけど…。

――でも、田村さんは逆に綺麗な動きで武道館を沸かせるて、観客を満足させる試合をしてきたわけじゃないですか。それは田村さんの凄さだと思うんですけどね。

田村　そう、オレはスゴイ！（笑）。

――自分でもご存じでしたか！（笑）。

田村　それはそれで書いて貰っていいんだけど（笑）。あういうポジション取りにしてもパスガードしてお客さんが喜ぶようになったら、格闘技っていうのはもっと素晴らしいモノになるなあと思う。

――なるほど。では、この辺でトークショーにおけるファンみたいな質問をさせてもらっていいですか？（笑）。

田村　じゃあ、そこのキミ（笑）。

――「ハイ！　田村さんがいま一番闘いたい相手は誰ですか？」（笑）。

田村　キューティー鈴木！（笑）。

――ダハハハ！　くだらないですね（笑）。

田村　って昔、山崎さんがトークショーで言ってた（笑）。だってないも～ん。というか、そういうのは今はダメ！　もうちょっと待って（笑）。

――真面目な話をすれば、今ファンが一番知りたいのは次に田村さんが上がる場所だと思うんですよ。業界の噂では12月の『DEEP』の両国に出場するってのが確定したかのように言われますけど（笑）。

田村　どこがそんなこと言ってんの（笑）。噂だけで言ったら桜庭戦にしても『PRIDE』にしてもそうじゃん。分かんないよ、先のことは。

――選手として誰と闘いたいとかいう欲はないんですか？

田村　ない！（キッパリ）。

――ないってそんな（笑）。

田村　いまのオレの選手としての欲は強くなることだけだから。さっきと同じこと言うと花だけ咲かせてもしょうがないんだから。UWFから12、3年やってきてちょこちょこは花は咲かせてきたとは思うけど、花を咲かせるにしても基本になるのは地味なつらい練習なのよ。それをやってればいつか花が咲かせられるわけだから。そんなにオレは焦ってないの！

――でも根っこの部分っていうなら、練習にしても実績にしても十分作ってきたわけじゃないですか。ファンも田村さんはそろそろデッカイ勝負をして欲しいなっていうかあるんですけどね。

田村　ウ～ン。

――田村さんが大勝負を掛けたら、総合格闘技というジャンルがもっと大きくなり、ファンが注目するきっかけになると思うんで、そういう夢のある試合を田村さんにやってもらいたいですよ。

田村　じゃあ、全部、田村潔司を任せるから。オレのプロデュースをしてよ。そうしたらどうする？

――まず『PRIDE』に出しますね！

田村　相手は誰？

――まずはホイス・グレイシーかヴァンダレイ・シウバです！

田村　アハハハハ！　それで？（笑）。

――田村さんが勝てば、次は桜庭さんかヒクソン・グレイシーですよ。やっぱり究極的に田村さんのやるべき相手はこの二人くらいじゃないですか。こういった試合をやるのがマット界のため、田村潔司のためになると思いますよ。実際、こういう試合をしたいっていう気持ちはないんですか？

田村　今は考えたくない（アッサリ）。

――またあっさりと（笑）。今はケガをしてるからだと思うんですけど、将来的にはどうですか？

田村　ないっていうか、考えないようにしてる。だから、ちょっと休ませててよ！　っていうか休む!!

――アハハハ！　まあ今年いっぱいは試合しなくてもいいとは思うんですけどね。

田村　あるか、ないかぐらいでいいでしょ？

――上がるリングはどこでもいいですけど、ホントにさっき挙げたような選手と大勝負をやってもらいたいですね。一時期話にあがった近藤選手とはどうなんですか？

田村　近藤戦はない（キッパリ）。やる気も、やるきっかけも、やる意味もなくなったでしょ？

――それはどういう意味ですか？

田村　向こうに聞いて。やりたい、やらない、やりたい、じゃわからないし、気分悪い。

――あ、発言が二転三転しましたからね。確かにそれで実現しなかったときに、田村がやらないか出来ないんだっていう風潮になったら、たまったもんじゃないですね（笑）

田村　そうそうそう。そんなの気分良くないよ。だからちょっと期待を裏切るように聞こえるかもしれないけど、現時点ではオレはホントにケガもしてるし、試合については考えてないから。

――田村さんが復帰戦の照準を絞って、それに向かってケガも治して体も作って行くぞってなればいいんじゃないですか？

田村　あのね、ぶちゃけると、ケガのせいにしてお茶を濁してんの！（笑）。

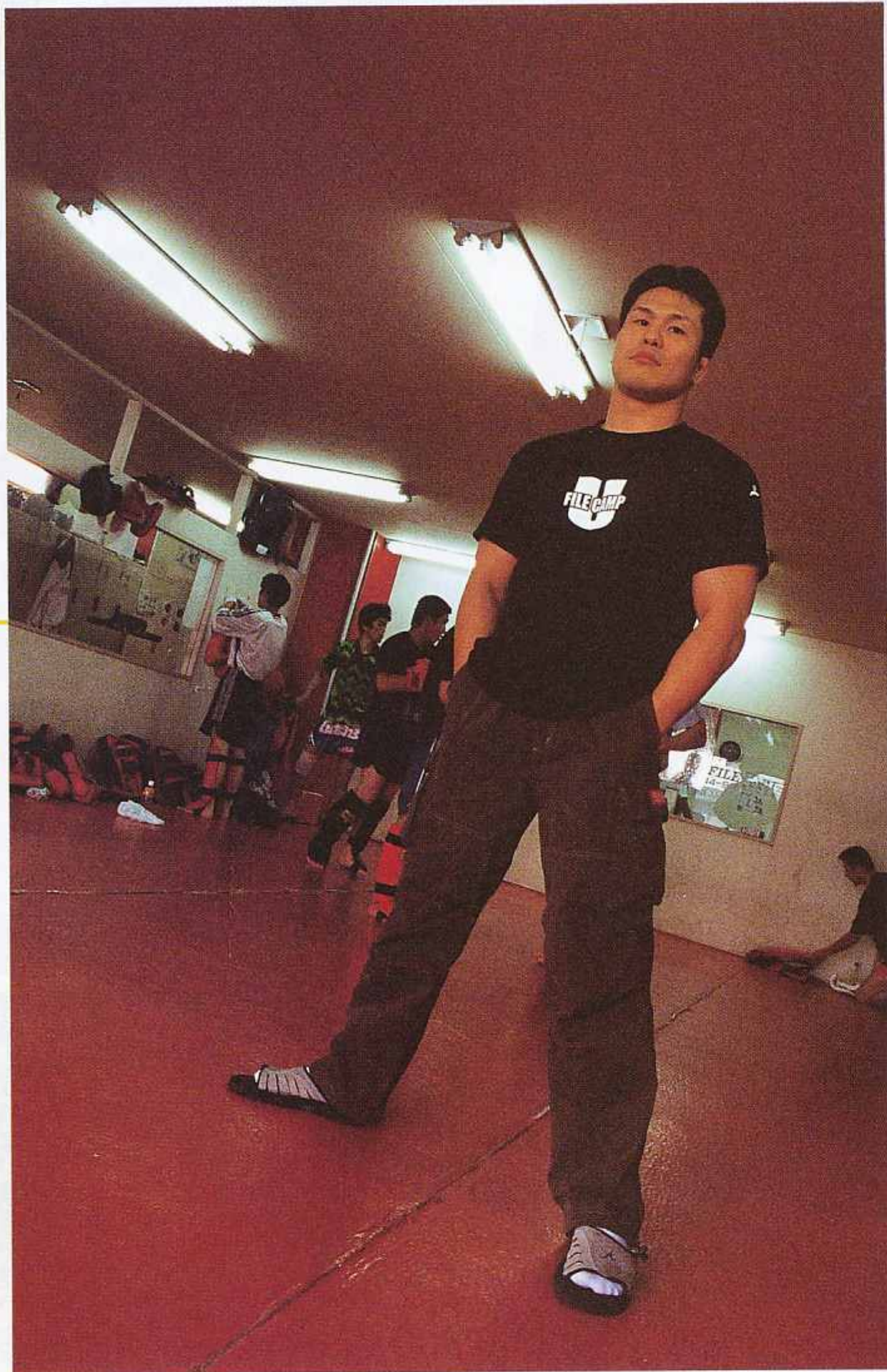
――ケガのせいにしてましたか（笑）。

田村　実際に今はケガもしてるしできないんだから。そういうことよ。

――誰と闘うかは別として、総合格闘技をリングス以外でやるとしたら必然的にいわゆるバーリトゥードになりますよね？

田村　………。

――田村さんがバーリ・トゥードの世界に身を投じるのかなと。その点についてはどうなんですか？

田村　みんなそう言うんだけど、オレはああいった闘いは嫌いだから。
―その真意はなんでしょう？
田村　危ないから（笑）。
―危ないからですか（笑）。
田村　やっぱり危ないのは、もう刺激を見るようなもんだから。オレは何回も言ってるけど、何でもあり、何でもありっていうけどルールがあるんだから何でもありじゃないだよね。それを勘違いしてるよ。究極の闘い方ってのはケンカなわけじゃん。みんな何だかんだいっても、ルールがあるんだから。それだったら安全でなおかつわかりやすいスポーツ化にしていった方がいいような気がするよね。格闘技は殺し合いじゃないんだから。その辺は難しいところなんだけど。まあ『PRIDE』のルールは危険すぎるよ。
―まあ確かに4点ポジションでの打撃は行き過ぎかなっていう気が非常にするんですけども。ただ、ルールっていうのは常に変わっていくものだと思うんですよ。
田村　でもそんなことといったらオレは初期のころのパトリック・スミスとそういう試合をやってるわけだから。パトリック・スミスは当時のアルティメット大会で準優勝で、そういう選手とやって勝ったとしても避けられないっていうのは時代の繰り返しで、キリがないっていうか。それはそれでその団体がやればいいことなの。団体が選手にやらせる場合もあるし、選手が団体にやらす場合もあるかもしれないけど、オレは今のそのバーリトゥードの世界に自分から行こうとは思わない。それをやらないことで逃げたと言われても、それは全然OK。キリがないから！
―確かにキリがないとは思うんですけど、グラウンドの顔面までは今はそんなに問題ないとは思うんですけど。
田村　顔面まではいいと思うよ。
―それでは過激なルールに荷担する気持ちはまったくないというかんじですね。
田村　一切ない。一切ないから、オレはオレでやっていくという。そっちはそっちでやればいいし、オレはオレの道をいくっていうか。なんかの選手個人の闘い方になってやんなきゃいけない時期もくれば、そのときはやるけどね。その辺の考えは矛盾しているかもしれないけど。
―分かりやすくい言うと田村さんはバーリトゥードに対してやんなきゃいけないときはやりますよと、行く準備はありますよということですか。

近藤戦はやる気もやるきっかけも、やる意味もなくなった

Kiyoshi

田村　そう！　準備はあるけど、ただタイミングと、きっかけだと思う。
―でも働き口からして、もうバーリトゥード方面しかないんじゃないですか？
田村　いや、『無我』がある！（笑）。
―『無我』なんてもうやってないじゃないですか！（笑）。例えば田村潔司主催興行というのは考えてないんですか？
田村　ウン、それは何とも……。いまはケガしてるから、お茶にごさせて。
―共鳴してくれる選手とかいるんですか？
田村　どうだろうね、やってみないとね……。まあ、もうちょっと時間をちょうだい。時間もらって、ファンの人にも話せるような形になってから話すから。
―そういう田村さんのライフワーク的なものをやるためにも、ここらで大勝負をやって「田村潔司」っていうバリューをガツンと上げてもらいたいと思うんですよ。田村さんの言っていたやらざろうえない状況、そういう運命の日が必ずあると思うんですけど、それを避けて田村さんの理想っていうのも実現しないと思いますから。考えてることにしても、ルール問題にしても、ジムやら選手の契約環境にしても、マット界における発言権が絶対必要じゃないですか？
田村　（苦しそう声で）いじめないでくれ～。オレをいじめないでくれ～。
―なにを言ってるんですか！（笑）。
田村　オレはいっぱい、いっぱいなんだぁ～。爆発しそうだ！（笑）
―ワハハハ！　爆発して討って出て下さいよ！　ズバリ討って出ないんですか！
田村　それはね、次号に続く！（笑）
―また次号ですか！（笑）
田村　いまはそっとしといてよ。来るときが来たら必ずいい話題は提供するからさ。こんなもんでいいでしょ。もう陽も暮れてきたしさ（笑）。

【01年6月3日／川崎市・陽も傾いたU－FILE CAMPにて収録】

オーちゃんを殴った“山本憲尚（ヤマノリ）”を緊急直撃

小川はもっと格闘技の練習した方がいいよ！

「リングスに所属してたら小川とは闘えない。それなら俺が外に出て追っかけるしかないでしょ」と前号で発言していたヤマノリが遂に動いた！ 6・14真撃で試合後のオーちゃんを強烈なパンチで殴り倒し、さらに「小川ーッ！ お前、寝言は寝て言え!! もう終わりかよ!!」と挑発したヤマノリを襲撃3日後、都内某所でキャッチした！

小川は猪木さんの教えをわかってないよ！

小川は俺のこと教祖様だと思ってるでしょ

構成／松澤チョロ
design by さおとめの事務所

衝撃の真撃とはこのことだ。小川直也vs藤原喜明の一戦が終わり、いつものようにマイクを握りファンに挨拶をしようとしたところへ、疾風の如く駆け寄り強烈なパンチでオーちゃんを殴り倒した1人の男。この男の正体は、リングスを退団した山本憲尚だった。

襲撃直後、タクシーに乗り込み夜の大阪の街へ消えたヤマノリ。しばらく連絡も取れない状態が続いたが、襲撃3日後、トレーニング中のヤマノリを都内某所でキャッチ。緊急直撃した。

◆ ◆ ◆

山憲　そういえば、この間、偶然ケビンさんに会ったんだよ。

——ケビン・ヤマザキさんですか？

山憲　そうそう。駅でバッタリ会ったんだけど、「山本さん、殴んないで下さいよ」って、怖がられちゃって（笑）。

——ケビンさんにも怖がられましたか（笑）。（目尻が腫れているのを発見して）それは誰かに殴られたんですか？

山憲　これはねぇ、ヘルペスなんだよ（笑）。俺は口によくできるんだけど、こんなとこにできるの初めてだよ。きっと小川の怨霊だと思うよ（笑）。

——もしかして小川選手のファンから殴られたんじゃないですか？

山憲　違う違う（笑）。俺は殴ることはあっても殴られることはないよ。

——早速、その件について聞きたいんですけど、いつもは襲撃三昧の小川選手を山本さんが逆に襲撃、さらには失神させてしまったわけですけど。

山憲　失神っていうか失禁でしょ？（笑）。

——失禁してたんですか？

山憲　失禁って凄いよね。俺も血便血尿はあるけど、失禁はまだないからねぇ。いやぁ～凄いなぁ（笑）。

——加害者として、小川選手への右フックの手応えはどうでした？

山憲　えっ、俺、加害者なの？

——被害者じゃないですよね（笑）。

山憲　俺が被害者だよ。「殴りに来い」って言ったから、わざわざ大阪まで行ってあげたんだよ。俺は純粋だから、そう言われたら、殴って欲しいのかなぁって思うじゃないですか？ それにね、小川は中西選手のこと言えないよ。

——中西選手にも「闘いたかったら大阪に来い」って言ってましたからね。

山憲　いや、この間、中西選手と闘ったときに小川は「目が泳いでる」って言ってたでしょ。一発目のパンチはかすったんだけど、その後、顔見たら目が泳ぎっぱなしだったからね。小川は眼科に行った方がいいよ。

——眼科ですか！

山憲　そうだね。それに小川は、もっと格闘技の練習した方がいいよ！

——それはどういったことですか？
山憲　一発目がかすった時、やる気な
寝てたからちゃんと聞こえなかったと
思うよ。だから、小川の耳元で「寝言
山憲　そうでしょ。そういうとこでや
るのもなんか面白いのかどうかわかん
山憲　そうだね（笑）。謙虚イズ・ベ
ストだから。殴ったときに脳味噌をシ
——マイクは茶番なんですか？
山憲　あんなの茶番だよ。リングを降

——それはどういったことですか？

山憲　一発目がかすった時、やる気なんだなって思ったら、普通、臨戦体勢に入るんだけど、それが逃げれなかったでしょ。小川は、もっと動体視力を鍛えた方がいいね。

——動体視力を鍛えろと？

山憲　そう思うよ。あれは俺の思ってた小川じゃなかったね。あれじゃ真撃じゃなくて吉本新喜劇だよ。

——小川選手は吉本新喜劇だと（笑）。

山憲　それに「殴りに来い」って言っておいて、殴られたあとに「ありがとうございました」って言ってたでしょ？　小川は俺に感謝してるんだよ。

——殴ってくれて、ありがとうございましたってことなんですか？

山憲　そうだよ。俺は感謝されることはあっても恨まれることはないから。でも「ありがとうございました」って、猪木さんに闘魂注入してもらったファンじゃないんだからね（笑）。

——小川選手は「マイクぐらい練習しておけ！」って言ってましたけど。

山憲　ちょっとマイクのスイッチ入れるの忘れちゃったけどね。

——マイクはちょっと聞き取りにくかったですけど、そこは反省してると？

山憲　反省はしないけど、スイッチぐらい入れておいてくれよと（笑）。でも、そんなにカツゼツ悪かったかなぁ。

——反省してるじゃないですか（笑）。

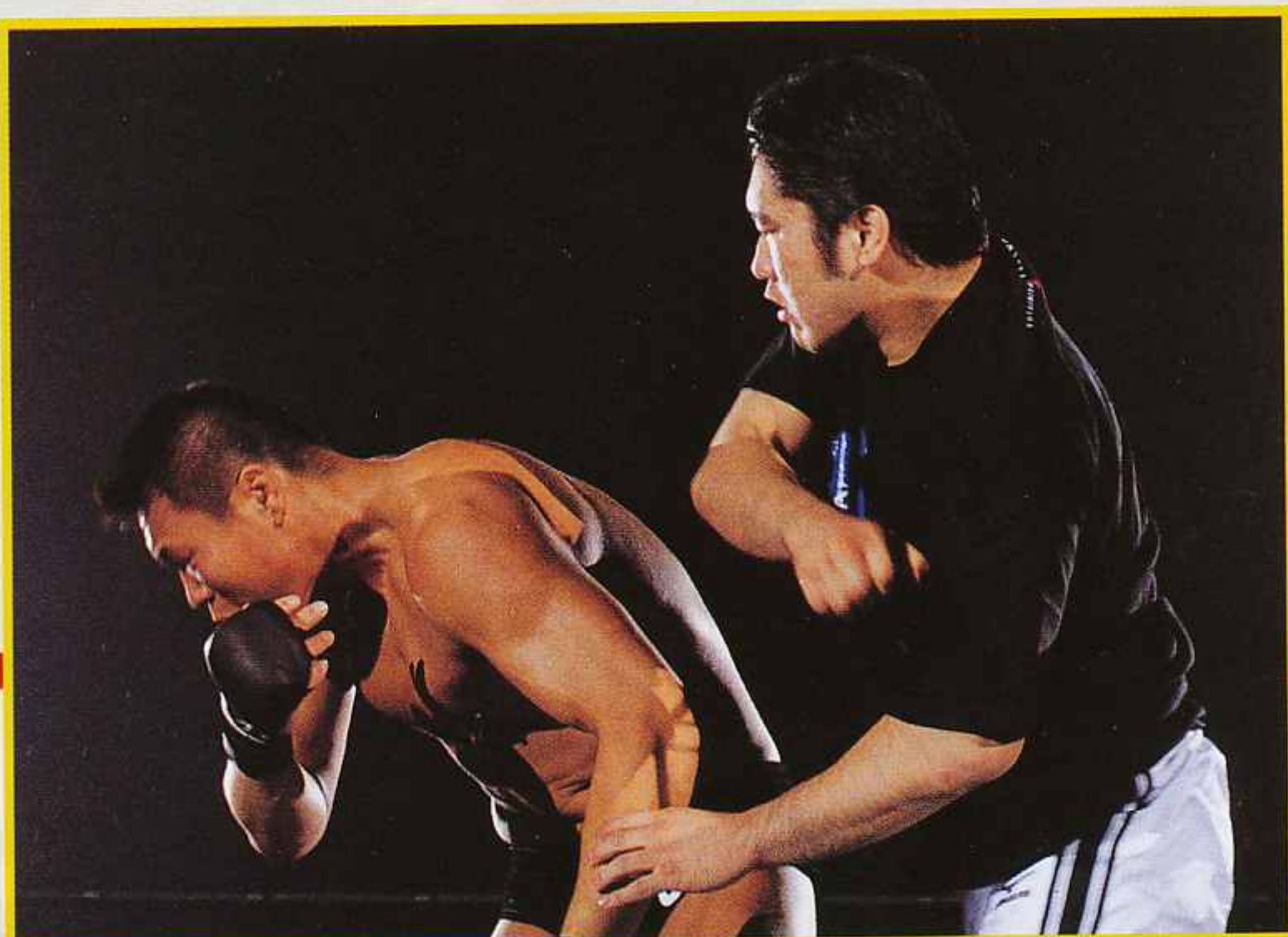
山憲　いや、でも小川は人のこと言えないよ。マイクアピールするときはマウスピース外せって！

——小川選手はマウスピースしたままアピールすることが多いですからね。山本さんの「寝言は寝て言え！」っていうマイクアピールは、師匠の前田さんを意識したわけですか？

山憲　意識はしてないですよ。小川が寝てたからアドリブで言ったんだけど、寝てたからちゃんと聞こえなかったと思うよ。だから、小川の耳元で「寝言は寝て言え！」って優しく囁いてやれば良かったね。

——それは屈辱でしょうね（笑）。それで、すでに次の8月の真撃か、もしくはUFOの自主興行で小川選手と対戦かっていう話が出てますけど？

山憲　それは一方的に向こうが言ってるだけでしょ。まだ何も聞いてないし、テーブルにも付いてないしね。それに真撃に出ろって言っても橋本さんと小川っていうのは兄弟の盃を交わした仲だからね。昔は闘ってたのが、いまは仲良しこよしになってるからさ。

——兄弟の盃を交わしたかどうかはわかりませんけど（笑）、確かに最近は共闘路線っていう感じがしますよね。

山憲　そうでしょ。そういうとこでやるのもなんか面白いのかどうかわかんないし。やるからには、プロレスファン、格闘技ファン、一般の人、そういうのを全部巻き込んでやりたいからさ。

——大きな花火をあげたいですか？

山憲　打ち上げたいね。でも今回は彼に従ったわけだから、次は向こうが俺の言うこと聞く番でしょ。

——なにか、小川選手に言いたいことでもあるんですか？

山憲　あれだけ醜態見せといて、あまり偉そうなこと言ってんじゃないと。やっぱり、小川はもうちょっと謙虚にならなきゃダメですよ、謙虚に！

——『馬鹿になれ！』ならぬ、謙虚になれですか（笑）。

山憲　そうだね（笑）。謙虚イズ・ベストだから。殴ったときに脳味噌をシェイクしたんで、ちょっとは謙虚になったかなって思うけど。「ありがとうございました」って言うぐらいだから俺に感謝してるわけでしょ？

——まあ、そうとも取れますよね（笑）。

山憲　小川は俺のこと教祖様だと思ってるんだろうね。

——えっ、教祖様ですか？

山憲　だって猪木さんがそうでしょ。「ビンタして下さい」って、「バチンッ！」って、あれと同じようなもんだから。脳味噌シェイクしてやったから、スイッチがおかしくなったかもしれないけどね。あの一発で目が覚めたと思うよ。それで、目が覚めたときに俺のことを親だと思ったんだよ。

——鳥が目を開けて最初に見たものを親だと思うようにですか？

山憲　そうそう。目を開いたら俺が見えたんじゃない？　親っていうか教祖様だと思ったんじゃないですか？　それにね「あれは不意打ちだ」とか言ってるヤツがいるけど、不意打ちでもなんでもないわけよ。リングっていうのは一歩足を踏み入れたらそこは戦場なんですよ。戦場でマイク持って茶番してたらおかしいと思わない？

オーちゃんをパンチ二発で倒したヤマノリは、鬼の形相で強烈なストンピングを叩き込み、マイクアピールを敢行！　横たわるオーちゃんを尻目に、同行していた成瀬とともに会場外へ待機させていたタクシーに乗り込み、夜の大阪の街へと消えていったヤマノリ。

——マイクは茶番なんですか？

山憲　あんなの茶番だよ。リングを降りるまでは、いつ何時なにが起こるかわかんないわけでしょ？　それが彼のキャッチフレーズじゃないですか。自分で殴りに来いって言っておいて、そりゃねえだろって感じですよ。

——そういえば山本さんは「小川は猪木さんの教えをわかってないんじゃないか」って言ってましたよね。

山憲　小川は猪木さんの教えをわかってないよ。もう忘れちゃったんじゃないの？　もう一度、パラオに行って猪木さんに二刀流の槍で突かれた方がいいんですよ。小川は俺のパンチが見えないんだから。

——そういう意味では、現時点で闘いたい相手は小川直也一本なんですか？

山憲　いまはそうだね。

——リング上で闘う山本さんが見られるのは、小川選手がらみになると？

山憲　その気持ちは変わってないから。ただ、俺はこれはって思ってる娘でもすぐ飽きちゃうところがあるんだよね（笑）。

——飽きっぽいんですか（笑）。

山憲　そうそう（笑）。この娘のここが許せないって思ったら許せないんですよ。でも逆に、ここがいいって思ったら純粋に突き進んでいくからさ。

——いま突き進むべき相手は小川選手ということなんですね？

山憲　そういうことになるね。

——やっぱり、格闘家・山本憲尚としては、早くリング上でシバキ合いたいっていうのはあるでしょうね。

山憲　そうですね。ただ、やるからには自分の最高の作品を見せたいんで、いまは、その作品をいつ出すかっていうのを、焦らず騒がず考えてますよ。

【6月17日／東京・大井町にて収録】

ヤマノリに殴られた“小川直也（オーちゃん）”を

緊急直撃

個人的には非常に面白くない！ところで山本君、キミって何者？

高田、中西、そして山本と、同時期に対戦表明をされていたオーちゃんは「大阪に来たやつの挑戦を受ける」と宣言！　そして6・14！　オーちゃんの背後から山本憲尚が急襲！　そのヤマノリは、襲撃後も本誌に対して、憑き物が落ちたようにガナりまくった！（前ページ参照）。そしてヤマノリ咆哮2日後に、本誌は、ようやくオーちゃんをキャッチした！

「やってくれんじゃねーか！」というのはあるね

会長（猪木）の名前を出すなら、まず、気づけ!!

構成／赤覆面X
design by さおとめの事務所

6・14『真撃』――。ZERO―ONEのファイティング・アスリート部門として開催された新顔のこのイベントのセミファイナルは、小川直也vs藤原喜明。

マムシのようにしつっこい組長をSTO5発で沈めたオーちゃんが、マイクを握ってファンに挨拶しているところに、背後から黒い影が急襲した！　リングスを退団したヤマノリだ!!　一発目のパンチはかすったものの、二発目で小川を沈めたヤマノリは、「小川！おまえ、寝言は寝て言え!!（しばらく間が開く）もう終わりかよ!!」とマイクでガナった後、疾風の如く会場を去った。

試合当日&翌日は多くを語らなかった小川は、いまこの事件と、vsヤマノリをどう捉えているのか。試合5日後、本誌のヤマノリインタビュー2日後に、ようやくオーちゃんを電話でキャッチすることに成功。緊急直撃した。

◆　◆　◆

――6・14の『真撃』で闘った藤原喜明組長に対しては、「オジサンはオジサンでも、この前やったオジサン（長州）とは違う」と言ってましたが、どこに手応えを感じたんですか？

小川　最初から闘う意志があるかないかと言うことだよね。プロレスは闘いの場でしょ。組長は殺るか殺られるかで来てたよ。それも年齢を考えて玉砕覚悟でね。

――十分、手応えは感じたと。

小川　だってさ、一方で5・5の○州は、最初から最後まで目が泳ぎっぱなし！　ど～見ても闘いのモードには入ってなかった。試合後のコメントでも「格闘技だかプロレスだかハッキリしてほしい」とか言ってたでしょ。あれって自分の保身しか考えてないコメントだよね。福岡ドームで彼がやったことは、ど～考えても「猪木プロレス」、即ち新日本の象徴の「闘魂」に対しての反逆行為だね。あっ！　あの試合については、ついでに俺も反省してま～す。これは言っておかなくちゃね（笑）。

――その藤原戦後に、山本憲尚に背後から襲撃されましたけど、殴られたという実感はあるんですか？

小川　……う～ん、試合後に山本選手に殴られたっていう印象より、一瞬、「誰だ？」って感じだったね。

――小川さんは試合翌日に取材陣に向かって「山本君は間違っている」と言ってましたけど、その真意をもう一度聞かせてください。

小川　山本選手自身は、俺は「山本だ！　山本が来てやったぜ!!」って感じで来てると思うけど、はっきり言っ

てZERO－ONEとかUFOとかのプロレス関係者以外の、その他大勢のお客さん？ それからまぁ、テレビで見ていた人たちには、それこそ「誰だよ、お前!?」って感じじゃないのかなぁ。ま～、全国で1億人いると言われているリングスファンの方々には山本君はよく知られてるとは思うけどね。だから、少なくとも会場の皆さんがキミのことを知ってると思ってるという、とんでもない勘違いをした言動が見えたので……ということで「間違っている」と言ったまでだよ。以上！

――率直に言って、殴られた怒りはないんですか？

小川 個人的には非常に面白くないね！ でも、プロである以上は、彼のやり方はともかくとして、自分で行動を起こしてくれたことに対しては、「やってくれんじゃねーか！」というのがあるね。でもお客さんが見たいと思うのかが不安だよ。

――山本選手は、「小川は中西のことを『目が泳いでた』と言ってたが、中西のことを言えない。小川のほうが目が泳ぎっぱなしだった。眼科に行ってこい！」と言ってますね。

小川 それを言うなら、おまえのほうが一杯いっぱいだったんじゃねーの？ って言いたいね。それも中西以上に！

――殴った山本選手のほうが余裕がなかったということですか？

小川 だってさ～、当日来場した人たちに「あいつ、何言ってんのかわからんかったよ……それに口の中、何か食べてたぜぇ～……」って言われてたようだしね。俺は乱入ひとつするのも、試合にひとつ出るのも、気持ちは一緒！ と思ってるけど。たぶん、あいつは「こんなの簡単じゃん」とか考えてやって来たんだろうね。結局、プロレスを甘く見てる証拠！ 去年の年末の『猪木祭り』の○竹選手に近いものがあるよ。来たはいいけど、たいしたインパクトも残せなかったしね。そういうところでも共通点があるんじゃない。

――ところで、山本選手に襲われて気が付いた後、「ありがとうございました」とマイクで言ったのは、記憶が飛んでたからですか？

小川 いや、あれは、自分自身頭がボーっとしてたんだよね……でも、とにかく来てくれたお客さんに対して「ありがとうございました」って言わなきゃと思っちゃったから……。

――それに関しても山本選手は、「俺に殴られた後にマイクで『ありがとうございました』っていうのはないだろう！ 猪木さんに闘魂を注入された猪木信者じゃないんだから！ 小川は俺に感謝している山本信者か!?」と噛みついてますね。

小川 いやぁ～、勘違いも甚だしいね、ホント。キミは成功したと思って、いまも吠えてるの？ むしろ俺がキミの失敗をフォローしたことに気がついてないね。あ～、怖い怖い。それに受けを狙って吠えてるつもりなんだろうけど、思いっきりハズレてるよ！

――どういうところがですか？

小川 だってさ、会長（アントン総帥）の名前を出すなら、まず「気づき」って言葉に気づかなきゃ。いや、「気づき」っていう意味に気づかなきゃね。それこそつまらない芸人さんのパターンそのものになっちゃうよ。

――さらに山本選手は、「小川はもっと格闘技の練習をしたほうがいい。一発目かすったときに臨戦態勢に入れずに、逃げきれなかった。まともに2発目を食らってたじゃないか。格闘技の練習をして、動態視力を鍛えたほうがいい」とも言ってます。

小川 や、山本選手！ 度重なる叱咤激励ありがとうございます!!（笑）。か、格闘技の練習？ 俺は毎日プロレスの練習をしてるよ!! プロレスのことを考えてもいるしね。それより俺が質問したいよ。キミって何者？ 格闘技のコーチ？ それともクサレ評論家？ 人のことなんだかんだ言う暇があったら、選手としての立場を考えて話そうね。

――「小川はあんな醜態みせて、偉そうなことを言ってるんじゃない！ もう少し謙虚になれ！」と、ヤマノリ選手は憑き物が落ちたように言いたい放題状態ですね。

小川 いやぁー、これまた参ったな……。俺はいつも謙虚でいるつもりなんだけど（笑）。そうか！ いま気が付いた！ 山本選手って俺の言い方が気に食わないんだ！ だったらさっきからの、ありがたいご指摘に対して、今後は言い方を変えて、「格闘技のことなら何でもお任せ！ 教えて、山本大先生！」と言うことにしよう！

何が起こるかまったく予想がつかなかった6・14の『真撃』のリング。まさに電撃、衝撃な背後からの一撃をオーちゃんに食らわしたヤマノリ。まさに「撃」づくしだ！ リングスを退団してオーちゃんに標的を定めていたヤマノリが、早くも行動に移したのは驚きだった

――小川さんは、もう山本選手に対して臨戦態勢になっているんですか？

小川 いやぁ～、俺はOKなんだけどさ、お客さんが見たいかどうかが心配なんだよね。それに山本大先生のお立場も考慮しないといけないし。「大先生」と言う看板に傷つけちゃ～いけないからね。

――山本選手は「やるんだったら格闘技の中立のリングで」と言ってますね。

小川 しっかし、次から次へと凄いことドンドン言う人だね～。中立って言ったってねぇ？ この対戦カードを大枚叩いて買ってくれる奇特な人が現れればいいんだけど……。本当にこの人……失礼！ この大先生は自分がとてつもなく偉いと思ってるんだろうね。だってそうでなきゃあ、こんな暴言……いや、お言葉は吐けね～よ。はなっから自分が出るカードは売れて当然だって気でいるんだもん。山本君さぁ、プロだったらこう言うべきだと思うけど……。まぁ、俺みたいに謙虚な人間はすぐに遠慮しちゃう方だから、とてもじゃないが言えないけど……参考までにね。「プロである以上は一番高く買ってくれるとこでやろう……」とか言ってみたらどう？ カッコいいじゃん！ そっちのほうが。

――『真撃』第二弾の8・30武道館、噂されるUFOの秋の自主興行で小川vs山本戦実現か？ とアチコチで報道されているが、これに関してはどうなんですか。

小川 だ・か・ら！ プロとして理想とする金額を提示するところが出て来なかったら、無理してでも、見栄を張ってでも、赤字覚悟でUFOで自主興行をしますよ!!（笑）。（小さな声で）高いフリをしてね。

――大阪に来いと呼びかけていた、髙田延彦、中西学選手は結局姿を現しませんでしたけど、2人の対戦表明に対しては、もう受ける気はないんですか？

小川 それは彼らの問題！ 喧嘩売っといて来ないのはなぜ？って話じゃない。単なるパフォーマンスなの？ いちいち、そんな茶番なパフォーマンスに誠意をみせたとこで、俺が疲れちゃうもんね。だから、やりたきゃ来りゃ～いいじゃん！ なぁ、髙田・中西両選手よー!!

――山本憲尚を、いちファイターとしてどう思ってますか？

小川 まっすぐで、いいんじゃない？ 師匠譲りで。交換日記でもしようかな。ダーッハッハッハ。

【6月19日／電話取材にて収録】

真撃

6・14 大阪城ホール

プロレス界の桃太郎侍がまたしても無意識に風穴を開けた!!

ヨッ! 破壊王!!

文／山口日昇

designed by さおとめの事務所

「ヨッ! 破壊王!!」——試合中に思わずそう声をかけたくなった。6・14、大阪城ホール『真撃』。もちろん、メインを張ったのは我らが破壊王・橋本真也だった。

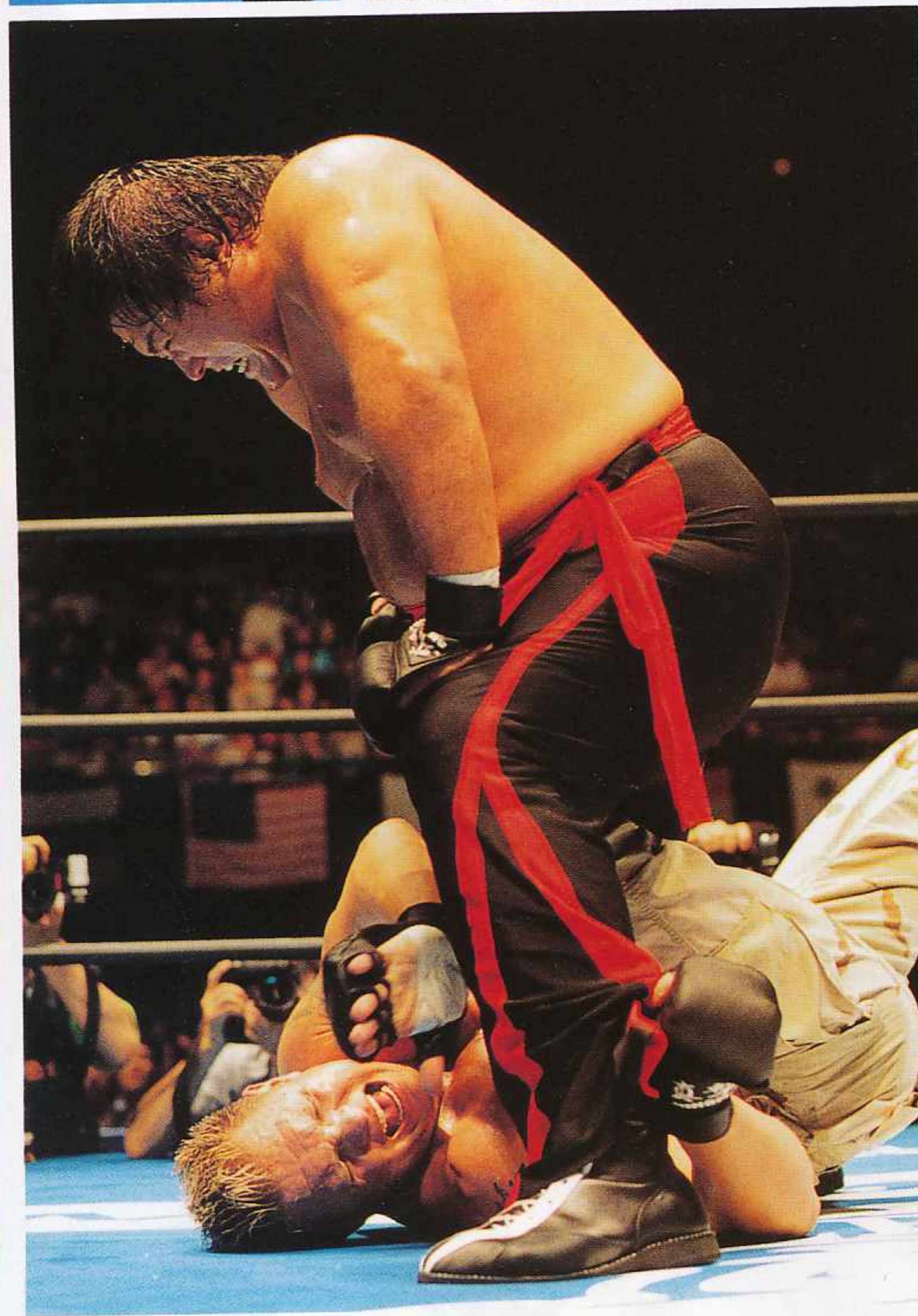
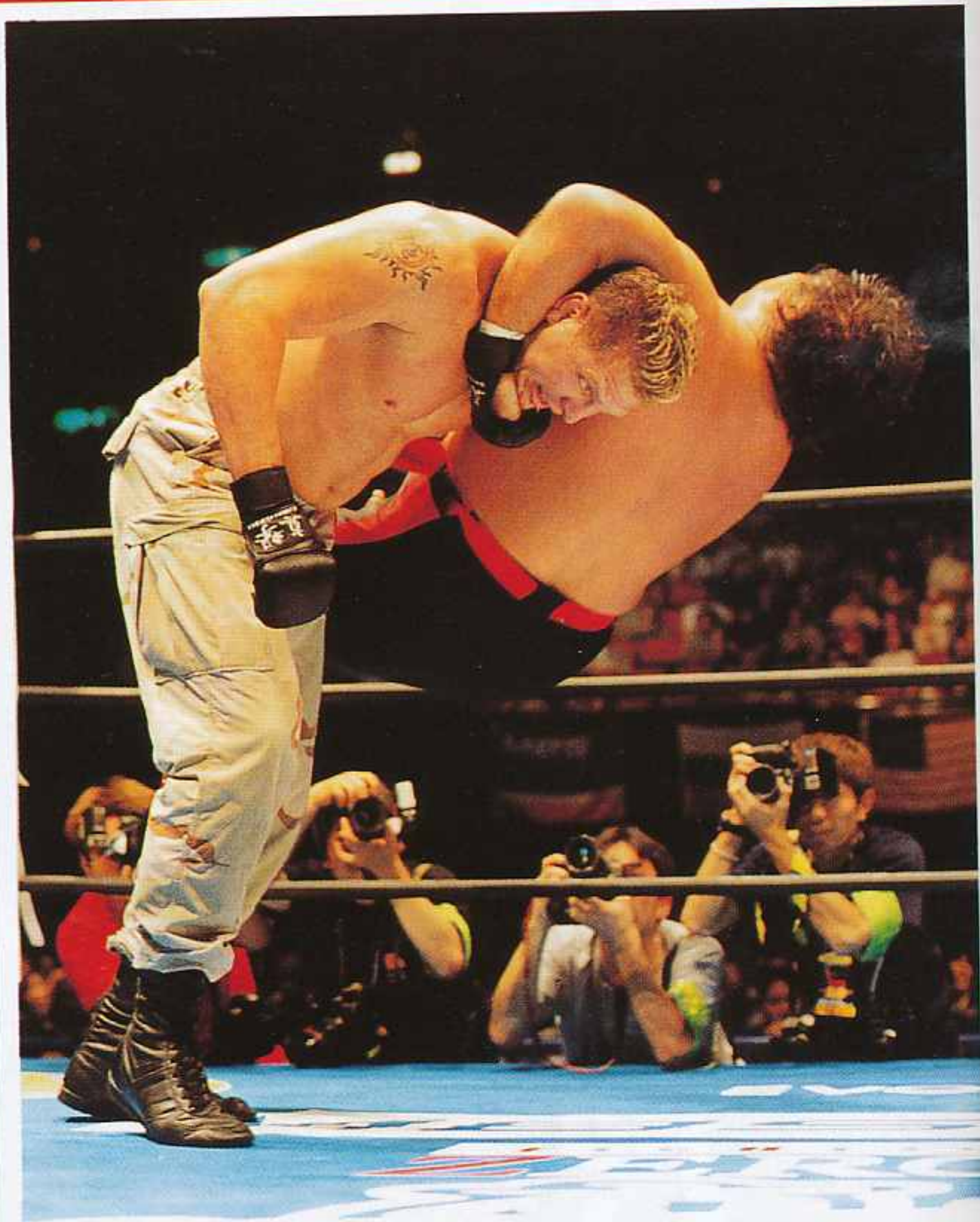
相手は、グリーンベレー出身の〝未知の強豪〟トム・ハワード。試合は、この〝どんだいっぱい掘り出し物〟のガイジンに攻め込まれ、怒りを溜めに溜めた破壊王が、最後は逆襲に転じ、キッチリ勝利をモギ取った。

フィニッシュが関節技ではなく、グローブをハズしてのケサ斬りチョップ連打、もしくは垂直落下式ブレーンバスターだったら、さらに溜飲が下がったに違いない。

この試合はもう、日本版WWF。もしくはプロレス版の桃太郎侍、である。これは決してバカにして言ってるのではない。

「ひと〜つ、アメリカの怒りを! ふた〜つ、グリーンベレーの人間兵器! み〜っつ、まだ見ぬ強豪を! 退治てくれよう破壊王」——破壊王が攻められてるときに、ボクは橋本が好きな『桃太郎侍』の決めゼリフをもじって、こんなことを頭に浮かべていた。

単純に、「頼むから立ち上がれ、破壊王!」「頑張れ、破壊王!」「ガイジンを退治しろ、破壊王!」と思ったからである。いや、ホントに。

そういえば破壊王は、グリーンベレーを破った後、「会長ーッ!!」と叫び、入場ゲートのほうを見据えた。会場が大猪木コールに包まれる。そんな会場を尻目に、破壊王は「エー、会長は飛行機が遅れてるようです。俺が代わりにやりまーす! イーチ、ニー、サーン、ダーーーッ!!」とやってしまったのだから、凄い。これも強引すぎるが、近来希にみる解

●入場式では、ゲートに設置されたデカイ扉を蹴破って登場してきた破壊王。「アメリカの怒りをぶつけてみろ！」と試合前のビジョンで叫んだ破壊王。試合では水面蹴り、ＤＤＴを繰り出し、試合後には「真撃は手作りでやってます！」と叫んだ破壊王！　とにかくこの日は破壊王テイストがテンコ盛りだった。●相手のハワードは、野戦仕込みのほふく前進、蹴りなどで真っ向勝負を仕掛けてきた。「敵は自分でつくる」ということに破壊王はこの一戦で目覚めたかのようだ

▼時間無制限１本勝負

橋本真也（11分57秒 スタンディング・ヒールホールド）**トム・ハワード**
（ZERO—ONE）　（UPW）

放感だった。

やっぱり、プロレスにとって〝解放感〟というのは重要な要素だ。

初顔合わせの緊張感と、歌舞伎の大見得を切る場面で得られる解放感。破壊王はこれを偶然転がして、「対アメリカ」という、いまの時代では、あまりにも的ハズレなテーマを〝コロンブスの卵〟化してしまった。

さすがにリアルタイムで見たことはないが、この日の橋本の試合は、力道山時代の試合のようだった。

力道山は、自分を追い出した相撲界への〝ジェラシー〟、民族的な背景を背負った潜在的な〝怒り〟と〝コンプレックス〟、そして「敗戦」という大きな〝孤独感〟を、すべてリング上に昇華させて、見る者に解放感を与えて続けてきた。

戦後最大のスーパースターから較べれば、スケールが小さくなるのは否めないが、破壊王にも、自分を追い出した新日本への〝ジェラシー〟、プロレスラーという人種が持つ潜在的な世間への〝怒り〟と〝コンプレックス〟、「１・４事変」で味わった〝孤独感〟を経験した強みがある。

これが一皮剥けた破壊王のモチベーションの源になっているのは確かである。ズバリ言ってしまえば、無名の相手、売り興行という要素なら、新日本在籍時の破壊王ならば、おざなりの試合になったかもしれない。

一流のプロレスラーというのは、何度残酷な目に合っても、何度ヘコんでも、その度にモチベーションを上げなければならない。その点では、「引退」の道を選べる他の競技者よりも過酷な運命を背負っている。

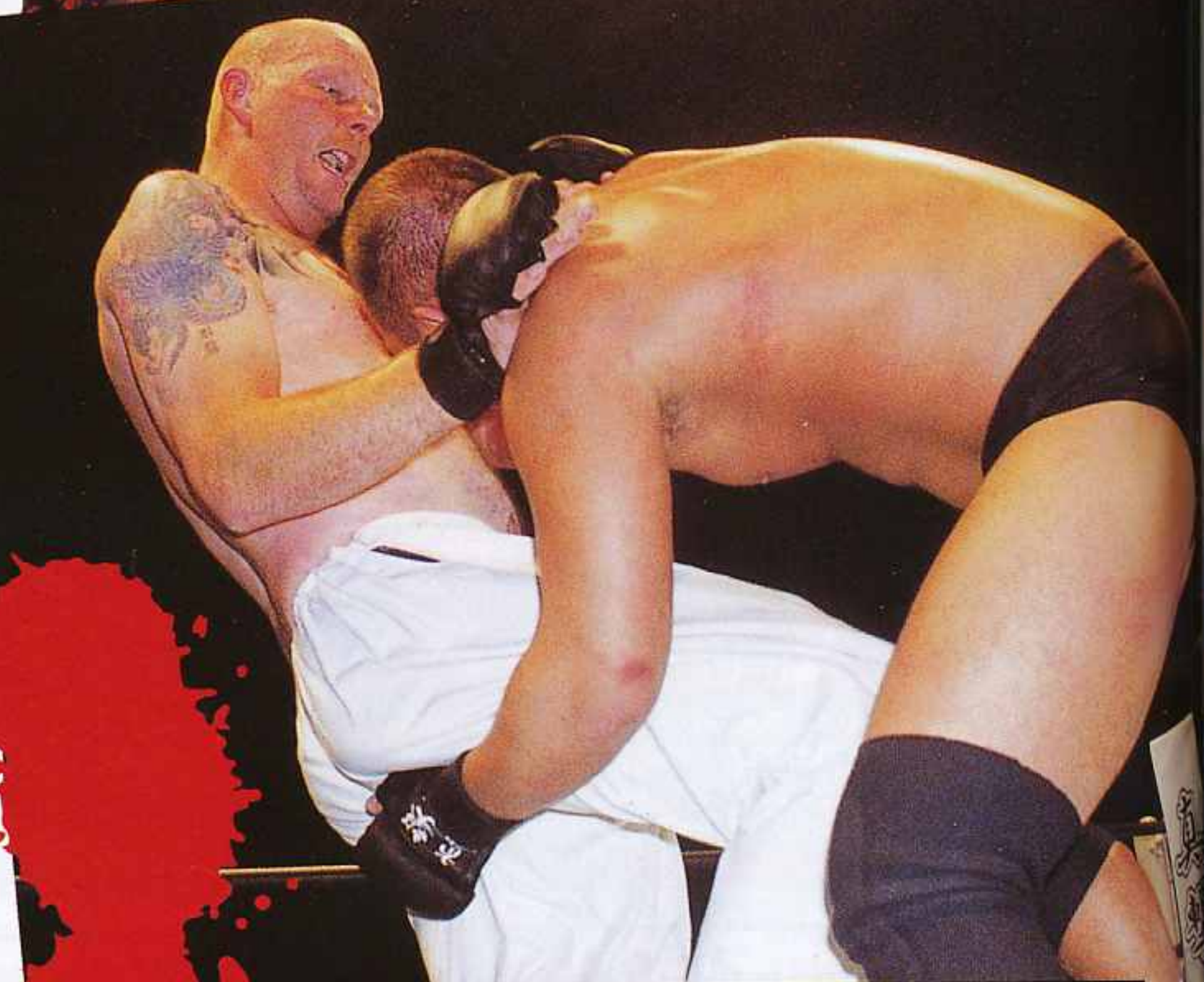
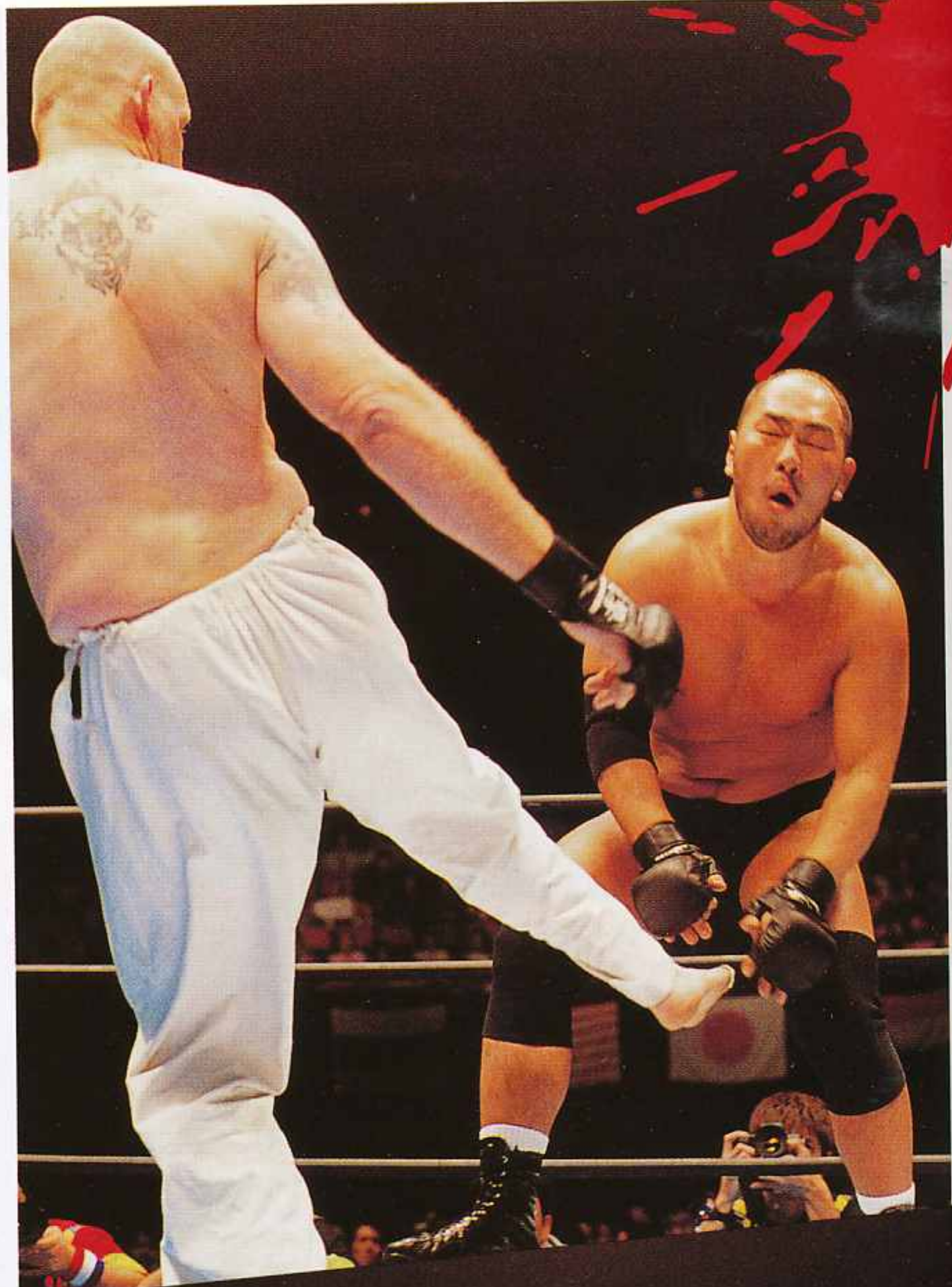
波瀾万丈の人生を、解放感という形に昇華させた破壊王は、やっぱりスターである。

恐怖

真撃
6・14 大阪城ホール

"死神"ゴルドー
高岩に地獄を
味あわせる!

"寸止めバーリ・トゥード"が
はびこる世に"極真プロレス"
こんな
"怖いプロレス"が
見たかった!

○G・ゴルドー
I・メインダート
（14分[illegible]秒 レフェリーストップ）
A・大塚
高岩竜一×

ゴルドーのあまりにも凄い攻撃。凄すぎて笑ってしまった。

失礼ながら、この試合の最中、笑ってしまった。それも一度や二度ではない。試合の間中爆笑しっぱなしだったのだ。

断っておくが、「笑ってしまった」と言っても、決して失笑が漏れたわけではない。「あまりに凄いものを見たときには笑ってしまう」ということを、身をもって体験させてもらったのである。

とにかくゴルドーは笑えた。

相方（対戦相手）である高岩相手に繰り出すすべての技が、笑いのツボならぬ高岩のボディーを鋭角的に突いてくるのだ。そのあまりのえげつなさに、もう笑うしかない。それをすべて受けきった高岩も偉い。この試合の助演男優賞ものである。

では、早速この試合の爆笑名シーンを振り返ってみよう。まず、最初の高岩とゴルドーの絡み。ゴルドーの左足内股へのローキックがモロに入ると、高岩は「うっ」という、普段の試合ではなかなか発しない、うめきを漏らすと、無表情のままアレクにタッチを求める。プロレスラーが表情で痛みを表現することすら忘れるこのリアリティ。なかなか見れるモンじゃない。

その後も、ゴルドーと高岩の絡みは激しすぎる爆笑ヒットパレード状態。ヒザ蹴りを打てばボディに突き刺さり、ソバットはみぞおちを直撃。ハイキックはこめかみにジャストミートである。

そして最後に待っていた大爆笑。わざわざグローブを外しての、正拳突き乱れ打ち！

以前ドームでやった猪木vsゴルドー戦での正拳突きも凄かったが、この日はそれを遥かに超えるド迫力。ハッキリ言ってその衝撃は石澤vsハイアン戦のラスト以上。「怖さ」で「真撃」が『PRIDE』を超えるとは、まさに嬉しい誤算である。

この瞬間、『PRIDE』に対抗しうる、「格プロ」は「猪木祭り」や「藤田vs永田」ではなく、ゴルドーが見せたスタイルであると確信した。

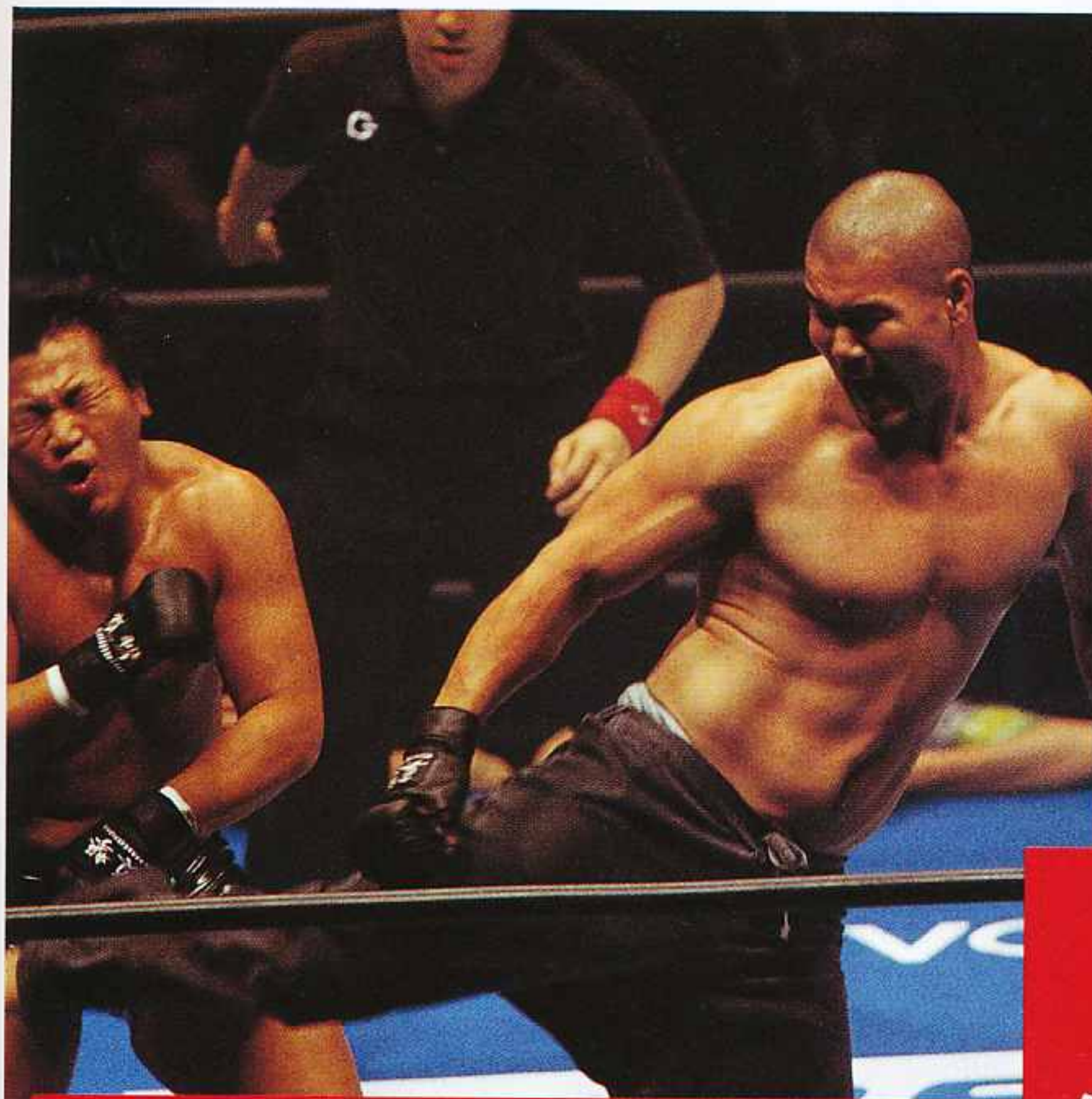
「猪木祭り」や「新日グローブプロレス」と「ゴルドーvs高岩」は、格闘技とプロレスの融合ということで、同じカテゴリーに入るように思えるが、実は似て非なるものなのだ。

新日でオープンフィンガー・グローブを着用して行われる試合が、バーリ・トゥードのファイト・スタイルを持ち込むことで、闘いに緊張感を生もうとするのに対し、「ゴルドーvs高岩戦」はスタイルではなく、闘いそのものを、プロレスの中に取り込むという手法。

闘いそのものであるからこそ、なかなか踏み込めない高岩やアレクの姿に緊張感を感じ、ゴルドーの姿には恐怖を感じるのである。そしてその中で出すデスバレー・ボムが光を放つのだ。

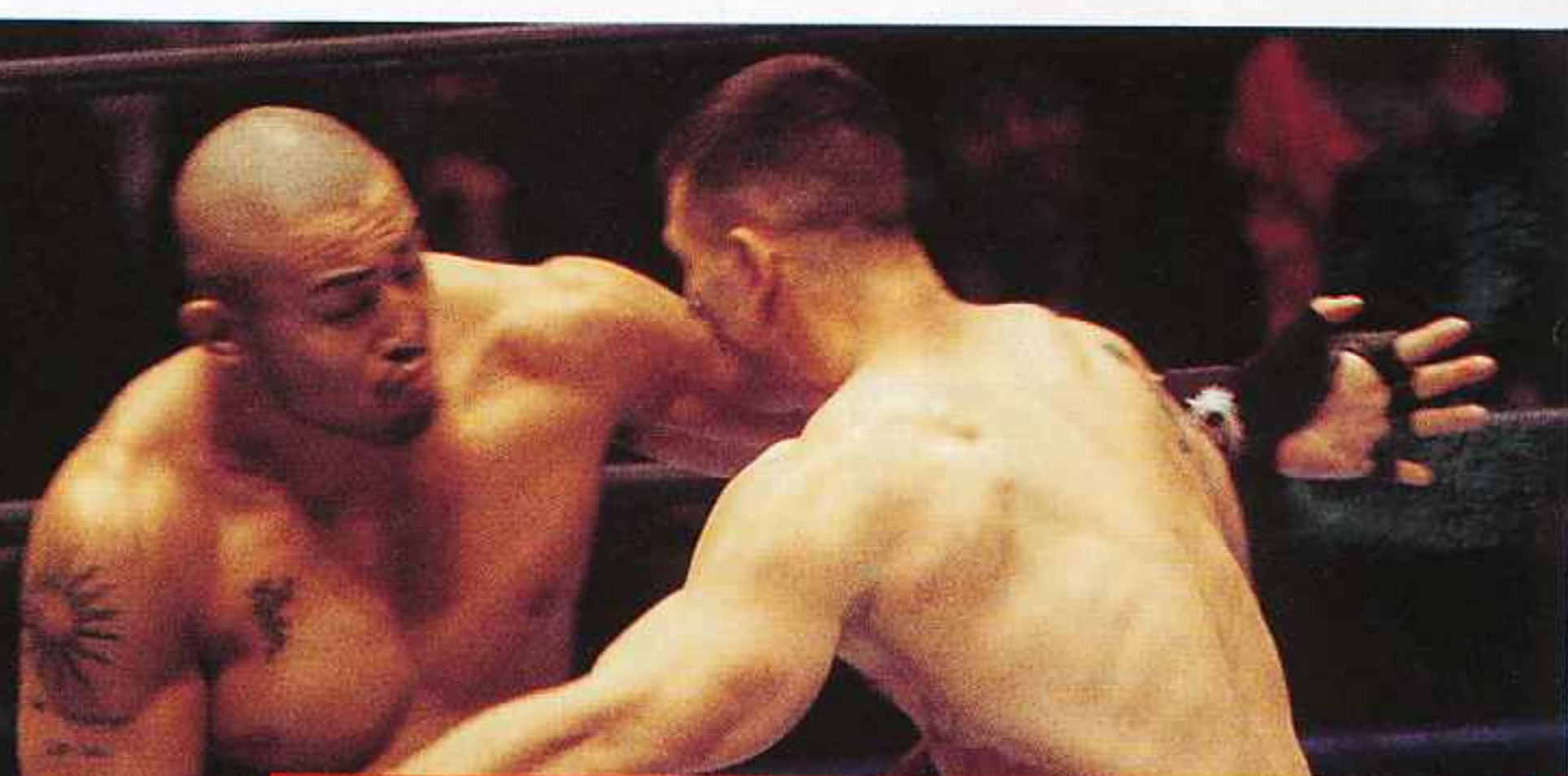
格闘技の技術、迫力、緊張感とプロレスのダイナミズムの融合。そこにゴルドーの恐ろしさを加えた今回の恐怖プロレス。これこそが我々が待ち望んでいた「すげぇ闘い」である。そして凄すぎて爆笑してしまったのだ。

思えば猪木さんの現役にも随分笑わせてもらった。血だらけになり、ヨダレを垂らしながら長州の首を締め上げるアントン。これもまた「恐怖プロレス」。やっぱりZERO—ONEは猪木イズムが息づいているのである。

ゴルドーの「恐怖プロレス」の餌食になってしまった高岩であるが、ゴルドーの恐ろしい攻撃を喰らいながらも、キッチリとデスバレーボムを決めてみせた。これぞ格闘技とプロレスの融合である。

真撃ダイジェスト

胡散臭いリー、星川にKO勝ち。

リー・ヤングガン（6分26秒 KO）星川尚浩
（ハプキドー）　（ZERO－ONE）

今大会ナンバー１のインチキ臭い風貌を持つリー・ヤングガン。テコンドーと合気道を合わせたハプキドーのカリフォルニア州王者という、凄いんだか胡散臭いんだかわからない経歴も素敵だ。しかし、試合になると、予想以上に多彩でキレのある蹴りを連発。なんと星川にKO勝ちを収めた。

謙吾不運！　無効試合！

謙吾（1R3分36秒 無効試合）ジェイソン・ドレクセル
（パンクラス東京）　（LAボクシング）

はたして謙吾がプロレスをするのか？と「真撃」参戦発表時は注目されたこの一戦。結局はパンクラスルールとなり、謙吾にとっては「プロ格」の中で「純格闘技」の凄みを見せつける絶好のチャンスだったが、お互い慎重になりすぎて、観客を沸かすまでに至らず。最後も不運なカットによる無効試合となってしまった。謙吾、もう一丁！

PPVの解説を努めたのは、鈴木みのると現WBC世界スーパーフライ級王者、徳山昌守。そして週プロのケンファー佐藤編集長。特に鈴木の解説は、小川vs藤原など興味深かった。はたして鈴木みのるの「真撃」参戦はあるのか？現代に蘇った戦国絵巻のリングに上がる鈴木は見たい！

"ハイスパート・喧嘩プロレス"！

大谷晋二郎（7分57秒 反則勝ち）村上一成
（ZERO－ONE）　（UFO）

ZERO－ONE旗揚げ戦において、超バチバチの試合を展開し、観客の度肝を抜いた一戦が真撃ルールで決着戦を迎えた。試合は予想どうりの激しすぎる展開。もはやこれはハイスパート・喧嘩マッチと呼びたい代物だ。結局、村上が素手で大谷の顔面にパンチを叩き込み、反則負けとなったが、激闘で認めあった両者。電撃合体の芽も出てきた。

今月は見ての通り忙しすぎてオマエらの相談に乗れずスマなかった！

来月は必ずやるぞ！ 覚悟して相談に来ーーーい！

今月はアメリカに行ったり、三沢社長にポエムを書いたりと「真撃」を成功させるために、大忙しだったんや！　だが、来月はその分たっぷりやるぞ！　お前らの悩みと、アメリカの怒りをオレにぶつけて来〜〜〜〜〜い！　ZERO－ONEは「人生相談」も手作りでやっていきます！　では、会長は飛行機が遅れてしまったんで、オレがやらせていただきます！　1・2・3、ダァ――ッ!!

宛先
〒151－0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
ダブルクロス
紙のプロレスRADICAL編集部
「手作りの人生相談」係

※破壊王の人生相談「人生ケサ斬りチョップ」は今回はおやすみです。

7.20
新日本・
札幌ドーム大会へ出陣!!

リングス退団後、
新たなる闘いの場として
選んだのは
新日本プロレスだった!

オレのマット界での野望を貫徹するためには
新日本は避けては通れない!

成瀬昌由

聞き手/松澤チョロ
撮影/丸山剛史
designed by matsu (Two three)

突然のリングス退団発表から、その去就が注目されていた成瀬昌由が、次なる闘いの場として選択したのは師匠・前田日明が育った新日本プロレスだった。3月のディファ有明大会でヘルニアを克服し1年9ヶ月振りの復帰戦を勝利で飾ったばかりの成瀬だったが、リングスとは契約せず、フリーとして新たな格闘ロードを歩き始めた。成瀬はなぜ新日マットを選んだのか？　リングスそして前田日明をどう思っているのか？　成瀬昌由の真意を探れ！

――この度は、ＩＷＧＰジュニア王座挑戦決定、おめでとうございます！（笑）。

成瀬　あ、ありがとうございます（笑）。でも、まだタイトルが懸けられるかどうかは正式に決まってないよ。もしＧＰ懸けてもらえるんだったら一発で獲るつもりだけどね。でも、ＩＷＧＰって言いにくくない？　みんな、なんて言ってんの。

――ＧＰは、あまり聞かないですけど（笑）、でも、流れ的には田中稔戦で決まりそうですね（※このインタビュー収録後、正式に田中稔vs成瀬昌由のＩＷＧＰジュニアヘビー級タイトルマッチが発表された）。

成瀬　そうだね。試合すること自体はもう決まってるから。

――〝どっちが本物のB'zファンか決めればええんや！〟ということで、すでに話題になってますけど（笑）。

成瀬　えっ、そうなんだ？　だったら、なおさら負けられないな（笑）。

――で、その前に電撃的なリングス退団騒動があったわけですが、退団の理由は一説にはギャラダウンが原因なんじゃないかって言われてますけど？

成瀬　ホント、自分はお金が原因じゃないです。そうじゃなくて前田さんの言葉を使えば、男の子らしく旅に出たと（笑）。

――女々しいことは言わないと（笑）。

成瀬　そうそう（笑）。でも正直な話、これ以上オレがリングスに世話になって、また腰が悪くなった時に会社から金を貰い続けるっていうのは、契約的には別として、それはオレの生き方に反するからね。金原

スーパージュニアの表彰式が終わるとふたたびリング上に上がった成瀬。優勝者のライガーとガッチリ握手したあとに、対戦をアピールした田中ともしっかりと握手をかわした。成瀬は「本当は白覆面ぐらい被った方がいいのかなって思ったんだけど、猪木事務所に借りればいいのか、UFOに行けばいいのか、もしかして橋本さんが持ってるかもって考えたらできなかったね（苦笑）」とコメント

田中リングアナに呼び込まれ新日本のマットに上がった成瀬は７・20札幌ドームでの田中稔戦をアピール。そのまま放送席に通され、スーパージュニア優勝決定戦の解説を務めた

前田さんが育った新日本を選んだのは意味があるんですよ

さんが肋骨折りながら試合に出たりとかっていうのはプロのド根性ですけど、そうやって頑張ってる選手もいるのに、オレだけ休んでるっていうのは我慢できないし耐えられない。そういう意味ではフリーになって、何かに飢えることに飢えてるんですよ。

――飢えることに飢えてる？

成瀬　そう。いまの豊かな、この日本で飢えることってなかなかできないと思うんですよ。不況とはいえ、やる気になればなんかしら仕事はあるしね。そう考えると、自分で飢えようと思わないと、そういう状況は味わえないからね。

――リングスでは、そういった飢えるような状況は味わえなくなってきたと？

成瀬　いや、飢えを飢えることには凄く満たされてましたよ。でもリングスに10年いて、オレが飢えるって言ってることは状況のことなんですけど、ここらでもうひと飢え！って感じだったからね。

――もうひと飢えですか（笑）。

成瀬　そうそう（笑）。そのためにはフリーっていう後ろ楯のない立場になって生きていった方が誰にも迷惑かけないし、自分で試合して、その分だけちゃんとお金が入ってっていう方がオレとしては気が済むしね。最近は、飢えることに飢えるっていうオレの原点に戻った気がして、なんか心地いいんですよ。崖の上から落ちちゃうんじゃないかってぐらいの絶壁を歩いてる感じなんだけど、そこを渡りきったら喝采なわけじゃないですか。渡りきれなくて落ちちゃったらそれまでで、もういいんですよ。

――落ちちゃうつもりは当然ないんでしょうけどね。

成瀬　もちろん。でもやっぱり『紙プロ』的にオレに聞きたいのは、なんで新日本を選んだのってことでしょ？（笑）。

――はい（笑）。で、成瀬さんは新日マットを選んだっていう感覚なんですか、それとも田中稔選手であったり、闘いたい相手が新日本にいたからなんですか？

成瀬　ん～、どっちもですね。田中稔個人をターゲットにして追って来たわけじゃなくて、オレはリングスを辞めて新日本のリングに上がって、実はあるたくらみがあるんですよ。自分の野望というか野心があって、それはまだ簡単に言える段階じゃないんですけどね。

――今はまだ言えないと？

成瀬　そうです。その野望を貫徹するためには新日本プロレスっていうのは避けて通れない闘いの場なんです。それで、オレがたくらんでいることは前田さんも関わってくるんですよ。

――前田さんも関わってくる？　何かヒントはないですか（笑）。

成瀬　いずれわかる日が来ると思いますけど、オレが前田さんが育った新日本っていう闘いの場を選んだのは意味があるんですよ。まあ前田さんの人生も波乱万丈、紆余曲折の連続だけど、やっぱり前田さんが、この日本マット界に及ぼした影響って凄いですからね。

――現在、総合格闘技ブームだなんだって言われているのも、ＵＷＦを中心となって

オレは嫌いだからこそプロレスのリングに上がるんだよ！

やってきた前田さんの力が大きいですからね。

成瀬 そうそう。前田さんに対して個人的にいろんな感情を持ってる人もたくさんいると思うけど、仕事とか前田さんがやってきたことを考えたら凄いことをやってきた人だし、前田さんがいなかったらオレの存在もなければ、船木さんもいなかったと思うし。船木さんがいなかったらパンクラスもなかったわけだし。まぁ極端な話になっちゃうけどね。

―でも、ホントにそうですよね。

成瀬 オレは前田さんと今後もお付き合いはさせていただきますけど、10年間そばにいて仕えて、前田さんも現役の選手としては、やっぱり限度、限界があるんで引退しましたよね。でも、前田さんにはやり残した仕事があるんですよ。

―それは現役の選手としてですか？

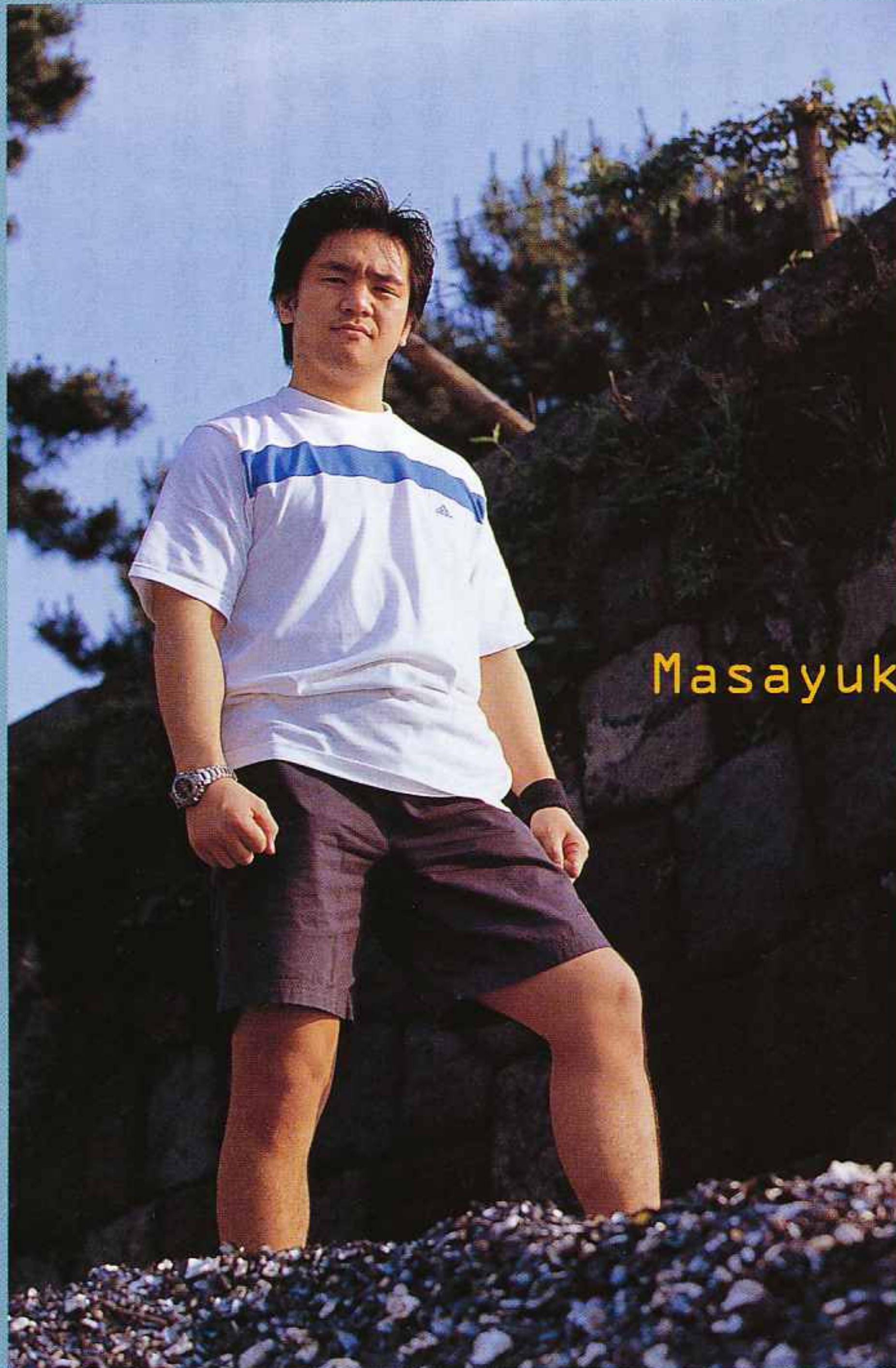
成瀬 まあそれは、前田さんには前田さんの考えでやっていくこともあるかもしれないですけど、前田さんとオレら第2世代がやらなければいけなかったことってあるんですよ。それを貫徹するためにも新日本は避けて通れないんだよね。

―ピンと来る人もいるのかもしれないですけど、ボクにはさっぱりわからないです（笑）。リングスにそのまま残ってては出来なかったことなんですか？

成瀬 そうだね。それは会社的な状況もあったり、前田さんとの人間関係もあるし……だから結局、前田さんに対して、個人的にいろんな感情がある人は直に話せないっていう人も多いですからね。

―田村さんもそうみたいですよね。

成瀬 田村さんとオレの場合は、また全く違うものと思って欲しいけど、人によっては前田さんを抜きにしたら話せる話もあるんですよ。まあちょっとデリケートな話になるんで…以上！（笑）。

―はい（笑）。この間、新日本のリング上で成瀬さんは、前田日明が新日本から持って出たモノをオレが見せてやるっていうことを言ってましたよね。

成瀬 そうですね。それはありますよ。だからファンとかも「成瀬はプロレス嫌いって言ってたのにプロレス出るのかよ」とかね。そういうヤツらこそ山本の言葉を借りるとケツの穴がちっちゃいよ！って思うよ。

―やっぱり、リングスファンからは特に、プロレスのリングには上がって欲しくないっていう声が多いですよね。

成瀬 そういう方たちは、ずっとWOWOWだけ見てればいいんですよ。

―アハハハハ！

成瀬 まあでも、そういうファンからすれば、オレなんて恰好の的じゃん。逆にオレの方がウズウズするよ。お前ら知恵を絞って叩いてこいよって！ それにさ、オレにとって新日に上がることが最終章じゃないしね。自分の中ではホントに成瀬地獄編だと思ってるから。

―成瀬昌由地獄編ですか！

Masayuki Naruse

成瀬 そうそう。だから、簡単に高をくくるなって言いたいですね。

―それで、プロレス会場に行くのはこの間が初めてだったみたいですけど、初めてのプロレス会場の雰囲気はリングスとは何か違いはありました？

成瀬 やっぱり全然違うと思いましたね。大阪って割とノリのいい土地柄だから、盛り上がりも凄かったと思うんだけど、オレが格闘技が好きで見に来てたファンだったら「ウォー！」って思ったところは別に盛り上がってなかったり、逆に普通に見流してたところで「ウォー！」ってなったりとかあったんで、なんか不思議な感じがしたけどね。

―目が肥えてんだか肥えてないんだか最近のファンはよくわからないですね。

成瀬 いまはプロレスも見るし、格闘技も見るし、どっちも見るファンも多いでしょ。ファンもちゃんとその楽しみどころってのを分かってるんだろうけど、そこで格闘技とプロレスは違うんですか？ みたいな話をふられちゃったら困るけどね。今あるじゃないですか？「オレはプロレスと格闘技は一緒だと思ってる」みたいなのが。

―記憶が定かじゃないんですけど、成瀬さんは過去にプロレスは嫌いだとか発言したことあったんでしたっけ？

成瀬 う〜ん、どうだろ？ どちらかと言えば嫌いだっていうより、よく知らないっていうのが本音なんだけど。でも、「成瀬はプロレス嫌いって言ってたのに、結局、新日本かよ」って言う人がいるんだったら答えるけど、オレは嫌いだからこそプロレスのリングに上がるんだよ！

―嫌いだからこそプロレスをすると。やっぱり、自分のやってきたスタイルとは一緒にされたくないっていう部分も少なから

ず、あるんじゃないですか。

成瀬　う～ん……だからやっぱり、プロレスよりオレは格闘技に誇りもってるから。それこそ鬼の首を取ったように揚げ足をとるような感じで、ああだこうだ言われるんだったら「ああ、オレはプロレスは嫌いだよ！」って言っときますよ。

――嫌いだからこそ上がるっていう感覚は面白いですね。

成瀬　そういうノリの方が自然にできると思うしね（笑）。だから最近はファンはなに言っても自由だと思うようにしてるしね。そんなのいちいち1人1人捕まえて「お前、なんつった、いま！」とかできないから（笑）。ただオレは人が一生懸命やってることに対して、ああだこうだケチをつけるようなそっちの側の人間にはなんなくて良かったなって思うよ。まだ言われる方で良かったなと。人の仕事とか人生とかそういうのをインターネットとかで、よく誹謗中傷してるヤツいるじゃん。そっち側のくだらない人間にならなくて良かったと思うよ。

――新日本に上がるっていう選択に対して批判の声も出てくるのは想定してたと思うんですけど、そんな声を黙らせるような試合をする自信があるわけですね。

成瀬　そうですね。自分の今までやってきたことに自信と誇りがあるしね。だって前田さんのもとで10年だよ？　どっかのインタビューでも言ったけど、前田さんのとこに1年でもいればね、ホント、他の会社の3年4年分は力が付くよ（笑）。

――それはわかる気がしますね（笑）。

成瀬　そういう意味では、もう自分に自信はあるわけだから、どんな試合になるかまだわからないけど、とやかく言うんだったらホントにオレの試合を見てからにしろって思ってるから。

――あと、インターネット野郎の「成瀬はKOKルールでは通用しないからプロレスの世界に逃げたんだ」っていう書き込みもありましたけど？

成瀬　（呆れて）まあ、そういう風に言う輩がいてもいいんじゃないですか。ただそれは、お前らの認識不足だったっていう風に変えさせてやりますから！

――期待してますから変えさせて下さい。で、今回はジュニアとして試合に出るわけですけど、成瀬さんはプロレスのリングでは階級は気にしないんですか？

成瀬　いや、オレは別に永田選手と闘ってもいいし、あぁ、でも中西選手ぐらいになると重そうだけど、重たいヤツとやるっていうのはリングスの頃から慣れっこだからね（笑）。

――タリエルとかと闘ってきたわけですからね。あと前田さんもいますし（笑）。

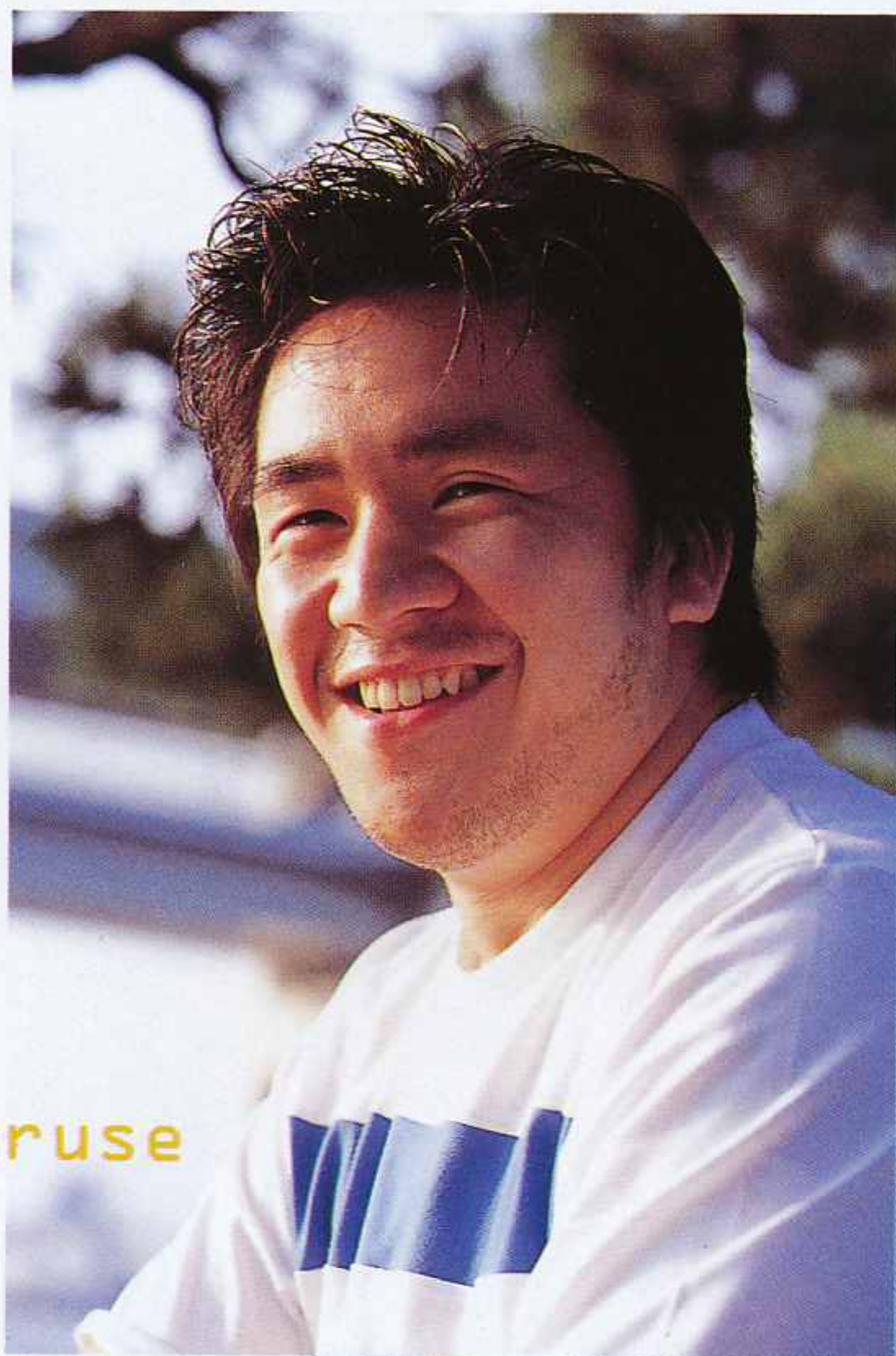
成瀬　そうそう（笑）。それこそホント、体重だけでいったら、新日本のヘビー級ぐらいの体重の選手と普通に闘ってきてるからね。それも10年間。逆にボクより軽い選手とやったことは、ほとんどないくらいだから。なんかライガーさんがジュニアに専念するとか言ってたみたいなんで、だったらオレは別にジュニアに固執しないでヘビーともやっていこうかなとは思ってますよ。自信もあるしね。

――今の流れだと、ライガーさんや、邪道、外道さんも入ってきてジュニア戦線が活気づきそうな感じがしてますけど。

成瀬　そういう意味ではジュニアが主戦場にはなると思いますよ。ただ、この世界に入る時から思ってたんだけど、自分の身長で入ったということは、それはもう覚悟できての上だから。だから相手が、デカイからどうとか、体重がどうのっていうのは別に関係ないと思ってるから。

――まあプロレスに専念するわけじゃなくて、総合格闘技の方も、やっていきたいって言ってましたけど、なにか具体的な展望はあるんですか？

成瀬　いや、今のところはないですね。ただ、年内にできたら1試合はやりたいですね。田村さんじゃないけど（笑）。まあ、それもタイミングだから。正直言って、7月の札幌ドーム大会以降のスケジュールは全くの白紙だしね。

前田さんのとこに1年いれば他の会社の3年4年分は力が付くよ（笑）

Masayuki Naruse

――現時点では何も決まってないと？

成瀬　うん。そういう意味では、新日本も1試合こっきりで解雇っていうか、いらないって言われるかもしれないし、それこそわかんないですよ。今以上にもっと飢えるかもしんないし（笑）。

――でも成瀬さんは新日本に入団するんじゃないかっていう話も噂話レベルですけど、よく出回ってますよね。

成瀬　そうそう。いまはそんな話は何もないし、なんとも言えないですね。その時になってみないと考えられない。

――試合まで、1ヵ月ちょっとぐらいしかないですけど、スタイル的にはどんな感じでいこうと思ってるんですか？

成瀬　試合の作戦みたいな具体的なものはまだ考えてないしね。全く噛み合わないかもしれないし。

――噛み合わない方が成瀬さんらしいとは思うんですけどね。格闘技っぽいプロレスって……。

成瀬　ぽいってなんだよ！（笑）。

――あ、失礼しました（苦笑）。

成瀬　でも、こないだの藤田選手と永田選手の試合を武道館でじかに見てたんですけど、あの試合を見て前田さんがやってきたことは間違いじゃなかったんだなと改めて思いましたね。新日本を辞めてUWFというスタイルを作って、それはリングスにも言えるけど、前田さんの考えは間違ってな

かったってことですね。前田さんの存在がないまま藤田選手と永田選手の試合を急にああいう感じでやったらファンはどう思ったのかなって。

――前田さんは第一次Uから新生U、そしてリングスと、段階を経ながらルールやスタイルを整備していってファンに見方を植え付けていったわけですからね。

成瀬　そうですね。オレも前田さんのように意義のあることをしていきますよ。

――期待してます。でも実際、腰の調子はどんな感じなんですか？

成瀬　腰はね、近年まれにみる絶好調！

――ノー問題ですか。

成瀬　無問題！　千人斬りも夢じゃない！（笑）。

――でも正直言って、新日ジュニアでやっていくとなると、トップロープからの攻撃や雪崩式系、投げっぱなし系とかの技は避けては通れないですからね。

成瀬　受けないもん！（キッパリ）。

――そういう技は受けないと？

成瀬　オレは受けないね。

――もしかしてロープにも飛ばない？

成瀬　飛ばない！　やるとしたらドラゴンロケットぐらいかな（笑）。

――場外には飛ぶわけですね（笑）。

成瀬　どうせやるんならね。だってオレ、10年間格闘技の練習はやってるけど、そんなの練習したことないから。

――今さら付け焼き刃で練習しても、あまり意味がないと？

成瀬　それは10年間やってきた人に失礼でしょ。オレはもうオレのスタイルでいくだけなんで。あと、これは言いたいんだけど、ハッキリ言ってオレの掌底は鼻も折るし、生易しいもんじゃないから。新日で、掌底、掌底って言ってるヤツらはオレの掌底喰らって、ホントの掌底はこういうもんなんだって思うだろうね。

――そういう発言を聞くと試合が俄然楽しみになってきますけどね。

成瀬　それにオレは別に相手に合わせる必要はないからね。

――好き勝手にやっていくと？

成瀬　好き勝手っていうか、オレは頭を下げて新日本に入れてもらってるわけじゃなくて、「オレでいいの？」っていうぐらいのノリなんですよ。そういった話し合いの時でもオレはそういう姿勢を崩さなかったしね。それに、オレは妥協することはできないし、前田日明の元に10年いたわけだからさ。藤波さん、血みどろにしちゃうよ（笑）。長州さん、うしろから蹴っちゃうよっていうね（笑）。

――アハハハ！　そのシーンは見てみたいですねぇ（笑）。

成瀬　今日いろいろ話をしていて思ったんだけど、世間には山本憲尚の言葉を借りれば（笑）、ケツの穴の小さいヤツがまだまだいっぱいいるみたいなんで、そういうヤツらの目を覚まさせるためにも気合い入れて頑張りますよ！

【6月9日／東京・お台場・第三台場公園にて収録】

ハッキリ言ってオレの掌底は鼻も折るし、生易しいもんじゃないから！

なるせ・まさゆき■昭和48年3月15日、東京都杉並区出身。高校入学と同時に松濤館流空手に入門。総合格闘技に興味を持ち第一回リングス新人入団テストを受け身長が規定に達していなかったもののガッツが認められ合格。92年5月に山本宜久（現・憲尚）戦でデビュー。97年から始まった中量級トーナメントでは見事優勝、記念すべき初代チャンピオンに輝いた。その後、ヘルニアで長期欠場するも、先の3・20ディファ有明大会で1年9ヶ月振りに復帰。

成瀬昌由かく語りき

inお台場『第三台場公園』

今回のインタビューで訪れた場所は、“バカップル”で賑わうお台場の『第三台場公園』である。

今でこそデートスポットとして有名なお台場だが、ここは今から147年前の安政元年（1854）に、突然のペリー来航でビビッた幕府が、東京湾防衛の為、伊豆韮山の代官・蘭学者「江川太郎左衛門」に設計させて築かせた物だ。

今残っているのは第三・第六で、当時は第七まで台場があったらしい。

なぜ今回ここでインタビューしたかと言うと、幕末のヒーロー「坂本 龍馬」の関係する、東京での数少ない“幕末スポット”の一つで、当時鍛冶橋の土佐藩邸に居た龍馬も、黒船騒ぎで品川の土佐藩下屋敷の警備に当たり、恐らくこの台場付近をうろついた 筈だろうと思い、龍馬が土佐藩を“脱藩”した年齢（※数え年）と同じ年齢で、いわばRINGSを“脱藩”した自分としては、幕末の息吹が感じられるお台場で、バカップルを横目で見ながら、気を引き締めたかったからである。

ちなみに、「坂本龍馬」の銅像が現在日本各地に建てられているが、龍馬が剣術修行の為に青春をすごし、師匠である勝海舟と出会ったこの 江戸・東京の地に龍馬の銅像が無いのは寂しい限りである。

自分の将来の第一の“野望”は、龍馬の銅像を東京に建てることなので、このインタビューを読んで、自分の“野望”に賛同出来る有志の方は、是非７月20日以降立ち上がる『成瀬昌由公式ホームページ』にご連絡下さい。そのホームページアドレスは、後日『紙プロ』でも掲載します。待ちきれない方は、『紙プロ』編集部“キャットファイト・チョロ”までご連絡を。以上。

成瀬昌由

田中稔戦の秘策をヨネが伝授!?

成瀬がウェートトレーニングをしている都内のジムで撮影をしているとバトラーツのモハメドヨネが現れた。ヨネは成瀬に札幌ドームでの対戦相手、田中稔のウィークポイントを伝授。これでＧＰベルトは獲ったも同然!?

ジャイアント読者サービス Vol.5

元気ですよーッ!!

紙のプロレスRADICAL 39号記念 サク39グッズスペシャル!!

©中川画伯

各3名様

【桜庭フィギア＆桜庭マスクキーホルダー】
あの猪木祭りでの桜庭を完全再現したマスク付き新作フィギア＆大好評だった桜庭マスク・キーホルダーの第2弾!! サクが復活するまでこれでガマンしろ！
【インスパイア提供】
※お問い合わせ03-5750-5350

装着マスク付

非売品

5名様

【さくぽん出版記念作・桜庭マシンTシャツ】
『紙プロ』35号の表紙を飾った中川画伯の桜庭マシンのイラストTシャツ！ 非売品だけにプレミアは必至だ！
【林"ヘックション"一枝提供】

2名様

【全部桜庭ショット！ トクホン「桜庭読本」】
前号でも好評だった貴重なショット満載の「桜庭読本」を本誌・鬼畜編集長の机からこっそり拝借。ばれないうちに手に入れろ！
【山口日昇提供】

各3名様 SIZE M & SIZE L

【高田道場新作Tシャツ（黒・白）】
高田道場おなじみのTシャツが新しくなってもう1丁っ！ 桜庭もお気に入りのこのTシャツを着て夏を過ごせ！
【高田道場提供】

バキvs『PRIDE』実現？

FRONT / BACK

3名様 SIZE M & SIZE L

【バキvsボブTシャツ】
格闘マンガの最高峰「バキ」とボブチャンチンが夢の対決！ クッキーもそうだが、最近のボブチャンチン・グッズは最高だ！
【DSE提供】

3名様

【範馬刃牙フィギア】
筋肉や傷も再現した超リアル・バキフィギア！ シリーズ化が決定しただけに第2弾が気なるところ。来月は勇二郎か？ 独歩か？
【提供アートストーム】
※お問い合わせPLANT X
03-3460-0160

各5名様 FRONT / BACK SIZE M & SIZE L

【藤田和之・イズムマスターTシャツ】
"猪木イズム最後の後継者"藤田和之の『イノキイズムマスター』（左）と『イズマスター』（右）Tシャツ。これを着てふてぶてしく歩くけ！【DSE提供】
お問い合わせhttp://www.so-net.ne.jp/pride/

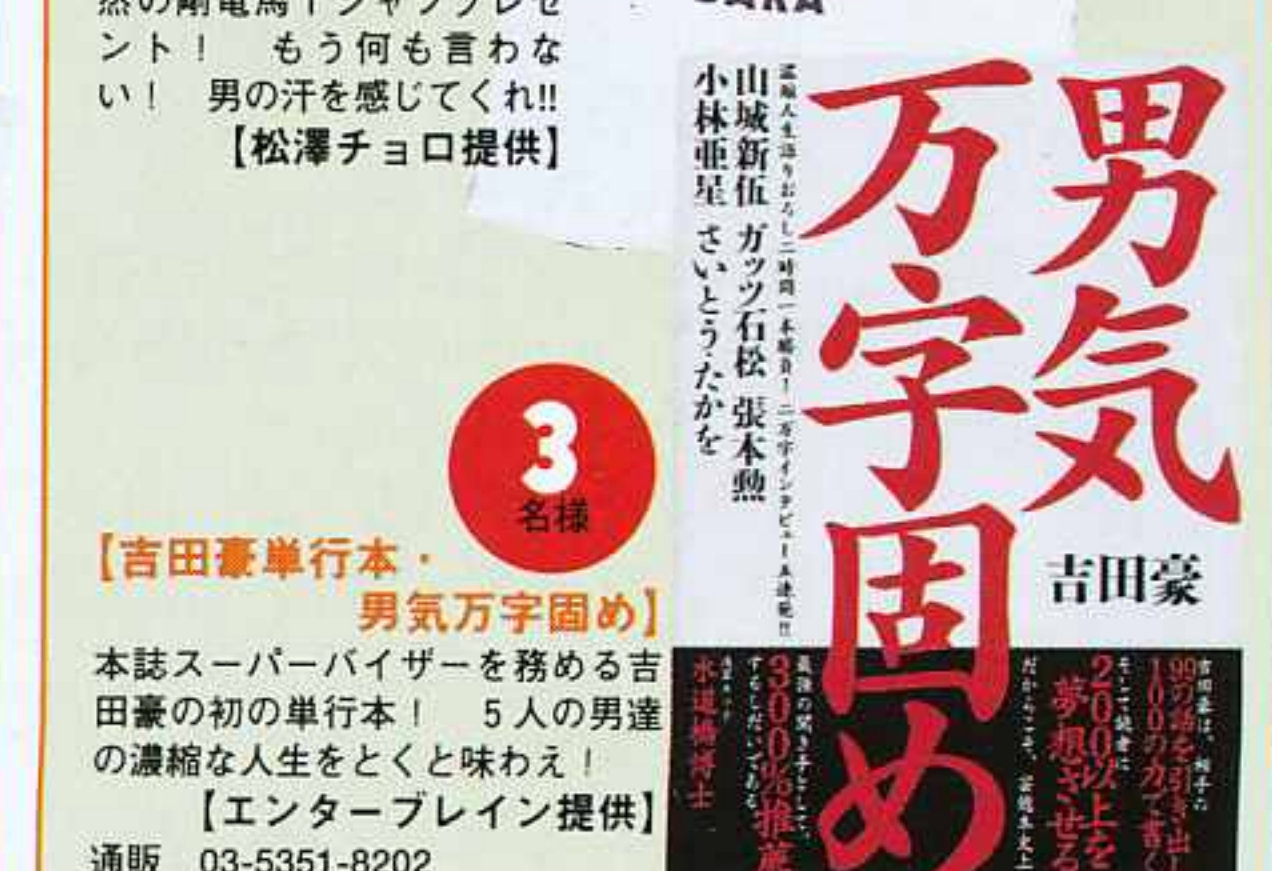
男汁出まくりなブツたち！

1名様

【お笑い男の星座Tシャツ】
浅草キッドの水道橋博士が編集部に遊びに来た際に忘れていったお手製Tシャツ！ 博士が思い出す前にすぐさまGETだ！
【水道橋博士提供】

1名様

【剛竜馬・Tシャツ】
本誌・松澤チョロから、突然の剛竜馬Tシャツプレゼント！ もう何も言わない！ 男の汗を感じてくれ!!
【松澤チョロ提供】

GO GO RYUMA
PROWRESTLING
BAKA

3名様

【吉田豪単行本・男気万字固め】
本誌スーパーバイザーを務める吉田豪の初の単行本！ 5人の男達の濃縮な人生をとくと味わえ！
【エンタープレイン提供】
通販 03-5351-8202

男気万字固め
吉田豪
山城新伍 ガッツ石松 張本勲 小林亜星 さいとう・たかを

グレート・アントニオよりまた盗んできました

3名様

【(株)猪木事務所キャップ】
元気なりたい人に元気なキャップ！ もう少し与太った方がいい人も与太れるステキなキャップだ！
【グレートアントニオ提供】

5名様

【(株) 猪木事務所・灰皿】
猪木さんの名が入った灰皿が汚せるもんか！ 禁煙したい猪木信者には最適な灰皿だ。
【グレート・アントニオ提供】

6名様 SIZE M & SIZE L

【(株) 猪木事務所Tシャツ】
神保町の怪館・グレート・アントニオが誇る豊富なTシャツのなかで、大ブレイク中なのがこの（株）猪木事務所Tシャツ！ さあ好きな色を言ってみろ！
【グレートアントニオ提供】
※お問い合わせ 03-3219-9550 通販03-3295-4450

キン肉マン直撃世代のあなたに!!

【キン肉マン・Tシャツ】

【ステカセキング】

【新幹線投げ】

【2000万パワーズ】

各3名様 SIZE M & L

かつて少年ジャンプの『正義・友情・勝利』の代名詞だったキン肉マンがバンバン・ビガロのTシャツで甦った！　これを着れば、屁のツッパリはいらんですよォォォ！　【バンバンビガロ提供】
※お問い合わせ　03-3460-1145

嫌いな奴に送りつけろ!
あの『ドラゴンの呪いのしゃもじ』紙上オークション!!

ズバリ¥1500から!!

1名様

最低落札金額
¥1500から
希望の金額を書いて
送るんだ!

またもやアイアン・ジャイアント!

各2名様 SIZE M & L

【アイアンジャイアントTシャツ】
前号でも登場したアイアンジャイアントTシャツ！　大人気のためにもう一丁ッの登場だ！
【(株) マーズ・コーポレーション】
※お問い合わせ]06-4701-9010　http//www.mars16.co.jp/

浸透勁とは何か?

各2名様 SIZE M & L

【トンパチ&浸透勁Tシャツ】
浸透勁と何か？　わかった人にこのトンパチ&浸透勁Tシャツをプレゼントしちゃう！　間違えた方は自腹で買わせます！　【エミタイ提供】
※お問い合わせ
0897-43-3869　http//www.niji.or.jp/home/emitai

独占!　おんなのプレゼントコーナー

【キャット・ファイト　パート1・パート2】
キャットファイト・エンジェルスと『猫の穴』の全面対抗戦！　本誌チョロがナゼか号泣したあのPP-7ちゃんのガチンコマッチも収録してるから要チェックだ！
【新日本キャットファイト連盟提供】

各3名様

【女子プロカードコレクション】
女子の全団体が封入されているコレクションBOX。何と357種類もあるぞ！　全レスラーを暗記するんだ！　【ハドソン提供】
※お問い合わせ　03-3542-4657

3名様

【2大AVメーカー・カードコレクション】
宇宙企画&MAX-AのAV2大メーカーの夢シリーズ第3弾！　定番のサイン・コスチュームなどは勿論、生チェキ・生KISSカードもインサート！
【さくら堂提供】
※発売元　アクラス　03-5686-7566

3名様

【ReMiX Tシャツ&ReMiXタオル】
このTシャツを着て、タオルで汗を拭えばReMiXの激闘が頭をよぎるはず！　噂ではあのゴルドーも愛用しているぞ！【篠泰樹提供】

各3名様

応募要項

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼今年の上半期ベストマッチ&ワーストマッチは何ですか?

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「G・読者サービスvol.5」係まで
※締切は2001年7月25日(水) 当日消印有効

キャップも大和魂

5名様

【大和魂キャップ】
選手は お休みしたものの、グッズの方の勢いは止まらないエンセンからまたもや新製品！　脳髄に大和魂を注入するんだ！
【E-FORCE JPAN】
※お問い合わせ]047-378-6400

スポーツ会館新生記念

2名様

【SKアブソリュート・トレーナー】
「スポーツ会館　コマンドサンボスクール」が総合格闘技クラス「SKアブソリュート」に変身！　その「SKアブソリュート」から一般発売してないトレーナーをプレゼント！　【提供森廣博】
※お問い合わせskabsolute@dokomo.ne.jp

鶴田追悼記念ポスター

5名様

【ノア・ジャンボ鶴田追悼興行ポスター】
中央で構えるジャンボがカッコいい！　ジャンボの故郷山梨で行われたノアによるジャンボ鶴田1周忌追悼興行の記念ポスターだ！　会場に行けなかったジャンボマニアはナニがナンでも手に入れるしかない！
【スモーノブ提供】

新作Tシャツ完成!

よくやった『紙プロ』!!

紙のプロレス 世の中とプロレスする前田 WANI MAGAZINE MOOK 12 1995 定価770円
『女子便所説教事件』勃発!! よくやった、前田!!
特集 色気とは何か?

KICK, SUBMISSION & SUPLEX U.W.F. PROFESSIONAL WRESTLING

最強のU.W.F.マークが

KIKAKU. SYUZAI & SATSUEI U.M.F. UNIVERSAL FEDERATION MAGAZINE

最狂のU.M.F.マークに変身!?

見てみい! この完成予想図!

U.M.F.トリムTシャツ

どちらも高貴なTシャツや!

KIKAKU. SYUZAI & SATSUEI U.M.F. UNIVERSAL FEDERATION MAGAZINE
STARTING NUMBER 紙のプロレス OCTOBER.15th 1991

ホワイト/ブラック
¥3.000
[サイズ] S orM or L or XL

ホワイト/ブルー
¥3.000
[サイズ] S orM or L

夏はやっぱりU.M.F.ニューTシャツを着るでしょ!?

★通販方法は左のページを参照してください。★紙プロウェアは全て(メイドインジャパン)特別注文でつくってま〜す。

SS Tシャツ長ソデリングおじさんトレーナー、パトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい

紙のプロレス RADICAL
No.39
2001年7月25日発行

No.40は
7月下旬発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇
●編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
八木賢太郎(映画「みんないえの素晴らしさを語り歩いたため非番)
●編集見習い
斉藤フリテンくん
片山スネ夫
●スーパーバイザー
吉田豪
●助っ人
中村カタブツ君
●アートディレクター
出田さん(TwoThree)
●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
ミネ(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
海老沢勇(Zero graphics)
古賀ゆきえ
●出前
出前持ち入江(TwoThree)
●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
●試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃
●ですよねー
ジャイ子
●お勘定&衣料部
林ヘックション一枝
●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
●印刷
図書印刷株式会社
●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

どれもTHIS IS JAPANESE STYLEな代物やんけ!

U.M.F. Tシャツ〈黒×黄〉

¥3,800 SorM ~~orL~~ SOLD OUT

花くまゆうさく先生書き下ろしのイラストの「U.M.TTシャツ」左ソデのワンポイントがたまらないぞ。

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 ~~S~~ SOLD OUT orMorL

すっかりおなじみになったSSTシャツ!! 持ってる方もプレゼント用、保存用、観賞用にとりあえずもう1丁っ!

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 ~~S~~ SOLD OUT orMorL

やっぱり某団体よりのもこっちの方が断然カッコいい! ホンモノがわかるあなたにピッタリ。

紙のプロレスRADICAL おもいっきりロゴT

¥3,800 SorM ~~orL~~ SOLD OUT

21世紀を記念して作られた、『紙プロ』Tシャツをあなたに!
バックに『紙プロ』ゆかりの関係者がロゴで総登場!!

リングおじさんパーカー(黒)

¥6,000 MorL

リングおじさんパーカーは永遠に不滅です! 冬が来る前に今から準備だ!

リングおじさんパーカー(黒×白)

¥6,000 MorL

おもいっきりロゴTシャのロゴが入ったリングおじさんパーカー!

紙プロネックピース

¥~~1,200~~ ➡大特価¥600

大処分特価のために人気集中の紙プロネックピース! 品切れ間近なので急ぐんだ!!

通販方法

希望商品の代金+送料¥500(何枚でも。ネックピースだけなら¥300)を郵便振替か現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズとカラーをちゃんと書いてね♥)を必ず記入すること! これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのTシャツやパーカーと一緒の申し込みもOKですよ。

■郵便振替の宛先
00130-3-769154

■現金書留
(株)ダブルクロス
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

お問い合わせ先 (株)ダブルクロス TEL03-3403-5188

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、バトTシャツ、シャイ子Tシャツの通販分は完売しました 下欄外の直販店でお求め下さい

【紙プロウェアが常備のスゴイお店】★チャンピオン東京店(TEL.03-3221-6237) ★チャンピオン大阪(TEL.06-6645-5186)★岐阜・バンザイ商会(TEL.0584-75-4966)★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160)
★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551)★グレートアントニオ(TEL.03-3219-9550)さっそく回覧板で回しましょう。

TELINDEX

団体名	電話番号	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F
ZERO-ONE	03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F-E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21 ハイネス梅里201
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K-1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-5725-7338	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン
GCM COMUNICATION (和術慧舟會, A^3GYM, RJW)	03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
DEEP 2001事務局	052-339-0303	〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-5473-3148	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
エヌ・イー・オー	03-3796-7461	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13 ドミシール平野503

オイ、オイ、オイ、最近、読者ハガキが少ねえぞ！ カラーで載っけてやるからドシドシ送ってこい！

読者ハガキ倍増計画！

俺は、スカイパーフェクＴＶ！Ｃｈ.913パラダイステレビの「どスケベ水曜特バン」に乱入したん邪！ もちろんキャットファイトでな（ニヤリ）。ちなみに無我Ｔシャツのユリオカ超特Ｑさんの藤波のモノマネは正直、凄かった。詳しくは http://www.paradisetv.co.jpまで

“人間失格”チョロの
ポートレート強奪 読者ページ

最近、読者ハガキが少ないですよーッ！「読者ページのパワー不足」「読プレに目玉がない」など原因はいろいろあるだろうが、『紙プロ』読者のみんな、お願いだ！ お前らの希望をできる限り聞いてやるからハガキを送ってくれ！「面白かったのは破壊王の人生ケサ斬りチョップ。写真のジャイ子がなかなか魅力的。そこで新企画・ジャイ子のコスプレインタビュー」。そんなのお安い御用。神奈川県の安藤さん、看護婦コスプレでどうだ？

梅雨時の編集部に届いた季節外れの年賀状。差出人は、あの杉作Ｊ太郎さん（34歳）だＪ！ 「おー」はジャンボ追悼の意味なんだろうな、きっと

●『読者ページがここ何カ月間さみしい状況だよね。まあ今の事情を考えたら仕方ないことなんだろうけど…早く読者のハガキ（ストック溜まってるんだろうなぁ）をたくさん載せてあげて欲しい。個人的にはクラスマガジン（©浜部）の中では、一番面白い読者ページだと思ってるんで…。未知なる大型ルーキーに期待!!』【愛知県／田原和幸／26歳・バイト（求職中）】

★その通りだよ！ こっちだって大型ルーキーの出現を待ってるんだけどな。ＵＰＷとかに行けば、わんさかいるんだろうなぁ

●面白かったのはジェラルド・ゴルドーインタビュー。怖いので日本にあまりこないでください。【兵庫県／大塩虎徹／28歳・旅人】

★前号ぶっち斬りで人気ＮＯ１だったゴルドーインタビュー。『真撃』に出場したのも、きっと破壊王がインタビュー読んだからだろうな。それにしても、大変だったね、高岩選手

●面白かったのは、そりゃもう、Ｇ・ゴルドーっス。押忍。極真魂サク裂!!（プロレス雑誌で…）大好きなんだよ、極真が！（だったらワールド空手買えよ！）【東京都／大川弘美／41歳・主婦】

★前号の読者アンケートでの「あなたが知りたい噂の真相は？」との問いに「ジャイ子って処女？」と書いてきた大川さん。発表します！ 答えは「ＮＯ」。でも最近はとんとご無沙汰なんだって。淋しいね、ジャイジャイ

●つまらなかったのはジャイ子さん（以下Ｇ姉【じゃいねえ】）のセクシーっぷり。私は断言します。あの写真でヌイてる奴は全国に絶対います！ キモチ悪いので想像させないで下さい。あと、早くＧ姉は病気を治しましょう。今は薬でも治る時代ですんで。それと早いところマニア探して幸せになったほうが…【東京都／佐藤耳男／23歳・ロクでなし】

★俺も同じ感想です。略して……俺同感（意味はないです）

●丸藤正道ポートレート。かっこよかったですよ。でも「Ｆｕｊｉ－Ｍａｒｕ」となっていたのを見て、これは間違ったのだろうか、それともデザイン？ もしかしてチョロさんがまた？ よく原稿落としてるからなーと思ってしまいましたよ。『紙プロ』大変そうだなぁ……。つまらなかったのは、チョロの不手際日記。チョロさん、たいがいにして下さい。もう笑えませんよ。ほんとに【神奈川県／横山三春／26歳・保育士】

★三沢社長は丸藤選手のことを「フジマル」って呼んでるのですよ。でもね「たいがいにして下さい」ってどういう意味なんじゃあ！ ●出しはダメってことかのぉ？ 正直、すまなかった。ホント笑えないな

●古い話で申しわけありませんが、新日本プロレスにストロングマシーン軍団が出てましたが1号は平田ってわかりましたが、2号、3号は誰だったのか今でもわかりません。『紙プロ』さん、おしえて下さい【香川県／牟礼政行／30歳・自営業】

★「プロレスファン歴20年ぐらい」という牟礼さん。しょうがねえから教えてあげるよ。誰にも言うなよ。2号はビジャノ。それで3号は、これまたビジャノなんだよなぁ

●新日本の健介選手は4・9大阪ドームで負けて以来、どこに行ったんですか？ そしていつからまた戦うんですか？ ぜひ早く帰ってきてパワーファイトを見せて下さい【千葉県／井関優作／14歳・学生】

★正直、すまなかった。探してみたけど見つからなかったん邪！

●阿修羅原のインタビューが面白くなかった。何となく田村潔司のモチベーションの低さに似ていたので【北海道／下池康友／29歳】

★オイ、オイ、オイ、ホンットに借金生活はキツイぞ（しみじみと）。俺もコルセットでも巻こうかな。もう首がまわらん！

●知りたいのは、ＩＳＳＡと上原多香子。堂本剛と山口紗也加。長瀬智也とレイナ。まだ、付き合ってんのかー【山口県／ゆずっ子／22歳・フリーター】

★そういう質問は『ブブカ』に聞いてくれ！ だがな、ここだけの話、●菜恵のニャンニャン写真は本物らしいぞ！（今さら）

●教えてください！ 大仁田さんは、いつ引退するのでしょうか？ ヒザは大丈夫なのでしょうか？ 昨年、言っていたリミットは、もう過ぎてるのに【大阪府／黒田宏文／35歳】

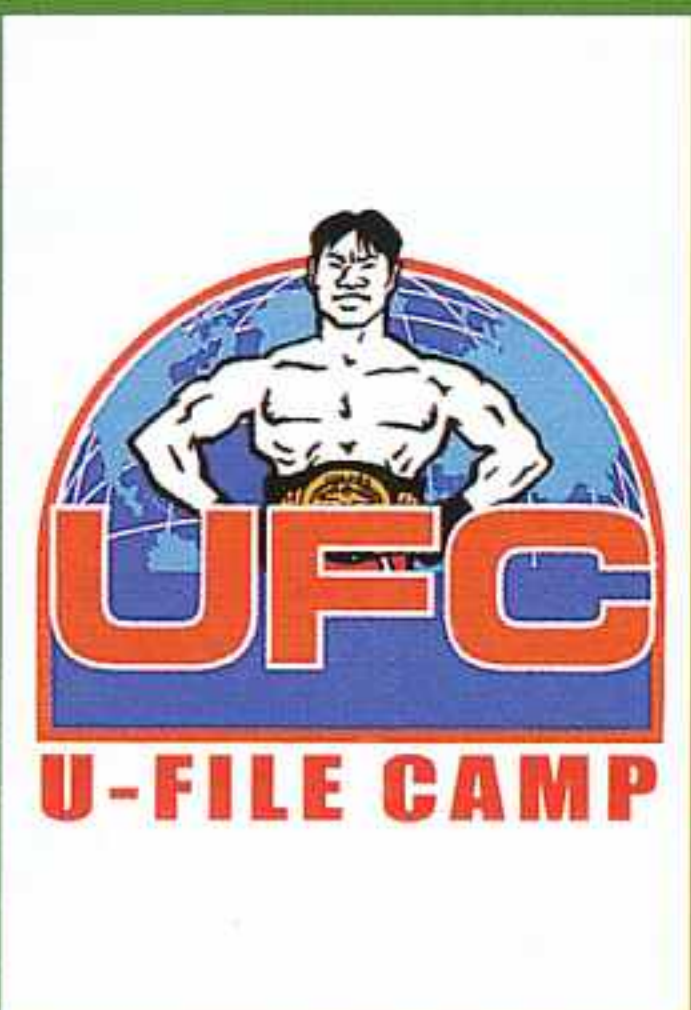
★オイ、オイ、オイ、その件についてはダイプロデュースに聞いてくれんかのぉ。さすがのグレート・チョロでも、さっぱりわからんの邪！ それじゃぁ、あばよ!!

イラスト製造マシーン

★青森が生んだ“スーパーレッスル・イラストレーター”青木雄大。毎回毎回クオリティーの高いイラスト、サンキュー・ベリー・マッチョ。頑張れ『東スポ』柴田記者！ 堪えろ、“破壊王夫人”橋本かずみさん。明日があるさ。明日また生きるぞ！ ついでに、アストレス万歳！ ヒャッホ～!!

中川名人劇場

「貴ノ花は責任感があって格好良過ぎ。久し振りにワクワクしました。面白いなぁ相撲」★てなわけで今回の読者ページはここまで。ファイアー！

U-FILE CAMP

「田村、お前もか？という感じなのですが、いつか『ＰＲＩＤＥ』で田村VS桜庭、上山VS松井が観たいなあ」【埼玉県／中川雅博／イラストレーター】

どっちの社長Show

「俺ならどっちもヤダネ」【愛知県／たっつあん】★さすがの、たっつあんも藤波社長の下は嫌かぁ？ 原稿落としまくりの俺はサスケ社長の下で雑用からやり直した方がいいな

今月のお前に白旗！

「『紙プロ』とオーちゃんパワーは『週プロ』と『週ゴン』を超越しちゃいましたぁ！ まさしくラディカル！ プラカードを持った盗作野郎も『赤旗』のカメラマンもすごい！ ＵＦＯも共産党のバックアップで自主興行復活か!?」【京都府／水野哲也】★『赤旗』掲載写真です。いつ何時誰のネタでも受け付ける！ choro@kamipro.comまで

子プロレス」制作記者発表

麻弥（18） 市川由衣（15） 小島しずく（16） 高田衣李紗（14） 桜井真由美（19） 西村優子（19）

系女子プロレス』所属メンバー

詳しくはP92へGO!

亀井なつみ（18）　aki（19）　藤井真喜子（18）　浅香友紀（16）　宮本麻弥（18）　市川由衣（15）

姑息に男性ファン拡大企画『紙プロ』初！ 正統派ポートレート

『渋谷系女子プロ

AL CALENDAR

30)

ーナ(17:00)

30)

:30)

トホール(13:00)

16 MON.

新日本■青森・十和田市総合体育センター(1830)
闘龍門■大分・大分県営荷揚町体育館(18:30)
ノア■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)

17 TUE.

闘龍門■福岡・八女市総合体育館(18:30)

18 WED.

闘龍門■宮崎・宮崎市北部記念体育館(18:30)
ノア■島根・くにびきメッセ(松江)(18:30)

19 THU.

みちのく■神奈川・横須賀市臨海公園特設会場(19:00)
闘龍門■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)

20 FRI.

新日本■北海道・札幌ドーム(14:00)◆
みちのく■福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ(15:00)
闘龍門■福岡・博多スターレーン(18:30)
IWA■神奈川・横浜市大津スイミングクラブ(17:00)
ノア■高知・越知町総合体育館(16:00)
アルシオン■静岡・キラメッセぬまづ(18:00)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(16:00)
FMW■東京・後楽園ホール(19:00)

21 SAT.

ノア■福岡・博多スターレーン(18:00)
みちのく■秋田・秋田市茨島体育館(18:30)
アルシオン■宮城・夢メッセみやぎ(17:30)
JWP■福岡・柳川青果市場(18:30)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(18:00)

22 SUN.

FMW&LLPW■新潟・糸魚川市焼山温泉清風館特設(16:00)
ノア■広島・広島サンプラザホール(17:00)
みちのく■岩手・矢巾町総合体育館(15:00)
アルシオン■宮城・築館町総合運動公園体育館(16:00)
Jd'■東京・後楽園ホール(12:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(16:00)

23 MON.

FMW&LLPW■石川・石川県産業展示館2号室(18:30)
JWP■福岡・久留米リバーサイドパレス梅光園(18:30)

24 TUE.

ノア■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:30)
みちのく■宮城・若柳町中央公民館第大ホール(18:30)
JWP■福岡・八女市総合体育館(18:30)
クラブファイト■東京・渋谷club WOMB(20:00)
FMW■東京・江戸川競艇場(10:30)

25 WED.

みちのく■山形・舟形町B&G海洋センター(18:30)
JWP■山口・海峡メッセ下関(18:30)

26 THU.

みちのく■福島・楢葉町民体育館(18:30)

27 FRI.

NEO■東京・板橋区立産ホール(19:00)
ノア■東京・日本武道館(18:30)
みちのく■青森・弘前市可西体育センター(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)

修斗■東京・北沢タウンホール(未定)

29 SUN.

みちのく■福島・ビックパレットふくしま(15:00)
闘龍門■神戸・チキンジョージ(16:00)
大日本■東京・八王子みなみ野駅前特設(13:00)
アルシオン■東京・大田区体育館(16:00)
JWP■東京・ディファ有明(12:30)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(16:00)
DSE『PRIDE.15』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)★
パンクラス■東京・後楽園ホール(1:30&6:30)◆

31 TUE.

みちのく■山形・寒河江市民体育館(18:30)
大日本■和歌山・和歌山県立体育館(18:30)

8 August

1 WED.

みちのく■岩手・二戸市ショッピングストア「ニコア」(18:00)
NEO■東京・板橋産文ホール(19:00)

2 THU.

みちのく■青森・はちのへハイツ(18:30)
大日本■大阪・鶴見緑地公園水の館付属展示場(13:00)
FMW■愛知・春日井市総合体育館(18:30)

3 FRI.

みちのく■宮城・女川町総合体育館(18:30)

4 SAT.

新日本■大阪・大阪府立体育会館(18:00)
大日本■福井・福井市体育館(18:30)
みちのく■宮城・夢メッセ(未定)

5 SUN.

新日本■大阪・大阪府立体育会館(16:00)
大日本■福島・双葉町体育館(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)
みちのく■山形・鶴岡市体育館(12:00)
新宿プロレス■東京・歌舞伎町クラブハイツ(18:00)

6 MON.

新日本■愛知・愛知県体育館(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(17:00)
W☆ING21■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(19:00)

7 TUE.

みちのく■秋田・本荘市民体育館(18:00)

8 WED.

新日本■宮城・仙台市体育館(18:30)
FMW■岐阜・岐阜産業会館(18:30)

RADICAL CA

6 June

27 WED.
蛇界転生■東京・北沢タウンホール(19:00)
全女■愛知・津島市文化会館(18:30)

28 THU.
FMW■大阪・大阪府立体育館第2競技場
新日本■埼玉・宇都宮市体育館(18:30)
SMACK GIRL■東京・渋谷club ATOM(19:00)♠

29 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■大阪・大阪市立体育会館第2競技場(18:30)

30 SAT.
新日本■岐阜・岐阜産業会館(18:00)
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(17:30)
FMW■静岡・伊東青果市場(18:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(18:00)
全女■広島・ベスト電器本店(18:30)

7 July

1 SUN.
新日本■鳥取・鳥取産業体育館(16:00)
闘龍門■神戸・ワールド記念ホール(16:00)
全日本■新潟・五泉総合会館(17:00)
Jd'■神奈川・横浜クラブヘブン(16:00)
タイタンファイト■東京・TRCアールンホール(14:00)♠
大仁田興行■岡山・卸売りセンターオレンジホール
大阪■大阪・フェスティバルゲート(16:00)
全女■広島・ベスト電気本店(18:30)

2 MON.
全日本■富山・高岡テクノドーム(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(19:00)

3 TUE.
アルシオン■東京・後楽園ホール(19:00)

4 WED.
全日本■愛媛・アイテムえひめ(松山)(18:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行
★ 山口日昇
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
◎ 斎藤フリテン君

5 THU.
バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:30)★
FMW■福島・福島体育館(18:30)

6 FRI.
新日本■岡山・岡山県体育館(18:00)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)◎
全日本■高知・高知県民体育館(18:30)
FMW■千葉・船橋アリーナ・サブアリーナ(18:30)

7 SAT.
新日本■大津・滋賀県立体育館(18:30)
闘龍門■埼玉・越谷市桂スタジオ(18:30)
全日本■岡山・高梁市民体育館1(18:00)
Jd'■東京・葛飾区金町地区センター(17:00)
JWP■秋田・秋田テルサ(18:30)

8 SUN.
新日本■大阪・岸和田市総合体育館(15:00)
闘龍門■東京・ディファ有明(15:00)
アルシオン■神奈川・小田原アリーナ・サブアリーナ(17:00)
FMW■山口・大島久賀柑橘選果場(16:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(16:00)
国際■神奈川・鶴見青果市場(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

9 MON.
FMW■広島・呉スポーツピアパーク(18:30)

10 TUE.
全日本■山口・小野田市民館体育ホール(18:30)
FMW■広島・広島市中小企業館(18:30)

11 WED.
新日本■岩手・岩手県営体育館(18:30)
全日本■広島・尾道市公会堂(18:30)
アルシオン■茨城・つくばカピオ(18:30)

12 THU.
新日本■秋田・秋田県立体育館(18:30)
ZERO-ONE■東京・ZEPP TOKYO(19:00)

13 FRI.
新日本■青森・総合運動公園県民体育館(18:30)
ZERO-ONE■東京・ZEPP TOKYO(19:00)◎
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
FMW■香川・高松市総合体育会館(18:30)
全日本■静岡・清水マリンビル(18:30)

14 SAT.
全日本■東京・日本武道館(18:00)
ノア■東京・メッセ昭島(18:00)
アルシオン■京都・KBSホール(18:30)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(18:00)

15 SUN.
新日本■弘前・森県武道館(15:00)
闘龍門■熊本・合志町ヴィール(16:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(16:00)
アルシオン■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(13:00)
Jd'■神奈川・Jd'道場(16:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(16:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)

16 MON.
新日本■青森・
闘龍門■大分・
ノア■大阪・大

17 TUE.
闘龍門■福岡・

18 WED.
闘龍門■宮崎・
ノア■島根・くに

19 THU.
みちのく■神奈
闘龍門■鹿児島

20 FRI.
新日本■北海道
みちのく■福島・
闘龍門■福岡・
IWA■神奈川・
ノア■高知・越知
アルシオン■静
Jd'■大阪・NG
FMW■東京・後

21 SAT.
ノア■福岡・博多
みちのく■秋田・
アルシオン■宮
JWP■福岡・柳
大阪■大阪・フェ

22 SUN.
FMW&LLPW■
ノア■広島・広島
みちのく■岩手・
アルシオン■宮
Jd'■東京・後
大阪■大阪・フェ

23 MON.
FMW&LLPW■
JWP■福岡・久

24 TUE.
ノア■岡山・倉敷
みちのく■宮城・
JWP■福岡・八
クラブファイト■東
FMW■東京・江

25 WED.
みちのく■山形・
JWP■山口・海

26 THU.
みちのく■福島・

27 FRI.
NEO■東京・板橋
ノア■東京・日本
みちのく■青森・
大日本■東京・後